

令和 2 年度

決算主要施策の成果報告書

和歌山県紀の川市

地方自治法（昭和22年法律第67号）第233条第5項の規定により、令和2年度紀の川市一般会計及び特別会計決算に係る主要施策の成果等について、次のとおり報告します。

令和3年8月31日

紀の川市長 中 村 慎 司

目 次

1.	令和2年度会計別決算収支の状況	—————	1
2.	令和2年度会計別歳入歳出決算の状況	—————	3
3.	令和2年度普通会計の状況	—————	5
	1) 決算収支の状況	5
	2) 歳入の状況	7
	3) 歳出の状況	9
4.	職員給与費の状況	—————	13
5.	地方債の状況	—————	16
	1) 地方債現在高の状況	16
	2) 地方債年度別償還予定の状況	17
6.	基金の状況	—————	19
7.	その他資料	—————	20
	1) 人口推移	20
	2) 学校別児童生徒数	20
	3) 保育施設別児童数	21
	4) 放課後児童クラブ別児童数	21
8.	一般会計主要施策の成果	—————	22
	[歳入] 市税等収納実績に関する科目	22
	[歳出] 1 款 議会費	28
	2 款 総務費	30
	3 款 民生費	118
	4 款 衛生費	174
	5 款 労働費	209
	6 款 農林業費	211
	7 款 商工費	251
	8 款 土木費	264
	9 款 消防費	300
	10 款 教育費	312
	11 款 災害復旧費	363
9.	特別会計主要施策の成果	—————	366
	住宅新築資金等貸付事業特別会計	366
	国民健康保険事業勘定特別会計	367
	国民健康保険直営診療施設勘定特別会計	372
	後期高齢者医療特別会計	373
	介護保険事業勘定特別会計	377
	財産区特別会計（11会計）	381

1. 令和2年度会計別決算収支の状況

区 分	歳入総額 (A)	歳出総額 (B)	歳入歳出差引額 (A)－(B) (C)	翌年度繰越 財源 (D)	実質収支 (C)－(D) (E)
一般会計	37,613,501,540	36,495,455,348	1,118,046,192	205,302,000	912,744,192
住宅新築資金等 貸付事業特別会計	23,631,993	19,418,965	4,213,028		4,213,028
土地取得事業 特別会計	587,121	587,121			
国民健康保険事業 勘定特別会計	7,331,246,683	7,214,493,134	116,753,549		116,753,549
国民健康保険直営診 療施設勘定特別会計	27,275,857	27,275,857			
後期高齢者医療 特別会計	1,692,408,145	1,689,197,861	3,210,284		3,210,284
介護保険事業勘定 特別会計	7,196,925,721	7,047,953,717	148,972,004		148,972,004
池田財産区特別会計	4,903,282	2,011,268	2,892,014		2,892,014
田中財産区特別会計	3,167,216	2,045,422	1,121,794		1,121,794
長田竜門財産区 特別会計	776,964	705,505	71,459		71,459
竜門財産区特別会計	83,396	40,176	43,220		43,220
南北志野財産区 特別会計	375,419	135,526	239,893		239,893
飯盛財産区特別会計	388,922	204,648	184,274		184,274
静川財産区特別会計	434,487	154,520	279,967		279,967
最上、神田、市場、元 財産区特別会計	1,128,288	254,568	873,720		873,720
調月財産区特別会計	262,339	250,913	11,426		11,426
丸栖財産区特別会計	942,437	481,150	461,287		461,287
平池財産区特別会計	1,377,235	908,505	468,730		468,730

(単位：円)

前年度実質収支 (F)	単年度収支 (E)-(F) (G)	積立金積立額 (H)	繰上償還金 (I)	積立金取崩額 (J)	実質単年度収支 (G)+(H)+(I)-(J)
1,179,187,168	△ 266,442,976	87,059,000			△ 179,383,976
3,485,719	727,309				727,309
32,814,332	83,939,217	26,057,000			109,996,217
64,280	△ 64,280				△ 64,280
2,267,870	942,414				942,414
226,173,627	△ 77,201,623	207,931,000			130,729,377
882,648	2,009,366	917,000			2,926,366
501,894	619,900	17,000			636,900
2,080	69,379	12,000		250,000	△ 168,621
32,752	10,468	18,000			28,468
318,063	△ 78,170	110,000			31,830
377,145	△ 192,871	193,000			129
287,856	△ 7,889	82,000			74,111
1,075,812	△ 202,092	34,000			△ 168,092
6,233	5,193	33,000		213,000	△ 174,807
467,092	△ 5,805	365,000			359,195
485,959	△ 17,229	701,000			683,771

備考：1) 普通会計に属さない特別会計の積立金積立額・取崩額は、全ての基金を考慮しています。

備考：2) 紀の川市公共下水道事業特別会計および紀の川市農業集落排水事業特別会計は、令和2年4月1日の地方公営企業法（財務規定等）適用に伴い廃止となりました。

2. 令和2年度会計別歳入歳出決算の状況

区 分	令 和 2 年 度				
	予算現額(A)	歳入決算額(B)	収入率(B)÷(A)	歳出決算額(C)	執行率(C)÷(A)
一般会計	38,202,373,000	37,613,501,540	98.5	36,495,455,348	95.5
住宅新築資金等 貸付事業特別会計	20,651,000	23,631,993	114.4	19,418,965	94.0
土地取得事業 特別会計	600,000	587,121	97.9	587,121	97.9
国民健康保険事業 勘定特別会計	7,874,568,000	7,331,246,683	93.1	7,214,493,134	91.6
国民健康保険直営診 療施設勘定特別会計	28,863,000	27,275,857	94.5	27,275,857	94.5
後期高齢者医療 特別会計	1,703,202,000	1,692,408,145	99.4	1,689,197,861	99.2
介護保険事業勘定 特別会計	7,376,106,000	7,196,925,721	97.6	7,047,953,717	95.6
公共下水道事業 特別会計					
農業集落排水事業 特別会計					
池田財産区特別会計	4,156,000	4,903,282	118.0	2,011,268	48.4
田中財産区特別会計	3,799,000	3,167,216	83.4	2,045,422	53.8
長田竜門財産区 特別会計	999,000	776,964	77.8	705,505	70.6
竜門財産区特別会計	77,000	83,396	108.3	40,176	52.2
南北志野財産区 特別会計	409,000	375,419	91.8	135,526	33.1
飯盛財産区特別会計	392,000	388,922	99.2	204,648	52.2
静川財産区特別会計	381,000	434,487	114.0	154,520	40.6
最上、神田、市場、元 財産区特別会計	1,299,000	1,128,288	86.9	254,568	19.6
調月財産区特別会計	799,000	262,339	32.8	250,913	31.4
丸栖財産区特別会計	943,000	942,437	99.9	481,150	51.0
平池財産区特別会計	1,384,000	1,377,235	99.5	908,505	65.6

(単位：円、%)

令和元年度		増減比較			
歳入決算額(D)	歳出決算額(E)	歳入増減額(B)-(D)	歳入増減率	歳出増減額(C)-(E)	歳出増減率
31,268,286,212	29,913,484,044	6,345,215,328	20.3	6,581,971,304	22.0
20,883,762	17,398,043	2,748,231	13.2	2,020,922	11.6
588,080	588,080	△ 959	△ 0.2	△ 959	△ 0.2
7,841,032,199	7,808,217,867	△ 509,785,516	△ 6.5	△ 593,724,733	△ 7.6
31,494,154	31,429,874	△ 4,218,297	△ 13.4	△ 4,154,017	△ 13.2
1,627,054,430	1,624,786,560	65,353,715	4.0	64,411,301	4.0
7,087,325,468	6,861,151,841	109,600,253	1.5	186,801,876	2.7
1,306,242,949	1,212,752,543	△ 1,306,242,949	皆減	△ 1,212,752,543	皆減
65,798,699	63,457,776	△ 65,798,699	皆減	△ 63,457,776	皆減
2,752,667	1,870,019	2,150,615	78.1	141,249	7.6
3,452,711	2,950,817	△ 285,495	△ 8.3	△ 905,395	△ 30.7
672,972	670,892	103,992	15.5	34,613	5.2
72,410	39,658	10,986	15.2	518	1.3
417,422	99,359	△ 42,003	△ 10.1	36,167	36.4
399,762	22,617	△ 10,840	△ 2.7	182,031	804.8
360,589	72,733	73,898	20.5	81,787	112.4
8,034,812	6,959,000	△ 6,906,524	△ 86.0	△ 6,704,432	△ 96.3
358,233	352,000	△ 95,894	△ 26.8	△ 101,087	△ 28.7
938,092	471,000	4,345	0.5	10,150	2.2
1,326,959	841,000	50,276	3.8	67,505	8.0

備考：1) 紀の川市公共下水道事業特別会計および紀の川市農業集落排水事業特別会計の廃止に伴い、令和2年度決算は紀の川市下水道事業会計（公営企業会計）に計上しています。

3. 令和2年度普通会計の状況（地方財政状況調査の速報値）

1) 決算収支の状況

区 分	歳入総額 (A)	歳出総額 (B)	歳入歳出差引額 (A)-(B) (C)	翌年度繰越 財源 (D)	実質収支 (C)-(D) (E)
令和2年度	37,612,655	36,490,396	1,122,259	205,302	916,957
令和元年度	31,267,764	29,909,476	1,358,288	175,615	1,182,673

◇ 普通会計決算における純計決算額の算定明細

	決算額	歳 入		
		左のうち相互重複		
		相手会計名	金額	
一 般 会 計	37,596,979	住宅新築資金等 貸付事業特別会 計	3,486	
計	ア 37,596,979		イ 3,486	
普通会計 を構成する 特別会計	住宅新築資金等貸付事業特別会計 土地取得事業特別会計	23,632 587	一般会計	5,057
計	オ 24,219		カ 5,057	
普 通 会 計	(ア-イ+オ-カ) 37,612,655			

備考：1) 後期高齢者医療において、一般会計で処理した一部分が、「地方財政状況調査」の作成要項（取り扱い）と異なるため、歳入決算額および歳出決算額が実質数値と異なっています。

◇ 主な財政分析指標（単位：%）

区 分		令和2年度	令和元年度
実質収支比率		5.0	6.4
経常収支比率		(94.6)	(96.2)
うち	人件費	91.5	92.7
		(25.0)	(21.8)
	物件費	24.1	21.0
		(10.0)	(11.2)
	扶助費	9.7	10.8
		(9.8)	(10.7)
	補助費等	9.4	10.3
		(16.1)	(13.5)
	公債費	15.6	13.0
		(20.8)	(22.6)
財政力指数		20.1	21.8
		0.40	0.39

備考：2) 実質収支比率の算定は、臨時財政対策債発行可能額を含んでいます。

3) 経常収支比率の（ ）は、臨時財政対策債を経常一般財源等から除いた比率です。

4) 標準財政規模の算出は、臨時財政対策債発行可能額を含んでいます。

(単位：千円)

単年度収支 (F)	財政調整基金 積立額 (G)	繰上償還金 (H)	財政調整基金 取崩額 (I)	実質単年度収支 (F)+(G)+(H)-(I)
△ 265,716	87,059			△ 178,657
365,242	381,200			746,442

(単位：千円)

歳 出		左のうち相互重複	
決 算 額	相手会計名		金額
	住宅新築資金等貸 付事業特別会計		
36,478,933			
ウ 36,478,933	エ		5,057
19,419	一般会計		3,486
587			
キ 20,006	ク		3,486
(ウ-エ+キ-ク)			
36,490,396			

◇ 将来にわたる財政負担

(単位：千円、%)

区 分		令和2年度	令和元年度	増減率
地方債現在高 (A)		25,913,173	27,563,827	△ 6.0
債務負担行為の 翌年度以降支出 予定額 (B)		1,757,324	1,758,634	△ 0.1
積立金現在高 (C)		12,606,268	12,165,180	3.6
うち	財政調整基金	5,669,261	5,582,202	1.6
	減債基金	2,344,680	2,051,196	14.3
	その他目的基金	4,592,327	4,531,782	1.3
(A)+(B)-(C) (D)		15,064,229	17,157,281	△ 12.2
標準財政規模 (E)		18,250,551	18,355,947	△ 0.6
対 標 準 財 政 規 模	((A)+(B))/(E)	1.5	1.6	
	(C)/(E)	0.7	0.7	
	(D)/(E)	0.8	0.9	

2) 歳入の状況

区 分	令 和 2 年 度						
	決 算 額 (A)	うち臨時的なもの(B)		差引経常的 なもの (A)-(B)	左 の 内 訳		決算額 構成比 (%)
		特定財源	一般財源		特定財源	一般財源	
1. 地 方 税	6,721,542		338,227	6,383,315		6,383,315	17.9
2. 地方譲与税	282,973			282,973		282,973	0.7
3. 利子割交付金	9,383			9,383		9,383	0.0
4. 配当割交付金	36,563			36,563		36,563	0.1
5. 株式等譲渡所得割交付金	41,364			41,364		41,364	0.1
6. 地方消費税交付金	1,244,982			1,244,982		1,244,982	3.3
7. ゴルフ場利用税交付金	24,602			24,602		24,602	0.1
8. 自動車取得税交付金							0.0
9. 自動車税環境性能割交付金	24,576			24,576		24,576	0.1
10. 法人事業税交付金	33,535			33,535		33,535	0.1
11. 地方特例交付金	61,080			61,080		61,080	0.2
12. 地方交付税	10,426,857		935,851	9,491,006		9,491,006	27.7
13. 交通安全対策特別交付金	4,999			4,999		4,999	0.0
14. 分担金及び負担金	376,427	27,026		349,401	349,401		1.0
15. 使 用 料	101,583		2,553	99,030	90,524	8,506	0.3
16. 手 数 料	153,960			153,960	153,960		0.4
17. 国庫支出金	11,058,073	7,090,153	1,210,471	2,757,449	2,757,449		29.4
18. 県支出金	2,081,105	448,554	3,695	1,628,856	1,628,856		5.5
19. 財産収入	69,105	21,586	12,984	34,535	15,419	19,116	0.2
20. 寄 附 金	546,354		546,354				1.5
21. 繰 入 金	705,842	362,383	343,459				1.9
22. 繰 越 金	1,358,288	121,496	1,236,792				3.6
23. 諸 収 入	318,962	35,542	115,696	167,724	111,434	56,290	0.8
内 訳	収益事業収入						
	貸付金元利収入	13,478		11,824	1,654	1,654	0.0
	そ の 他	305,484	35,542	103,872	166,070	109,780	56,290
24. 地 方 債	1,930,500	1,275,300	655,200				5.1
う ち	県貸付金						
	減収補填債特例分						
	臨時財政対策債	618,200		618,200			1.6
歳 入 合 計	37,612,655	9,382,040	5,401,282	22,829,333	5,107,043	17,722,290	100.0
歳入構成比 (%)	100.0	24.9	14.4	60.7	13.6	47.1	

(R元→R2、増減〔+：増額、△：減額、±0：同額〕、単位：千円)

令和元年度			増減率 (A)-(C) (C) (%)	主な増減内容
決算額 (C)	左のうち 経常一般財源	決算額 構成比 (%)		
6,720,044	6,381,965	21.5	0.0	固定資産税(家屋、現年分)の増 1,322,439→1,364,525 +42,086 法人市民税(法人税割、現年分)の減 275,125→217,943 △57,182
276,282	276,282	0.9	2.4	森林環境譲与税の増 7,800→16,578 +8,778 地方揮発油譲与税の減 69,198→68,141 △1,057
9,653	9,653	0.0	△2.8	利子課税額の減少による減
44,695	44,695	0.2	△18.2	配当課税額の減少による減
23,413	23,413	0.1	76.7	株式等譲渡所得課税額の増加による増
1,007,667	1,007,667	3.2	23.6	消費税・地方消費税額の増加による増
25,993	25,993	0.1	△5.4	ゴルフ場利用税収入の減少による減
44,738	44,738	0.2	皆減	自動車取得税の廃止による減
12,301	12,301	0.0	99.8	自動車税環境性能割の増加による増
		0.0	皆増	法人事業税交付金の創設による増
157,690	157,690	0.5	△61.3	子ども・子育て支援臨時交付金の減 106,748→0 △106,748
10,886,285	9,902,349	34.8	△4.2	普通交付税の減 9,902,349→9,491,006 △411,343 特別交付税の減 983,936→935,851 △48,085
5,035	5,035	0.0	△0.7	交通反則金収入の減少による減
231,202		0.7	62.8	学校給食公会計化による学校給食費の増 0→212,841 +212,841 県営ため池等整備事業分担金の増 1,810→7,855 +6,045
152,108	7,448	0.5	△33.2	保育所保育料(公立、現年分)の減 67,979→28,094 △39,885 トレーニングルーム使用料の減 3,139→1,736 △1,403
156,999		0.5	△1.9	ごみ処理手数料の減 83,983→80,587 △3,396 戸籍証明手数料の減 11,497→10,505 △992
3,413,147		10.9	224.0	特別定額給付金給付事業補助金の増 0→6,136,000 +6,136,000 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の増 0→1,202,009 +1,202,009 ひとり親世帯臨時特別給付金給付事業補助金の増 0→122,720 +122,720
2,357,143		7.5	△11.7	経営体育成支援事業補助金の減 195,976→0 △195,976 地籍調査事業負担金の減 223,393→113,077 △110,316 震災対策農業水利施設整備事業補助金の減 45,000→10,000 △35,000
109,615	19,871	0.4	△37.0	土地建物売却収入の減 58,301→7,716 △50,585 財政調整基金有価証券利子の増 1,427→4,686 +3,259
354,076		1.1	54.3	ふるさとまちづくり寄附金の増 353,376→545,924 +192,548
690,086		2.2	2.3	地域振興基金繰入金の増 220,000→290,000 +70,000 下水道事業会計繰入金の増 0→29,937 +29,937
985,634		3.2	37.8	前年度繰越金の増
439,358	55,826	1.4	△27.4	
12,464		0.0	8.1	住宅新築資金元利収入の増 9,364→10,444 +1,080
426,894	55,826	1.4	△28.4	プレミアム付商品券販売収入の減 126,059→0 △126,059 市税延滞金の減 40,155→17,758 △22,397
3,164,600		10.1	△39.0	荒川中学校校舎等改築事業債の減 1,039,400→0 △1,039,400 防災行政無線デジタル化事業債の減 131,900→0 △131,900 一般廃棄物処理施設解体整備事業債の減 125,300→0 △125,300
683,200		2.2	△9.5	臨時財政対策債の減 683,200→618,200 △65,000
31,267,764	17,974,926	100.0	20.3	
100.0	57.5			

3) 歳出の状況

◇ 目的別

区 分	令 和 2 年 度					令 和 元 年 度		
	決 算 額 (A)	左 の 内 訳		一般財源の うち投資的 経費充当額	決算額 構成比 (%)	決 算 額 (B)	左のうち 一般財源	決算額 構成比 (%)
		特定財源	一般財源					
1. 議 会 費	226,662		226,662		0.6	237,393	237,393	0.8
2. 総 務 費	11,128,667	6,603,342	4,525,325	44,164	30.5	4,381,387	3,705,376	14.7
3. 民 生 費	9,991,655	4,700,731	5,290,924	11,923	27.4	9,902,585	5,514,241	33.1
4. 衛 生 費	3,219,583	393,927	2,825,656	79,965	8.8	2,674,649	2,245,956	8.9
5. 労 働 費	994		994		0.0	2,162	2,162	0.0
6. 農林業費	1,191,380	630,326	561,054	177,318	3.3	1,161,256	507,183	3.9
7. 商 工 費	458,494	3,376	455,118	5,707	1.3	474,676	268,567	1.6
8. 土 木 費	2,206,977	843,701	1,363,276	275,170	6.0	2,209,697	1,250,219	7.4
9. 消 防 費	1,071,298	90,021	981,277	7,872	2.9	1,308,760	1,009,074	4.4
10. 教 育 費	3,088,811	1,030,787	2,058,024	105,503	8.5	3,256,068	1,701,861	10.9
11. 災害復旧費	207,853	176,065	31,788	31,788	0.6	220,628	11,976	0.7
12. 公 債 費	3,698,022	16,807	3,681,215		10.1	4,080,215	4,062,897	13.6
13. 諸支出金								
14. 前年度繰上充用金								
歳 出 合 計	36,490,396	14,489,083	22,001,313	739,410	100.0	29,909,476	20,516,905	100.0

(R元→R2、増減〔+：増額、△：減額、±0：同額〕、単位：千円)

増減率 (A)-(B) (B) (%)	主な増減内容
△ 4.5	議会運営事業費の減 182,117→174,350 △7,767 議会秘書事業費の減 6,151→1,929 △4,222
154.0	特別定額給付金給付事業費の増 0→6,160,643 +6,160,643 紀の川市特別定額給付金給付事業費の増 0→613,843 +613,843 地域振興基金積立金の増 2,468→302,319 +299,851
0.9	粉河地区保育所解体整備事業費の増 7,101→121,592 +114,491 ひとり親世帯臨時特別給付金給付事業費の増 0→100,127 +100,127 地域福祉基金積立金の減 200,459→816 △199,643
20.4	水道事業繰出金の増 23,172→277,072 +253,900 感染症対策事業費の増 162,332→341,348 +179,016 水道事業出資金の増 110,169→267,208 +157,039
△ 54.0	雇用対策事業費の減 2,112→894 △1,218
2.6	青洲の里整備事業費の増 10,326→180,133 +169,807 農業水路等長寿命化・防災減災事業費の増 15,000→87,502 +72,502 農業経営基盤強化促進事業費の減 199,596→7,414 △192,182
△ 3.4	プレミアム付商品券事業費の減 181,805→0 △181,805 まつり開催支援事業費の減 19,252→1,875 △17,377 商工振興事業費の増 46,622→216,499 +169,877
△ 0.1	公共下水道事業繰出金の減 685,833→334,322 △351,511 主要幹線道路整備事業費の減 277,450→90,370 △187,080 公共下水道事業出資金の増 0→373,081 +373,081
△ 18.1	防災行政無線デジタル化事業費の減 207,076→0 △207,076 消防団運営事業費の減 132,663→121,187 △11,476 那賀消防組合事業費の減 699,268→692,786 △6,482
△ 5.1	荒川中学校校舎等改築事業費の減 1,207,572→0 △1,207,572 公民館改修整備事業費の減 75,415→0 △75,415 小学校教育情報化事業費の増 0→462,515 +462,515
△ 5.8	小学校施設災害復旧事業費の減 22,325→0 △22,325 地域情報通信基盤災害復旧事業費の減 18,969→0 △18,969
△ 9.4	地方債管理事業（元金）費の減 3,941,122→3,581,154 △359,968 地方債管理事業（利子）費の減 139,093→116,868 △22,225
22.0	

◇ 性質別

区 分	令和2年度							
	決算額 (A)	左のうち臨時的なもの(B)		差引経常的 なもの (A)-(B)	左の内訳		決算額 構成比 (%)	経常収 支比率 (%)
		特定財源	一般財源		特定財源	一般財源		
1. 人件費 (7)	4,809,171	33,195	69,189	4,706,787	282,206	4,424,581	13.2	24.1
2. 物件費	4,272,501	783,715	1,166,233	2,322,553	541,743	1,780,810	11.7	9.7
3. 維持補修費	284,223	110,000	31,808	142,415	22,732	119,683	0.8	0.7
4. 扶助費	5,494,998	267,980	561	5,226,457	3,493,695	1,732,762	15.1	9.4
5. 補助費等	10,630,298	6,225,118	1,362,133	3,043,047	189,442	2,853,605	29.1	15.6
内 訳	一部事務組合に対するもの	1,317,597	43,316	1,274,281		1,274,281	3.6	6.9
	その他のもの	9,312,701	6,225,118	1,318,817	1,768,766	189,442	1,579,324	25.5
6. 公債費	3,698,022			3,698,022	16,807	3,681,215	10.1	20.1
内 訳	元利償還金	3,698,022		3,698,022	16,807	3,681,215	10.1	20.1
	一時借入金利息							
7. 積立金	1,102,047	20,999	1,081,048				3.0	
8. 投資及び出資金・貸付金	672,857	4,500	654,444	13,913		13,913	1.9	0.1
9. 繰出金	2,850,923	587	124,032	2,726,304	560,418	2,165,886	7.8	11.8
10. 前年度繰上充用金								
計 (1~10)	33,815,040	7,446,094	4,489,448	21,879,498	5,107,043	16,772,455	92.7	91.5
11. 投資的経費	2,675,356	1,935,946	739,410				7.3	(4.0)
うち人件費 (4)	86,608		86,608				0.2	(0.5)
(1) 普通建設事業費	2,467,503	1,759,881	707,622				6.7	(3.9)
うち補助事業費	934,586	805,396	129,190				2.6	(0.8)
うち単独事業費	1,409,187	840,366	568,821				3.8	(3.1)
(2) 災害復旧事業費	207,853	176,065	31,788				0.6	(0.2)
歳出合計	36,490,396	9,382,040	5,228,858	21,879,498	5,107,043	16,772,455	100.0	
うち人件費 (7) + (4)	4,895,779	33,195	155,797	4,706,787	282,206	4,424,581	13.4	
歳出構成比 (%)	100.0	25.7	14.3	60.0	14.0	46.0		

(R元→R2、増減〔+：増額、△：減額、±0：同額〕、単位：千円)

令和元年度			増減率 (A)-(C) (C) (%)	主な増減内容
決算額 (C)	左のうち 経常一般財源	決算額 構成比 (%)		
4,198,147	3,919,964	14.0	14.6	会計年度任用職員報酬の増 0→556,731 +556,731 会計年度任用職員社会保険料負担金の増 0→95,362 +95,362 会計年度任用職員期末手当の増 0→73,861 +73,861
3,874,250	2,013,256	12.9	10.3	小学校教育情報化事業費の増 0→262,502 +262,502 学校給食賄材料費の増 2,654→217,423 +214,769 臨時雇用賃金の減 249,703→0 △249,703
266,595	137,467	0.9	6.6	市道等維持修繕事業工事請負費の増 89,530→121,005 +31,475 生涯学習施設管理運営事業施設・器具修繕料の増 12,832→28,662 +15,830 市営住宅施設管理事業施設・器具修繕料の減 64,792→4,382 △60,410
5,467,062	1,920,652	18.3	0.5	ひとり親世帯臨時特別給付金給付事業費の増 0→98,686 +98,686 子育て世帯臨時特別給付金給付事業費の増 0→72,989 +72,989 保育士賃金の減 144,519→0 △144,519
3,201,781	2,429,337	10.7	232.0	
1,395,021	1,280,041	4.7	△ 5.6	五色台広域施設組合負担金の減 102,646→53,959 △48,687 那賀衛生環境整備組合負担金の減 184,414→170,016 △14,398
1,806,760	1,149,296	6.0	415.4	特別定額給付金の増 0→6,136,000 +6,136,000 紀の川市特別定額給付金の増 0→613,600 +613,600 下水道事業会計補助金の増 0→334,322 +334,322
4,080,215	4,062,897	13.6	△ 9.4	
4,080,215	4,062,897	13.6	△ 9.4	地方債管理事業（元金）費の減 3,941,122→3,581,154 △359,968 地方債管理事業（利子）費の減 139,093→116,868 △22,225
1,104,344		3.7	△ 0.2	財政調整基金積立金の減 381,200→87,059 △294,141 地域福祉基金積立金の減 200,459→816 △199,643 地域振興基金積立金の増 2,468→302,319 +299,851
110,169	12,629	0.4	510.7	下水道事業会計出資金の増 0→373,081 +373,081 水道事業会計出資金の増 110,169→267,208 +157,039
3,579,962	2,795,211	12.0	△ 20.4	公共下水道事業特別会計繰出金の減 685,833→0 △685,833 農業集落排水事業特別会計繰出金の減 46,262→0 △46,262 国民健康保険事業勘定特別会計繰出金の減 599,143→557,530 △41,613
25,882,525	17,291,413	86.5	30.6	
4,026,951		13.5	△ 33.6	
100,000		0.3	△ 13.4	消防施設費人件費の減 10,321→0 △10,321 中学校建設費人件費の減 7,989→0 △7,989
3,806,323		12.8	△ 35.2	
2,424,400		8.1	△ 61.5	荒川中学校校舎等改築事業費の減 1,166,441→0 △1,166,441 防災行政無線デジタル化事業費の減 206,976→0 △206,976 農業経営基盤強化促進事業費の減 195,976→0 △195,976
1,264,616		4.3	11.4	青洲の里整備事業費の増 10,286→180,133 +169,847 都市公園整備事業費の増 0→72,998 +72,998 那賀畜場解体整備事業費の増 3,555→72,421 +68,866
220,628		0.7	△ 5.8	小学校施設災害復旧事業費の減 22,325→0 △22,325 地域情報通信基盤災害復旧事業費の減 15,370→0 △15,370
29,909,476	17,291,413	100.0	22.0	
4,298,147	3,919,964	14.4	13.9	
100.0	57.8			

4. 職員給与費の状況

〔一般会計〕

(単位：人、円)

区 分		令和2年度	令和元年度	増 減
職員数		799	514	285
	特別職	3	3	0
	一般職	796	511	285
	会計年度任用職員以外の職員	509	511	△ 2
	会計年度任用職員	287	0	287
総額		4,834,861,903	4,232,591,057	602,270,846
	報酬	554,315,989	0	554,315,989
	会計年度任用職員報酬	554,315,989	0	554,315,989
	給料	2,001,886,338	2,015,442,826	△ 13,556,488
	特別職給	25,142,400	25,142,400	0
	一般職給	1,976,743,938	1,990,300,426	△ 13,556,488
	手当	1,541,510,440	1,567,700,864	△ 26,190,424
	扶養手当	63,707,466	66,322,940	△ 2,615,474
	住居手当	12,450,043	14,043,178	△ 1,593,135
	特別職通勤手当	83,500	133,200	△ 49,700
	通勤手当	27,452,290	27,189,220	263,070
	特殊勤務手当	2,846,500	3,054,000	△ 207,500
	時間外勤務手当	75,164,168	120,159,063	△ 44,994,895
	宿日直手当	1,689,600	1,742,400	△ 52,800
	管理職員特別勤務手当	492,000	476,000	16,000
	管理職手当	79,010,000	75,750,000	3,260,000
	特別職期末手当	9,826,488	9,973,150	△ 146,662
	期末手当	459,060,164	470,591,916	△ 11,531,752
	会計年度任用職員期末手当	73,528,812	0	73,528,812
	勤勉手当	329,731,091	330,817,150	△ 1,086,059
	児童手当	29,055,000	31,785,000	△ 2,730,000
	総合事務組合負担金（退職手当特別職）	7,039,872	7,039,872	0
	総合事務組合負担金（退職手当）	298,712,870	339,624,016	△ 40,911,146
	総合事務組合負担金（退職手当特別負担金）	71,660,576	68,999,759	2,660,817
	共済費	737,149,136	649,447,367	87,701,769
	職員共済組合負担金特別職	4,152,956	4,173,814	△ 20,858
	職員共済組合負担金	596,975,556	603,295,856	△ 6,320,300
	職員共済組合負担金追加費用	40,802,544	41,612,880	△ 810,336
	職員共済組合負担金払込金	140,636	228,967	△ 88,331
	職員共済組合負担金特定検診負担金	135,904	135,850	54
	社会保険料負担金	94,941,540	0	94,941,540

備考：1) 時間外勤務手当は、選挙事務に係る手当を含んでいます。

〔特別会計〕

(単位：人、円)

区 分	令和2年度	令和元年度	増 減
職員数（一般職）	42	15	27
会計年度任用職員以外の職員	8	15	△ 7
会計年度任用職員	34	0	34
総額	153,768,099	125,072,092	28,696,007
報酬	69,994,904	0	69,994,904
会計年度任用職員報酬	69,994,904	0	69,994,904
給料	29,277,900	61,039,775	△ 31,761,875
一般職給	29,277,900	61,039,775	△ 31,761,875
手当	32,551,529	45,685,113	△ 13,133,584
扶養手当	1,170,000	2,509,000	△ 1,339,000
住居手当	0	0	0
通勤手当	406,800	802,820	△ 396,020
時間外勤務手当	3,053,596	2,845,218	208,378
管理職手当	840,000	2,040,000	△ 1,200,000
期末手当	7,053,458	14,650,462	△ 7,597,004
会計年度任用職員期末手当	9,520,178	0	9,520,178
勤勉手当	5,022,608	10,315,647	△ 5,293,039
児童手当	880,000	2,115,000	△ 1,235,000
総合事務組合負担金（退職手当）	4,604,889	10,406,966	△ 5,802,077
共済費	21,943,766	18,347,204	3,596,562
職員共済組合負担金	9,191,306	18,347,204	△ 9,155,898
社会保険料負担金	12,752,460	0	12,752,460

備考：2）住宅新築資金等貸付事業特別会計、国民健康保険事業勘定特別会計、介護保険事業勘定特別会計および公共下水道事業特別会計（令和元年度）が対象です。

備考：3）公共下水道事業特別会計は、令和2年4月1日の地方公営企業法（財務規定等）適用に伴い、令和2年度は下水道事業会計（公営企業会計）に計上しています。

〔公営企業会計〕

(単位：人、円)

区 分	令和2年度	令和元年度	増 減
職員数（一般職）	31	21	10
会計年度任用職員以外の職員	29	21	8
会計年度任用職員	2	0	2
総額	240,279,231	174,676,404	65,602,827
給料	119,743,946	84,318,900	35,425,046
一般職給	115,829,200	84,318,900	31,510,300
会計年度任用職員給	3,914,746	0	3,914,746
手当	84,383,964	64,473,719	19,910,245
扶養手当	4,574,000	3,697,500	876,500
住居手当	865,200	991,200	△ 126,000
通勤手当	1,669,300	983,600	685,700
会計年度任用職員通勤手当	274,800	0	274,800
時間外勤務手当	4,462,993	5,457,071	△ 994,078
管理職員特別勤務手当	34,000	67,000	△ 33,000
管理職手当	5,250,000	3,720,000	1,530,000
期末手当	27,445,727	19,949,991	7,495,736
会計年度任用職員期末手当	527,675	0	527,675
勤勉手当	19,710,889	14,003,144	5,707,745
児童手当	2,195,000	1,270,000	925,000
総合事務組合負担金（退職手当）	17,374,380	14,334,213	3,040,167
共済費	36,151,321	25,883,785	10,267,536
職員共済組合負担金	35,412,581	25,883,785	9,528,796
社会保険料負担金	738,740	0	738,740

備考：4）水道事業会計、工業用水道事業会計および下水道事業会計（令和2年度）が対象です。

〔全会計〕

(単位：人、円)

区 分	令和2年度	令和元年度	増 減
職員数	872	550	322
特別職	3	3	0
一般職	869	547	322
会計年度任用職員以外の職員	546	547	△ 1
会計年度任用職員	323	0	323
総額	5,228,909,233	4,532,339,553	696,569,680
報酬	624,310,893	0	624,310,893
会計年度任用職員報酬	624,310,893	0	624,310,893
給料	2,150,908,184	2,160,801,501	△ 9,893,317
特別職給	25,142,400	25,142,400	0
一般職給	2,121,851,038	2,135,659,101	△ 13,808,063
会計年度任用職員給	3,914,746	0	3,914,746
手当	1,658,445,933	1,677,859,696	△ 19,413,763
扶養手当	69,451,466	72,529,440	△ 3,077,974
住居手当	13,315,243	15,034,378	△ 1,719,135
特別職通勤手当	83,500	133,200	△ 49,700
通勤手当	29,528,390	28,975,640	552,750
会計年度任用職員通勤手当	274,800	0	274,800
特殊勤務手当	2,846,500	3,054,000	△ 207,500
時間外勤務手当	82,680,757	128,461,352	△ 45,780,595
宿日直手当	1,689,600	1,742,400	△ 52,800
管理職員特別勤務手当	526,000	543,000	△ 17,000
管理職手当	85,100,000	81,510,000	3,590,000
特別職期末手当	9,826,488	9,973,150	△ 146,662
期末手当	493,559,349	505,192,369	△ 11,633,020
会計年度任用職員期末手当	83,576,665	0	83,576,665
勤勉手当	354,464,588	355,135,941	△ 671,353
児童手当	32,130,000	35,170,000	△ 3,040,000
総合事務組合負担金(退職手当特別職)	7,039,872	7,039,872	0
総合事務組合負担金(退職手当)	320,692,139	364,365,195	△ 43,673,056
総合事務組合負担金(退職手当特別負担金)	71,660,576	68,999,759	2,660,817
共済費	795,244,223	693,678,356	101,565,867
職員共済組合負担金特別職	4,152,956	4,173,814	△ 20,858
職員共済組合負担金	641,579,443	647,526,845	△ 5,947,402
職員共済組合負担金追加費用	40,802,544	41,612,880	△ 810,336
職員共済組合負担金払込金	140,636	228,967	△ 88,331
職員共済組合負担金特定検診負担金	135,904	135,850	54
社会保険料負担金	108,432,740	0	108,432,740

〔職員給与費を構成する期末手当支給率等〕

区 分	令和2年度	令和元年度	増 減
期末手当支給率	2.55月	2.60月	△0.05月
勤勉手当支給率	1.90月	1.90月	0.00月
総合事務組合退職手当負担金率	150/1000	170/1000	△20/1000
職員共済組合負担金率(40歳以上)	194.9033/1000	193.6298/1000	1.2735/1000
職員共済組合負担金率(40歳未満)	186.2633/1000	186.0898/1000	0.1735/1000
職員共済組合追加費用率	16.4/1000	16.6/1000	△0.2/1000

5. 地方債の状況

1) 地方債現在高の状況

[一般会計]

◇ 事業別

(単位：千円)

区 分	令和元年度末 現在高	令和2年度 発行額	令和2年度 償還額	令和2年度末 現在高
1. 公共事業等債	615,027	107,700	97,447	625,280
2. 防災・減災・国土強靱化緊急対策事業債	5,200	15,700	520	20,380
3. 公営住宅建設事業債				
4. 災害復旧事業債	157,930	59,000	35,060	181,870
5. (旧)緊急防災・減災事業債	520,569		149,072	371,497
6. 全国防災事業債	198,582		13,098	185,484
7. 教育・福祉施設等整備事業債	463,944	112,700	115,552	461,092
8. 一般単独事業債	16,879,905	905,900	1,907,988	15,877,817
うち地域活性化事業債	154,800	30,700	22,850	162,650
うち防災対策事業債	9,114	5,800	1,896	13,018
うち合併特例事業債	15,818,380	785,000	1,640,685	14,962,695
うち(新)緊急防災・減災事業債	235,193	72,800	45,128	262,865
うち緊急自然災害防止対策事業債		11,600		11,600
9. 辺地対策事業債	2,000	1,100	400	2,700
10. 過疎対策事業債				
11. 公共用地先行取得等事業債				
12. 行政改革推進債				
13. 厚生福祉施設整備事業債				
14. 地域財政特例対策債				
15. 退職手当債(～平成17年度分)				
16. 退職手当債(平成18年度～)				
17. 国の予算貸付・政府関係機関貸付債				
18. 地域改善対策特定事業債				
19. 財源対策債	195,987	68,700	38,390	226,297
20. 減収補填債		37,000		37,000
21. 臨時財政特例債				
22. 公共事業等臨時特例債				
23. 減税補填債	128,306		34,188	94,118
24. 臨時税収補填債				
25. 臨時財政対策債	8,349,856	618,200	1,181,967	7,786,089
26. 調整債(昭和60～63年度分)				
27. 調整債(令和1～2年度分)				
28. 減収補填債特例分				
29. 県貸付金				
30. 猶予特例債				
31. 特別減収対策債				
32. その他	43,170	4,500	5,230	42,440
合 計	27,560,476	1,930,500	3,578,912	25,912,064

備考：1) 区分の分類は、地方財政状況調査(決算統計)に準じて作成しています。

◇ 予算説明別

(単位：千円)

区 分	令和元年度末 現在高	令和2年度 発行額	令和2年度 償還額	令和2年度末 現在高
1. 普通債	18,924,384	1,216,300	2,327,697	17,812,987
(1) 総務債	2,121,260	7,600	271,020	1,857,840
(2) 民生債	562,958	141,300	51,380	652,878
(3) 衛生債	2,952,545	101,000	244,805	2,808,740
(4) 農林業債	858,747	261,200	139,651	980,296
(5) 商工債	15,045	1,100	915	15,230
(6) 土木債	5,281,634	356,800	644,328	4,994,106
(7) 消防債	694,925	39,500	150,855	583,570
(8) 教育債	6,437,270	307,800	824,743	5,920,327
2. 災害復旧債	157,930	59,000	35,060	181,870
(1) 補助災害復旧事業債	106,490	49,600	22,200	133,890
(2) 単独災害復旧事業債	51,440	9,400	12,860	47,980
3. その他	8,478,162	655,200	1,216,155	7,917,207
(1) 減収補填債		37,000		37,000
(2) 減税補填債	128,306		34,188	94,118
(3) 臨時財政対策債	8,349,856	618,200	1,181,967	7,786,089
合 計	27,560,476	1,930,500	3,578,912	25,912,064

備考：2) 区分の分類は、予算書の付属資料に準じて作成しています。

〔住宅新築資金等貸付事業特別会計〕

(単位：千円)

区 分	令和元年度末 現在高	令和2年度 発行額	令和2年度 償還額	令和2年度末 現在高
1. 公営住宅建設事業債	1,744		1,164	580
2. 県貸付金	1,607		1,078	529
合 計	3,351		2,242	1,109

〔公共下水道事業特別会計〕

(単位：千円)

区 分	令和元年度末 現在高	令和2年度 発行額	令和2年度 償還額	令和2年度末 現在高
1. 下水道事業債	9,062,826			
合 計	9,062,826			

〔農業集落排水事業特別会計〕

(単位：千円)

区 分	令和元年度末 現在高	令和2年度 発行額	令和2年度 償還額	令和2年度末 現在高
1. 下水道事業債	300,873			
合 計	300,873			

備考：3) 区分の分類は、地方財政状況調査（決算統計）に準じて作成しています。

備考：4) 紀の川市公共下水道事業特別会計の廃止に伴い、地方債の償還残高9,062,826千円は、紀の川市下水道事業会計（公営企業会計）に引き継ぎました。

備考：5) 紀の川市農業集落排水事業特別会計の廃止に伴い、地方債の償還残高300,873千円は、紀の川市下水道事業会計（公営企業会計）に引き継ぎました。

2) 地方債年度別償還予定の状況

〔一般会計〕

	令和3年度			令和4年度		
	元 金	利 子	計	元 金	利 子	計
1. 政府資金	1,092,797	25,224	1,118,021	945,159	19,563	964,722
2. 地方公共団体金融機構資金	587,672	15,613	603,285	532,231	12,496	544,727
3. 市中銀行その他金融機関	1,562,555	58,954	1,621,509	1,173,575	53,133	1,226,708
4. 共 済 等						
合 計	3,243,024	99,791	3,342,815	2,650,965	85,192	2,736,157

〔住宅新築資金等貸付事業特別会計〕

1. 政府資金	580	11	591		
2. その他	529	19	548		
合 計	1,109	30	1,139		

特別会計合計	1,109	30	1,139		
--------	-------	----	-------	--	--

総 合 計	3,244,133	99,821	3,343,954	2,650,965	85,192	2,736,157
-------	-----------	--------	-----------	-----------	--------	-----------

備考：1) 償還予定額は、令和2年度までに借り入れた起債を基に算出しています。

2) 資金区分の政府資金には財政融資資金および旧郵政公社資金を、地方公共団体金融機構資金には旧公営企業金融公庫資金および旧公営企業等金融機構資金を、また、ゆうちょ銀行資金は市中銀行欄にそれぞれ分類しています。

3) この表には起債前借を含んでいません。起債前借は事業の進捗度合に応じ、長期資金を正式に借り入れるまでのつなぎ資金として借り入れるものです。

(単位：千円)

令和5年度			令和6年度			令和7年度		
元金	利子	計	元金	利子	計	元金	利子	計
807,847	15,045	822,892	690,237	11,299	701,536	561,841	8,426	570,267
419,428	9,860	429,288	329,029	7,792	336,821	291,711	6,311	298,022
1,126,435	48,565	1,175,000	1,093,575	44,051	1,137,626	1,034,595	39,650	1,074,245
2,353,710	73,470	2,427,180	2,112,841	63,142	2,175,983	1,888,147	54,387	1,942,534

(単位：千円)

2,353,710	73,470	2,427,180	2,112,841	63,142	2,175,983	1,888,147	54,387	1,942,534

6. 基金の状況

(単位：円)

基金名		令和元年度末 現在高	令和2年度 取崩額	令和2年度 積立額	令和2年度末 現在高
財政調整基金		5,582,202,000		87,059,000	5,669,261,000
減債基金		2,051,196,000	300,000,000	593,484,000	2,344,680,000
特定目的 基金	中山間ふるさと水と土保全対策基金	43,619,000		48,000	43,667,000
	都市計画事業基金	0			0
	医聖華岡青洲顕彰事業基金	10,957,000	10,959,000	2,000	0
	人材育成基金	44,247,000		49,000	44,296,000
	地域振興基金	2,012,271,000	290,000,000	302,319,000	2,024,590,000
	地域福祉基金	576,431,000	50,000,000	816,000	527,247,000
	公共施設等整備基金	1,836,497,000	10,000,000	102,681,000	1,929,178,000
	森林環境譲与税基金	7,760,000		15,589,000	23,349,000
住宅新築資金等貸付事業債管理基金		0			0
基金 運用	土地開発基金	740,522,434		587,121	741,109,555
	うち現金	533,746,934		587,121	534,334,055
	うち土地	206,775,500			206,775,500
普通会計計		12,905,702,434	660,959,000	1,102,634,121	13,347,377,555
特別会計	国民健康保険事業運営基金	587,201,000		26,057,000	613,258,000
	介護給付費準備基金	128,293,000		207,931,000	336,224,000
	公共下水道事業基金	0			0
	農業集落排水事業基金	0			0
	池田財産区財政調整基金	145,543,000		917,000	146,460,000
	田中財産区財政調整基金	67,979,000		17,000	67,996,000
	長田竜門財産区財政調整基金	10,445,000	250,000	12,000	10,207,000
	竜門財産区財政調整基金	222,000		18,000	240,000
	南北志野財産区財政調整基金	3,967,000		110,000	4,077,000
	飯盛財産区財政調整基金	7,989,000		193,000	8,182,000
	静川財産区財政調整基金	2,727,000		82,000	2,809,000
	最上、神田、市場、元財産区財政調整基金	30,629,000		34,000	30,663,000
	調月財産区財政調整基金	29,932,000	213,000	33,000	29,752,000
	丸栖財産区財政調整基金	19,931,000		365,000	20,296,000
	平池財産区財政調整基金	36,733,000		701,000	37,434,000
特別会計（普通会計以外）計		1,071,591,000	463,000	236,470,000	1,307,598,000
総合計		13,977,293,434	661,422,000	1,339,104,121	14,654,975,555

備考：1）紀の川市公共下水道事業特別会計の廃止に伴い、紀の川市公共下水道事業基金は、紀の川市下水道事業会計（公営企業会計）に引き継ぎました。

備考：2）紀の川市農業集落排水事業特別会計の廃止に伴い、紀の川市農業集落排水事業基金は、紀の川市下水道事業会計（公営企業会計）に引き継ぎました。

7. その他資料

1) 人口推移（住民基本台帳人口：3月末日現在）

（単位：人）

区 分	人 口			世帯数	1世帯当 たり人口
	男	女	計		
平成17年	33,759	36,786	70,545	24,010	2.94
平成18年	33,568	36,606	70,174	24,306	2.89
平成19年	33,368	36,473	69,841	24,663	2.83
平成20年	33,051	36,159	69,210	24,795	2.79
平成21年	32,749	35,902	68,651	24,978	2.75
平成22年	32,537	35,710	68,247	25,237	2.70
平成23年	32,252	35,471	67,723	25,465	2.66
平成24年	32,011	35,184	67,195	25,624	2.62
平成25年	31,774	35,088	66,862	25,903	2.58
平成26年	31,467	34,784	66,251	26,055	2.54
平成27年	31,249	34,510	65,759	26,196	2.51
平成28年	30,881	34,127	65,008	26,275	2.47
平成29年	30,508	33,621	64,129	26,346	2.43
平成30年	30,115	33,160	63,275	26,412	2.40
平成31年	29,702	32,682	62,384	26,447	2.36
令和2年	29,292	32,210	61,502	26,510	2.32
令和3年	29,011	31,867	60,878	26,576	2.29

2) 学校別児童生徒数（令和2年5月1日 学校基本調査）

〔小学校〕

（単位：人）

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
池田小学校	64	64	63	66	62	75	394
田中小学校	66	87	76	95	81	77	482
長田小学校	19	14	17	15	17	16	98
粉河小学校	34	46	37	39	37	41	234
竜門小学校	14	15	14	15	20	11	89
川原小学校	9	4	12	9	7	16	57
鞆渚小学校	2	0	1	0	0	1	4
名手小学校	29	36	34	39	32	32	202
上名手小学校	6	9	8	3	8	9	43
麻生津小学校	1	2	3	9	9	3	27
安楽川小学校	42	42	56	49	43	39	271
調月小学校	9	15	12	18	11	19	84
中貴志小学校	56	47	47	54	49	49	302
東貴志小学校	17	11	19	16	20	17	100
西貴志小学校	45	53	67	60	56	73	354
丸栖小学校	21	20	30	26	24	25	146
合 計	434	465	496	513	476	503	2,887

〔中学校〕

（単位：人）

	1年	2年	3年	計
打田中学校	123	125	135	383
打田中学校(仙溪分校)	2	0	3	5
粉河中学校	70	89	69	228
鞆渚中学校	1	2	3	6
那賀中学校	46	43	46	135
荒川中学校	61	52	40	153
貴志川中学校	175	153	161	489
合 計	478	464	457	1,399

3) 保育施設別児童数（令和3年3月1日現在）

〔公立（保育所）〕

（単位：人）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計	参考(定員)
なるき保育所			15	30	34	36	115	184
こぼと保育所	7	23	36	49	50	62	227	252
八王子保育所			4	9	9	10	32	79
中貴志保育所			16	19	17	26	78	128
東貴志保育所		8	15	13	12	11	59	110
西貴志保育所				19	16	22	57	150
丸栖保育所		8	20	13	19	17	77	108
合計	7	39	106	152	157	184	645	1,011

〔私立（保育園）〕

（単位：人）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計	参考(定員)
粉河保育園	8	20	33	43	58	55	217	240
名手保育園	12	25	19	27	37	35	155	150
安楽川保育園	9	20	32	41	42	48	192	204
ながやま保育園	9	21	31	34	28	32	155	190
合計	38	86	115	145	165	170	719	784

〔私立（認定こども園）〕

（単位：人）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計	参考(定員)
レィモンドこども園	9	17	18	18	16	18	96	99
愛の光幼稚園		6	5	10	3	8	32	34
あおば幼稚園			3	4	8	8	23	20
合計	9	23	26	32	27	34	151	153

〔私立（小規模保育施設）〕

（単位：人）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計	参考(定員)
未来保育園		12	5				17	18
ニチキッズきのかわ保育園	6	7	7				20	19
山の子共同保育園	2	2	3				7	9
合計	8	21	15	0	0	0	44	46

保育施設合計	62	169	262	329	349	388	1,559	1,994
--------	----	-----	-----	-----	-----	-----	-------	-------

備考：1) 児童数には他市町村からの広域入所を含んでいません。

4) 放課後児童クラブ別児童数（令和3年3月1日現在）

（単位：人）

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	計	参考(定員)
てのひら	26	21	16	10	7	7	87	75
太陽の子	20	25	14				59	60
粉河アットホームクラブ	23	22	14				59	70
チャレンジ児童クラブ	21	18	22	10	3		74	80
あらかわ放課後児童クラブ	19	11	17	6	3		56	60
ももやま放課後児童クラブ	5	7	3	2	3		20	25
こどもくらぶ	31	12(7)	13(8)	13(7)	1(2)	0(2)	70(26)	70
ほたるっこ	10(2)	5	6(4)	6(3)	3(1)		30(10)	30
西貴志こどもくらぶ	18	18(3)	20(9)	1(4)	1(2)		58(18)	60
丸栖っ子クラブ	11	7	5				23	25
合計	184(2)	146(10)	130(21)	48(14)	21(5)	7(2)	536(54)	555

備考：2) 日割り利用児童数は、() に外数で記載しています。

8. 一般会計主要施策の成果

備考：1) 「事務事業の概要」欄において、長期総合計画体系に該当しない場合は、政策目標から基本施策までを「99 ***」、取組方針を「9 その他」で表示しています。

備考：2) 「指標の実績」欄の各指標において、事前に目標設定することになじまない事務事業は、目標値を設定していません。

備考：3) 「コストの実績」欄は、地方財政状況調査（決算統計）における報告値としています。
R2年度決算額（単位：千円）は、節説明ごとに円単位の支出済額を千円単位に調整し集計しているため、決算書に記載の事務事業決算額と若干の差異が生じる場合があります。
財源内訳は、調査では収入済額のうち新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を一般財源とするところ国庫支出金としています。

[歳入] 市税等収納実績に関する科目

(単位：円)

款 項 目	担当課	予 算 現 額	収 入 済 額	事 業 等 実 施 内 容																																																										
1-1-1 市民税 個人	税務課	2,491,000,000	2,511,731,060	◎個人市民税 現年課税分 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">令和2年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>個人均等割</td> <td>102,657,280</td> <td>101,844,068</td> <td>99.2%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>個人所得割</td> <td>2,425,901,333</td> <td>2,409,886,992</td> <td>99.3%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>2,528,558,613</td> <td>2,511,731,060</td> <td>99.3%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">令和元年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>個人均等割</td> <td>102,346,200</td> <td>101,061,465</td> <td>98.7%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>個人所得割</td> <td>2,413,133,520</td> <td>2,389,069,369</td> <td>99.0%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>2,515,479,720</td> <td>2,490,130,834</td> <td>99.0%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>・対前年度0.9%の増、税額にして21,600,226円の増。</p> <p>【新型コロナウイルス感染症の影響による徴収猶予】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>件数</th> <th>猶予税額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>33件</td> <td>1,003,300</td> </tr> </tbody> </table>	令和2年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	個人均等割	102,657,280	101,844,068	99.2%	—	—	個人所得割	2,425,901,333	2,409,886,992	99.3%	—	—	合 計	2,528,558,613	2,511,731,060	99.3%	—	—	令和元年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	個人均等割	102,346,200	101,061,465	98.7%	—	—	個人所得割	2,413,133,520	2,389,069,369	99.0%	—	—	合 計	2,515,479,720	2,490,130,834	99.0%	—	—	年度	件数	猶予税額	令和2年度	33件	1,003,300
	令和2年度			調定額					収入済額	収納率	不納欠損																																																			
額		件数																																																												
個人均等割	102,657,280	101,844,068	99.2%	—	—																																																									
個人所得割	2,425,901,333	2,409,886,992	99.3%	—	—																																																									
合 計	2,528,558,613	2,511,731,060	99.3%	—	—																																																									
令和元年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																																										
				額	件数																																																									
個人均等割	102,346,200	101,061,465	98.7%	—	—																																																									
個人所得割	2,413,133,520	2,389,069,369	99.0%	—	—																																																									
合 計	2,515,479,720	2,490,130,834	99.0%	—	—																																																									
年度	件数	猶予税額																																																												
令和2年度	33件	1,003,300																																																												
	収納対策課	19,700,000	23,620,820	◎個人市民税 滞納繰越分 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>66,091,398</td> <td>23,620,820</td> <td>35.7%</td> <td>3,137,460</td> <td>284件</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>73,305,933</td> <td>28,249,211</td> <td>38.5%</td> <td>4,184,300</td> <td>366件</td> </tr> </tbody> </table> <p>・対前年度16.4%の減、税額にして4,628,391円の減。</p>	年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	令和2年度	66,091,398	23,620,820	35.7%	3,137,460	284件	令和元年度	73,305,933	28,249,211	38.5%	4,184,300	366件																																						
年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																																										
				額	件数																																																									
令和2年度	66,091,398	23,620,820	35.7%	3,137,460	284件																																																									
令和元年度	73,305,933	28,249,211	38.5%	4,184,300	366件																																																									
1-1-2 市民税 法人	税務課	330,000,000	331,808,500	◎法人市民税 現年課税分 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">令和2年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>法人均等割</td> <td>116,550,300</td> <td>113,865,300</td> <td>97.7%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>法人税割</td> <td>219,172,600</td> <td>217,943,200</td> <td>99.4%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>335,722,900</td> <td>331,808,500</td> <td>98.8%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">令和元年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>法人均等割</td> <td>122,785,000</td> <td>122,280,000</td> <td>99.6%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>法人税割</td> <td>275,141,600</td> <td>275,124,700</td> <td>100.0%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>397,926,600</td> <td>397,404,700</td> <td>99.9%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>・対前年度16.5%の減、税額にして65,596,200円の減。</p> <p>【新型コロナウイルス感染症の影響による徴収猶予】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>件数</th> <th>猶予税額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>12件</td> <td>5,326,100</td> </tr> </tbody> </table>	令和2年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	法人均等割	116,550,300	113,865,300	97.7%	—	—	法人税割	219,172,600	217,943,200	99.4%	—	—	合 計	335,722,900	331,808,500	98.8%	—	—	令和元年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	法人均等割	122,785,000	122,280,000	99.6%	—	—	法人税割	275,141,600	275,124,700	100.0%	—	—	合 計	397,926,600	397,404,700	99.9%	—	—	年度	件数	猶予税額	令和2年度	12件	5,326,100
	令和2年度			調定額					収入済額	収納率	不納欠損																																																			
額		件数																																																												
法人均等割	116,550,300	113,865,300	97.7%	—	—																																																									
法人税割	219,172,600	217,943,200	99.4%	—	—																																																									
合 計	335,722,900	331,808,500	98.8%	—	—																																																									
令和元年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																																										
				額	件数																																																									
法人均等割	122,785,000	122,280,000	99.6%	—	—																																																									
法人税割	275,141,600	275,124,700	100.0%	—	—																																																									
合 計	397,926,600	397,404,700	99.9%	—	—																																																									
年度	件数	猶予税額																																																												
令和2年度	12件	5,326,100																																																												
	収納対策課	400,000	1,236,573	◎法人市民税 滞納繰越分 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>2,199,303</td> <td>1,236,573</td> <td>56.2%</td> <td>104,100</td> <td>3件</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>2,706,560</td> <td>850,200</td> <td>31.4%</td> <td>178,957</td> <td>2件</td> </tr> </tbody> </table> <p>・対前年度45.4%の増、税額にして386,373円の増。</p>	年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	令和2年度	2,199,303	1,236,573	56.2%	104,100	3件	令和元年度	2,706,560	850,200	31.4%	178,957	2件																																						
年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																																										
				額	件数																																																									
令和2年度	2,199,303	1,236,573	56.2%	104,100	3件																																																									
令和元年度	2,706,560	850,200	31.4%	178,957	2件																																																									
1-2-1 固定資産税	税務課	2,870,000,000	2,873,821,337	◎固定資産税 現年課税分 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">令和2年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>固定（土地）</td> <td>777,752,698</td> <td>767,629,137</td> <td>98.7%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>固定（家屋）</td> <td>1,380,644,576</td> <td>1,364,525,114</td> <td>98.8%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>固定（償却）</td> <td>748,314,021</td> <td>741,667,086</td> <td>99.1%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>2,906,711,295</td> <td>2,873,821,337</td> <td>98.9%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	令和2年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	固定（土地）	777,752,698	767,629,137	98.7%	—	—	固定（家屋）	1,380,644,576	1,364,525,114	98.8%	—	—	固定（償却）	748,314,021	741,667,086	99.1%	—	—	合 計	2,906,711,295	2,873,821,337	98.9%	—	—																										
令和2年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																																										
				額	件数																																																									
固定（土地）	777,752,698	767,629,137	98.7%	—	—																																																									
固定（家屋）	1,380,644,576	1,364,525,114	98.8%	—	—																																																									
固定（償却）	748,314,021	741,667,086	99.1%	—	—																																																									
合 計	2,906,711,295	2,873,821,337	98.9%	—	—																																																									

款 項 目	担当課	予 算 現 額	収 入 済 額	事 業 等 実 施 内 容																																					
				<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">令和元年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>固定（土地）</td> <td>783,420,861</td> <td>773,243,117</td> <td>98.7%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>固定（家屋）</td> <td>1,341,651,633</td> <td>1,322,438,755</td> <td>98.6%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>固定（償却）</td> <td>708,620,812</td> <td>708,476,613</td> <td>100.0%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>2,833,693,306</td> <td>2,804,158,485</td> <td>99.0%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>						令和元年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	固定（土地）	783,420,861	773,243,117	98.7%	—	—	固定（家屋）	1,341,651,633	1,322,438,755	98.6%	—	—	固定（償却）	708,620,812	708,476,613	100.0%	—	—	合 計	2,833,693,306	2,804,158,485	99.0%	—	—
				令和元年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																	
								額	件数																																
固定（土地）	783,420,861	773,243,117	98.7%	—	—																																				
固定（家屋）	1,341,651,633	1,322,438,755	98.6%	—	—																																				
固定（償却）	708,620,812	708,476,613	100.0%	—	—																																				
合 計	2,833,693,306	2,804,158,485	99.0%	—	—																																				
<p>・対前年度2.5%の増、税額にして69,662,852円の増。</p> <p>【新型コロナウイルス感染症の影響による徴収猶予】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>件数</th> <th>猶予税額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>19件</td> <td>13,806,753</td> </tr> </tbody> </table>						年度	件数	猶予税額	令和2年度	19件	13,806,753																														
年度	件数	猶予税額																																							
令和2年度	19件	13,806,753																																							
<p>◎固定資産税 滞納繰越分</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>118,243,622</td> <td>30,154,168</td> <td>25.5%</td> <td>7,576,336</td> <td>680件</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>153,799,995</td> <td>55,373,818</td> <td>36.0%</td> <td>9,687,920</td> <td>837件</td> </tr> </tbody> </table> <p>・対前年度45.5%の減、税額にして25,219,650円の減。</p>						年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	令和2年度	118,243,622	30,154,168	25.5%	7,576,336	680件	令和元年度	153,799,995	55,373,818	36.0%	9,687,920	837件																
年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																					
				額	件数																																				
令和2年度	118,243,622	30,154,168	25.5%	7,576,336	680件																																				
令和元年度	153,799,995	55,373,818	36.0%	9,687,920	837件																																				
1-2-2 国有資産等所在市町村交付金	税務課	6,105,000	6,105,700	<p>◎国有資産等所在市町村交付金</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>調定額</th> <th>収入済額</th> <th>収納率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>6,105,700</td> <td>6,105,700</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>6,208,700</td> <td>6,208,700</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>						年度	調定額	収入済額	収納率	令和2年度	6,105,700	6,105,700	100%	令和元年度	6,208,700	6,208,700	100%																				
年度	調定額	収入済額	収納率																																						
令和2年度	6,105,700	6,105,700	100%																																						
令和元年度	6,208,700	6,208,700	100%																																						
1-3-1 軽自動車税 環境性能割	税務課	14,000,000	11,704,900	<p>◎環境性能割</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>調定額</th> <th>収入済額</th> <th>収納率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>11,704,900</td> <td>11,704,900</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>2,995,700</td> <td>2,995,700</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・対前年度290.7%の増、税額にして8,709,200円の増。</p>						年度	調定額	収入済額	収納率	令和2年度	11,704,900	11,704,900	100%	令和元年度	2,995,700	2,995,700	100%																				
年度	調定額	収入済額	収納率																																						
令和2年度	11,704,900	11,704,900	100%																																						
令和元年度	2,995,700	2,995,700	100%																																						
1-3-2 軽自動車税 種別割	税務課	243,000,000	257,486,520	<p>◎種別割 現年課税分</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>260,858,700</td> <td>257,486,520</td> <td>98.7%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>256,424,600</td> <td>251,612,890</td> <td>98.1%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>・対前年度2.3%の増、税額にして5,873,630円の増。</p>						年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	令和2年度	260,858,700	257,486,520	98.7%	—	—	令和元年度	256,424,600	251,612,890	98.1%	—	—												
年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																					
				額	件数																																				
令和2年度	260,858,700	257,486,520	98.7%	—	—																																				
令和元年度	256,424,600	251,612,890	98.1%	—	—																																				
	取納対策課	4,500,000	4,340,182	<p>◎種別割 滞納繰越分</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>15,563,350</td> <td>4,340,182</td> <td>27.9%</td> <td>733,648</td> <td>207件</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>16,407,912</td> <td>4,557,232</td> <td>27.8%</td> <td>891,440</td> <td>233件</td> </tr> </tbody> </table> <p>・対前年度4.8%の減、税額にして217,050円の減。</p> <p>【新型コロナウイルス感染症の影響による徴収猶予】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>件数</th> <th>猶予税額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>1件</td> <td>12,900</td> </tr> </tbody> </table>						年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	令和2年度	15,563,350	4,340,182	27.9%	733,648	207件	令和元年度	16,407,912	4,557,232	27.8%	891,440	233件	年度	件数	猶予税額	令和2年度	1件	12,900						
				年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																	
								額	件数																																
令和2年度	15,563,350	4,340,182	27.9%	733,648	207件																																				
令和元年度	16,407,912	4,557,232	27.8%	891,440	233件																																				
年度	件数	猶予税額																																							
令和2年度	1件	12,900																																							
<p>◎たばこ税 現年課税分</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>種 別</th> <th>本数（本）</th> <th>収入済額</th> <th>収納率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">令和2年度</td> <td>製造たばこ・旧3級品紙巻たばこ</td> <td>56,425,468</td> <td>330,020,731</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>手持品課税分</td> <td>2,985,753</td> <td>1,283,856</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>59,411,221</td> <td>331,304,587</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※令和2年度よりたばこ税申告書の書式が変更され、旧3級品紙巻きたばこ欄が削除され、旧3級品紙巻きたばこを除く紙巻きたばこと合算されました。</p>						年度	種 別	本数（本）	収入済額	収納率	令和2年度	製造たばこ・旧3級品紙巻たばこ	56,425,468	330,020,731	100%	手持品課税分	2,985,753	1,283,856	100%	合 計	59,411,221	331,304,587	100%																		
年度	種 別	本数（本）	収入済額	収納率																																					
令和2年度	製造たばこ・旧3級品紙巻たばこ	56,425,468	330,020,731	100%																																					
	手持品課税分	2,985,753	1,283,856	100%																																					
	合 計	59,411,221	331,304,587	100%																																					
1-4-1 たばこ税	税務課	320,040,000	331,304,587																																						

款 項 目	担当課	予 算 現 額	収 入 済 額	事 業 等 実 施 内 容																																																																				
1-5-1 都市計画税	税務課	329,000,000	333,680,553	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>種 別</th> <th>本数(本)</th> <th>収入済額</th> <th>収納率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">令和元年度</td> <td>旧3級品紙巻たばこ除く製造たばこ</td> <td>58,980,536</td> <td>335,717,202</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>旧3級品紙巻たばこ</td> <td>1,172,320</td> <td>4,689,044</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>手持品課税分</td> <td>9,660</td> <td>16,337</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td colspan="2">合 計</td> <td>60,162,516</td> <td>340,422,583</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・対前年度2.7%の減、税額にして9,117,996円の減。</p> <p>◎都市計画税 現年課税分</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">令和2年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>都計(土地)</td> <td>136,682,691</td> <td>134,951,078</td> <td>98.7%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>都計(家屋)</td> <td>200,973,214</td> <td>198,729,475</td> <td>98.9%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>337,655,905</td> <td>333,680,553</td> <td>98.8%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	年度	種 別	本数(本)	収入済額	収納率	令和元年度	旧3級品紙巻たばこ除く製造たばこ	58,980,536	335,717,202	100%	旧3級品紙巻たばこ	1,172,320	4,689,044	100%	手持品課税分	9,660	16,337	100%	合 計		60,162,516	340,422,583	100%	令和2年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	都計(土地)	136,682,691	134,951,078	98.7%	—	—	都計(家屋)	200,973,214	198,729,475	98.9%	—	—	合 計	337,655,905	333,680,553	98.8%	—	—																			
				年度	種 別	本数(本)	収入済額	収納率																																																																
令和元年度	旧3級品紙巻たばこ除く製造たばこ	58,980,536	335,717,202	100%																																																																				
	旧3級品紙巻たばこ	1,172,320	4,689,044	100%																																																																				
	手持品課税分	9,660	16,337	100%																																																																				
合 計		60,162,516	340,422,583	100%																																																																				
令和2年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																																																				
				額	件数																																																																			
都計(土地)	136,682,691	134,951,078	98.7%	—	—																																																																			
都計(家屋)	200,973,214	198,729,475	98.9%	—	—																																																																			
合 計	337,655,905	333,680,553	98.8%	—	—																																																																			
2-3-1 森林環境譲与税	取納対策課	4,400,000	4,546,676	<table border="1"> <thead> <tr> <th>令和元年度</th> <th>調定額</th> <th>収入済額</th> <th>収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th colspan="4"></th> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>都計(土地)</td> <td>138,099,894</td> <td>136,284,329</td> <td>98.7%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>都計(家屋)</td> <td>195,535,800</td> <td>192,892,941</td> <td>98.6%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>333,635,694</td> <td>329,177,270</td> <td>98.7%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>・対前年度1.4%の増、税額にして4,503,283円の増。</p> <p>【新型コロナウイルス感染症の影響による徴収猶予】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>件数</th> <th>猶予税額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>19件</td> <td>606,247</td> </tr> </tbody> </table> <p>◎都市計画税 滞納繰越分</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>16,765,743</td> <td>4,546,676</td> <td>27.1%</td> <td>922,183</td> <td>680件</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>22,369,265</td> <td>8,902,146</td> <td>39.8%</td> <td>1,161,156</td> <td>837件</td> </tr> </tbody> </table> <p>・対前年度48.9%の減、税額にして4,355,470円の減。</p> <p>※都市計画税は、都市計画事業等に要する経費に充てるために課される目的税です。</p> <p>【都市計画税の充当事業】 (単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>充当事業</th> <th>充当額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>街路費</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>公園費(運動公園管理運営事業など)</td> <td>41,655</td> </tr> <tr> <td>下水道費(公共下水道事業など)</td> <td>202,725</td> </tr> <tr> <td>区画整理費等(都市計画推進事業など)</td> <td>12,816</td> </tr> <tr> <td>公債費</td> <td>81,031</td> </tr> </tbody> </table>	令和元年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損						額	件数	都計(土地)	138,099,894	136,284,329	98.7%	—	—	都計(家屋)	195,535,800	192,892,941	98.6%	—	—	合 計	333,635,694	329,177,270	98.7%	—	—	年度	件数	猶予税額	令和2年度	19件	606,247	年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	令和2年度	16,765,743	4,546,676	27.1%	922,183	680件	令和元年度	22,369,265	8,902,146	39.8%	1,161,156	837件	充当事業	充当額	街路費	0	公園費(運動公園管理運営事業など)	41,655	下水道費(公共下水道事業など)	202,725	区画整理費等(都市計画推進事業など)	12,816	公債費	81,031
				令和元年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																																																
				額	件数																																																																			
都計(土地)	138,099,894	136,284,329	98.7%	—	—																																																																			
都計(家屋)	195,535,800	192,892,941	98.6%	—	—																																																																			
合 計	333,635,694	329,177,270	98.7%	—	—																																																																			
年度	件数	猶予税額																																																																						
令和2年度	19件	606,247																																																																						
年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																																																				
				額	件数																																																																			
令和2年度	16,765,743	4,546,676	27.1%	922,183	680件																																																																			
令和元年度	22,369,265	8,902,146	39.8%	1,161,156	837件																																																																			
充当事業	充当額																																																																							
街路費	0																																																																							
公園費(運動公園管理運営事業など)	41,655																																																																							
下水道費(公共下水道事業など)	202,725																																																																							
区画整理費等(都市計画推進事業など)	12,816																																																																							
公債費	81,031																																																																							
7-1-1 地方消費税交付金	財務課	16,578,000	16,578,000	<p>◎森林環境譲与税</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>調定額</th> <th>収入済額</th> <th>収納率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>16,578,000</td> <td>16,578,000</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>7,800,000</td> <td>7,800,000</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※森林環境譲与税は、森林整備及びその促進に要する経費に充てています。</p> <p>【森林環境譲与税の充当事業】 (単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>充当事業</th> <th>充当額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>森林経営管理事業など</td> <td>990</td> </tr> <tr> <td>基金積立事業</td> <td>15,588</td> </tr> </tbody> </table>	年度	調定額	収入済額	収納率	令和2年度	16,578,000	16,578,000	100%	令和元年度	7,800,000	7,800,000	100%	充当事業	充当額	森林経営管理事業など	990	基金積立事業	15,588																																																		
				年度	調定額	収入済額	収納率																																																																	
令和2年度	16,578,000	16,578,000	100%																																																																					
令和元年度	7,800,000	7,800,000	100%																																																																					
充当事業	充当額																																																																							
森林経営管理事業など	990																																																																							
基金積立事業	15,588																																																																							
7-1-1 地方消費税交付金	税務課	1,244,982,000	1,244,982,000	<p>◎地方消費税交付金</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>調定額</th> <th>収入済額</th> <th>収納率</th> <th>収入済額のうち 社会保障財源化分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>1,244,982,000</td> <td>1,244,982,000</td> <td>100%</td> <td>690,638,000</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>1,007,667,000</td> <td>1,007,667,000</td> <td>100%</td> <td>445,482,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>・対前年度23.6%の増、税額にして237,315,000円の増。</p>	年度	調定額	収入済額	収納率	収入済額のうち 社会保障財源化分	令和2年度	1,244,982,000	1,244,982,000	100%	690,638,000	令和元年度	1,007,667,000	1,007,667,000	100%	445,482,000																																																					
				年度	調定額	収入済額	収納率	収入済額のうち 社会保障財源化分																																																																
令和2年度	1,244,982,000	1,244,982,000	100%	690,638,000																																																																				
令和元年度	1,007,667,000	1,007,667,000	100%	445,482,000																																																																				

款 項 目	担当課	予 算 現 額	収 入 済 額	事 業 等 実 施 内 容																																												
11-1-1 地方交付税	財務課	普通交付税 9,491,006,000	9,491,006,000	<p>※地方消費税交付金のうち、社会保障財源化分は、社会保障施策に要する経費に充てています。</p> <p>【地方消費税交付金（社会保障財源化分）の充当事業】（単位：千円）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>充当事業</th> <th>充当額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>社会福祉（生活保護、児童福祉、障害者福祉事業など）</td> <td>256,114</td> </tr> <tr> <td>社会保険（国民健康保険、介護保険事業など）</td> <td>283,221</td> </tr> <tr> <td>保健衛生（疾病予防対策、健康増進対策事業など）</td> <td>151,302</td> </tr> </tbody> </table> <p>◎普通交付税</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>調定額</th> <th>収入済額</th> <th>収納率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>9,491,006,000</td> <td>9,491,006,000</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>9,902,349,000</td> <td>9,902,349,000</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・対前年度4.2%の減、金額にして411,343,000円の減。</p> <p>【普通交付税の算定】（単位：千円）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和2年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基準財政需要額 ①</td> <td>15,990,786</td> <td>16,070,248</td> </tr> <tr> <td>基準財政収入額 ②</td> <td>6,491,609</td> <td>6,153,746</td> </tr> <tr> <td>交付基準額 ③（①-②）</td> <td>9,499,177</td> <td>9,916,502</td> </tr> <tr> <td>調整額 ④</td> <td>8,171</td> <td>14,153</td> </tr> <tr> <td>普通交付決定額 ⑤（③-④）</td> <td>9,491,006</td> <td>9,902,349</td> </tr> <tr> <td>臨時財政対策債発行可能額 ⑥</td> <td>618,263</td> <td>683,252</td> </tr> <tr> <td>実質交付税額 ⑤+⑥</td> <td>10,109,269</td> <td>10,585,601</td> </tr> </tbody> </table>	充当事業	充当額	社会福祉（生活保護、児童福祉、障害者福祉事業など）	256,114	社会保険（国民健康保険、介護保険事業など）	283,221	保健衛生（疾病予防対策、健康増進対策事業など）	151,302	年度	調定額	収入済額	収納率	令和2年度	9,491,006,000	9,491,006,000	100%	令和元年度	9,902,349,000	9,902,349,000	100%	区分	令和2年度	令和元年度	基準財政需要額 ①	15,990,786	16,070,248	基準財政収入額 ②	6,491,609	6,153,746	交付基準額 ③（①-②）	9,499,177	9,916,502	調整額 ④	8,171	14,153	普通交付決定額 ⑤（③-④）	9,491,006	9,902,349	臨時財政対策債発行可能額 ⑥	618,263	683,252	実質交付税額 ⑤+⑥	10,109,269	10,585,601
充当事業	充当額																																															
社会福祉（生活保護、児童福祉、障害者福祉事業など）	256,114																																															
社会保険（国民健康保険、介護保険事業など）	283,221																																															
保健衛生（疾病予防対策、健康増進対策事業など）	151,302																																															
年度	調定額	収入済額	収納率																																													
令和2年度	9,491,006,000	9,491,006,000	100%																																													
令和元年度	9,902,349,000	9,902,349,000	100%																																													
区分	令和2年度	令和元年度																																														
基準財政需要額 ①	15,990,786	16,070,248																																														
基準財政収入額 ②	6,491,609	6,153,746																																														
交付基準額 ③（①-②）	9,499,177	9,916,502																																														
調整額 ④	8,171	14,153																																														
普通交付決定額 ⑤（③-④）	9,491,006	9,902,349																																														
臨時財政対策債発行可能額 ⑥	618,263	683,252																																														
実質交付税額 ⑤+⑥	10,109,269	10,585,601																																														
13-2-1 民生費負担金	こども課	放課後児童クラブ負担金（現年分） 44,405,000	33,781,500	<p>◎放課後児童クラブ負担金 現年度分</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>34,024,500</td> <td>33,781,500</td> <td>99.3%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>40,754,500</td> <td>40,365,250</td> <td>99.0%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>◎放課後児童クラブ負担金 滞納繰越分</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>1,544,950</td> <td>658,950</td> <td>42.7%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>1,707,500</td> <td>559,800</td> <td>32.8%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	令和2年度	34,024,500	33,781,500	99.3%	—	—	令和元年度	40,754,500	40,365,250	99.0%	—	—	年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	令和2年度	1,544,950	658,950	42.7%	—	—	令和元年度	1,707,500	559,800	32.8%	—	—				
年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																												
				額	件数																																											
令和2年度	34,024,500	33,781,500	99.3%	—	—																																											
令和元年度	40,754,500	40,365,250	99.0%	—	—																																											
年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																												
				額	件数																																											
令和2年度	1,544,950	658,950	42.7%	—	—																																											
令和元年度	1,707,500	559,800	32.8%	—	—																																											
		放課後児童クラブ負担金（過年分） 350,000	658,950	◎放課後児童クラブ負担金 滞納繰越分																																												
		保育所保育料（現年分） 67,064,000	67,624,570	◎保育料 現年度分																																												
		保育所保育料（過年分） 5,000,000	2,560,396	◎保育料 滞納繰越分																																												
		延長保育料（現年分） 665,000	590,700	◎延長保育料 現年度分																																												
		延長保育料（過年分） 160,000	205,800	◎延長保育料 滞納繰越分																																												

款 項 目	担当課	予算現額	収入済額	事業等実施内容					
14-1-6 土木使用料	都市計画課	34,448,000	34,266,620	◎住宅使用料 現年度分					
				令和2年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損	
								額	件数
				駐車場使用料	1,970,000	1,942,000	98.6%	—	—
市営住宅使用料	4,945,700	4,432,500	89.6%	—	—				
改良住宅使用料	27,350,500	25,733,000	94.1%	—	—				
合 計	34,266,200	32,107,500	93.7%	—	—				
令和元年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損					
				額	件数				
駐車場使用料	2,008,000	1,980,000	98.6%	—	—				
市営住宅使用料	6,094,700	5,268,300	86.4%	—	—				
改良住宅使用料	28,066,600	26,235,500	93.5%	—	—				
合 計	36,169,300	33,483,800	92.6%	—	—				
◎住宅使用料 滞納繰越分									
令和2年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損					
				額	件数				
駐車場使用料	451,060	48,060	10.7%	—	—				
市営住宅使用料	9,620,364	182,960	1.9%	—	—				
改良住宅使用料	24,104,777	1,928,100	8.0%	—	—				
合 計	34,176,201	2,159,120	6.3%	—	—				
令和元年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損					
				額	件数				
駐車場使用料	541,060	118,000	21.8%	—	—				
市営住宅使用料	9,086,964	293,000	3.2%	—	—				
改良住宅使用料	23,175,977	902,300	3.9%	—	—				
合 計	32,804,001	1,313,300	4.0%	—	—				
15-2-1 総務費国庫補助金	企画経営課	新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金		◎新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金					
		1,415,009,000	1,202,009,000	年度	調定額	収入済額	収納率		
				令和2年度	1,202,009,000	1,202,009,000	100%		
				【充当事業】	(単位：千円)				
				歳出款項目	充当事業	充当額			
				2-1-13	行政情報化推進事業（オンライン会議等の環境整備）	2,000			
				2-1-17	紀の川市特別定額給付金給付事業（国の特別定額給付金に1万円を上乗せ）	610,000			
				3-2-1	育児臨時特別支援給付金給付事業（国の特別定額給付金の基準日以降に生まれた子どもを対象として11万円を給付）	24,000			
				4-1-3	感染症対策事業（マスクの配布）	76,000			
				4-1-3	感染症対策事業（インフルエンザ予防接種の助成）	30,000			
				4-1-7	水道事業繰出金（水道基本料金の免除）	182,000			
				7-1-2	商工振興事業（経営安定化給付金）	116,280			
				7-1-2	商工振興事業（プレミアム商品券）	40,000			
				10-1-3	学校教育推進事業（図書カードの配布）	22,000			
				10-2-1	小学校運営事業（サーマルカメラ等設置）	7,143			
				10-2-1	小学校教育情報化事業（ICT環境整備）	47,000			
				10-3-1	中学校運営事業（サーマルカメラ等設置）	2,857			
				10-3-1	中学校教育情報化事業（ICT環境整備）	23,000			
				その他	各種新型コロナウイルス感染症対応の国庫補助事業による地方負担額分	19,729			
17-2-1 不動産売払収入	公共施設マネジメント課	土地建物売払収入		◎土地建物売払収入					
		3,000,000	7,716,497	年度	調定額	収入済額	収納率		
				令和2年度	7,716,497	7,716,497	100%		
				令和元年度	58,301,253	58,301,253	100%		

款 項 目	担当課	予 算 現 額	収 入 済 額	事 業 等 実 施 内 容																																																																								
17-2-2 物品売払収入	公共施設マネジメント課 那賀支所 危機管理消防課 生活環境課	4,000	3,526,740	<p>【土地建物売払の内訳】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>所在地番（施設名称等）</th> <th>面積(㎡)</th> <th>収入済額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>土地</td> <td rowspan="2">紀の川市桃山町市場635番4 (旧北島地区農林業共同利用施設)</td> <td>250.54</td> <td rowspan="2">3,760,000</td> </tr> <tr> <td>建物</td> <td>266.84</td> </tr> <tr> <td>土地</td> <td>紀の川市貴志川町岸小野207番ほか（あおば幼稚園用地、分割納付49回中25回目）</td> <td>3,310.98</td> <td>3,000,000</td> </tr> <tr> <td>土地</td> <td>紀の川市桃山町元23番地先 (法定外公共物（里道）)</td> <td>36.21</td> <td>15,208</td> </tr> <tr> <td>土地</td> <td>紀の川市重行22番11ほか地先 (法定外公共物（水路）)</td> <td>168.63</td> <td>141,895</td> </tr> <tr> <td>土地</td> <td>紀の川市打田1391番2地先 (法定外公共物（水路）)</td> <td>71.87</td> <td>177,558</td> </tr> <tr> <td>土地</td> <td>紀の川市上田井365番1地先 (法定外公共物（里道）)</td> <td>113.71</td> <td>22,876</td> </tr> <tr> <td>土地</td> <td>紀の川市桃山町最上977番11ほか (法定外公共物（公衆用道路）)</td> <td>429.00</td> <td>300,883</td> </tr> <tr> <td>土地</td> <td>紀の川市粉河369番2 (法定外公共物（公衆用道路）)</td> <td>39.00</td> <td>298,077</td> </tr> </tbody> </table> <p>面積(㎡)は、土地の地積、建物の総面積です。</p>	区分	所在地番（施設名称等）	面積(㎡)	収入済額	土地	紀の川市桃山町市場635番4 (旧北島地区農林業共同利用施設)	250.54	3,760,000	建物	266.84	土地	紀の川市貴志川町岸小野207番ほか（あおば幼稚園用地、分割納付49回中25回目）	3,310.98	3,000,000	土地	紀の川市桃山町元23番地先 (法定外公共物（里道）)	36.21	15,208	土地	紀の川市重行22番11ほか地先 (法定外公共物（水路）)	168.63	141,895	土地	紀の川市打田1391番2地先 (法定外公共物（水路）)	71.87	177,558	土地	紀の川市上田井365番1地先 (法定外公共物（里道）)	113.71	22,876	土地	紀の川市桃山町最上977番11ほか (法定外公共物（公衆用道路）)	429.00	300,883	土地	紀の川市粉河369番2 (法定外公共物（公衆用道路）)	39.00	298,077																																		
				区分	所在地番（施設名称等）	面積(㎡)	収入済額																																																																					
土地	紀の川市桃山町市場635番4 (旧北島地区農林業共同利用施設)	250.54	3,760,000																																																																									
建物		266.84																																																																										
土地	紀の川市貴志川町岸小野207番ほか（あおば幼稚園用地、分割納付49回中25回目）	3,310.98	3,000,000																																																																									
土地	紀の川市桃山町元23番地先 (法定外公共物（里道）)	36.21	15,208																																																																									
土地	紀の川市重行22番11ほか地先 (法定外公共物（水路）)	168.63	141,895																																																																									
土地	紀の川市打田1391番2地先 (法定外公共物（水路）)	71.87	177,558																																																																									
土地	紀の川市上田井365番1地先 (法定外公共物（里道）)	113.71	22,876																																																																									
土地	紀の川市桃山町最上977番11ほか (法定外公共物（公衆用道路）)	429.00	300,883																																																																									
土地	紀の川市粉河369番2 (法定外公共物（公衆用道路）)	39.00	298,077																																																																									
18-1-1 一般寄附金	地域創生課	ふるさとまちづくり寄附金 540,000,000	545,924,000	<p>◎物品売払収入</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>調定額</th> <th>収入済額</th> <th>収納率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>3,526,740</td> <td>3,526,740</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>1,977,800</td> <td>1,977,800</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【物品売払の内訳】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>数量</th> <th>収入済額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>乗用車</td> <td>3台</td> <td>28,000</td> </tr> <tr> <td>貨物自動車</td> <td>4台</td> <td>389,000</td> </tr> <tr> <td>マイクロバス</td> <td>1台</td> <td>385,000</td> </tr> <tr> <td>し尿運搬車</td> <td>1台</td> <td>888,740</td> </tr> <tr> <td>消防自動車</td> <td>5台</td> <td>335,000</td> </tr> <tr> <td>清掃運搬車</td> <td>4台</td> <td>1,501,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>◎ふるさとまちづくり寄附金</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>調定額</th> <th>収入済額</th> <th>収納率</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>545,924,000</td> <td>545,924,000</td> <td>100%</td> <td>41,008件</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>353,376,500</td> <td>353,376,500</td> <td>100%</td> <td>25,362件</td> </tr> </tbody> </table> <p>・対前年度54.5%の増、金額にして192,547,500円の増。</p> <p>【ふるさとまちづくり寄附の地域別件数】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>地域</th> <th>令和2年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>北海道</td> <td>581件</td> <td>250件</td> </tr> <tr> <td>東北</td> <td>661件</td> <td>394件</td> </tr> <tr> <td>関東</td> <td>18,245件</td> <td>11,946件</td> </tr> <tr> <td>中部</td> <td>5,469件</td> <td>3,354件</td> </tr> <tr> <td>近畿</td> <td>11,735件</td> <td>6,895件</td> </tr> <tr> <td>中国・四国</td> <td>1,682件</td> <td>956件</td> </tr> <tr> <td>九州・沖縄</td> <td>2,635件</td> <td>1,567件</td> </tr> </tbody> </table>	年度	調定額	収入済額	収納率	令和2年度	3,526,740	3,526,740	100%	令和元年度	1,977,800	1,977,800	100%	区分	数量	収入済額	乗用車	3台	28,000	貨物自動車	4台	389,000	マイクロバス	1台	385,000	し尿運搬車	1台	888,740	消防自動車	5台	335,000	清掃運搬車	4台	1,501,000	年度	調定額	収入済額	収納率	件数	令和2年度	545,924,000	545,924,000	100%	41,008件	令和元年度	353,376,500	353,376,500	100%	25,362件	地域	令和2年度	令和元年度	北海道	581件	250件	東北	661件	394件	関東	18,245件	11,946件	中部	5,469件	3,354件	近畿	11,735件	6,895件	中国・四国	1,682件	956件	九州・沖縄	2,635件	1,567件
年度	調定額	収入済額	収納率																																																																									
令和2年度	3,526,740	3,526,740	100%																																																																									
令和元年度	1,977,800	1,977,800	100%																																																																									
区分	数量	収入済額																																																																										
乗用車	3台	28,000																																																																										
貨物自動車	4台	389,000																																																																										
マイクロバス	1台	385,000																																																																										
し尿運搬車	1台	888,740																																																																										
消防自動車	5台	335,000																																																																										
清掃運搬車	4台	1,501,000																																																																										
年度	調定額	収入済額	収納率	件数																																																																								
令和2年度	545,924,000	545,924,000	100%	41,008件																																																																								
令和元年度	353,376,500	353,376,500	100%	25,362件																																																																								
地域	令和2年度	令和元年度																																																																										
北海道	581件	250件																																																																										
東北	661件	394件																																																																										
関東	18,245件	11,946件																																																																										
中部	5,469件	3,354件																																																																										
近畿	11,735件	6,895件																																																																										
中国・四国	1,682件	956件																																																																										
九州・沖縄	2,635件	1,567件																																																																										

[歳出]

事務事業の概要	事務事業名	議会秘書事業		担当課	議事調査課			事業区分	内部管理事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	433	
	予算科目	款	1	議会費	長期総合計画体系	政策目標	99	*****			
		項	1	議会費		施策目標	99	*****			
		目	1	議会費		基本施策	99	*****			
取組方針	9	その他									
事業概要	議員が円滑に議会活動が行えるように、日程の調整や随行、関連団体へ参画する事業										
事務事業を構成する細事業	①	秘書業務			⑤	全国広域連携市議会協議会負担金			⑨		
	②	全国市議会議長会負担金			⑥	全国高速自動車道市議会協議会負担金			⑩		
	③	近畿市議会議長会負担金			⑦				⑪		
	④	県市議会議長会負担金			⑧				⑫		

指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析	
	活動指標	議会交際費支出件数	件	目標					目標値の設定になじまないが、議会交際費の支出件数を実績値とする。新型コロナウイルス感染症拡大防止対応により、式典等が中止等となったため、支出件数が減少した。	
			実績	29	21	3				
	<指標の計算方法>		交際費の支出件数							
	成果指標	議会公務等件数	件	目標						目標値の設定になじまないが、議長等が公務等に出席した件数を実績値とする。新型コロナウイルス感染症拡大防止対応により、会議等が書面会議等となったため、出席件数が減少した。
実績			187	193	90					
<指標の計算方法>		議長等が公務等に出席した件数								
			目標							
			実績							
<指標の計算方法>										
			目標							
			実績							
<指標の計算方法>										

コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)	財源内訳					
		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	1,929						1,929

事業の実績	①秘書業務	0件	・ 議会1回 (書面)
	・ 慶弔	0件	・ 理事会2回 (書面)
	・ 賛助、協賛	1件	
	・ 会費	0件	⑥全国高速自動車道市議会協議会負担金
	・ 接遇、土産	0件	・ 定期総会1回 (書面)
・ その他	2件		
②全国市議会議長会負担金			
・ 定期総会1回 (書面)			
・ 評議員会2回 (内1回 書面)			
③近畿市議会議長会負担金			
・ 定期総会1回 (書面)			
・ 理事会3回 (書面)			
・ 研修会1回 (WEB)			
④県市議会議長会負担金			
・ 総会2回 (書面、WEB)			
⑤全国広域連携市議会協議会負担金			

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない	・ 正副議長及び議員が議会を代表して出席する会議等の日程調整や随行による支援をすることで、議員が円滑に議会活動を行えるため、事務局によるサポートが必要不可欠であり妥当である。 ・ 議会交際費について、社会通念上妥当と認められる範囲内で、必要最小限の支出としているため妥当である。
	有効性	評価結果	改善の余地がない	・ 議会秘書事業は、経常的業務で成果等について、目標値を設定することに適さないが、必要不可欠な業務である。 ・ 議員が円滑に議会活動を行っていくために適切なサポートができています。
	効率性	評価結果	改善の余地がない	・ 議会秘書業務に要する費用で、経常的経費以外計上しておらず、必要最小限の経費で行っていることから、現状以上にコスト削減は難しい。

事務事業の概要	事務事業名	議会運営事業			担当課	議事調査課		事業区分	内部管理事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	437
	予算科目	款	1	議会費	長期総合計画体系	政策目標	99	*****			
		項	1	議会費		施策目標	99	*****			
		目	1	議会費		基本施策	99	*****			
事業概要	市議会を適正な運営と市民に開かれた議会にするために、定例会、委員会の開催や議会広報の発行を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	議員報酬・共済			⑤	議事調査業務		⑨			
	②	本会議運営			⑥			⑩			
	③	委員会等運営			⑦			⑪			
	④	議会広報・HP編集業務			⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	本会議・委員会等開催回数	目標	100	120	60	120	120	本会議・委員会等の開催回数は、議会の活性化により増加傾向にある。		
			実績	126	163	154					
	<指標の計算方法>		定例会、臨時会、議会運営委員会、常任委員会、特別委員会、研修会、その他会議								
	成果指標	委員会・議員提出議案件数	目標	3	3	3	3	3	主体はあくまで議員であるが、必要とされる後方支援業務は遂行できている。		
			実績	2	4	6					
	<指標の計算方法>		委員会提出議案、議員提出議案								
	活動指標	議会広報紙配布部数	目標	104,000	104,000	104,000	104,000	104,000	議会広報紙配布数は、目標どおり配布している。		
			実績	104,000	104,000	104,000					
	<指標の計算方法>		年4回発行、1回につき26,000部印刷								
成果指標	傍聴者数	目標	200	100	0	50	50	新型コロナウイルス感染症拡大防止対応により、傍聴自粛の願いをしたため、傍聴者数が減少した。			
		実績	133	132	41						
<指標の計算方法>		定例会、各種委員会傍聴者数（議員の傍聴は除く。）									
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	174,350			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	174,350	
事業の実績	①議員報酬・共済		期末手当	意見書案		2件					
	・毎月の報酬		6月期 2.25月	決議案		0件					
議長 460,000円		12月期 2.2月	③委員会等運営		・令和2年度の総務文教常任委員会、厚生常任委員会、産業建設常任委員会の視察研修については、新型コロナウイルス感染症対応により中止。						
副議長 410,000円		年 4.45月	・議会報告会（意見交換会）		(参加議員：8名)						
議員 370,000円			2月18日：紀の川市役所								
②本会議運営			④議会広報・HP編集業務		・1回につき26,000部印刷						
・議案等処理状況			・年4回発行（5月、8月、11月、2月）								
予算 58件			⑤議事調査業務		・全議員研修会						
条例案（議員提出） 1件			(参加議員：20名)		8月4日：紀の川市役所						
条例案（委員会提出） 1件											
条例案（市長提出） 19件											
議決案 20件											
任命（選任）同意 23件											
認定 22件											
専決の承認（予算） 4件											
専決の承認（条例） 8件											
専決の承認（契約等） 1件											
諮問案 6件											
議会議規則案 1件											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
		・市の最高意思決定機関、また執行機関を監視する機関としての議会活動に対し適切なサポートができています。 ・市民の代表者である議員で構成される議事機関として、市民の意見や要望を行政に反映させるために議会活動を行っている。成果指標については、市民の議会及び市政への関心が大きく左右することから、議会に対する理解を深めていただく重要なツールである議会広報紙は、インターネットを利用する環境にない市民をはじめ、多くの市民に議会に関心を持っていただくきっかけづくりを担うものであり有効である。									
効率性	評価結果	改善の余地がない									
・議会運営に要する費用で事業費の大部分が報酬等の人件費であり、他には経常経費以外計上しておらず、現状以上にコスト削減は難しい。											

事務事業の概要	事務事業名	行政秘書事業		担当課	秘書広報課		事業区分	内部管理事業			
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	445	
	予算科目	款	2	総務費	長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1	総務管理費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	1	一般管理費		基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進			
取組方針	9	その他									
事業概要	市長、副市長が円滑に公務の遂行が行えるように、日程の調整や随行、関連団体へ参画する事業										
事務事業を構成する細事業	①	秘書・渉外業務			⑤	県市長会負担金			⑨		
	②	栄典・表彰業務（地方自治功労）			⑥				⑩		
	③	全国市長会負担金			⑦				⑪		
	④	近畿市長会負担金			⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	市長交際費支出件数	件	目標						市政の円滑な運営と発展のため、式典や大会等への市長交際費の支出件数。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、式典や大会等の中止や出席自粛により、支出件数減となる。	
			実績	96	105	19					
	<指標の計算方法>		交際費の年間支出件数								
	活動指標	地方自治功労等に係る栄典及び表彰等の推薦件数	件	目標						叙勲等の受章条件を満たす者が限られるため、推薦件数は少なくなるが、該当者漏れがないよう、各部署と情報を共有し、細心の注意を払い事務をつかさどる。	
			実績	5	6	2					
<指標の計算方法>		年間の推薦件数									
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	3,413			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	3,413	
事業の実績	①秘書・渉外業務 市長、副市長の円滑な公務遂行を補助。			②栄典・表彰業務（地方自治功労） 地方自治功労等に係る栄典及び表彰等の推薦を行う。			③全国市長会負担金 ④近畿市長会負担金 ⑤県市長会負担金				
	「交際費執行状況」 ・慶弔 慶祝 0件 0円 ・慶弔 弔慰 0件 0円 ・慶弔 見舞い 0件 0円 ・会費 0件 0円 ・激励 2件 34,872円 ・賛助、協賛、協力 1件 5,000円 ・渉外、接遇 16件 767,065円 ・その他 0件 0円 合計 19件 806,937円			・叙勲 1名 ・褒章 0 ・高齢者叙勲 1名 ・死亡叙勲 0 ・叙位 0 ・県知事表彰 0 ・その他 0 推薦件数合計 2件			市政の円滑なる運営と進展に資するため、各市との連携を図り、政府等に対して要望活動を行う。				
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・行政秘書事業は、市長、副市長が公務を円滑に遂行するために必要不可欠な業務である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・市長、副市長の公務管理・執行補助は的確に補助できている。 ・突発的な公務が発生した場合であっても、スケジュールを微調整できる体制が構築されている。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・来訪者や対外公務等により、内部調整等の時間確保が難しい時もある。そのようなことを少なくするためにも、今後も効率的に業務を行えるよう努める。										

事務事業の概要	事務事業名	総務庶務事業		担当課	総務課			事業区分	内部管理事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	448	
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費			施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	1 一般管理費			基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進			
取組方針			9	その他							
事業概要	市が効率的な行政運営をするために、庁内総務業務の処理を行う事業										
事務事業を構成する細事業	① 防火管理協議会負担金		⑤ 自動車臨時運行許可		⑨						
	② 平和首長会議メンバーシップ負担金		⑥ 一般寄附金受入		⑩						
	③ 公印・市章管理		⑦ 北方領土返還要求運動和歌山県民会議負担金		⑪						
	④ 自衛官募集		⑧		⑫						
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	成果指標	自動車臨時運行許可件数	目標						業者による申請数が減ったため許可数は減少傾向にある。		
			実績	732	591	546					
	<指標の計算方法>		許可件数								
			目標								
			実績								
	<指標の計算方法>										
			目標								
			実績								
	<指標の計算方法>										
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	4,586			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
			39				164	4,383			
事業の実績	①防火管理協議会負担金 消防操作操法大会 新型コロナウイルス感染症の影響で中止			⑥一般寄附金受入 (5件、430,000円)							
	②平和首長会議メンバーシップ負担金 核のない世界恒久平和の実現に向けた国際世論を醸成			⑦北方領土返還要求運動和歌山県民会議負担金 ・北方領土返還要求運動和歌山県民会議総会・研修会 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため書面開催 ・北方領土返還要求和歌山県民大会 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止							
③公印・市章管理 市長印の使用確認、市章の使用申請の許可			④自衛官募集 市広報紙へ年3回掲載								
⑤自動車臨時運行許可 未登録自動車・検査証の有効期間満了車を、車検・登録などの目的で運行させる必要があるとき、申請に基づき仮ナンバーを交付											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・市として行わなければならない、又は行った方が望ましい業務である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・市として対外的に必要な業務、内部事務で必要な業務や住民サービス関係の業務等を支障なく運用することができている。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・複数の部署で処理するよりも、総務課が取りまとめて処理することにより、無駄のない運用ができている。										

事務事業の概要	事務事業名	法制事業		担当課	総務課			事業区分	内部管理事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	450	
	予算科目	款	2	総務費	長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1	総務管理費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	1	一般管理費		基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進			
事業概要	市が、法令に基づき適正な事務を執行するために、条例等の制定改廃についての審査、管理等を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	例規制定改廃			⑤				⑨		
	②	例規管理			⑥				⑩		
	③	公示・公告式・官報管理			⑦				⑪		
	④				⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析	
	成果指標	条例等の制定改廃件数	件	目標						多数の規程に影響を及ぼすような制度変更等が少なかったため、昨年度より実績値が減少した。来年度は押印の見直しによる改正の分で増加が見込まれる。	
			実績		385	321	288				
	<指標の計算方法>		条例、規則、訓令、告示等の制定改廃件数								
	成果指標	例規管理システムへの登録件数	件	目標							新規事業が多かったため微増となった。
			実績		997	969	995				
<指標の計算方法>		例規管理システムに登録している例規の件数									
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	3,097			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	3,097	
事業の実績	①例規制定改廃 288件 ②例規管理 システム登録件数995件 ③公示・公告式・官報管理 紀の川市公告式条例に基づき適正に実施										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・市の施策及び事業を規程にする事務は行政運営上必要不可欠であり、民間その他の機関で実施できるものではない。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・予定していた外部研修は、コロナ禍により参加できなかったが、例規システム委託業者への相談や質問等を積極的に行い、法制知識の向上や例規の充実に努めている。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
・平成26年度に構築したシステムの保守費用及び例規データの更新費用のみのため、経費の大幅な削減は困難である。業務委託先を変更した場合、初期データの構築費並びに過去例規データ、原義データ及び改正履歴データの再構築経費が上乗せとなる。											

事務事業の概要	事務事業名	顧問弁護士相談事業			担当課	総務課		事業区分	内部管理事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	449	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	1 一般管理費				基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進			
取組方針				9	その他							
事業概要	市、職員が、問題の適切な対応及び解決を図るために、顧問弁護士に法的問題に関連する相談を行い、助言を受ける事業											
事務事業を構成する細事業	①	法律相談			⑤				⑨			
	②	訴訟対応			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	法律相談件数	件	目標						法的問題に対し、顧問弁護士を有効に活用して適正な行政運営に努めている。		
				実績	22	39	40					
	<指標の計算方法>		法律相談件数									
	成果指標	訴訟等件数	件	目標						訴訟等件数は近年年間1件以内に収まっており、法律相談により解決に至っている案件が多いと思われる。		
				実績	1	1						
	<指標の計算方法>		訴訟、調停、和解等の事件数（提訴事件を除く。）									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	1,320			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	1,320		
事業の実績	①法律相談 19課から事案があり相談時間は延べ1,363分											
	②訴訟対応 顧問弁護士に代理委任											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・業務を行う上で生じる法的問題に適切に対応するため、本事業は不可欠である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・法の専門家である弁護士の助言を受けて問題に対処することで、最善の方法で、説得力のある対応ができる。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・顧問弁護士に相談した上で案件の解決に取り組むことで、悪化を防ぎ、早期解決に役立っている。											

事務事業の概要	事務事業名		行政手続制度整備事業		担当課	総務課			事業区分	ソフト事業		
	会計		一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1045	
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営				
		項	1 総務管理費			施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成				
目		1 一般管理費		基本施策		3	将来を見据えた行政経営の推進					
事業概要		市が適正な基準をもって各手続に対する審理や行政処分が行えるように、市の行政手続制度の整備を行う事業										
事務事業を構成する細事業		①	制度整備		⑤					⑨		
		②			⑥					⑩		
		③			⑦					⑪		
		④			⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	成果指標	法令に基づく申請に対する処分公表件数	件	目標						適正に処理され公表できている。		
				実績	209	209	217					
		<指標の計算方法>	法令に基づく申請に対する処分公表件数									
	成果指標	法令に基づく不利益処分公表件数	件	目標						適正に処理され公表できている。		
				実績	205	206	222					
		<指標の計算方法>	法令に基づく不利益処分公表件数									
	成果指標	例規に基づく申請に対する処分公表件数	件	目標						適正に処理され公表できている。		
				実績	147	151	152					
		<指標の計算方法>	例規に基づく申請に対する処分公表件数									
	成果指標	例規に基づく不利益処分公表件数	件	目標						適正に処理され公表できている。		
				実績	116	117	126					
<指標の計算方法>		例規に基づく不利益処分公表件数										
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)		財源内訳									
	330		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			330	
事業の実績	①制度整備 ・行政手続制度整備のための作業説明会 職員78人参加 職員に対する制度説明会を実施（新型コロナウイルス感染症対策として例年より回数を増やし1回当たりの人数を制限）した。 ・法令及び例規に基づく、申請に対する処分及び不利益処分の個票を追加、削除、更新し、市ホームページで公表を行った。											
	事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・行政手続法及び紀の川市行政手続条例の規定に基づき処分基準を公表する必要がある。								
有効性		評価結果	改善の余地がない ・行政手続法及び紀の川市行政手続条例の規定に基づき処分基準を公表する必要がある。									
効率性		評価結果	改善の余地がない ・各処分担当課による見直し及び更新を行えば業務委託は不要となるが、取りまとめにかかる時間及び精度の保持を考慮すると、業務委託により実施することが効率的と考える。									

事務事業の概要	事務事業名	行政不服審査事業			担当課	総務課		事業区分	内部管理事業					
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1064			
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営					
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成					
		目	1 一般管理費				基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進					
事業概要	審査請求人の権利が適正に確保されるように、市が行政処分の審査請求がされてから裁決までの工程を円滑に行う事業													
事務事業を構成する細事業	①	行政不服審査			⑤				⑨					
	②				⑥				⑩					
	③				⑦				⑪					
	④				⑧				⑫					
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析					
	活動指標	審査請求件数	回	目標						抜本的に改正された行政不服審査法が平成28年4月1日に施行されて以降、平成29年度、平成30年度及び令和2年度にそれぞれ1件の審査請求があった。				
			実績	1		1								
	<指標の計算方法>		年間審査請求件数											
			目標											
			実績											
	<指標の計算方法>													
		目標												
		実績												
<指標の計算方法>														
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳										
	291			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	291				
事業の実績	①行政不服審査 ・市の処分等に関して不服があり、審査請求が提出された場合、その処分等について審査を実施する。 審査請求件数 1件													
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない											
			・行政不服審査法に基づき、市が適切に運用する必要がある。											
	有効性	評価結果	改善の余地がない											
		・市が行う処分に関し、国民が行政庁に不服を申し立てることができる制度である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない												
		・行政不服審査法に基づき、規定どおりに国民の不服申し立てを審査する。												

事務事業の概要	事務事業名	情報公開・個人情報保護事業			担当課	総務課		事業区分	内部管理事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1066	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	1 一般管理費				基本施策	1	市政情報の発信と適正な情報管理			
事業概要	関連条例等に基づき開示等が適正になされるよう、関係部署への指導や審査会の運営を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	情報公開			⑤				⑨			
	②	個人情報保護			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	情報公開審査会開催数	回	目標							平成26年度以降、審査請求に係る情報公開審査会の開催はなし。	
				実績								
	<指標の計算方法>		情報公開審査会の年間開催回数									
	成果指標	公文書開示請求件数	件	目標							公文書開示請求件数は増加している。	
				実績	30	44	100					
	<指標の計算方法>		公文書開示請求件数									
	活動指標	個人情報保護審査会	回	目標							審査請求に係る個人情報保護審査会の開催はなし。	
				実績								
	<指標の計算方法>		個人情報保護審査会									
成果指標	個人情報開示請求件数	件	目標							個人情報開示請求件数は減少した。		
			実績	17	30	16						
<指標の計算方法>		個人情報開示請求件数										
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	42			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	42		
事業の実績	①情報公開 市で保管している公文書についての開示請求書及び任意開示申出書を受け付ける。											
	②個人情報保護 市で保管している自己情報について開示請求書を受け付ける。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・個人情報の保護に配慮しながら、行政が保有している情報を公開している。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・自己の情報のコントロール権を保障し、市の説明責任を果たすことは、開かれた市政の実現を目指す手段として有効である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・必要最小限のコストで事務を行っているため、改善の余地はない。											

事務事業の概要	事務事業名	文書管理事業			担当課	総務課			事業区分	内部管理事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	460	
	予算科目	款	2	総務費	長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営				
	項目	1	総務管理費			施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成				
	目	1	一般管理費			基本施策	1	市政情報の発信と適正な情報管理				
事業概要	職員が公文書を迅速に検索、閲覧できるように、登録から所在確認、廃棄までの管理を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	文書等收受・発送・配布			⑤				⑨			
	②	文書管理			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名	単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	文書管理作業日数	日	目標	174	174	174	174	174	処理件数が昨年よりも約3,000件増加した為、実績値は目標値より多い日数となった。		
				実績	214	170	179					
	<指標の計算方法>		日数									
			目標									
		実績										
<指標の計算方法>												
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	9,318			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		9,318	
事業の実績	①文書等收受・発送・配布 ・各課からの通知文書を取りまとめ発送。 ・郵送されてきた文書の收受を行い、各課へ配付し、各支所についてはメール便で配付。											
	②文書管理 登録14,283件、修正9,939件、削除1,127件 書庫移管8,946件(1,556箱) 廃棄12,006件(838箱) 廃棄年度延長1,967件 廃棄年度延長文書の統廃合1,542件(506箱)											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・現状どおり継続する必要がある業務である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・事業実施により職員が公文書を迅速に検索閲覧することができている。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・職員自ら確認する必要があることから、現状の一部委託の状態が効率的である。											

事務事業の概要	事務事業名		監察業務事業				担当課	人事課		事業区分	内部管理事業		
	会計		一般会計				新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	840
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営					
		項	1 総務管理費			施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成					
		目	1 一般管理費			基本施策	4	職員の育成と職場環境の充実					
事業概要		廉潔で透明性のある市政を実現するために、職員の法令遵守を推進し、監察、調査、指導を行い、また、市への不当要求行為対策に協力する事業											
事務事業を構成する細事業		①	監察業務		⑤						⑨		
		②			⑥						⑩		
		③			⑦						⑪		
		④			⑧						⑫		
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析				
	活動指標	業務指導・相談件数	件	目標	24	24	24	0	0	年度途中で退職（自己都合）したことに伴う指導相談件数の減。			
			実績	87	98	50							
	<指標の計算方法>		監察監が実施した職員の業務指導・相談の件数										
	活動指標	不当要求行為対応件数	件	目標	0	0	0	0	0	年度途中で退職（自己都合）したことに伴う対応件数の減。			
			実績	10	11	5							
	<指標の計算方法>		監察監が対応した不当要求行為の件数										
		目標											
		実績											
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	2,336			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源				
			2,336										
事業の実績	①監察業務 業務指導・相談 50件 不当要求行為対応 5件 新規採用職員対象公務員倫理等研修 1回 新任課長級対象公務員倫理等研修 1回												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・ 職員の法令遵守を推進し、公正かつ民主的な市政の運営には必須の事業です。											
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
・ 市政に対する市民の信頼を得るには有効な事業です。 ・ 年度途中で退職により専門性を有する人材である監察監の不在期間はあったが、在職中は職員の指導等に従事し有効であった。													
効率性	評価結果	改善の余地がない											
	・ 専門知識や経験のある者を任用することで効率性は向上します。												

事務事業の概要	事務事業名		職員人事管理事業				担当課	人事課		事業区分	内部管理事業		
	会計		一般会計				新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	3
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営					
		項	1 総務管理費			施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成					
		目	2 人事管理費			基本施策	4	職員の育成と職場環境の充実					
事業概要		組織の活性化と限られた人員で最大の成果を得る体制づくりをすすめるために、職員の就業管理、定員管理、人事異動を実施する事業											
事務事業を構成する細事業		①	職員人事管理		⑤					⑨			
		②	職員勤務・休暇管理		⑥					⑩			
		③	年末調整		⑦					⑪			
		④			⑧					⑫			
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	成果指標	平均年次有給休暇取得日数	日	目標	10	10	10	10	10	新型コロナウイルス感染症拡大の影響で各種事業が中止されたこと、また、風水害による本来業務に影響を及ぼす臨時的な業務が少なかったこと等により、年次有給休暇取得日数が若干増加したものと推察する。			
				実績	9.51	9.9	10.38						
	<指標の計算方法>		全職員の年次有給休暇取得日数÷職員数										
	成果指標	職員数	人	目標	549	548	545	545	541				職員適正化計画の計画目標値となった。
				実績	547	547	545						
<指標の計算方法>		4月1日職員数											
活動指標	職場巡視実施回数	回	目標	13	13	14	13	13	新型コロナウイルス感染症への対応に伴い、R2年度は超過勤務縮減月間を定めず規模を縮小して職場巡視を実施した結果となった。				
			実績	9	13	6							
<指標の計算方法>		職場巡視実施回数											
		目標											
		実績											
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	3,276			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	3,276			
事業の実績	①職員人事管理 ・職員の人事異動 203人 (令和3年度に向けての異動準備) ・定年退職者 19人 ②職員勤務・休暇管理 ・育児休業取得者 12人 ・産前産後休業取得者 2人 ・病気休業取得者 28人 ③年末調整 ・年末調整事務 545人												
	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・組織を活性化し、最大の効果を得るには人事異動は必須の事業です。											
有効性	評価結果	改善の余地がない											
	・人事異動により適材適所に職員を配置し、能力を十分に発揮できます。												
効率性	評価結果	改善の余地がない											
	・定型業務を業務委託するなど事務の効率化に努めています。												

事務事業の概要	事務事業名	職員給与管理事業			担当課	人事課		事業区分	内部管理事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	451	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	2 人事管理費				基本施策	4	職員の育成と職場環境の充実			
事業概要	職員が適正な給与を受けられるように、給与、手当の支給を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	特別職報酬等審議会			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	特別職報酬等審議会開催回数	目標	1	1	1	1	1	開催案件がなかった。			
			実績	0	0	0						
	<指標の計算方法>		審議会の開催回数									
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
事業の実績	①特別職報酬等審議会 ・未開催											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・適正な給与及び議員報酬を公正に決定するには最適な事業です。									
		評価結果	改善の余地がない ・特別職報酬等審議会については、学識経験者を構成委員とすることで有効性を図っています。									
	効率性	評価結果	改善の余地がない ・事業自体は効率性を評価すべき事業ではありません。									

事務事業の概要	事務事業名	人材育成研修事業		担当課	人事課			事業区分	内部管理事業			
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	452		
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営				
		項	1 総務管理費			施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成				
		目	2 人事管理費			基本施策	4	職員の育成と職場環境の充実				
取組方針			1	戦略的な人材育成の推進								
事業概要	職員の能力の向上を図るために、各種研修や人事評価等を行う事業											
事務事業を構成する細事業	① 職員採用				⑤ 県市町村職員研修協議会負担金				⑨			
	② 職員研修				⑥				⑩			
	③ 職員派遣				⑦				⑪			
	④ 人事評価				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	職員研修開催回数 (市主催研修)	回	目標	20	20	20	20	20	新型コロナウイルス感染症拡大の影響で研修の開催回数は若干減少しています。		
			実績	24	23	19						
	<指標の計算方法>		市が主催する研修の回数									
	成果指標	職員研修延べ受講者数	人	目標	2,200	2,500	2,500	2,500	2,500	新型コロナウイルス感染症拡大の影響で研修の開催回数が減少したため、受講者数も同様に減少しています。		
			実績	3,152	1,642	962						
	<指標の計算方法>		市主催研修+和歌山県市町村職員研修協議会主催研修+民間機関等主催研修の受講者数									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	4,915			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
事業の実績	①職員採用			③職員派遣			④人事評価			⑤県市町村職員研修協議会負担金		
	<ul style="list-style-type: none"> 事務職 受験者数 94人 合格者数 16人 保健師職 受験者数 4人 合格者数 3人 保育士職 受験者数 4人 合格者数 2人 土木職 受験者数 5人 合格者数 1人 			<ul style="list-style-type: none"> 2年目職員研修 1回 安全運転研修 1回 県市町村課 1人 県食品流通課 1人 和歌山地方税回収機構 1人 和歌山県後期高齢者医療広域連合 2人 			<ul style="list-style-type: none"> R2年4月～R3年3月にかけて業績評価・能力評価を実施 			<ul style="list-style-type: none"> 一般研修 81人受講 専門研修 109人受講 特別研修 15人受講 		
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・地方公務員法により職員に研修機会を提供する義務があることから、市が実施することに妥当性があります。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・職員の資質向上のため、更なる研修内容の充実を図っていく必要があります。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・人材育成体系基本計画に基づいて階層別研修を着実に推進していきます。											

事務事業名	職員福利厚生事業		担当課	人事課			事業区分	内部管理事業		
	会計	一般会計	新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	456		
事務事業の概要	予算科目	2 総務費	長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営				
	款	1 総務管理費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成				
	項	2 人事管理費		基本施策	4	職員の育成と職場環境の充実				
	目			取組方針	3	良好な職場環境の整備・充実				
事業概要	職員の福利厚生の充実を図るために、共済や公務災害補償に関する諸手続きや健康管理を行う事業									
事務事業を構成する細事業	①	職員共済組合事務	⑤				⑨			
	②	公務災害補償事務	⑥				⑩			
	③	職員健康・安全管理	⑦				⑪			
	④		⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析	
	活動指標	検診受検者数	人	目標	550	550	548	548	544	毎年、ほぼ全職員が健康診断を受診又は人間ドックを受検しています。
			実績	538	539	535				
	<指標の計算方法>		職員検診受検者数(3役を含む。) + ドック受検者数 - 重複受検者数							
	成果指標	公務災害の発生件数	件	目標	0	0	0	0	0	発生原因の大半は本人の不注意によるものです。
			実績	1	4	10				
	<指標の計算方法>		正職員の公務災害発生件数							
	成果指標	非常勤公務災害の発生件数	件	目標	0	0	0	0	0	作業中の不可抗力の事故によるけがです。
			実績	1	3	1				
	<指標の計算方法>		会計年度任用職員(非常勤職員)の公務災害発生件数							
コストの実績	R 2年度決算額(単位:千円)		財源内訳							
	10,528		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
									10,528	
事業の実績	①職員共済組合事務 保険得喪手続き 92件 貸付手続き 3件 貯金手続き 125件 インフルエンザ助成手続き 178件		ストレスチェック受検者 743人 高ストレス判定者 72人 心の健康相談 20人相談							
	②公務災害補償事務 地方公務員災害補償 10件 非常勤職員公務災害補償 1件									
	③職員健康・安全管理 職員健康診断 230人受検 会計年度任用職員健康診断 301人受検 人間ドック・脳ドック 1日人間ドック 123人 2日人間ドック 181人 脳ドック 10人 ストレスチェック 対象職員 846人(会計年度任用職員含む。)									
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない							
		・職員の健康管理について必須事業です。								
	有効性	評価結果	改善の余地がない							
・メンタルヘルスの向上を図っています。										
効率性	評価結果	改善の余地がない								
	・主に職員等の健康管理を行う事業であり効率性を評価すべき事業ではありません。									

事務事業の概要	事務事業名	会計年度任用職員人事管理事業			担当課	人事課		事業区分	内部管理事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	455
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営		
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成		
		目	2 人事管理費				基本施策	4	職員の育成と職場環境の充実		
事業概要	職員が組織の活性化と限られた人員で最大の成果を得る体制づくりをすすめるために、職員（会計年度任用職員）の就業管理、定員管理を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	会計年度任用職員人事管理			⑤				⑨		
	②	会計年度任用職員給与支払			⑥				⑩		
	③	労働災害補償事務			⑦				⑪		
	④				⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	成果指標	労働災害の発生件数	目標	0	0	0	0	0	保育士などの現場業務での突発的で避けられないケースが大半です。		
			実績	4	3	7					
	<指標の計算方法>		会計年度任用職員の労働災害の発生件数								
			目標								
			実績								
	<指標の計算方法>										
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	12,319			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
事業の実績	①会計年度任用職員人事管理 各課の繁忙期や単純業務処理を行い、事務の効率化を図るため機動的配置臨時職員2人を年間12部署へ派遣										
	②会計年度任用職員給与支払 報酬 12回 期末手当 2回										
	③労働災害補償事務 労働災害補償 7件										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・限られた人員で最大の成果を得る体制づくりには必須の事業です。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・機動的配置臨時職員の任用により、繁忙期における職員の定型業務への負担が軽減されています。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・定型業務を業務委託するなど事務の効率化に努めています。										

事務事業の概要	事務事業名	広報事業		担当課	秘書広報課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営		
		項	1 総務管理費			施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成		
		目	3 広報費			基本施策	1	市政情報の発信と適正な情報管理		
事業概要	市民、報道機関、市の情報を求める人に必要な情報の入手と市政への理解を深めてもらうために、行政情報や市の魅力を発信する事業									
事務事業を構成する細事業	① 広報紙発行業務		⑤ ラジオ・テレビ等情報発信業務		⑨ プレス発表・報道機関対応業務					
	② 広報紙等配布委託		⑥ 日本広報協会負担金		⑩ 町史（誌）販売管理業務					
	③ メール配信サービス		⑦ 県広報協会負担金		⑪					
	④ HP・FB・Instagram・LINE情報発信業務		⑧ 和歌山放送情報懇談会負担金		⑫					
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析	
	成果指標	ホームページ（トップページ）への年間アクセス数	目標	550,000	560,000	570,000	580,000	590,000	新型コロナウイルス感染症関連情報として、市関連施設の状況や、小中学校関連の状況、市のイベント等の中止、事業者向け支援等の情報をまとめた専用のページを作成したことが、アクセス件数の大幅な増加に影響したと考えられる。 令和2年度からはLINEを追加し、行政情報や市の魅力を発信。広報紙等は内容の充実、見易さを重視したが、満足率は低下している。市民意識調査では、市政の情報源は広報紀の川から得ているとの回答が最も多い結果となっているため、広報紙の内容充実を図り、満足率の向上に努める。 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症に関連する情報発信が増加したこと、また、自治区を通じたメール配信登録の啓発チラシ回覧の効果により、登録者数が増加したと考えられる。 Facebookは、閲覧した人からその情報が多くの人に広がる仕組みがあり、市の魅力を発信することで大きな宣伝効果があるため、発信件数増加を目標としているが、新型コロナウイルス感染症の影響により催事等の中止があり、投稿する記事が減少した。	
			実績	629,106	743,276	1,027,552				
	<指標の計算方法>		ホームページ（トップページ）への年間アクセス数							
	成果指標	行政の広報活動の満足率	目標	50	50	50	50	50		
			実績	43.7	42.2	35.7				
<指標の計算方法>		紀の川市市民意識調査								
成果指標	メール配信サービス登録者数	目標	3,200	3,600	3,700	5,400	5,500			
		実績	3,504	4,435	5,272					
<指標の計算方法>		登録メールアドレス数								
活動指標	Facebook発信件数	目標	365	365	365	365	365			
		実績	353	296	175					
<指標の計算方法>		Facebookの年間発信件数								
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳						
	26,971			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	
				2,920			1,648	22,403		
事業の実績	① 広報紙発行業務 広報「紀の川」の発行 ・発行部数 26,500部/月(12回)		⑤ ラジオ・テレビ等情報発信業務 和歌山放送ラジオ(WBS)の番組内で「紀の川とおき情報」のコーナーを設け、イベント・施策・特産品情報などを放送し、紀の川市のPRを実施 第1木曜日 13:30～(約4分間) ・放送回数 12回(年間)		で、個人、団体、企業を問わず多くの方が参加。様々な情報や文化の収集、産官学の連携、経済発展に役立つ。 ・年会費 110,000円					
	② 広報紙等配布委託 業者委託による広報紙の各戸配布 ・配布実績 延べ304,430戸(年間)		⑥ 日本広報協会負担金 国、都道府県、市町村の間を縦と横に様々な広報研究連絡団体(公益社団法人) ・年会費 24,000円		⑨ プレス発表・報道機関対応業務 メディアにプレスリリースすることにより、市の内外に、紀の川市の魅力、施策のPRを実施 ・発信件数 52件(年間)					
	③ メール配信サービス 防災、防犯、交通安全、観光、行政など日常生活に役立つ情報をメールで提供。 ・令和2年度末メールアドレス登録者数 5,272人		⑦ 県広報協会負担金 県内の市町村の広報力の向上を目的として設立された協会 ・年会費 8,000円		⑩ 町史（誌）販売管理業務 残存する町史を後世に残すため販売管理を実施 販売0冊 寄贈実績1冊(年間) ・打田町史 1巻なし 2巻212冊 3巻477冊 ・粉河町史 1巻1,206冊 2巻386冊 3巻373冊 4巻470冊 5巻1,116冊 ・那賀町史 1巻822冊・桃山町誌 528冊 ・貴志川町史 1,2,3巻なし					
	④ HP・FB・Instagram・LINE情報発信業務 市内外への行政情報配信や紀の川市のPRを実施 ・HP年間アクセス件数 1,027,552件 ・FB情報発信件数 175件 ・Instagram情報発信件数 8件 ・LINE情報発信件数 13件		⑧ 和歌山放送情報懇談会負担金 和歌山放送が運営する異業種交流組織							
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・広報事業は、市民をはじめ、市の情報を求める人に対して情報を発信し、必要な情報の入手と市政への理解を深めてもらう事業であり、市が主体的に行う事業として妥当性があります。また、市民意識調査では約8割の人が、広報紙により市の情報を得ており、市政情報を知るための事業として妥当であると考えます。							
	有効性	評価結果	改善の余地がややある ・広報事業では、情報の発信を広報紙、HPやSNSなどを通じておこなっています。PCやスマートフォンからも閲覧することができ、市民や市の情報を求める人が、情報を得るために有効な事業であると考えます。今後も市の魅力発信や市政への理解を深めてもらえるよう、アクセシビリティに配慮し、見易さや内容の充実を図る必要があると考えます。							
	効率性	評価結果	改善の余地がややある ・広報紙の発行や情報発信については、編集を自課内のパソコンで行いコストを抑えています。また、広報業務では、広報紙発行においての特集記事やまちの話題に関する記事の作成、新型コロナウイルス感染症関連情報の発信などで時間外での業務になり、超過勤務が増える傾向にあります。人件費などコスト削減の観点から、フレックス勤務や振替休日の積極的な取得を図る必要があると考えます。							

事務事業の概要	事務事業名		財政運営事業				担当課	財務課		事業区分	内部管理事業		
	会計		一般会計				新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	5
	予算科目	款	2 総務費				長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費					施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	4 財務管理費					基本施策	2	健全な財政運営の確立			
事業概要		市財政を効率的・効果的に健全化を維持するために、財政計画に基づき計画的な財政運営を行う事業											
事務事業を構成する細事業		① 予算編成	⑤ 地方債発行				⑨						
		② 予算執行管理	⑥ 財政計画				⑩						
		③ 決算（決算統計・成果表）	⑦ 財政事情の公表（公会計・健全化判断比率）				⑪						
		④ 地方交付税・地方譲与税	⑧				⑫						
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析				
	活動指標	予算編成回数（一般会計）	目標	6	6	6	6	6	令和2年度は、新型コロナウイルス感染症に対応する予算を適宜編成する必要が生じたため、既定の予算編成回数を大きく上回った。				
			実績	8	6	12							
	<指標の計算方法>		当初予算1回、補正予算5回を想定										
	成果指標	経常収支比率	目標	91.2	91.9	92.2	91.9	91.3	近年は90%前半で推移している。地方債の償還が進んだ影響により、経常経費の規模が減少し、指数が下降（良化）した。				
実績			91.6	92.7	91.5								
<指標の計算方法>		地方財政状況調査（経常経費充当一般財源÷経常一般財源）×100											
成果指標	財政力指数（3カ年平均）	目標	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	指数に大きな変動はない。地方債償還がピークを越え、基準財政需要額における公債費算入が減少していることで、今後は指標の上昇（良化）が見込まれる。					
		実績	0.4	0.39	0.4								
<指標の計算方法>		地方交付税算定台帳 基準財政収入額÷基準財政需要額											
成果指標	積立基金現在高比率	目標	48.5	48.4	49.2	48.2	47.7	指数は徐々に上昇（良化）している。全庁的に取り組んでいる行財政改革による計画的な予算執行と、ふるさと寄附金の増収などによる財源超過分を基金に積み立てたことによる。					
		実績	62.5	66.3	69.1								
<指標の計算方法>		標準財政規模に対する基金残高の割合											
コストの実績	R 2年度決算額（単位：千円）			財源内訳									
	1,745			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	1,745			
事業の実績	① 予算編成		算を取りまとめた。				⑤ 地方債発行		地方債を財源として行う事業の対象経費を取りまとめ、県との協議を経て、同意を受け、金融機関等から資金の借入れを行った。				
	・令和2年度補正予算編成 各会計予算が円滑に執行できるよう所要の補正措置を講じた。 一般会計11回 特別会計（17会計）0回～3回 公営企業会計（3会計）水道4回、工業用水道0回、下水道3回		② 予算執行管理 予算執行方針を定め、適宜、庁内に周知することで、予算の適正かつ厳正な執行の確保に努めた。				⑥ 財政計画 平成29年度に策定した紀の川市財政計画（計画期間：平成30年度～令和4年度）の収支見通しに令和2年10月時点の修正を加え、市ホームページで公表した。		⑦ 財政事情の公表（公会計・健全化判断比率） 統一的な基準による財務書類や健全化判断比率を調製し、市の財政状況を公表した。				
・令和3年度当初予算編成 中長期的な視点に立った経営戦略により、持続可能な財政基盤の確立に向けて健全化を推し進めるため、「経営戦略会議において審議され、庁議で採択された各施策の取組方針」に基づき予算編成を行った。とりわけ、新たな日常の構築」、「地域経済の好循環形成」、「防災力の向上」、「人口減少対策」、「行政改革の推進」につながる取り組みについて、重点的に予算配分を行った。 ・令和3年度当初予算書作成 一般会計、特別会計、公営企業会計の当初予		③ 決算（決算統計・成果表） 令和元年度各会計別決算状況、基金・地方債の状況、一般会計・特別会計の主要施策の成果を報告書に取りまとめた。 150部				④ 地方交付税・地方譲与税 基礎数値等を県へ報告し、地方交付税・地方譲与税の交付を受けた。普通交付税は合併算定替の通減5年目となり、算定替による増加額が90%縮減された。 【主な交付実績】 ・地方揮発油譲与税 68,141千円		・自動車重量譲与税 198,254千円 ・地方特例交付金 61,080千円 ・普通交付税 9,491,006千円 ・特別交付税 935,851千円					
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・地方自治体の行政活動にあたり、財政運営は基幹を成す業務であることから、財政部局が内部管理を行い全庁を取りまとめて実施することが適当である。											
	有効性	評価結果	改善の余地がややある										
・長期総合計画の実現に向け、中長期的な視点に立った財政収支見通しによる財政運営ができています。 ・持続可能な行政運営をしていく中で、財政状況に応じた効率的な予算編成手法を取り入れる必要がある。 ・財政運営と行政評価の連携を深めることで、各事業の妥当性や効率性を客観的に把握し、より効果的な予算編成に取り組む必要がある。 ・新型コロナウイルス感染症への対応と、社会情勢に応じた国の施策に対応するなど状況を見据えたうえで効果的な補正予算を編成した。 ・合併特例債の活用終了を見据え、事業内容に応じて合併特例債に代わる交付税算入率が高い起債への転換に取り組んだ。													
効率性	評価結果	改善の余地がない											
	・地方自治体の基幹業務として内部管理を行う事業であるため、事業全体として代替手段を導入する余地はない。 ・決算成果表の印刷では、外注を行わず職員で作成したことで、業務スケジュールに余裕を持つとともに、費用の抑制に努めた。 ・財務書類の作成では、専門的な知識を要することから作成支援の委託範囲を最小限にとどめ、費用の抑制に努めた。												

事務事業の概要	事務事業名		入札契約事業				担当課	財務課		事業区分	内部管理事業		
	会計		一般会計				新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	468
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営					
		項	1 総務管理費			施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成					
		目	4 財務管理費			基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進					
事業概要		市が入札、契約事務における公平性、透明性、競争性を確保するために、事業者の適正な事業者登録や入札・契約事務を行う事業											
事務事業を構成する細事業	① 工事等検査		⑤		⑨								
	② 指名登録業者管理		⑥		⑩								
	③ 入札・契約		⑦		⑪								
	④ 契約管理・成績評定システム		⑧		⑫								
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析				
	活動指標	一般競争（指名競争）入札成立件数	件	目標	287	300	300	300	300	発注課の入札希望数により変動する件数である。平成30年度から上下水道部の入札を執行したことから件数が増えている。令和2年度は建設工事が前年度に比べ増加した。			
			実績	320	296	331							
	<指標の計算方法>		建設工事等の入札が成立した件数										
	活動指標	工事検査件数	件	目標	180	200	200	200	200	発注課の建設工事の完了数により変動する件数である。令和2年度は前年度と同水準となった。			
			実績	186	152	148							
	<指標の計算方法>		財務課に検査依頼があり検査員が工事等検査を行った件数										
	成果指標	入札等参加資格登録業者数	者	目標	1,890	2,100	2,000	2,000	2,000	登録項目において指定の登録期間があり、時期により変動する件数である。令和2年度に業者追加登録を行った結果、前年度に比べ増加した。			
			実績	2,142	1,947	2,091							
	<指標の計算方法>		建設工事、測量・建設コンサルタント等、物品・その他製造等の業者数（4/1現在）										
成果指標	建設工事早期発注率	%	目標	60	60	60	60	60	発注課の入札希望数及び契約締結の時期により変動する件数である。令和2年度は担当課にできる限りの早期発注を依頼したことにより、前年度に比べ上昇した。				
		実績	35.9	33.9	57.1								
<指標の計算方法>		上半期（4月から9月）の工事契約件数÷年間の工事契約件数											
コストの実績	R 2年度決算額（単位：千円）			財源内訳									
	8,893			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		8,893		
事業の実績	① 工事等検査 発注課の依頼に基づき財務課所管の検査員が工事検査を実施した。 ・工事検査件数 68件												
	② 指名登録業者管理 入札等参加資格登録業者の登録・管理を行った。 ・建設工事業 644者 ・測量・建設コンサルタント業 377者 ・物品、その他製造等業 1,070者												
	③ 入札・契約 (1) 発注課の依頼に基づき、事業案件の入札方法及び選定業者案等について、建設工事等請負業者選定審査会を開催した。 ・審査会開催日数 23日 ・審査会審査件数 338件 (内訳) 工事請負 207件 業務委託 102件												
	(2) 審査会で決定した入札方法及び選定業者等により入札を執行した（審査会での入札取り止め案件2件を除く）。指名業者の入札辞退等により5件が不調、不成立となった。不調、不成立となった案件は、後日、再度入札又は発注課において随意契約等で対応した。 ・入札執行日数 24日 ・入札執行件数 331件 (内訳) 条件付一般競争入札 9件 指名競争入札 322件 (3) 入札において落札した業者と契約を締結した。 ・契約締結件数 331件 (内訳) 工事請負業者 市内 194件、市外 9件 業務委託業者 市内 47件、市外 53件 物品購入業者 市内 17件、市外 11件												
④ 契約管理・成績評定システム													
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・発注課依頼の入札案件等について、入札・契約・検査に関する事務等を適正に執行するものである。実施主体は、関係法令において透明性・公平性・競争性の確保、不正行為の排除、品質の確保等が厳格に義務付けられている事業であることから、市で実施することが妥当である。											
	有効性	評価結果	改善の余地がややある										
・発注課からの入札案件等について、適正な事務の執行ができています。令和2年度は、工事発注課にできる限りの早期発注を依頼したことにより、上半期に工事発注件数が多かったことから早期発注率が前年度に比べ上昇した。目標値の達成及び維持できるように継続的に早期の入札執行を促していく必要がある。 ・契約管理・工事成績システムの導入に伴い、各種関係様式を作成し、システムから出力できるように改善を行い事務負担の軽減に取り組んだ。													
効率性	評価結果	改善の余地がややある											
	・市の適正な予算執行（入札・契約・検査）に直接的に関わるため、業務委託は困難な事業である。また、入札件数は増加傾向にあり、人的コスト削減は望みにくい状況である。事務工程の見直しや新規導入した契約管理・工事成績評定システムを活用することにより事業の効率化を図りたい。												

事務事業名	物品集中調達事業		担当課	財務課			事業区分	内部管理事業		
	新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	466			
事務事業の概要	会計	一般会計		長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
	予算科目	款	2		総務費	施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成		
		項	1		総務管理費	基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進		
		目	4		財務管理費	取組方針	9	その他		
事業概要	職員が物品を効率的に活用できるように、物品を適正に調達し、管理を行う事業									
事務事業を構成する細事業	①	調達（発注・契約）		⑤			⑨			
	②	物品管理		⑥			⑩			
	③	事務機器管理		⑦			⑪			
	④			⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析	
	活動指標	コピー用紙発注箱数	箱	目標	2,310	2,660	2,700	2,900	2,900	本庁、南別館で使用するコピー用紙は、コピー機の使用増加により、年々増加傾向にあり今後も増加が見込まれる。
				実績	2,533	2,021	2,562			
	<指標の計算方法>		本庁・南別館で使用するコピー用紙の発注箱数							
	成果指標	集中調達物品種類数	種類	目標	195	179	175	175	175	物品集中調達の種類は、配布品目の精査及び類似品目の廃止により、年々減少傾向にあり今後も少しずつ減少が見込まれる。
				実績	185	176	170			
	<指標の計算方法>		財務課で集中調達し、各部署へ配付する事務用品・日用品の種類数							
成果指標	事務機器台数	台	目標	22	18	17	17	17	本庁、南別館の事務機器の台数は、各フロアに設置している機器の入れ替えにより財務課管理でなくなったため減少した。今後も事務機器の入れ替えにより財務課管理台数の減少が見込まれる。	
			実績	22	18	17				
<指標の計算方法>		本庁・南別館で使用する事務機器（コピー機・輪転機）の台数								
<指標の計算方法>										
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳						
	13,160			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	
			13,160							
事業の実績	①調達（発注・契約）				③事務機器管理					
	<ul style="list-style-type: none"> 物品を集中調達し、各部署の要望に応じ適正に配付した。 再生紙 A 4 (1箱 2,500枚) 2,317箱 A 3 (1箱 1,500枚) 200箱 B 5 (1箱 2,500枚) 0箱 B 4 (1箱 2,500枚) 0箱 兼用紙 A 4 (1箱 2,500枚) 35箱 A 3 (1箱 2,500枚) 10箱 計 2,562箱 				<ul style="list-style-type: none"> 職員が効率よく事務機器を使えるよう管理 運用及び次年度に向けた台数の調整を行った。17台（うち、財務課で維持管理・予算執行している台数は10台） 					
事業の実績	②物品管理									
	<ul style="list-style-type: none"> 集中調達物品の種類を見直し、調達にかかる種類を縮減し再構成した。170種類 避難所開設時に必要となる防災用物品を避難所担当部局に配付した。（市内避難所52箇所分） LED懐中電灯、LEDランタン、車載用インバーター 									
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない							
		<ul style="list-style-type: none"> 市が各事業に取り組むうで物品調達及び管理を一括で行うことにより、市全体として事務効率化及び経費削減を図っており、妥当性は十分ある。 								
	有効性	評価結果	改善の余地がない							
<ul style="list-style-type: none"> 物品の調達及び管理を一括で行うことにより、市全体の事務効率化及び経費削減に貢献している事業である。以前から継続して行っている集中調達物品の種類削減が進み、より有効な取り組みとなっている。 事務機器について、リース開始から10年程度経過した機器の入れ替えを行っている。 高速プリンターの印刷初期設定を両面印刷することにより、コピー用紙使用の抑制を図っている。 										
効率性	評価結果	改善の余地がややある								
	<ul style="list-style-type: none"> 市の予算執行（契約事務）に直接的に関わるため、業務委託は困難であり、今以上の人的コスト削減は望みにくい状況である。 コピー用紙発注数が年々増加傾向であり、コスト削減のため使用の抑制を図る必要がある。 									

事務事業の概要	事務事業名	出納管理事業			担当課	会計課		事業区分	内部管理事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	6
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営		
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成		
		目	5 会計管理費				基本施策	2	健全な財政運営の確立		
事業概要	市民（債権者、納税義務者）等に対して公金に係る適正な事務処理を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	出納業務			⑤	日計表作成業務			⑨		
	②	県会計職員連絡協議会負担金			⑥				⑩		
	③	口座振替納入依頼書受付事務			⑦				⑪		
	④	債権者登録業務			⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	収納件数	目標						例年通りの数値である		
			実績	752,529	768,366	768,910					
	<指標の計算方法>		1年間の収納件数								
	活動指標	支払件数	目標						例年通りの数値である		
			実績	52,604	51,261	53,788					
	<指標の計算方法>		1年間の支払件数								
	活動指標	口座振替納入依頼書受付件数	目標						学校給食費の口座振替が開始されたことによる増加		
			実績	3,033	3,047	4,707					
	<指標の計算方法>		1年間の受付件数								
活動指標	指定金融機関検査件数	目標						紀の川市指定金融機関等検査実施要領により実施			
		実績	1	1	1						
<指標の計算方法>		1年間の検査件数									
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	2,351			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
								2,351			
事業の実績	①出納業務			・各会計の収入額と支払額の確定及び残高の確認							
	・全会計歳入処理件数… 768,910件										
	・全会計歳出処理件数… 53,788件										
	・会計課からのお知らせ（職員掲示板に月1回掲示）										
	・口座振替等データの伝送について、LGWAN回線を利用する接続サービスへの移行（ISDN電話回線のサービス終了）の調整及び環境設定										
②県会計職員連絡協議会負担金											
・会計管理者定例会出席（Web開催）											
③口座振替納入依頼書受付事務											
・受付件数… 4,707件											
④債権者登録業務											
・登録件数… 3,288件											
⑤日計表作成業務											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・市以外が実施主体になりえない事務事業であり、継続する必要性が高い事業と考える。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・数値化できない事業であるが、会計事務の専門性及び能力開発のための対策として担当者だけでなく、課員全員で情報共有に努めたと考える。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・実施方法の変更等でコスト削減できない事業であるが、事業過程に無駄はないか定期的に検証し、コスト削減（人件費）に努めたと考える。										

事務事業の概要	事務事業名	会計審査事業			担当課	会計課		事業区分	内部管理事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	462	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	5 会計管理費				基本施策	2	健全な財政運営の確立			
事業概要	① 会計審査 ② 決算業務 ③ 源泉徴収審査・支払業務 ④ 監査受検											
事業概要	① 会計審査 ② 決算業務 ③ 源泉徴収審査・支払業務 ④ 監査受検											
指標の実績	指標名	単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析				
	活動指標	決算書作成回数	目標						地方自治法第232条第1項に基づき作成			
			実績	1	1	1						
	<指標の計算方法>		作成回数									
	活動指標	源泉徴収票発行件数	目標						例年通りの数値である			
			実績	2,617	2,611	2,445						
	<指標の計算方法>		1年間の発行件数									
	活動指標	支払調書発行件数	目標						例年通りの数値である			
			実績	333	356	323						
	<指標の計算方法>		1年間の発行件数									
活動指標	監査受検回数	目標						紀の川市監査計画に基づき受検				
		実績	13	13	13							
<指標の計算方法>		例月出納検査・決算審査の受検回数										
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)		財源内訳									
	493		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			493	
事業の実績	①会計審査 ・紀の川市財務規則による支出命令書等の審査 ・新規採用職員研修実施（会計事務について）		④監査受検 ・監査受検のための資料作成		支払額 57,796,493円							
	②決算業務 ・決算書の作成… 一般会計 155部 特別会計 115部											
③源泉徴収審査・支払業務 ・源泉徴収票 発行件数 2,445件 源泉額 139,854,064円												
・報酬、料金、契約金及び賞金の支払調書 発行件数 205件 源泉額 14,004,776円												
・不動産の使用料等の支払調書 発行件数 118件												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・市以外が実施主体になりえない事務事業であり、継続する必要性が高い事業と考える。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・数値化できない事業であるが、会計事務の専門性及び能力開発のための対策として担当者だけでなく、課員全員で情報共有に努めたと考える。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・実施方法の変更等でコスト削減できない事業であるが、事業過程に無駄がないか定期的に検証し、コスト削減（人件費）に努めたと考える。											

事務事業の概要	事務事業名	公共施設マネジメント推進事業			担当課	公共施設マネジメント課		事業区分	内部管理事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	962	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	6 財産管理費				基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進			
事業概要	市民に提供する施設サービスを適切に維持するため、施設全体を統括的に企画、管理することで、計画的な保全による長寿命化や施設保有量の最適化を図る事業											
事務事業を構成する細事業	① 公共施設マネジメント検討委員会運営		⑤ 指定管理者選定委員会運営		⑨							
	② 公共施設マネジメント計画推進		⑥		⑩							
	③ 個別計画策定推進		⑦		⑪							
	④ 保全支援（庁内への情報提供）		⑧		⑫							
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	公共施設マネジメント検討委員会開催数	目標	3	3	3	3	3	当初予定回数以上の5回開催。案件付議に柔軟に対応出来ている。			
			実績	3	4	5						
	<指標の計算方法>		年間開催数									
	成果指標	延べ床面積の減少面積	目標	-2,325	-2,325	-2,325	-2,325	-2,325	公営住宅、保育所、小学校、中学校の解体により延床面積が減少し、目標値を達成した。			
			実績	-1,930.75	121.08	-7,545.95						
	<指標の計算方法>		公共施設マネジメント計画の対象施設の内、延べ床面積の減少面積（財産に関する調査から抽出）目標値（目標面積÷40年）									
	成果指標	施設再配置・統廃合による施設減少数	目標	-1	-1	-1	-1	-1	児童保育太陽の子+1、調月宮ノ前住宅△1、保育所（長田、川原、竜門、鞆瀬へき地）△4、桃山小学校△1、桃山中学校△1による施設数減。			
			実績		-2	-6						
	<指標の計算方法>		公共施設マネジメント計画の対象施設の減少数（財産に関する調査から抽出）									
活動指標	指定管理者選定委員会開催数	目標			3	3	3	令和2年度から新たに委員会を立ち上げ、目標どおり選定委員会を3回開催し、紀の川市農村交流施設、青洲の里に係る指定管理者の候補者を設定した。				
		実績			3							
<指標の計算方法>		年間開催数										
コストの実績	R 2年度決算額（単位：千円）			財源内訳								
	14,762			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	10,000	その他	一般財源	4,762	
事業の実績	① 公共施設マネジメント検討委員会運営 ・開催数 5回		・指定管理者の候補者2件の選定									
	② 公共施設マネジメント計画推進 ・公共施設等マネジメントシステムを導入し、施設基本情報、施設評価（劣化・利用・コスト情報）の管理やライフサイクルコスト計算、修繕履歴を記録、活用することで事業の進捗状況を把握し、適宜見直しを図る。											
	③ 個別計画策定推進 ・各課ヒアリング実施（施設の方向性等）											
	④ 保全支援（庁内への情報提供） ・施設改修予算要求内容について、現場確認及び助言											
⑤ 指定管理者選定委員会運営 ・開催数 3回 ・モニタリングマニュアルの策定												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・市民に提供する施設サービスを適切に維持するため、施設の長寿命化及び施設保有数の最適化を図ることが目的のため、市が実施することは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・令和3年度公共施設マネジメント計画策定に向け、令和2年度で個別計画を策定。個別計画の内容を上位計画に反映し、公共施設を将来にわたり持続可能な形で継承する。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・公共施設マネジメント支援システムを活用し、コスト削減に取り組む。											

事務事業の概要	事務事業名	庁舎管理事業			担当課	公共施設マネジメント課		事業区分	内部管理事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	7	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	6 財産管理費				基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進			
取組方針	9	その他										
事業概要	市民、職員が庁舎等を安全、快適に利用できるように、庁舎の適正な管理を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	本庁舎施設管理			⑤					⑨		
	②	職員駐車場料金徴収			⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	日常目視点検	日	目標	244	240	243	243	243	市役所開庁日全て、職員もしくは設備管理者で目視点検を実施した。		
				実績	244	240	243					
	<指標の計算方法>		市役所開庁日における職員若しくは設備管理員による目視点検実施日									
	活動指標	前年度に対する光熱水費の比率	%	目標	98	98	98	98	98	前年度に南別館の漏水修繕を行った事や、新型コロナウイルス感染症の影響によりホールイベントが減少しガス代が減少したことにより、前年度に比べ4パーセントの削減となった。		
				実績	107	99	96					
	<指標の計算方法>		前年度に支出した電気、ガス、水道費の合計に対する割合									
成果指標	庁舎内無事故日数	日	目標	365	366	365	365	365	年間通して、庁舎管理上の瑕疵による無事故を達成した。			
			実績	365	366	365						
<指標の計算方法>		庁舎管理上の瑕疵による事故日のカウント										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	154,206			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
事業の実績	①本庁舎施設管理 ・修繕件数59件(南別館, 河南図書館等含む) ・庁舎総合管理委託業務 ・機械警備委託業務 ・植栽管理委託業務 ・ホール田園音響・照明操作管理委託業務 ・トイレ洗浄器賃貸借業務 ・職員駐車場用地借上業務 ・本庁舎6階ロビーモニター設置工事、委員会室1磁気ループ設置工事、委員会室1スクリーン設置工事 ・新型コロナウイルス感染症防止対策業務(感染予防対策として飛沫感染防止パネル、手指消毒液、サーマルカメラの設置や消毒作業の強化などを実施) ②職員駐車場料金徴収 ・収納額:36,458,400円											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・市民、職員等が安全で快適に利用するためには、適正な維持管理が必要であり、妥当性があるとする。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・引続き、現状の仕様にて成果指標の目標達成を図り、漏水等が発生した場合、速やかに修繕を行う。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・照明や空調等の設備機器更新による、省エネ化改善の余地がある。											

事務事業の概要	事務事業名	市有財産管理事業		担当課	公共施設マネジメント課			事業区分	内部管理事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	465	
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費			施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	6 財産管理費			基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進			
取組方針			3	公共施設マネジメントの推進							
事業概要	市が市有財産の効果的な活用を図るために、市有財産、備品の適正な管理を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	保険加入		⑤					⑨		
	②	市有財産管理		⑥					⑩		
	③	財産取得・処分・払下		⑦					⑪		
	④	未利用財産の活用		⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	不動産鑑定委託件数	目標	5	5	5	5	5	市有財産の有効活用を図る案件が少なく、鑑定対象となる物件は2件に留まった。		
			実績	3		2					
	<指標の計算方法>		市有財産の効果的な活用を図るために実施した不動産鑑定委託件数								
	活動指標	公共施設マネジメント検討委員会付議件数	目標	3	3	3	3	3	①尾崎災害住宅の取壊し②本庁駐車場及び公用倉庫の確保③北島地区農林業共同利用施設の今後の方向性④同施設の売却⑤貴志川旧災害住宅の取壊し⑥学校施設等長寿命化計画(案)⑦公共施設個別施設計画(案)		
			実績	3	4	7					
	<指標の計算方法>		公共施設マネジメント検討委員会に対して議題として付議した件数								
	成果指標	効率的に処分・払下した資産の件数	目標	10	10	10	10	10	前年度に比べ有償による払下件数が減少し、目標件数を下回った。		
実績			9	13	6						
<指標の計算方法>		土地・建物の処分・払下件数のうち有償であったもの									
成果指標	市有財産賃貸借件数	目標	40	40	40	40	40	契約終了した件数に対し新規の件数が同数であったことから、前年度と同数を維持した。			
		実績	44	45	45						
<指標の計算方法>		土地及び建物賃貸借件数(事務所、携帯電話基地局等使用許可含むが、電柱、支線等使用許可は除く)									
コストの実績	R 2年度決算額(単位:千円)			財源内訳							
	74,171			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	74,171	
事業の実績	①保険加入		・保険加入施設数 505件 (一般 423件、水道 59件、下水道 23件)		名手市場143番地4 (33㎡)		・処分・払下件数 9件 (うち有償のもの) 6件				
	②市有財産管理		・財産台帳登録 土地2,751件 合計 7,940,909.98㎡ 建物 801件 延面積 268,879.79㎡		④未利用財産の活用		・土地 市有地貸付 20件 携帯等基地局 8件				
	・雑草等刈取業務委託 市有地 25箇所 2,715,400円		・市有地整備工事(紀の川市粉河地内) 防草シート設置工		・建物 庁舎等貸付 17件						
③財産取得・処分・払下		・取得件数 2件 那賀支所借地購入 名手市場143番地1 (2,303㎡)									
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・市名義の資産の管理業務であり、適正な管理・運用処分等を行うためにも市が実施すべき事業である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・運用処分等にかかる収入件数は過去から安定的に推移しており、一定の効果を維持している。財産台帳システムを導入しているが、所属課が判明しない市有財産を明確にし、有効な運用を可能にするためには、各課の協力が重要である。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
・草刈等の委託が可能な業務について、外部委託することで効率的に業務を進めている。今後、事業全体を通し、委託できる可能性がある業務を研究し、更なる効率化を進めていく必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名	公用車管理事業		担当課	公共施設マネジメント課		事業区分	内部管理事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	464
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営		
		項	1 総務管理費			施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成		
		目	6 財産管理費			基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進		
取組方針			9	その他						
事業概要	職員が公用車を安全で快適に使用できるように、公用車の適切な管理を行う事業									
事務事業を構成する細事業	①	公用車管理		⑤			⑨			
	②	マイクロバス運転及び整備管理		⑥			⑩			
	③	自動車保険加入		⑦			⑪			
	④			⑧			⑫			

指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	成果指標	公用車稼働率	目標	77	77	77	77	77	新型コロナウイルス感染症の影響により、各課で実施する事業やイベント等が中止となったため、稼働率が低下した。		
			実績	77	85	80					
	<指標の計算方法>		公用車管理棟で管理している車両（二輪車以外）の稼働率【（毎月：平日稼働日数÷平日日数）の年間平均】								
	成果指標	市保有の公用車台数	目標	340	340	340	340	340	年度末時点の保有台数は減少しているが、これは車両の入庫時期によるもので実質は横ばいである。		
			実績	340	350	337					
<指標の計算方法>		上下水道部車両、特殊車両（乗用草刈機等）、他団体車両を除く市保有の公用車の台数【基準日：年度末3月31日】									
成果指標	自動車保険請求件数	目標						交通安全研修や安全装置の設置効果から保険請求件数は減少傾向にある。本年度は特に新型コロナウイルス感染症の影響でイベント等が中止となり、公用車の使用回数が減少したことで保険請求件数も減少した。			
		実績	27	26	18						
<指標の計算方法>		事故等（風水害、偶発的事由を除く）により自動車保険を請求した件数【基準日：年度末3月31日】									
<指標の計算方法>											

コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)		財源内訳					
	53,356		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源

事業の実績	①公用車管理 ・公用車事務（車両情報の管理、リース料や燃料費等支払事務と情報管理、整備業者や燃料業者への連絡等） ・車両運行管理業務（運行前後の点検、清掃と自主点検をはじめ車検や修繕の手配、稼働率の算出、自動車事故の報告や対応等） ・安全運転研修の実施 ・新型コロナウイルス感染症防止対策業務（感染予防対策として乗降時の手指消毒、乗車後の消毒作業を実施）		③自動車保険加入 乗用草刈機等の特殊車両を含む公用車の自動車損害共済保険加入業務	
	②マイクロバス運転及び整備管理 ・マイクロバス運転及び整備管理業務委託（マイクロバスの運転、点検、整備管理および清掃等） ・新型コロナウイルス感染症防止対策業務（感染予防対策として乗降時の手指消毒、乗車後の消毒作業、乗車人員の制限を実施）			

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・職員が公用車を安全で快適に使用するためには、本事業による適正な管理、運営が必要であるため妥当性は高い。
	有効性	評価結果	改善の余地がややある ・稼働率調査や経過年数、走行距離、使用目的等に基づき、車両入替や配車等を行うことで適正な維持・管理を実践している。また、公用車は災害時等緊急時にも必要なことから有効性は高い。 ・類似団体の状況を参考に、当市の使用状況等を検証したうえで、適正な保有台数を設定する必要がある。また、職員の安全運転意識の向上や適正予約の啓発を継続して行う必要がある。
	効率性	評価結果	改善の余地がややある ・老朽化した車両の入替、稼働率や使用目的による配車を行うことで適正配置を進め、修繕等の縮減を図っているため、効率性は高い。 ・公用車を適正かつ安全に使用するため、車両の管理等に関する知識や技術を有する業者へ業務委託を行っているが、業務内容等を精査することにより、更に効率性を高める必要がある。

事務事業の概要	事務事業名	鞆淵地区公共施設等再編事業			担当課	公共施設マネジメント課		事業区分	ハード事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度 (R1～R7)		事業番号	1112
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営		
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成		
		目	6 財産管理費				基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進		
事業概要	鞆淵地区の公共施設（出張所、診療所、消防器具庫）の再編を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	鞆淵地区公共施設等再編			⑤				⑨		
	②				⑥				⑩		
	③				⑦				⑪		
	④				⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	指標の分析	
	成果指標	集約した施設数	棟	目標			3	3	3	3	出張所、診療所、消防器具庫の機能集約を目指す。施設の機能性、安全性の向上及び敷地の安全性の向上を図るため事業再考となり、事業期間が延長となった。(完了予定年度＝令和7年度)
				実績			0	0			
	<指標の計算方法>		再編し集約した施設数								
			目標								
			実績								
	<指標の計算方法>										
			目標								
			実績								
	<指標の計算方法>										
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	38,816			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	38,816	
事業の実績	①鞆淵地区公共施設等再編 ・敷地調査選定業務 ・候補地における災害予測調査の実施 ・造成工事測量設計業務 ・拡張検討地の測量業務を実施 ・建築設計業務 ・当初計画に係る設計業務を実施 ・埋蔵文化財発掘調査業務 ・候補地の発掘調査を実施										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・老朽化した施設を集約し地域の中心に利便性の高い施設を建設するため、妥当性はあります。									
	有効性	評価結果	改善の余地が大きい								
・当初計画よりも機能性、利便性及び安全性を向上させるため事業の再考を進めます。 ・再考となったことで事業実施期間延長及び事業費増大の見込みであるため、これらを抑制するための改善・工夫が必要です。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・複数の担当部署で実施すべき事業を当課で一括して進めるため、効率性は高いといえます。 ・複合施設による玄関・トイレなどの共用化によりコスト削減が見込まれます。										

事務事業の概要	事務事業名	旧分庁舎解体整備事業		担当課	公共施設マネジメント課		事業区分	ハード事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度 (H27 ~ R 3)	事業番号	948	
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営		
		項	1 総務管理費			施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成		
		目	6 財産管理費			基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進		
事業概要	紀の川市未利用地検討委員会において今後の活用方針の検討を行った支所（粉河・那賀・桃山）について、敷地の有効活用を図るため、使用しない建築物の解体を行う事業									
事務事業を構成する細事業	①	桃山就業改善センター解体		⑤				⑨		
	②			⑥				⑩		
	③			⑦				⑪		
	④			⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析	
	成果指標	解体した分庁舎数 (累積)	地区	目標	3	3	3	3	令和2年度までに旧粉河分庁舎、旧那賀分庁舎および旧桃山分庁舎の一部（本体部分）の解体が完了し、令和3年度に残りの旧桃山分庁舎（桃山就業改善センター部分）を解体し事業を完了する予定。	
			実績	2	2	2				
	<指標の計算方法>		解体した分庁舎が属する地区数（複数棟であっても同一地区の場合1地区で計上）							
			目標							
			実績							
	<指標の計算方法>									
		目標								
		実績								
<指標の計算方法>										
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳						
	1,540			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	
					1,400			140		
事業の実績	①桃山就業改善センター解体 ・解体工事に係る設計業務を実施									
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない							
		老朽化した施設の解体を計画的に進めるため妥当性はある。								
	有効性	評価結果	改善の余地がない							
各地区の不要な旧分庁舎を処分し、敷地の有効活用を図るため有効性はある。										
効率性	評価結果	改善の余地がない								
	敷地内にある管理部署の異なる施設を一括して解体整備するため、効率性は高い。									

事務事業の概要	事務事業名	施策計画管理事業			担当課	企画経営課		事業区分	内部管理事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	479
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営		
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成		
		目	7 企画経営費				基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進		
事業概要	行政評価による行政経営システムを運用し、限りある資源を有効に活用し、計画的に行政経営を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	庁議・部長会運営			⑤	市民意識調査業務		⑨			
	②	施策調整・調査研究業務			⑥	施策評価・事務事業評価		⑩			
	③	和歌山社会経済研究所負担金			⑦	市長会要望		⑪			
	④	辺地計画進行管理業務			⑧	パブリックコメント		⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	庁議付議件数	目標						庁議等設置規程に基づき、市政運営の基本方針や重要施策についての審議決定を行った。		
			実績	17	29	28					
	<指標の計算方法>		庁議へ付議された審議案件の件数								
	活動指標	パブリックコメント実施件数	目標						市政運営に対する市民参画のひとつの手法として、計画策定時等において市民意見の募集を実施した。		
実績			4	6	4						
<指標の計算方法>		各種計画策定時等に実施したパブリックコメント（市民意見募集手続）の回数									
活動指標	行政評価研修開催回数	目標	2	2	2	2	2	新型コロナウイルス感染症の影響で開催時期が遅くなったため、2回の予定のうち1回は指定管理者制度に関する研修会として実施した。			
		実績	2	2	1						
<指標の計算方法>		職員対象に実施した行政評価制度に関する研修会の回数									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	2,572			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	2,572	
事業の実績	①庁議・部長会運営 ・庁議(20回)、部長会(11回)を開催 【庁議における主な審議事項】 ・各種計画等の策定、改訂について(紀の川市災害廃棄物処理計画ほか：計3件) ・災害協定等の締結について(計15件) ・条例の制定、改正について(紀の川市債権管理条例の制定ほか：計3件) ・令和3年度当初予算編成方針について ・第2期 紀の川市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について			④辺地計画進行管理業務 ・中瀬辺地及び東部辺地における総合整備計画を変更し、議会へ上程しました。			書として活用しました。				
	②施策調整・調査研究業務 ・新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の活用及び緊急的に実施する必要のある施策の調整を行いました。			⑤市民意識調査業務 ・令和3年1月実施 ・対象者：1,500名(18歳以上75歳未満) ・回答率：36.5%			⑦市長会要望 ・市単独では解決が難しい課題等について、市長会を通じて、国(省庁)や県に対して要望を実施しました。				
	③和歌山社会経済研究所負担金 ・刊行物等を通じて調査・研究成果の情報提供を受けました。			⑥施策評価・事務事業評価 ・関西学院大学稲沢教授を招き、事務事業評価の研修会を開催し、行政評価制度の運用に関するアドバイスを受けました。 ・第2次長期総合計画の40基本施策を対象に施策評価を実施しました。 ・事務事業評価は、令和元年度実施事業の正式評価と令和2年度実施事業の仮評価(年度末評価)を実施しました。 ・事務事業評価を決算主要施策の成果報告			⑧パブリックコメント ・市政運営に市民意見を反映させるため、計画策定時等にパブリックコメントを実施しました。(実施数4件、意見1件)				
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・市が策定した計画における施策や成果の進捗管理は、市が実施するべきであり、他の実施主体は考えられないため、妥当性がある。 ・市民意識調査の実施により、施策全般に対する市民ニーズの把握を行っている。 ・先進地視察や先進事例の情報収集により、従来の手法にとらわれない新たな事業方策についての検討を進めている。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・行政評価の結果に基づく事務事業の改善内容を着実に次年度以降の実施計画、予算へと反映させる取組の強化が必要である。 ・本事業の成果を向上させていくためには、市職員の視点だけでなく外部の専門家の視点を取り入れていく必要がある。 ・パブリックコメントに寄せられる意見が少ないため、より多くの市民に周知する方法を検討する必要がある。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・事務事業評価結果を多方面に活用することで、事務の効率化につながる要素があることから、活用方策の検討が必要である。										

事務事業の概要	事務事業名	広域連携事業			担当課	企画経営課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	476
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営		
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成		
		目	7 企画経営費				基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進		
事業概要	広域的な課題の解決や施策の推進を図るために、近隣市町村と共通課題等の情報・意見交換や連携を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	広域連携のあり方に関する意見交換会			⑤	全国半島振興市町村協議会		⑨			
	②	吉野川・紀の川流域協議会			⑥			⑩			
	③	自転車を活用したまちづくりを推進する全国市区町村長の会			⑦			⑪			
	④	紀淡連絡道路実現期成同盟会			⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	広域連携のあり方に関する意見交換会への出席	目標						意見交換会への出席回数で、広域連携・連携中枢都市圏構想に向けた市の取組の指標となる。当年度においてはコロナ禍の影響により意見交換会が開催されなかった。		
			実績	5	3						
	<指標の計算方法>		広域連携のあり方に関する意見交換会への出席								
	活動指標	吉野川・紀の川流域協議会定例会等への出席	目標						定例会等への出席回数で、流域協議会に継続的に参加していることの指標となる。当年度においてはコロナ禍の影響により自主事業が実施できず、定例会等の開催回数が減少するとともに書面開催となった。		
			実績	7	6						
	<指標の計算方法>		吉野川・紀の川流域協議会定例会等への出席								
	成果指標	吉野川・紀の川流域協議会自主事業への参加者合計	目標	20	20	20	20	吉野川・紀の川流域協議会自主事業への市民の関心を示す指標となる。当年度においてはコロナ禍の影響により自主事業が実施できなかった。			
			実績	12	9						
	<指標の計算方法>		体験学習会、水環境講演会、源流体験会への参加者の合計								
活動指標	自転車活用に係る会議やイベント等への参加回数	目標						当年度においてはコロナ禍の影響により、会議は書面開催となった。			
		実績	1	1							
<指標の計算方法>		自転車を活用したまちづくりを推進する全国市区町村長の会への参加回数									
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	60			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	60	
事業の実績	①広域連携のあり方に関する意見交換会 ・連携中枢都市圏を目指す4市1町の協議 ・コロナ禍の影響により、当年度においては意見交換会の開催実績なし			④紀淡連絡道路実現期成同盟会 ・大阪・和歌山及び淡路島の市町で構成する会 ・当年度総会は書面開催 ・担当課長会議に出席 (7/22) ・代表幹事による中央要望活動 (10/18)							
	②吉野川・紀の川流域協議会 ・吉野川・紀の川流域の奈良1市3町3村、和歌山4市3町で構成する協議会 ・8/6 定例総会 (書面開催) ・幹事会 (2回・書面開催) ・コロナ禍の影響により、当年度においては自主事業の開催実績なし			⑤全国半島振興市町村協議会 ・半島振興法の適用を受ける全国の市町村で構成される協議会 ・負担金を支出							
	③自転車を活用したまちづくりを推進する全国市区町村長の会 ・全国391自治体で構成する会 ・8/6 定例総会 (書面開催) ・役員による要望活動 (10/18)										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・近隣市町が広域で連携し、共通課題の解決や施策の推進を図ることで、市民サービスの向上につながることを前提とした取組であり、市の関与は妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・広域連携のあり方については、共通の課題の解決につながるため有効性があるが、他の連携項目についても連携するメリットの検証が必要である。 ・吉野川・紀の川流域協議会では、参加募集型の各事業への参加希望者が少ないことから関心の低さは顕著であり、情報発信のみならず実施内容等も検討課題である。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・連携して実施する会議や事業の中には、定例化により形骸化もみられるが、最小限度の費用負担であり改善の余地は少ない。										

事務事業の概要	事務事業名	土地利用計画事業			担当課	企画経営課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	475	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境			
		項	1 総務管理費				施策目標	1	都市基盤整備・公共交通			
		目	7 企画経営費				基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備			
取組方針	1	計画的な土地利用の促進										
事業概要	計画に基づく適正な土地利用を行ってもらうために、土地売買届出書の受理や無届土地取引の調査等を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	国土利用計画			⑤					⑨		
	②	近郊緑地保全区域			⑥					⑩		
	③	公有地拡大推進			⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	土地売買等届出書の届出件数	件	目標							届出は売買契約単位で行う必要があり、令和元年度は1計画で複数の届出があったため件数が多くなったが、令和2年度も比較的活発に土地売買が行われているといえる。	
				実績	5	14	7					
	<指標の計算方法>		制度に基づき提出された土地売買等届出書の届出件数									
	活動指標	土地売買等届出制度の周知回数	回	目標	1	1	2	2	2	届出が必要な要件、期限等を周知することで無届取引や遅延届出の防止を図るもので、例年通り10月の土地月間に合わせて広報紙で周知を行い、3月にはホームページのトップページ（お知らせ）にも掲載した。		
				実績	1	1	2					
	<指標の計算方法>		広報紙・ホームページ等での土地売買等届出制度の周知回数									
	活動指標	無届取引等把握調査で判明した無届件数	件	目標						制度が浸透していることを表す指標となるが、令和2年度は土地取引件数に対する無届件数が多くなっており、周知回数や方法の見直しが必要である。		
				実績	4	10	10					
	<指標の計算方法>		無届取引等把握調査で判明した無届件数									
活動指標	近郊緑地保全区域内行為（変更）届出件数	件	目標						近畿圏の保全区域の整備に関する法律に基づく届出で、近郊緑地内の開発回数を把握する指標になるが、令和2年度において届出はなかった。			
			実績		1							
<指標の計算方法>		近郊緑地保全区域内行為（変更）届出件数										
コストの実績	R 2年度決算額（単位：千円）			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
		21			21							
事業の実績	①国土利用計画 ・国土利用計画法に基づく土地売買届出書の受理、無届土地取引の調査等で、当年度は届出件数7件、事務交付金として26,676円の申請手続を行った。また土地月間には広報紙などで制度啓発を行いました。											
	②近郊緑地保全区域 ・近畿圏の保全区域の整備に関する法律に基づき指定される保全区域（和泉山脈）における開発に関する届出書の受理であるが、当年度は0件でした。											
	③公有地拡大推進 ・公有地の拡大の推進に関する法律に基づく土地売買届出書の受理であるが、当年度は0件でした。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がややある									
		・国土利用計画法に基づく事業であり、適正な土地利用を促すため自治体が行うことは妥当であるが、県の移譲事務であるため、届出者のニーズや利便性等を考慮し、実施主体の検討も必要と考える。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・制度の周知に努め、期限後の届出を減らす必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・県から移譲事務に対する交付金も交付されるものの、届出件数分での算出でしかなく、無届取引や遅延届出の処理など事務量の増加が生じている。事務処理マニュアル等を充実させることにより、効率性の向上につなげたいと考えている。											

事務事業の概要	事務事業名		空港活性化促進事業				担当課	企画経営課		事業区分	ソフト事業		
	会計		一般会計				新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	489
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営					
		項	1 総務管理費			施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成					
		目	7 企画経営費			基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進					
事業概要		関西国際空港周辺の自治体と連携し、空港活性化のための事業を行い、関西国際空港の利用者数の増加を図る事業											
事務事業を構成する細事業		①	空港活性化促進業務		⑤					⑨			
		②	関西国際空港連絡南ルート等早期実現期成会		⑥					⑩			
		③			⑦					⑪			
		④			⑧					⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析				
	活動指標	中央要望回数	回	目標	1	1	1	1	1	国土交通省及び衆議院会館内の大阪・和歌山選出の議員事務所を訪問し、要望内容の説明及び要望書の手渡しに参加するもので南ルート等早期実現期成会の重要事業。			
			実績	1	1	1							
	<指標の計算方法>		地元選出国會議員、国土交通省等への南ルートの実現等に関する要望回数										
	活動指標	空港に関する総会・会議出席回数	回	目標						関西国際空港連絡南ルート等早期実現期成会として開催される幹事会・総会は、新型コロナウイルス感染症の影響により書面会議となった。			
			実績	4	3								
	<指標の計算方法>		空港に関する総会・幹事会等会議への出席回数										
			目標										
			実績										
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	26			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			26	
事業の実績	①空港活性化促進業務 ・関西国際空港全体構想促進協議会総会へは新型コロナウイルス感染症の影響により出席を見合わせました。												
	②関西国際空港連絡南ルート等早期実現期成会 ・大阪4市2町、和歌山4市で構成する期成会で、当年度は幹事会、総会とも書面会議となった。また、10/20に中央に要望書を提出しました。												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・関西国際空港は市民にとって一番身近な空港であり、利用促進や空港の活性化自体は運営会社が担うべきものであるが、利用者の増加やインバウンドなど地域経済にもたらす効果、また、中央要望への自治体関与の必要性を考慮すれば市の関与は妥当である。											
	有効性	評価結果	改善の余地がややある										
・関西国際空港連絡南ルート等の実現など、現時点では具体化されていない要望段階であるが、今後も社会的動向に注視しながら活動を継続していく必要がある。													
効率性	評価結果	改善の余地がない											
	・コストの面では現在、空港活性化に向けての要望活動など最小限の経費で実施しており、今後も積極的に参加、関与していく必要があるため効率性は高いといえる。												

事務事業の概要	事務事業名	行財政改革推進事業			担当課	企画経営課			事業区分	内部管理事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	963	
	予算科目	款	2	総務費	長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営				
		項	1	総務管理費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成				
		目	7	企画経営費		基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進				
取組方針	2	行財政改革の着実な推進										
事業概要	市が適正かつ効率的な行財政の運営をするために、第3次紀の川市行財政改革大綱に基づき、内部及び外部組織により計画策定や進捗管理を行い、その状況を公表する事業											
事務事業を構成する細事業	①	行財政改革推進委員会運営			⑤	職員提案制度			⑨	行政手続における押印の見直し業務		
	②	行財政改革推進本部運営			⑥	地方分権推進業務			⑩			
	③	行財政改革推進部会			⑦	組織機構改革業務			⑪			
	④	民間委託・民営化推進業務			⑧	有料広告審査業務			⑫			
指標の実績	活動指標	指標名	単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
		行財政改革推進委員会開催回数	回	目標	2	1	1	1	1	行財政改革推進委員会を1回開催。市長への答申を行った。		
		実績	1	1	1							
	<指標の計算方法>	行財政改革推進委員会年間開催回数										
	成果指標	職員提案制度の提案採択件数	件	目標	4	4	4	4	4	4件の職員提案があり、「動画配信サービスを活用した生涯学習の復興」「地域巡回バスを含む紀の川市公用車を利用した広告事業の実施」の2件を採択した。		
		実績	7	4	2							
		<指標の計算方法>	職員提案制度の提案採択件数									
	成果指標	行財政改革大綱推進項目の取組件数	項目	目標	5	5	5	5	5	指定管理者制度の研修や行政手続きにおける押印見直しを実施した。		
		実績	8	12	10							
		<指標の計算方法>	行財政改革大綱推進項目の取組件数									
活動指標	行財政改革の進捗状況の公表	件	目標	1	1	1	1	1	進捗状況についてホームページで公表を行った。			
	実績	1	1	1	1	1	1	1				
	<指標の計算方法>	行財政改革の進捗状況の公表件数										
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	49			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
事業の実績	①行財政改革推進委員会運営 ・第1回推進委員会 ・第3次紀の川市行財政改革大綱 令和2年度推進計画について事務局から説明をし、市長への答申を行いました。 ②行財政改革推進本部運営 ・第1回推進本部会議 ・令和2年度の重点推進項目を決定・進捗管理を行いました。 ③行財政改革推進部会 ・令和2年度の重点推進項目について、行政経営部会、人事部会、施設部会、財政部会の4つの部会でそれぞれ取組を行いました。 ④民間委託・民営化推進業務 ・指定管理者制度についての研修を実施しました。 ⑤職員提案制度 ・4件の職員提案があり、うち2件の採択を行いました。											
	⑥地方分権推進業務 ・「和歌山県の事務処理の特例に関する条例」に基づき権限移譲を受けた事務について、交付金の交付を受けました。 ⑦組織機構改革業務 ・健康推進課に新型コロナウイルスワクチン接種班を新設しました。 ⑧有料広告審査業務 ・暮らしのガイドブックに係る広告掲載の審査を行いました。 ⑨行政手続における押印の見直し業務 ・1,305の手続きについて押印の見直しを行いました。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		今後の人口推移や財政状況、地域特性に合わせた行財政改革を、市が主体的に推進していく必要があることから妥当性は高い。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・行財政改革推進委員会について、RPAなどのICT技術や指定管理者制度などの行政制度を外部委員に説明することが難しく、取組内容について効果的な提言をいただくことが困難になっている。 ・職員提案制度について、単なる思いつきの提案にならないようにEBPMの理解を進める必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	本事業を通じて、ICT化の推進による事務効率の向上や押印見直しなど内部事務の効率化を図る必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名	まち・ひと・しごと創生総合戦略等策定事業			担当課	企画経営課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	完了	事業期間	期間限定複数年度 (R1～R2)	事業番号	1124	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営		
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成		
		目	7 企画経営費				基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進		
事業概要	計画的な地方創生の取組を進めるため、紀の川市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定する事業										
事務事業を構成する細事業	①	まち・ひと・しごと創生総合戦略等改定			⑤				⑨		
	②	まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会運営			⑥				⑩		
	③	まち・ひと・しごと創生本部会運営			⑦				⑪		
	④				⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	指標の分析		
	活動指標	まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会開催回数	目標			3	5			コロナ禍の影響により書面での審議会や会議開催回数の削減を図り、前年度と同回数の開催となった。	
			実績			3	3				
	<指標の計算方法>		年間の会議開催回数								
	活動指標	まち・ひと・しごと創生本部会議開催回数	目標			4	5			コロナ禍の影響もあり、前年度より会議の開催回数が減少した。	
			実績			4	3				
	<指標の計算方法>		年間の会議開催回数								
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R2年度決算額 (単位:千円)			財源内訳							
	3,362			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	3,362	
事業の実績	①まち・ひと・しごと創生総合戦略等改定 ・第2期紀の川市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定 (令和3年3月)			まち・ひと・しごと創生総合戦略の審議結果等について審議 ・第3回本部会議 (1月15日) 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略について審議							
	②まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会運営 ・第1回審議会 (7月22日) 令和元年度地方創生推進交付金の効果検証等について審議 ・第2回審議会 (9月24日) 総合戦略の進捗管理等について審議 ・第3回審議会 (1月19日) 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略等について審議										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
			・人口の減少に歯止めをかけるとともに、地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある社会を維持していくために、地方創生に向けた計画を定め、着実に進捗を図る必要がある。								
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
		・第2次紀の川市長期総合計画と整合をとり、市の政策体系に結びつけている。									
効率性	評価結果	改善の余地がない									
		・最小限の事業費、人件費で事業を実施しており削減の余地はない。									

事務事業の概要	事務事業名	粉河支所運営事業			担当課	粉河支所		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1052	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	8 支所及び出張所費				基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進			
事業概要	市民が市民サービスを受けられるように、粉河支所を開設、運営する事業											
事務事業を構成する細事業	①	窓口対応			⑤				⑨			
	②	各団体支援			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	各種支援団体数	団体	目標	7	6	5	5	6	支所が事務局となっている全ての団体の支援を行っています。民生委員推薦準備会は、令和元年度は会議を開催しましたが2年度は委員の改選、また欠員もなく活動をしていないため、目標及び実績から除いています。		
			実績	7	6	5						
	<指標の計算方法>		区長会、消防団、交通指導員会、民生委員、敬老会実行委員会									
	成果指標	支援実施数	回	目標	124	107	105	87	87			
			実績	167	141	64						
	<指標の計算方法>		各団体への会議、活動等の支援回数									
活動指標	業務対応件数	件	目標	21,000	20,000	19,500	21,000	21,000	業務対応件数は、目標値を上回る結果となっています。			
		実績	25,181	24,485	23,939							
<指標の計算方法>		来庁、郵送等による証明書発行、各種申請書受理、相談、苦情等の対応件数										
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	6,079			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
事業の実績	①窓口対応 23,939件 (主な業務) ・交通防犯、消防、区長会関係業務 ・建設部、農林商工部の各種補助事業相談、申請受付 ・市道等の維持補修、あき地適正管理指導 ・農業委員会業務の受付、相談 ・出生届、婚姻届、死亡届など各種届出 ・印鑑登録、印鑑登録証明 ・戸籍謄・抄本、住民票の発行 ・埋火葬許可証発行 ・税関係各種証明書発行、税務相談 ・学校施設借用申請受付 ・指定ゴミ袋等販売 ・生活保護相談 ・身体障害者手帳・療育手帳の申請受付、交付 ・各種福祉手当の申請受付 ・要介護等申請受付、相談 ・福祉医療関係相談、受付			②各団体支援 ・交通指導員会 22回 ・消防団 20回 ・区長会 6回 ・民生児童委員協議会 15回 ・敬老会実行委員会 1回			<ul style="list-style-type: none"> 国民健康保険加入受付、各種届出受理 後期高齢者医療各種届出受理 国民年金加入、喪失等各種手続き 個人番号カード受付 特別定額給付金申請受付 特別弔慰金受付 					
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・直接住民サービスに影響を及ぼすので、市が実施する以外は考える余地はない。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・例年であれば目標値以上の実績であるため、改善する余地はない。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・多岐にわたる住民ニーズおよび困難案件に対応するため、コスト削減する事業ではない。											

事務事業の概要	事務事業名	粉河支所施設管理事業			担当課	粉河支所		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1053	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	8 支所及び出張所費				基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進			
事業概要	市民が支所を安全で快適に利用できるように、粉河支所の適切な維持管理や改修を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	粉河支所施設管理			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	施設目視点検	日	目標	244	240	243	240	243	目標どおり開庁日の就業時間前に入口付近を中心とした目視点検を行っています。		
				実績	244	240	243					
	<指標の計算方法>		開庁日に施設内の目視点検を行う日数									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
	1,190										1,190	
事業の実績	①粉河支所施設管理 粉河ふるさとセンター内にある支所を適切に維持管理しました。											
	施設修繕 ・電話機取替修繕 ・新型コロナウイルス感染症対策サーマルカメラ購入											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・市の施設であり、利用者の安全確保の観点から市が実施主体になるのが当然である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・支所内での事故はなく、来所者からの苦情もない状況である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・開庁前に職員で目視点検を行い、最小限の経費で施設管理を行っている。											

事務事業の概要	事務事業名		那賀支所運営事業			担当課	那賀支所		事業区分	ソフト事業		
	会計		一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1054
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営				
		項	1 総務管理費			施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成				
		目	8 支所及び出張所費			基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進				
事業概要		市民が市民サービスを受けられるように、那賀支所を開設、運営する事業										
事務事業を構成する細事業		①	窓口対応	⑤					⑨			
		②	地域振興業務	⑥					⑩			
		③		⑦					⑪			
		④		⑧					⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	各種支援団体数	団体	目標	6	5	5	5	6	支所が事務局となっている全ての団体の支援を行います。		
			実績	6	6	5						
	<指標の計算方法>		交通指導員会、消防団、区長会、民生児童委員協議会、敬老会実行委員会									
	成果指標	支援実施数	回	目標	80	85	80	80	80	新型コロナウイルス感染対策により行事・会議等が減少した為、支援が目標より下まわった。		
			実績	129	96	70						
	<指標の計算方法>		各団体への会議、活動等の支援回数									
活動指標	業務対応件数	件	目標	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	目標を上回る成果となっています。			
		実績	14,636	15,921	15,563							
<指標の計算方法>		来庁、郵送等による証明書発行、各種申請書受理、相談、苦情等の対応件数										
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	4,059			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	4,059		
事業の実績	①窓口対応 15,563件 (主な業務) ・交通防犯、消防、区長会関係業務 ・建設部、農林商工部の各種補助事業相談、申請受付 ・市道等の維持修繕、あき地適正管理指導 ・農業委員会業務の受付、相談 ・出生届、婚姻届、死亡届など各種届出 ・印鑑登録、印鑑登録証明 ・戸籍簿・抄本、住民票の発行 ・埋火葬許可証発行 ・税関係各種証明書発行、税務相談 ・学校施設借用申請受付 ・指定ゴミ袋等販売 ・生活保護相談 ・身体障害者手帳・療育手帳の申請受付、交付 ・各種福祉手当の申請交付 ・要介護等申請受付、相談 ・福祉医療関係相談、受付			・国民健康保険加入受付、各種届出受理 ・後期高齢者医療各種届出受理 ・国民年金加入、喪失等各種手続き ・個人番号カード受付 ・浄化槽設置整備事業現場立会い			②各団体支援 ・交通指導員会 20回 ・消防団 14回 ・区長会 5回 ・民生委員児童委員協議会 30回 ・敬老会実行委員会 1回					
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・地域住民生活に直接影響を及ぼす事業であるため、継続して実施すべきである。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・目標に近い実績であり改善の余地はない。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・多種多様な住民ニーズに対応するため、現体制で可能な限り対応する。											

事務事業の概要	事務事業名		那賀支所施設管理事業				担当課	那賀支所		事業区分	ソフト事業		
	会計		一般会計				新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1055
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営					
		項	1 総務管理費			施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成					
		目	8 支所及び出張所費			基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進					
事業概要		市民が支所を安全で快適に利用できるように、那賀支所の適切な維持管理や改修を行う事業											
事務事業を構成する細事業		①	那賀支所施設管理		⑤					⑨			
		②			⑥					⑩			
		③			⑦					⑪			
		④			⑧					⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析				
	活動指標	那賀保健福祉センター施設管理業務	件	目標	12	13	12	9	9	施設のメンテナンスを徹底し、施設内の点検を定期的に行い、優先順位を決め修理し来庁者に快適な環境を提供する。			
				実績	15	19	12						
	<指標の計算方法>		施設の維持管理・保守、修繕の件数										
			目標										
			実績										
	<指標の計算方法>												
		目標											
		実績											
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	9,064			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源				
			9,064										
事業の実績	①那賀支所施設管理												
	業務委託 <ul style="list-style-type: none"> ・機械警備業務 ・清掃業務 ・電気保安業務 ・エレベーター保守点検業務 ・消防設備保守点検業務 ・特殊建築物建築設備定期検査業務 ・特殊建築物防火設備定期検査業務 ・貯水槽清掃等委託業務 施設修繕 <ul style="list-style-type: none"> ・非常灯照明バッテリー取替修繕 ・ワイヤレスマイク設備更新 ・那賀支所事務椅子購入 新型コロナウイルス対策 <ul style="list-style-type: none"> ・サーマルカメラ設置 												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・市民が安全に施設を利用していくために、施設管理に必要な修繕等を行う事業である。											
	有効性	評価結果	改善の余地がややある										
・施設管理の業務委託を実施していくことで、良好に維持できており来庁者からの苦情もない。 ・施設建設後20年以上経過しており、今後、大規模な改修・更新が必要と考えられる。													
効率性	評価結果	改善の余地がない											
	・今後も計画的な修繕を実施していくことが効率性を高めると考える。												

事務事業の概要	事務事業名	那賀支所改修整備事業			担当課	那賀支所		事業区分	ハード事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度 (H30 ~ R 4)	事業番号	1058	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営		
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成		
		目	8 支所及び出張所費				基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進		
事業概要	市民がより快適に支所を利用し、行政サービスを受けられるように、那賀支所（那賀保健福祉センター）の老朽化した設備等の全面改修を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	那賀支所整備			⑤				⑨		
	②				⑥				⑩		
	③				⑦				⑪		
	④				⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	那賀保健福祉センター空調改修契約件数	目標	1	2				空調改修工事 平成30年度設計 平成31年度工事完了		
			実績	1	2						
	<指標の計算方法>		那賀保健福祉センター空調改修契約件数								
	活動指標	那賀保健福祉センター屋上防水改修契約件数	目標	2					屋上防水改修工事 平成30年度改修済み。		
			実績	2							
	<指標の計算方法>		那賀保健福祉センター屋上防水改修契約件数								
	活動指標	那賀保健福祉センター外壁改修工事	目標				2		整備計画を立てた。 令和3年度 設計監理業務1件 令和3年度 外壁改修工事1件		
実績											
<指標の計算方法>		那賀保健福祉センター外壁改修工事契約件数									
活動指標	那賀保健福祉センター照明器具LED化工事	目標					2	令和4年度 設計監理業務1件 令和4年度 照明LED化工事1件			
		実績									
<指標の計算方法>		那賀保健福祉センター照明器具LED化契約件数									
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
事業の実績	①那賀支所整備 改修計画の策定										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
			・那賀保健福祉センター設備の老朽化により計画的な改修が必要である。								
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
		・那賀保健福祉センター設備の計画的な改修が必要である。									
効率性	評価結果	改善の余地がない									
		・那賀保健福祉センター設備の老朽化により計画的な改修が必要である。									

事務事業の概要	事務事業名	桃山支所運営事業			担当課	桃山支所		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1056
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営		
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成		
		目	8 支所及び出張所費				基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進		
取組方針				9	その他						
事業概要	市民が市民サービスを受けられるように、桃山支所を開設、運営する事業										
事務事業を構成する細事業	①	窓口対応			⑤			⑨			
	②	各団体支援			⑥			⑩			
	③				⑦			⑪			
	④				⑧			⑫			

指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	各種支援団体数	団体	目標	8	8	8	8	8	桃山地域特有の団体も含め、目標どおりの団体支援を実施できている。		
			実績	8	8	8						
	<指標の計算方法>		区長会、消防団、交通指導員、民生委員、敬老会実行委員会、あら川の桃振興協議会、中国研修生協議会、民生委員推薦準備会									
	成果指標	支援実施数	回	目標	150	150	150	150	150	新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から、会議の中止または書面による表決がほとんどであった。活動については、それぞれの団体に所属する住民が工夫して取り組んでおり、その支援もできた。		
			実績	144	146	92						
<指標の計算方法>		各団体への会議、活動等の支援回数										
活動指標	業務対応件数	件	目標	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000	目標に近い成果となっている。			
		実績	17,777	17,393	17,422							
<指標の計算方法>		来庁、郵送等による証明書発行、各種申請書受理、相談、苦情等の対応件数										
<指標の計算方法>												

コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)		財源内訳					
	6,028		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源

事業の実績	①窓口対応 17,422件 (主な業務) ・交通防犯、消防、区長会関係業務 ・建設部、農林商工部の各種補助事業相談、申請受付 ・市道等の維持補修、あき地適正管理指導 ・農業委員会業務の受付、相談 ・出生届、婚姻届、死亡届など各種届出 ・印鑑登録、印鑑登録証明 ・戸籍謄・抄本、住民票の発行 ・埋火葬許可証発行 ・税関係各種証明書発行、税務相談 ・学校施設借用申請受付 ・指定ゴミ袋等販売 ・生活保護相談 ・身体障害者手帳・療育手帳の申請受付、交付 ・各種福祉手当の申請受付 ・要介護等申請受付、相談 ・福祉医療関係相談、受付	・国民健康保険加入受付、各種届出受理 ・後期高齢者医療各種届出受理 ・国民年金加入、喪失等各種手続き ・個人番号カード受付	②各団体支援 交通指導員会 21回 消防団 10回 区長会 8回 民生委員児童委員協議会 12回 あら川の桃振興協議会 23回 中国研修生受入協議会 17回 敬老会実行委員会 会議 1回 民生委員推薦準備会 会議0回
-------	---	--	--

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・桃山地区において行政サービスを行うため、市が実施する以外に考える余地はなく妥当である。
	有効性	評価結果	改善の余地がない ・ほぼ目標件数どおり実施できており、桃山地区の住民へのサービスは十分できていると思われる。改善の余地はない。
	効率性	評価結果	改善の余地がない ・団体事務局も行いながら、現状の職員でできる限り各種の業務に対応しており、改善の余地はない。

事務事業の概要	事務事業名	桃山支所施設管理事業			担当課	桃山支所		事業区分	ソフト事業				
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1057		
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営				
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成				
		目	8 支所及び出張所費				基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進				
事業概要	市民が支所を安全で快適に利用できるように、桃山支所の適切な維持管理や改修を行う事業												
事務事業を構成する細事業	①	桃山支所施設管理			⑤				⑨				
	②				⑥				⑩				
	③				⑦				⑪				
	④				⑧				⑫				
指標の実績	指標名	単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析				
	活動指標	桃山支所施設管理業務	件	目標	11	10	10	10	10	支所利用者に不便をかけないように、専門資格の必要な維持管理において業務委託を行う。修繕が発生した場合は、早急を実施し、長寿命化を図る。			
				実績	11	10	13						
	<指標の計算方法>		支所管内の維持管理とメンテナンス										
			目標										
			実績										
	<指標の計算方法>												
		目標											
		実績											
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	4,741			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	4,741			
事業の実績	①桃山支所施設管理 業務委託の締結 定期清掃業務 機械警備業務 電気保安業務 エレベーター保守点検業務 消防設備保守点検業務 支所修繕の実施 エアコン修繕 2回 非常用誘導灯修繕 支所防水修繕 トイレ修繕 出入口ドア修繕 蛍光灯修繕 新型コロナウイルス対策 サーマルカメラ設置												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
			・行政サービスの出先機関として、利用者に快適に支所を利用いただくために必要である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
		・委託業務や修繕業務を滞りなく実施することで、来庁者からの苦情はほとんどない。											
効率性	評価結果	改善の余地がない											
		・最低限の予算内で施設管理を実施する。											

事務事業の概要	事務事業名		貴志川支所運営事業				担当課		貴志川支所		事業区分	ソフト事業	
	会計		一般会計				新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1059
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営					
		項	1 総務管理費			施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成					
		目	8 支所及び出張所費			基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進					
事業概要		市民が市民サービスを受けられるように、貴志川支所を開設、運営する事業											
事務事業を構成する細事業	① 窓口対応		⑤		⑨								
	② 各団体支援		⑥		⑩								
	③		⑦		⑪								
	④		⑧		⑫								
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析				
	活動指標	各種支援団体数	団体	目標	5	5	5	5	5	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、丸栖敬老会が中止となった。			
			実績	6	6	4							
	<指標の計算方法>		区長会、消防団、交通指導員会、民生委員児童委員協議会、丸栖敬老会実行委員会										
	成果指標	支援実施数	回	目標	200	200	100	100	100	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、各団体の会議、活動等が一部中止になり、支援実施数は減少しているが、活動についてはそれぞれの委員等が感染予防策を講じたうえで取り組んでおり地域住民との関わりを維持できている。			
			実績	151	99	45							
	<指標の計算方法>		各団体への会議、活動等の支援回数										
	成果指標	業務対応件数	件	目標	43,000	43,000	42,000	43,000	43,000	窓口業務や現場確認、応急対応などを行う。			
			実績	41,393	41,084	43,639							
	<指標の計算方法>		来庁、郵送等による証明書発行、各種申請書受理、相談、苦情等の対応件数										
			目標										
			実績										
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	4,216			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源				
			4,216										
事業の実績	①窓口対応 43,639件 (主な業務) ・交通防犯、消防、区長会関係業務 ・建設部、農林商工部の各種補助事業相談、申請受付 ・市道等の維持補修、空地適正管理指導 ・農業委員会業務の受付、相談 ・出生届、婚姻届、死亡届など各種届出 ・印鑑登録、印鑑証明 ・戸籍謄・抄本、住民票の発行 ・埋火葬許可証発行 ・税関係各種証明書発行、税務相談 ・学校施設借用申請受付 ・指定ごみ袋等販売 ・生活保護相談 ・身体障害者手帳・療育手帳の申請受付、交付 ・各種福祉手当の申請受付 ・要介護等申請受付、相談 ・福祉医療関係相談、受付			・国民健康保険加入受付、各種届出受理 ・後期高齢者医療各種届出受理 ・国民年金加入、喪失等各種手続き ・個人番号カード受付			②各団体支援 ・区長会 7回 ・消防団 3回 ・交通指導員会 20回 ・民生委員児童委員協議会 15回						
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・生活と密接した地域に行政の出先機関があることは周辺住民にとって必要性が高い。											
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
・年少者や高齢者など移動に制約のある方へのサービス提供に特に有効である。													
効率性	評価結果	改善の余地がない											
	・サービス拠点を分散して身近に設けることは周辺住民の利便性を高め効率的である。												

事務事業の概要	事務事業名	貴志川支所施設管理事業			担当課	貴志川支所		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1060
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営		
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成		
		目	8 支所及び出張所費				基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進		
事業概要	市民が支所を安全で快適に利用できるように、貴志川支所の適切な維持管理や改修を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	貴志川支所施設管理			⑤				⑨		
	②				⑥				⑩		
	③				⑦				⑪		
	④				⑧				⑫		

指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析	
	活動指標	貴志川支所施設管理業務	目標	13	13	12	15	15	施設を安全で快適に利用できるように維持管理及び修繕を行う。	
			実績	18	22					
	<指標の計算方法>		支所の維持管理とメンテナンス							
		目標								
		実績								
<指標の計算方法>										
	目標									
	実績									
<指標の計算方法>										
	目標									
	実績									
<指標の計算方法>										

コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)		財源内訳				
	12,663		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他
							12,663

事業の実績	①貴志川支所施設管理	・ガス栓取替および配管修繕（庁舎2階）
	<ul style="list-style-type: none"> 【業務委託等】 ・定期清掃業務 ・貯水槽清掃業務 ・機械警備業務 ・電気保安管理業務 ・空調設備保守点検業務 ・エレベーター保守点検業務 ・消防設備保守点検業務 ・浄化槽保守点検業務 ・浄化槽法定検査 ・事務室改修工事設計業務 【施設修繕等】 ・電話内線移設作業（配線分岐等修繕） ・電話受話器故障による取替修繕 ・内線106番修繕（室内電話ケーブル） ・屋外ガラス割替修繕（庁舎） ・非常灯バッテリー取替修繕（庁舎内） ・自動ドア開閉装置修繕（庁舎西側） ・防犯灯修理（商工会裏駐車場内） 	<ul style="list-style-type: none"> ・外壁等修繕（庁舎） ・いきいきルーム吊戸修繕（庁舎3階） ・破損掲示板撤去作業（庁舎前） ・水銀灯修繕（庁舎北側駐車場内） 【工事請負】 ・支所敷地内舗装改修工事 ・支所ゴミ置き場移設工事 【備品購入】 ・2階キッチンルーム電子レンジ ・2階キッチンルームオープンレンジ ・新型コロナウイルス感染症対策サーマルカメラ

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない
	有効性	評価結果	改善の余地がややある
		<ul style="list-style-type: none"> ・維持管理及び修繕を行うことにより、施設を安心安全に利用していただく。 ・防犯カメラ設置により、駐車場内や支所窓口での人の動きを録画することで、何か問題が生じた場合には記録映像として使用することができる。 ・支所内窓口等のレイアウト変更により、同フロアの2か所に分かれて業務を行っていたのを1か所にまとめることで、来庁者の利便性と、支所事務の連携性向上が図れる。 ・支所場内通路の改修として、既存の通路の幅員と交差点箇所の拡幅により、駐車場に入出入りをする車両の安全性向上を図れる。 	
効率性	評価結果	改善の余地がない	
		・必要に応じて修繕を実施しながら計画的に維持管理することが効率的である。	

事務事業の概要	事務事業名	鞆淵出張所運営事業			担当課	鞆淵出張所		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1062	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	8 支所及び出張所費				基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進			
事業概要	市民が市民サービスを受けられるように、鞆淵出張所を開設、運営する事業											
事務事業を構成する細事業	①	窓口対応			⑤					⑨		
	②	各団体支援			⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	各種支援団体数	団体	目標	3	3	3	3	3	事務局となっている各種団体の支援を行う。団体には、地域独自の団体がある。		
			実績	3	3	3						
	<指標の計算方法>		区長会、県道かつらぎ桃山線大改修期成同盟会、真国川を美しくする会									
	成果指標	支援実施数	回	目標	110	110	110	110	110	新型コロナウイルス感染症予防の観点から書面表決や中止などの対策を講じながら実施される、各種支援団体の活動や会議の支援を行う。		
			実績	127	202	256						
<指標の計算方法>		各種団体等への会議、活動等の支援回数										
活動指標	業務対応件数	件	目標	2,700	2,700	2,700	2,700	2,700	本庁各課の窓口業務や現場確認・応急対応、また、各種団体の日常的な対応を行う。			
		実績	2,391	2,127	3,471							
<指標の計算方法>		来庁、郵送等による証明書発行、各種申請書受理、相談等の対応件数										
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)		財源内訳									
	3,609		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	3,609			
事業の実績	①窓口対応 3,471件 (主な業務) ・交通防犯、消防、区長会関係業務 ・建設部、農林商工部の各種補助事業相談申請受付 ・市道等の維持補修、あき地適正管理指導 ・農業委員会業務の受付、相談 ・出生届、婚姻届、死亡届など各種届出 ・印鑑登録、印鑑登録証明 ・戸籍謄・抄本、住民票の発行 ・埋火葬許可証発行 ・税関係各種証明書発行、税務相談 ・学校施設借用申請受付 ・指定ゴミ袋等販売 ・生活保護相談 ・身体障害者手帳・療育手帳の申請受付、交付 ・各種福祉手当の申請受付 ・要介護等申請受付、相談 ・福祉医療関係相談、受付			②各団体支援 ・区長会(民生委員児童委員、招魂祭、敬老会関係含む) 207回 ・県道かつらぎ桃山線大改修期成同盟会 32回 ・真国川を美しくする会 17回								
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・地域の現状を考えると、地域での各種行政サービス実施業務や各種団体(地域独自の団体あり)への支援業務は必要である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・鞆淵出張所の窓口を設置することにより、地域住民に満足度の高いサービスを提供することができている。 ・他の施設まで遠く交通も不便、また、高齢化が進む地域において鞆淵出張所への期待は大きい。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・多岐にわたる業務の対応について、今年度から一般職員2名、会計年度任用職員1名の体制となったが、適正かつ迅速な対応を行い、効率性を高めている。											

事務事業の概要	事務事業名	鞆淵出張所施設管理事業			担当課	鞆淵出張所		事業区分	ソフト事業					
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1063			
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営					
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成					
		目	8 支所及び出張所費				基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進					
取組方針	9	その他												
事業概要	市民が出張所を安全で快適に利用できるように、鞆淵出張所の適切な維持管理や改修を行う事業													
事務事業を構成する細事業	①	鞆淵出張所施設管理			⑤				⑨					
	②				⑥				⑩					
	③				⑦				⑪					
	④				⑧				⑫					
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析					
	活動指標	出張所施設管理業務	件	目標	20	20	20	20	20	来庁者に安全で快適に利用してもらえるよう、保守点検や修繕等を実施しながら、必要最小限の経費で施設の維持や管理を行う。				
		<指標の計算方法>		実績	23	26	16							
			目標											
			実績											
	<指標の計算方法>		出張所の維持管理実施件数											
			目標											
			実績											
	<指標の計算方法>													
			目標											
		実績												
<指標の計算方法>														
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳										
	1,767			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源					
									1,767					
事業の実績	①鞆淵出張所施設管理 業務委託 13件 ・消防設備保守点検業務委託 ・浄化槽保守点検業務委託 ・浄化槽法定検査 ・夜間休日等施設管理業務委託 施設修繕 2件 ・出張所浄化槽ブロワ修繕 ・出張所事務室蛍光灯照明取替修繕 新型コロナウイルス感染症対策 1件 ・サーマルカメラ購入													
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない											
		・市民、来庁者が安全に利用していただくためには必要な事業である。												
	有効性	評価結果	改善の余地がない											
・少ない人員また低コストで維持している。														
効率性	評価結果	改善の余地がない												
	・随所老朽化が目立つ施設を、必要最小限の経費で修繕し維持管理を行っている。													

事務事業の概要	事務事業名	公平委員会運営事業			担当課	総務課		事業区分	内部管理事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	10
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	99 ****			
		項	1 総務管理費				施策目標	99 ****			
		目	9 公平委員会費				基本施策	99 ****			
事業概要	職員の利益の保護と公正な人事権が行使保障されるように、公平委員会に審査請求や措置要求がされてから裁決までの行程を円滑に行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	公平委員会運営	⑤					⑨			
	②	全国公平委員会連合会負担金	⑥					⑩			
	③	近畿公平委員会連合会負担金	⑦					⑪			
	④	県公平委員会連合会負担金	⑧					⑫			
指標の実績	指標名	単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	審査請求件数	目標					審査請求が1件あり、審理中。			
			実績			1					
	<指標の計算方法>		審査請求件数								
		目標									
		実績									
	<指標の計算方法>										
	目標										
	実績										
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)		財源内訳								
	192		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	192		
事業の実績	①公平委員会運営 審査請求があったため、委員会を6回開催										
	②全国公平委員会連合会負担金 新型コロナウイルス感染症流行のため、書面決議										
	③近畿公平委員会連合会負担金 新型コロナウイルス感染症流行のため、書面決議										
	④県公平委員会連合会負担金 新型コロナウイルス感染症流行のため、書面決議										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・地方自治法で設置が定められている委員会である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・地方自治法で設置が定められている委員会である。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・地方自治法で設置が定められている委員会である。										

事務事業の概要	事務事業名		自治振興事業			担当課	総務課		事業区分	ソフト事業		
	会計		一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	504
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営				
		項	1 総務管理費			施策目標	2	地域自治・コミュニティ・地域振興				
		目	10 自治振興費			基本施策	1	地域自治・地域コミュニティの充実				
事業概要		自治区が「地域の絆」を強め、地域コミュニティの分野で中心的な役割を担えるように、自治区や地縁団体の運営への支援を行う事業										
事務事業を構成する細事業		① 集会所整備補助金		⑤ 自治区運営補助金		⑨						
		② 自治連絡協議会運営		⑥ 区長会補助金		⑩						
		③ 区長会運営		⑦ 自治区加入促進		⑪						
		④ 一般行政事務委託		⑧ 認可地縁団体活動支援		⑫						
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	成果指標	自治区加入率	目標	76	76	76	76	76	自治区加入率の減少については、人口減少・少子高齢化だけでなく、世帯数が増加傾向のため、分母が大きくなり加入率は微減している。			
			実績	75.4	75.1	74.3						
	<指標の計算方法>		自治区加入世帯数/住民基本台帳世帯数									
	活動指標	自治区補助団体数	目標	198	198	198	199	199	全自治区に対し、補助を実施した。那賀地区に後第2自治区が新たに設立され、補助団体数が1増加した。			
			実績	198	198	199						
	<指標の計算方法>		自治区補助団体数									
活動指標	集会所整備補助件数	目標	28	30	28	28	28	自治区からの要望分に対し、すべて補助を行った。				
		実績	46	41	40							
<指標の計算方法>		集会所整備補助件数										
活動指標	補助事業の啓発回数	目標	6	6	6	6	6	各区長会総会、全区長会において、啓発を実施した。				
		実績	6	6	6							
<指標の計算方法>		補助事業の啓発回数										
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	46,682			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
								246		46,436		
事業の実績	①集会所整備補助金 地区集会所の改修及び備品購入に対する補助 ・40件(改修23件、備品17件)		⑦自治区加入促進 各自治区においてパンフレットを活用し、転入者に対し、啓発活動を実施した。									
	②自治連絡協議会運営 自治連絡協議会を年3回開催し、協議を行った。		⑧地縁団体活動支援 46団体に対し告示事項変更の支援、1団体に設立の支援を行いました。									
	③区長会運営 5地区区長会の運営・支援を行った。											
	④一般行政事務委託 199自治区区長に周知文章の配布等の委託											
	⑤自治区運営補助金 199自治区に地域活動への補助											
	⑥区長会補助金 自治連絡協議会及び5地区区長会に補助											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・一般行政事務委託事業、自治区運営補助事業については、市と自治区が共存していくために実施するのが妥当である。 ・集会所整備事業は、改修等整備に対する補助事業であるため、市が実施するのが妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・自治区加入率の減少については、人口減少・少子高齢化だけでなく、世帯分離により総世帯数が増加していることも要因である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・現在の方法が最適であると思われる。											

事務事業の概要	事務事業名	シティプロモーション事業			担当課	地域創生課		事業区分	ソフト事業					
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1071			
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営					
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成					
		目	11 地域創生費				基本施策	1	市政情報の発信と適正な情報管理					
事業概要	市を知り興味をもってもらえるように、市の魅力を発信する事業													
事務事業を構成する細事業	①	庁内会議運営			⑤				⑨					
	②	シティプロモーション推進業務			⑥				⑩					
	③				⑦				⑪					
	④				⑧				⑫					
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析					
	活動指標	プロモーション事業の実施回数	目標	6	5	5	5	5	新型コロナウイルス感染症の影響で、プロモーションの方向転換や内容の変更などを余儀なくされたが、メディアプロモーションを重点的に実施し、市のPRを効果的に実施することができた。					
			実績	7	6	5								
	<指標の計算方法>		プロモーション事業の実施回数											
	成果指標	メディア露出時の広告換算額	目標	5,000	5,000	2,000	15,000	15,000				新型コロナウイルス感染症の影響で、都市圏のイベントなどをメディアプロモーションにシフトし、人気アニメや動物園などとタイアップすることにより、効果的に発信することができた。		
			実績	9,630	2,399	13,171								
	<指標の計算方法>		広告業界におけるメディアへの訴求広告換算額											
		目標												
		実績												
<指標の計算方法>														
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳										
	11,955			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	7,170				
事業の実績	①庁内会議運営 年1回開催			・甘露寺前プロモーション事業 鬼滅の刃シネアートの関連事業で、甘露寺前の平池周辺を「恋の聖地」として整備。 (広告換算額3,692万円)				・キュンかわマルシェの開催 12月5日に甘露寺前駅駅前において、地域団体や周辺の飲食業店等の協力によりマルシェイベントを開催 (テント10ブース、キッチンカー3台) ※来場者数：約500人						
	②シティプロモーション推進業務			【プロモーションの概要】 ・和歌山電鐵貴志川線…甘露寺前駅の駅名看板のデザイン・設置、恋みくじガチャの設置、車両中吊りポスター、駅貼りポスター掲出 ・平池緑地公園…恋の聖地としてのシンボル「恋の柱」を設置 ・甘露寺…コスプレプレイヤーやファンのためのフォトプロップスとして、本堂に木製の雨戸を新たに作製し、設置 ・周辺カフェ店舗…恋のイメージを施したオリジナルメニュー開発 ・「かんろじまへのひみつ」の特設サイト開設…ファンを紀の川市へ誘導するための仕掛けをした特設サイトを開設				・アドベンチャーワールドでの桃のPR事業 動物たちへの暑中見舞いとして、桃をプレゼント。 (広告換算額7,404万円) メディア9社が取材						
事業の事後評価	・人気アニメ「劇場版『鬼滅の刃』無限列車編」へのシネアド掲出 大阪市内の主要映画館3館で、第1回目は、10月16日から、第2回目は、11月6日からそれぞれ2週間、紀の川市PRCM(15秒)を放映。			・PRTIMESを利用したプレスリリースの実施(広告換算額2,075万円)										
	妥当性	評価結果	改善の余地がない											
		・人口減少対策、関係人口創出のため、シティプロモーション事業を実施し、市内外に市の魅力を発信することは、妥当である。												
		評価結果	改善の余地がややある											
有効性	・時代背景や時流を汲んだプロモーションによる効果的なPRを随時実施することは、人の流れを呼び込むためには有効な手段と言える。													
	・イベントやメディアプロモーションを通じて、ふるさと納税や移住定住施策にも効果的なPRを実施する必要がある。													
効率性	評価結果	改善の余地がややある												
	・事業を委託しているが、市の魅力を発信するにあたり、市の方向性を明確にし、効果検証を随時行い、費用対効果を考慮しながら実施する必要がある。													

事務事業の概要	事務事業名	移住・定住推進事業			担当課	地域創生課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	990	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費				施策目標	2	地域自治・コミュニティ・地域振興			
		目	11 地域創生費				基本施策	2	地域の活性化と移住・定住環境の充実			
事業概要	市外からの移住を推進するとともに、市民に定住してもらえるように、移住に関する相談や情報の提供を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	移住・定住推進協議会運営			⑤	移住・定住推進補助金		⑨				
	②	移住・定住推進業務			⑥			⑩				
	③	空き家バンク登録・管理業務			⑦			⑪				
	④	地域おこし協力隊導入推進業務			⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	成果指標	ワンストップ窓口を活用した移住者数	人	目標	5	5	5	5	5	移住相談件数は一定程度あるものの、移住者の幅広いニーズに対応ができていないため、ワンストップ窓口を活用した移住者数の増加につがっていない。的確なニーズの把握とそれに対応する取組の検討が必要である。		
			実績	0	0	4						
	<指標の計算方法>		ワンストップ窓口を活用した移住者数									
	活動指標	ワンストップ窓口を活用した移住相談件数	件	目標	100	110	120	130	140	わかやま定住サポートセンター等からの誘導もあり、毎月一定数の相談があった。移住者のニーズに合った空き家情報、就農・就職に関する情報等を提供できる体制の構築が必要である。		
			実績	107	113	122						
	<指標の計算方法>		ワンストップ窓口を活用した移住相談件数									
	成果指標	空き家バンクへの空き家登録件数	件	目標	5	5	5	10	10	本市独自の空き家バンク登録要件の規制を設定しているため登録件数が伸びていない。要件の緩和を含めた事務の改善が必要である。		
			実績	2	3	2						
	<指標の計算方法>		空き家バンクへの空き家登録件数									
成果指標	売買・賃貸契約成立件数	件	目標	5	5	5	5	5	空き家バンク登録件数が少なく、移住希望者にとっての選択の幅が広がらないため、売買・賃貸借契約の成立件数は伸びていない。空き家バンク登録物件数を増やすことにより、成約件数が増加する可能性がある。			
		実績	0	0	2							
<指標の計算方法>		売買・賃貸契約成立件数										
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	10,630			国庫支出金	3,033	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	7,597	
事業の実績	①移住・定住推進協議会運営 ・関係人口と移住による定住人口の拡大を図るために設置 ②移住・定住推進業務 移住相談件数84件、面談件数38件 内、県主催相談会詳細 ・お盆UIターン相談会 8/15わかやま定住サポートセンター(和歌山市) 来場者5組中5組対応(予約制) ・ワカヤマライフTV 9/22オンライン移住相談会 予約者4組中3組対応 ・やまなし×わかやま移住相談会 11/14大阪ふるさと暮らし情報センター 来場者14組中3組対応(予約制) ・新春UIターン相談会 1/4わかやま定住サポートセンター(和歌山市) 来場者6組中2組対応(予約制) 県主催研修会参加 ③空き家バンク登録・管理業務 ・登録2件 ・空き家対策セミナー開催(所有者対象) 令和2年12月6日(午前・午後)22名参加 令和3年1月9日(午前・午後)14名参加 ・その他相談対応、現地確認実施 ④地域おこし協力隊導入推進業務 ・令和2年7月1日付で1名任用 空き家活用業務に従事 ⑤移住・定住推進補助金 ・空き家バンク登録奨励金 2件											
	事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・人口減少が進む中、関係人口・定住人口の増加につながる移住・定住推進は、社会的に必要性が高く、市が取り組むことが妥当な事業である。								
有効性		評価結果	改善の余地が大きい ・移住相談件数に対して、ワンストップ窓口を活用した移住は低調である。 ・空き家バンク登録要件の緩和等により、登録空き家件数を増やすことで、住環境における移住希望者の選択の幅を広げ、ワンストップ窓口を利用した移住相談や売買・賃貸借契約件数の増加を図る必要がある。 ・専門性を持った人材を育成し、空き家情報の掘り起こしや活用を進め、空き家の流動化を図ることが必要である。									
効率性		評価結果	改善の余地が大きい ・関係各課との連携を強化するとともに情報の集約を図り、効率的な情報発信を行うことが必要である。 ・地域や民間団体との連携を模索し、効率的な取組を進めていく必要がある。									

事務事業の概要	事務事業名	若者定住促進住宅取得奨励事業		担当課	地域創生課			事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計		新規・継続	新規	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1151		
	予算科目	款	2	総務費	長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営				
		項	1	総務管理費		施策目標	2	地域自治・コミュニティ・地域振興				
		目	11	地域創生費		基本施策	2	地域の活性化と移住・定住環境の充実				
取組方針	2	移住・定住支援策の充実										
事業概要	市内で住宅を取得する若年層を対象に奨励金を交付することで、若者の転入促進と転出抑制を図り、市内定住を促す事業											
事務事業を構成する細事業	①	奨励金申請受付・交付			⑤				⑨			
	②	情報発信			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	奨励金交付件数	件	目標			120	120	120	各方面へのチラシの配布、広報紙・ホームページ・SNS等でのPRに努めた結果、交付件数が目標件数に近づいた。		
				実績			108					
	<指標の計算方法>		奨励金交付件数									
	成果指標	住宅取得の誘因となった申請件数	件	目標			20	20	20	事業開始年度で、すでに住宅取得に係る契約を締結している方が申請に来られる場合が多く、本奨励金が住宅取得の誘因となった件数は目標件数に届かなかった。		
				実績			14					
	<指標の計算方法>		調査で「奨励金が住宅取得の誘因になった」と回答した申請者数（申請1件につき申請者1人のため単位は件とする）									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	44,303			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	44,303		
事業の実績	①奨励金申請受付・交付 ・奨励金交付件数 108件 うち児童加算対象件数 73件 転入加算対象件数 45件 ②情報発信 ・(公社)和歌山県宅地建物取引業協会を通じて会員である宅地建物取引業者へチラシを配布 ・市の広報、ホームページ等での周知 ・民間広告媒体等への掲載 「まいなが」10月号 「毎日新聞」6月25日付											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・人口減少が進む中、定住人口の増加につながる住宅取得奨励事業は社会的に必要性が高く、市が取り組むことが妥当な事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・本奨励金が当市での住宅取得の誘因となった件数の増加のために、対象となる層に向けた効果的なPR方法の検討が必要である。 ・本奨励金は、令和7年3月31日で失効すると交付要綱で規定しているが、奨励金が誘因となり本市で住宅取得した件数が増加するならば、交付の継続を考える必要がある。 ・空き家バンク登録数の増加及び空き家所有者・購入希望者間のマッチングにより、新築だけではなく中古住宅購入数を増加させる必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・住宅地の開発等で、事業費は増減するが、予算削減の余地はない。 ・申請書類や添付書類の簡素化により、事務効率の向上を図る必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名	奨学金返還支援事業		担当課	地域創生課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	新規	事業期間	期間限定複数年度 (R2～R6)	事業番号	1150		
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費			施策目標	2	地域自治・コミュニティ・地域振興			
		目	11 地域創生費			基本施策	2	地域の活性化と移住・定住環境の充実			
事業概要	奨学金返還者の就労初期における経済的負担を軽減することにより、市内定住を促す事業。 本市に居住し、令和2年4月以降に奨学金の返還を開始し、就業していること等を要件に、1年間に返済した奨学金の1/2（上限12万円）を助成する。										
事務事業を構成する細事業	①	奨学金返還支援事業		⑤				⑨			
	②			⑥				⑩			
	③			⑦				⑪			
	④			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	指標の分析		
	活動指標	交付者数	人	目標		90	45	75	広報、周知に努めたが、初年度ということもあり交付者数は15人とどまった。大学生を対象とした就職説明会や、周辺大学へのチラシ配布等の周知を引き続き行うことで、件数増加が見込まれる。		
			実績			15					
	<指標の計算方法>		交付人数								
	成果指標	事業の満足度	%	目標		70	100	100	アンケートによる本事業の満足度は100%であり、事業継続による紀の川市への定住効果が一定程度見込まれる。		
			実績			100					
	<指標の計算方法>		交付者に対する満足度調査アンケート結果								
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											
コストの実績	R2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	394			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
			394								
事業の実績	①奨学金返還支援事業										
	<ul style="list-style-type: none"> 対象…大学などを卒業し、令和2年4月1日以降に奨学金の返還を開始し、就業しており、紀の川市に定住している等の要件を満たす者 交付者数…15人 交付決定額…351,000円 周知…フェイスブック・メール配信各2回 大学等40校へチラシ配布 広報紀の川(6月号・10月号) 紀の川・岩出就職フェア、紀の川市企業合同説明会でチラシ配布 アンケート回答率…100% (内、事業の満足度100%) 										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
			・奨学金返還者の就労初期における経済的負担を軽減することにより、定住を促すことを目的としており、市が実施することは妥当である。								
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
			・大学進学率や県内の奨学金受給者率などを根拠として設定した目標値であったが、就業要件の設定や、令和2年度からの新制度ということもあり、交付件数は目標値を下回った。しかし、事業の満足度は非常に高く、一人でも多くの対象者に制度を活用してもらうため、要綱の見直し、周知活動をより充実させていく必要がある。 ・本支援事業は、令和7年3月31日で失効すると交付要綱で規定されているが、助成が誘因となりUIターン件数が増加すれば、助成の継続を考える必要がある。								
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
		・就業を契機とした転出を防ぐなど若者世代の定住の誘因となる事業である。 ・交付対象者の拡大を検討し、定住者を増加させる必要がある。									

事務事業の概要	事務事業名	ふるさとまちづくり寄附金事業			担当課	地域創生課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	971	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費				施策目標	2	地域自治・コミュニティ・地域振興			
		目	11 地域創生費				基本施策	2	地域の活性化と移住・定住環境の充実			
事業概要	市が寄附金を活用し、施策のさらなる推進を図るために、寄附者に制度や特産品の周知を実施し、寄附金の管理を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	寄附額増加対策業務			⑤				⑨			
	②	寄附者管理業務			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	成果指標	寄附申出件数	件	目標	3,000	3,200	30,000	54,000	54,000	ポータルサイト（楽天等）の追加や新型コロナウイルス感染症による巣ごもり需要が増加要因であると考えられる。		
				実績	2,209	25,362	41,008					
	<指標の計算方法>		寄附申出件数の実績を計上									
	成果指標	寄附金額	千円	目標	60,000	85,000	400,000	700,000	700,000	件数同様、増加傾向にある。ポータルサイト追加による寄附金額増加には限界があるため、寄附者に選ばれる自治体となるよう、魅力の発信に引き続き注力する。		
				実績	58,064	353,376	545,924					
	<指標の計算方法>		ふるさと納税の寄附金額									
成果指標	返礼品事業者数	件	目標	22	35	50	65	70	市内事業者や個人農家等への制度説明に注力し、返礼品の提供に協力いただける事業者数が増加している。			
			実績	32	44	50						
<指標の計算方法>		寄附者に対し送付している特産品事業者数										
成果指標	返礼品数	品	目標	250	300	350	500	530	事業者の増加に伴い返礼品数が増えている。			
			実績	269	313	443						
<指標の計算方法>		登録返礼品数（総務省への申請数）										
コストの実績	R 2年度決算額 （単位：千円）			財源内訳								
	271,090			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	271,090		
事業の実績	①寄附額増加対策業務 ・ポータルサイト（楽天）追加（令和2年8月開始） ・体験型ふるさと納税ポータルサイト（さといこ）契約（令和2年11月） ・市内事業者への返礼品協力依頼（フリーペーパーへの募集広告掲載） ・るるぶ和歌山へのPR広告掲載 ②寄附者管理業務 ・受領証明書の送付（メーリングフィニッシャーの導入） ・ワンストップ特例制度対応（申請書の送付・受付等）											
	事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・自主財源の確保に資する取組であり、事業実施は妥当である。								
有効性		評価結果	改善の余地がややある ・返礼品の充実を図る取組により地域資源の発掘や開発が促進され、地域経済の発展にも寄与する事業であり有効である。 ・返礼品の商品づくりや返礼品事業者の育成等により、魅力的な返礼品の充実を図り、寄附額の増額をめざす必要がある。									
効率性		評価結果	改善の余地がややある ・現在、サイト運営や返礼品の受発注、コールセンター等を事業者委託しているが、寄附件数、職員体制及び専門性を考慮すれば、効率的に運営できている。 ・メーリングフィニッシャーの導入により、事務効率が向上した。 ・寄附件数の増加に対応するため、新たな寄附者管理システムを導入し、さらに事務の効率化を図る。									

事務事業の概要	事務事業名	大学連携事業		担当課	地域創生課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	8	
	予算科目	款	2	総務費	長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1	総務管理費		施策目標	2	地域自治・コミュニティ・地域振興			
		目	11	地域創生費		基本施策	2	地域の活性化と移住・定住環境の充実			
取組方針	1	大学との連携推進									
事業概要	市、大学が共に活性化できるよう、大学と各種事業において連携する事業										
事務事業を構成する細事業	①	連携推進業務		⑤				⑨			
	②			⑥				⑩			
	③			⑦				⑪			
	④			⑧				⑫			

指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	成果指標	大学と連携している事業数	目標	35	50	65	83	100	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、実施できない事業が6件あった。その他、連携協議等の開催を控えたため、目標値に達することができなかった。		
			実績	19	39	23					
	<指標の計算方法>		市の事業のうち大学の教職員や生徒が参画もしくは定例的に参加する事業数（インターン受入れは総じて1）								
	活動指標	大学との連携会議の開催回数	目標	4	10	10	10	10	令和元年度に近畿大学と実施した調査に基づき、連携可能な研究テーマに関して協議した。既に成果が出ている取組もあり、今後は連携の質の向上にもつなげたい。		
			実績	4	13	19					
<指標の計算方法>		連携強化のための大学・地域創生課間における会議開催回数									
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											

コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)		財源内訳					
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源

事業の実績	①連携推進業務	協議・検討の結果、連携未実施	(1)Kii-Plusとの連携模索 令和3年度から職員交流の見込み
	・近畿大学との会議・協議 (1)桃ゲノム解説研究に関する研究 協議・検討の結果、連携不可 (2)藻類のサンプル採取に関する研究 令和3年度も引き続き協議を実施する (3)イチジク農家との連携研究 ポット及び土壌で試験木の育成開始 育成状況の変化などを継続的に観察 (4)桃農家との連携研究 農園に苗木を植え、育成状況を観察 (5)イチゴ農家との連携研究 令和3年度も引き続き協議を実施する (6)高設砂栽培農家との連携研究 令和3年度から連携開始予定 (7)八潮を用いた動物実験に関する研究 学生の卒業研究のテーマに採用 (8)オンライン講義に関する研究 協議・検討の結果、連携未実施 (9)井戸を用いた研究に関する研究	(10)サードプレイスに関する研究 学生の卒業研究のテーマに採用 (11)点字案内板に関する研究 有識者の研究テーマとして採用 (12)空き家分類に関する研究 学生の卒業研究のテーマに採用 (13)駐車場利用者行動に関する研究 令和3年度に調査実施予定 (14)貴志川線OD調査連携 学生調査員を導入し、調査実施 (15)貴志川線利用実態に関する研究 学生の卒業研究のテーマに採用 (16)次年度講義の域学連携協議 協議が整い、令和3年度実施見込み (17)プール水の濾過に関する研究 学生の卒業研究のテーマに採用 (18)地域公共交通活性化再生協議会 事業の相談等で適宜協議を実施 ・和歌山大学との会議・協議	

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない	・近畿大学は市内に立地する唯一の大学であり、豊かな知的資源、人的資源を十分に活かし、大学、地域、市が協働するまちづくりを推進するため、市が行うことは妥当である。
	有効性	評価結果	改善の余地がない	・大学が有する教育・研究に関するノウハウと、市が有する各種データ・地域資源・課題とのマッチングが進んでいる。 ・学生、教職員と連携に係る市民との交流が図れている。
	効率性	評価結果	改善の余地がない	・効率性は高い事業であるが、今後、更に効率性を高めるため、近畿大学生物理工学部以外の大学との連携も視野に入れた事業を実施する。

事務事業の概要	事務事業名	市民活動支援事業		担当課	地域創生課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	12	
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費			施策目標	2	地域自治・コミュニティ・地域振興			
		目	11 地域創生費			基本施策	1	地域自治・地域コミュニティの充実			
事業概要	市民、市民団体が自主的な社会貢献活動を活発に実施してもらえるように、活動の支援や補助を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	NPO団体活動支援		⑤				⑨			
	②	花いっぱい運動推進		⑥				⑩			
	③	花いっぱい運動補助金		⑦				⑪			
	④			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	認証NPO法人数	法人	目標	19	20	20	20	23	市内に主たる事務所を置く県認証NPO法人数は、おおむね横ばいで推移している。	
			実績	19	18	18					
	<指標の計算方法>		市内に主たる事務所を置く県認証NPO法人数								
	成果指標	花いっぱい運動支援団体数	団体	目標	31	31	31	33	37	花いっぱい運動の支援団体は、構成員の高齢化により団体数が減少した。	
			実績	29	29	26					
	<指標の計算方法>		花いっぱい運動支援団体数								
成果指標	花いっぱい運動参加数	人	目標	500	600	600	640	630	花いっぱい運動参加延べ人数は、構成員の高齢化のため減少傾向にある。		
		実績	556	551	425						
<指標の計算方法>		花いっぱい運動参加延べ人数									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	1,973			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	1,973	
事業の実績	①NPO団体活動支援 (市ホームページ掲載18団体が対象) ・会議室使用料減免支援 13件 ・輪転機の無料使用支援 1件										
	②花いっぱい運動推進 ・花を愛する県民の集い (11/7、和歌山市)参加 功労者感謝状 1団体受賞										
	③花いっぱい運動補助金 ・補助金交付申請受付、交付決定 ・プリンター等の配布 ・現地確認										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・多様化する住民のニーズすべてに行政のみで対応していくのはますます困難になってくると予想される。そのため、市が目指す協働の視点に立ち、主体的に活動している市民団体を支援することは必要かつ妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・構成員の高齢化により花いっぱい運動活動団体数が減少しているため、新規団体の募集回数を増やすなど改善の余地がある。 ・花いっぱい運動は市の美化推進活動としてだけでなく、地域コミュニティの推進にもつながる取組として有効である。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・花いっぱい運動補助では、花の苗や肥料等資材費のみを補助対象としており、団体の活動はボランティアである。また、一部の団体においては、市庁舎を含む公共施設において事業を行っており、施設管理上においても効率的に実施できている。 ・NPO団体の活動支援では、市公共施設(コミュニティセンター等)の使用に伴う減免措置及び輪転機使用を無料にし、活動の支援を行っている。										

事務事業の概要	事務事業名	国際交流事業		担当課	地域創生課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	470	
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	3	産業・交流			
		項	1 総務管理費			施策目標	3	観光・交流			
		目	11 地域創生費			基本施策	2	国際交流と国内交流			
事業概要	市民の国際感覚の醸成を図るために、姉妹都市、友好都市等と交流を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	姉妹都市・友好都市等との交流		⑤				⑨			
	②	国際交流員受入		⑥				⑩			
	③	国際交流推進業務		⑦				⑪			
	④	多文化共生の推進		⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	成果指標	姉妹都市、友好都市のいずれかを知っている市民の割合	目標	20	25	25	30	35	姉妹都市西帰浦市を知っている10代の割合が比較的高く、従来の交流事業により認知度が高まっていると見られる。		
			実績	18.9	17.2	19.3					
	<指標の計算方法>		市民意識調査								
	活動指標	姉妹都市・友好都市等との交流事業開催回数	目標	6	6	6	6	6	新型コロナウイルス感染症の影響のため予定していた交流事業は未実施に終わったが、西帰浦市とのビデオ会議や、ビデオメッセージの送付等を実施した。		
			実績	6	8	3					
	<指標の計算方法>		公式行事の回数								
	成果指標	姉妹都市・友好都市からの来訪者数	目標	50	50	50	50	50	新型コロナウイルス感染症の影響のため来訪者数は0人となった。		
			実績	60	55	0					
	<指標の計算方法>		公式行事による姉妹都市・友好都市からの来訪者数								
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)		財源内訳								
	260		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		260	
事業の実績	①姉妹都市・友好都市等との交流 (西帰浦市) ・西帰浦市七十里祝祭開催へのビデオメッセージの送付 ・西帰浦市の市長就任に伴う両市長オンライン会談 12/7 (濱州市) ・春節(旧正月)到来への祝賀ビデオメッセージの送付 (クアンナム省) ・新型コロナウイルス感染症の影響で交流事業未実施		・新型コロナウイルス感染症の影響で未実施								
	②国際交流員受入 ・新型コロナウイルス感染症の影響で受入中止		④多文化共生の推進 ・日本語教室への運営支援 日本語教室の会場について会場使用料を減免することで、教室の継続的な開催を支援								
	③国際交流推進業務										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がややある								
		・市民が国際交流への関心を高め、多様な文化に触れ、価値観を深めるための取組として、市が国際交流事業を実施することは妥当である。 ・在住外国人が増加傾向にあることから、地域において外国人と触れ合う機会が増加することが想定される。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・これまで西帰浦市との中学生国際交流事業を実施してきたことにより、市民意識調査においても10代の姉妹都市交流に関する認知度が比較的高くなっている。現在は、新型コロナウイルス感染症の影響で往来を伴う交流が停止されている状況ではあるが、その中でも学生間で交流できる取組について検討していく必要がある。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・多文化共生の推進については、市内で在住外国人のために活動している団体の日本語教室の会場について会場使用料を減免することで、教室の継続的な開催を支援している。今後さらなる推進に向けてより効果的な支援方法について検討する必要がある。										

事務事業の概要	事務事業名	細野簡易郵便局運営事業			担当課	地域創生課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	494	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費				施策目標	2	地域自治・コミュニティ・地域振興			
		目	11 地域創生費				基本施策	2	地域の活性化と移住・定住環境の充実			
取組方針				0	地域の活性化と移住・定住環境の充実							
事業概要	市民（細野地区）が郵便局関連のサービスの提供が受けられるように、細野郵便局の運営を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	細野簡易郵便局運営			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	郵便取扱い件数	件	目標	50	50	50	50	50	細野簡易郵便局において郵便の取扱い件数は少ないが、住民生活の利便性に寄与しているといえる。		
			実績	46	33	42						
	<指標の計算方法>		取扱い件数を計上									
	活動指標	貯金取扱い件数	件	目標	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	細野簡易郵便局において貯金取扱い件数は、減少傾向にある。		
			実績	1,137	1,098	932						
	<指標の計算方法>		取扱い件数を計上									
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	3,147			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	3,147		
事業の実績	①細野簡易郵便局運営											
	郵便取扱い件数 42件 貯金取扱い件数 932件 事務取扱者として、臨時職員3名が、交代制で郵便局運営を行っている。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がややある									
		・自治体が運営する簡易郵便局は和歌山県で当局のみで、近畿でも8箇所である状況を考えると、簡易局を受託する意志のある法人や地域住民等に経営を打診することも検討すべきであるが、昭和24年に開局した本簡易郵便局は、地域住民の生活上、非常に貴重であるため市での存続が妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・郵便及び貯金の取扱い件数は目標値を達成できていないが、地域住民の唯一の金融機関として利用されている。 ・自治体が運営する簡易郵便局が希少であるという点を活かし、細野地区を盛り上げるきっかけとなる方法を考えていく必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・郵便業務の研修を受講した臨時職員が円滑に事務を行っており、日本郵便株式会社からの取扱い手数料で、人件費や施設の維持管理費等を賄っている。 ・法人や地域住民への事業移管について、今後検討が必要である。											

事務事業の概要	事務事業名	バス運行支援事業		担当課	地域創生課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	485	
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境			
		項	1 総務管理費			施策目標	1	都市基盤整備・公共交通			
		目	12 交通政策費			基本施策	3	公共交通ネットワークの充実			
取組方針			1	公共交通の維持・確保・充実							
事業概要	市民がバスでスムーズに移動できるように、バス会社等との運行協定に基づく運行に対する補助を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	紀の川コミュニティバス運行補助金	⑤					⑨			
	②	地域巡回バス運行補助金（乗合タクシー路線含む）	⑥					⑩			
	③	粉河・熊取線バス運行補助金	⑦					⑪			
	④	関係各所との協議	⑧					⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	成果指標	年間利用者数（巡回）	人	目標	41,000	41,000	41,000	41,000	41,000	人口減少により利用者の絶対数が減少している中、新型コロナウイルス感染症の影響で利用者が大きく減少した。	
		実績		38,899	35,434	27,044					
	<指標の計算方法>		地域巡回バスの年間利用者数（粉河那賀路線+桃山路線+貴志川路線）								
	成果指標	年間利用者数（紀コミ）	人	目標	34,000	34,000	34,000	24,000	24,000	新型コロナウイルス感染症の影響で利用者が大きく減少した。国県補助対象外となる中で運行を維持するため、OD調査の結果をもとに一部運休とした。	
		実績		33,274	31,874	24,009					
	<指標の計算方法>		紀の川コミュニティバスの年間利用者数								
	成果指標	年間利用者数（粉河熊取線）	人	目標	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000	新型コロナウイルス感染症の影響で利用者が減少した。特に第1回の緊急事態宣言が発出された4月から5月は、昨年比の2割程度となった。	
		実績		61,147	54,217	34,234					
	<指標の計算方法>		粉河熊取線の年間利用者数								
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 2年度決算額 （単位：千円）			財源内訳							
	78,519			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
事業の実績	①紀の川コミュニティバス運行補助金			協力して実施							
	<ul style="list-style-type: none"> 運行補助金 紀北巡回線：10,718,277円 内無料乗車券利用実績に伴う運賃補填分：86,060円 			<ul style="list-style-type: none"> ※調査結果をもとに岩出市・事業者と協議した結果、令和3年1月4日から土日祝日及び年末年始を運休 							
事業の実績	②地域巡回バス運行補助金（乗合タクシー路線含む）										
	<ul style="list-style-type: none"> 運行補助金 粉河那賀路線・桃山路線：35,577,869円 貴志川路線：11,896,201円 赤沼田名手駅前路線（デマンド型乗合交通）：52,700円 国庫補助の活用 フィーダー系統確保維持費国庫補助金 										
事業の実績	③粉河・熊取線バス運行補助金										
	<ul style="list-style-type: none"> 運行補助金 粉河熊取線：20,273,798円 										
事業の実績	④関係各所との協議										
	<ul style="list-style-type: none"> 紀の川コミュニティバスOD調査 5月から7月にかけて岩出市・事業者と 										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		<ul style="list-style-type: none"> 地域巡回バス及び紀の川コミュニティバス等の路線は、地域住民の移動手段確保のための路線であり収益性が低いため、市が補助を行わなければ運行を維持できない。 地域公共交通の再編等は、地域住民に与える影響が大きいため、利用促進・分析・情報発信に時間を割く必要がある。そのため、迅速な対応が困難である。 									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
		<ul style="list-style-type: none"> 紀の川市地域公共交通網形成計画に基づき、地域の利用実態に応じた適材適所のサービスへの転換を図っており、有効性がある。 新型コロナウイルス感染症の影響により利用者が減少し、前年度より実績値が低下したが、今後も市民の生活交通の確保・維持を図っていきたい。 									
効率性	評価結果	改善の余地がない									
<ul style="list-style-type: none"> 本市における地域公共交通の担い手である事業者は限られており、事業者との良好な関係性を構築・持続することは、持続可能な地域公共交通網の構築には不可欠である。その意味において、限られた資源（運転士、車両など）を効率的に活用し、サービスを提供できている。 											

事務事業の概要	事務事業名	鉄道運行支援事業			担当課	地域創生課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	488	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境			
		項	1 総務管理費				施策目標	1	都市基盤整備・公共交通			
		目	12 交通政策費				基本施策	3	公共交通ネットワークの充実			
取組方針	1			公共交通の維持・確保・充実								
事業概要	市民が鉄道でスムーズに移動できるように、鉄道事業者、関係機関と協力、連携して運行に対する支援を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	貴志川線運営協議会			⑤	貴志川線利用促進事業補助金			⑨			
	②	和歌山線活性化検討委員会			⑥				⑩			
	③	貴志川線存続支援事業補助金			⑦				⑪			
	④	貴志川線運営委員会			⑧				⑫			
指標の実績	成果指標	指標名	単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
		1日当たりの乗降客数(和歌山線)	人/日	目標	5,400	5,400	5,400	5,400	5,400	新型コロナウイルス感染症の影響により、乗降客数が大幅に減少した。		
			実績	5,288	5,066	4,524						
	<指標の計算方法>	事業者から提供された資料を基に市内5駅の合計値を算出										
	成果指標	1日当たりの乗降客数(貴志川線)	人/日	目標	2,600	2,600	2,600	2,600	2,600	新型コロナウイルス感染症の影響により、乗降客数が大幅に減少した。		
				実績	2,418	2,301	1,390					
	<指標の計算方法>	事業者から提供された資料を基に市内4駅の合計値を算出										
	成果指標	貴志川線運営委員会への出席回数	回	目標	12	12	12	12	12	新型コロナウイルス感染症の影響により、4月の開催が見送られ、5月からの開始となった。		
				実績	12	12	11					
	<指標の計算方法>	毎月1回開催される運営委員会への出席回数										
活動指標	和歌山線活性化検討委員会の担当者会議開催回数	回	目標	1	1	1	1	1	円滑な事業遂行と意見交換のため2回実施した。			
			実績	2	2	2						
<指標の計算方法>	和歌山線活性化検討委員会の担当者会議開催回数の計上											
コストの実績	R 2年度決算額(単位:千円)			財源内訳								
	31,230			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	11,230		
事業の実績	① 貴志川線運営協議会 ・負担金:100,000円 ・事業内容 会計監査 総会:年1回(書面) 利用促進事業の実施 ・構成団体 和歌山市(会長) 紀の川市(副会長) 和歌山県(参与)			橋本市(副会長) 和歌山県(理事) JR西日本和歌山支社(理事) 岩出市(監事) かつらぎ町(監事)			紀の川市商工会(貴志川支部) 和歌山県立和歌山東高等学校 和歌山県立貴志川高等学校 貴志川線の未来をつくる会 和歌山の交通まちづくりを進める会 和歌山電鐵株式会社 (オブザーバー)山東まちづくり会					
	② 和歌山線活性化検討委員会 ・負担金:250,000円 ・事業内容 幹事会:随時開催 総会:年1回(書面) 利用促進事業の実施 ・構成団体 紀の川市(会長) 和歌山市(副会長)			③ 貴志川線存続支援事業補助金 ・県、和歌山市と共同で補助金交付 交付実績金額:26,030,000円 ・貴志川線の永続に向けた勉強会を貴志川線運営委員会後に行政関係職員と和歌山電鐵株式会社社員で実施			⑤ 貴志川線利用促進事業補助金 ・コロナウイルス感染症の影響により落ち込んだ需要の回復を目指し、県及び和歌山市と共同で和歌山電鐵株式会社の実施する利用促進事業に対して支援を実施 交付実績金額:4,850,000円					
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
			・地域公共交通網形成計画においても、鉄道は広域軸として重要な移動手段であるとしており、存続支援は妥当である。 ・貴志駅は、インバウンド対策においても重要な観光拠点である。 ・事業者とは定期的に会議を開いており、利用者数などその運営状況は適切に把握できている。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
		・和歌山線活性化検討委員会や貴志川線運営委員会において、事業者や沿線各自治体と連携しながら利用促進に向けた取組や存続支援を行うことで、事業者の経営安定を図っており、市民の移動手段の確保や住みよいまちづくり形成に寄与している。										
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
		・沿線人口の減少や道路網の整備等により、鉄道を取り巻く状況は依然厳しい状態が続くことが予想される。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で特に貴志川線においては、厳しい運営状況となっており、県、和歌山市とともに効率よく支援できているものの、貴志川線存続支援事業補助金の増額や公有民営化について、研究、検討を行っていく必要がある。										

事務事業の概要	事務事業名	パークアンドライド推進事業			担当課	地域創生課			事業区分	ソフト事業	
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	490
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	4 都市基盤・生活環境			
		項	1 総務管理費				施策目標	1 都市基盤整備・公共交通			
		目	12 交通政策費				基本施策	3 公共交通ネットワークの充実			
取組方針	2 公共交通の利用促進・啓発										
事業概要	市民が電車、バスを利用しやすくするために、駐輪場、駐車場の確保、管理を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	粉河駅前市営駐車場管理運営			⑤				⑨		
	②	駅前駐輪場管理運営			⑥				⑩		
	③				⑦				⑪		
	④				⑧				⑫		

指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	成果指標	駐車場使用料歳入	円	目標	1,817,640	1,853,280	1,853,280	1,853,280	1,853,280	駐車場利用者については以前から減少傾向にある。また、新型コロナウイルス感染症により和歌山線利用者も減少したことも重なり、駐車場使用料歳入が減少した。		
				実績	2,303,600	2,044,900	1,757,900					
	<指標の計算方法>		各年度の歳入実績額									
	活動指標	駐車場管理業務委託料率	%	目標	10	10	10	10	10	外部委託により効率的に管理できている。		
				実績	10	10	10					
<指標の計算方法>		委託料/駐車場使用料歳入×100										
活動指標	利用促進の年間啓発回数	回	目標	1	1	1	1	1	駐車場の周知を行うため広報紙に掲載し、利用促進を図っている。			
			実績	1	1	1						
<指標の計算方法>		パークアンドライドの推進に関する啓発活動の実施回数										
活動指標	駐車場、駐輪場維持・修繕回数	回	目標						駐輪場の利便性を損なうことがないよう、適宜、除草・修繕等を行っている。			
			実績			4						
<指標の計算方法>		駐車場、駐輪場の清掃・除草及び修繕を行った回数										

コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)		財源内訳					
	1,164		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
						1,164		

事業の実績	①粉河駅前市営駐車場管理運営	粉河駅第2自転車駐車場：10台 紀伊長田駅自転車駐車場：20台 名手駅第1自転車駐車場：100台 名手駅第2自転車駐車場：150台 貴志駅自転車駐車場：130台 甘露寺前駅自転車駐車場：50台 西山口駅第1自転車駐車場：6台 西山口駅第2自転車駐車場：20台 大池遊園駅自転車駐車場：25台
	②駅前駐輪場管理運営	・駐輪台数調査実施 ・駐輪場の収容力 打田駅第1自転車駐車場：100台 打田駅第2自転車駐車場：70台 下井阪駅自転車駐車場：150台 粉河駅第1自転車駐車場：70台

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない	・地域住民の移動手段となる地域公共交通の維持のために、駐車場・駐輪場を確保することは妥当である。
	有効性	評価結果	改善の余地がない	・利用者数は、減少傾向にあるが、周辺事業者の職員等が、市営駐車場を利用しており、比較的安定した数となっている。 ・事業者を訪れる市民の利便性のみならず、周辺道路の違法駐車が減少し、市民の安全に貢献している。 ・利用者のニーズを把握し利用促進を図るため、契約締結時にアンケート調査の実施を検討している。
	効率性	評価結果	改善の余地がややある	・市営駐車場から近く、管理の目が届きやすい紀の川市商工会に管理を委託することは効率的である。 ・利用促進を図るため、効果的な広報、周知を行っていく。

事務事業の概要	事務事業名	地域公共交通活性化再生事業		担当課	地域創生課			事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1125		
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	1 総務管理費			施策目標	1	都市基盤整備・公共交通				
		目	12 交通政策費			基本施策	3	公共交通ネットワークの充実				
取組方針	1	公共交通の維持・確保・充実										
事業概要	地域公共交通の活性化及び再生に関する利用促進等を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	法定協議会の開催		⑤				⑨				
	②	情報発信・利用促進		⑥				⑩				
	③	ダイヤ・路線改正準備		⑦				⑪				
	④			⑧				⑫				
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	紀の川市地域公共交通活性化再生協議会（法定協議会）の開催	目標		2	2	2	2	ダイヤ改正延期に関する合意形成のため4回開催した。新型コロナウイルス感染症の影響で対面開催が困難だったが、対面開催を1回実施し、意見交換ができた。			
			実績		4	4						
	<指標の計算方法>		法定協議会の開催回数									
	活動指標	住民主体の利用促進活動への支援	目標		6	7	8	9	前年度は住民勉強会への講師派遣依頼等があったが、本年度は実績なし。しかし、バスマップ作成や調査事業協力(2回)といった利用促進活動が見られた。			
			実績		4	3						
	<指標の計算方法>		地域住民が地域公共交通の利用促進に主体的に関わった回数（網形成計画）									
活動指標	市が主体となった利用促進の実施回数	目標		6	7	15	15	前年度は住民意見交換会を実施したが、本年度は開催を控えた。取組方針を利用調査等での基礎データ収集に切り替え、前年度と概ね同水準の取組回数を維持した。				
		実績		16	15							
<指標の計算方法>		市が主体的に取り組んだ地域公共交通の利用促進活動の回数										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	4,988			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
事業の実績	①法定協議会の開催 ・協議会を4回開催 7月13日（書面） 9月23日（書面） 2月2日（書面） 3月24日（対面） ・専門部会を1回開催 12月7日（対面）			②情報発信・利用促進 ・広報紙掲載（6記事） 4月号： 公共交通を利用しよう 10月号： ダイヤ・路線改正延期 12月号： (1)紀の川コミュニティバス一部運休 (2)貴志川線調査実施 (3)貴志川線利用促進 1月号： 紀の川コミュニティバス無料乗車券			③地域巡回バスダイヤ・路線改正準備 令和2年10月改正予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染状況から、改正後の利用促進を円滑に行うことが難しく、また、新型コロナウイルス感染症の影響による利用者数の減少で、改正による利用状況の変化を正確につかめず、効果検証が難しいため、1年延期した。 ・関係主体との各種調整（随時） ・IP無線機導入に向けた調整（随時） (改正によって、運行会社が1社増え、			異なる事業者間での乗り継ぎが発生するため、運転士間で連絡を取り合い、遅延等の際にも可能な限り乗り継ぎできるように調整してもらうために、IP無線導入に向けて、各事業者との調整を行った。）		
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・人口や利用者の減少が続くなか、地域公共交通網形成計画に基づき、有効な取組を実施しており、市が行うことは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・市民意識調査で「公共交通ネットワークの充実」に対する市民の不満率が高い（42.4%）状態が続いている。 ・引き続き利用促進等に取り組み、不満率の抑制につなげる必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・コスト削減の観点からは、バス路線の一部廃止及びデマンド型交通の導入検討を協議する必要がある。 ・交通事業者保護の観点からは、現状の実施方法を即座に変更することは困難である。 ・利用促進等を通じて地域公共交通確保についての理解醸成に努める。											

事務事業の概要	事務事業名	電算システム管理運営事業			担当課	企画経営課			事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	11		
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営				
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成				
		目	13 電算管理費				基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進				
事業概要	電算システムを安全に、また安定的に稼働することで、職員が効率的に業務を行い、市民に安定した行政サービスを提供する事業												
事務事業を構成する細事業	①	情報系システム管理			⑤				⑨				
	②	基幹系システム管理			⑥				⑩				
	③	セキュリティ対策			⑦				⑪				
	④				⑧				⑫				
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析				
	成果指標	情報系システム停止件数	目標	0	0	0	0	0	指標の実績から安定稼働していると判断できる。				
			実績	0	0	0	0						
	<指標の計算方法>		実数による件数										
	成果指標	基幹系システム停止件数	目標	0	0	0	0	0	指標の実績から安定稼働していると判断できる。				
			実績	0	0	0	0						
	<指標の計算方法>		実数による件数										
	成果指標	情報漏えい事故発生件数	目標	0	0	0	0	0	指標の実績から職員が情報セキュリティポリシーを意識して安全にシステムを利用できており、ISMSも機能していると判断できる。				
			実績	0	0	0	0						
	<指標の計算方法>		実数による件数										
活動指標	サービスデスク受付件数	目標			3,500	3,450		受付件数が目標値より少なかったことから安定したシステム運用ができてしていると判断できる。					
		実績	1,650	1,955	3,498								
<指標の計算方法>		実数による件数											
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源				
136,952			3,267						133,685				
事業の実績	①情報系システム管理 ・京セラ製プリンタ修繕 5台 ・mouseパソコン修繕 2台 ・ハードウェア保守の実施 ・ソフトウェア保守の実施 ・ネットワーク保守の実施 ・システム運用支援の実施 ・サービスデスク業務の外部委託実施 ②基幹系システム管理 ・ハードウェア保守の実施 ・ソフトウェア保守の実施 ・帳票印刷の外部委託実施 ・自治体共同クラウドの利用 ・サービスデスク業務の外部委託実施 ③セキュリティ対策 ・ISMS認証の取得 ・自治体情報セキュリティクラウドの利用												
	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・基幹系及び情報系システムの安定稼働は、市役所業務の根幹を成すものであり、効率的な行政運営や質の高い行政サービスを提供するためには必要不可欠であるため事業実施の妥当性がある。											
有効性	評価結果	改善の余地がない											
	・セキュリティ事故も発生しておらず、システムも安定稼働しているため有効性がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある											
	・サービスデスク業務（市職員からの問合せや要望対応業務）を全面的に外部委託に出し、SLA（サービスレベルアグリーメント）により安定したサービスが保証されているため効率性がある。一方で職員がサービスデスク業務に関与することもあるため、その割合を減らしていく必要がある。												

事務事業の概要	事務事業名	電算システム更新事業		担当課	企画経営課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	497	
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費			施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	13 電算管理費			基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進			
取組方針			9	その他							
事業概要	電算システムを安全に、安定的に稼働し、市民に安定した行政サービスを提供できるように電算システムを更新する事業										
事務事業を構成する細事業	①	情報系システム更新		⑤					⑨		
	②	基幹系システム更新		⑥					⑩		
	③			⑦					⑪		
	④			⑧					⑫		

指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	成果指標	情報系システム停止件数	目標	0	0	0	0	0	指標の実績から安定稼働していると判断できる。		
			実績	0	0	0	0				
	<指標の計算方法>		実数による件数								
	成果指標	基幹系システム停止件数	目標	0	0	0	0	0	指標の実績から安定稼働していると判断できる。		
			実績	0	0	0	0				
	<指標の計算方法>		実数による件数								
	成果指標	情報漏えい事故発生件数	目標	0	0	0	0	0	指標の実績から職員が情報セキュリティポリシーを意識して安全にシステムを利用できており、ISMSも機能していると判断できる。		
			実績	0	0	0	0				
	<指標の計算方法>		実数による件数								
活動指標	基幹システム稼働業務数	目標						指標の実績から53業務の稼働ができており、安定稼働していると判断できる。			
		実績	51	52	53						
<指標の計算方法>		稼働業務数									

コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)		財源内訳						
	9,093		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	
								9,093	

事業の実績	①情報系システム更新 ・インターネットシステム更新計画策定 ・無線LANセキュリティ強化計画策定 ・プリンター 45台購入 ②基幹系システム更新 ・自治名人クラウドサービスに介護保険を追加									

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・市の業務継続に直結する事業であるため、市が実施することは妥当である。							
	有効性	評価結果	改善の余地がない ・指標が示すように、安定したシステムを導入したという成果が出ており有効である。							
	効率性	評価結果	改善の余地がない ・市の業務継続に直結する事業であるため、電算システムに係る機器について、耐用年数を考慮し、効率よく入れ替えている。							

事務事業の概要	事務事業名	行政情報化推進事業			担当課	企画経営課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	498	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	13 電算管理費				基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進			
事業概要	行政分野への情報通信技術の活用により、市民の利便性の向上と行政運営の効率化を図り、また関係団体、関係機関に負担金の支出や運営へ参加する事業											
事務事業を構成する細事業	①	県情報化推進協議会負担金			⑤	業務自動化促進		⑨				
	②	地方公共団体情報システム機構負担金			⑥	テレワークシステム構築		⑩				
	③	県電子自治体推進協議会参画			⑦			⑪				
	④	マイナンバー制度普及促進			⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	マイナンバーカード普及啓発実施回数	目標	2	2	2	2	2	新型コロナウイルス感染症により令和2年度は未実施。			
			実績	3	5	0						
	<指標の計算方法>		普及啓発実施回数									
	成果指標	業務自動化による削減業務時間数	目標		350	450	750		746時間の業務時間削減ができており、業務自動化による効果が出ている。			
実績				420	746							
<指標の計算方法>		削減された業務時間数の合計										
活動指標	継続実施している情報化推進施策数	目標		1	2	3		統合型地図情報システム及び基幹系システム用RPAによる業務自動化を継続実施。オープンデータ用カタログサイト及びテレワークシステムを新規導入。				
		実績		2	4							
<指標の計算方法>		実施中の情報化施策数（前年度以前からの継続実施を含む）										
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)		財源内訳									
	57,027		国庫支出金	2,000	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	55,027		
事業の実績	①県情報化推進協議会負担金 ②地方公共団体情報システム機構負担金 ③県電子自治体推進協議会参画 ④マイナンバー制度普及促進 ⑤業務自動化促進 ・障害福祉課 420時間削減 ・教育総務課 210時間削減 ・税務課 31時間削減 ・高齢介護課 85時間削減 ⑥テレワークシステム構築 ・同時稼働台数 PC 80台 ・セキュリティ対策 端末仮想化 ・通信方式 閉域SIM ・令和3年1月～3月に市長公室、企画部、総務部及び危機管理部を対象に在宅勤務を試行実施。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・ICTを活用した庁内の情報化施策は、職員の生産性向上や業務効率化、住民サービスの向上に寄与し、庁内外への影響も大きいため、本事業を実施する妥当性がある。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・特に業務自動化促進については、投資費用以上の効果が認められるため有効性がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
・業務自動化促進やオープンデータに関する業務については、新しい業務としてスモールスタートで始めたばかりであるため、現時点では職員による実施の方が効率的である。												

事務事業の概要	事務事業名	地域情報通信基盤管理運営事業			担当課	企画経営課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	402
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営		
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成		
		目	14 地域情報化推進費				基本施策	1	市政情報の発信と適正な情報管理		
事業概要	市民（難視聴エリア）の市内における情報格差の是正を図るために、施設整備や情報・通信サービスの提供、対策を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	設備管理			⑤				⑨		
	②	設備更新			⑥				⑩		
	③	難視聴・不感対策			⑦				⑪		
	④				⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	設備適正管理施設数	目標	5	5	5	5	5	難視聴地域にテレビ放送を提供するため、5箇所（箇所）に放送用機材を設置している。故障や老朽化を未然に防ぐため、定期保守や機器更新を行う必要がある。		
			実績	5	5	5	5				
	<指標の計算方法>		管理施設の内、耐用年数超えの機器が存在しない施設数								
	成果指標	ケーブルテレビ放送送信停止	目標	0	0	0	0	0	建物火災による類焼により光ケーブルが被害を受け、桃山町大原地区が一時通信断となった。		
			実績	1	1	1	1				
	<指標の計算方法>		ケーブルテレビ放送機器故障等による放送停止回数								
成果指標	1人あたりコスト	目標	27,864	27,864	28,380	28,380	28,380	NTT提供のフレッツテレビ年間使用料とケーブルテレビ年間視聴料の差額であり、目標値を超えるほどコストがかかるようであれば代替手段の検討が必要である。			
		実績	4,696	8,877	3,746						
<指標の計算方法>		一般財源支出額/ケーブルテレビ加入者数									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	24,129			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
事業の実績	①設備管理			②設備更新			③難視聴・不感対策				
	<ul style="list-style-type: none"> ケーブルテレビ加入世帯数 (加入率：加入世帯数/地域世帯数) 670世帯 (80.0%) インターネット加入世帯数 (加入率：加入世帯数/地域世帯数) 254世帯 (30.3%) ※地域世帯数838世帯 設備保守 スポット保守 19件 支障移転 7件 材料購入 1件 芯線貸出 NTTドコモ 6芯 ソフトバンク 8芯 吊線貸出 ZTV 329箇所 ケイオプティコム 44箇所 KDDI 86箇所 			<ul style="list-style-type: none"> 老朽化したテレビ送信設備を更新 5年計画のうち5年目 地デジヘッドアンプ、光アンプ、メディアコンバータ等 							
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・未だに民間事業者が採算性の点から事業展開しておらず、地域情報通信基盤施設がないとテレビ、インターネットが利用できないなど大きな情報格差が発生するため、設備を管理運営しサービスを安定的に提供する必要がある。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・インターネット接続事業者及びケーブルテレビ会社に地域情報通信基盤施設を貸し出し、市民に必要な通信・情報サービスを実施している。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・現時点では、提供地域に住む住民にとっては代替手段がない。										

事務事業の概要	事務事業名	地域防犯推進事業			担当課	危機管理消防課		事業区分	ソフト事業											
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	500									
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心												
		項	1 総務管理費				施策目標	1 防災・防犯												
		目	15 地域安全対策費				基本施策	4 防犯・交通安全対策の推進												
目				取組方針	4 地域防犯対策の推進															
事業概要	市民、自治区の防犯力の向上を図るために、防犯啓発、防犯教室の実施や防犯設備の設置に対する補助を行う事業																			
事務事業を構成する細事業	① 防犯灯設置補助金			⑤ 行方不明者対応			⑨ 電気用品安全法													
	② 防犯カメラ設置補助金			⑥ 県水上安全協会負担金			⑩													
	③ 防犯カメラ管理			⑦ 那賀地区防犯協議会負担金			⑪													
	④ 生活安全推進			⑧ 生活安全・暴力追放推進協議会補助金			⑫													
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析											
	活動指標	防犯啓発実施回数	目標	2	2	3	3	3	暴力追放県民・市民大会、暴力追放市民大会、地域安全活動による街頭啓発等。暴走大会はいずれも中止。街頭啓発は感染対策のため、規模を縮小して2回実施。											
			実績	10	17	2														
	<指標の計算方法>		実施回数																	
	活動指標	防犯教室実施回数	目標	4	4	5	5	5				地域サロン等からの要望により実施。感染症予防のため開催要望なし。								
			実績	6	4	0														
	<指標の計算方法>		実施回数																	
	活動指標	補助事業の啓発回数	目標	7	6	6	6	6							区長会での啓発。感染症予防のため、書面啓発となった。					
			実績	6	6	6														
	<指標の計算方法>		啓発活動の延べ回数																	
成果指標	LED防犯灯設置基数	目標	515	515	726	622	622	蛍光灯からLED灯への器具取替が主な補助対象となる。予算拡充により受付可能件数増加による実績増。												
		実績	535	521	601															
<指標の計算方法>		防犯灯新規(LED化)の設置延べ基数																		
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳																
	13,634			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金				その他	一般財源	13,634							
事業の実績	①防犯灯設置補助金 ・新設 既設電柱等に設置 80基 支柱も同時に設置 5基 ・取替え 既設蛍光灯から取替え 510基 支柱も同時に取替え 5基 既設LED灯の支柱取替え 1基			⑤行方不明者対応 3件			⑥県水上安全協会負担金 314,000円				⑦那賀地区防犯協議会負担金 414,000円									
	②防犯カメラ設置補助金 設置区 6区、設置台数 9台			⑧生活安全・暴力追放推進協議会補助金 207,000円			⑨電気用品安全法 立ち入り店舗 2店舗 該当品目取扱なし				⑩補助事業啓発(防犯灯、防犯カメラ) 啓発回数 6回(書面啓発) 啓発内訳 打田区長会、粉河区長会、那賀区長会 桃山区長会、貴志川区長会、全体区長会									
	③防犯カメラ管理 設置台数 7台 設置場所 打田駅、粉河駅、名手駅、下井阪駅(2台)、貴志駅、甘露寺前駅																			
	④生活安全・暴力追放推進協議会 啓発 2回、教室 0回																			
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない																	
		・公共性があり市が率先する事業として妥当である。																		
	有効性	評価結果	改善の余地がない																	
・防犯意識の向上が見込める。																				
効率性	評価結果	改善の余地がない																		
	・関係機関と連携を図り継続的に地道に実施する必要がある。																			

事務事業の概要	事務事業名	交通安全推進事業		担当課	危機管理消防課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心		
		項	1 総務管理費			施策目標	1	防災・防犯		
		目	15 地域安全対策費			基本施策	4	防犯・交通安全対策の推進		
事業概要	市民が交通安全意識を高め、円滑な道路交通で生活できるように、市民(特に児童・高齢者)に街頭啓発や交通安全教室等の開催を行う事業									
事務事業を構成する細事業	①	交通安全指導員設置		⑤	那賀地方交通指導員会連絡会負担金		⑨	紀の川市交通大学		
	②	交通安全啓発		⑥	交通安全母の会補助金		⑩	交通安全母の会		
	③	交通安全施設整備申請		⑦	交通安全推進連絡協議会補助金		⑪			
	④	地域交通安全活動推進委員協議会負担金		⑧	紀の川市交通安全推進連絡協議会		⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析	
	活動指標	交通安全教室実施回数	目標	21	21	10	10	10	市内保育所の園児に対する啓発4回。目標実施回数を10回にしていたが、感染症流行による活動自粛により、交通安全教室の開催依頼が無くなったことに加え、積極的な実施も困難であったため。	
			実績	6	9	4				
	<指標の計算方法>		実施回数							
	活動指標	交通安全啓発実施回数	目標	11	11	12	12	12		四季の交通安全教室に伴う啓発活動3回。目標実施回数を12回にしていたが、感染症の流行により啓発のための集会活動の規模が縮小、または実施を取り止めとなったため。
			実績	10	11	3				
	<指標の計算方法>		実施回数							
成果指標	交通事故発生件数	目標	220	210	200	190	180	平成31年92件 前年比△5件		
		実績	149	97	92					
<指標の計算方法>		紀の川市管内の人身交通事故件数								
		目標								
		実績								
<指標の計算方法>										
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)		財源内訳							
	3,843		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
事業の実績	①交通安全指導員設置 指導員数52名		⑦交通安全推進連絡協議会補助金 360,000円							
	②交通安全啓発 3回		⑧紀の川市交通安全推進連絡協議会 安全教室の実施 4回							
事業の実績	③交通安全施設整備申請 要望受理件数 22件 飛び出し注意看板要望 38件 (看板59枚、土台33個配布)		⑨紀の川市交通大学 学生20名、年間8回							
	④地域交通安全活動推進委員協議会負担金 59,000円		⑩交通安全母の会 あいさつ運動 11回							
事業の実績	⑤那賀地方交通指導員会連絡会負担金 23,200円									
	⑥交通安全母の会補助金 107,000円									
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない							
			・交通安全に係る関係機関との連携を維持・向上させ、交通安全活動を共助・活性化していくことは、市が主体となり推進する事業として妥当である。							
	有効性	評価結果	改善の余地がややある							
		・情勢に合わせて微調整しつつ、今後も他関係機関と連携を取りながら継続的・長期的に実施する必要がある。								
効率性	評価結果	改善の余地がややある								
		・継続的に実施していく必要性があるため、長期的な観察が必要								

事務事業の概要	事務事業名	放棄車両対策事業			担当課	危機管理消防課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	15	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心				
		項	1 総務管理費				施策目標	1 防災・防犯				
		目	15 地域安全対策費				基本施策	4 防犯・交通安全対策の推進				
事業概要	市民が放棄車両の無い円滑な道路交通で生活できるように、放置車両の所有者に啓発、警告を行い、放置車両の撤去、保管、廃棄を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	放棄車両対策（撤去）			⑤				⑨			
	②	放棄車両保管			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	放棄・放置自転車等に対する防止啓発回数	回	目標	1	1	2	2	2	岩出警察署との共同啓発活動 感染症流行に起因する活動自粛により実施が困難であったため		
			実績	1	1	0						
	<指標の計算方法>		啓発活動の実施回数									
	活動指標	放置自転車警告台数	台	目標	200	200	180	180	180	H31年度235件 前年度比136件の減 警告対象車両の減少によるもの		
			実績	9	235	99						
	<指標の計算方法>		警告対象とした自転車の台数									
	成果指標	放棄自動車台数	台	目標	2	2	1	1	1	H31年度0件 前年度比±0件 警告を行った放棄自動車等は判明した所有者により移動済		
			実績	0	0	0						
	<指標の計算方法>		放棄自動車の撤去台数									
成果指標	放置自転車台数	台	目標	100	100	90	90	90	H31年度90件 前年度比5件の減 警告対象車両の減少によるもの			
		実績	8	90	85							
<指標の計算方法>		放置自転車の撤去台数										
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	22			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	22		
事業の実績	①放棄車両対策（撤去） 自動車等0台、自転車85台											
	②放棄車両保管 自動車等0台、自転車85台											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・市有地等公共の場所の環境保全は管理者が行うのが妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・放置車両等の排除により一時的な環境浄化等の効果が見込まれるが、放置行為自体は改善されない。 ・マナーアップのための啓発など地道な啓発を継続することが必要である。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・車両撤去について市職員による少人数では効率性が乏しいが、業務委託などをした際の費用対効果を考慮すると効率的な方法とは言えない。 ・各支所安全推進監に業務の一部の協力を求め、負担の分散を図っている。											

事務事業の概要	事務事業名	特別定額給付金給付事業		担当課	総務課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	新規	事業期間		単年度のみ		事業番号	1156
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	99	*****			
		項	1 総務管理費			施策目標	0	*****			
		目	17 特別定額給付金給付事業費			基本施策	0	*****			
事業概要	新型コロナウイルス感染症緊急経済対策の趣旨を踏まえ、家計への支援を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	特別定額給付金		⑤					⑨		
	②			⑥					⑩		
	③			⑦					⑪		
	④			⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	成果指標	特別定額給付金給付世帯数	目標			26,509			ほぼ100%の世帯に支給できた。		
			実績			26,483					
	<指標の計算方法>		給付済世帯数/給付対象世帯数								
	成果指標	特別定額給付金給付額	目標			6,139			ほぼ100%給付できた。		
			実績			6,136					
<指標の計算方法>		支給済額/支給予定額									
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
6,160,643			6,160,643								
事業の実績	①特別定額給付金 1人につき10万円の給付金の支給を行った										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・国の「新型コロナウイルス感染症緊急経済対策」の趣旨に則したものであり、実施するのが妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・国の「新型コロナウイルス感染症緊急経済対策」の趣旨に則したものであり、事業の実施は有効である。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・今回の方法が最適であると思われる。										

事務事業の概要	事務事業名	紀の川市特別定額給付金給付事業			担当課	総務課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	新規	事業期間	単年度のみ		事業番号	1157	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	99	*****			
		項	1 総務管理費				施策目標	0	*****			
		目	17 特別定額給付金給付事業費				基本施策	0	*****			
事業概要	新型コロナウイルス感染症緊急経済対策の趣旨を踏まえ、国が支給する1人につき10万円に1万円を上乗せして支給し、家計への支援を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	紀の川市特別定額給付金			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名	単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	成果指標	紀の川市特別定額給付金給付世帯数	世帯	目標			26,509			ほぼ100%の世帯に支給できた。		
			実績				26,483					
	<指標の計算方法>		給付済世帯数/給付対象世帯数									
	成果指標	紀の川市特別定額給付金給付額	百万円	目標			613.9			ほぼ100%給付できた。		
			実績				613.6					
	<指標の計算方法>		支給済額/支給予定額									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位:千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
613,843			610,000						3,843			
事業の実績	①紀の川市特別定額給付金 1人につき1万円の給付金の支給を行った。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・国の「新型コロナウイルス感染症緊急経済対策」の趣旨に則したもので、さらに国の特別定額給付金に上乗せして支給しており、実施するのが妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・国の「新型コロナウイルス感染症緊急経済対策」の趣旨に則したもので、さらに国の特別定額給付金に上乗せして支給する事業のため、事業の実施は有効である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・今回の方法が最適であると思われる。											

事務事業の概要	事務事業名	税務行政推進事業		担当課	税務課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	510
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営		
		項	2 徴税費			施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成		
		目	1 税務総務費			基本施策	2	健全な財政運営の確立		
事業概要	市の円滑な税務行政を推進するために、関連団体への負担金の支出や運営へ参画する事業									
事務事業を構成する細事業	①	近畿都市税務協議会負担金		⑤	橋本・伊都・那賀租税教育推進協議会負担金		⑨	資産評価システム研究センター負担金		
	②	県租税教育推進連絡協議会負担金		⑥	確定申告書発送経費負担金		⑩			
	③	伊那税務協議会負担金		⑦	年末調整関係書類封入発送経費負担金		⑪			
	④	軽自動車税申告事務経費負担金		⑧	地方税共同機構負担金		⑫			
指標の実績	指標名	単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標 租税教室開催件数 (粉河税務署管内)	目標		50	50	50	50	教室を開催することにより、小中学生の納税意識を高めているが、今年度は、コロナ禍により小中学校が休校となった影響により大幅に減少した。		
		実績	48	47	24					
	<指標の計算方法>		小中学校へ税務署・県・市の職員、税理士等が講師となり開催した教室の回数							
	成果指標 税についての作文 応募件数(粉河税務署管内)	目標		2,000	2,000	2,000	2,000	作文を書くことにより、税に関心を持ち、税に対する理解を深める効果がある。今年度は、コロナ禍により小中学校が休校となった影響で、夏休み返上となったことにより大幅に減少した。		
		実績	2,234	2,064	602					
<指標の計算方法>		税の作文に応募があった件数(中学生の部・高校生の部の合計)								
	目標									
	実績									
<指標の計算方法>										
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)		財源内訳							
	2,518		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	2,518	
事業の実績	①近畿都市税務協議会負担金 適正な都市税務制度の確立とその運営に関する相互の円滑な連絡を図ることを目的として設立された団体への負担金		⑤橋本・伊都・那賀租税教育推進協議会負担金 次代を担う児童・生徒を中心に租税教室の開催や税に関する作文の募集等を通じて、税の意義や役割の正しい理解を促進するために設立された団体への負担金		⑨資産評価システム研究センター負担金 固定資産に係る課税及び評価に関する調査研究事業、地方公共団体における固定資産評価技術の向上のための研修事業等を中心とした事業を実施し、固定資産評価の均衡化、適正化を推進することを目的として設立された団体への負担金					
	②県租税教育推進連絡協議会負担金 粉河税務署の管轄区域内における児童・生徒及び一般社会人に対して、租税教育を推進することを目的として設立された団体への負担金		⑥確定申告書発送経費負担金 確定申告書の発送経費について、国、市町村において発送数に応じて負担を実施		⑦年末調整関係書類封入発送経費負担金 年末調整関係書類の封入・発送経費について、国、市町村において発送数に応じて負担を実施					
	③伊那税務協議会負担金 粉河税務署の管轄区域内における税務行政の運営に当って緊密な協力体制を確立し、あわせてその連絡協調を図ることを目的として設立された団体への負担金		⑧地方税共同機構負担金 地方公共団体の相互協力を基本理念として、地方税の電子化を推進することにより、納		税者の利便性の向上を図るとともに地方税務行政の高度化及び効率化に寄与することを目的として設立された団体への負担金					
	④軽自動車税申告事務経費負担金 軽自動車税の申告事務に要する経費について、市町村の登録台数に応じて負担									
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・次代を担う子供に対して税の役割や使い道について考え、関心を深めてもらう機会づくりが、将来の納税意識の醸成に寄与するものとなるため、市が関連団体の活動に参画(負担金支出)することは妥当である。							
	有効性	評価結果	改善の余地がない ・関連団体の調査研究成果等を通じて、市の課税業務の適正化や高度化につながっている。 ・関連団体の取組・活動により、地方税の電子化が推進されており、納税者の利便性向上につながっている。							
	効率性	評価結果	改善の余地がない ・確定申告書や年末調整等の関連書類の発送経費を負担することで、事務経費の節減につながっている。							

事務事業の概要	事務事業名	固定資産評価審査委員会運営事業			担当課	総務課		事業区分	内部管理事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	509	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	99 ****				
		項	2 徴税費				施策目標	99 ****				
		目	1 税務総務費				基本施策	99 ****				
事業概要	固定資産の評価に不服がある者の評価が適正か否かを判断するため、固定資産評価委員会へ審査の申出がされてから裁決までの行程を円滑に行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	固定資産評価審査委員会運営			⑤					⑨		
	②				⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	固定資産評価審査委員会運営研修会への参加	目標						コロナ禍のため、不参加。			
			実績	1	1							
	<指標の計算方法>		研修会参加件数									
	活動指標	審査申出に係る固定資産評価審査委員会の開催	目標						平成27年度以降、審査申出なし。			
			実績									
	<指標の計算方法>		審査委員会開催件数									
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
事業の実績	①固定資産評価審査委員会運営 ・新型コロナウイルス感染症流行のため、運営研修会不参加。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・ 地方税法に基づき設置が義務付けられており、市が実施しなければならない事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・ 審査申出がなされれば、固定資産評価審査委員会が中立的な立場から審査決定を行うことが、公平・適正な価格の決定を保證するものになりうる。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・ 固定資産評価審査委員に対する報酬のため、これ以上のコスト削減は難しい。											

事務事業の概要	事務事業名	賦課総務事業		担当課	税務課			事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	520		
	予算科目	款	2	総務費	長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営				
		項	2	徴税費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成				
		目	2	賦課費		基本施策	2	健全な財政運営の確立				
事業概要	市が効率的に賦課業務を進められるように、会計年度任用職員の雇用と庶務業務の調整を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	賦課総務事業			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名	単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	専門研修派遣人数	人	目標	3	3	3	3	3	業務に必要な専門的知識の習得及び実務遂行能力の向上を図るため、毎年市民税班1名・固定資産税班2名（土地担当1名・家屋担当1名）が参加しているが、今年度はコロナ禍により参加できず。		
			実績	3	3	0						
	<指標の計算方法>		全国市町村国際文化研修所における研修参加人数									
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)		財源内訳									
	6,061		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源				
								2,310		3,751		
事業の実績	①賦課総務事業 ・会計年度任用職員の雇用 1名 課税事務に関する補助職員 ・職員研修 全国市町村国際文化研修所（大津市） コロナ禍により参加できず。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		地方税法に基づく課税事務が円滑に行えるようにする上で必要となる事業であり、市が関与することは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・専門職員研修等を通じて、担当職員の専門的知識の習得及び実務遂行能力の向上につながっている。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・公的機関が実施する研修に参加することで、最小限の経費での研修参加が可能となっている。 ・課税事務において使用する帳票や封筒等の作成について、各種税目分を一括で発注するなど、効率的な経費の執行に努めている。											

事務事業の概要	事務事業名	個人市県民税賦課事業			担当課	税務課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	511
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営		
		項	2 徴税費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成		
		目	2 賦課費				基本施策	2	健全な財政運営の確立		
事業概要	市が歳入を適正に確保するために、納税義務者（市民）の申告に基づき、適正な課税を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	個人市県民税賦課			⑤				⑨		
	②				⑥				⑩		
	③				⑦				⑪		
	④				⑧				⑫		

指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	市民税申告書送付件数	件	目標	8,400	8,400	8,400	6,500	6,500	前年度に市民税申告書及び国保税用申告を行った市民に対し市民税申告書を送付する件数は、人口減少等により減少傾向にあるため、目標値を下げた。	
			実績	6,499	6,074	5,745					
	<指標の計算方法>		市民税申告を促した数								
	活動指標	申告会場における申告書受付件数	件	目標	3,900	3,900	3,900	3,500	3,500	電子申告が徐々に普及されているためと、コロナ禍の影響により申告会場における受付件数は減少している。	
			実績	4,128	3,731	3,524					
<指標の計算方法>		申告相談にて受け付けた数									
活動指標	給与支払総括表送付件数	件	目標	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	前年度に給与支払報告書の提出があった事業所に対し送付している。継続して特別徴収の実施を必要とする事業所は若干減少したがほぼ横ばいに推移している。		
		実績	7,030	6,781	6,760						
<指標の計算方法>		特別徴収義務者に課税資料（給与報告書）の提出を促した数									
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											

コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)		財源内訳				
	17,260		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他
						150	17,110

事業の実績	①個人市県民税賦課	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年分所得税確定申告・市県民税申告事務の対応 税務課、収納対策課、国保年金課、支所職員および税務経験職員による協力体制を確立し、2月4日から3月15日まで本庁および各地域会場にて申告相談事務を行いました。 	<ul style="list-style-type: none"> 納税義務者数 29,213人 特別徴収納税義務者数（給与）18,954人 特別徴収納税義務者数（年金）5,179人 普通徴収納税義務者数 5,080人 （特別徴収義務者数（事業所）5,402社） 納税通知書作成および封入封緘業務（普通徴収）10,964件
	【受付件数】	<ul style="list-style-type: none"> 打田会場 1,742件 粉河会場 218件 那賀会場 225件 桃山会場 264件 貴志川会場 1,049件 鞆淵会場 26件 総受付件数 3,524件 	
	【従事職員数】	450人	

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない
		・ 地方税法に基づく事務である。	
	有効性	評価結果	改善の余地がない
	<ul style="list-style-type: none"> 国税連携による確定申告のデータ取り込み数を増やすため、税務署と協力して電子申告を推進した。 公平な課税ができるよう所得の内容確認や扶養重複確認など、適正に課税している。 適正な課税を行うことで、自主財源の比率を高めることに貢献している。 		
効率性	評価結果	改善の余地がややある	
	<ul style="list-style-type: none"> 電子申告の普及により、徐々に申告会場の来場者数も減少し、職員の負担が減少した。 申告書の入力作業を外部委託することにより、職員の入力作業に費やす時間が減少したが、入力後の確認作業が膨大であり、繁忙期における業務負担の軽減を検討する余地がある。 		

事務事業の概要	事務事業名	法人市民税賦課徴収事業			担当課	税務課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	512
	予算科目	款	2	総務費	長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	2	徴税費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	2	賦課費		基本施策	2	健全な財政運営の確立			
取組方針	9	その他									
事業概要	市が歳入を適正に確保するために、納税義務者（法人）の申告に基づき、適正な課税や徴収を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	法人市民税賦課事業			⑤			⑨			
	②	法人市民税徴収事業			⑥			⑩			
	③				⑦			⑪			
	④				⑧			⑫			

指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	申告依頼書送付件数	件	目標	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	納税義務者に対して、その決算時期に応じて申告依頼書を送付し、適正な申告納付を求める。	
			実績	1,346	1,350	1,346					
	<指標の計算方法>		対象法人に対し、申告を促した件数								
	活動指標	未申告法人に対する申告依頼書送付件数	件	目標	20	20	20	20	20	未申告である納税義務者に対して、申告期限の翌々月10日前後に申告案内を再送し、適正な申告納付を求める。	
			実績	27	22	26					
	<指標の計算方法>		申告期限までに申告がない法人に対し、再度申告を促した件数								
活動指標	督促状送付件数	件	目標	40	40	40	40	40	申告後、納期限までに納付がない納税義務者に対して、納期限の翌月督促状を送付し、納付を求める。		
		実績	43	56	36						
<指標の計算方法>		納期限までに納付がない法人に対し、納付を促した件数									
成果指標	法人税調定額	千円	目標						法人税割額の税率が変更（12.1%→8.4%、9.7%→6.0%）になったことにより、調定額が大幅に減少した。		
		実績	398,036	397,927	335,723						
<指標の計算方法>		現年課税分の調定額									

コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)		財源内訳					
	15,379		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源

事業の実績	①法人市民税賦課事業 ・納税義務者数1,024社					
	【内訳】 9号 (50億円超・50人超) 10社 8号 (10億円超50億円以下・50人超) 2社 7号 (10億円超・50人以下) 49社 6号 (1億円超10億円以下・50人超) 4社 5号 (1億円超10億円以下・50人以下) 26社 4号 (1千万円超1億円以下・50人超) 20社 3号 (1千万円超1億円以下・50人以下) 191社 2号 (1千万円以下・50人超) 11社 1号 (上記以外の法人) 711社					
②法人市民税徴収事業						

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない	・ 地方税法に基づく事務である。 ・ 適正課税による自主財源の確保は、効率的な行財政運営を行うために必要な事業である。
	有効性	評価結果	改善の余地がない	・ 適正な課税事務を行うことで、歳入確保に繋がり、自主財源の比率を高めることに貢献している。
	効率性	評価結果	改善の余地がややある	・ 納税者の利便性の向上と、事務の効率化を高めるため、電子申告の推進を図っている。 ・ 電子申告データの取込等により、さらなる事務の効率化を図ることができる。ただし、精度の低い申告データも多く、取込後の確認・修正作業が懸念される。

事務事業の概要	事務事業名	固定資産税・都市計画税賦課事業			担当課	税務課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	517
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営		
		項	2 徴税費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成		
		目	2 賦課費				基本施策	2	健全な財政運営の確立		
事業概要	市が歳入を適正に確保するために、納税義務者（土地・家屋・償却資産所有者）の固定資産所有状況を確認し、適正な課税を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	固定資産税・都市計画税（土地）賦課		⑤					⑨		
	②	固定資産税・都市計画税（家屋）賦課		⑥					⑩		
	③	固定資産税（償却資産）賦課		⑦					⑪		
	④			⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	成果指標	固定資産評価審査委員会への審査申出件数	目標	0	0	0	0	0	申出がなかったことから市民からの信頼を得た適正評価が行えたことと言えます。		
			実績	0	0	0	0				
	<指標の計算方法>		審査申出がないことは、市民からの信頼を得た適正評価ができていていることに繋がる								
	活動指標	新增築家屋件数	目標						近年の新增築件数は250件前後で推移しております。なお、令和2年中に評価した物件の課税は翌年度となります。		
			実績	256	290	261					
<指標の計算方法>		1月から12月中に新增築され、評価した件数（概要調査より）									
活動指標	滅失家屋件数	目標						建替えや老朽により取壊された件数です。なお、令和2年中に滅失した物件の反映は翌年度となります。			
		実績	304	628	445						
<指標の計算方法>		1月から12月中に滅失された件数（概要調査より）									
成果指標	固定資産税・都市計画税調定額	目標						家屋の新增築及び企業の設備投資による償却資産の増により前年度より増額となっています。			
		実績	3,100,072	3,167,329	3,244,367						
<指標の計算方法>		現年課税分の調定額									
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	37,167			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	37,167	
事業の実績	①固定資産税・都市計画税（土地）賦課 ・令和3年度評価替えに向けた路線価更新 ・地番図更新（令和2年中異動分） ・納税義務者数（令和2年度） (土地：免税点未満含む) 固定資産税：32,532人 都市計画税：24,013人			非木造：64棟 ・納税義務者数（令和2年度） (家屋：免税点未満含む) 固定資産税：26,329人 都市計画税：24,930人							
	②固定資産税・都市計画税（家屋）賦課 ・家屋図更新（令和2年中異動分） ・登記データ課税連携構築に向けた登記と課税の突合作業（令和2年1月1日分まで） ・家屋評価件数（翌年度課税に反映） 木造：197棟			③固定資産税（償却資産）賦課 ・納税義務者数（令和2年度） (償却：免税点未満含む) 固定資産税：1,214人							
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・地方税法に基づく事務である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・近年新しい資材の複雑な家屋が増加しており、建築関係の技師の配置が望まれるとしておりましたが、各種研修等により知識向上を図り取り組んでいる。 ・地籍調査にかかる免除地積の解除についての広報も行き、納税者にも試算額を通知した。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・家屋登記データとの突合作業により課税連携の構築に目途がたち、令和3年度にシステム改修に取り組む予定である。										

事務事業の概要	事務事業名	軽自動車税賦課事業			担当課	税務課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	18
	予算科目	款	2	総務費	長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	2	徴税費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	2	賦課費		基本施策	2	健全な財政運営の確立			
取組方針	9	その他									
事業概要	市が歳入を適正に確保するために、納税義務者（軽自動車所有者）の軽自動車所有状況を確認し、適正な課税を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	軽自動車税賦課			⑤					⑨	
	②				⑥					⑩	
	③				⑦					⑪	
	④				⑧					⑫	
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析	
	活動指標	小型特殊車両の登録啓発回数	回	目標	1	1	1	1	1	徐々に登録台数も増えており、年1回の広報で足りると思われる。	
				実績	1	1	1				
	<指標の計算方法>		広報紙等を通じて登録啓発を行った回数								
	成果指標	小型特殊車両の登録台数	台	目標	1,160	1,170	1,180	1,180	1,180	広報等で周知しているため、徐々に登録台数も増えている。	
				実績	1,159	1,166	1,168				
	<指標の計算方法>		小型特殊車両登録台数（毎年度4月1日時点）								
	成果指標	課税台数	台	目標						消費税増税及び人口減少等の影響により、減少傾向にあると思われる。	
				実績	41,808	41,643	41,147				
	<指標の計算方法>		課税台数（毎年度4月1日時点）								
成果指標	軽自動車税調定額	千円	目標						重課税率等の影響により、増加傾向にあると思われる。		
			実績	249,014	256,425	260,859					
<指標の計算方法>		現年課税分の調定額									
コストの実績	R 2年度決算額（単位：千円）			財源内訳							
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
			3,332							3,332	
事業の実績	①軽自動車税賦課 ・原動機付自転車等標識登録・廃車 2,123件			小型特殊（農耕用）	1,037台						
	・陸運支局・軽自協での登録・廃車 10,794件			小型特殊（その他）	131台						
・軽自動車減免申請受付件数 595件			小型二輪	899台							
・登録台数 41,416台			・登録台数のうち非課税、免除台数		864台						
【内訳】			【内訳】								
原付50cc以下 6,255台			非課税		235台						
原付90cc以下 720台			課税保留		34台						
原付125cc以下 861台			身体障害者減免（税条例90条）		459台						
ミニカー 72台			施設減免（税規則55条）		127台						
軽二輪 855台			構造減免（税条例90条）		9台						
軽三輪 1台			・納税通知書作成・封入封緘業務		36,051件						
軽四輪乗用（営業用） 7台											
軽四輪乗用（自家用） 19,622台											
軽四輪貨物（営業用） 110台											
軽四輪貨物（自家用） 10,846台											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・ 地方税法に基づいて行う業務である。 ・ 適正課税による自主財源の確保は、効率的な行財政運営を行うために必要な事業である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・ 適正な課税事務を実施することで歳入確保につながっている。 ・ 本事業を通じて税収確保（自主税源の確保）に貢献している。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・ 軽四輪・自動二輪については、軽自動車検査協会・市長会から送付されるデータの電子化により、迅速、確実な申告書の收受ができ、賦課誤り等を軽減するとともに事務の効率化が図られている。 ・ 小型特殊車両については、公道走行の有無に関わらず課税対象となることから、引き続き適正課税に向けた取り組みが必要である。										

事務事業の概要	事務事業名	市税等収納事業		担当課	収納対策課			事業区分	ソフト事業					
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	523				
	予算科目	款	2	総務費	長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営						
		項	2	徴税費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成						
		目	3	徴税費		基本施策	2	健全な財政運営の確立						
事業概要	市が歳入を適正に確保するために、市税等の収納状況の管理を行う事業													
事務事業を構成する細事業	①	収納管理業務			⑤				⑨					
	②	口座振替・コンビニ収納等業務			⑥				⑩					
	③	納税証明交付業務			⑦				⑪					
	④				⑧				⑫					
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析				
	成果指標	市税収納率	%	目標	95	95.1	95.2	95.3	95.3	コロナ禍の状況が続く中、市税等を納付しやすい環境の整備及び効果的な滞納整理を行うことで、緩やかではあるが収納率の向上につながっていると考える。				
				実績	95.8	96.6	96.9							
	<指標の計算方法>		市税現年分、過年分を合算した収納率											
			目標											
			実績											
	<指標の計算方法>													
		目標												
		実績												
<指標の計算方法>														
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳										
	23,424			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	23,424				
事業の実績	①収納管理業務 ・市税等の収納管理 ・地方税共通納税システムの運用管理													
	②口座振替・コンビニ収納等業務 ・口座振替利用件数及び利用率 利用件数 22,597件 利用率 27.48% (参考：R1 27.58%) ・コンビニ収納利用件数及び利用率 利用件数 49,402件 利用率 26.99% (参考：R1 26.60%) ・スマホ収納利用件数及び利用率 利用件数 3,027件 利用率 1.65% (参考：R1 0.10%)													
	③納税証明交付業務 ・那賀自動車整備協同組合とのFAX通信による証明書の交付 交付件数 1,716件													
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない											
		・税の収納管理の正確性を確保するとともに、納付方法の拡充と定着を図り市民サービスの向上に必要なため、改善の余地がない。												
	有効性	評価結果	改善の余地がややある											
・収納管理に関する研修等が少なく、業務に精通し専門性を持った人材を育成することが困難な環境となっており、今後の納付方法の多様化による収納管理の複雑化に対応できるよう、人材育成の面で改善の余地が残る。														
効率性	評価結果	改善の余地がややある												
	・収納管理業務における外部委託の可能性の検討、また、AI・RPAを活用した効率化が課題である。													

事務事業の概要	事務事業名	市税等滞納整理事業			担当課	収納対策課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	521	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	2 徴税費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	3 徴税費				基本施策	2	健全な財政運営の確立			
事業概要	市民の税の公平性を確保するとともに、市の自主財源の確保を図るために、滞納者に滞納処分を行う事業											
事務事業を構成する細事業	① 督促・催告業務	⑤ 債権管理対策本部運営業務			⑨							
	② 財産調査業務	⑥ 納税意識向上対策業務			⑩							
	③ 滞納整理業務（市税分）	⑦ 納税猶予関連業務			⑪							
	④ 滞納整理業務（移管分）	⑧			⑫							
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	成果指標	市税収納率	%	目標	95	95.1	95.2	95.3	95.3	コロナ禍の状況が続く中、市税等を納付しやすい環境の整備及び効果的な滞納整理を行うことで、緩やかではあるが収納率の向上につながっていると考える。		
				実績	95.8	96.6	96.9					
	<指標の計算方法>		市税現年分、過年分を合算した収納率									
	成果指標	強制徴収公債権収納率	%	目標		27	29	30	30	保育料、公共下水道使用料、公共下水道受益者負担金、介護保険料、後期高齢者医療保険料、国民健康保険税の滞納繰越収納率		
				実績	26.84	29.12	31.68					
	<指標の計算方法>		強制徴収公債権過年分の収納率									
活動指標	滞納処分の執行停止処理件数	件	目標		40	40	40	40	地方税法第15条の7第1項他(3年執行停止及び即時消滅)			
			実績	50	71	51						
<指標の計算方法>		滞納処分の執行停止(3年執行停止、即時消滅)の合計件数										
活動指標	強制徴収公債権移管件数	件	目標		10	20	65	65	移管債権種別の増加、債権担当課との協議・指導により移管件数が増加している。			
			実績		14	65						
<指標の計算方法>		債権担当課から収納対策課へ移管を受け付けた件数										
コストの実績	R 2年度決算額 (単位:千円)			財源内訳								
	3,728			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	1,453 2,275		
事業の実績	①督促・催告業務			・インターネット公売(1回) 入札期間 6/16~6/18 出品した差押動産16点が落札 換価額 141,590円				・差押件数 35件 (内訳 単位:件) 預金:28 生命保険:5 年金:1 無体財産権:1				
	・催告書発送件数 (7月:2,929通、12月:2,972通)			・交付要求の配当件数 14件				・執行停止 3件 (内訳 単位:件) 即時:1 3年:2				
事業の実績	②財産調査業務			・検索件数 4件(差押0件)				⑤債権管理対策本部運営業務				
	・預貯金等調査件数 1,050件			・滞納処分執行停止件数 48件 (内訳)即時:33件 3年:15件				・ヒアリング(10所管課) 1回				
事業の実績	・生命保険調査件数 1,050件			・夜間納付相談窓口の開設 利用者 165人 納付額 3,472,737円				・部会会議の開催(合同開催) 1回				
	※原則として月2回、一斉調査分			※上記の全ての額は、県民税を含む額				・本部会議の開催 1回				
事業の実績	③滞納整理業務(市税分)			④滞納整理業務(移管分)				⑥納税意識向上対策業務				
	・差押件数 352件 (内訳 単位:件) 給与15、年金9、所得税還付金11、 生命保険等解約金91、動産0、 不動産15、無体財産権5、預貯金等199 その他7 換価額 14,957,966円			・移管受分の実績				・高校生対象の税についての作文 の優秀作品の掲示 ・市長賞として高校生1名を表彰				
事業の実績	差押解除の効果額 10,325,230円			・移管件数 65件 (内訳 単位:件) 後期:18 介護:41 保育:5 下水:1				⑦納税猶予関連業務				
	※効果額とは、差押することで完納となった額			・前年度からの継続分 6件 (内訳 単位:件) 後期:6				・新型コロナウイルス感染症特例に係る 徴収猶予 許可件数 64件 猶予額 20,901,700円				
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・税及び強制徴収公債権の負担の公平性を確保するとともに、自主財源の確保を図るための事業であり、改善の余地はない。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・市税全体の収納率も年々上昇しており、健全な財政運営の確立・納税者の公平性の確保の観点からも本事業の有効性は高い。 ・さらに成果を向上させるため、基本業務の徹底とあわせ、コロナ禍における効果的・効率的な滞納整理方法を検討するとともに、滞納処分の執行停止や各猶予の対応についても適切に行う必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・一定量の執行停止案件及び猶予案件を見越して、滞納処分と併せた効率的な事務処理の方法及び計画を検討する必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名	和歌山地方税回収機構連携事業			担当課	納収対策課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	19	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5 地域づくり・行政経営				
		項	2 徴税費				施策目標	3 市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成				
		目	3 徴税費				基本施策	2 健全な財政運営の確立				
取組方針	2 歳入確保のための取組の推進											
事業概要	市民の税の公平性を確保するとともに、市の自主財源の確保を図るために、和歌山地方税回収機構の運営へ参画する事業											
事務事業を構成する細事業	①	和歌山地方税回収機構負担金			⑤					⑨		
	②	移管業務			⑥					⑩		
	③	合同公売業務(不動産等)			⑦					⑪		
	④	和歌山地方税回収機構運営会議			⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	成果指標	市税収納率	目標	95	95.1	95.2	95.3	95.3	コロナ禍の状況が続く中、市税等を納付しやすい環境の整備及び効果的な滞納整理を行うことで、緩やかではあるが収納率の向上につながっていると考える。			
			実績	95.8	96.6	96.9						
	<指標の計算方法>		市税現年分、過年分を合算した収納率									
	成果指標	回収機構徴収金額(本税)	目標			7,500	9,000	9,000	回収機構徴収金額は前年度実績を下回ったが、移管人数・移管額・調査による滞納処分の変動が要因と考える。			
			実績	16,224	22,408	19,156						
	<指標の計算方法>		回収機構移管分の徴収実績(本税)									
	活動指標	滞納者移管数	目標	50	50	45	45	45	当初予定人数を移管した。			
			実績	50	50	45						
	<指標の計算方法>		市より回収機構へ移管した滞納者の人数									
活動指標	実務研修(派遣)人数	目標	2	2	2	2	1	当初予定人数の派遣を実施した。令和4年度以降、長期派遣人数の割当は0人となるが、短期派遣により実務研修の機会を確保する。				
		実績	2	1	2							
<指標の計算方法>		回収機構へ実務研修に派遣した職員数(短期派遣含む)										
コストの実績	R 2年度決算額(単位:千円)			財源内訳								
	5,518			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		5,518	
事業の実績	①和歌山地方税回収機構負担金 ・移管人数 45人 ・徴収実績 26,160,545円 (内訳) 市県民税 : 4,662,432円 固定資産税 : 2,823,005円 軽自動車税 : 476,667円 (参考 国民健康保険税 : 11,194,829円) <小計> 19,156,933円 督促手数料 : 128,137円 (内国保 79,741円) 延滞金 : 6,875,475円 (内国保 3,629,777円) 《合計》 26,160,545円 ②移管業務 ・移管催告の発送 123件 ・45件(人)の移管データを作成 ③合同公売業務(不動産等)											
	・不動産公売 3回 6件 令和2年6月2日(火)1件 入札なし 令和2年9月1日(火)2件(再1件含む) 入札なし 令和2年12月1日(火)3件(再2件含む) 入札なし ④和歌山地方税回収機構運営会議 ・第1回運営会議(R2.4.27)、書面開催 令和元年度活動状況、令和2年度予算概要・活動方針ほか ・第2回運営会議(R3.1.21)、書面開催 令和3年度移管提示件数、令和3～7年度活動方針ほか											
	妥当性 評価結果 改善の余地がない ・市税負担の公平性を確保するため、困難な案件を効率的に滞納整理することができる。											
事業の事後評価	有効性 評価結果 改善の余地がない ・回収機構への移管催告及び移管が新規滞納者への抑止力となっている。 ・回収機構が主となり不動産公売を実施することで、市としては広報や会場手配の負担がなく、参加が容易である。また、定期的の実施されていることで市としても公売の計画が立てやすい。 ・調査や捜索などの滞納処分が困難な遠方の滞納者についても、回収機構に移管することで市の負担を少なく滞納処分することができる。 ・派遣された市職員が滞納整理を実務研修できる場となっている。また市が抱える困難案件について相談することができる。											
	効率性 評価結果 改善の余地がややある ・負担金のコストは生じるが、同レベルの滞納処分を行うためには、職員スキルの向上と併せ、相応の期間・コストを要するため、単純に効率性は計れないが、一定の効果は得られていると考える。 ・実務研修を兼ねて職員の派遣を行っており、回収機構のノウハウを市で実践できる職員が増えることにより長期的に見て効率性は向上すると考える。 ・移管することで徴収できる可能性の高い案件を厳選することにより、コストに対する効率性は向上する。											

事務事業の概要	事務事業名	住民基本台帳事業		担当課	市民課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	
	予算科目	款	2 総務費	長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
	項	3 戸籍住民基本台帳費	施策目標		3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成				
	目	1 戸籍住民基本台帳費	基本施策		3	将来を見据えた行政経営の推進				
事業概要	市民（異動者）が住民異動に関する諸手続きなどが円滑に行えるように、住民基本台帳を適正に登録をして、証明書等の発行を行う事業									
事務事業を構成する細事業	① 住民基本台帳管理	⑤ マイナンバーカード交付	⑨							
	② 証明書発行・閲覧	⑥ 個人番号カード交付事務負担金	⑩							
	③ 特別永住者・中長期在留者管理	⑦	⑪							
	④ 住民基本台帳ネットワークシステム管理	⑧	⑫							
指標の実績	指標名	単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	住民票の写しの交付件数（公用を含む）	件	目標					平成28年度からの証明書交付件数は、減少傾向にある。	
			実績	30,559	29,526	28,229				
		<指標の計算方法>	住民票の写しの交付件数（公用を含む）							
	活動指標	戸籍附票の写しの交付件数（公用を含む）	件	目標					証明書交付件数は、減少傾向にある。	
		実績	5,195	4,318	4,444					
	<指標の計算方法>	戸籍附票の写しの交付件数（公用を含む）								
		目標								
		実績								
	<指標の計算方法>									
コストの実績	R 2年度決算額（単位：千円）	財源内訳								
		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
	40,598	35,025				5,573				
事業の実績	①住民基本台帳管理	住民異動 転入者数（県外 604人・県内 836人） 1,440人		住民基本台帳閲覧	コンビニ 31件	令和3年3月31日 現在 累計 14,060枚				
		転出者数（県外 763人・県内 846人） 1,609人			1,248件	⑥個人番号カード交付事務負担金 26,617,000円				
		出生者数 299人		③特別永住者・中長期在留者管理	内公用 1,062件					
		死亡者数 756人		令和3年3月31日 現在						
		転居件数 630件		日本人住民	男 28,771人 女 31,655人					
		世帯変更等 3,417件		計 60,426人	26,284世帯					
				外国人住民	男 240人 女 212人					
				計 452人	292世帯					
	②証明書発行・閲覧	住民票の写し等の交付		④住民基本台帳ネットワークシステム管理						
		窓口	25,038件	住基ネットシステム保守委託料						
		内公用	1,797件	住基ネットシステム機器保守委託料						
		郵送	2,524件	2,780,800円						
		内公用	798件	住基ネットシステム機器保守委託料						
		コンビニ	667件	292,248円						
		戸籍附票の写しの交付	窓口 2,094件	住基ネット共同利用サービス利用料						
			内公用 1,291件	2,178,000円						
			郵送 2,319件							
			内公用 1,717件	⑤マイナンバーカード交付						
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない							
			・住民基本台帳法、行政手続きにおける特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律等に定める事務である。							
	有効性	評価結果	改善の余地がない							
			・住民基本台帳法、行政手続きにおける特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律等に定める事務である。 ・コンビニ証明書交付サービスによって市民が諸手続きを円滑に行えるようにしている。							
効率性	評価結果	改善の余地がない								
			・住民基本台帳法、行政手続きにおける特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律等に定める事務である。							

事務事業の概要	事務事業名		印鑑登録事業			担当課	市民課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	440		
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営				
		項	3 戸籍住民基本台帳費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成				
		目	1 戸籍住民基本台帳費				基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進				
目				取組方針	9		その他						
事業概要	市民が目的に応じて証明書を利用できるように、印鑑の登録・管理を行い、証明書の発行を行う事業												
事務事業を構成する細事業	①	印鑑登録管理			⑤					⑨			
	②	印鑑証明発行			⑥					⑩			
	③				⑦					⑪			
	④				⑧					⑫			
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	印鑑登録証明書交付件数（公用を含む）	件	目標						平成28年度からの証明書交付件数は、減少傾向にあり、長期的にも減少傾向にある。			
				実績	18,671	16,999	17,912						
	<指標の計算方法>		印鑑登録証明書交付件数（公用を含む）										
				目標									
				実績									
<指標の計算方法>													
			目標										
			実績										
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 2年度決算額 （単位：千円）			財源内訳									
	246			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	246			
事業の実績	①印鑑登録管理 令和3年3月31日現在 41,730人 印鑑登録証作成 198,000円												
	②印鑑証明発行 窓口 17,492件 内公用 370件 コンビニ 420件												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		<ul style="list-style-type: none"> ・紀の川市印鑑条例に基づき、印鑑登録証明書が必要とする市民のための事業である。 ・市が行わなければならない事業である。 											
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
<ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめの予約により、日曜日に証明書を交付している。 ・コンビニ証明書交付サービスによって市民が諸手続きを円滑に行えるようにしている。 													
効率性	評価結果	改善の余地がない											
	<ul style="list-style-type: none"> ・紀の川市印鑑条例に基づき、印鑑登録証明書が必要とする市民のための事業である。 												

事務事業の概要	事務事業名	戸籍事業		担当課	市民課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	441
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営		
		項	3 戸籍住民基本台帳費			施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成		
		目	1 戸籍住民基本台帳費			基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進		
事業概要	本籍人及びその親族・利害関係人が諸手続きなどを円滑に行えるように、本籍人（親族）、利害関係人の戸籍を適正に登録をして、証明書の発行を行う事業									
事務事業を構成する細事業	①	戸籍管理		⑤	戸籍システム管理		⑨			
	②	戸籍謄・抄本等発行		⑥	県連合戸籍事務協議会負担金		⑩			
	③	埋火葬許可証発行		⑦	和歌山戸籍事務協議会負担金		⑪			
	④	人口動態事務		⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析	
	活動指標	戸籍謄抄本等の交付件数（公用を含む）	件	目標					平成28年度からの証明書交付数は、横ばいであるが、長期的には減少傾向にある。	
			実績	32,636	29,256	27,518				
	<指標の計算方法>		戸籍謄抄本等の交付件数（公用を含む）							
	活動指標	埋火葬許可証の交付件数	件	目標					平成28年度からの許可証交付数は、横ばいであるが、長期的にも横ばいである。	
実績			807	791	712					
<指標の計算方法>		埋火葬許可証の交付件数								
		目標								
		実績								
<指標の計算方法>										
コストの実績	R 2年度決算額 （単位：千円）			財源内訳						
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	
35,648			4,694	62			11,390	19,502		
事業の実績	①戸籍管理 戸籍届出処理件数 出生 540件（内送付 227件） 婚姻 676件（内送付 464件） 離婚 178件（内送付 80件） 死亡 1,000件（内送付 280件） 他 731件（内送付 281件） 計 3,125件（内送付 1,332件） 新戸籍編製 423戸籍 戸籍全部消除 618戸籍 令和3年3月31日 現在 本籍数 31,338戸籍 本籍人口 73,836人			③埋火葬許可証発行 712件			（紀の川市・岩出市の共同利用） ※岩出市負担分を共同利用負担金として 2,650,872円受入 戸籍附票システム中継サーバ構築委託料 5,660,600円 戸籍附票システム中継サーバ設置に係る 施設借上料 42,900円			
	②戸籍謄・抄本等発行 戸籍証明書等交付 窓口 18,091件 内公用 4,399件 郵送 9,227件 内公用 4,735件 コンビニ 200件			④人口動態事務 令和2年度分 1,343件						
			⑤戸籍システム管理 戸籍システムの維持管理 戸籍総合システム保守委託料 1,881,000円 戸籍ソフトウェア賃借料 2,323,200円 戸籍総合システムクラウドサービス導入 業務委託料 17,820,000円 戸籍総合システムクラウド利用料 3,801,600円 法改正に伴うシステム開発委託料 3,366,000円 戸籍附票システム中継サーバの維持管理			⑥県連合戸籍事務協議会負担金 負担金支払い 52,121円				
						⑦和歌山戸籍事務協議会負担金 負担金支払い 16,268円				
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない							
			・戸籍法、墓地・埋葬法等に定める事務である。							
	有効性	評価結果	改善の余地がない							
		・戸籍法、墓地・埋葬法等に定める事務である。 ・コンビニ証明書交付サービスによって市民が諸手続きを円滑に行えるようにしている。								
効率性	評価結果	改善の余地がない								
		・戸籍法、墓地・埋葬法等に定める事務である。								

事務事業の概要	事務事業名		市民窓口事業			担当課	市民課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	443		
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営				
		項	3 戸籍住民基本台帳費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成				
		目	1 戸籍住民基本台帳費				基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進				
事業概要	市民が持つ様々な問題の解決につなげてもらうために、各種相談、相談案内を行う事業												
事務事業を構成する細事業	①	弁護士相談			⑤				⑨				
	②	行政相談			⑥				⑩				
	③	市民相談			⑦				⑪				
	④				⑧				⑫				
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析				
	活動指標	弁護士相談開催回数	回	目標	12	12	12	12	12	目標どおり達成した。			
			実績	12	12	12							
	<指標の計算方法>		月1回開催している無料法律相談の回数										
	成果指標	弁護士相談件数	人	目標	60	84	84	84	84	目標との差は、前日もしくは当日のキャンセルによるもの。			
			実績	54	78	82							
	<指標の計算方法>		無料法律相談の相談者数										
	活動指標	弁護士相談案内回数	回	目標	12	12	12	12	12	目標どおり達成した。			
			実績	12	12	12							
	<指標の計算方法>		広報に掲載した無料法律相談の案内回数										
成果指標	実相談者数	人	目標	60	84	84	84	84	4名が2回相談を受けた（相談日は異なる）。				
		実績	53	73	78								
<指標の計算方法>		無料法律相談実相談者数											
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	504			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		504		
事業の実績	①弁護士相談 年12回開催 相談件数 82人												
	②行政相談 総務大臣に委嘱された行政相談委員による 相談業務 相談件数 11件												
	③市民相談 18件 (市民課にて相談を受けた分のみ)												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・市民が持つ様々な問題の解決につなげてもらうため、市が主体となって行う必要がある。											
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
・無料法律相談は、市の顧問弁護士に委託し、ほぼ毎回予約開始日中には定員に達している。													
効率性	評価結果	改善の余地がない											
	・無料法律相談の市顧問弁護士への委託料は、他市町村と比較して同程度額である。 ・行政相談は、総務省から委嘱を受けた行政相談委員が対応しているが、市の費用負担はない。 ・住民相談は、市職員が対応しているため、直接的な費用負担はない。												

事務事業の概要	事務事業名	コンビニ証明書交付事業		担当課	市民課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1029	
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	3 戸籍住民基本台帳費			施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	1 戸籍住民基本台帳費			基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進			
事業概要	市民、本籍人が目的に応じた証明書を市役所外で取得できるように、住民票写し、印鑑証明書、戸籍証明書をコンビニで交付するシステムの維持管理を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	J-LIS負担金		⑤				⑨			
	②	システム管理		⑥				⑩			
	③			⑦				⑪			
	④			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	成果指標	システム稼働日数	日	目標	31	360	359	359	359	システムメンテナンス、通信障害等によるシステム停止があったため、目標は達成できなかった。	
			実績	31	355	351					
	<指標の計算方法>		年末年始（12/29～1/3）を除く毎日								
			目標								
			実績								
	<指標の計算方法>										
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	7,572			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
							5,146	2,426			
事業の実績	①J-LIS負担金 J-LIS証明書交付センターに運営負担金を支払う。 2,728,000円										
	②システム管理 コンビニ交付に関係するシステム会社に利用料及び保守料等を支払う。 ・コンビニ交付クラウドサービス利用料 3,564,000円 ・コンビニ交付システム保守委託料 858,000円 ・システム開発委託料 264,000円										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・証明書のコンビニ交付サービスは、市民・本籍人の証明書取得の利便性向上のための行政サービスであり、市しか実施できない。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・証明書のコンビニ交付サービスを提供するため、システム維持管理する事業である。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・国民の83.4%が享受している住民サービスの維持管理費用であり、これ以上の負担軽減は困難である。										

事務事業の概要	事務事業名	選挙管理委員会運営事業		担当課	総務課			事業区分	内部管理事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	525	
	予算科目	款	2	総務費	長期総合計画体系	政策目標	99	*****			
		項	4	選挙費		施策目標	99	*****			
		目	1	選挙管理委員会費		基本施策	99	*****			
目	1	選挙管理委員会費	取組方針	9		その他					
事業概要	選挙権を有する者の意思を正しく政治・行政に反映するために、選挙管理委員会が適正な選挙の管理・執行を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	選挙管理運営委員会運営		⑤				⑨			
	②	全国市区選挙管理委員会負担金		⑥				⑩			
	③	近畿都市選挙管理委員会連合会負担金		⑦				⑪			
	④	県都市選挙管理委員会連絡協議会負担金		⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	選挙執行回数	目標	2	4	2	5		選挙は適切に執行された。		
			実績	2	4	2					
	<指標の計算方法>		選挙が執行された回数（無投票を含む）								
	活動指標	選挙管理委員会開催回数	目標	8	7	6	8		必要な委員会を開催することができた。		
			実績	8	8	6					
	<指標の計算方法>		定時登録、選挙時登録等の委員会を開催した回数								
	成果指標	選挙管理執行上のミス	目標	0	0	0	0	0	選挙をミスなく執行することができた。		
			実績	0	0	0					
	<指標の計算方法>		管理執行上の問題となったミスの件数								
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	1,292			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	1,289	
事業の実績	①選挙管理運営委員会運営 ・選挙管理委員会の開催 6回 ・和歌山県選挙管理委員会大会 (リモートによる開催：委員4名、職員2名出席) ②全国市区選挙管理委員会負担金 ③近畿都市選挙管理委員会連合会負担金 ・近畿都市選挙管理委員会連合会総会 (コロナ禍のため、書面決議) ・近畿都市選挙管理委員会連合会選挙事務研究会 (コロナ禍のため、中止) ④県都市選挙管理委員会連絡協議会負担金 ・和歌山県都市選挙管理委員会連絡協議会及び総会(紀の川市) (コロナ禍のため、中止)										
	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・公職選挙法に定められた義務的事業であり妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・適正に管理執行されており、現状を維持することが有効である。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・必要最小限の人員及び経費で実施しており、削減の余地はない。										

事務事業の概要	事務事業名	鞆淵山林財産区議会議員一般選挙事業			担当課	総務課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	新規	事業期間		単年度のみ		
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	99		*****	
		項	4 選挙費				施策目標	0		*****	
		目	2 鞆淵山林財産区議会議員一般選挙費				基本施策	0		*****	
	目	2 鞆淵山林財産区議会議員一般選挙費			取組方針		9		その他		
事業概要	鞆淵山林財産区議会議員一般選挙が適正に管理・執行できるように、選挙事務を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	鞆淵山林財産区議会議員一般選挙運営			⑤				⑨		
	②				⑥				⑩		
	③				⑦				⑪		
	④				⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	成果指標	投票率	目標			52			立候補者が定数を超えなかったため無投票となった。		
			実績								
	<指標の計算方法>		当日有権者に対する投票者数の割合								
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
	目標										
	実績										
<指標の計算方法>											
	目標										
	実績										
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	124			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
事業の実績	①鞆淵山林財産区議会議員一般選挙運営 ・鞆淵山林財産区議会議員一般選挙 令和2年12月20日執行 無投票										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・法に基づき、立候補届出等の受付、投開票準備事務等を行っており妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・法に基づき執行する事業であり、廃止や休止はできない。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・選挙が無投票になることも想定し、投開票経費の節減に取り組んでいる。										

事務事業の概要	事務事業名	鞆淵山林財産区議会議員補欠選挙事業			担当課	総務課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度のみ		事業番号	1154	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	99 ****				
		項	4 選挙費				施策目標	99 ****				
		目	3 鞆淵山林財産区議会議員補欠選挙費				基本施策	99 ****				
事業概要	鞆淵山林財産区議会議員補欠選挙が適正に管理・執行できるように、選挙事務を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	鞆淵山林財産区議会議員補欠選挙運営			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	成果指標	投票率	%	目標			52			立候補者が定数を超えなかったため無投票となった。		
				実績								
	<指標の計算方法> 当日有権者に対する投票者数の割合											
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	275			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
①鞆淵山林財産区議会議員補欠選挙運営 ・鞆淵山林財産区議会議員補欠選挙 令和2年5月3日執行 無投票												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・法に基づき、立候補届出等の受付、投開票準備事務等を行っており妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・法に基づき執行する事業であり、廃止や休止はできない。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・選挙が無投票になることも想定し、投開票経費の節減に取り組んでいる。											

事務事業の概要	事務事業名	統計行政推進事業		担当課	総務課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	528	
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	5 統計調査費			施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	1 統計調査総務費			基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進			
事業概要	市の統計行政の推進を図るために、関連団体の活動へ参画する事業										
事務事業を構成する細事業	①	近畿都市統計協議会負担金		⑤				⑨			
	②	県市長会統計部会負担金		⑥				⑩			
	③	県統計協会負担金		⑦				⑪			
	④			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	近畿都市統計協議会講習会への参加	回	目標	1	1	1	1	0	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、中止となった。	
			実績	1	1	0					
	<指標の計算方法>		近畿都市統計協議会講習会への参加回数								
	活動指標	県市長会統計部会講習会への参加	回	目標	1	1	1	1	0	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、中止となった。	
			実績	1	0	0					
	<指標の計算方法>		県市長会統計部会講習会への参加回数								
			目標								
			実績								
	<指標の計算方法>										
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	526			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	526	
事業の実績	①近畿都市統計協議会負担金 総会：書面開催 講習会：中止 (新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため)										
	②県市長会統計部会負担金 第1回理事会：書面開催 第2回理事会：書面開催 (新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため)										
	③県統計協会負担金 「和歌山県統計年鑑」等の統計関係図書を作成。										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・統計資料を通して、各行政施策の基礎資料とするため、各関連団体に参画することは妥当性がある。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・各行政施策の基礎資料として、関連団体が取りまとめる資料を提供している。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・関連団体の総会が書面で開催したことにより、送付資料等で運用状況を確認している。										

事務事業の概要	事務事業名	基幹統計調査事業		担当課	総務課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	26	
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	99 ****				
		項	5 統計調査費			施策目標	99 ****				
		目	2 基幹統計調査費			基本施策	99 ****				
目	2 基幹統計調査費		取組方針	9 その他							
事業概要	市、統計情報を必要とする者が統計情報を活用できるように、各種基幹統計の調査を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	学校基本調査		⑤					⑨		
	②	工業統計調査		⑥					⑩		
	③	国勢調査		⑦					⑪		
	④			⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	統計調査実施中の事故件数	目標	0	0	0	0	0	国勢調査では290人の調査員が動員されたが、説明会等で事故防止及び新型コロナウイルス感染症感染防止対策の注意喚起を十分に行ったこともあり、事故なく調査が完了した。		
			実績	0	0	0	0				
	<指標の計算方法>		統計調査実施中に問題となった事故件数								
	成果指標	基幹統計実施件数	目標							統計調査で最も重要な国勢調査の年であったが、国・県の指定するスケジュール通りに調査を完了することができた。	
			実績	3	5	3					
	<指標の計算方法>		基幹統計を実施した件数								
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	23,507			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
事業の実績	①学校基本調査 (令和2年5月1日調査基準日) 調査対象：小学校17、中学校7、幼稚園等4										
	②工業統計調査 (令和2年6月1日調査基準日) 調査対象：従業者4人以上の131事業所(速報値)										
	③国勢調査 (令和2年10月1日調査基準日) 調査対象：外国人を含む紀の川市内に住んでいるすべての人及び世帯 男 27,826人、女 31,030人 世帯数 23,311(速報値)										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・統計法に基づき継続して実施する必要がある事業									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・各種統計調査において得た情報は、国の各種施策の立案等の重要な資料となる。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・各種統計調査実施時に、回答者の負担軽減及び調査員・事務担当者の業務量削減を目的とし、インターネットの回答率を高めるよう調査員等と協力していくことが必要である。										

事務事業の概要	事務事業名	監査事業		担当課	総務課			事業区分	内部管理事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	27	
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	99 ****				
		項	6 監査委員費			施策目標	99 ****				
		目	1 監査委員費			基本施策	99 ****				
目	1 監査委員費		取組方針	9 その他							
事業概要	市が適正に予算・事務の執行を図るために、監査委員が出納検査や監査を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	監査事務		⑤				⑨			
	②	全国都市監査委員会負担金		⑥				⑩			
	③	近畿地区都市監査委員会負担金		⑦				⑪			
	④	県下都市監査委員会負担金		⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	例月出納検査回数	目標	12	12	12	12	12	毎月1回例月出納検査を実施している。		
			実績	12	12						
	<指標の計算方法>		例月出納検査実施回数								
	活動指標	定期監査回数	目標	5	5	5	5	5		各課に対する定期監査を実施している。	
			実績	5	5	5					
	<指標の計算方法>		定期監査実施回数								
	成果指標	監査結果報告書等の発行回数	目標	21	21	20	20	20	各監査等（例月出納検査12回、決算審査1回、定期監査5回、工事監査1回）を実施した結果の報告等を行っている。なお、新型コロナウイルス感染症の影響により財政援助団体等監査が未実施となった。		
			実績	21	21	19					
	<指標の計算方法>		各監査・審査・検査等の報告書等発行回数								
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	3,043			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	3,043	
事業の実績	①監査事務 ・例月出納検査 12回 ・令和元年度決算審査・健全化判断比率審査 1回 ・定期監査（財務監査） 5回 ・財政援助団体等監査（輦測診療所の監査を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止） ・工事監査（学童保育太陽の子施設新築工事、青洲の里農産物直売所新築工事） 1回 ・東海・近畿・北陸三地区共催都市監査事務研修会（新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため研修会は中止）			のため定例会は中止							
	②全国都市監査委員会負担金 ③近畿地区都市監査委員会負担金 ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため総会・研修会は中止 ④県下都市監査委員会負担金 ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・地方自治法等により監査委員が実施するよう定められている事務である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・適正な財務処理と効率的かつ効果的な事務事業の執行に寄与している。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により財政援助団体等監査を実施できなかったが、それ以外については監査計画どおりに事業が実施できている。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・必要最小限の人員及び経費で実施しており、削減の余地はない。										

事務事業の概要	事務事業名	地域福祉推進事業			担当課	社会福祉課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	587
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心			
		項	1 社会福祉費				施策目標	3 福祉			
		目	1 社会福祉総務費				基本施策	1 地域福祉の仕組みづくりと推進			
事業概要	市民が地域福祉の理解を深め、支え合い助け合う社会を築けるよう、地域福祉計画に基づき、普及・啓発活動や地域福祉を推進する事業										
事務事業を構成する細事業	①	第2次市地域福祉計画の推進			⑤	市民団体活動支援事業補助金		⑨			
	②	社会福祉法人監査			⑥	ボランティア連絡協議会補助金		⑩			
	③	都市福祉事務所長連絡協議会			⑦	赤十字奉仕団補助金		⑪			
	④	社会福祉協議会補助金			⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	成果指標	社会福祉協議会 住民相談件数	件	目標	100	100	150	150	150	毎週火曜日、心配ごと相談を開設し、弁護士相談、司法書士相談をそれぞれ年12回開催している。例年どおり防災無線、広報紙による周知をしているが、今年度は件数が減少した。	
			実績	137	142	131					
	<指標の計算方法>		年間延べ件数（心配ごと相談・弁護士相談・司法書士相談）								
	成果指標	社会福祉協議会 高齢者見守り件数	回	目標	800	1,000	1,500	1,500	1,500	単身高齢者世帯の増加により、見守りを希望する世帯が増加したため、見守りの件数も増加した。	
			実績	950	1,460	1,703					
	<指標の計算方法>		社会福祉協議会が実施する件数								
	成果指標	ボランティア団体 活動回数	回	目標	110	110	110	110	110	新型コロナウイルス感染症のため、活動事業が中止となり、回数が減少した。	
			実績	122	141	49					
	<指標の計算方法>		市・各支部の年間活動回数								
成果指標	赤十字奉仕団活動 回数	回	目標	35	50	50	50	50	新型コロナウイルス感染症のため、活動事業が中止となり、回数が減少した。		
		実績	46	50	36						
<指標の計算方法>		市・各地区赤十字奉仕団の年間活動回数									
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	151,031			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
				57				1	150,973		
事業の実績	①第2次市地域福祉計画の推進 「みんなが安心して暮らせる きのかわ～みんなではぐくむ地域のつながり～」を基本理念として平成30年3月に策定された計画に基づき、それぞれの施策に取り組む。			⑤市民団体活動支援事業補助金 社会福祉協議会が福祉団体支援を目的とするために補助を行う。 *25,234,000円			団員数1,629名（令和2年度末）				
	②社会福祉法人監査 紀の川市が所管する社会福祉法人を対象に指導監査を実施する。 *実施件数3件			⑥ボランティア連絡協議会補助金 市内ボランティア団体のつながりを強めるとともに、地域福祉の理解を深め、支え合い助け合う社会の構築のための活動に対し補助を行う。 *457,000円 会員数名770名（令和2年度末）							
	③都市福祉事務所長連絡協議会 近畿及び県内の市福祉事務所の協議会であり、福祉に関する国への要望事項を集約し、検討課題についての研修会を開催する。			⑦赤十字奉仕団補助金 日本赤十字奉仕団規則の定めるところに基づき、すべての人々の幸せを願い、明るいまよい社会を築き上げていくための活動に対し、各赤十字奉仕団に補助を行う。 *206,000円							
	④社会福祉協議会補助金 運営費及び事業費に対する補助を行い地域における福祉の向上を図る。 *124,126,000円										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がややある								
		・第2次市地域福祉計画に基づく事業である。 ・少子高齢化や家族及び地域の支え合いが希薄化する中で、福祉問題が増加、複雑化する可能性があることから、市民ニーズを的確に把握し、適切に反映させる必要がある。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・社会福祉協議会が行う相談や見守り活動の目標値は、指標の性質上設定しづらいが、今後相談件数や見守りのニーズは増加すると考えられる。 ・今後、社会福祉協議会の人材育成、体制の強化などが重要である。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・地域福祉事業については市が推進すべき事業であるが、業務分担や委託についての検討、実施が必要である。 ・補助金事業については、会員減少により事業等の運営が困難になることも考えられるため、補助金が有効に活用され、目的に沿って事業を推進しているか常に検証する必要がある。										

事務事業の概要	事務事業名	民生委員児童委員活動支援事業			担当課	社会福祉課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	577	
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心				
		項	1 社会福祉費				施策目標	3 福祉				
		目	1 社会福祉総務費				基本施策	1 地域福祉の仕組みづくりと推進				
取組方針	2 地域福祉を担い、支える人材の育成											
事業概要	市民が適切な福祉サービスを受けられるように、民生委員児童委員の円滑な活動を支援する事業											
事務事業を構成する細事業	①	市民生委員児童委員連絡協議会活動			⑤			⑨				
	②	単位民生委員児童委員協議会活動			⑥			⑩				
	③	単位民生委員児童委員協議会活動費補助金			⑦			⑪				
	④	民生委員児童委員協議会の互助事業			⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	民生委員児童委員協議会定例会・研修会の開催回数	目標	60	60	60	60	60	新型コロナウイルス感染症の影響により、定例会、研修等の開催を見合わせ、例年より開催回数が減少した。			
			実績	56	56	37						
	<指標の計算方法>		市民生委員児童委員連絡協議会・各単位民生委員児童委員協議会の年間活動回数									
	成果指標	民生委員児童委員数	目標	181	181	181	181	181	退任する民生委員児童委員はなかったため、欠員は生じなかった。			
			実績	181	181	181						
	<指標の計算方法>		紀の川市民生委員児童委員定数181人、委嘱委員数181人、欠員なし									
成果指標	民生委員児童委員年間相談・支援件数	目標						各民生委員児童委員からの毎月の活動報告書の件数の合計である。新型コロナウイルス感染症のため、特に4～6月は訪問を控えるなどで、活動件数は例年と比較して減少している。ますます一人一人の福祉のニーズに対する支援が必要となってきている。				
		実績	3,543	3,389	2,543							
<指標の計算方法>		各民生委員児童委員からの活動報告書に基づく										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	15,306			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			12,341						2,965			
事業の実績	①市民生委員児童委員連絡協議会活動 各単位民生委員児童委員協議会の情報や意見交換を行うため役員会、研修会を行う。			村の民生委員児童委員協議会と情報や意見交換を行う。								
	②単位民生委員児童委員協議会活動 委員それぞれの活動を通じて把握する地域の課題を共有し、解決方法について検討する。定例会、研修会を開催し、地域福祉の推進に取り組む。											
	③単位民生委員児童委員協議会活動費補助金 (実績に伴う補助金額) ・打田 3,028,000円 ・粉河 3,013,000円 ・那賀 2,559,000円 ・桃山 2,069,000円 ・貴志川 2,929,000円											
	④民生委員児童委員協議会の互助事業 県が主催する会議、研修に参加し、他市町											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・社会福祉協議会が事務局を担当している市町村もあるが、民生委員法に基づき委嘱された民生委員児童委員の活動を支援するための事業であり、市が実施主体となることは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・地域を見守り、地域住民の身近な相談相手、専門機関へのつなぎ役として活動しているが、社会情勢の変化とともに問題が複雑化し、市民の相談内容が多岐にわたる。民生委員児童委員が相談・支援という本来の活動を充実できるように、活動内容を検討する必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・民生委員児童委員を組織として協議会が支え、さらに民生委員児童委員協議会として関係機関、団体と連携、協働できる体制づくりを強化するためにも市が実施主体となるべきである。											

事務事業の概要	事務事業名	戦争被害者等援護事業			担当課	社会福祉課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	585	
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心				
		項	1 社会福祉費				施策目標	3 福祉				
		目	1 社会福祉総務費				基本施策	1 地域福祉の仕組みづくりと推進				
取組方針				取組方針	3 相談支援体制の整備と充実							
事業概要	戦没者を追悼し、市民（戦争被害者）の福祉の増進を図るため、式典運営補助金の支給等を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	戦没者追悼式			⑤			⑨				
	②	遺族会補助金			⑥			⑩				
	③	戦傷病者等支援・恩給業務			⑦			⑪				
	④	原子爆弾被爆者見舞金			⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	成果指標	戦没者追悼式参加率	目標	20	20	20	20	20	戦没者追悼式は新型コロナウイルス感染症のため中止。			
			実績	18	20							
	<指標の計算方法>		参列者/遺族会員									
	活動指標	遺族会活動回数	目標	50	50	50	50	50	市遺族会と各支部（5支部）で活動している回数である。活動回数は新型コロナウイルス感染症のため減少した。			
			実績	48	47	26						
	<指標の計算方法>		市・各支部の年間活動回数（重複事業は除く）									
	成果指標	原子爆弾被爆者見舞金支給率	目標	100	100	100	100	100	岩出保健所へ対象者を確認し、申請から支給までの事務を円滑に実施している。			
			実績	100	100	100						
	<指標の計算方法>		支給件数/対象件数									
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	698			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		698	
事業の実績	①戦没者追悼式 戦没者追悼式は新型コロナウイルス感染症のため中止。			支給額計 160,000円 *7月1日現在の被爆者健康手帳所持者を岩出保健所へ調査依頼している。								
	②遺族会補助金 538,000円 会員数 1,139名（令和2年度末） *戦没者家族の福利増進、感謝救済の途を講ずるとともに平和日本の建設に貢献することを目的とした遺族会の活動を補助する。											
	③戦傷病者等支援・恩給業務 第十一回特別弔慰金受付件数 540件 *戦没者の遺族から申請受付を行い、県へ進達し、裁定後、国債を交付する。											
	④原子爆弾被爆者見舞金 1件あたり 20,000円 支給件数 8件											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		<ul style="list-style-type: none"> 市として先の大戦で犠牲となられた方々に追悼の意を表し、市民に対し平和の尊さを訴え、市民意識の醸成を図ることは必要と考える。 市が実施主体となるべきである。 										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
<ul style="list-style-type: none"> 戦没者追悼式は新型コロナウイルス感染症のため中止となった。 終戦から長い年月が経ち、遺族の参列が減少傾向であり、1人でも多く参列してもらう工夫が必要である。 来年度の式典内容について、市民参加や式典後のイベント内容を協議した。 												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	<ul style="list-style-type: none"> 遺族だけが参加するのではなく、式典について市民に広報する等、広く市民に平和の尊さを訴える機会となるよう検討する必要がある。 											

事務事業の概要	事務事業名	心身障害児（者）医療費助成事業		担当課	国保年金課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	30	
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心			
		項	1	社会福祉費		施策目標	2	健康・医療			
		目	2	障害者医療費		基本施策	2	地域医療体制・医療サービスの充実			
取組方針	3	福祉医療費助成の実施									
事業概要	市民（心身障害児・者）の経済的負担を軽減し、受診機会の拡大を図るために、条例等に基づき医療費の助成を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	受給資格管理		⑤					⑨		
	②	重度心身障害児者医療費給付		⑥					⑩		
	③			⑦					⑪		
	④			⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	一人あたりの医療費助成額	目標						医療費助成額の減少に伴い、一人あたりの医療費助成額が減少した。		
			実績	132,232	136,682	127,717					
	<指標の計算方法>		医療費助成額÷受給対象者数								
	活動指標	受給対象者数	目標						前年度と比較して減少している。		
			実績	1,862	1,807	1,790					
<指標の計算方法>		年度末受給対象者数									
活動指標	医療費助成額	目標						前年度と比較して減少している。要因としては新型コロナウイルス感染症の影響により、受診回数が減ったためと考えられる。			
		実績	246,217	246,985	228,614						
<指標の計算方法>		年間医療費助成額									
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)		財源内訳								
	234,460		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	169,968		
事業の実績	①受給資格管理		対象者数（受給対象者/停止者）		心身障害児（者）市単独						
	・心身障害児（者）県補助 879人(855人/24人)				(入院)		799件	29,340,489円			
		心身障害児（者）市単独 969人(935人/34人)		(外来)		14,415件	39,880,351円				
		合計 1,848人(1,790人/58人)		(歯科)		1,723件	6,299,839円				
				(調剤)		8,520件	25,002,740円				
				(訪問看護)		378件	5,041,867円				
				(その他)		662件	1,698,854円				
				(戻入)			△3,662,655円				
				(合計)		26,497件	103,601,485円				
		②重度心身障害児者医療費給付		療養給付内訳							
		心身障害児（者）県補助		(入院)		1,246件	41,018,211円				
				(外来)		13,354件	51,015,644円				
				(歯科)		1,863件	6,038,397円				
				(調剤)		7,404件	26,924,335円				
				(訪問看護)		376件	8,370,712円				
				(その他)		669件	1,992,002円				
				(戻入)			△10,346,856円				
		(合計)		24,912件		125,012,445円					
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・市条例及び県要綱に基づき行う事業であり、受給対象者の自己負担を扶助することで、安心して医療機関を受診してもらうことができるため、心身障害児（者）の福祉向上の観点から妥当な事業である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・医療費扶助は、心身障害児（者）世帯の経済的負担の軽減につながっており、障害者の福祉向上の観点から有効な事業である。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・受給対象者が窓口で負担する自己負担分について、医療機関から保険者負担分と自己負担分を合わせて国保連合会又は社会保険診療報酬支払基金に対して診療請求し、保険者から一括して支払う効率的な事務に努めている。また、大量印刷物（受給者証の年次更新）の印刷、封入作業などを外部委託しており、事業効率の改善については余地がない状況である。										

事務事業の概要	事務事業名	老人医療費助成事業		担当課	国保年金課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	33	
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心			
		項	1	社会福祉費		施策目標	2	健康・医療			
		目	3	老人医療費		基本施策	2	地域医療体制・医療サービスの充実			
取組方針	3	福祉医療費助成の実施									
事業概要	市民（老人）の経済的負担を軽減し、受診機会の拡大を図るために、条例等に基づき医療費の助成を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	受給資格管理		⑤			⑨				
	②	老人医療費給付		⑥			⑩				
	③			⑦			⑪				
	④			⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	一人あたりの医療費助成額	目標	0	0	0	0	0	対象者は0人であった。		
			実績	83,215	42,755	0	0				
	<指標の計算方法>		医療費助成額÷受給対象者数								
	活動指標	受給対象者数	目標	0	0	0	0	0	対象者は0人であった。		
			実績	1	1	0	0				
	<指標の計算方法>		年度末受給対象者数								
	活動指標	医療費助成額	目標	0	0	0	0	0	対象者は0人であった。		
			実績	83,215	42,755	0	0				
	<指標の計算方法>		年間医療費助成額								
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
事業の実績	①受給資格管理 ・受給対象者数 0人										
	②老人医療費給付 ・療養給付内訳 (入院) 0件 0円 (外来) 0件 0円 (歯科) 0件 0円 (調剤) 0件 0円 (その他) 0件 0円 (合計) 0件 0円										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・市条例及び県要綱に基づき行う事業であり、受給対象者の自己負担を扶助することで、安心して医療機関を受診してもらうことができるため、老人の福祉向上の観点から妥当な事業である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・医療扶助は、受給対象者の経済的負担の軽減につながっており、老人の福祉向上の観点から有効な事業である。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・受給対象者が窓口で負担する自己負担分について、医療機関から保険者負担分と自己負担分を合わせて国保連合会又は社会保険診療報酬支払基金に対して診療請求し、保険者から一括して支払う効率的な事務に努めている。事務効率の改善については余地がない状況である。										

事務事業の概要	事務事業名	国民年金受付事業			担当課	国保年金課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	469	
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心				
		項	1	社会福祉費		施策目標	2	健康・医療				
		目	4	国民年金費		基本施策	3	医療保険制度の安定運営				
取組方針	1	国民健康保険制度の安定的運営										
事業概要	国民年金制度に基づき、市民が年金を安心して受給できるように、各種届出・申請書の受付を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	国民年金受付			⑤						⑨	
	②	国民年金等相談対応			⑥						⑩	
	③				⑦						⑪	
	④				⑧						⑫	
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	受付進達件数	件	目標	5,800	5,400	5,000	4,600	4,200	国民年金第1号被保険者数の減少に伴い、受付進達件数も減少傾向にある。		
				実績	5,797	4,725	3,643					
	<指標の計算方法>		受付件数									
	活動指標	相談件数	件	目標	8,300	6,400	6,000	5,600	5,200	前年度と比較して増加している。		
				実績	5,383	4,756	5,733					
	<指標の計算方法>		相談件数									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	409			国庫支出金	409	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
事業の実績	①国民年金受付 各種届出・申請書の受付を行いました。			◎年金生活者支援給付金請求の受付、送付 ・給付金請求 156件								
	◎国民年金第1号被保険者の異動届・免除申請等の受付、送付 ・異動に関する届 1,265件 ・免除等に関する申請 1,544件 ・コロナ特例免除に関する申請 29件 ・死亡一時金請求 5件			②国民年金等相談対応 各種相談に対応しました。			◎国民年金に関する相談対応等 5,564件					
	◎国民年金裁定請求の受付、送付 ・裁定請求(高齢・障害・遺族) 76件			◎年金生活者支援給付金に関する相談対応等 169件								
	◎年金受給者死亡後の未支給請求の受付、送付 ・未支給請求(死亡届含む) 461件											
	◎年金受給者に関する届の受付、送付 ・住所変更届等 86件 ・障害状態確認届(現況届含む) 21件											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・国民年金市町村事務処理基準に基づき実施する事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・国民年金市町村事務処理基準に基づき実施する事業である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・事務処理はシステム化され効率化が図られており、事業効率の改善については余地がない状況である。											

事務事業の概要	事務事業名	後期高齢者医療事業			担当課	国保年金課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	463	
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心				
		項	1	社会福祉費		施策目標	2	健康・医療				
		目	6	後期高齢者医療費		基本施策	3	医療保険制度の安定運営				
取組方針	2	後期高齢者医療制度の安定的運営										
事業概要	和歌山県後期高齢者医療広域連合が円滑で安定的な運営が行えるように、事務費等を負担する事業											
事務事業を構成する細事業	①	後期高齢者医療広域連合負担金			⑤					⑨		
	②				⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	被保険者数	人	目標						被保険者数は微減であった。		
				実績	10,248	10,369	10,332					
	<指標の計算方法>		紀の川市の被保険者数（年度末）									
	成果指標	後期高齢者医療広域連合事務費負担金	千円	目標						本市の負担割合は6%台で推移している。		
				実績	11,172	10,799	10,855					
	<指標の計算方法>		負担金額									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	11,119			国庫支出金	52	県支出金		地方債		繰入金	その他	一般財源
事業の実績	①後期高齢者医療広域連合負担金 和歌山県後期高齢者医療広域連合の事務的運営経費（一般会計分）として、均等割・後期高齢者人口割・人口割で算出される負担割合で負担金を拠出する。 ・和歌山県後期高齢者医療広域連合事務費市町村負担所要額 179,634,000円											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・広域連合規約に基づき行う事業であり、高齢者の医療を確保するために実施する事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・広域連合規約に基づき行う事業であり、高齢者の医療を確保するために実施する事業である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・広域連合規約に基づき行う事業であり、高齢者の医療を確保するために実施する事業である。											

事務事業の概要	事務事業名	障害児者支援事業		担当課	障害福祉課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	601	
	予算科目	款	3 民生費		長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心				
		項	1 社会福祉費			施策目標	3 福祉				
		目	7 障害者福祉費			基本施策	3 障害者の自立支援				
事業概要	障害児者、障害児者の家族が快適に地域生活を送ってもらえるように、各種サービスの給付・助成を行う事業										
事務事業を構成する細事業	① 障害者手帳等交付		⑤ 難聴児補聴器購入助成		⑨						
	② 福祉タクシー利用・燃料費助成		⑥ 身体障害者自動車操作訓練費助成		⑩						
	③ 聴覚障害者ファックス助成		⑦ 身体障害者自動車改造費助成		⑪						
	④ 訪問理容サービス助成		⑧		⑫						
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	障害者手帳所持者数	人	目標	4,652	4,645	4,669	4,650	4,650	目標値は前年度実績とする。	
			実績	4,645	4,669	4,650					
	<指標の計算方法>		毎年3月31日現在の3障害（身体・療育・精神保健）手帳所持者の合計								
	成果指標	福祉タクシー利用・自動車燃料費助成券申請者数	人	目標	1,192	1,041	1,024	1,024	1,024	人口減により対象者数も減少傾向にあり、申請者数減少している。また、新型コロナウイルス感染症により外出自粛等の影響も考えられる。手帳交付時や広報等で周知を図り、申請につなげている。	
			実績	948	925	924					
	<指標の計算方法>		助成券の交付申請した人数								
	成果指標	聴覚障害者ファックス使用経費助成金受給者数	人	目標	29	29	28	28		助成対象者が限定されており大きな増減は見込めない。	
			実績	29	23	23					
	<指標の計算方法>		聴覚障害者ファックス使用に係る経費の助成金を受給した人数								
成果指標	訪問理容サービス利用申請者数	人	目標	4	4	5	5	5	助成対象者が限定されており大きな増減は見込めないが、広報等による周知啓発により利用者が微増傾向にある。		
		実績	3	4	6						
<指標の計算方法>		訪問理容サービスの利用申請をした障害のある人の人数									
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)		財源内訳								
	6,029		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	5,935		
事業の実績	① 障害者手帳等交付		⑤ 難聴児補聴器購入費助成								
	・ 障害者手帳所持者数		受給者数		1人						
	身体障害者手帳 3,438人										
	療育手帳 748人										
精神保健福祉手帳 464人											
計 4,650人											
② 福祉タクシー利用・燃料費助成		⑦ 身体障害者自動車改造費助成									
・ 申請者数		受給者数		2人							
福祉タクシー利用券 166人											
(初乗り料金20回分/人)											
自動車燃料券 758人											
(ガソリン40L分/人)											
計 924人											
③ 聴覚障害者ファックス助成											
受給者数 23人											
④ 訪問理容サービス助成											
申請者数 6人 (延利用回数12回)											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・ 障害のある人が住みなれた地域で日常生活を営むため必要なサービスを提供している。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・ 障害のある人の社会参加と、その家族の自己負担軽減に繋がっている。 ・ 聴覚障害者ファックス使用経費の助成については、近年スマートフォン等の携帯端末機による電子メールやSNSなどを利用したコミュニケーション手段が普及してきたことにより見直しが必要である。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・ 地域や社会の情勢の変化に応じ、利用者のニーズを把握し、必要なサービスの提供体制を整える必要がある。										

事務事業の概要	事務事業名	障害児者手当等給付事業			担当課	障害福祉課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	605
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心			
		項	1 社会福祉費				施策目標	3 福祉			
		目	7 障害者福祉費				基本施策	3 障害者の自立支援			
事業概要	障害児者、障害児者の家族の経済的負担の軽減を図り、自立した生活を送ってもらえるように、各種手当の給付を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	特別障害者手当給付			⑤	特別児童扶養手当給付		⑨			
	②	福祉手当給付（経過措置）			⑥			⑩			
	③	障害児福祉手当給付			⑦			⑪			
	④	心身障害児扶養手当給付			⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	成果指標	特別障害者手当受給者数	人	目標	62	62	55	50	50	障害が重複しているなど重度の障害を持つ人に限定されており、人口が減少している現状では、新規受給者となる受給者数は大きく増減することはない。	
			実績	52	50	48					
	<指標の計算方法>		特別障害者手当受給者数(3月末現在)								
	成果指標	障害児福祉手当受給者数	人	目標	30	30	28	25	25	重度の障害を持つ児童が対象で、受給者は限定されており、人口が減少している現状では、新規受給者となる受給者数は大きく増減することはない。また、20歳到達により受給資格を喪失するため、大きな増減はない。	
			実績	22	22	21					
	<指標の計算方法>		障害児福祉手当受給者数(3月末現在)								
	成果指標	心身障害児扶養手当受給者数	人	目標	145	161	154	145	145	小児慢性特定疾病等の対象者も保健所との連携が上手く図れており申請に繋がっている。人口が減少している現状では、新規受給者となる受給者数は大きく増減することはない。	
			実績	141	137	159					
	<指標の計算方法>		心身障害児扶養手当受給者数(3月末現在)								
活動指標	特別児童扶養手当受給者数	人	目標	135	135	130	130	130	手帳判定時や病院等で障害の状況に応じて手当の案内があり、新規申請に繋がっている。20歳到達により受給資格を喪失するため、大きな増減はない。		
		実績	126	124	133						
<指標の計算方法>		特別児童扶養手当事務取扱交付金の算定対象件数(12月31日現在)									
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	24,988			国庫支出金	14,648	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	10,340
事業の実績	①特別障害者手当給付 「特別児童扶養手当等の支給に関する法律」に基づく特別障害者手当を支給 ・受給者数(3月末現在)：48人(内1人停止中)		身体1・2級,療育A1・A2,精神1級：1人 身体3～6級,療育B1・B2,精神2・3級：125人 指定難病,小児慢性特定疾患等：33人								
	②福祉手当給付(経過措置) 「国民年金法等の一部を改正する法律」に基づく福祉手当を支給 ・受給者数(3月末現在)：1人		⑤特別児童扶養手当給付 申請書の受理及び受給者証等の交付の事務を処理 ・受給者数(12月末現在)：133人								
	③障害児福祉手当給付 「特別児童扶養手当等の支給に関する法律」に基づく障害児福祉手当を支給 ・受給者数(3月末現在)：21人(内1人停止中)										
	④心身障害児扶養手当給付 障害等のある人の経済的負担を軽減するため、市単独の手当を支給 ・受給者数(3月末現在)										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がややある								
		・特別障害者手当、福祉手当(経過措置)、障害児福祉手当、特別児童扶養手当は、それぞれ法定手当であり実施は妥当。 ・心身障害児扶養手当は、法定手当の受給資格に該当しない障害児等やその家族の経済的負担の軽減に繋がっている。ただし、4月支給分の予算については前年度予算に計上しており、他の法定手当の支給月と合わせることで整合性を図る必要がある。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・障害を持ちながら在宅で生活している障害児者や障害児者の家族等の経済的負担が軽減される。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・受給資格を有する障害児者に対し、手当の申請案内を確実に実施し、申請時には手帳の判定や意見書を精査し、適正な手当の受給に繋げることで、事業効果を向上させる。										

事務事業の概要	事務事業名	障害者団体運営支援事業		担当課	障害福祉課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	611	
	予算科目	款	3 民生費		長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心			
		項	1 社会福祉費			施策目標	3	福祉			
		目	7 障害者福祉費			基本施策	3	障害者の自立支援			
事業概要	障害児者、障害児者の家族が各種団体活動や社会活動に参画できるように、障害者団体の活動に対する補助や支援を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	身体障害者連盟補助金			⑤	聴覚障害者協会補助金			⑨		
	②	精神障害者家族会補助金			⑥				⑩		
	③	難病患者家族会補助金			⑦				⑪		
	④	障害児者父母の会補助金			⑧				⑫		
指標の実績	活動指標	指標名	単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
		身体障害者連盟への交付補助金額	円	目標	1,230,000	1,150,000	1,150,000	1,150,000	1,150,000	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため予定していた事業が実施されず支出がなかったため補助金を減額。	
				実績	1,185,000	1,150,000	389,000				
		<指標の計算方法>	身体障害者連盟への補助金額								
	活動指標	障害児者父母の会への交付補助金額	円	目標	1,430,000	1,388,000	1,388,000	1,388,000	1,388,000	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため予定していた事業が実施されず支出がなかったため補助金を減額。	
				実績	1,430,000	1,388,000	370,000				
			<指標の計算方法>	障害児障害者父母の会への補助金額							
	成果指標	身体障害者連盟の会員数	人	目標	570	580	550	550	550	人口減に伴い、身体障害者手帳所持者数も減少傾向にあり、新規会員の勧誘が進んでいない。特に、若年層の会員勧誘が課題で、会員の高齢化が進んでいる。	
				実績	547	522	478				
			<指標の計算方法>	身体障害者連盟の会費徴収対象となる会員数							
成果指標	障害児者父母の会の会員数	家族	目標	63	63	60	60	60	療育手帳の取得者数は増加傾向にあるが、父母の会の会員数の増加には繋がっていない。特に若年層の会員の加入が進んでいない。		
			実績	61	58	55					
		<指標の計算方法>	障害児者父母の会の会費徴収対象となる会員数								
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)		財源内訳								
	1,015		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		1,015	
事業の実績	①身体障害者連盟補助金 ・会員数 478人										
	②精神障害者家族会補助金 ・会員数 33家族										
	③難病患者家族会補助金 ・団体活動縮小により同年度から補助金の要望なし。										
	④障害児者父母の会補助金 ・会員数 55家族										
	⑤聴覚障害者協会補助金 ・会員数 16人										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
			・障害者の会員相互の交流や親睦を図り、社会参加の促進と福祉の向上に繋がる事業である。								
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
		・障害者の社会参加の促進と福祉の向上に一定の効果を上げている。									
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
		・各団体の会員数が減少している状況を鑑み、活動内容や事業費を見直し、より有意義な活動を推進する必要がある。特に、身体障害者連盟および障害児者父母の会については若年層の加入に繋がるような活動を推進する必要がある。									

事務事業の概要	事務事業名	障害福祉計画等策定事業			担当課	障害福祉課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	新規	事業期間	単年度のみ		事業番号	981	
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心				
		項	1	社会福祉費		施策目標	3	福祉				
		目	7	障害者福祉費		基本施策	3	障害者の自立支援				
事業概要	障害児者、障害児者の家族が快適に地域生活を送ってもらえるように、各種サービスの給付・助成を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	障害福祉計画策定事業			⑤			⑨				
	②				⑥			⑩				
	③				⑦			⑪				
	④				⑧			⑫				
指標の実績	指標名	単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	障害福祉計画・障害児福祉計画策定	件	目標				1		関係機関に配布するとともに、ホームページで公表を行いました。		
				実績				1				
	<指標の計算方法>		障害福祉計画及び障害児福祉計画の策定件数									
				目標								
				実績								
<指標の計算方法>												
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	376			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	376		
事業の実績	①障害福祉計画策定事業 ・第6期障害福祉計画・第2期障害児福祉計画 策定(計画年度：令和3年度～令和5年度) 作成部数：500部 配布先：関係官公庁、障害福祉サービス事業所、障害児通所施設ほか											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・国の基本方針や「第2次紀の川市障害者基本計画」など関連する計画とも連携して、障害福祉サービス等の提供に関する具体的な体制づくりやサービス等を確保するための方策等を示す実施計画であるため妥当性がある。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・障害児者施策に対するニーズが多様化する中、障害福祉サービスの具体的な体制作りやサービス等の確保、障害児の支援の方策を定め、本計画を推進する必要がある。 ・計画の進捗状況などについて把握、分析を行うとともに、事業の改善内容を次回の福祉計画へ反映させる取組の強化が必要である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・コスト削減のため事業を委託せず実施したが、策定した計画を着実に推進していくことで市全体の障害福祉サービス等向上が図られる。											

事務事業の概要	事務事業名	障害福祉サービス等給付事業		担当課	障害福祉課			事業区分	ソフト事業	
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	614
	予算科目	款	3 民生費		長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心			
		項	1 社会福祉費			施策目標	3 福祉			
		目	8 障害者総合支援費			基本施策	3 障害者の自立支援			
事業概要	障害児者が地域で自立した生活を送ってもらえるように、障害福祉サービスの給付を行う事業									
事務事業を構成する細事業	①	障害支援区分認定審査会運営		⑤	障害者補装具給付		⑨			
	②	認定調査業務		⑥			⑩			
	③	障害福祉サービス給付		⑦			⑪			
	④	高額障害福祉サービス等給付		⑧			⑫			
指標の実績	指標名	単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	認定調査件数	目標	223	169	200	200	200	区分認定が必要なサービスを希望する人が増えたことによる増。	
			実績	200	165	184				
	<指標の計算方法>		年間認定調査件数							
	成果指標	障害福祉サービスの延利用者数	目標	8,663	8,722	8,900	8,900	8,900	新型コロナウイルス感染症の影響で通所サービスが在宅支援可能となったことによる増加となった。	
			実績	8,457	8,806	9,194				
<指標の計算方法>		障害福祉サービスの延利用者数								
		目標								
		実績								
<指標の計算方法>										
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)		財源内訳							
	1,216,107		国庫支出金	595,948	県支出金	297,616	地方債	繰入金	その他	一般財源
事業の実績	①障害支援区分認定審査会運営		重度訪問介護	3人・35人	⑤障害者補装具給付		購入・修理・借受			
	・審査委員 10人(1班5人、2班5人)		行動援護	0人・0人	・実受給者 8人(延受給者 37人)		6件・5件・0件			
	・開催回数 12回(月1回)		同行援護	12人・105人	・新高額障害福祉サービス等給付		16件・6件・0件			
	・審査件数 159件		生活介護	159人・1737人	・実受給者 8人(延受給者 58人)		7件・5件・0件			
(内訳)身体 40件、知的 73件、精神 46件、難病 0件		療養介護(福祉分)	15人・155人	⑥障害者補装具給付		4件・0件・0件				
・主治医意見書依頼件数 160件		短期入所	42人・249人	・補装具給付件数		7件・0件・0件				
②認定調査業務		共同生活援助	62人・623人	・義肢(義足、義手等)		6件・5件・0件				
・認定調査員(職員) 5人		施設入所支援	66人・751人	・装具(下肢、体幹等)		16件・6件・0件				
(内会計任用職員 1名)		就労移行支援	17人・117人	・座位保持装置(椅子含む)		7件・5件・0件				
・認定調査件数(児童除く) 184件		就労継続支援A型	93人・905人	・視覚障害者安全つえ等		4件・0件・0件				
(内相談事業所委託分 132件)		就労継続支援B型	166人・1642人	・眼鏡		7件・0件・0件				
(内訳)一次判定分 32件		就労定着支援	2人・10人	・補聴器		34件・13件・0件				
二次判定分 152件(審査会)		自立訓練(機能訓練)	0人・0人	・車いす(電動含む)		13件・21件・0件				
③障害福祉サービス給付		自立訓練(生活訓練)	23人・163人	・その他補装具		3件・3件・0件				
・障害福祉サービス利用者数		宿泊型自立訓練	0人・0人							
実利用者・延利用者		自立生活援助	0人・0人							
居宅介護 147人・1326人		計画相談支援	503人・1406人							
		地域相談支援	0人・0人							
		④高額障害福祉サービス等給付								
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない							
			・障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス給付事業である。							
	有効性	評価結果	改善の余地がない							
			・障害児者が地域社会で自立した生活が営めるよう、それぞれの実情に合わせた最適なサービスを見極め、提供されており、サービス利用者の増加につながっている。							
効率性	評価結果	改善の余地がややある								
			・障害福祉サービス利用について、その人が必要とするサービスを聞き取り、適したサービス量を提供するとともに、サービス提供事業所からの請求等を精査することで、不適切もしくは過剰なサービス提供を防止し、事業効果を向上させる。							

事務事業の概要	事務事業名	障害児通所給付事業			担当課	障害福祉課		事業区分	ソフト事業				
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	847		
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心					
		項	1	社会福祉費		施策目標	3	福祉					
		目	8	障害者総合支援費		基本施策	3	障害者の自立支援					
事業概要	障害児が早期からの療育を受け、自立した生活を送ってもらえるように、支援施設への通所サービスの給付を行う事業												
事務事業を構成する細事業	①	障害児通所給付			⑤			⑨					
	②	高額障害児通所給付			⑥			⑩					
	③	児童発達支援センター利用者負担減額助成			⑦			⑪					
	④				⑧			⑫					
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析				
	活動指標	児童調査件数	件	目標		55	60	60	60	R2年度はコロナ禍の影響もあり、新規の調査件数はR1年度に比べ減少したが、次年度以降は例年の件数に戻ると思われる。早期療育につなげる一助とするため、目標値は前年度と同様とする。			
			実績	55	60	33							
	<指標の計算方法>		障害児通所給付の新規申請児童に対する調査件数										
	成果指標	児童発達支援利用者数	人	目標	93	115	115	115	115			児童発達支援のニーズがあり、障害または発達に遅れのある児童の療育支援に結びついている。R2年度はコロナ禍のためやや減少したが、件数はほぼ横ばいのため目標値は前年度と同様とする。	
			実績	115	115	104							
<指標の計算方法>		児童発達支援を利用した実人数											
成果指標	障害児相談支援利用者数	人	目標	71	84	137	157	157	障害児相談支援の利用者は年々増加傾向にあり、利用者が必要とするサービス利用に結びついている。セルフプランから計画相談事業所に移行する対象者が増えていることも影響している。目標値は前年度実績値とする。				
		実績	84	137	157								
<指標の計算方法>		障害児相談支援を利用した実人数											
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	347,463			国庫支出金	175,939	県支出金	87,980	地方債	繰入金	その他	一般財源	83,544	
事業の実績	①障害児通所給付 障害または発達に遅れのある児童に、通所等による適正な療育サービスを給付 ・児童調査件数 33件 ・障害児通所給付利用者数 実利用者(延利用者) 児童発達支援 104人(1,076人) 放課後等サービス 145人(1,988人) 保育所等訪問支援 23人(23人) 障害児相談支援 157人(361人)												
	②高額障害児通所給付 実受給者 7人(延受給者 35人)												
	③児童発達支援センター利用者負担減額助成 実受給者 0人												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・児童福祉法で定められている事業である。											
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
・障害児または発達に遅れのある児童の早期療育に結びついている。 ・新規の障害児通所事業所が増えたことにより、通所を希望する児童の利用が促進され、通所児童数の増加に繋がっている。													
効率性	評価結果	改善の余地がない											
	・障害児または発達に遅れのある児童の発達支援として適切な支援内容であるかについて、サービス等利用計画を精査し、効率的な事業の実施につなげる。												

事務事業の概要	事務事業名	障害者地域生活支援事業			担当課	障害福祉課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	982
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心			
		項	1 社会福祉費				施策目標	3 福祉			
		目	8 障害者総合支援費				基本施策	3 障害者の自立支援			
事業概要	障害児者、障害児者の家族が住み慣れた地域で自立した生活を送ってもらえるように、相談、各種サービス給付等を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	地域生活支援事業給付			⑤	巡回支援専門員整備		⑨			
	②	高額地域生活支援給付			⑥	重度障害者日常生活用具給付		⑩			
	③	障害者相談支援事業委託			⑦	訪問入浴サービス事業		⑪			
	④	障害者地域活動支援センター運営委託			⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	地域生活支援事業支給決定者数	人	目標	290	290	290	290	290	新型コロナウイルス感染症の感染防止のため利用を控える方もあり、支給決定者数が減少した。	
			実績	283	287	264					
	<指標の計算方法>		地域生活支援事業支給決定者数（移動支援・日中一時支援・生活支援それぞれの決定者数の合計）								
	成果指標	地域生活支援事業実利用者数	人	目標	220	220	220	220	220	新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、利用者数が減少した。	
			実績	195	198	166					
	<指標の計算方法>		地域生活支援事業を利用した人数（移動支援・日中一時支援・生活支援それぞれの利用人数の合計）								
	活動指標	巡回支援専門員整備事業巡回回数	回	目標	21	29	29	27	30	新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、巡回回数が減少した。	
			実績	21	29	14					
	<指標の計算方法>		巡回支援専門員が巡回した保育所（園）・幼稚園の延べ箇所数								
成果指標	基幹相談センター相談件数	件	目標	7,900	7,900	7,900	7,900	7,900	各指定特定相談支援事業所で対応できるケースが増加し、基幹相談センターの相談件数は減少している。必要時、基幹相談センターとして、各指定特定相談支援事業所の相談に応じている。		
		実績	7,926	7,774	6,608						
<指標の計算方法>		年間延べ相談件数									
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
	99,346			28,751	22,716					47,879	
事業の実績	①地域生活支援事業給付 ・障害者移動支援事業 実利用者 95人 延利用時間 9,056H ・日中一時支援事業 実利用者 33人 延利用時間 2,758H ・障害者生活支援事業 実利用者 38人 延利用時間 2,132H			・設置場所 麦の郷紀の川生活支援センター（尾崎79-1） ・人員体制 4名（専任 3名、兼務 1名）			・専門員巡回回数（延）14回 ・研修会の開催（延）0回				
	②高額地域生活支援給付 実受給者 8名（延受給者 38人）			④障害者地域活動支援センター運営委託 創作的活動や生産活動、地域との交流促進等の活動を支援する場として、地域活動支援センターを開設し、その運営を委託。 ・開所日数 216日 ・実利用者 85人（延利用者 1,937人） ・委託先（社福）一麦会 ・設置場所 麦の郷紀の川生活支援センター（尾崎79-1） ・人員体制 4名（専任 3名、兼務 1名）			⑥重度障害者日常生活用具給付 ・給付件数 ストーマ用装具 1116件 紙おむつ 434件 電気式たん吸引器 2件 つえ 0件 頭部保護帽 4件 訓練用ベッド 0件 パルスオキシメーター 2件 居宅生活動作補助用具 1件 その他生活用具 22件 合計 1581件				
	③障害者相談支援事業委託 障害者地域生活相談支援業務及び紀の川市基幹相談支援センター業務を委託。 ・開所日数 240日 ・実相談者 302人（延相談件数 6,608件） ・委託先（社福）一麦会			⑤巡回支援専門員整備 発達障害の専門知識を有する専門員が、保育所等の施設を巡回し、施設の担当職員に対し、障害の早期発見や早期対応のための助言等の支援を行う。 ・巡回対象施設 市内の保育所・幼稚園			⑦訪問入浴サービス事業 実受給者 2名（延利用回数 194回）				
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・障害者総合支援法に基づき市町村が実施する事業である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・障害を持つ方の自立と社会参加の促進、障害児者を抱える家族の負担軽減（レスパイト）に繋がっている											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・サービス提供事業所に対し、市の実地指導等を強化し、不適切なサービス提供を防止する事で、事業コストの効率化に繋げる。										

事務事業の概要	事務事業名	障害者権利擁護事業		担当課	障害福祉課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	631	
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心			
		項	1	社会福祉費		施策目標	3	福祉			
		目	8	障害者総合支援費		基本施策	3	障害者の自立支援			
事業概要	障害児者の権利や財産を擁護するために各種支援を行い、市民に対し障害者理解のための広報や啓発を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	成年後見制度利用支援		⑤	障害者差別解消		⑨	相談員設置			
	②	障害者虐待防止対策支援事業		⑥	障害者意思疎通支援		⑩				
	③	理解促進研修・啓発事業		⑦	手話奉仕員養成・手話啓発普及		⑪				
	④	自発的活動支援事業		⑧	障害者相談		⑫				
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	成年後見人市長審判請求件数	目標	2	2	2	2	2	令和2年度は市長審判請求の実績はなかったが、支援者や家族等のいない障害者に関する相談は増加している。		
			実績	1	0	0					
	<指標の計算方法>		市長審判による請求した件数								
	活動指標	手話奉仕員養成に関する講座数	目標	3	3	3	3	3	厚生労働省が定める手話奉仕員養成講座を例年実施。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の社会情勢から判断し、中止した。		
			実績	3	3						
	<指標の計算方法>		入門講座、基礎講座、ステップアップ講座などの講座数								
	成果指標	成年後見人市長審判請求累計件数	目標	6	8	7	7	7	親亡きあとのことを想定した障害者支援に関し、相談が増加している。親が生きている場合でも成年後見制度の利用が可能であるが申立てに繋がっていない。普及啓発や相談体制が課題。		
			実績	5	5	5					
	<指標の計算方法>		平成28年度以降の市長審判請求による被成年後見人者の累計								
成果指標	手話奉仕員養成講座修了者の割合	目標	100	100	100	100	100	入門課程及び基礎課程で8割以上の出席者に対して修了証を交付。令和2年度は中止となったが、引き続き出席率を高めるために、開催日、開催時間など開催方法の工夫を行う。			
		実績	85.7	90.3							
<指標の計算方法>		手話奉仕員養成講座（入門課程・基礎課程）の受講修了者／受講者数									
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)		財源内訳								
	685		国庫支出金	170	県支出金	141	地方債	繰入金	その他	一般財源	374
事業の実績	①成年後見制度利用支援			(支援件数 938件)							
	・市長審判請求支援件数 0件 ・成年後見人等報酬助成金給付 0件 (実対象者 0人)			・意思疎通支援者の派遣 手話通訳士(者)支援件数 28件 要約筆記者支援件数 4件							
事業の実績	②障害者虐待防止対策支援事業			⑦手話奉仕員養成・手話啓発普及							
	・紀の川市障害者虐待防止センターの設置 通報件数 4件 (内虐待認定件数 3件)			※手話奉仕員養成は新型コロナウイルス感染症予防対策の為に中止。 手話啓発に伴う出前講座は5件							
事業の実績	③理解促進研修・啓発事業			⑧障害者相談							
	・講演(研修)会の開催			・来所相談件数 延 50件 ・訪問相談件数 延 18件 ・電話相談件数 延 84件							
事業の実績	④自発的活動支援事業			⑨相談員設置							
	・孤立防止活動支援事業の実施			・身体障害者相談員 7人(延相談件数 16件) ・知的障害者相談員 5人(延相談件数 21件)							
事業の実績	⑤障害者差別解消										
	・那賀圏域障害者差別解消支援地域協議会			※新型コロナウイルス感染症予防対策の為に中止。							
事業の実績	⑥障害者意思疎通支援										
	・手話通訳士職員配置 3名										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・地域や社会全体に、障害者や障害児への理解を促進することで、障害者差別の解消や障害者虐待の防止につなげ、障害児者の人権擁護と福祉の向上が図られる事業である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
		・事業成果の可視化は困難である啓発事業や講座開催などソフト事業が主であるが、継続した切れ目のない事業を実施していくことが重要で、広く地域や市民に理解を得るためにも有効である。 ・障害者の権利擁護を推進するための地域資源の開発や成年後見制度の普及啓発を行うことで有効性が向上する。									
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・事業内容によっては外部に委託することで効率化が図られる。 ・社会情勢やニーズに対応した事業を実施することが必要である。 ・地域資源の開発後に、多職種の支援者が連携することで支援の質と効率性が向上する。 ・手話奉仕員養成講座の受講者数増加を図るために、開催日程や開催場所を工夫する必要がある。										

事務事業の概要	事務事業名		障害者自立支援医療費等給付事業		担当課		障害福祉課		事業区分		ソフト事業		
	会計		一般会計		新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		
	予算科目	款 項 目	3 民生費		長期総合 計画体系	政策目標		1 安全・安心		事業番号 638			
			1 社会福祉費			施策目標		3 福祉					
8 障害者総合支援費			基本施策			3 障害者の自立支援							
		取組方針		2 地域で自立した生活を送るための支援									
事業概要		障害児者が必要な治療を受け、地域で健康的に暮らしているように、医療費の一部助成を行う事業											
事務事業を構成する細事業		① 更生医療給付	⑤					⑨					
		② 育成医療給付	⑥					⑩					
		③ 療養介護医療給付	⑦					⑪					
		④ 精神通院医療給付	⑧					⑫					
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析				
	成果指標	更生医療給付決定件数	件	目標 300	400	420	430	430	医療機関との連携が上手く図れており、更生医療を必要とする申請者が増加している。				
			実績 366	408	418								
	<指標の計算方法>		更生医療給付決定件数（実績報告）										
	成果指標	育成医療給付決定件数	件	目標 30	30	30	30	30	疾患や治療内容で給付対象に限定があるため目標値及び申請者数に大幅な増減はないものの、医療機関と連携を図りながら対象者に案内を行うことができている。				
			実績 28	23	24								
<指標の計算方法>		育成医療給付決定件数（実績報告）											
成果指標	療養介護給付受給者数	人	目標 13	13	13	13	13	病院等で長期入院による医療に加え常時介護が必要な重度の障害者が受給対象者と限定されており、目標値及び実績値に大きな増減はない。					
		実績 13	13	14									
<指標の計算方法>		療養介護給付受給者数（実績報告）											
		目標											
		実績											
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源				
		50,338		24,659	12,087							13,592	
事業の実績	① 更生医療給付		身体上の障害を取り除いたり軽減して日常生活を容易にする医療等にかかる費用について、利用者の自己負担を軽減するための給付・レセプト件数（実受給者）		内臓障害(心臓) 66件 (38人)		内臓障害(透析) 2186件 (212人)		肢体不自由 97件 (55人)		免疫機能障害 19件 (4人)		
	② 育成医療給付		児童の身体上の障害を取り除いたり軽減して日常生活を容易にする医療等にかかる費用について、利用者の自己負担を軽減するための給付・レセプト件数（実受給者）		視覚障害 3件 (2人)		聴覚・平衡機能障害 0件 (0人)		音声・言語・そしゃく機能障害 29件 (6人)				
	③ 療養介護医療給付		医療機関で機能訓練や療養上の管理、看護、介護及び日常生活支援を受けた場合の医療にかかる費用を給付		・受給件数 154件（実受給者 14人）								
	④ 精神通院医療給付		各種申請受付から受給者証交付までの事務を実施		・申請等受付状況		新規 89件		更新 405件		変更 188件		
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
			・障害者総合支援法に基づく事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
		・心身上の障害を取り除いたり、軽減して日常生活を容易にするための医療費に係る自己負担が軽減できている。											
効率性	評価結果	改善の余地がない											
		・申請書だけではなく医療機関からの意見書及び所得等で、市で判定を行っている。また内容によっては県へ判定依頼を行うなどし、適正に実施することができている。											

事務事業の概要	事務事業名	障害者施設運営等支援事業			担当課	障害福祉課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	634	
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心				
		項	1 社会福祉費				施策目標	3 福祉				
		目	8 障害者総合支援費				基本施策	3 障害者の自立支援				
事業概要	障害者等の居場所を確保するために、障害者等の施設の運営支援や補助を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	ひきこもりサポート事業			⑤			⑨				
	②	障害者グループホーム等整備促進事業補助金			⑥			⑩				
	③				⑦			⑪				
	④				⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	ひきこもりサポート事業の利用者数	人	目標		15	15	15	20	令和元年度からの新規事業である。ひきこもり者の居場所として、利用者の多様なニーズに対応しながら事業が実施されている。		
				実績		11	10					
	<指標の計算方法>		市が委託するひきこもりサポート事業の居場所を利用した実人数									
	活動指標	ひきこもりサポート事業における相談等延べ件数	人	目標		450	450	450	500	令和元年度からの新規事業である。ひきこもり者やその家族等からの相談件数は今後も増加することが見込まれる。		
				実績		445	486					
	<指標の計算方法>		市が委託するひきこもりサポート事業の相談・支援延べ件数									
	成果指標	障害者グループホーム定員数	人	目標	50	50	55	65	70	市内に1箇所障害者グループホームが新規に開所し、定員数が増加したが、障害者自立支援のための社会資源として需要は大きく、更なる定員の拡充が求められている。		
				実績	42	53	63					
	<指標の計算方法>		市内の障害者グループホームの定員数									
成果指標	障害者グループホーム新設数	箇所	目標	1	1	1	1	1	障害者グループホーム等整備促進事業補助金の申請は無かったが、市内に1箇所障害者グループホームが新規に開所した。			
			実績	0	2	1						
<指標の計算方法>		市内の障害者グループホーム新設数										
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			3,426	1,713						1,713		
事業の実績	①ひきこもりサポート事業 ひきこもり状態にある者及びその家族に対する支援を実施 事業内容 ひきこもり相談、居場所提供、自立・就労のコーディネート ・事業委託先(社福)一麦会 設置場所 ハートフルハウス創(粉河853-3) 利用者数 ひきこもり相談(延)486人 居場所の利用(実)9人 ・事業委託先(NPO法人)エルシティオ(和歌山市) 利用者数 居場所の利用(実)1人 ②障害者グループホーム等整備促進事業補助金 ※補助対象外のグループホーム 1箇所			(定員合計10名)が開所								
	事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がややある ・ひきこもり者とその家族、支援者の相談に応じ、ひきこもり者の社会参加を支援する事業である。 ・ひきこもりサポート事業における委託費が十分確保できておらず、受託事業者側が一部負担している状況であり、完全市町村事業となっていない。								
有効性		評価結果	改善の余地がない ・ひきこもり者の目中的居場所としての役割に加えて、ひきこもり者や支援者への個別の面接や訪問による支援等、個々の状況に応じたひきこもり者支援を行っている。									
効率性		評価結果	改善の余地がない ・生活困窮者就労準備支援事業費等の国庫補助金を活用し、効率的な事業実施ができています。									

事務事業の概要	事務事業名	老人福祉施設入所支援事業			担当課	高齢介護課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	640	
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心				
		項	1 社会福祉費				施策目標	3 福祉				
		目	9 老人福祉費				基本施策	2 高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進				
取組方針	2 高齢者の自立支援											
事業概要	市民（入所対象者等）が安心して生活を送れるように、老人福祉施設への入所に関する支援や拠点施設の運営を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	老人ホーム入所判定委員会運営			⑤	高齢者向け優良賃貸住宅家賃減額補助金		⑨				
	②	老人福祉施設入所者負担金徴収			⑥			⑩				
	③	生活支援ハウス運営事業委託			⑦			⑪				
	④	老人福祉施設入所者措置			⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	生活支援ハウス利用率	目標						令和2年度は、5月と12月にそれぞれ1名ずつ入居され、9月に1名退去された。入居率は昨年度とほぼ変わらず。令和3年度も同様の利用率が見込まれる。			
			実績	55.64	47.62	47.64						
	<指標の計算方法>		年間延べ利用日数 ÷ (365日 × 施設定員数 (10人))									
	活動指標	高齢者向け優良賃貸住宅利用率	目標						令和2年度は、7人退居し、3人が入居した。3月末日時点では15/20(部屋)の利用であるが、令和3年度は満床近い利用が見込まれる。			
			実績	91.82	92.96	77.77						
<指標の計算方法>		年間延べ利用日数 ÷ (365日 × 施設定員数 (20人))										
活動指標	入所者措置数	目標						措置数は横ばいであるが、虐待による緊急措置により急増することも考えられる。				
		実績	44	45	45							
<指標の計算方法>		養護、特別養護老人ホームへの入所措置数										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位: 千円)			財源内訳								
	113,143			国庫支出金	1,820	県支出金	地方債	繰入金	15,848	その他	95,475	
事業の実績	①老人ホーム入所判定委員会運営 入所措置、措置継続の要否判定 委員数 8人・入所措置 5人			高齢者向け優良賃貸住宅家賃減額補助金交付 ・3月末実人数 15人 ・延べ利用日数 6,042日								
	②老人福祉施設入所者負担金徴収 収入申告による負担金決定と徴収											
	③生活支援ハウス運営事業委託 利用者承認、生活支援ハウス運営委託 ・3月末実人数 6人 ・実利用人数 7人 ・延べ利用日数 2,063日											
	④老人福祉施設入所者措置 入所者の措置決定 3月末措置者数(5施設) 45人 ・年間入所者 5人 退所者 5人											
	⑤高齢者向け優良賃貸住宅家賃減額補助金											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・老人福祉法等に基づき事業を実施しており、市が事業主体となるのは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・高齢者虐待や家庭事情などにより、居宅での生活が困難と判断した高齢者に対し、安全安心な生活を確保していく上で有効である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・措置費等については、国や県の基準に基づき設定され、収入等に応じた受益者負担を求めている。 ・事業実施にあたっては、必要最小限の人員で対応している。											

事務事業の概要	事務事業名	介護予防・高齢者自立支援事業		担当課	高齢介護課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	649	
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心			
		項	1	社会福祉費		施策目標	3	福祉			
		目	9	老人福祉費		基本施策	2	高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進			
取組方針	2	高齢者の自立支援									
事業概要	市民（高齢者）が住み慣れた地域で自立した日常生活を送れるように、各種サービスの提供を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	生活管理指導短期宿泊			⑤	高齢者居宅改修補助金			⑨	フレイル予防推進事業	
	②	外出支援サービス			⑥	老人日常生活用具給付			⑩		
	③	防災力向上事業			⑦	高齢者訪問理髪サービス利用助成券給付			⑪		
	④	緊急通報体制整備			⑧	介護予防事業委託			⑫		
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	外出支援サービス利用者数	人	目標	60	50	50	50	50	要介護度4・5の在宅生活をする方を医療機関へ送迎するサービスで、目標値については、実績をもとに設定しているが、ここ数年は50人弱で推移している。	
			実績	44	50	48					
	<指標の計算方法>		年間利用実人数								
	活動指標	救急情報キット配布数	世帯	目標		9,100	9,100	11,500	11,500	防災力向上のため、新しく65歳到達者の介護保険被保険者証送付時に案内チラシを同封し希望者に救急キットを配布。今後も目標値を達成するよう周知啓発を行っていく。	
			実績	6,565	7,945	8,042					
	<指標の計算方法>		年度末配布済累計数（65歳以上の高齢者がいる全世帯対象）								
	活動指標	緊急通報システム設置数	台	目標	350	350	350	350	350	設置台数は減少傾向。見守り付きの高齢者住宅や有料老人ホームの整備が進んできたことや携帯電話やスマートフォンでも見守りサービス等が利用できることが要因と考えている。	
			実績	315	285	277					
	<指標の計算方法>		年度末設置台数								
活動指標	高齢者訪問理容サービス利用助成券給付	人	目標	20	20	20	20	20	要介護3～5の在宅生活をする高齢者宅を訪問して理容サービスを提供している。新型コロナウイルス感染症の影響により利用者は減少したが、令和3年度は20名程度の利用が見込まれる。		
		実績	20	22	12						
<指標の計算方法>		年間利用実人数									
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
	18,651								18,651		
事業の実績	①生活管理指導短期宿泊利用者数 1人		実人数 12人 延べ利用回数 20回								
	②外出支援サービス 実人数 48人 延べ利用回数 221回		⑧介護予防事業委託 介護予防拠点施設「道の里」において、生きがい活動支援等の介護予防活動を社会福祉協議会に委託して実施。 延べ利用者数 903人								
	③防災力向上事業 希望者に救急情報キット配布		⑨フレイル予防推進事業 体操映像の制作委託、放送委託 身体機能測定資機材等購入								
	④緊急通報体制整備 3月末設置台数 277台 延べ利用回数 95回										
	⑤高齢者居宅改修補助金 実績 0件										
	⑥老人日常生活用具給付 実績 0件										
	⑦高齢者訪問理容サービス利用助成券給付										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・対象者の審査に関して、所得状況、身体状況、家族形態等の個人情報が必要となるため、市が事業主体となるのは妥当である。 ・新型コロナウイルス感染症の影響を受けている高齢者等への健康づくり支援と、フレイル予防対策に取組むことは妥当である。								
	有効性	評価結果	改善の余地がない ・介護保険事業での給付費、保険料の抑制を図るための事業で有効性は高い。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策による外出自粛等により、心身機能や運動機能の低下が見られる高齢者等に対し、健康づくりやフレイル予防等を強化するための取組を充実させることにより有効性を高めた。								
	効率性	評価結果	改善の余地がややある ・事業実施については、すべて社会福祉法人等に民間委託し効率化を図っているが、利用が極端に少ない事業については見直しが必要である。 ・新型コロナウイルス感染症の影響を受けている高齢者等に対し、今後も継続的に実施可能なフレイル予防の取組の推進が出来た。								

事務事業の概要	事務事業名	高齢者生きがいづくり事業			担当課	高齢介護課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	668	
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心				
		項	1	社会福祉費		施策目標	3	福祉				
目		9	老人福祉費	基本施策		2	高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進					
取組方針	1	高齢者の生きがいづくりと社会参加の推進										
事業概要	市民（高齢者）に更なる健康と長寿の意欲を持ってもらえるように、長寿祝金の支給、敬老会の開催補助、高齢者団体の活動支援を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	長寿祝金支給	⑤					⑨				
	②	敬老会補助金	⑥					⑩				
	③	老人クラブ補助金	⑦					⑪				
	④		⑧					⑫				
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	長寿祝金等支給人数	人	目標						対象者（88歳・100歳・最高齢者男女各1名）に「長寿祝金」等を郵送や訪問により贈呈し、さらなる健康と長寿を目指す。		
			実績		373	371	437					
	<指標の計算方法>		年度末人数									
	成果指標	敬老会参加者数	人	目標						旧町単位や各地区で実行委員を中心とした敬老行事を実施。高齢化に伴い参加者は増加傾向であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により開催できない地区もあり参加者数は減少した。		
			実績		2,641	2,982	1,607					
<指標の計算方法>		敬老会行事（旧町単位開催）への参加者数										
活動指標	老人クラブ補助金対象者数	人	目標						対象者が生きがいを持ち、健康で生き生きとした活動ができるよう、対象人数に応じた補助金を交付。高齢者の生活様式の変化により会員数が減少していると考え。			
		実績		10,356	10,002	9,487						
<指標の計算方法>		老人クラブ会員数										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	11,103			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	7,253		
事業の実績	①長寿祝金支給 対象者（88歳 414人） （100歳 21人） （最高齢 男女各1名） ・88歳（5千円相当商品券） ・100歳（3万円と記念品・記念写真） ・最高齢（5万円と記念写真）											
	②敬老会補助金 実行委員会を中心とした敬老行事実施に対する補助金を交付 （70歳以上対象者 16,244人）											
	③老人クラブ補助金 老人クラブ会員に対する補助金を交付 ・164クラブ											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・今日の日本社会の礎を築き、多年にわたり社会に貢献されてきた高齢者に対し、感謝の意を表し、敬意の心をもって、その長寿を祝うための行事を催すことは、行政として一定の妥当性がある。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・高齢者が自ら地域福祉の増進を目的とし活性化を図る事業であり有効である。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・長寿化に伴い、対象者の範囲の縮小や費用単価の見直しを検討する必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名	地域見守り支援事業			担当課	高齢介護課		事業区分	ソフト事業					
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1114			
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心					
		項	1 社会福祉費				施策目標	3	福祉					
		目	9 老人福祉費				基本施策	2	高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進					
事業概要	市民が地域で支え合い、安全・安心に暮らせるように、地域見守り協力員による見守り活動を行う事業													
事務事業を構成する細事業	①	地域見守り活動準備事業			⑤				⑨					
	②	地域見守り活動事業			⑥				⑩					
	③				⑦				⑪					
	④				⑧				⑫					
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析					
	成果指標	見守り活動（フレイルチェック）実施回数	目標	21	100	110	125	135	体操拠点数は増加したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止により、フレイルチェックによる拠点での見守り活動が実施出来なかったが、各地域でさりげない見守りや声かけなどを実施した。					
			実績	21	83	0								
	<指標の計算方法>		紀の川歩（てくてく）体操活動拠点においてフレイルチェックを実施した回数											
	活動指標	地域見守り協力員数	目標	100	150	170	180	190				新型コロナウイルス感染症拡大防止対策をとったことにより、フレイルサポーター養成講座が開催中止となり新たな協力員の増員が来ず、活動可能なサポーター数も減少した。		
			実績	104	113	93								
	<指標の計算方法>		フレイルサポーター数											
		目標												
		実績												
<指標の計算方法>														
		目標												
		実績												
<指標の計算方法>														
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳										
	518			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源					
事業の実績	①地域見守り活動準備事業 ・地域見守り協力員数 93人 ②地域見守り活動事業 ・地域見守り活動委託料 377,100円 ・見守り活動実施回数 0回 (フレイルサポーター連絡会を開催し、見守り体制等について協議し、各地域においてさりげない見守りや声かけをすることにより活動を実施した。)													
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない											
		・地域見守り協力員制度実施要綱により市町村実施に関する役割が定められている。												
	有効性	評価結果	改善の余地がややある											
・令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、協力員の増員は困難となったが、フレイルサポーター以外の協力員については、今後計画する協力員数を達成できるよう、事業内容等広く周知し、協力員の増員を目指し、有効性を高める。														
効率性	評価結果	改善の余地がない												
	・県補助金を活用した事業であり効率性は非常に高い。													

事務事業の概要	事務事業名	災害時要援護者対策事業		担当課	高齢介護課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	672
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心		
		項	1	社会福祉費		施策目標	3	福祉		
		目	9	老人福祉費		基本施策	2	高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進		
取組方針	1	高齢者の生きがいがいづくりと社会参加の推進								
事業概要	要援護者が円滑に避難できるように、対象者の把握と受入施設の確保を行う事業									
事務事業を構成する細事業	①	災害時要援護者把握		⑤			⑨			
	②	災害時要援護者受入対策		⑥			⑩			
	③			⑦			⑪			
	④			⑧			⑫			

指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析	
	成果指標	災害時要援護者登録者数	人	目標		1,300	1,300	1,300	1,300	対象者のうち名簿登録に同意されない方が増え、登録者の多くが高齢者であるため、新規登録者よりも抹消者のほうが多くなり、登録者数が減少している。
			実績	1,204	1,125	1,100				
	<指標の計算方法>		年度末登録者数							
	活動指標	登録者名簿提供に関する説明回数	回	目標	10	10	10	10	10	地域内での避難支援体制づくりと連携について、各区長・民生委員に対し説明を行っているが新型コロナウイルス感染症の影響で会議等が中止となったため減少（打田地区・貴志川地区のみ）
			実績	10	5	2				
<指標の計算方法>		区長会、民生委員定例会開催時説明回数								
活動指標	協定施設数	施設	目標						新規に開設された施設がないため、新たな協定の締結は無かった。R1年度に引き続き、R2年度においても実績はなしとなった。	
		実績	5							
<指標の計算方法>		年度内協定締結数								
		目標								
		実績								
<指標の計算方法>										

コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)		財源内訳					
	461		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源

事業の実績	①災害時要援護者把握 災害時要援護者避難支援システム保守 2回更新（8月・3月） 396,000円				
	②災害時要援護者受入対策 令和2年度末協定施設数 22施設 受入可能人数 長期 49人、短期 148人				

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・市の地域防災計画に基づく事業であり、市が事業主体となるのが妥当である。
	有効性	評価結果	改善の余地がない ・災害時における人的被害の低減を図ることができ、地域内での連携と避難支援体制整備づくりに有効である。
	効率性	評価結果	改善の余地がややある ・システムの整備により、要援護者の把握はできているが、個別計画については時間を要する上に従事する人員が少ないこともあり、整備を進めるのが容易ではない。

事務事業の概要	事務事業名	高齢者福祉施設管理運営事業			担当課	高齢介護課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	35	
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心				
		項	1	社会福祉費		施策目標	3	福祉				
		目	9	老人福祉費		基本施策	2	高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進				
取組方針	2	高齢者の自立支援										
事業概要	市民が高齢者福祉施設を安全で快適に利用できるように、適正な維持管理を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	介護予防施設管理（蛭の里）			⑤					⑨		
	②	老人憩の家施設管理			⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	成果指標	介護予防拠点施設利用者数	人	目標			1,200	1,200	1,200	1,200	高齢者に介護予防と健康増進のため活用してもらえよう施設の維持管理を行っているが、周辺地域の人口減少や新型コロナウイルス感染症の影響により利用者が減少したものと考える。 新型コロナウイルス感染症の影響（R2.3.7～6.30まで閉鎖）により利用者が減少したものと考える。	
				実績	1,191	1,185	903					
	<指標の計算方法>		年間延べ利用者数									
	成果指標	老人憩の家利用者数	人	目標			1,100	1,100	1,100	1,100		
				実績	1,054	1,292	551					
	<指標の計算方法>		年間延べ利用者数									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	2,158			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			2,158									
事業の実績	①介護予防施設管理（蛭の里） ・電気設備点検 ・各種施設管理委託 ・草刈等 ・延べ利用者数			903人								
	②老人憩の家施設管理 ・延べ利用者数			551人								
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
			・地域福祉を目的とした事業を実施する施設であり、一般の避難所としての役割もある施設なので、市が実施主体となるのは妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
		・高齢者の生きがいがづくりの場として地域に密着した事業を実施していくため必要な施設であることから、施設管理運営は有効である。										
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
		・老朽化箇所についての改修を計画的に進めていき、維持管理費用の抑制に努める必要がある。										

事務事業の概要	事務事業名	社会福祉法人利用者負担助成事業			担当課	高齢介護課		事業区分	ソフト事業				
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1077		
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心					
		項	1	社会福祉費		施策目標	3	福祉					
		目	10	介護保険費		基本施策	2	高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進					
取組方針	2	高齢者の自立支援											
事業概要	市民（低所得の高齢者）が安心して介護サービスを利用できるように、社会福祉法人が行う介護サービスの利用者負担の軽減に対する支援を行う事業												
事務事業を構成する細事業	①	社会福祉法人利用者負担助成事業補助金				⑤					⑨		
	②					⑥					⑩		
	③					⑦					⑪		
	④					⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	成果指標	利用法人数	法人	目標	3	4	4	5	5	利用法人数は減少している。制度の実施はしているが、利用者数が少ないため、実績額が補助の対象となっていないケースも見受けられる。今後も制度周知を図り、利用法人数の増加に努める。 従来からの利用者が亡くなったことに加え、新規申請者が少ない状況であるため、発行数は減少している。			
				実績	2	2	1						
	<指標の計算方法>		社会福祉法人利用者負担助成事業補助金の交付法人数										
	活動指標	社会福祉法人等利用者負担軽減対象確認証発行数	件	目標									
				実績	20	18	13						
	<指標の計算方法>		年度末発行数										
				目標									
				実績									
	<指標の計算方法>												
			目標										
			実績										
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	269			国庫支出金	県支出金	4	地方債	繰入金	その他	一般財源	265		
事業の実績	①社会福祉法人利用者負担助成事業補助金												
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交付法人：1法人：対象者数 社会福祉法人 山水会 1名 ・ 補助金交付額：4,634円 社会福祉法人 山水会 4,634円 												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・ 介護保険被保険者の低所得者対策であるため、市が実施主体になることは妥当である。											
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
・ 補助金の基準額の算定には、あらかじめ控除する額が決まっており、対象者の利用が少ない法人等ではその法人等が負担すべき利用者負担軽減額の範囲内となり、助成対象とはならないが、対象者が多くなれば、法人等の負担が大きくなるので、助成は有効である。													
効率性	評価結果	改善の余地がない											
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国庫及び県費補助を活用しており、事業の効率性は高い。 ・ 地域ケア会議等を活用し、今後も継続して介護支援専門員等に制度周知を行う。 												

事務事業の概要	事務事業名	介護保険施設等整備補助事業			担当課	高齢介護課		事業区分	ソフト事業					
	会計	一般会計			新規・継続	新規	事業期間	単年度のみ		事業番号	1100			
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心						
		項	1	社会福祉費		施策目標	3	福祉						
		目	10	介護保険費		基本施策	2	高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進						
事業概要	介護保険施設の整備等を行う介護サービス事業所に対し、国庫補助金を活用してその費用の一部を補助する事業													
事務事業を構成する細事業	①	地域医療介護総合確保事業施設等整備費補助金			⑤					⑨				
	②				⑥					⑩				
	③				⑦					⑪				
	④				⑧					⑫				
指標の実績	指標名	単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析					
	活動指標	補助金交付件数	件	目標					本年度の補助金交付件数は4件（2法人：4事業所）となった。					
				実績	1	4	4							
	<指標の計算方法>		補助金交付件数											
			目標											
			実績											
<指標の計算方法>														
		目標												
		実績												
<指標の計算方法>														
		目標												
		実績												
<指標の計算方法>														
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)		財源内訳											
	4,425		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源						
事業の実績	①地域医療介護総合確保事業施設等整備費補助金													
	<p>【1】事業者：社会福祉法人聖アンナ福祉会 施設名：地域密着特別養護老人ホームきしがわ園 補助金交付額：1,620,000円 事業内容：簡易陰圧装置設置</p> <p>【2】事業者：社会福祉法人渉久会 施設名：グループホーム桃の庵 補助金交付額：935,000円 事業内容：簡易陰圧装置設置</p> <p>施設名：グループホーム自然の郷 補助金交付額：935,000円 事業内容：簡易陰圧装置設置</p> <p>施設名：サービス付き高齢者向け住宅自然の郷 補助金交付額：935,000円 事業内容：簡易陰圧装置設置</p>													
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない											
		・国庫補助要綱において、事業主体は自治体と定められており、市が実施主体となることは妥当である。												
	有効性	評価結果	改善の余地がない											
・利用高齢者の居住環境の改善や介護事業所への財政的な支援という面から、事業の有効性は高い。														
効率性	評価結果	改善の余地がない												
	・交付金対象の事業は、一部を除いて自治体負担が生じないため、事業の効率性は高い。													

事務事業の概要	事務事業名	人権推進事業		担当課	人権施策推進課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	684	
	予算科目	款	3 民生費	長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営				
	項目	1	社会福祉費		施策目標	1	人権尊重				
	目	11	人権推進費		基本施策	1	人権が尊重された差別のない社会の実現				
事業概要	差別のない明るいまちづくりを目指すために、関係団体、関係機関と連携、協力を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	人権施策推進懇話会運営			⑤	人権委員会補助金			⑨		
	②	人権委員会運営			⑥				⑩		
	③	人権推進活動			⑦				⑪		
	④	和歌山人権研究所負担金			⑧				⑫		
指標の実績	指標名	単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標 人権委員会理事会・代議員会の開催回数	目標	4	4	4	4	4	5月（支部会長のみの）、9月、3月に理事会を開催			
		実績	4	3	3						
	<指標の計算方法>		年間開催回数								
		目標									
		実績									
	<指標の計算方法>										
		目標									
		実績									
	<指標の計算方法>										
	目標										
	実績										
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)		財源内訳								
	4,778		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	3,744		
事業の実績	①人権施策推進懇話会運営 ・4/27 第1回懇話会（書面）：人権施策基本方針に基づいた施策の取組状況について各課からのヒアリング結果報告 ・7/28 第2回懇話会：人権施策基本方針【第二次改定版】骨子案について ・9/29 第3回懇話会：人権施策基本方針【第二次改定版】素案について ・11/25 第4回懇話会：人権施策基本方針【第二次改定版】素案について ・1/26 第5回懇話会：人権施策基本方針【第二次改定版】案について ・人権教育指導員による人権研修、人権講座を実施しました。 ④和歌山人権研究所負担金 負担金 15,000円 ⑤人権委員会補助金 補助金 728,834円										
	②人権委員会運営 ・郵送による企業啓発を実施 ・懸垂幕およびのぼりの設置 同和運動推進月間（11/1～11/30） 人権を考える強調月間（11/11～12/10）										
	③人権推進活動										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・地域の実情に応じた事業を推進する必要があることから、市が実施することが妥当です。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・複雑・多様化する人権問題の解決への取り組みを推進するため、さらに職員のスキルアップが必要です。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・人権啓発・教育について、人権委員や関係機関と連携して取り組んでいるため、現状の実施方法が適当と考えます。										

事務事業の概要	事務事業名	人権啓発活動事業		担当課	人権施策推進課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	527	
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1	社会福祉費		施策目標	1	人権尊重			
		目	11	人権推進費		基本施策	1	人権が尊重された差別のない社会の実現			
取組方針	1	人権啓発と相談体制の充実									
事業概要	市民の人権意識の高揚を図るために、啓発活動や学習機会の提供を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	人権啓発活動			⑤	人権教育啓発推進センター負担金			⑨		
	②	人権講演会・映画会			⑥	インターネット上での人権侵害のモニタリング			⑩		
	③	人権講座			⑦				⑪		
	④	県人権啓発センター負担金			⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	人権擁護委員の日並びに人権週間時の啓発箇所	箇所	目標	18	18	18	18	18	人権擁護委員の日および人権週間に実施している市内大型店舗前等での啓発活動について、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止となり、啓発物資等を市内公共施設で配布。	
			実績	18	18	0					
	<指標の計算方法>		人権擁護委員による啓発活動の実施回数（打田2、粉河2、那賀2、桃山1、貴志川2）×2回								
	活動指標	人権を考える強調月間及び同和運動推進月間時の啓発箇所	箇所	目標	10	10	10	10	10		人権を考える強調月間および同和運動推進月間に実施している駅頭等での啓発活動について、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止となり、啓発物資を市内小中学校に配布。
			実績	10	10	0					
	<指標の計算方法>		人権委員による啓発活動の実施（打田4、粉河1、那賀1、桃山1、貴志川3）								
	成果指標	人権講演会参加延べ人数	人	目標	400	400	400	400	400	人権講演会の開催について、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止となりました。	
			実績	514	226	0					
	<指標の計算方法>		人権講演会参加者数								
成果指標	市内イベント啓発活動延べ動員人数	人	目標	150	150	150	150	150	新型コロナウイルス感染症拡大により、市内イベントが中止となったため、イベント会場等での啓発活動ができませんでした。		
		実績	64	90	0						
<指標の計算方法>		イベント時の人権委員啓発活動数									
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	3,538			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	3,371	
事業の実績	①人権啓発活動 市内イベントでの啓発活動は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点により中止										
	②人権講演会・映画会 人権映画会・人権講演会は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点により中止										
	③人権講座 11/19：「既存差別が生み出した 新型コロナ差別」 講師 松村 元樹 氏（公益財団法人反差別人権研究所みえ） (参加者41人)										
	④県人権啓発センター負担金 負担金 82,000円										
	⑤人権教育啓発推進センター負担金 負担金 40,000円										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・市が積極的に人権施策を推進するため講演会や啓発活動等を実施する必要があることから、市が実施することが妥当です。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・当初の計画が不測の事態等で実施できない場合に他の実施方法等の研究が必要と思われます。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・県の助成事業を活用した啓発物資の購入や、人権委員と協力をしながら事業を実施しています。										

事務事業の概要	事務事業名	人権擁護事業		担当課	人権施策推進課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1069	
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1	社会福祉費		施策目標	1	人権尊重			
		目	11	人権推進費		基本施策	1	人権が尊重された差別のない社会の実現			
事業概要	市民を人権侵害から守るために、関係団体、関係機関の活動支援を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	人権相談			⑤	更生保護女性会補助金			⑨		
	②	県人権擁護委員協議会負担金			⑥	人権擁護委員会補助金			⑩		
	③	県更生保護協会負担金			⑦				⑪		
	④	保護司会補助金			⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	人権相談開設日数	日	目標	22	22	22	22	22	令和2年5～7月（6/1特設相談含む）は新型コロナウイルス感染症の影響により相談中止、8月以降は感染症対策に配慮しながら相談所を開設した。	
			実績	22	22	14					
	<指標の計算方法>		市内相談会場 5箇所 及び 6,12月は一斉相談								
	成果指標	人権相談件数	件	目標						身近な人間関係のトラブルからの相談が多く見受けられます。	
			実績	8	3	7					
	<指標の計算方法>		人権擁護委員による相談件数								
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	1,176			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
事業の実績	①人権相談 人権擁護委員による人権相談の実施 相談件数 7件										
	②県人権擁護委員協議会負担金 負担金 357,000円										
	③県更生保護協会負担金 負担金 10,800円										
	④保護司会補助金 補助金 452,000円										
	⑤更生保護女性会補助金 補助金 251,000円										
	⑥人権擁護委員会補助金 補助金 105,000円										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・人権に関する相談支援体制の整備は市が推進する人権施策の基本方針であるため、市が積極的に関与していくことが妥当です。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・人権侵害のない安心して生活できる社会を目指すためにも、人権相談や関係団体と協力・連携することが有効です。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
・複雑・多様化する人権問題の解決に取り組むため、また地域の実情に見合った事業を展開するため、関係団体への支援を行うことで、協力・連携を図っています。											

事務事業の概要	事務事業名		男女共同参画推進事業			担当課	人権施策推進課		事業区分	ソフト事業		
	会計		一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	474
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 社会福祉費				施策目標	1	人権尊重			
		目	11 人権推進費				基本施策	1	人権が尊重された差別のない社会の実現			
事業概要		市民の男女共同参画意識の醸成を図るために、啓発活動や研修会の開催を行う事業										
事務事業を構成する細事業		①	女性会議運営		⑤				⑨			
		②	女性会議補助金		⑥				⑩			
		③			⑦				⑪			
		④			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	成果指標	市の行政機関等における委員会等の女性登用率	目標	35	35	35	35	35	前年度並み			
			実績	14.3	14.3	14.3						
	<指標の計算方法>		市で設置している審議会・委員会委員の総数に対する女性の割合									
	成果指標	研修会等の参加者数	目標	50	50	50	50	50	新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度の活動は自粛した。			
			実績	44	54	0						
	<指標の計算方法>		紀の川市女性会議が開催する研修会に参加した人数（延べ人数）									
	活動指標	啓発活動	目標	2	2	2	2	2	例年市内店舗にて啓発物資を配布していたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、6月と11月に市役所内で啓発物資を設置する事により、啓発活動に替えた。			
			実績	2	2	2						
	<指標の計算方法>		県と合同で実施する啓発活動の回数									
活動指標	研修会の開催回数	目標	2	2	2	2	2	新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度の研修会は自粛した。				
		実績	2	2	0							
<指標の計算方法>		紀の川市女性会議が開催した回数										
コストの実績	R 2年度決算額（単位：千円）			財源内訳								
	67			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		67	
事業の実績	①女性会議運営 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から研修会は中止 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から啓発活動については、市役所内への設置配布で実施											
	②女性会議補助金 補助金 67,000円											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がややある									
		・男女共同参画社会に対する理解の浸透につながる啓発等を市が積極的に実施する必要がありますが、男女共同参画社会の実現には、市民や女性団体が主体的に活動を実施していくことが妥当です。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・女性活躍推進法などの法制度が整えられ、共働きの増加等、女性の社会進出が進み、少しずつ社会が変化し男女共同参画社会が形成されつつありますが、今後も市民一人ひとりの理解や意識改革へ浸透させる様に働きかけていく必要があります。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・女性の社会進出が進んだ結果、働く女性が増え、女性が社会的活動に参加する時間的・体力的な余裕がなくなっている。											

事務事業の概要	事務事業名	隣保館運営事業			担当課	人権施策推進課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	685	
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 社会福祉費				施策目標	1	人権尊重			
		目	11 人権推進費				基本施策	1	人権が尊重された差別のない社会の実現			
事業概要	市民の生活や文化の向上につなげるために、各種教室の開催や相談業務等を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	隣保館運営			⑤	県隣保館連絡協議会負担金			⑨			
	②	隣保館施設管理			⑥				⑩			
	③	地域交流業務			⑦				⑪			
	④	県社会福祉協議会負担金			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	成果指標	受講者数	人	目標	2,040	2,040	2,040	2,040	2,040	新型コロナウイルス感染症対策により、約2か月間会館の利用を停止し講座開催事業を休止したため、受講者も減少しました。		
				実績	2,162	1,822	1,312					
	<指標の計算方法>		古和田会館・井阪文化会館における各教室の受講者数(延べ人数)									
	活動指標	各教室開催数	回	目標	180	180	180	180	180	新型コロナウイルス感染症対策により、約2か月間会館の利用を停止し講座開催事業を休止したため、教室開催数も減少しました。		
実績				180	172	144						
<指標の計算方法>		古和田会館・井阪文化会館における各教室の開催数										
成果指標	健康増進機器利用者数	人	目標	7,700	7,700	7,700	7,700	7,700	新型コロナウイルス感染症対策により、約2か月間会館の利用を停止したため、利用者数が減少しました。			
			実績	6,809	6,799	5,472						
<指標の計算方法>		古和田会館・井阪文化会館における健康増進機器の利用者数(延べ人数)										
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	12,716			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	84 3,104		
事業の実績	①隣保館運営 ・各種相談事業 職業相談の実績 古和田会館 10回 0件 井阪文化会館 10回 0件 ・「会館だより」の発行 (年4回) 6月 132部 9月 140部 12月 150部 3月 155部			※古和田会館 書道 : 10回 69人 太極拳 : 21回 364人 ストレッチ : 20回 104人 男性料理 : 10回 71人 女性料理 : 10回 95人 健康教室 : 10回 174人 クッキング : 7回 50人 英会話教室 : 10回 92人			・他の行政機関との連携を図る ⑤県隣保館連絡協議会負担金 ・隣保館事業についての調査研究及び情報交換					
	②隣保館施設管理 ・古和田会館・井阪文化会館洗面台蛇口自動水栓修繕 古和田会館 (7ヶ所) 583,000円 井阪文化会館 (4ヶ所) 316,800円			※井阪文化会館 編み物 : 11回 58人 料理 : 9回 54人 手芸 : 9回 53人 クッキング : 7回 60人 子ども硬筆 : 10回 68人			・健康増進機器の利用者数 ※古和田会館 3,271人 ※井阪文化会館 2,201人					
事業の事後評価	③地域交流業務 ・各種教室を開催			④県社会福祉協議会負担金								
	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・隣保館は部落差別をはじめとするあらゆる人権問題の解決に向けて、人権啓発の推進、周辺地域との交流や相談事業、各種事業を展開していくことが目的であるため、市が運営していくことが望ましい。										
有効性	評価結果	改善の余地がややある										
	・新型コロナウイルス感染症対策のため、貸館業務を停止したことにより、今年度の利用者は減少しましたが、年々増加傾向にあります。 ・今後も受講者のニーズに合わせ、利用者の増加に繋がる啓発活動を展開していく必要があります。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・隣保館事業については、補助金を活用することで効率的に行われています。 ・住民のニーズが多様化する中、効果的・効率的な運営に心がけ、コストの削減を図りながら新たな事業を展開していく必要があります。											

事務事業の概要	事務事業名	人権施策基本方針改定事業		担当課	人権施策推進課			事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計		新規・継続	完了	事業期間	期間限定複数年度 (R1～R2)		事業番号	1122		
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営				
		項	1	社会福祉費		施策目標	1	人権尊重				
		目	11	人権推進費		基本施策	1	人権が尊重された差別のない社会の実現				
事業概要	すべての人の人権が尊重される豊かなまちを実現するため人権施策基本方針の改定を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	人権に関する市民意識調査			⑤				⑨			
	②	人権施策基本方針の改定			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	指標の分析		
	成果指標	人権に関する市民意識調査の有効回答率	%	目標		100	0	0	0	令和元年度に実施済み		
				実績		42.5	0					
	<指標の計算方法>		有効回答数/発送数									
	成果指標	人権に関する市民意識調査報告書の印刷部数	部	目標		300	0	0	0	令和元年度に実施済み		
				実績		300	0					
	<指標の計算方法>		人権に関する市民意識調査報告書の印刷納品部数									
成果指標	人権施策基本方針二次改定	部	目標		0	500	0	0	令和2年度に人権施策基本方針の二次改定を行いました。			
			実績		0	500						
<指標の計算方法>		人権施策基本方針二次改定の印刷納品部数										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R2年度決算額 (単位:千円)			財源内訳								
	1,813			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	1,813		
事業の実績	①人権に関する市民意識調査 ・令和元年度に実施済 ・報告書作成済											
	②人権施策基本方針の改定 ・令和元年度に実施した市民意識調査の結果を参考に、人権施策推進懇話会において協議(5回)を行い、パブリックコメントを実施し、人権施策基本方針〔第二次改定版〕を作成しました。(500部)											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・紀の川市人権尊重のまちづくり条例により、人権施策の総合的な推進を図る基本方針を定めるとなっているため、市が実施することが妥当です。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・意識調査の結果を参考に基本方針を策定しており、その取り組み状況の調査も継続して実施しています。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・諮問機関である人権施策推進懇話会からの意見をもとに基本方針の二次改定を実施しました。											

事務事業の概要	事務事業名	児童相談・虐待防止事業			担当課	こども課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	708	
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育				
		項	2 児童福祉費				施策目標	1 子育て環境・保育サービス				
		目	1 児童福祉総務費				基本施策	1 子育て環境・体制の整備、支援				
事業概要	児童への虐待を防止するために、家庭児童相談・支援、防止啓発を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	児童相談	⑤					⑨				
	②	児童虐待防止対策	⑥					⑩				
	③	子育て支援プログラム	⑦					⑪				
	④	要保護児童支援ネットワーク事業	⑧					⑫				
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	要保護児童支援ネットワーク会議	回数	目標	7	7	7	7	7	年度当初に、新型コロナウイルス感染症の影響もあり会議のスタートは例年に比べ約2か月遅れの開催となったが、感染予防を行いながら、目標回数通りの会議を開催した。		
			実績	7	7	7						
	<指標の計算方法>		会議の開催回数									
	活動指標	児童虐待防止・子育て支援講演会	回数	目標	1	1	1	1	1	新型コロナウイルス感染症の影響で、講演会形式での開催を見送り親子関係の修復を希望している夫婦2組での参加とし、少人数での講話とグループワーク形式で2回開催した。参加後に行動変容が認められた。		
実績			1	1	2							
<指標の計算方法>		講演会の開催回数										
成果指標	子育て支援プログラム(トリプルP)受講者	人	目標	13	13	13	13	13	トリプルPに関しては、プログラムの性質上、最低参加人数の変更が困難であり、また、保護者がプログラムに参加中は託児が必要であったため、新型コロナウイルス感染症の流行の影響で開催できなかった。			
		実績	13	12								
<指標の計算方法>		受講人数										
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
4,923			1,972	280					2,671			
事業の実績	①児童相談 家庭児童相談【保健師3名(内1名は管理職)家庭児童相談員2名の勤務体制は、令和2年7月より、週3日勤務から4日勤務に変更したが、途中約3か月間1人が病気休暇となった。】 新型コロナウイルス感染症の影響もあり、全体に相談件数が増加した。 ・新規相談受理件数 (種別) (人数) 身体的虐待 21人 心理的虐待 65人 性的虐待 0人 ネグレクト 36人 養護相談 101人 保健相談 0人 障害相談 3人 非行相談 0人			育成相談 7人 その他の相談 1人			②児童虐待防止対策 例年であれば、教員や市役所職員、一般向けの講演会を行ったが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の流行のため、子育てについて学び、親子関係の修復を行いたいという希望する夫婦組に対して講話とグループワークのプログラムを年間2回実施した。 ③子育て支援プログラム 新型コロナウイルス感染症の流行のため、実施できなかった。 ④要保護児童支援ネットワーク事業 新型コロナウイルス感染症の流行のため、約2か月遅れのスタートとなったが、ケースの検討を行う実務者会議については予定通り			通りの回数を実施した。		
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・児童福祉法に規定された事業であり妥当性はある。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響があり、集団での対面事業ができなかった。そのため、小集団もしくは個別の対応となった。トリプルPについては、新型コロナウイルス感染症の流行状況にかく乱され、実施するに至らなかった。 ・講演会についても、例年のようなターゲットを絞った中でも多人数に向けた啓発を目的とした活動ができなかったが、逆にニーズが高い保護者への働きかけを行うことができた。												
効率性	評価結果	改善の余地が大きい										
	・集団活動ができず、また、新型コロナウイルス感染症の心配から外出を渋る母子については、リモートでの面接を行った。 ・児童相談の内容も新型コロナウイルス感染症の流行後は変化しており、スーパーバイザーとの事例協議などの機会に、情報提供を受けながら職員同士、スキルアップを図った。 しかし、家庭児童相談員が年度途中に入れ替わり、また令和3年4月からは1名入れ替わることで、新たな人材育成が再度必要になる。											

事務事業の概要	事務事業名	子育て支援事業			担当課	こども課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	704
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育			
		項	2 児童福祉費				施策目標	1 子育て環境・保育サービス			
		目	1 児童福祉総務費				基本施策	1 子育て環境・体制の整備、支援			
事業概要	安心して子育てができる環境整備を図るため、子育て支援センターやファミリーサポートセンターを拠点に、地域の団体や市民と協働で、相談や教室、子どもの送迎や預かり等を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	地域子育て支援センター運営			⑤	ファミリーサポートセンター運営		⑨			
	②	地域子育て支援センター事業補助金			⑥	助産扶助		⑩			
	③	子育てサークル支援補助金			⑦	子ども子育て会議運営		⑪			
	④	子育て短期支援			⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	成果指標	ファミリーサポートセンター登録会員数	人	目標	340	360	400	420	420	母子保健班や保育班と連携し必要な家庭に事業の利用を提案している。令和2年度は年2回開催しているスタッフ養成講座が1回しか開催できなかった。	
			実績	388	431	425					
	<指標の計算方法>		利用会員+スタッフ会員+両方会員								
	成果指標	子育て支援センター年間利用延べ人数	人	目標	10,500	10,600	10,700	10,700	10,700	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、利用時間、組数を制限した運営を行っているため利用延べ人数は減少となっている。	
			実績	12,077	12,216	3,858					
	<指標の計算方法>		子育て支援センター（3箇所）の年間延べ利用人数								
	成果指標	ファミリーサポートセンター利用件数	件	目標	500	530	560	556	556	母子保健班や保育班と連携し必要な家庭に事業の利用を提案している。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で利用件数は減少となっている。	
			実績	627	696	608					
	<指標の計算方法>		ファミリーサポートセンターのサービス利用件数								
成果指標	子育て短期支援事業利用日数	日	目標	28	28	28	28	28	児童相談班、母子保健班と連携し必要な家庭に事業の利用を提案している。提案から利用に繋がっており利用日数が増えた。		
		実績	37	18	36						
<指標の計算方法>		子育て短期支援事業（ショート・ステイ）の利用日数									
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
41,160			10,487	11,850				7,208	11,615		
事業の実績	①地域子育て支援センター運営 子育て支援センター年間延利用者数 ・桃山子育て支援センター 延べ 1,459人 (642組) ・那賀子育て支援センター 延べ 903人 (444組) ・レイモンド子育て支援センター 延べ 1,496人 (723組) ・子育て教室 41回 205組 ・赤ちゃん広場 42回 232組			③子育てサークル支援補助金 2サークルに補助			④子育て短期支援 ・延利用日数 36日			<ul style="list-style-type: none"> ・保育施設までの送迎 171人 ・放課後児童クラブ終了後の子どもの預かり 0人 ・保育施設の休日の預かり 56人 ・未就園児の預かり 244人 ・習い事の送迎 104人 ・その他 15人 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業補助金：50万円×3ヶ所 ・新型コロナウイルスの感染拡大防止を図る事業：感染対策用品を購入し3ヶ所に配布 			⑤ファミリーサポートセンター運営 (会員状況) 〈R3.3月現在〉 利用会員 343人、スタッフ会員 66人 両方会員 16人			(活動状況) ・病児・病児後の預かり 2人 ・宿泊を伴う預かり 0人 ・緊急度の高い預かり 1人 ・緊急度の高い送迎 0人 ・保育施設の保育開始時や終了後の子どもの預かり 15人			⑥助産扶助 経済的に困窮し、健康保険等に加入していない妊婦に対し、出産にかかる費用を公費で負担する制度であるが、今のところ対象者はいない。	
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・地域における子育て支援施策を充実させ、必要なときに安心して利用できる子育て環境や支援活動を充実させるには、市が実施主体となるのは妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・地域における子育て支援活動が広がってきており、子育ての悩みや負担感の軽減に繋がっているため有効性は高い。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・子育て支援センター事業やファミリーサポートセンター事業は市で運営を行うより、事業開始当初から継続して運営を委託している法人へ事業委託するほうが効率的に実施できる。										

事務事業の概要	事務事業名	在宅育児支援事業			担当課	こども課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1098	
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育				
		項	2	児童福祉費		施策目標	1	子育て環境・保育サービス				
		目	1	児童福祉総務費		基本施策	1	子育て環境・体制の整備、支援				
取組方針	1	妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援機能の強化										
事業概要	子育て世帯の経済的負担を軽減し、子どもを安心して生み、育てることができるよう、第二子以降の0歳児の保育を家庭で行う保護者に対し、給付金を支給する事業											
事務事業を構成する細事業	①	在宅育児支援事業給付			⑤			⑨				
	②				⑥			⑩				
	③				⑦			⑪				
	④				⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	給付金支給者	人	目標	130	130	130	130	130	当初見込みに近い申込数であった。		
				実績	122	119	123					
	<指標の計算方法>		受給対象者の申請者数									
	成果指標	給付金実績額	円	目標	11,880,000	11,700,000	9,165,000	9,360,000	9,360,000	1ヶ月15,000円の給付金で合計624ヶ月の支給額である。		
				実績	10,380,000	9,345,000	9,360,000					
	<指標の計算方法>		受給対象者の給付決定合計額（目標額：予算額×60%）									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	9,830			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
事業の実績	①在宅育児支援事業給付 受給対象者から在宅育児支援事業給付の申請受付及び給付 受給者数 新規 76人 継続 47人											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・県が実施する事業であるため、市が実施主体となることは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・在宅で子育てをする世帯に給付金を支給することは、子育て世帯の経済的負担を軽減するため有効性が高い。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・県からの委託金で支出する事業であるため、コスト面での改善の余地がない。											

事務事業の概要	事務事業名	放課後児童健全育成事業			担当課	こども課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	740	
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育				
		項	2 児童福祉費				施策目標	1 子育て環境・保育サービス				
		目	1 児童福祉総務費				基本施策	1 子育て環境・体制の整備、支援				
事業概要	昼間保護者のいない家庭の小学生の健全な育成を図るため、遊びを主とする活動を行う地域組織として児童クラブ（学童保育）を設置し、運営を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	放課後児童健全育成事業運営			⑤				⑨			
	②	放課後児童健全育成施設管理			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	学童保育クラブ数	目標	10	10	10	10	10	粉河地区1クラブ、名手地区1クラブ、打田・桃山・貴志川地区は学校単位に1クラブずつ、合計10クラブ。前年度から変更なし。			
			実績	10	10	10	10					
	<指標の計算方法>		放課後児童健全育成事業の実施箇所数（学童クラブ数）									
	活動指標	年間開設日数	目標	280	280	280	280	280	日祝・盆正月休み以外で開所。新型コロナウイルス感染症対策等で利用者には自粛を要請しているが、学童保育クラブは通常開所している。			
			実績	283	274	279	279					
	<指標の計算方法>		合計年間開設日数 / 10クラブ									
	成果指標	学童保育クラブ入所児童数	目標	505	515	565	590	590	年々申込者が増加。共働き等による学童保育利用のニーズが高い。			
			実績	600	577	592	592					
	<指標の計算方法>		目標値：入所受付時の定員、実績値：3月現在の月極日割合計児童数									
成果指標	障害児受入人数	目標	5	5	5	5	5	毎年、障害児の利用申し込みがある。療育手帳等の認定はされないが、診断書等で支援の必要な児童が増加している。				
		実績	5	4	5	5						
<指標の計算方法>		障害児受入人数										
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	167,897			国庫支出金	39,920	県支出金	42,266	地方債	繰入金	その他	34,440	一般財源
事業の実績	①放課後児童健全育成事業運営 ・児童クラブの年間開設日、月平均児童数 てのひら 290日、86人 太陽の子 269日、60人 粉河アットホームクラブ 286日、65人 チャレンジ児童クラブ 289日、78人 あらかわ放課後児童クラブ 289日、39人 ももやま放課後児童クラブ 286日、22人 こどもくらぶ 287日、70人 ほたるっこ 267日、31人 西貴志こどもくらぶ 283日、60人 丸栖っ子クラブ 240日、25人 ・新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業補助金：申請のあった9ヶ所に交付			・新型コロナウイルスの感染拡大防止を図る事業：飛散防止パーテーション、感染対策用品を購入し10ヶ所に配布 ②放課後児童健全育成施設管理 エアコン設置：あらかわ放課後児童クラブ チャレンジ児童クラブ 伸縮門扉取替：西貴志こどもくらぶ								
	事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・ひとり親家庭の増加や保護者の就労形態の多様化により、年々学童保育のニーズが高まっており、児童の放課後の居場所づくりの観点からも当事業は妥当である。								
有効性		評価結果	改善の余地がない ・全ての支援員が支援員研修等を受講し、近年の傾向や専門知識を習得したうえで保育に携わり、日頃の保育に活かされている。保護者からの要望に対しても適切に対応でき、効果的に事業を実施できている。									
効率性		評価結果	改善の余地がややある ・法人委託することにより、支援員や保護者らの運営業務に係る負担を軽減できる余地はあると考えるが、委託先の選定や委託費の増加も見込まれる。									

事務事業の概要	事務事業名	放課後児童健全育成施設整備事業			担当課	こども課			事業区分	ハード事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	939	
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育				
		項	2 児童福祉費				施策目標	1 子育て環境・保育サービス				
		目	1 児童福祉総務費				基本施策	1 子育て環境・体制の整備、支援				
事業概要	昼間保護者のいない家庭の小学生の健全な育成を図るため、遊びを主とする活動を行う地域組織である児童クラブ（学童保育）施設の整備を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	放課後児童健全育成施設整備			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	成果指標	施設整備学童保育クラブ数	目標	0	1	1	0	0	受入児童拡充を目的とした市内の全学童施設整備を令和2年度で終了した。			
			実績	0	1	1						
	<指標の計算方法>		放課後児童健全育成事業の施設整備実施箇所数（学童クラブ数）									
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
99,385			54,300	13,575	27,000			4,510				
事業の実績	①放課後児童健全育成施設整備 ・学童保育太陽の子施設新設工事 施設概要：木造平屋建 延床 312.00㎡ 3教室											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・学童保育利用者の増加に伴い、受け入れ施設の整備は妥当といえる。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・学童保育施設を新設することにより、安全安心な学童保育環境を整備することができた。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・子ども子育て支援整備交付金を活用し、実施方法は妥当である。											

事務事業の概要	事務事業名		ひとり親家庭支援事業			担当課	こども課		事業区分	ソフト事業		
	会計		一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	739
	予算科目	款	3	民生費		長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	2	児童福祉費			施策目標	1	子育て環境・保育サービス			
		目	1	児童福祉総務費			基本施策	1	子育て環境・体制の整備、支援			
事業概要		市民（ひとり親世帯）が自立した生活を営めるように、就業支援や経済的援助を行う事業										
事務事業を構成する細事業		①	母子生活支援施設措置		⑤					⑨		
		②	母子寡婦福祉連合会補助金		⑥					⑩		
		③	母子家庭自立支援給付		⑦					⑪		
		④			⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	成果指標	母子生活支援施設入所世帯数	世帯	目標	3	3	3	3	3	入所2年を目処に退所に向け、施設において社会的自立に向けた指導及び支援を行っているため世帯数の変動は少ない。		
			実績	3	2	2						
	<指標の計算方法>		母子生活支援施設へ入所措置している世帯数（各年度末）									
	成果指標	母子寡婦福祉連合会 会員数	人	目標	250	250	250	250	250	会員数は年々減少しているが、ひとり親家庭の会員同士の親睦や情報交換等を行い、安定した生活のため自立を目的とした推進活動を行い会員増加に努めている。		
実績			252	242	236							
<指標の計算方法>		年度末会員数										
成果指標	ひとり親家庭自立支援給付金 受給者数	人	目標	6	6	6	6	6	安定した職業への就業を目指し、給付対象講座の受講を希望するひとり親に対しホームページや窓口での説明等で周知に努めている。			
		実績	9	7	6							
<指標の計算方法>		高等職業訓練促進給付金・自立支援教育訓練給付金										
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
17,381			9,813	2,271					5,297			
事業の実績	①母子生活支援施設措置 ・令和元年度末在籍者数 2世帯 5人 ・退所者数 1世帯 2人 ・令和2年度末在籍者数 2世帯 5人											
	②母子寡婦福祉連合会補助金											
	③母子家庭自立支援給付 ・高等職業訓練促進給付金 5件 (支給月数 延べ 58ヶ月) ・自立支援教育訓練給付金 1件 ・ひとり親家庭高等学校卒業程度認定試験合格支援事業 0件											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・近年の母子家庭等を巡る社会状況の変化に対し、母子家庭等の自立を支援できるよう、多様な相談に対応し、自立の促進に繋げているため、現行の実施方法は妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・就業に結びやすい資格を取得するため、養成訓練の受講期間の経済的負担の軽減を目的に給付金として支給することは、母子家庭等への自立を進めるためには有効である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・事業費の大半が扶助費であり、コスト面で改善の余地はない。また、ひとり親家庭への支援という性質から、受益者負担を求めることは適当でない											

事務事業の概要	事務事業名	那賀児童福祉施設組合事業			担当課	こども課			事業区分	一部事務組合	
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	712
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	2	児童福祉費		施策目標	1	子育て環境・保育サービス			
		目	1	児童福祉総費		基本施策	1	子育て環境・体制の整備、支援			
取組方針	4					子育て世帯への経済的負担の軽減					
事業概要	経済的支援を受けることのできない母子家庭の自立を支援するため、生活拠点となる母子生活支援施設を、岩出市と共に組織した那賀児童福祉施設組合で運営管理する事業										
事務事業を構成する細事業	①	那賀児童福祉施設組合負担金			⑤				⑨		
	②				⑥				⑩		
	③				⑦				⑪		
	④				⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	成果指標	入所世帯数	世帯	目標	18	18	18	18	18	相談等あれば慎重に判断し措置をおこなっている。	
				実績	18	16	15				
	<指標の計算方法>		那賀児童福祉施設組合、母子生活支援施設「粉河むつみホーム」の入所世帯数（3月1日現在）								
				目標							
				実績							
	<指標の計算方法>										
				目標							
				実績							
	<指標の計算方法>										
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	1,929			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
								1,929			
事業の実績	①那賀児童福祉施設組合負担金 紀の川市負担率 63.67%										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・紀の川市と岩出市で那賀児童福祉施設組合として運営している事業であるため、負担割での支出は妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・母子生活支援施設は、生活困窮の母子家庭やDV被害者の母子家庭の生活の安定と自立を支援するのに欠かせない施設であり、体制を整え運営を行うために必要な事業である。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・紀の川市、岩出市の負担割合は、【均等割20%、人口割30%、利用数割50%】に両市の人口割と、施設の利用割合を乗じた金額で両市が負担し、施設組合の運営を行っているため、効率性については妥当である。										

事務事業の概要	事務事業名	育児臨時特別支援給付金給付事業		担当課	こども課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	新規	事業期間	期間限定複数年度 (R2～R3)		事業番号	1159	
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	2	児童福祉費		施策目標	1	子育て環境・保育サービス			
		目	1	児童福祉総務費		基本施策	1	子育て環境・体制の整備、支援			
取組方針	0	*****									
事業概要	新型コロナウイルス感染症の影響により日常生活等が制約される状況下で出産を迎え、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中で育児という様々な不安等を抱えることとなる産婦及びその家族への臨時的支援策として、国の特別定額給付金支給の基準日後に出生した子どもを養育する者に給付金を給付することを目的とする。										
事務事業を構成する細事業	①	育児臨時特別支援給付金給付			⑤				⑨		
	②				⑥				⑩		
	③				⑦				⑪		
	④				⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	指標の分析	
	活動指標	給付金支給件数	人	目標							目標は設定しない。 令和2年4月28日から令和3年3月31日までに生まれ、住民登録された者に11万円を支給
		実績					241				
	<指標の計算方法>		支給実績報告の支給者数								
		目標									
		実績									
	<指標の計算方法>										
	目標										
	実績										
<指標の計算方法>											
	目標										
	実績										
<指標の計算方法>											
コストの実績	R2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	26,551			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	2,551	
事業の実績	①育児臨時特別支援給付金給付 支給者数 241人 給付金額 26,510,000円										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		国が実施する事業であるため、市が実施主体となることは妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
新型コロナウイルス感染症の影響下、育児という様々な不安等を抱えることとなる産婦及びその家族への臨時的支援策として、給付金を給付することは効果的である。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	事業実施機関にも期限があるため、現状の事業実施の手順方法が最適である。										

事務事業の概要	事務事業名	子ども医療費助成事業		担当課	国保年金課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	
	予算科目	款	3 民生費		長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心		
		項	2 児童福祉費			施策目標	2	健康・医療		
		目	2 子ども医療費			基本施策	2	地域医療体制・医療サービスの充実		
取組方針	3		福祉医療費助成の実施							
事業概要	市民（子育て世代）の経済的負担を軽減し、受診機会の拡大を図るために、条例等に基づき医療費の助成を行う事業									
事務事業を構成する細事業	①	受給資格管理		⑤				⑨		
	②	子ども医療費給付		⑥				⑩		
	③			⑦				⑪		
	④			⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析	
	活動指標	一人あたりの医療費助成額	目標						医療費助成額の減少に伴い、一人あたりの医療費助成額が減少した。	
			実績	28,080	29,864	22,540				
	<指標の計算方法>		医療費助成額÷受給対象者数							
	活動指標	受給対象者数	目標						前年度と比較して減少している。	
			実績	6,851	6,658	6,551				
	<指標の計算方法>		年度末受給対象者数							
活動指標	医療費助成額	目標						前年度と比較して減少している。要因としては新型コロナウイルス感染症の影響により、受診回数が減ったためと考えられる。		
		実績	192,374	198,836	147,662					
<指標の計算方法>		年間医療費助成額								
<指標の計算方法>										
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳						
	155,433			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	
			31,634		90,000		33,799			
事業の実績	①受給資格管理 ・受給対象者数			就学児						
	未就学児(入院・通院助成) 2,538人 就学児(入院・通院助成) 4,013人 内小学生 2,620人 内中学生 1,393人 総受給対象者(合計) 6,551人			(入院) 49件 2,677,412円 (外来) 21,091件 43,356,091円 (歯科) 8,511件 26,753,862円 (調剤) 9,042件 15,648,697円 (その他) 1,107件 2,100,662円 (戻入) △ 177,867円 (合計) 39,800件 90,358,857円						
②子ども医療費給付 ・療養給付内訳			総合計 70,485件 147,661,849円							
未就学児			(入院) 230件 8,215,122円 (外来) 17,917件 32,281,272円 (歯科) 4,144件 8,091,213円 (調剤) 8,321件 8,401,616円 (その他) 73件 370,342円 (戻入) △ 56,573円 (合計) 30,685件 57,302,992円							
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない							
		・市条例及び県要綱に基づき行う事業であり、受給対象者の自己負担を扶助することで、安心して医療機関を受診してもらうことができるため、子どもの福祉の向上と子育て支援の観点から妥当な事業である。								
	有効性	評価結果	改善の余地がない							
・医療費扶助は、子育て世帯の経済的負担の軽減につながっており、子どもの福祉の向上と子育て支援の観点から有効な事業である。										
効率性	評価結果	改善の余地がない								
	・受給対象者が窓口で負担する自己負担分について、医療機関から保険者負担分と自己負担分を合わせて国保連合会又は社会保険診療報酬支払基金に対して診療請求し、保険者から一括して支払う効率的な事務に努めている。また、大量印刷物（受給者証の区分更新）の印刷、封入作業などを外部委託しており、事業効率の改善については余地がない状況である。									

事務事業の概要	事務事業名	ひとり親家庭医療費助成事業			担当課	国保年金課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	45	
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心				
		項	2	児童福祉費		施策目標	2	健康・医療				
		目	3	ひとり親家庭医療費		基本施策	2	地域医療体制・医療サービスの充実				
取組方針	3	福祉医療費助成の実施										
事業概要	市民（ひとり親家庭）の経済的負担を軽減し、受診機会の拡大を図るために、条例等に基づき医療費の助成を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	受給資格管理			⑤					⑨		
	②	ひとり親家庭医療費給付			⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	一人あたりの医療費助成額	円	目標						医療費助成額の減少に伴い、一人あたりの医療費助成額が減少した。		
				実績	38,949	41,454	34,780					
	<指標の計算方法>		医療費助成額÷受給対象者数									
	活動指標	受給対象者数	人	目標						前年度と比較して減少している。		
				実績	1,515	1,478	1,425					
	<指標の計算方法>		年度末受給対象者数									
	活動指標	医療費助成額	千円	目標						前年度と比較して減少している。要因としては新型コロナウイルス感染症の影響により、受診回数が減ったためと考えられる。		
				実績	59,009	61,269	49,562					
	<指標の計算方法>		年間医療費助成額									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
51,611				26,560						25,051		
事業の実績	①受給資格管理											
	<ul style="list-style-type: none"> ・受給対象世帯数 579世帯 ・受給対象者数 1,425人 <li style="padding-left: 20px;">内児童 855人 <li style="padding-left: 20px;">内未就学児 148人 <li style="padding-left: 20px;">内小学生 313人 <li style="padding-left: 20px;">内中学生 170人 <li style="padding-left: 20px;">内高校生 224人 											
事業の実績	②ひとり親家庭医療費給付											
	<ul style="list-style-type: none"> ・療養給付内訳 (入院) 67件 3,476,350円 (外来) 9,294件 23,596,646円 (歯科) 2,371件 9,533,790円 (調剤) 4,299件 10,356,501円 (その他) 1,052件 2,652,159円 (戻入) △53,763円 (合計) 17,083件 49,561,683円 											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・市条例及び県要綱に基づき行う事業であり、受給対象者の自己負担を扶助することで、安心して医療機関を受診してもらうことができるため、福祉の向上とひとり親家庭支援の観点から妥当な事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・医療扶助は、ひとり親家庭の経済的負担の軽減につながっており、福祉の向上とひとり親家庭支援の観点から有効な事業である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・受給対象者が窓口で負担する自己負担分について、医療機関から保険者負担分と自己負担分を合わせて国保連合会又は社会保険診療報酬支払基金に対して診療請求し、保険者から一括して支払う効率的な事務に努めている。また、大量印刷物（受給者証の年次更新）の印刷、封入作業などを外部委託しており、事業効率の改善については余地がない状況である。											

事務事業の概要	事務事業名		児童手当給付事業			担当課	こども課		事業区分	ソフト事業		
	会計		一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	43
	予算科目	款	3	民生費		長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	2	児童福祉費			施策目標	1	子育て環境・保育サービス			
		目	4	児童手当費			基本施策	1	子育て環境・体制の整備、支援			
事業概要		児童を養育する家庭や施設の子育てにかかる経費の負担を軽減し、あわせて児童の健やかな成長に資することを目的に児童手当の給付を行う事業										
事務事業を構成する細事業		①	児童手当給付		⑤					⑨		
		②			⑥					⑩		
		③			⑦					⑪		
		④			⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	児童手当等受給者数	人	目標						性質上、目標は設定しない。少子化により児童手当受給者数は、年々減少している。		
				実績	3,827	3,710	3,606					
	<指標の計算方法>		支給状況報告（一般・施設受給者）の受給者数（2月末現在）									
	活動指標	児童手当等支給対象児童数	人	目標						性質上、目標は設定しない。少子化により児童手当対象児童数は、年々減少している。		
				実績	6,527	6,340	6,201					
<指標の計算方法>		支給状況報告（一般・施設受給者）の支給対象児童数（2月末現在）										
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 （単位：千円）			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
808,020			556,486	124,663						126,871		
事業の実績	①児童手当給付											
	<ul style="list-style-type: none"> ・3歳未満児童受給延べ月数 <ul style="list-style-type: none"> 被用者 8,227月 非被用者 2,044月 特例給付者 237月 ・3歳以上児童受給延べ月数 <ul style="list-style-type: none"> 被用者 35,129月 非被用者 9,798月 特例給付者 1,523月 ・中学生児童受給延べ月数 <ul style="list-style-type: none"> 被用者 12,420月 非被用者 3,286月 特例給付者 780月 											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・児童手当法に基づく法定受託事務であるため、対象者に手当を給付することが妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・子育て世帯への経済的負担の軽減につながっていると見えるので事業の有効性は高い。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・会計年度任用職員の協力、BPO作業委託等、作業効率を改善しているため、効率性については改善の余地はない。											

事務事業の概要	事務事業名	児童扶養手当給付事業			担当課	こども課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	44	
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育				
		項	2	児童福祉費		施策目標	1	子育て環境・保育サービス				
		目	5	児童扶養手当費		基本施策	1	子育て環境・体制の整備・支援				
取組方針	4	子育て世帯への経済的負担の軽減										
事業概要	父または母と生計を同じくしていない児童が育成される家庭の生活の安定と自立を助け、児童の福祉の増進を図ることを目的として児童扶養手当の給付を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	児童扶養手当給付			⑤					⑨		
	②				⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	受給資格者数	人	目標						性質上、目標は設定しない。対象年齢児童数が年々減少しており、受給資格者も年々減少している。		
				実績	591	584	577					
	<指標の計算方法>		福祉行政報告例第61表 (3月末現在)									
	活動指標	受給対象児童数	人	目標						性質上、目標は設定しない。対象年齢児童数が年々減少しており、受給対象児童数も年々減少している。		
				実績	782	770	752					
	<指標の計算方法>		福祉行政報告例第61表 (3月末現在)									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
261,637			87,089							174,548		
事業の実績	①児童扶養手当給付 ・受給資格者数 577世帯 ・受給対象児童数 752人											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・児童扶養手当法に基づく法定受託事務であるため、対象者に手当を給付することは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・ひとり親及びひとり親に準ずる家庭に対する子育ての経済的負担を軽減しているため有効性は高い。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・経費の大半が扶助費であり、コスト面での削減余地はない。											

事務事業の概要	事務事業名	教育・保育施設入所管理事業			担当課	こども課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	743	
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育				
		項	2	児童福祉費		施策目標	1	子育て環境・保育サービス				
		目	6	保育所費		基本施策	2	保育環境の充実				
事業概要	就学前の児童に対し、教育・保育施設への適正な入所管理を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	入所			⑤	第2子以降保育料等無料化			⑨			
	②	支給認定（保育所・幼稚園・こども園）			⑥				⑩			
	③	広域保育			⑦				⑪			
	④	保育料賦課・徴収			⑧				⑫			
指標の実績	活動指標	入所児童数	単位	人	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
			目標	1,650	1,650	1,600	1,600	1,600	少子化により全体では減少気味であるが、0歳から2歳児の低年齢児保育は増加傾向にある。			
	実績	1,669	1,727	1,671								
	<指標の計算方法>		対象児童数（各年3月1日現在）									
	活動指標	広域入所児童数(受託)	単位	人	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
			目標	15	15	15	15	15	受入に余裕のある施設については、他市町村と協議を行い、受入れを進めている。			
	実績	12	11	20								
	<指標の計算方法>		対象児童数（各年3月1日現在）									
	成果指標	待機児童数	単位	人	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
			目標	0	0	0	0	0	保育士の確保と、施設的环境整備を行い、今後も待機児童が生じないよう努める。			
実績	0	0	0									
<指標の計算方法>		対象児童数（各年3月1日現在）										
<指標の計算方法>												
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
		24,501	8,648	4,264						746	10,843	
事業の実績	①入所											
	②支給認定（保育所・幼稚園・こども園）											
	公立保育所 647人											
	私立保育園 727人											
	小規模保育事業所 45人											
認定こども園 252人												
③広域保育												
委託分 33人												
④保育料賦課・徴収												
⑤第2子以降保育料等無料化												
(2子)3歳未満 38人												
(3子以降)3歳未満 70人、3歳以上 176人												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・共働きの世帯の増加により、仕事と子育ての両立を支援するため、保育の実施は妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・児童数は年々減少しているが、低年齢児の受入れを希望する保護者が増えており、希望保育所への年度途中入所ができない可能性がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・地域により入所希望者に差があり、今後保育士確保や定員数の調整について改善の余地がある。											

事務事業の概要	事務事業名	子どものための教育・保育給付事業			担当課	こども課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	750	
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育				
		項	2	児童福祉費		施策目標	1	子育て環境・保育サービス				
		目	6	保育所費		基本施策	2	保育環境の充実				
事業概要	子ども・子育て支援新制度に基づき、私立教育・保育施設に対する財政支援を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	認可業務・指導監査			⑤	私立保育園障害児保育補助金			⑨			
	②	私立保育園運営委託			⑥	延長保育事業補助金			⑩			
	③	地域型保育給付（小規模保育施設）			⑦	病児保育事業補助金			⑪			
	④	施設型給付（認定こども園）			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	私立入所園児数	人	目標	916	1,036	1,036	1,048	1,048	子供の数の減少に伴い民間保育施設の利用者も減少している。		
				実績	854	1,046	925					
		<指標の計算方法>		対象児童数（各年3月1日現在）								
	活動指標	私立教育・保育施設数	園	目標	9	10	10	10	10	民間保育施設数が維持できている。		
				実績	9	10	10					
		<指標の計算方法>		対象施設数								
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 （単位：千円）			財源内訳								
	1,021,476			国庫支出金	459,571	県支出金	219,749	地方債	繰入金	その他	40,307	一般財源
事業の実績	①認可業務・指導監査 ・認可施設 粉河保育園、名手保育園、安楽川保育園、ながやま保育園、山の子共同保育園、未来保育園、ニチイキッズきのかわ保育園、レイモンドこども園、愛の光幼稚園、あおば幼稚園 ・認可外施設 イチゴ保育所、貴志川センター保育室、粉河センター保育室、ひかり保育園、ふたば保育園、そらな保育園			④施設型給付（認定こども園） レイモンドこども園、愛の光幼稚園、あおば幼稚園			⑤私立保育園障害児保育補助金 粉河保育園、名手保育園、安楽川保育園、レイモンドこども園、愛の光幼稚園、未来保育園 対象園児40名			⑥延長保育事業補助金 粉河保育園、名手保育園、ながやま保育園、レイモンドこども園		
	②私立保育園運営委託 粉河保育園、名手保育園、安楽川保育園、ながやま保育園			⑦病児保育事業補助金 粉河保育園、名手保育園			⑧新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金 認可、認可外保育施設 5,458,000円					
	③地域型保育給付（小規模保育施設） 未来保育園、山の子共同保育園、ニチイキッズきのかわ保育園											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・市内児童数が減少しているが、民間保育施設での受け入れ数は、安定しており妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・民間保育施設の安定運営を図ることにより、園児の安定した受け入れ人数が確保出来ている。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・国の基準に基づき、給付しているため改善の余地なし。											

事務事業の概要	事務事業名	保育所運営管理事業		担当課	こども課			事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	744		
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育				
		項	2	児童福祉費		施策目標	1	子育て環境・保育サービス				
		目	6	保育所費		基本施策	2	保育環境の充実				
取組方針	1	保育サービスの充実										
事業概要	保育所施設の運営維持管理を行い、市民（児童・保護者）が円滑に利用できるよう、保育サービスの提供を行う事業。											
事務事業を構成する細事業	①	保育職員研修・管理育成			⑤	県社会福祉協議会保育士会負担金			⑨			
	②	給食管理			⑥	施設整備			⑩			
	③	送迎バス運行			⑦	備品購入			⑪			
	④	災害共済加入			⑧	子育て通信アプリサービス			⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	保育職員研修	回	目標	1	1	1	1	1	新型コロナウイルス感染症対策のため、今年度、全体では実施せず。		
			実績	1	1	0						
	<指標の計算方法>		実施回数									
	成果指標	子育て通信アプリ登録者数	人	目標	0	200	400	500	600		災害情報や、新型コロナウイルスの情報提供により、登録者は多かった。	
			実績	0	338	728						
	<指標の計算方法>		登録者数（3月末現在）									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 （単位：千円）			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
56,913			2,233					994	53,686			
事業の実績	①給食管理 給食献立システム保守点検			⑧新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金 消毒液、備品購入								
	②送迎バス運行 桃山地区送迎バス運行委託											
	③災害共済加入 日本スポーツ振興センター負担金											
	④県社会福祉協議会保育士会負担金											
	⑤施設整備 施設、器具修繕 90件											
	⑥備品購入 庁用器具購入 21件 機械器具購入 15件											
	⑦子育て通信アプリサービス システム保守、運用											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・児童が安心して過ごすために保育環境の維持管理をし、保育サービスの充実を図るため、妥当性が高い事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・児童福祉法により、市町村は保育を必要とする児童を保育所において保育しなければならないとされており、職員配置や施設整備の実施により安定した児童の受け入れができています。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・施設の老朽化に伴い、年々修繕箇所が増加している。改修内容の検討を行い、限られた予算でより多くの改善を図りたい。											

事務事業の概要	事務事業名	公立保育所保育事業			担当課	こども課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	752
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育			
		項	2 児童福祉費				施策目標	1 子育て環境・保育サービス			
		目	6 保育所費				基本施策	2 保育環境の充実			
事業概要	市民（児童・保護者）に適切な教育・保育を提供するために、各公立保育所が効率的な保育所運営を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	こぼと保育所運営			⑤	東貴志保育所運営		⑨			
	②	なるき保育所運営			⑥	西貴志保育所運営		⑩			
	③	八王子保育所運営			⑦	丸栖保育所運営		⑪			
	④	中貴志保育所運営			⑧			⑫			
指標の実績	活動指標	指標名	単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析 今後、公立保育所の再編、統廃合を進める必要がある。		
		公立保育所数	箇所	目標	8	7	7	7			7
				実績	11	7	7				
		<指標の計算方法>		対象施設数							
				目標							
				実績							
		<指標の計算方法>									
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	354,259			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
				4,173				31,912	318,174		
事業の実績	①こぼと保育所運営 ②なるき保育所運営 ③八王子保育所運営 ④中貴志保育所運営 ⑤東貴志保育所運営 ⑥西貴志保育所運営 ⑦丸栖保育所運営										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
			・公立保育所として利用者のニーズは高く、今後も公立保育所の運営は必要と考える。								
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
		・公立保育所の特徴を活かしながら多様な保育ニーズに対応し、民間保育施設と連携を図りながら積極的に運営を行うことは有効である。									
効率性	評価結果	改善の余地が大きい									
		・施設の統廃合によりコストの削減が見込まれる、打田、貴志川地区においても今後、公立保育所の再編を進める。									

事務事業の概要	事務事業名	粉河地区保育所解体整備事業			担当課	こども課		事業区分	ハード事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度 (R1～R2)		事業番号	1139	
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育				
		項	2	児童福祉費		施策目標	1	子育て環境・保育サービス				
		目	6	保育所費		基本施策	2	保育環境の充実				
取組方針	2	保育施設の整備、充実										
事業概要	粉河地区保育所（長田保育所、川原保育所、竜門保育所、鞆淵へき地保育所）の廃止に伴い、解体整備を行う事業。											
事務事業を構成する細事業	①	粉河地区保育所解体整備			⑤					⑨		
	②				⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	指標の分析		
	成果指標	施設数	施設	目標		0	0	0	0	性質上、目標は設定しない。 閉所保育所敷地内に残る建物の解体を行う。		
				実績		0	4					
	<指標の計算方法>		対象施設数									
		目標										
		実績										
	<指標の計算方法>											
		目標										
		実績										
	<指標の計算方法>											
<指標の計算方法>												
コストの実績	R2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	121,592			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	7,292		
事業の実績	①粉河地区保育所解体整備 川原、長田、竜門、鞆淵の4保育所解体撤去工事											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・建物解体し、更地とすることで新たな活用を行うため妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・解体後の移管先である公共施設マネジメント課と協議を行い、工事に反映させた。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・事前の調査と現場に大きな乖離は無く、改善の余地はない。											

事務事業の概要	事務事業名		児童館管理運営事業			担当課	こども課		事業区分	ソフト事業		
	会計		一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	47
	予算科目	款	3 民生費		長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育				
		項	2 児童福祉費			施策目標	1	子育て環境・保育サービス				
		目	7 児童館費			基本施策	1	子育て環境・体制の整備、支援				
事業概要		児童が児童館を安全で快適に利用できるように、児童館の維持管理を適切に行う事業										
事務事業を構成する細事業		①	西井阪児童館施設管理		⑤				⑨			
		②	粉河児童館施設管理		⑥				⑩			
		③	竜門児童館施設管理		⑦				⑪			
		④	名手児童館施設管理		⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	開館日数	日	目標	900	900	900	900	900	新型コロナウイルス感染症の影響により例年よりも開館日数が減少している。		
				実績	894	880	768					
	<指標の計算方法>		西井阪・粉河・竜門児童館の開館日数計（名手児童館は児童利用がないため除く）									
	成果指標	年間利用者数	人	目標	4,000	4,000	4,000	2,000	2,000	新型コロナウイルス感染症の影響は大きく、児童の利用人数が激減している。		
				実績	4,065	2,120	527					
	<指標の計算方法>		西井阪・粉河・竜門・名手児童館延べ児童利用者数									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	6,001			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
事業の実績	①西井阪児童館施設管理		開館日数	245日								
	・西井阪児童館		利用者(大人)	60人								
			利用者(小人)	237人								
	②粉河児童館施設管理		開館日数	259日								
・粉河児童館		利用者(大人)	2,396人									
		利用者(小人)	232人									
③竜門児童館施設管理		開館日数	264日									
・竜門児童館		利用者(大人)	706人									
		利用者(小人)	58人									
・トイレ修繕、井戸設置工事												
④名手児童館施設管理		開館日数	162日									
・名手児童館		利用者(大人)	2,215人									
		利用者(小人)	0人									
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地が大きい									
		・社会環境や市民ニーズの変化により、公民館的利用がほとんどであり、児童館としての妥当性が低い。地元移管や公民館への移行が必要である。										
	有効性	評価結果	改善の余地が大きい									
・児童の施設利用者が減少し、児童館としての市民ニーズや役割を果たしていない。												
効率性	評価結果	改善の余地が大きい										
	・施設の老朽化が激しく、修繕費がかさむ。今後の利用方法や在り方を決定しなければならない。											

事務事業の概要	事務事業名	子育て世帯臨時特別給付金給付事業		担当課	こども課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	新規	事業期間	単年度のみ		事業番号	934	
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	2	児童福祉費		施策目標	1	子育て環境・保育サービス			
		目	8	子育て世帯臨時特別給付金給付事業費		基本施策	1	子育て環境・体制の整備、支援			
取組方針	9	その他									
事業概要	小学校等の臨時休業等により新型コロナウイルス感染症の影響を受けた子育て世帯を支援する取組の一つとして、低所得者層に限定せずに中間所得者層も含め、児童手当受給世帯に臨時・特別の一時金を支給する事業										
事務事業を構成する細事業	①	令和2年度子育て世帯への臨時特別給付金給付			⑤					⑨	
	②				⑥					⑩	
	③				⑦					⑪	
	④				⑧					⑫	
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	成果指標	給付金支給対象者	目標						性質上、目標は設定しない。4月分児童手当受給者に支給した。公務員は、申請があった方に支給した。		
			実績			4,128					
	<指標の計算方法>		支給実績報告の支給対象者数								
	成果指標	給付金支給対象児童数	目標						性質上、目標は設定しない。対象児童一人につき1万円の支給であった。		
			実績			7,080					
	<指標の計算方法>		支給実績報告の対象児童数								
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	73,153			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
			73,153								
事業の実績	①子育て世帯への臨時特別給付金給付										
	<ul style="list-style-type: none"> ・支給対象者 一般児童手当受給者、施設、里親 3,626人 公務員児童手当受給者 502人 ・支給対象児童数 一般児童手当受給者、施設、里親 6,206人 公務員児童手当受給者 874人 										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・国が実施する事業であるため、市が実施主体となることは妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・新型コロナウイルス感染症の影響を受けた子育て世帯に給付金を支給することは、子育て世帯への経済的負担を軽減するための効率性が高い。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・国からの補助金で支出する事業であるため、コスト面での改善の余地はない。										

事務事業の概要	事務事業名	ひとり親世帯臨時特別給付金給付事業			担当課	こども課		事業区分	ソフト事業				
	会計	一般会計			新規・継続	新規	事業期間	単年度のみ		事業番号	1158		
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育					
		項	2	児童福祉費		施策目標	1	子育て環境・保育サービス					
		目	9	ひとり親世帯臨時特別給付金給付事業費		基本施策	1	子育て環境・体制の整備、支援					
取組方針	9	その他											
事業概要	新型コロナウイルス感染症の影響により、子育てに対する負担の増加や収入の減少等、特に大きな困難が生じている低所得のひとり親世帯を支援する取組として、児童扶養手当受給世帯等に一時金を給付する事業												
事務事業を構成する細事業	①	ひとり親世帯臨時特別給付金給付事業			⑤					⑨			
	②				⑥					⑩			
	③				⑦					⑪			
	④				⑧					⑫			
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	成果指標	受給世帯数	目標							性質上、目標は設定しない。1世帯5万円、第2子以降児童一人3万円の支給。基本給付の再支給も実施。受給拒否者1名以外は、できる限り速やかに支給した。			
			実績				598						
	<指標の計算方法>		事業費実績報告の支給決定者数										
	成果指標	対象児童数	目標									性質上、目標は設定しない。第1子は598人、第2子以降は287人であった。	
			実績				885						
	<指標の計算方法>		事業費実績報告の支給決定者数										
		目標											
		実績											
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源				
		100,127		100,127									
事業の実績	①ひとり親世帯臨時特別給付金給付事業												
	<ul style="list-style-type: none"> 児童扶養手当受給者 517世帯、児童数 762人 給付金：84,550,000円 公的年金給付等受給者 51世帯、児童数 75人 給付金：7,840,000円 家計急変者 30世帯、児童数 48人 給付金：4,080,000円 												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・全額国費の事業で、早急に支給する必要があるため、児童扶養手当受給資格者データのある市が実施主体となることは妥当である。											
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
・新型コロナウイルス感染症の影響により家計が急変したひとり親世帯への給付金は、経済的負担の軽減に有効である。													
効率性	評価結果	改善の余地がない											
	・国から実施要領や支給時期等が示されており、最大限早急な支給に努めており、効率性に改善の余地はない。												

事務事業の概要	事務事業名	生活保護適正実施推進事業			担当課	社会福祉課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	758	
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心				
		項	3 生活保護費				施策目標	3 福祉				
		目	1 生活保護総務費				基本施策	4 生活に困窮している方への支援				
事業概要	市が生活保護制度の適正運用を図るために、調査や審査、システムの運営等を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	生活保護適正実施推進			⑤			⑨				
	②				⑥			⑩				
	③				⑦			⑪				
	④				⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	生活保護受給者の就労支援件数	件	目標	50	55	60	60	60	65歳未満の稼働世帯における、生活保護受給者は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、前年度と比べ減少した。		
			実績	52	58	41						
	<指標の計算方法>		担当職員による延べ件数									
	活動指標	レセプト点検	件	目標						新型コロナウイルス感染症の影響で病院に行く機会が減少したため、レセプト点検枚数が減少している。		
実績			9,266	9,376	9,112							
<指標の計算方法>		延べ点検件数										
活動指標	担当職員の研修会参加	回	目標	5	6	6	6	6	オンラインによる研修に参加した。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、研修会自体が参加できない状態であったので、個々に知識の向上を目指した。			
		実績	6	6	2							
<指標の計算方法>		職員の参加回数										
成果指標	就労支援により自立(保護を廃止)した世帯数	世帯	目標	5	5	5	5	5	新型コロナウイルス感染症の影響があり、就労支援により自立に繋がったケースが1件であった。			
		実績	4	2	1							
<指標の計算方法>		実世帯数										
コストの実績	R 2年度決算額 (単位:千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
13,716			5,826							7,890		
事業の実績	①生活保護適正実施推進			保護廃止 51世帯 74人								
	・生活保護の開始・廃止の状況 (統計基準日における件数の累計)			廃止理由								
保護開始 57世帯 82人			収入増 5世帯									
開始理由			年金収入増 1世帯									
世帯主の傷病 5世帯			他法他施策利用 1世帯									
離婚・世帯分離 4世帯			扶養義務履行 3世帯									
収入の減少 3世帯			他管内転出 12世帯									
失業・倒産 1世帯			辞退届等 9世帯									
仕送りの減少 1世帯			死亡 20世帯									
手持金の減少 33世帯												
職務権限 0世帯												
施設入所等 4世帯			・就労支援件数 41件									
他管内からの転入 6世帯			自立件数 1世帯 1人									
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・法定受託事務であるので、市が実施主体となる。法律に従い適正に業務を遂行できた。 ・本事業の意図は、適正な生活保護運営であり、その対象、手段、意図ともに妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・新型コロナウイルス感染症により、研修会等ができない中、個々での学習を積極的に行い、業務を効率よく遂行することに務めた。 ・専門的な知識を持った職員が増えれば、残業も少なくなり、対象者に応じた相談や支援がスムーズに出来る。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・法に基づく適正な実施により、受益者負担は生じないため、生活保護受給者に不利益が生じないよう、引き続き事業の適正に務める。											

事務事業の概要	事務事業名	生活保護扶助事業			担当課	社会福祉課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	49	
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心				
		項	3	生活保護費		施策目標	3	福祉				
		目	2	扶助費		基本施策	4	生活に困窮している方への支援				
取組方針	1	生活困窮者自立の推進										
事業概要	市民（生活困窮者）の自立を支援するために、生活保護法に基づく扶助費の支給を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	生活保護扶助			⑤					⑨		
	②				⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	人口1千人あたりの生活保護受給者数	人	目標							単身世帯の高齢者の死亡等の増加により、保護廃止が増加し、前年度比1.04倍だったが、1.02倍と微増となった。	
				実績	6.61	6.87	6.99					
	<指標の計算方法>		年度末における人口1千人あたりの生活保護受給者数									
	活動指標	生活保護受給世帯数	世帯	目標							新規開始世帯と廃止世帯ともに増加したため、生活保護受給世帯数は、前年度と比べ3世帯の増加である。毎年増加傾向にある。	
実績				323	332	335						
<指標の計算方法>		年度末生活保護受給世帯数										
活動指標	生活保護受給人員	人	目標							新規開始世帯と廃止世帯ともに増加したため、生活保護受給人員数は、前年度と比べ2人の増加である。生活保護受給世帯数の増加に比例している。		
			実績	403	412	414						
<指標の計算方法>		年度末生活保護受給人員										
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	722,073			国庫支出金	514,123	県支出金	1,944	地方債	繰入金	その他	一般財源	206,006
事業の実績	①生活保護扶助 ・生活保護受給状況（令和3年3月31日） 335 世帯 414 人 人口1千人あたりの生活保護受給者数 6.99人 ・各扶助実施状況 (令和3年3月現在) 生活扶助 277世帯 346人 住宅扶助 216世帯 272人 教育扶助 9世帯 16人 介護扶助 97世帯 99人 医療扶助 303世帯 363人 生業扶助 7世帯 8人 施設事務費 20世帯 20人 (令和2年度分) 出産扶助 1世帯 1人 葬祭扶助 2世帯 2人											
	事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・法定受託事務であるため、市が実施主体となる事業である。								
有効性		評価結果	改善の余地がややある ・法令に基づく運用を実施し、ケースワーカーや就労支援員など専門性を持った人材を活用し、生活保護受給者の生活向上や自立を支援している。 ・専門的な知識を持った職員が増えれば、残業も少なくなり、対象者に応じた相談や支援がスムーズに出来る。									
効率性		評価結果	改善の余地がない ・生活保護業務に関わるケースワーカーは、社会福祉法の基準（保護80世帯にケースワーカー1名）により配置している。									

事務事業の概要	事務事業名	生活困窮者自立支援事業		担当課	社会福祉課			事業区分	ソフト事業	
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	944
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心		
		項	3	生活保護費		施策目標	3	福祉		
		目	3	援助費		基本施策	4	生活に困窮している方への支援		
取組方針	1	生活困窮者自立の推進								
事業概要	市民（生活困窮者）の自立を包括的に支援するとともに、給付金の支給を行う事業									
事務事業を構成する細事業	①	生活困窮者支援			⑤				⑨	
	②				⑥				⑩	
	③				⑦				⑪	
	④				⑧				⑫	

指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	生活困窮者相談	件	目標	20	20	20	20	20	新型コロナウイルス感染症の影響により、生活困窮者の相談件数が前年度に比べ大幅に増加した。その内容の多くは、生活福祉資金貸付に関する相談であった。	
			実績	8	10	218					
	<指標の計算方法>		相談受付数								
	活動指標	支援プラン作成数	人	目標	5	5	5	5	5		新型コロナウイルス感染症の影響もあり、相談件数のうち、自立に向けて支援を行い支援プランを作成した件数は、5件であった。
			実績	0	2	5					
<指標の計算方法>		支援プラン作成数									
活動指標	住居確保給付金支給件数	件	目標	3	3	3	3	3	新型コロナウイルス感染症により、支給条件が緩和されたこともあり、制度を利用する人が増加した。		
		実績	0	1	9						
<指標の計算方法>		住居確保給付金支給件数									
<指標の計算方法>											

コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)		財源内訳					
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
		4,459	3,635					824

事業の実績	①生活困窮者支援	・相談支援件数 218件		・住居確保給付金の支給 9件	
		生活福祉資金貸付に関すること 203件	就労に関すること 5件	住宅に関すること 10件	65歳未満の離職後2年以内の者であって就労意欲のある者のうち、住宅を喪失または喪失のおそれのある者に対して住居確保給付金を支給するとともに、就労支援を実施することにより、住宅及び就労機会の確保に向けて支援を行う事業。
	・支援プラン作成に至った件数 5件	支援プラン 生活困窮者からの相談を受け、抱えている課題を評価・分析し、そのニーズを把握するとともに、ニーズに応じた支援が、計画的かつ継続的に行われるよう作成するもの。			

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない
		・生活困窮者自立支援法に基づき実施すべき事業である。	
	有効性	評価結果	改善の余地がない
	・法に定める任意事業に取り組むことで支援の幅が広がり、自立に向けた支援計画の実効性が高まる。今後、必要があればその他の任意事業を検討していく。		
効率性	評価結果	改善の余地がややある	
	・他の団体（社会福祉法人等）に事業の一部を委託することで、より質の高い支援の維持と持続性、専門性を持った支援を行うことができ、地域共生社会の実現に向けた総合整備体制を整えていく。		

事務事業の概要	事務事業名		行旅人援護事業			担当課		社会福祉課		事業区分	ソフト事業	
	会計		一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	768	
	予算科目	款	3	民生費		長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心			
		項	3	生活保護費			施策目標	3	福祉			
		目	3	援助費			基本施策	4	生活に困窮している方への支援			
事業概要		行旅人・行旅病人・行旅死亡人へ最低限の援護を行うために、旅費の支給、医療費の支給、葬祭の執行等を行う事業										
事務事業を構成する細事業		①	法定外援助		⑤					⑨		
		②	行旅死亡人対応		⑥					⑩		
		③			⑦					⑪		
		④			⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	行旅人旅費支給件数	件	目標						今年度は1件であった。平均1~2件である。		
			実績	2	1	1						
	<指標の計算方法>		行旅人旅費支給件数									
	活動指標	行旅死亡人等取扱件数	件	目標	0	0	0	0	0	行旅病人取扱件数が1件あった。		
			実績	1	0	1						
<指標の計算方法>		行旅病人・行旅死亡人取扱件数										
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	16			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			16									
事業の実績	①法定外援助 ・行旅人に対して、最低限の旅費を支払う。 旅費支給件数 1件											
	②行旅死亡人対応 ・行旅中、住所不明者が病気で倒れ、又は死亡した時は、救護、葬祭を行う。 行旅病人取扱件数 1件 行旅死亡人葬祭件数 0件											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・目的の地まで旅行する者で旅費や食費に困窮している者（行旅人）については、法外援護金（行旅人旅費）取扱要綱を、旅行中病気等により医療費の支払いに困窮している者（行旅病人）については、生活保護法を、市内で身元不明のまま発見された者（行旅死亡人）については、行旅病人及び行旅死亡人取扱法に、それぞれ基づく事業である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない ・行旅人、行旅病人、行旅死亡人の対応の必要がある場合は、人道的見地から対象者の福祉を優先的に考え、救護及び火葬を効果的にやっている。									
	効率性	評価結果	改善の余地がない ・当該事業はいつ発生するか予測がつかないものであるため、案件が発生した時に担当者は、効果的に事務をすすめており、コスト面では行旅死亡人に遺留品があれば、法に基づき取扱い費用に充当することになっている。									

事務事業の概要	事務事業名	災害被害者援護事業			担当課	社会福祉課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	52	
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心				
		項	4	災害救助費		施策目標	3	福祉				
		目	1	災害救助費		基本施策	1	地域福祉の仕組みづくりと推進				
取組方針	3	相談支援体制の整備と充実										
事業概要	市民（災害被害者）の経済的負担を軽減するために、家屋の被害調査と見舞金の支給を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	災害見舞金支給			⑤					⑨		
	②	災害救助法事務			⑥					⑩		
	③	災害義援金			⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	災害見舞金取扱件数	件	目標						火災のみの1件であった。		
				実績	16	2	1					
	<指標の計算方法>		年間取扱件数									
	活動指標	災害見舞金支給率	%	目標						火災見舞金の対象世帯には迅速に支給することができた。		
				実績	100	100	100					
<指標の計算方法>		支給件数/対象件数										
活動指標	義援金箱設置場所数	箇所	目標						令和2年7月豪雨、トルコ西部地震の災害義援金箱を市役所本庁、各支所、出張所の窓口に設置し、義援金を受付、送金した。			
			実績	6	6	6						
<指標の計算方法>		本庁（1）、各支所（4）、出張所（1）										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	48			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		48	
事業の実績	①災害見舞金支給 ・火災1件 ②災害救助法事務 災害に対して国に応急的に必要な救助を行ってもらうために、被害状況を把握し、県に適用申請を行う。 ・令和2年度 実績なし ③災害義援金 令和2年7月豪雨災害義援金箱を設置し、義援金を受付、送金する。 2020トルコ西部地震災害義援金箱を設置し、義援金を受付、送金する。											
	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・火災のみの災害であり、対象世帯に見舞金を配布できた。 ・地震や風水害等の災害により被災した住家の被害の程度を、国が示している判断基準法に基づき認定を行う。 ・災害による被害規模の把握、罹災証明書の交付が目的であり、被災者の早期生活再建のため、迅速に認定業務を行う必要があり、改善の余地はない。										
有効性	評価結果	改善の余地がない										
	・災害の発生や規模は年によって異なるので、一概に他年度との比較はできない。 ・国が示している判断基準に基づき認定を行い、速やかに見舞金を支給している。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・軽度の被害者に対する市独自の支援について検討する余地がある。 ・専門性を持った人材、職員の確保が難しい。また研修のみで、実際に住家被害認定業務をしたことがない職員が多いため、人員の確保、班配置などの体制づくりが必要である。											

事務事業の概要	事務事業名	医療体制整備事業		担当課	健康推進課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	776	
	予算科目	款	4	衛生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心			
		項	1	保健衛生費		施策目標	2	健康・医療			
		目	1	保健衛生総務費		基本施策	2	地域医療体制・医療サービスの充実			
取組方針	1	地域医療体制の充実									
事業概要	市民が安心して医療を受けられるように、医療機関、関係機関と医療体制の整備、構築を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	災害時医療（医薬品備蓄）			⑤	那賀救急医療対策協議会負担金			⑨		
	②	新型インフルエンザ等対策			⑥	那賀歯科医師会負担金			⑩		
	③	献血			⑦	小児救急医療支援事業負担金			⑪		
	④	県救急医療情報システム負担金			⑧				⑫		
指標の実績	成果指標	年間献血受付者数	単位	人	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析 新型コロナウイルス感染症の影響で、大学やイベント会場等での献血が実施できなくなった結果、献血箇所数の減少に伴い受付者数が減少した。	
			目標		2,500	2,500	2,500	2,500	2,500		
		実績		2,191	2,339	1,912					
		<指標の計算方法> 年間の献血の受付者数									
	活動指標	年間献血箇所数	単位	箇所	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析 新型コロナウイルス感染症の影響で、大学やイベント会場等の例年献血を実施していた場所で献血が実施できなかった結果、献血箇所数が減少した。	
			目標		64	67	67	60	60		
		実績		68	60	48					
		<指標の計算方法> 年間の献血実施箇所数									
			目標								
			実績								
	<指標の計算方法>										
		目標									
		実績									
	<指標の計算方法>										
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)		財源内訳								
	3,728		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	3,728		
事業の実績	①災害時医療（医薬品備蓄） 医療救護所用医薬品期限切れ対応他			金							
	②新型インフルエンザ等対策 オゾン水生成の乾燥剤等の入替を実施			⑦小児救急医療支援事業負担金 公立那賀病院の休日などの小児二次救急にかかる小児科医師の人員費の負担金							
	③献血 合計人数 1,682人 200cc 58人 400cc 1,624人										
	④県救急医療情報システム負担金 救急医療体制を情報面から支援するための救急医療情報システム運営負担金										
	⑤那賀救急医療対策協議会負担金 紀の川市、岩出市における救急体制の整備及び円滑な運営を目的とした会の運営負担金										
	⑥那賀歯科医師会負担金 休日の歯科救急診療にかかる人員費の負担										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・広域的に地域医療体制の充実及び救急医療体制を構築し、市民が安心して健康に暮らせるように進めていく必要がある。 ・献血事業については、血液センターが事業者として実施しており、市は場所の確保、広報活動、粗品の提供、表彰事務等が主な業務であり、日赤奉仕団の協力は得られるものの、生命と直結する血液を集める業務は、救急医療体制のひとつであり、公的にも取り組む必要がある。								
	有効性	評価結果	改善の余地がややある ・令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、大学やイベント等の例年献血を行っていた場所での献血が実施できなかった結果、献血箇所数と受付者数の減少に繋がった。引続き、献血会場の安全性や血液の必要性を伝えることで、1カ所当たりの受付者数の減少を抑え、献血人数の維持に努める必要がある。 ・献血の箇所数が減ることは、献血者数の減少に繋がるため、さらなる若い世代への献血の必要性の啓発をし、箇所数を増やしていく必要がある。								
	効率性	評価結果	改善の余地がややある ・今後もより安全・安心な医療体制を構築するためには、この体制を維持できるよう、医師会や医療機関との連携に努めていく必要がある。また、救急医療の整備に伴う負担金の内容についても、医療体制の充実を図るため、関係市とで協議を図っていく必要がある。								

事務事業の概要	事務事業名		いのち支える自殺対策推進事業				担当課		健康推進課		事業区分	ソフト事業
	会計		一般会計				新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	1128
	予算科目	款	4	衛生費				長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心	
		項	1	保健衛生費					施策目標	2	健康・医療	
		目	1	保健衛生総務費					基本施策	1	健康づくりと疾病予防	
	事業概要		誰も自殺に追い込まれることのない社会を実現するため、自殺者の防止、自死遺族等の支援を行う事業									
事務事業を構成する細事業		①	推進体制の確立				⑤				⑨	
		②	人材の養成及び確保				⑥				⑩	
		③	啓発及び教育の充実				⑦				⑪	
		④					⑧				⑫	
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	成果指標	自殺者数	人	目標						コロナ禍の影響か、さまざまな支援（相談体制）はあるものの自殺者数が例年より上回った。		
			実績		6	16						
	<指標の計算方法>		人口動態統計 選択死因別死亡数									
	活動指標	職員研修受講率	%	目標			65	65	65	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、紀の川市いのち支える自殺対策担当委員を対象者に研修を行った。		
			実績			92.5						
<指標の計算方法>		受講者・理解度等										
活動指標	紀の川市いのち支える自殺対策担当委員会開催回数	回	目標			1	1	1	各課から主任級以上の職員を選出し、自殺対策担当委員を設けたことにより、自殺対策を全庁的に取り組むための体制づくりができた。			
		実績			1							
<指標の計算方法>		年間開催回数										
成果指標	協議会開催回数	回	目標		2	2	1	1	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、書面決議を実施した。			
		実績		2	1							
<指標の計算方法>		協議会開催予定回数										
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	426			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	215		
事業の実績	<p>①推進体制の確立 ・新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、本部会は開催せず、協議会は書面決議とした。 ・各課の既存事業に生きる視点を加えた基本施策及び重点施策について、各課に実施内容の進捗確認を実施</p> <p>②人材の養成 ・紀の川市いのち支える自殺対策担当委員研修 (R2. 11. 25) 講師：大谷邦朗氏 内容：(1) 職員の意識改革 (2) 体制づくり (職場環境からの改善) 出席人数：37人</p> <p>③啓発 ・9月週間→広報紀の川9月号開催 ・3月月間→ホームページ掲載、メール配</p>											
	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		行政のみならず、地域の関係団体や組織・学校・企業・市民らが連携・協働し、包括的に推進するため妥当である。										
有効性	評価結果	改善の余地がややある										
	主任級以上の職員を選出し、各課に自殺対策担当委員40人を設け、全庁的に取り組むための仕組みづくりが出来た。紀の川市いのち支える自殺対策計画P22`24の基本施策及び重点的な取組について、自殺対策担当委員に各課で取り組んでいる実施内容を進捗確認シートを用いて報告いただくことにより、本計画の趣旨を理解することができ、自殺対策は包括的な支援であると意識改革することができる。											
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	紀の川市いのち支える自殺対策計画に基づき推進しており、現状の実施方法が最適である。											

事務事業の概要	事務事業名	公立那賀病院経営事務組合事業			担当課	健康推進課			事業区分	一部事務組合		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し			事業番号	1073
	予算科目	款	4	衛生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心				
		項	1	保健衛生費		施策目標	2	健康・医療				
		目	1	保健衛生総務費		基本施策	2	地域医療体制・医療サービスの充実				
取組方針	1	地域医療体制の充実										
事業概要	市民が安心して医療を受けられるように、公立那賀病院の運営に参画する事業											
事務事業を構成する細事業	①	公立那賀病院経営事務組合負担金			⑤				⑨			
	②	病院運営の審査事務			⑥				⑩			
	③	一部事務組合定例会（議会）			⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	成果指標	入院患者数(全体)	単位	人	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
			目標	95,000	95,000	95,000	95,000	95,000	入院患者数(全体)は新型コロナウイルス感染症の影響を受け激減した。			
	実績	88,400	91,317	79,399								
	<指標の計算方法>		公立那賀病院へ入院された市民(紀の川市・岩出市、管外)の年間患者数(延)									
	成果指標	外来患者数(全体)	単位	人	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
			目標	125,000	125,000	125,000	125,000	125,000	外来患者数(全体)は新型コロナウイルス感染症の影響を受け激減した。			
	実績	123,675	121,508	105,445								
	<指標の計算方法>		公立那賀病院へ外来通院された市民(紀の川市・岩出市、管外)の年間患者数(延)									
	成果指標	入院患者数(紀の川市)	単位	人	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
			目標	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	入院患者数(紀の川市)は新型コロナウイルス感染症の影響を受け激減した。			
	実績	44,527	46,170	38,262								
	<指標の計算方法>		公立那賀病院へ入院された紀の川市民の年間患者数(延)									
成果指標	外来患者数(紀の川市)	単位	人	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
		目標	66,000	66,000	66,000	66,000	66,000	外来患者数(紀の川市)は新型コロナウイルス感染症の影響を受け激減した。				
実績	65,023	62,622	54,389									
<指標の計算方法>		公立那賀病院へ外来通院された紀の川市民の年間患者数(延)										
コストの実績	R 2年度決算額 (単位:千円)			財源内訳								
	618,815			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	618,815		
事業の実績	①公立那賀病院経営事務組合負担金・紀の川市と岩出市の負担割合等を精査し支出した。											
	紀の川市負担率 57.86%											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・公立那賀病院は那賀保健医療圏域において唯一の総合病院であり、地域医療の確保に大きな役割を果たしている。県が策定する地域医療構想を基に効率的かつ質の高い医療提供体制を構築することが求められるなかにあつて、負担は妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・公立那賀病院は、地域に安心を与える財産であることから、有効性において改善の余地はない。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・岩出市とともに共同で適正に業務の処理ができており、効率性において改善の余地はない。											

事務事業の概要	事務事業名	那賀休日急患診療所経営事務組合事業			担当課	健康推進課			事業区分	一部事務組合		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1074	
	予算科目	款	4	衛生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心				
		項	1	保健衛生費		施策目標	2	健康・医療				
		目	1	保健衛生総務費		基本施策	2	地域医療体制・医療サービスの充実				
事業概要	市民が安心して医療を受けられるように、休日急患診療所の運営に参画する事業											
事務事業を構成する細事業	①	那賀休日急患診療所経営事務組合負担金			⑤	岩出市との連絡調整			⑨			
	②	一部事務組合定例会（議会）運営			⑥	那賀医師会との連絡調整			⑩			
	③	那賀休日急患診療所経営事務の審査			⑦				⑪			
	④	那賀休日急患診療所新築			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	成果指標	診療所利用者数(紀の川市民・岩出市民)	人	目標	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	受診者数について、新型コロナウイルス感染症の影響により、目標値の5分の1、前年値の4分の1となった。		
				実績	1,699	1,729	412					
	<指標の計算方法>		休日、祝祭日及びインフルエンザ流行期の土曜日を追加した夜間に一次救急として利用される市民(紀の川市・岩出市)の診療所年間利用者数									
	成果指標	診療所利用者数(紀の川市民)	人	目標	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	紀の川市民の受診者数について、新型コロナウイルス感染症の影響により、目標値の6分の1、前年比の4分の1となった。		
				実績	963	898	204					
	<指標の計算方法>		休日、祝祭日及びインフルエンザ流行期の土曜日を追加した夜間に一次救急として利用される紀の川市民の診療所年間利用者数									
	活動指標	診療所開設の広報掲載回数	回	目標	12	12	12	12	12	診療所の診療時間及び電話番号を市広報誌(毎月)に掲載して案内できている。		
実績				12	12	12						
<指標の計算方法>		診療所開院期間及び時間の案内を紀の川広報等を利用した啓発回数										
活動指標	夜間診療の開設日数	日	目標	40	40	40	40	40	インフルエンザの流行に合わせて、夜間診療を実施する日数で、ほぼ横ばいに推移している。			
			実績	35	36	31						
<指標の計算方法>		インフルエンザ等流行期の土曜日・日曜日・祝祭日(年末年始含む)の夜間診療開設日数										
コストの実績	R 2年度決算額(単位:千円)			財源内訳								
	16,804			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			16,804									
事業の実績	①那賀休日急患診療所経営事務組合負担金 ・那賀休日急患診療所経営事務組合の運営に対し負担金を支出した。 紀の川市負担率 54.44%			た。 ⑥那賀医師会との連絡調整 ・休日急患診療所の運営に関して、那賀医師会長と連絡を密にし、那賀医師会との連絡調整を図った。								
	②一部事務組合定例会(議会)運営 ・年2回の組合議会に事務局員として出席し、議案について説明を行った。 ③那賀休日急患診療所経営事務の審査 ・那賀休日急患診療所経営事務組合事務局として、診療所運営に係る予算及び決算を精査し、両市財政部局の予算ヒアリングにおいて説明を行った。 ④那賀休日急患診療所新築 ⑤岩出市との連絡調整 ・休日急患診療所の運営について、組合加入市である岩出市と必要な情報の共有を図つ											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・那賀休日急患診療所は、休日の一次救急において大きな役割を担っており、市民が安心して生活する上で必要不可欠なサービスである。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・公立那賀病院の二次救急の負担軽減につながっている。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・病院群輪番制を所管する那賀広域事務組合との統合が実現すれば、だれもがいつでも必要な医療を受けることのできる体制を強化することができる。また、専属の職員を採用し、組合事務を執り行うことにより、事務の効率化を図ることができる。											

事務事業の概要	事務事業名		那賀広域事務組合事業			担当課		健康推進課		事業区分	一部事務組合		
	会計		一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1075	
	予算科目	款	4	衛生費		長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心				
		項	1	保健衛生費			施策目標	2	健康・医療				
		目	1	保健衛生総務費			基本施策	2	地域医療体制・医療サービスの充実				
取組方針	2	救急医療体制の充実											
事業概要		市民が安心して医療を受けられるように、那賀広域事務組合の運営に参画する事業											
事務事業を構成する細事業		①	那賀広域事務組合負担金		⑤					⑨			
		②	病院群輪番制運営の審査事務		⑥					⑩			
		③			⑦					⑪			
		④			⑧					⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析				
	成果指標	病院群輪番制病院利用者数(全体)	人	目標	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	二次救急の病院群輪番制利用者数(全体)は新型コロナウイルス感染症の影響を受け減少した。			
				実績	970	856	579						
	<指標の計算方法>		病院群輪番制病院の年間利用者数(紀の川市・岩出市・他地区)										
	成果指標	病院群輪番制病院利用者数(紀の川市)	人	目標	500	500	500	500	500	二次救急の病院群輪番制利用者数(紀の川市民)は新型コロナウイルス感染症の影響を受け減少した。			
実績				450	393	278							
<指標の計算方法>		病院群輪番制病院の年間利用者数(紀の川市)											
活動指標	病院群輪番制病院数	医院	目標	6	6	7	7	6	公立那賀病院を含む那賀地域(紀の川市・岩出市)の6病院輪番制で二次救急に対応している。				
			実績	6	6	6							
<指標の計算方法>		病院群輪番制病院の数											
				目標									
				実績									
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 2年度決算額(単位:千円)			財源内訳									
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源				
4,798									4,798				
事業の実績	①那賀広域事務組合負担金 ・病院群輪番制による休日及び祝祭日の二次救急医療提供のため、負担金の支出を実施した。 紀の川市負担率 55.48%												
	②病院群輪番制運営の審査事務 ・病院群輪番制病院数(6) ・病院群輪番制参加医療機関 (1)公立那賀病院 (2)医療法人 殿田会 殿田胃腸肛門病院 (3)医療法人 富田会 富田病院 (4)医療法人 共栄会 名手病院 (5)社会医療法人 三車会 貴志川リハビリテーション病院 (6)医療法人 稲穂会 稲穂会病院												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・病院群輪番制は那賀保健医療圏域における休日の二次救急医療確保に必要不可欠であり、市費による負担(負担金)は妥当である。											
	有効性	評価結果	改善の余地がややある										
・那賀保健医療圏域の6病院の参加により輪番制を運営している。参加医療機関については、今後さらに産科・小児科の増加を図りたいものの、医療機関の設備の担保や医師の負担などの面において課題があり、安易に改善できるものではない													
効率性	評価結果	改善の余地がない											
	・病院群輪番制は那賀保健医療圏域における休日の二次救急医療確保に必要不可欠であり、単に効率性だけを求めることはできない。												

事務事業の概要	事務事業名	母子健康管理事業			担当課	こども課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	781
	予算科目	款	4 衛生費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育			
		項	1 保健衛生費				施策目標	1 子育て環境・保育サービス			
		目	2 母子保健費				基本施策	1 子育て環境・体制の整備、支援			
事業概要	妊産婦、乳幼児が健康で安心して子育てできるよう支援するために、乳幼児健診や妊健康相談、産婦健康診査、訪問指導等を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	妊産婦健診助成			⑤					⑨	
	②	乳幼児健診・訪問指導			⑥					⑩	
	③	母子健康手帳交付			⑦					⑪	
	④				⑧					⑫	

指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	乳幼児健診受診率	%	目標	97	98	98	98	98	新型コロナウイルス感染症のため、健康診査等の実施が不規則となり対象者数、受診者数、受診率に影響が出たが感染対策のもと可能なかぎり実施し、受診率低下を最小限に留めた。		
				実績	96.6	98	96.8					
	<指標の計算方法>		乳幼児健診受診者 / 乳幼児健診対象者									
	成果指標	乳幼児健診において子育てに支援を要する子ども家庭の件数	件	目標	350	340	330	320	310		新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、健康診査等の実施が不規則となりアンケート実施にも影響が出たため目標値を下回った。	
				実績	338	308	248					
<指標の計算方法>		すこやか親子アンケートに基づく子育てに支援を要する子ども家庭の件数										
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												

コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)		財源内訳					
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	47,934		1,688	338				45,908

事業の実績	①妊婦健診助成 ・妊婦健診 受診件数 6,637件 受診実人数 467人 ・妊婦歯科健診 受診件数 90件	④ブックスタート 絵本配布 307件 (内133件は新型コロナウイルス感染症対策による4か月児健診中止のため郵送等で配布)
	②産婦健診助成 ・産婦健診 受診件数 432件 受診実人数 286人	⑤母子健康手帳交付 326件
	③乳幼児健診・訪問指導 ・乳幼児健診 対象者数 1,135人 受診者数 1,102人 受診率 96.8% ・訪問指導 妊産婦 372件 乳児 367件 幼児 62件	

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない 自治体関与が求められる法定対象の事業で妥当性がある。市独自の対象についても社会環境の変化に対応しており市以外が実施主体になりえない事業である。
	有効性	評価結果	改善の余地がややある 健診受診率が高水準で推移しており、子育て環境の把握や支援について有効な手段であることは明白であり、現水準を維持していくためには、保健師等の専門性を持った人材の確保や現有職員の技術向上を図ることでより有効性を高めることができる。
	効率性	評価結果	改善の余地がややある 今後の出生数や支援の必要な子ども家庭の推移を考慮すると、社会環境の変化や規則・要綱に基づいて適正に業務の処理ができるよう事務処理手順の見直しが必要がある。 また専門性を持った人材の確保の上、技術向上を図ることでより効率性を高めることができる。

事務事業の概要	事務事業名	母子保健医療給付事業			担当課	こども課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	857
	予算科目	款	4	衛生費	長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	1	保健衛生費		施策目標	1	子育て環境・保育サービス			
		目	2	母子保健費		基本施策	1	子育て環境・体制の整備、支援			
取組方針	1	妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援機能の強化									
事業概要	未熟児、疾病のある子どもが安心して医療を受けられるように、医療費、日常生活用具の給付を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	未熟児養育医療給付			⑤					⑨	
	②	小児慢性特定疾病児童日常生活用具給付			⑥					⑩	
	③				⑦					⑪	
	④				⑧					⑫	

指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	未熟児養育医療給付件数	件	目標	25	25	25	25	25	公費負担医療である未熟児養育医療での治療が必要な新生児等が対象となるため、治療を受けるために必要となる公費負担医療の申請件数のみでの指標となり指標にばらつきがある。 小児慢性特定疾病受療者が日常生活において生活用具の給付が必要な児を対象としているため、対象者からの申請件数のみでの指標となり、指標にもばらつきがある。	
				実績	19	18	15				
	<指標の計算方法>		未熟児養育医療給付件数								
	成果指標	小児慢性特定疾病児童日常生活用具給付件数	件	目標	2	2	2	2	2		
				実績	0	1	0				
	<指標の計算方法>		小児慢性特定疾病児童日常生活用具助成件数								
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											

コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)		財源内訳					
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	1,970	1,127	349				210	284

事業の実績	①未熟児養育医療給付 給付実人員 7人 医療給付件数 15件	
	②小児慢性特定疾病児童日常生活用具給付 給付実績なし	

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない 国及び県制度に基づく事業である。
	有効性	評価結果	改善の余地がない 公費負担医療の制度である。
	効率性	評価結果	改善の余地がない 公費負担医療の制度であり、事業内容の改善余地はなく、事務手順についても件数が少ないため、改善は困難である。

事務事業の概要	事務事業名	母子健全育成事業			担当課	こども課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	782	
	予算科目	款	4	衛生費	長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育				
		項	1	保健衛生費		施策目標	1	子育て環境・保育サービス				
		目	2	母子保健費		基本施策	1	子育て環境・体制の整備、支援				
取組方針	2	地域の連携による子育て支援体制の充実										
事業概要	乳幼児とその保護者が健やかに成長し安心して子育てできるように、親子教室、発達相談等を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	親子教室	⑤					⑨				
	②	発達相談	⑥					⑩				
	③	小児成育医療支援	⑦					⑪				
	④	母子保健推進員活動の補助	⑧					⑫				
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	親子教室参加率	目標	35	36	37	37	37	新型コロナウイルス感染症の影響による教室開催回数の減少に伴い、対象者を絞り込んだことで、参加率が上昇した。			
			実績	39.7	41.3	50.5						
	<指標の計算方法>		親子教室参加者数 / 親子教室述べ対象者数									
	成果指標	発達相談利用者延べ人数	目標	270	320	330	300		新型コロナウイルス感染症の影響により、相談回数が減少した。			
			実績	310	330	305						
	<指標の計算方法>		発達相談利用者の延べ人数									
成果指標	母子保健推進員訪問率	目標	90	91	92	90		新型コロナウイルス感染症の影響に伴い活動自体を休止していることから、本年度における実績は無し。				
		実績	88	93.9								
<指標の計算方法>		出生世帯訪問数 / 出生世帯数										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	8,559			国庫支出金	455	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	8,104	
事業の実績	①親子教室 1歳児 参加延べ人数 204人 2歳児 参加延べ人数 155人											
	②発達相談 新規相談数 111件 継続相談数 194件											
	③小児成育医療支援 新規相談件数 5件 継続相談件数 51件											
	④母と子の健康づくり運動協議会負担金 県研修会等への参加											
	⑤母子保健推進員補助金 本年度実績無し											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		法に基づく乳幼児健診後のフォローアップ事業の位置づけであり、市以外が実施主体となり得ない事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
新型コロナウイルス感染症対策のため一部の事業開催が不可能となったものの、支援を要する対象者が安心して利用できるよう環境整備を行い、感染防止対策を徹底した上で専門的な人材を活用して目標事業を遂行し支援水準が低下しないように取り組む必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	事業に係る相談記録や文書作成等の事務的業務については、既存システムの活用等による効率化の検討が必要である。											

事務事業の概要	事務事業名	不妊治療助成事業			担当課	こども課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	835	
	予算科目	款	4	衛生費	長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育				
		項	1	保健衛生費		施策目標	1	子育て環境・保育サービス				
		目	2	母子保健費		基本施策	1	子育て環境・体制の整備、支援				
取組方針	1	妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援機能の強化										
事業概要	市民が安心して不妊治療を受けられるように、不妊治療に要する費用の一部の助成を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	一般不妊治療費助成金			⑤					⑨		
	②	特定不妊治療費助成金			⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	一般不妊治療費助成申請数	件	目標	35	35	35	35	35	治療を受ける時期等にも個人差があることから指標の増減にはばらつきがあるが、本年は概ね目標値を達成できた。		
				実績	45	27	35					
	<指標の計算方法>		一般不妊治療費の助成申請件数									
	活動指標	特定不妊治療費助成申請数	件	目標	30	30	30	30	30	前年実績では目標値を大きく上回っている。制度改正により所得制限や回数制限が緩和されたことにより治療機会が増加した。		
				実績	34	25	57					
	<指標の計算方法>		特定不妊治療費の助成申請件数									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
5,780				491					5,289			
事業の実績	①一般不妊治療費助成金 助成件数 35件											
	②特定不妊治療費助成金 助成件数 57件											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		国・県・市で各自財源負担しながら実施している事業であり、市が実施すべき事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
不妊治療の治療費軽減により、少子化対策としても有効な事業である。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	助成費用については、県費対象分と市単独分とがありコスト効率は考えにくい。申請手続きについて、入力業務の委託などの検討余地はある。											

事務事業の概要	事務事業名	子育て世代包括支援センター運営事業			担当課	こども課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1030	
	予算科目	款	4 衛生費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育				
		項	1 保健衛生費				施策目標	1 子育て環境・保育サービス				
		目	2 母子保健費				基本施策	1 子育て環境・体制の整備、支援				
事業概要	子育て世代包括支援センターは、母子保健法改正により法的名称が「母子健康包括支援センター」となり、平成32年度末までに全国の市区町村に設置することが努力義務とされた。妊産婦・乳幼児等の状況を継続的・包括的に把握し、妊産婦や保護者の相談に保健師等の専門職が対応するとともに、必要な支援の調整や関係機関と連絡調整するなどして、妊産婦や乳幼児への切れ目ない支援を提供することで、育児不安や虐待の発生を予防することを目的とした事業である。具体的には妊娠届出時の全件個室面談等で妊産婦等の全数把握と継続支援を行っている。											
事務事業を構成する細事業	①	子育て世代包括支援センター運営			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	妊娠届出時の妊婦アンケートに基づく妊婦の心身等の状況把握率	目標	98	99	100	100	100	妊娠届出時が状況把握の第一歩となるため、妊娠届出時に全ての妊婦に面談による状況把握を行うことのできた。			
			実績	100	100	100						
	<指標の計算方法>		妊婦アンケート時の面談数 / 妊娠届出数									
	成果指標	妊産婦・乳幼児への支援・相談件数	目標	400	500	550	570	570	新型コロナウイルス感染症による社会不安のため、相談件数が増加した。			
			実績	422	869	1,143						
<指標の計算方法>		子育て世代包括支援センターが実施した妊産婦・乳幼児への支援・相談等の件数										
成果指標	産後の産婦・乳児に係る訪問率	目標	90	95	98	98	98	新型コロナウイルス感染症対策により、訪問機会が制限されるなか、徹底的な対策をとることで、概ね目標値の訪問率を維持した。				
		実績	91.5	96.9	97.3							
<指標の計算方法>		助産師・保健師による訪問数 / 出生した世帯数										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	13,114			国庫支出金	5,839	県支出金	2,769	地方債	繰入金	その他	一般財源	4,506
事業の実績	①子育て世代包括支援センター運営			・デイサービス型 利用人数 0人 利用回数 0回								
	妊娠届出時の面談数 326件 妊娠届出（転入）時の面談数 26件 相談件数 電話（着） 270件 電話（発） 406件 来所相談 467件 産前産後サポート事業 訪問相談 17件 プレバパママ教室（妊婦教室） 参加者数（組） 43組 産後ケア事業（宿泊型、デイサービス型） ・宿泊型 利用者数 1人 利用日数 7日											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		法定事業であり、市区町村に全国展開が努力義務とされている。市以外が実施主体となり得ない事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
有効性の評価方法について、健やか親子21アンケート（全国統一項目）を用いた評価に留まっているため、利用者の満足度や問題解決できたか等の結果評価を追加する等の有効性に関する評価方法について改善の余地がややある。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	すべての事業従事者の専門性と知識や技術の向上及び対人援助技術や関係機関との調整能力等を向上することで、利用者の育児不安などの問題解決に繋がることから、従事者全員が研修を受講する機会を設定する点で改善の余地がややある。											

事務事業の概要	事務事業名	感染症対策事業			担当課	健康推進課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	54	
	予算科目	款	4 衛生費			長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心			
		項	1 保健衛生費				施策目標	2	健康・医療			
目		3 予防費			基本施策		1	健康づくりと疾病予防				
目				取組方針	2		疾病予防、重症化予防対策の充実					
事業概要	市民の感染症の予防、拡大防止につなげるために、予防接種の実施、予防接種に対する助成を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	子どもの予防接種			⑤	予防接種受診勧奨		⑨	予診票再発行業務			
	②	高齢者の予防接種			⑥	予防接種歴入力、確認および支払い事務		⑩	予防接種補助金事務			
	③	風しん追加的対策事業			⑦	予防接種検討委員会		⑪	予防接種副反応報告			
	④	風しんワクチン接種緊急助成事業			⑧	医療機関、岩出市との調整		⑫	食中毒、感染症の注意報対応			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	成果指標	MR2期の接種率	目標	95	95	95	95	95	国の示す95%の接種率を上回ることができた。新型コロナウイルス感染症の影響下ではあるが、従来からの感染症に対しても、流行が起きないように、引き続き95%の目標を掲げて進めていく必要がある。			
			実績	97.4	95.6	97.2						
	<指標の計算方法>		接種率の計算方法：接種者数/対象者数									
	成果指標	2種混合(DT)の接種率	目標	85	85	85	85	85	蔓延を防ぐとされている85%の接種率を上回ることができた。新型コロナウイルス感染症の影響下ではあるが、従来からの感染症に対しても、流行が起きないように、引き続き85%の目標を掲げて進めていく必要がある。			
			実績	93	91.7	92.8						
<指標の計算方法>		接種率の計算方法：接種者数/対象者数										
<指標の計算方法>												
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
341,348			110,623	517		50,000		180,208				
事業の実績	①子どもの予防接種 各種予防接種実施状況			高齢者インフルエンザ	20,298	14,571	⑨予診票再発行業務 ・195件 ⑩予防接種補助金事務 ・感染症予防事業費等補助金、風しんワクチン接種緊急助成事業補助金 ⑪予防接種副反応報告 ・なし ⑫食中毒、感染症の注意報対応 【食中毒】・市広報掲載 2回・メール配信 3回 ・防災行政無線放送 3回 【感染症】・日本脳炎ワクチン供給量減少のお知らせを子育て支援アプリから配信 ・新型コロナウイルス感染防止のため、イベントや窓口業務等のための消毒剤を配布、また、市内全世帯(26,426世帯)へマスク(1,321,300枚)を配布。 ・発熱者等避難所での感染予防として段ボール・ティッシュ等を購入。 ・新しい生活様式にかかる感染症対策として子ども用マスクや高濃度アルコール等を購入。 ・インフルエンザ任意予防接種費用助成に関するお知らせを各戸配布し、助成(17,648件)					
	予防接種名 対象者数(人) 接種者数(人)			高齢者肺炎球菌	2,774	888						
BCG 355 307			③風しん追加的対策事業	対象者数(人) 受検(接種者数)(人)								
MR1期(麻しん、風しん) 353 343			風しん抗体検査	6,283	1107							
MR2期(麻しん、風しん) 465 452			風しん第5期予防接種	427	371							
4種混合(百日せき、ジフテリア、破傷風、不活化ポリオ) 1,418 1,312			④風しんワクチン接種緊急助成事業	申請者 140人 接種者 102人								
2種混合(DT) 519 482			内訳：・妊娠を希望する女性 49名(うち3名償還払い) ・妊婦の夫 53名	⑤予防接種受診勧奨								
日本脳炎 2,362 1,947			・MR2期、2種混合(DT) 勧奨通知 3回	⑥予防接種歴入力、確認および支払い事務								
ヒブ 1,418 1,285			・日本脳炎2期勧奨通知 1回	⑦予防接種検討委員会・令和3年2月18日実施								
小児用肺炎球菌 1,418 1,267			・高齢者インフルエンザ勧奨通知 1回	⑧医療機関、岩出市との調整								
子宮頸がん 274 67			・子育て支援アプリによる自動接種お知らせ	・随時、那賀医師会長、医療機関、岩出市								
水痘 706 699												
B型肝炎 1,065 917												
ロタウイルス 388 307												
※子宮頸がんはH25年6月から積極的勧奨の差し控え												
②高齢者の予防接種 各種予防接種実施状況												
予防接種名 対象者数(人) 接種者数(人)												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・予防接種については、国の定期接種の指針に基づいて行っている。感染症の蔓延を防ぐことが必要なため、市が実施することは妥当だと言える。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない ・成果指標、MR2期とDTの接種率について、目標を達成できた。接種勧奨への継続的な取組や新型コロナウイルス感染症の影響下での感染症対策に対する意識の高まりにより、前年度を上回る接種率となったと考えられる。従来からの感染症についても、流行が起きないように、引き続き95% (MR2期) 及び85% (DT) の目標を掲げて進めていく必要がある。									
	効率性	評価結果	改善の余地がない ・予防接種で防げる感染症については、国からの通知等に基づき、新型コロナウイルス感染症の影響により予防接種の機会を逃した方を対象とした特例措置を実施するなど、接種機会の確保に努めることができた。									

事務事業の概要	事務事業名	新型コロナウイルスワクチン接種事業			担当課	健康推進課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	新規	事業期間	期間限定複数年度 (R2～R3)		事業番号	1166	
	予算科目	款	4	衛生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心				
		項	1	保健衛生費		施策目標	2	健康・医療				
		目	3	予防費		基本施策	1	健康づくりと疾病予防				
取組方針	2	疾病予防、重症化予防対策の充実										
事業概要	市民の新型コロナウイルス感染症による重症化を防ぐために、接種体制の整備を行い、接種を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	接種体制整備			⑤					⑨		
	②				⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	指標の分析		
	活動指標	集団接種協力医療機関	箇所	目標					26	できるだけ多くの医療機関に参加いただくよう働きかけているが、集団接種に協力していただける那賀医師会紀の川班の医療機関は半数程度である。		
				実績								
	<指標の計算方法>		集団接種協力医療機関数 (那賀医師会紀の川班54医療機関中の協力医療機関数)									
	活動指標	個別接種協力医療機関	箇所	目標					27	個別接種に協力していただける医療機関を増やすために、煩雑な受付事務や接種実績報告などを市が代行し、医療機関での手続き等を簡素化しているが、協力医療機関数は不十分である。		
				実績								
	<指標の計算方法>		個別接種協力医療機関数 (那賀医師会紀の川班54医療機関中の協力医療機関数)									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R2年度決算額 (単位:千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			24,653	24,653								
事業の実績	令和2年度 事業の実績 包括事務委託 1か所 クーポン券の印刷、郵送 コールセンターの設置 3月29日開設											
	那賀医師会との調整 集団接種、個別接種協力医療機関アンケートの実施 検討委員会の立ち上げ 那賀医師会より医師3名派遣いただく											
	集団接種会場の借り上げ 1か所 (紀の川市民体育館) 4月22日から 木、土の午後、日曜日午前・午後予定											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がややある									
		現在、国の主導により計画しながら実施しており事業の妥当性は高いが、事業は未実施であり、現状では市民のニーズの適切な反映や事業実施内容の検証等が困難である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
国が計画するとおりに進まないことが多く、変更を余儀なくされることもあり、現在想定している方法が目標達成に繋がるかどうかなど不透明な部分が多くある。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	緊急を要する事業であるが、効率性、コストを意識して取り組んでいる。事業を実施しながら改善点が見えれば対応していく。											

事務事業の概要	事務事業名		健康づくり事業		担当課		健康推進課		事業区分		ソフト事業		
	新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し		事業番号		55		
	会計		一般会計		政策目標		1 安全・安心		施策目標		2 健康・医療		
	予算科目		長期総合計画体系		基本施策		1 健康づくりと疾病予防		取組方針		1 正しい生活習慣の定着を図る取組の充実		
事務事業の概要	市民が健康的な生活を送れるように、紀の川市健康増進計画に基づき、地域と連携しながら健康づくりを行う事業												
	① 身体活動向上事業			⑤ 食生活改善推進協議会補助金			⑨						
	② 健康推進員活動支援			⑥ 健康増進計画策定・進行管理			⑩						
	③ 保健師研修・育成			⑦ 健康アドバイザー事業 中学生のがん教育			⑪						
④ 市町村保健師協議会負担金			⑧ 紀の川市ピンクリボンキャンペーン推進本部			⑫							
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析				
	成果指標	食生活改善推進事業参加者数	人	目標	1,650	1,100	1,000	1,000	1,000	新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、活動を大幅に自粛したため。			
			実績	1,014	949	131							
	<指標の計算方法>		食生活改善推進事業の一般参加者の合計人数										
	成果指標	健康増進に係る事業参加者数(チャレンジ100万歩事業)	人	目標	500	500	500	500	500	紀の川飯とコラボ企画を実施し、マップを作成し参加者へ配布等を行い、参加者増加につながった。			
			実績	547	508	623							
<指標の計算方法>		チャレンジ100万歩参加者数											
活動指標	紀の川市民健康づくり11か条(概要版)配布部数	部数	目標	500	500	500			庁内会議で健康増進計画中間評価の実施方法等を決定し、概要版を作成、全戸配布を行い、周知することができた。				
		実績	516	25,450	25,450								
<指標の計算方法>		健康づくり11か条(概要版)配布部数合計部数											
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 2年度決算額(単位:千円)			財源内訳									
	2,074			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	1,985			
事業の実績	①身体活動向上事業 ・健康モニター事業(身体活動量貸出事業)貸出せず。 ・チャレンジ100万歩2020事業 実施期間 令和2年10月(1か月間) 申込者・参加者 146人 623(内目標達成者515人)			④市町村保健師協議会負担金			グッズとしてピンクリボンマスクを作成し、市内協力団体に乳がん検診の啓発・募金の協力を依頼した。						
	②健康推進員活動支援 ・健康推進員登録数 57人 新型コロナウイルス感染拡大にて活動できず。養成講習会も実施なし。			⑤食生活改善推進協議会補助金 ・会員 74人									
③保健師研修・育成 新型コロナウイルス感染拡大により、対面での研修会が中止。 ・Webでの研修会に参加 ・eラーニングによる研修会参加 ・専門書の購入 ・DVD視聴による研修会			⑥健康増進計画策定・進行管理 ・中間評価実施、概要版全世帯に配布			⑦健康アドバイザー事業 中学生のがん教育 ・新型コロナウイルス感染拡大にて、講演会は中止となり、講師の勧めるがん教育教材(DVD,小冊子、著書)を市内中学2年生に配布し、視聴、アンケート調査を実施。							
			⑧紀の川市ピンクリボンキャンペーン推進本部 ・新型コロナウイルス感染拡大にて、各種祭りが中止となり、対面にての乳がん検診受診啓発が出来ず。マスク部会を立ち上げ、啓発										
事業の事後評価	評価結果		改善の余地がない										
	健康づくり事業は、第2次紀の川市健康増進計画に基づく事業であり、市民が健康づくりに関心を持ち、一人ひとりが主体的に健康づくりに取り組むきっかけとなるよう、市全体での環境づくりが重要となるため、市が主体となって実施することは妥当である。												
	評価結果		改善の余地がややある										
有効性		チャレンジ100万歩事業は、少しずつ市民に浸透してきているため、参加者は前年度より増加した。コロナ禍であるが、市民の健康づくりの意識は高まっていることもあり、少人数で参加できるウォーキングに、市民のニーズが反映された結果であった。健康増進計画中間評価による市民アンケートの結果、運動習慣者は、全体的には増加しているが、40代、50代では低値となっている。働き世代の運動習慣を身につける取り組みが今後必要である。											
効率性		チャレンジ100万歩事業は、国保年金課の事業と協働しており、国保年金課の補助金事業を活用しているため、低コストでの実施に繋がっている。また、健康づくりの効果を向上させるためには、健康づくり推進庁内会議において、各課で実施している健康づくり事業の情報交換を行い、市民一人ひとりの健康意識を向上させることが出来るよう調整を行っていく必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名	がん対策事業		担当課	健康推進課			事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	792		
	予算科目	款	4	衛生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心				
		項	1	保健衛生費		施策目標	2	健康・医療				
		目	4	保健事業費		基本施策	1	健康づくりと疾病予防				
取組方針	2	疾病予防、重症化予防対策の充実										
事業概要	市民のがんの予防や早期発見につなげるために、がん検診や受診啓発を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	がん検診			⑤	検診部会運営			⑨	関係機関との業務調整事務および会議		
	②	胃がん検診運営委員会運営			⑥	がん検診受診勧奨			⑩			
	③	胃内視鏡検診二重読影事業			⑦	がん検診結果入力・確認			⑪			
	④	乳がん検診精度管理委員会運営			⑧	がん検診精密検査受診勧奨			⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	集団検診申込者数	人	目標	25,000	25,000	25,000	25,000	25,000	新型コロナウイルス感染症の影響で、人が集まる集団検診での申込者数が減少した。申込みの締切が令和2年2月末であり、新型コロナウイルス感染症の脅威がまだ少なかったことから、大幅な減少には至らなかった。		
				実績	24,781	25,046	23,440					
	<指標の計算方法>		集団検診(胃・肺・大腸・乳がん検診)の申込者数の合計									
	成果指標	集団検診受診者数	人	目標	17,500	17,500	17,500	17,500	17,500	新型コロナウイルス感染症の影響で、個別検診で実施できない肺がん検診のみを集団検診で実施したことから、受診者数が減少した。また、肺がん検診の申込者であっても検診日に来ない者も多かった。		
				実績	17,209	17,691	3,848					
	<指標の計算方法>		集団検診(胃・肺・大腸・乳がん検診)の受診者数の合計									
	成果指標	個別検診受診者数	人	目標	11,500	11,500	11,500	11,500	11,500	新型コロナウイルス感染症の影響で集団検診が肺がん検診のみの実施となったため、個別検診での受診者が増えた。集団検診、個別検診合わせては全体的には減少した。		
				実績	11,601	6,868	9,358					
	<指標の計算方法>		個別検診(胃・大腸・乳・子宮頸がん検診)の受診者数の合計									
成果指標	乳がん検診受診率	%	目標	30	30	30	30	30	新型コロナウイルス感染症の影響で集団検診が中止となった。元来受診者の8割以上が集団検診であるため、個別検診のみとなり、乳がん検診実施医療機関の数が少なく、希望者が全て受診できず大幅に減少した。			
			実績	21.5	20.1	7						
<指標の計算方法>		乳がん検診(集団・個別)の受診率 対象者=対象年齢の全住民										
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	76,721			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	75,864		
事業の実績	①がん検診 〔個別検診〕〔総受診者数、受診率、がん発見者数(疑義含む)〕 ・胃がん検診(40歳以上) 1,631人(4.0%) (3人) ・大腸がん検診(40歳以上) 3,199人(7.9%) (6人) ・乳がん検診(40歳以上) 1,530人(7.0%) (5人) ・子宮頸がん検診(20歳以上) 2998人(11.0%) (3人) (※内280人は妊婦健診で受診) 〔集団検診〕 ・肺がん検診(40歳以上) 3,848人(9.5%) (1人) 喀痰検診(50歳以上・喫煙指数600以上) 136人 ※がん発見者数はR3.6.4時点での把握数 ②胃がん検診運営委員会運営(2回)			③胃内視鏡検診二重読影事業 ・二次読影は、一次検査データを受け取ってからおおむね10日以内に完了できている。 ④乳がん検診精度管理委員会運営(1回) ⑤検診部会運営(4回) ⑥がん検診受診勧奨 広報誌・メール配信にて情報を発信した。 ⑦がん検診結果入力・確認 ・検診受診履歴等をデータベースで経年蓄積管理している。 ⑧がん検診精密検査受診勧奨 (大腸がん未受診者97人に文書送付、その他のがん26人については、電話にて勧奨)			⑨関係機関との業務調整事務および会議 ・検診事業の評価等、関係機関と情報共有を図った。					
	事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない がん対策事業は、健康増進法第19条の2に基づく健康増進事業として市が実施する事業であり、がんによる死亡率を低減させるために全市民に等しく受診機会を提供する必要があるため、市が主体となって実施することは妥当である。								
有効性		評価結果	改善の余地がややある がんの予防、早期発見・治療は身体的負担を軽減するものであり、ひいてはがんによる死亡率の低下につながる。がんによる死亡率を低下させるため、健康増進法により国の指針に基づく対象者に対して実施するものであり、対象者が受診機会に確実に受診するよう勧奨していく必要がある。引き続き受診率の向上に向けた取り組みが求められる。									
効率性		評価結果	改善の余地がない 集団検診は、行政区(旧5町)のそれぞれの地区で実施しているため、受診者への案内準備や会場準備など、職員の事務負担が過剰となっている。また、検診実施にあたり看護師の派遣も依頼することになるため、かかる経費は高額となる。検診会場の集約し実施することがコスト削減につながるが、住民サービスの観点からは疑問が残る。現状維持が望ましい。									

事務事業の概要	事務事業名		成人保健事業			担当課	健康推進課		事業区分	ソフト事業		
	会計		一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	791
	予算科目	款	4	衛生費		長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心			
		項	1	保健衛生費			施策目標	2	健康・医療			
		目	4	保健事業費			基本施策	1	健康づくりと疾病予防			
取組方針	2	疾病予防、重症化予防対策の充実										
事業概要		市民に疾病の予防や早期発見、生活改善を行ってもらうために、検診や相談、健康教室等の開催を行う事業										
事務事業を構成する細事業		①	肝炎ウイルス検診		⑤				⑨			
		②	歯周疾患検診		⑥				⑩			
		③	健康教室・相談		⑦				⑪			
		④	ヘルスアップ健診		⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	成果指標	歯周疾患検診受診率	目標	10	10	10	10	10	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、受診率が低下した。			
			実績	7.1	10.1	7.7						
	<指標の計算方法>		年間歯周疾患検診受診者数/年間歯周疾患検診の対象者数*100									
	活動指標	肝炎ウイルス検診申込者数	目標	2,000	1,800	1,600	1,600	1,600	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、申込者数が減少した。			
			実績	1,545	1,016	872						
	<指標の計算方法>		年間肝炎ウイルス検診申込者数									
	成果指標	肝炎ウイルス検診受診者数	目標	600	600	500	1,000	1,000	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、集団検診が中止になったことにより、集団検診のみの実施であった肝炎ウイルス検診受診者は0となった。			
			実績	511	422							
	<指標の計算方法>		年間肝炎ウイルス検診の受診者数									
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	2,078			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	1,353		
事業の実績	①肝炎ウイルス検診 集団検診中止により、実施できず。											
	②歯周疾患検診 実施期間：R2年4月1日～R3年3月31日 実施場所：県内協力医療機関 自己負担：無料 対象者：40歳、50歳、60歳、70歳 受診率：5.8%(263人)											
	③健康教室・相談 ・実施せず。											
	④ヘルスアップ健診 特定健診との集団健診にて4人											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		国の健康増進法に基づく事業であり、市が実施する事業として妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
		肝がんの原因の8割は、肝炎ウイルスによる感染が原因だと言われており、自覚症状はほとんどない。また、歯周病は、歯を失うだけでなく、生活習慣病を悪化させるなど、全身の疾患と関係する怖い病気であるため、早期発見、早期治療に繋げるためにも有効な事業である。特に、今年度はコロナ感染症の影響により、集団での肝炎ウイルス検診は中止したため、希望者は、県の肝炎ウイルス検診を紹介し、受診の機会を与えるよう周知を行った。歯周疾患検診については、対象年齢が決まっているが、未受診者に対しては、来年度も受診の機会を与えるなど、受診の機会を逃すことのないよう対策を行った。										
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	肝炎ウイルス検診及び歯周疾患検診は、県補助の対象事業であるため、市の支出は軽減されている。											

事務事業の概要	事務事業名	保健福祉センター管理運営事業			担当課	健康推進課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	57	
	予算科目	款	4	衛生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心				
		項	1	保健衛生費		施策目標	2	健康・医療				
		目	5	保健福祉センター費		基本施策	1	健康づくりと疾病予防				
	事業概要	市民が保健福祉センターを安全で快適に利用できるように、施設の維持管理を適切に行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	桃山保健福祉センター維持管理業務			⑤				⑨			
	②	桃山保健福祉センターピーチホール等施設の貸出業務			⑥				⑩			
	③	桃山保健福祉センター各種委託業務			⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	成果指標	集団住民検診（桃山地区）	日	目標	5	5	5	5	5	令和2年度については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、肺がん検診のみとし、桃山地区の集団検診について、貴志川地区に統合して実施したため、桃山保健福祉センターを利用しなかった。		
			実績	5	5							
	<指標の計算方法>		集団検診（桃山地区）の実施回数									
	成果指標	ピーチホールの使用回数	回	目標	110	215	215	215	215	令和2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により、イベント、会議等が中止、自粛となったため、利用回数が大幅減となった。		
			実績	212	265	142						
<指標の計算方法>		ピーチホールの使用回数（午前・午後・夜間：各1回、全日利用：3回）										
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 （単位：千円）			財源内訳								
	11,267			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	4,858 6,409		
事業の実績	①桃山保健福祉センター維持管理業務 建物設備定期検査で要是正となった非常用照明装置の修繕交換の実施 劣化したカーテンの修繕交換の実施 ②桃山保健福祉センターピーチホール等施設の貸出業務 ③桃山保健福祉センター各種委託業務 ・清掃委託業務 ・機械警備委託業務 ・貯水槽清掃等委託業務 ・電気保安管理委託業務 ・冷熱機器設備保守点検委託業務 ・エレベーター保守点検委託業務 ・消防用設備保守点検委託業務 ・防火設備点検委託業務 ・敷地内管理委託業務 ・調理室害虫駆除委託業務 ・特殊建築物設備定期検査委託業務											
	妥当性	評価結果	改善の余地がややある									
		・災害による避難所の役割も兼ねているため、市民が安全で快適に利用できるように、市が施設管理を行うことは妥当であり、社会福祉協議会と光熱水費等の負担割合について協議を行い、市の歳出削減に資する負担割合となる結果を得た。また、施設の利活用について、今後の維持管理を踏まえ、社会福祉協議会及び関係各課と協議を継続していく必要がある。										
有効性	評価結果	改善の余地がややある										
	・桃山保健福祉センターピーチホール等施設の貸出については、新型コロナウイルス感染症拡大により、集団検診が中止となり、また各種団体の会議、研修等も中止となったため、貸出回数が大幅に減となった。 ・施設の老朽化があり、今後も適切な施設環境の提供に努めていく必要がある。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・今後も、施設の老朽化や設備の経年劣化による工事および修繕が増えてくると思われるが、施設の定期検査や設備の保守点検を適切に実施し、施設の維持管理を効率的に進めていくことが重要である。また、施設の一部を使用している社会福祉協議会と協議を進め、施設自体の利活用や各部屋を使用している各種団体等の受益者負担について検討を行うなど、改善の余地があると考え。											

事務事業の概要	事務事業名	環境保全事業		担当課	生活環境課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	804	
	予算科目	款	4 衛生費		長期総合計画体系	政策目標	4 都市基盤・生活環境				
		項	1 保健衛生費			施策目標	2 生活環境・環境保全・循環型社会				
		目	6 環境衛生費			基本施策	1 快適な生活環境の維持				
事業概要	市民に快適な環境の中で生活を営んでもらうために、産業廃棄物処理施設等の設置申請の意見具申やあき地の適正管理の指導、周知、啓発を行う事業										
事務事業を構成する細事業	① 環境保全対策審議会運営		⑤ 空き地管理		⑨						
	② そ族昆虫対策		⑥ 休廃止鉱山鉱害防止等工事補助金		⑩						
	③ 公害対策・発生防止		⑦ 騒音・振動・悪臭対策		⑪						
	④ 温暖化・省エネルギー対策		⑧		⑫						
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	成果指標	空き地管理指導に対する対処件数	件	目標	240	130	130	130	130	対処件数については、令和2年度より指導通知方法を改善し取り組みましたが、前年度に比べ減少した。今後も粘り強く適正管理について指導に努めていく必要がある。	
			実績	191	201	182					
	<指標の計算方法>		指導件数(目標)/対処件数(実績)								
	成果指標	空き地管理指導に対する対処率	%	目標	100	100	100	100	100	対処率については、例年80%前後の対処率となっており、令和2年度より指導通知方法の改善に取り組みましたが対処率の向上には至らなかった。	
			実績	79.58	81.04	78.45					
	<指標の計算方法>		対処件数/管理指導件数								
	活動指標	空き地管理指導件数	件	目標	200	200	200	200	200	例年約240件近くの苦情が寄せられており、減少しない要因として、土地所有者の高齢化、また相続人の市外流出等による管理不足。また、例年同じ場所への苦情も多く、土地所有者の意識改革に努める必要がある。	
			実績	240	248	232					
	<指標の計算方法>		空き地管理指導件数								
活動指標	広報掲載回数	回	目標	3	3	3	3	3	例年通り広報に掲載を行い、啓発を行なっている。		
		実績	3	3	3						
<指標の計算方法>		広報掲載回数									
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	1,435			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	1,435	
事業の実績	①そ族昆虫対策 蜂の防護服貸出状況=40件 (打)22(粉)11(那)0(桃)5(貴)1(軀)1		指導 232件/対処数 182件		⑤休廃止鉱山鉱害防止等工事補助金 (坑廃水処理補助対象経費) 5,907,572円 (紀の川市補助金交付額) 492,000円 (補助率) 国:9/12 県:2/12 市:1/12						
	②公害対策・発生防止 各種苦情対応件数=61件 (大気汚染)10(水質汚濁)9(騒音)3 (悪臭)10(不法投棄)7(動物)15 (土地管理)4(その他)3										
	③温暖化・省エネルギー対策 紀の川市(事業者全体)の年間のエネルギー使用量合計が、1,500kl(原油換算数値)以上であるため。 (定期報告書)・・・国へ提出 (中長期報告書)・・・国へ提出 (排出抑制・計画等報告書)・・・県へ提出										
	④空き地管理 対処率78%										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・市民からの相談により、周辺の生活環境を損なっている土地所有者への改善の指導や、悪臭や騒音等の生活環境を損なう様々な要因に対し、中立の立場から解決を図り、市民がより良い環境で生活できるようにすることは妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
		・土地所有者の方に対する指導や、その他様々な現場に出向き、改善に導くことには有効性があると考えますが、近年土地所有者の高齢化、また、相続人の方の市外流出等により改善が図られない土地もあり、今後、このような土地の管理・対処への指導が課題となる。									
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・土地所有者の方の連絡先が不明な場合も多々あり、指導手段が郵送通知となるため、土地所有者の方に対する通知方法については、「自身が所有する土地は、自己において適正に管理しなければならない」という意識を強く持つてもらうための工夫を図り指導を行っています。しかし、即効性があるとは言い難く、当面は現在の手法を継続し粘り強く指導していく必要があると考える。										

事務事業の概要	事務事業名	地域美化事業			担当課	生活環境課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	809	
	予算科目	款	4	衛生費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	1	保健衛生費		施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会				
		目	6	環境衛生費		基本施策	1	快適な生活環境の維持				
取組方針	2	美しいまちづくりの推進										
事業概要	市民が快適な環境の中で生活を営んでもらうために、市民、行政が連携して地域環境の美化活動を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	都市下水道管理			⑤	地域一斉清掃補助金			⑨			
	②	廃棄物処理（汚泥・死骸）			⑥				⑩			
	③	美化啓発			⑦				⑪			
	④	廃棄物処理負担金			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	成果指標	水路清掃参加世帯数	目標	15,200	15,200	15,200	15,200	15,200	水路清掃参加世帯数は、例年大きな増減はなく横ばいではあるが、今後、少子高齢化により減少傾向が推測される。令和2年度は新型コロナウイルス感染症により、参加世帯の実績値が大幅に減少した。			
			実績	14,038	13,864	7,350						
	<指標の計算方法>		水路清掃参加世帯数									
	活動指標	水路清掃補助件数	目標	130	198	199	199	199	水路清掃補助件数は、毎年水路清掃を実施している自治区が同じであるため横ばい状態にある。また、令和2年度は新型コロナウイルス感染症により参加世帯が減少したため、補助件数の実績値も大幅に減少した。			
			実績	128	123	87						
	<指標の計算方法>		水路清掃補助件数									
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	7,410			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	7,410		
事業の実績	①都市下水道管理 水路清掃 ・粉河駅～紀陽銀行：R2.7.27実施 ・紀陽銀行～天福荘：R2.7.27実施 マンホール会所清掃 ・県道粉河寺線(24か所)：R2.7.27実施 ・市道「小田井線」(34か所)：不実施 ・市道「粉河・井田線」(13か所)：不実施 ※H30からは、マンホール会所部分を隔年で浚渫作業を実施。			③美化啓発 「犬のフン防止看板」や「ごみポイ捨て禁止看板」等を購入し、再発防止と地域環境美化の啓発を行う。			④廃棄物処理負担金 自治区水路清掃から出る土砂について、受託業者の最終処分場が三重県伊賀市及び大阪府和泉市となり、両処分場においては、地方公共団体から搬入される一般廃棄物に対し、環境保全負担金が発生します。 ・伊賀市 (R2年度より) 1,000円/t ・和泉市 (R1年度より) 1,000円/t [令和2年度処理] ・土砂 (183.55t) : 伊賀市へ搬入処分 ・草木 (7.45t) : 和泉市へ搬入処分 ※緊急対応時のために、伊賀市へ粹取り(土砂:350t)の協定を締結している。			⑤地域一斉清掃補助金 ・各自治区水路清掃実施事業 【打田・粉河・那賀】自治区 搬入期間…令和2年4月19日～7月19日 ※年間通し受入可 搬入場所…大栄環境(株) 粉河リサイクルセンター 令和2年度実績=土砂：106.93 t 草：7.45 t 【桃山・貴志川】自治区 搬入期間…令和2年4月26日～5月31日 ※年間通し受入可 搬入場所…(土砂)旧貴桃CC不燃物処理場 (草等)紀の海センター 令和2年度実績=土砂：76.62 t 草：9.63 t ・各自治区水路清掃補助金交付事業 ※1世帯につき、100円の補助を実施(参加世帯数) 7,350 世帯(参加自治区数) 87 自治区		
	②廃棄物処理（汚泥・死骸） ・20kg以上の大型動物死骸処理業務を委託 [処理委託先] 和歌山市西浜 (株)岸化学 令和2年度実績：13頭(猪8頭、鹿4頭、犬1頭) ・休日の動物死骸収集運搬業務及び野焼き苦情現場確認業務を委託 [委託業者] (株)共立メンテナンス 紀の川営業所 令和2年度実績=54回出動(54回処理) ・動物死骸処理：44件											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・各自治区が実施する水路清掃は、地域住民と行政が共にきれいで衛生的なまちづくりを行うための意識共有を目的としていることから、清掃時に生じる土砂、草等は、自治区にて処分することが困難となるため、市が処分費等を支出し支援すると共に水路清掃参加世帯数に応じ補助金を交付することは妥当であるとする。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・当該事業は、各自治区にて実施される水路清掃に対し、参加世帯数に応じ補助金を交付し、衛生的な生活環境への意識革命を促すための事業として位置付けている。 ・今後、高齢化等により清掃が困難となってくる自治区も予想されることから、より官・民の連携を深めるとともに自治区を超えた地域美化・環境保全についても検討する必要があると考える。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・自主的に行われる地域住民の水路清掃活動に対し交付される土砂・草等の処理費及び参加補助金額は、官・民連携による地域美化の活動費であり、また活動実績に応じた補助費用であることから効率的に実施できていると考える。											

事務事業の概要	事務事業名		不法投棄防止事業			担当課	生活環境課		事業区分	ソフト事業		
	会計		一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	815
	予算科目	款	4	衛生費		長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境			
		項	1	保健衛生費			施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会			
		目	6	環境衛生費			基本施策	1	快適な生活環境の維持			
事業概要		市民に自然環境や生活環境の保全された中で生活を営んでもらうために、不法投棄の未然の防止や迅速な回収を行う事業										
事務事業を構成する細事業		①	不法投棄防止啓発・パトロール			⑤				⑨		
		②	不法投棄物撤去・処理			⑥				⑩		
		③	監視カメラ更新			⑦				⑪		
		④				⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	成果指標	不法投棄発見件数	件	目標	250	300	300	300	300	パトロール中の不法投棄物発見件数が減少した要因として、パトロールの実施による成果と考える。		
			実績	212	249	236						
	<指標の計算方法>		不法投棄発見件数									
	活動指標	不法投棄パトロール件数	件	目標	300	450	450	400	400	不法投棄物の減少は、令和元年度からのパトロール件数増加によるものと考ええる。		
			実績	236	277	273						
	<指標の計算方法>		不法投棄パトロール件数									
	活動指標	広報掲載回数	回	目標	3	3	3	3	3	例年通り3回広報掲載を行い、不法投棄防止に努めた。		
			実績	3	3	3						
	<指標の計算方法>		広報掲載回数									
活動指標	監視カメラ更新台数	台	目標	1	1	1			移動式監視カメラについて、当初新規購入1台を予定していたが、県から8台借り受けたため、購入による更新は実施していない。			
		実績	1	1	8							
<指標の計算方法>		監視カメラ更新台数										
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	5,762			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	5,762		
事業の実績	①不法投棄防止啓発・パトロール ・広報による啓発 ・不法投棄防止啓発看板・のぼりを配布 ・会計年度任用職員・課員によるパトロールを実施 ・年2回(6月・12月)、岩出保健所、各支所合同でパトロールを実施。											
	②不法投棄物撤去・処理 ・会計年度任用職員撤去回数・・・207回 ・職員撤去回数・・・29回											
	③監視カメラ更新 ・県から監視カメラを8台借り受けたため、新規購入せず。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・不法投棄は依然として多く、通行の妨げや不法投棄を誘発する可能性のあるものについては早期発見・早期撤去が望ましく、きれいな街づくりのためにこの事業は妥当であると考え。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・不法投棄パトロールを実施することにより、不法投棄の再発を抑制し環境保全が維持できるだけでなく、事故防止、また事件防止にも繋がるため、不法投棄パトロールは有効性の高い事業であると考え。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・一人でのパトロールには限界があり、不法投棄物の見落としや応援を呼んでからの再撤去など時間のロス等、また安全面を考慮し、2名体制でのパトロールの実施がより効率的であると考え。 ・今後、パトロールの実績を基に、警察など関係機関と情報の共有を図ると共に連携を強化し、不法投棄防止に努めていく必要があると考え。											

事務事業の概要	事務事業名	浄化槽普及促進事業			担当課	生活環境課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	810	
	予算科目	款	4	衛生費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	1	保健衛生費		施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会				
		目	6	環境衛生費		基本施策	3	適切な生活排水対策の推進				
取組方針	2	浄化槽の普及促進とし尿の適正処理										
事業概要	市民が公共用水域の水質汚濁の防止がされた衛生的な生活ができるように、市民（合併処理浄化槽設置者）に合併浄化槽設置に関する補助金の交付を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	浄化槽普及促進協議会負担金			⑤					⑨		
	②	浄化槽設置整備事業補助金			⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	成果指標	浄化槽普及率	%	目標	46.1	47.3	50	51	52	浄化槽普及率は、合併処理浄化槽設置の普及が進み年々上昇しているが、まだ50%を少し上回る程度であるので、今後も合併処理浄化槽設置の促進に努める必要がある。		
				実績	51.1	53.1	55.1					
	<指標の計算方法>		浄化槽普及率									
	活動指標	浄化槽補助基数	基	目標	230	230	230	230	230	汲取り便槽または単独浄化槽から合併処理浄化槽へ変換した際の配管工事費に対し補助金が交付されることとなった平成30年度より、合併処理浄化槽の設置が大幅に増加している。		
				実績	185	191	200					
	<指標の計算方法>		浄化槽補助基数									
	活動指標	単独転換補助基数	基	目標	10	10	10	10	10	単独浄化槽を如何にして合併処理浄化槽に転換するかが、水洗化率を向上させるための課題の一つとなっている。平成30年度からの配管工事費への補助金交付は有効な手立てである。		
				実績	9	9	8					
	<指標の計算方法>		単独転換補助基数									
活動指標	配管工事補助基数	基	目標	85	85	85	85	85	平成30年度から導入された配管工事補助によって、合併処理浄化槽への転換が促進された。特に汲取り便槽からの転換が予想を上回り、非常に高い効果があった。			
			実績	55	57	64						
<指標の計算方法>		配管工事補助基数										
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)				財源内訳							
					国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
	91,543				17,143	32,309				42,091		
事業の実績	①浄化槽普及促進協議会負担金 ・浄化槽普及促進協議会への負担金 63,000円											
	②浄化槽設置整備事業補助金 ・浄化槽設置整備補助金受付・補助件数・補助金額 ・5人槽 160件 53,120,000円 ・5人槽 1件 222,000円 ・7人槽 37件 15,318,000円 ・10人槽 2件 1,096,000円 ・単独処理浄化槽撤去補助件数・補助金額 ・5人槽 3件 7人槽 5件 10人槽 0件 720,000円 ・配管工事補助件数・補助金額 ・5人槽 41件 7人槽 23件 10人槽 0件 18,762,500円											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・本事業は合併処理浄化槽設置を推進し普及を促進させ、生活排水による公共用水域の水質汚濁を防止するとともに、市民が快適で衛生的な生活が行えるようにする事を目的としていることから、新たな住宅へ合併処理浄化槽を設置する者、また既存便槽を合併処理浄化槽へ転換する者に対し補助金を交付することは、設置者の費用負担の軽減が図られるため、より普及が促進されると考える。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・浄化槽補助件数は減少傾向であったが、平成30年度より単独処理浄化槽又はくみ取り便槽から合併処理浄化槽へ転換する場合の配管工事についても補助対象となったことから補助件数は増加傾向にある。しかし、計画目標値までには至っていない状況である。 ・補助金申請者には浄化槽管理講習会の受講を義務付け、浄化槽の保守点検、清掃、法定検査等遵守し適正な管理に努めていただくよう指導・啓発を行い、生活排水による公共用水域の水質汚濁の防止を図ると共に汚水処理人口普及率（水洗化率）の向上に努めていく必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・市内の新築住宅の件数が減少していることから、単独処理浄化槽やくみ取り便槽の方々に対して、従来からの補助金に加え、平成30年度から導入した配管工事の補助金を活用して合併処理浄化槽に転換してもらえるよう普及・啓発に取り組んだことにより、合併処理浄化槽への転換が進んだ。今後も、汚水処理人口普及率（水洗化率）の向上に向け、引き続き合併処理浄化槽への転換、普及啓発が必要と考える。											

事務事業の概要	事務事業名	水質保全事業		担当課	生活環境課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	813	
	予算科目	款	4	衛生費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境			
		項	1	保健衛生費		施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会			
		目	6	環境衛生費		基本施策	1	快適な生活環境の維持			
取組方針	3	生活衛生の向上									
事業概要	市民が公共用水域の水質汚濁の防止がされた衛生的な生活ができるように、市内河川等の水質検査及び浄化槽維持管理の適正化を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	水質検査		⑤				⑨			
	②	貴志川水質保全対策協議会負担金		⑥				⑩			
	③			⑦				⑪			
	④			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析	
	成果指標	検査項目BOD値で環境基準値内の検査箇所数	箇所	目標	37	37	37	37	37	検査項目BOD値は全ての検査箇所 で環境基準内に収まっている。	
				実績	37	37	37	37			
	<指標の計算方法>		検査項目BOD値で環境基準値内の検査箇所数								
	活動指標	水質検査箇所数（紀の川、貴志川支流）	箇所	目標	39	39	39	39	39	水質検査箇所数は全て目標どおり 検査できている。	
				実績	39	39	39	39			
	<指標の計算方法>		水質検査箇所数（紀の川、貴志川支流）								
	活動指標	浄化槽の適正な維持管理の啓発回数	回	目標	3	3	3	3	3	浄化槽の適正な維持管理について は、管理講習会等で目標どおり啓 発できている。	
				実績	3	3	3	3			
	<指標の計算方法>		浄化槽の適正な維持管理の啓発回数								
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	583			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	583	
事業の実績	①水質検査		菌群数のみ検査								
	②貴志川水質保全対策協議会負担金 ・市内河川検査委託料（33箇所） 456,500円 ・水質検査の実施 8月18日、19日：紀の川市内河川（33箇所）夏季分 2月16日、17日：紀の川市内河川（33箇所）冬季分										
③貴志川水質保全対策連絡協議会負担金 ・貴志川水質保全対策連絡協議会負担金 127,000円 ・水質検査の実施（貴志川水質保全対策連絡協議会として） 6月17日：貴志川水系（紀の川市内分）6箇所 夏季分 12月14日：貴志川水系（紀の川市内分）6箇所 冬季分 ※ただし、6箇所中2箇所はふん便性大腸											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・本事業は市内河川33箇所（生活環境・健康に関する検査17項目）及び貴志川水系6箇所（生活環境に関する検査5項目）の水質検査を実施する事業である。公共用水域の水質汚濁の防止を図り、市民が快適で衛生的な生活が送れるように水環境の保全を行うことを目的としているため、市が実施することは妥当であると考え。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・水質検査については、全ての検査箇所検査項目BOD値が基準値内に収まり、目標どおりとなっているが、その一方で33箇所のうち、数箇所河川の水の透視度が若干悪い箇所が見受けられた。貴志川水系においては水浴には不適な箇所は見受けられなかった。検査結果を公表し、良好な河川の水質保全について、さらなる周知、啓発していく必要がある。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
		・よりよい水環境の保全に向けて、水洗化割合の向上及び合併浄化槽の適正管理に向けた啓発等に取り組むと共に、常に河川の状況を把握しておくことは重要なことなので、引き続き水質検査を実施することは効率性が高いと判断する。									

事務事業の概要	事務事業名	畜犬管理事業			担当課	生活環境課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	814	
	予算科目	款	4	衛生費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	1	保健衛生費		施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会				
		目	6	環境衛生費		基本施策	1	快適な生活環境の維持				
取組方針	3	生活衛生の向上										
事業概要	市民（飼い主）にペットの衛生的に適切な飼育を行ってもらうために、飼い犬の登録、予防接種を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	犬登録・管理			⑤				⑨			
	②	狂犬病予防注射			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	成果指標	予防注射接種数	件	目標	2,200	2,200	2,200	2,200	2,200	予防注射接種数はほぼ横ばいである。		
				実績	2,097	2,077	2,097					
	<指標の計算方法>		畜犬の予防接種数									
	活動指標	新規犬登録数	件	目標	240	240	240	240	240	新たに犬の登録がされる際には、予防接種の必要性をはじめ、飼育に関するモラルについて啓発を行っている。		
				実績	329	233	280					
	<指標の計算方法>		新規犬登録数									
	活動指標	予防注射通知数	件	目標	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800	狂犬病予防集合注射の実施2週間前を目途に、登録のある畜犬の飼い主に案内はがきを送付している。		
				実績	3,534	3,552	3,516					
	<指標の計算方法>		ハガキ発送数									
成果指標	予防注射接種率	%	目標	100	100	100	100	100	狂犬病予防接種率は依然として低く、低い要因の一つとして犬の死亡届が適正に行われていないこともあることから、今後、飼い主の意識改革を図るための啓発が必要である。			
			実績	54.09	54.69	55.29						
<指標の計算方法>		予防注射接種数/犬総登録数										
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			1,212					1,209	3			
事業の実績	①犬登録・管理 ・畜犬登録手数料（3,000円）を徴収し、鑑札を交付。 ・岩出・紀の川市内の動物病院でも登録可能 ・総登録数 3,793頭（令和2年度末）											
	②狂犬病予防注射 ・狂犬病予防集合注射（4月の中旬、各地区2日）を実施。 ・狂犬病予防注射済票交付手数料（550円）を徴収し、年度ごとの済票を交付。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・狂犬病予防法に則った事業であるため、当事業は妥当であると考える。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・狂犬病予防注射の接種率が伸び悩んでいることから、今後も啓発を行い、飼い主の意識改革に努めていく必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・動物病院が近くにない方や移動手段がない方のためにも、市内を巡回する集合注射は必要であり、日程を減らすなど事業の縮小は難しいと考える。											

事務事業の概要	事務事業名	墓地管理運営事業			担当課	生活環境課			事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	59		
	予算科目	款	4	衛生費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境					
		項	1	保健衛生費		施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会					
		目	6	環境衛生費		基本施策	1	快適な生活環境の維持					
取組方針	3	生活衛生の向上											
事業概要	市民が墓地等を安心して快適に利用できるように、施設の維持管理や運営を適切に行う事業												
事務事業を構成する細事業	①	市営墓地運営			⑤					⑨			
	②	市営墓地施設管理			⑥					⑩			
	③				⑦					⑪			
	④				⑧					⑫			
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	市営墓地草刈委託	回	目標	4	4	4	4	4	安心して快適な環境で施設（墓地）を利用してもらうために、必要最小限の維持管理業務回数で実施している。			
				実績	4	4	5						
	<指標の計算方法>		市営墓地草刈委託										
	成果指標	市営墓地区画公募	区画	目標	0	3	5	5	8		墓地の返還等により空き区画が生じた場合、5区画程度を目途に市広報誌等々を通じ公募を実施している。		
				実績	0	3	4						
	<指標の計算方法>		市営墓地区画公募										
			目標										
			実績										
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	2,266			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	255 2,011			
事業の実績	①市営墓地運営 ・墓地、納骨堂又は火葬場経営等の許可及び変更・廃止許可申請・・・3件 （蓮台寺変更許可・納骨堂経営許可、窪墓地変更許可） ・市営墓地の承継= 9区画 （矢倉墓地：9区画） ・改葬許可申請件数=26件（71人分） ②市営墓地施設管理 ・修繕工事=0件 ・市営墓地草刈業務委託=5回/年 (1)矢倉墓地 進入路 1回/年 (2)小坂墓地 2回/年 (3)那賀第2墓地 1回/年 (4)那賀墓地 竹伐採 1回/年												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・墓地を適切に清掃管理し、良好な状態に保つことは、快適な環境維持及び生活衛生の向上に結びついている。 ・墓地経営は性質上、永続性・非営利性が求められることから、市（地方公共団体）が墓地経営を行うことは、安定的に運営を行っていく上で適性が高いと考える。											
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
・市営墓地の維持管理に係る最低限の業務及び法令等に基づく必要不可欠な業務であるため適切であると考え。													
効率性	評価結果	改善の余地がややある											
	・墓地の維持管理に要する費用は、可能な限り削減されたものであり、更なる削減は適切な維持管理が困難となる。 ・墓地使用者が安心して快適な環境で利用するため、今後は、墓地使用者より維持管理費を徴収するなど、今後も永続的に安心安全に利用できる体制づくりも引き続き検討していく必要があると考える。												

事務事業の概要	事務事業名	那賀斎場解体整備事業			担当課	生活環境課			事業区分	ハード事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度 (R1～R2)	事業番号	1123		
	予算科目	款	4	衛生費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	1	保健衛生費		施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会				
		目	6	環境衛生費		基本施策	1	快適な生活環境の維持				
取組方針	9	その他										
事業概要	共用廃止した那賀斎場の解体整備を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	那賀斎場解体整備事業			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	指標の分析		
	活動指標	解体整備した火葬場の数	箇所	目標				1		計画どおり解体整備工事を実施し完了した。		
				実績				1				
	<指標の計算方法>		火葬場解体数									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R2年度決算額 (単位:千円)			財源内訳								
	72,421			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	5,421		
事業の実績	①那賀斎場解体整備事業											
	・解体整備工事、施工監理業務及び跡地測量等業務を行い完了しました。 那賀斎場解体整備工事 65,736,000円 那賀斎場解体整備工事施工監理業務 4,807,000円 那賀斎場跡地測量等業務 1,877,700円											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・閉鎖した施設の風化、劣化による環境悪化を防止し、跡地の有効活用を行うために必要な事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・解体整備工事を施工し完了した。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・施設の解体及び跡地整備が完了し、跡地の有効活用に向けた事務を進める必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名	五色台広域施設組合事業			担当課	生活環境課			事業区分	一部事務組合		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	819	
	予算科目	款	4	衛生費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	1	保健衛生費		施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会				
		目	6	環境衛生費		基本施策	1	快適な生活環境の維持				
取組方針	3	生活衛生の向上										
事業概要	市民が滞りなく葬祭、火葬を行えるように、五色台広域施設組合の運営に参画する事業											
事務事業を構成する細事業	①	五色台広域施設組合負担金			⑤						⑨	
	②				⑥						⑩	
	③				⑦						⑪	
	④				⑧						⑫	

指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	成果指標	火葬件数（紀の川市管内）	件	目標	516	625	775	772	772	平成30年度をもって使用中止となった那賀斎場等の影響もあり、年々増加傾向にあったが、令和2年度は減少に転じた。		
				実績	695	764	716					
	<指標の計算方法>		五色台聖苑にて実施した紀の川市管内の火葬件数									
	成果指標	火葬件数（五色台聖苑全体）	件	目標	1,340	1,460	1,480	1,450	1,450	五色台聖苑全体についても、年々増加していたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症に伴う防疫に徹したことが要因のひとつとなり、火葬件数は減少した。		
				実績	1,488	1,545	1,439					
	<指標の計算方法>		五色台聖苑にて実施した火葬総件数									
	成果指標	葬祭件数（紀の川市管内）	件	目標	152	128	128	85	85	紀の川市管内における葬祭利用は増加傾向であったが、令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症による影響により減少したと考えられる。		
				実績	18	27	15					
	<指標の計算方法>		五色台聖苑にて実施した紀の川市管内の葬祭件数									
成果指標	葬祭件数（五色台聖苑全体）	件	目標	285	242	245	160	160	構成市町である海南市管内、紀美野町管内は減少傾向である。また特に令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症に伴い、近隣の家族葬葬儀場を利用される方が増えたため、より減少傾向である。			
			実績	259	237	189						
<指標の計算方法>		五色台聖苑にて実施した葬祭総件数										

コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)		財源内訳						
	53,959		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	
								53,959	

事業の実績	①五色台広域施設組合負担金 紀の川市負担金 53,959,000円 紀の川市負担率 52.37% (内訳) 管理運営負担金 89,887,000円×52.34%=47,047,000円 施設建設負担金 13,153,000円×52.55%=6,912,000円 参与会 3回 管理者会 3回 火葬件数 716件									

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・市内に火葬を行う施設はなく五色台聖苑で執り行っていることから、五色台広域施設組合へ負担金を負担し適正な運営が行われるよう事業経営に参画している。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない ・市内に火葬を行う施設はなく五色台聖苑で執り行っていることから、五色台広域施設組合へ負担金を負担し適正な運営が行われるよう事業運営に参画している。									
	効率性	評価結果	改善の余地がない ・市内に火葬を行う施設はなく五色台聖苑で執り行っていることから、五色台広域施設組合へ負担金を負担し適正な運営が行われるよう事業運営に参画している。									

事務事業の概要	事務事業名	地元管理飲料水供給施設整備補助事業			担当課	生活環境課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	60	
	予算科目	款	4	衛生費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	1	保健衛生費		施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会				
		目	7	水道事業費		基本施策	4	水道水の安定的な供給				
取組方針	1	老朽化施設の計画的な更新										
事業概要	市民（飲料水供給施設利用者）が安全・安心な飲料水の確保と安定供給を享受するために、飲料水供給施設の新設・改修及び維持管理について補助金の交付を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	地元管理飲料水供給施設事業補助金			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	成果指標	飲料水を安定供給している世帯数	目標		315	315	315	315	315	給水人口はほぼ横ばいである。		
			実績		317	294	297					
	<指標の計算方法>		飲料水供給施設世帯数									
	活動指標	飲料水供給施設補助件数	目標		4	4	4	4	4	地元管理飲料水を安全かつ安定した供給を行うため、施設修繕補助を2件行い、また、維持管理補助については、水質検査補助と臨時給水補助を各1件ずつ行った。		
			実績		4	1	4					
	<指標の計算方法>		飲料水供給施設補助件数									
活動指標	飲料水供給施設定期巡回指導件数	目標		6	6	6	6	6	今年度は2件実施し、施設組合の状況把握及び安心・安全な飲料水の供給に向け指導を行った。			
		実績		5	4	2						
<指標の計算方法>		飲料水供給施設定期巡回指導件数										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	3,278			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	3,278		
事業の実績	①地元管理飲料水供給施設事業補助金 [維持管理補助金] ・中尾飲料水供給施設(水質検査) 138,600円 ・中尾飲料水供給施設(臨時給水) 4,900円 [施設修繕補助実績額] ・西杉原南部簡易水道組合 540,000円 ・中尾飲料水供給施設 300,000円											
	②飲料水供給施設定期巡回指導 [R3.3.10 指導件数…2件] ・西杉原南部簡易水道組合 ・中尾飲料水供給施設											
	③紀の川市新型コロナウイルス感染症対策事業「地元飲料水供給施設運営特別助成金」 ・交付組合：18組合(306戸) ・助成金額：2,295,000円											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・水道施設が通っていない地域において、地元管理飲料水供給施設は地域住民の重要なライフラインとなるため、地元のみでの事業実施及び施設維持管理となると地元の負担が大きくなるため、飲料水を安心・安全に供給するために市が扶助することは妥当であると考えられる。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・地元住民が安心・安全に飲料水を供給するために実施している定期巡回指導については、新型コロナウイルス感染症の影響もあり2件の実施となった。 ・各施設の修繕・維持管理補助については要望件数を補助しており、施設の維持管理に寄与できていると考える。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・水道施設が通っていない地域において、地元管理飲料水供給施設は地域住民の重要なライフラインとなるため、経年劣化または突発的な故障により施設の修繕が必要となった場合、修復には緊急を要する。地元管理の観点から、修繕などは地元で行うのが望ましいが、飲料水を安心・安全に供給するため、また今後、高齢化が進む中で地元の費用負担も考慮し、施設修繕費等に係る費用の1/2を補助することは効率性の観点から適正であると考えられる。											

事務事業の概要	事務事業名	ごみ適正排出推進事業			担当課	生活環境課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	828	
	予算科目	款	4 衛生費			長期総合計画体系	政策目標	4 都市基盤・生活環境				
		項	2 清掃費				施策目標	2 生活環境・環境保全・循環型社会				
		目	1 清掃総務費				基本施策	2 ごみや資源物の効率的な収集・処理				
取組方針	1 ごみの減量化・資源化の促進											
事業概要	市が効率的にごみ処理ができるように、市民にごみの適正な処理・排出方法の啓発や周知を行う事業											
事務事業を構成する細事業	① 指定ごみ袋作成管理				⑤ 資源持ち去りパトロール			⑨				
	② 啓発物資作成（カレンダー等）				⑥			⑩				
	③ 啓発活動				⑦			⑪				
	④ ごみ集積施設設置補助金				⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	成果指標	ごみ集積所箇所数	箇所	目標	2,680	2,660	2,640	2,620	2,600	令和元年度に比べ9箇所減少した。		
			実績	2,696	2,634	2,625						
	<指標の計算方法>		ごみ集積所の箇所数（目標：集約により-30基/年、開発により+10基/年 差し引き-20基/年）									
	成果指標	ごみ集積所設置補助数	基	目標	50	50	50	50	50	令和元年度と比較すると、新設の集積所への補助件数が減少となった。		
			実績	24	31	20						
	<指標の計算方法>		補助金交付をおこなった集積所ボックス新設・修繕基数（目標：建て替え修繕30基/年、集約新設20基/年）									
	活動指標	資源ごみパトロール数	回	目標	80	80	80	80	80	例年並みのパトロール回数であるが市民からの通報回数が減少しているため、一定の効果は見受けられる。		
			実績	54	58	62						
	<指標の計算方法>		資源ごみパトロール回数									
成果指標	ごみ資源化率	%	目標	13	13	13	13	13	近年横ばい傾向にある。			
		実績	11	11.5	11.3							
<指標の計算方法>		ごみ資源化量÷ごみ処理量（集団回収量を含む、事業系ごみは除く）										
コストの実績	R 2年度決算額 （単位：千円）			財源内訳								
	47,195			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		47,195	
事業の実績	① 指定ごみ袋作成管理 ごみ袋の作成を行いました。 ・家庭用もやす(大) 2,150,000枚 ・家庭用もやす(小) 672,000枚 ・家庭用資源(大) 280,000枚 ・家庭用資源(小) 280,000枚			各自治区から申請のあったごみ集積施設設置費用の1/2の補助を行いました。 （新設 13基、建替 1基、改修 6基） 上記のうち、ごみ集積施設集約化設置補助3地区（粉河 1地区 1基、那賀 2地区 3基）								
	② 啓発物資作成（カレンダー等） 家庭用ごみ収集日程表(カレンダー)を作成し、各家庭に配布しました。 ・印刷部数 27,500部			⑤ 資源持ち去りパトロール 下記の通りパトロールを行いました。 ・パトロール回数 62回 ・パトロール実施日数 27日 ・パトロール実施者数 122人								
	③ 啓発活動 ・出前講座開催数 0回 ・集約化協力依頼通知 79地区 ごみ集積所の集約化に向けて、集約化が進んでいない自治区に対し、集約化の協力依頼を行いました。											
	④ ごみ集積施設設置補助金											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・廃棄物処理法では一般廃棄物の処理は市町村の責務と規定されており、ごみの適正な処理及び排出方法、ごみ排出量の抑制、ごみ集積所の集約化は、一般廃棄物処理基本計画に基づいて取り組むもので、市で実施すべきものであり、啓発、周知を行わなければならない。 ・ごみを適正に分別することで、ごみ集積所を清潔に保つことができる。また、ごみ集積施設設置補助事業を活用してもらうことで、衛生面の向上及び収集の効率化等を図ることができる。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・「ごみの出し方ルールとマナー」、ごみ収集カレンダー等の周知は、家庭から出るごみを適正に分別し、ごみの排出抑制及び資源の有効活用に繋がっている。しかし、分別不十分ごみの排出は少なからず発生しているため、より多くの市民に周知できるよう努めていかなければならない。 ・ごみ集積所の集約については、市民の理解と協力が不可欠であるため、区長会等を通じ集約の依頼を定期的に行い、今年度は目標を達成できている。しかしながら、地域によって集約状況の格差が生じているため、今後も市民の理解と協力を得るよう引き続き推進していかなければならない。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・ごみ集積所の集約化は、ごみ収集の効率化や費用抑制に繋がるが、市民の理解、協力が不可欠であるため、引き続き理解を得るよう推進していく必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名	ごみ対策事業			担当課	生活環境課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	829	
	予算科目	款	4 衛生費			長期総合計画体系	政策目標	4 都市基盤・生活環境				
		項	2 清掃費				施策目標	2 生活環境・環境保全・循環型社会				
		目	1 清掃総務費				基本施策	2 ごみや資源物の効率的な収集・処理				
事業概要	市が循環型社会の構築に寄与するために、一般廃棄物処理計画に基づく施策の推進を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	廃棄物処理業許認可業務			⑤				⑨			
	②	一般廃棄物処理計画進行管理			⑥				⑩			
	③	汚染負荷量賦課金負担金			⑦				⑪			
	④	高濃度PCB含有機器処理事業			⑧				⑫			
指標の実績	指標名	単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析				
	活動指標	事業系一般廃棄物収集量	目標	1,600	1,600	1,600	1,600	1,600	収集量は令和元年度と比較して約5.9%減少している。新型コロナウイルス感染症に伴う自粛要請により企業の経済活動が制限されたため、排出されるごみが減少したと考えられる。			
			実績	1,612.99	1,674.61	1,575.29						
	<指標の計算方法>		事業系一般廃棄物を収集運搬許可業者が収集し紀の海クリーンセンターへ搬入した量									
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	7,367			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		7,367	
事業の実績	①廃棄物処理業許認可業務 ・一般廃棄物処理業許可更新 5件											
	②一般廃棄物処理計画進行管理 紀の川市一般廃棄物（ごみ）処理実施計画を策定し、告示を行いました。											
	③汚染負荷量賦課金負担金 公害健康被害の補償等に関する法律に基づき、公害健康被害者への補償給付等のための負担金を支払いました。 87,500円											
	④高濃度PCB含有機器処理事業 市の施設から発生したPCB廃棄物を、国の処理基本計画に基づき適正に処理を行いました。 処理費用：6,811,728円 運搬費用：467,500円 計：7,279,228円											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・紀の川市一般廃棄物（ごみ）処理実施計画の策定や汚染負荷量賦課金負担金の支払いは各法で定められていることから、市で実施することは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・紀の川市一般廃棄物（ごみ）処理実施計画の策定や汚染負荷量賦課金負担金の支払いについて、各法で定められているとおり適正に処理できている。 ・ごみの効率的な収集、処理の検討については、今後も引き続き行っていく必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・紀の川市一般廃棄物（ごみ）処理実施計画の策定や汚染負荷量賦課金負担金の支払いについて、各法で定められているとおり適正に処理できている。 ・一般廃棄物の処理は、廃棄物処理法において市町村の責務とされていることから、ごみ処理事業(収集運搬も含む。)については、適正かつ能率的な運営に取組む必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名	最終処分事業		担当課	生活環境課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1068	
	予算科目	款	4	衛生費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境			
		項	2	清掃費		施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会			
		目	1	清掃総務費		基本施策	2	ごみや資源物の効率的な収集・処理			
取組方針	3	ごみの適正処理の推進									
事業概要	市が最終処分場の整備や確保を進めるために、関連団体の運営に参画する事業										
事務事業を構成する細事業	①	大阪湾広域廃棄物埋立処分場建設工事負担金			⑤					⑨	
	②				⑥					⑩	
	③				⑦					⑪	
	④				⑧					⑫	

指標の実績	指標名	単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	最終処分量	トン	目標	2,565	2,565	2,565	2,565	2,565	不燃粗大ごみの処理工程で発生する不燃残渣が増加したため、最終処分量も増加した。		
			実績	2,473	2,470	2,553					
	<指標の計算方法>		焼却灰、不燃粗大ごみ、ばいじん量								
			目標								
			実績								
	<指標の計算方法>										
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											

コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)	財源内訳					
		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	5,995						5,995

事業の実績	①大阪湾広域廃棄物埋立処分場建設工事負担金 ・上半期分 644,000円 ・下半期分 400,000円 ・次期計画調査負担金 24,000円 ・建設工事負担金(2期追加分) 2,137,000円 ※委託量増量分3,846㎡に係る平成9年度～平成29年度建設工事負担金 ・災害復旧事業 2,789,000円 ※平成30年台風被災に伴う広域廃棄物埋立処分場に係る災害復旧事業費						

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない	・一般廃棄物の処理は、廃棄物処理法において市町村の責務とされ、ごみ処理事業を適正に能率的に運営することに努めなければならないことが定められており、処分場を確保しなければならない。 ・複数の市町村が広域的に連携してごみ処理に取り組むことで、より高度かつ効率的な処理、また環境負荷の低減や最終処分コストの縮減が可能となることから、大阪湾広域臨海環境整備センターで実施することは妥当である。
	有効性	評価結果	改善の余地がない	・複数の市町村が広域的に連携してごみ処理に取り組むことで、より高度かつ効率的な処理、また環境負荷の低減や最終処分コストの縮減が可能となり、民間を含めて処分場の確保を考慮すると有効である。
	効率性	評価結果	改善の余地がない	・国土交通省、港湾管理者が主体となる事業であり、市町村、府県域をこえて関係者が共同で利用できる廃棄物の最終処分場を確保し、圏域全体の長期的、安定的な廃棄物の処分を図ることができ、かつ、民間の処分場に比べると費用が安価で行うことができることから、コスト面においても効率性がある。

事務事業の概要	事務事業名	紀の海広域施設組合事業			担当課	生活環境課		事業区分	一部事務組合		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	830
	予算科目	款	4 衛生費			長期総合計画体系	政策目標	4 都市基盤・生活環境			
		項	2 清掃費				施策目標	2 生活環境・環境保全・循環型社会			
		目	1 清掃総務費				基本施策	2 ごみや資源物の効率的な収集・処理			
取組方針				3	ごみの適正処理の推進						
事業概要	市民が滞りなくごみ処理を行えるように、紀の海広域施設組合の運営に参画する事業										
事務事業を構成する細事業	①	紀の海広域施設組合負担金			⑤			⑨			
	②				⑥			⑩			
	③				⑦			⑪			
	④				⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	もやすごみ処理量	目標						令和元年度と比較するとほぼ増減していない。		
			実績	16,084	15,873	15,875					
	<指標の計算方法>		年間処理量								
	活動指標	資源ごみ処理量	目標						令和元年度と比較するとほぼ増減していない。		
			実績	1,401	1,349	1,361					
	<指標の計算方法>		年間処理量								
	活動指標	粗大ごみ処理量	目標						令和元年度と比較すると増加している。新型コロナウイルス感染症防止による外出自粛に伴い、家庭から搬出される粗大ごみの量が増加したと考えられる。		
			実績	1,163	1,091	1,315					
	<指標の計算方法>		年間処理量								
活動指標	埋立ごみ処理量	目標						近年横ばい傾向にある。			
		実績	122	113	128						
<指標の計算方法>		年間処理量									
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	364,081			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
			364,081								
事業の実績	①紀の海広域施設組合負担金			・熱回収施設 12,455,000円(48.73%)							
	◎ 施設管理運営負担金、市負担率			※管理運営負担割合							
	・熱回収施設 211,564,000円(48.73%)			均等割 10%							
	・リサイクル施設 127,630,000円(83.33%)			人口割 20%							
・洗車施設 2,386,000円(50.82%)			処理量割 70%								
※管理運営負担割合											
均等割 10%											
人口割 20%											
処理量割 70%											
◎ 施設建設負担金、市負担率											
ため池等周辺整備											
・熱回収施設 10,046,000円(45.79%)											
※建設負担割合											
均等割 15%											
人口割 50%											
処理量割 35%											
◎ 災害復旧負担金、市負担率											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・一般廃棄物の処理は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律において市町村の責務とされ、ごみ処理事業を適正に効率的に運営することに努めなければならないことが定められている。複数の市町村が広域的に連携してごみ処理に取り組むことで、より高度かつ効率的な処理、また環境負荷の低減及びごみ処理コストの縮減が可能となることから、紀の海広域施設組合で実施することは妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・一般廃棄物の処理は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律において市町村の責務とされ、ごみ処理事業を適正に効率的に運営することに努めなければならないことが定められている。複数の市町村が広域的に連携してごみ処理に取り組むことで、より高度かつ効率的な処理、また環境負荷の低減及びごみ処理コストの縮減が可能となることから、紀の海広域施設組合で実施することは有効である。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・一般廃棄物の処理は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律において市町村の責務とされ、ごみ処理事業を適正に効率的に運営することに努めなければならないことが定められている。紀の海広域施設組合のように複数の市町村が広域的に連携してごみ処理に取り組むことで、より高度かつ効率的な処理、また環境負荷の低減及びごみ処理コストの縮減が可能となる。										

事務事業の概要	事務事業名	ごみ収集事業		担当課	生活環境課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	821	
	予算科目	款	4	衛生費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境			
		項	2	清掃費		施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会			
		目	2	塵芥処理費		基本施策	2	ごみや資源物の効率的な収集・処理			
取組方針	1	ごみの減量化・資源化の促進									
事業概要	市民が衛生的な生活を送れるように、市民、企業等が排出したごみの収集を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	ごみ収集（もやす・資源）			⑤	ごみ出し困窮家庭支援			⑨		
	②	ごみ収集（粗大）			⑥	ごみ収集車管理			⑩		
	③	ペットボトル拠点回収			⑦	ごみ収集事務所施設管理			⑪		
	④	廃油回収			⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析	
	成果指標	1人1日当たりのごみの搬出量	g	目標	800	790	790	780	780	令和元年度と比較すると増加している。新型コロナウイルス感染症防止による外出自粛に伴い、家庭から搬出されるごみの量が増加したと考えられる。	
				実績	824	820	840				
	<指標の計算方法>		ごみの総排出量÷365日÷人口								
	成果指標	もやすごみ収集量	トン	目標	16,700	16,700	16,700	16,600	16,600	分別についての細分化に伴い収集量が適正化され、例年目標値を達成できている。	
				実績	16,084	15,873	15,875				
	<指標の計算方法>		もやすごみ収集量								
	成果指標	資源ごみ収集量	トン	目標	1,500	1,500	1,500	1,490	1,490	分別についての細分化に伴い収集量が適正化されているように見えるが、民間でのリサイクルの推進が進んでいるため、民間に資源ごみが流れている状況も考えられる。	
				実績	1,401	1,349	1,361				
	<指標の計算方法>		資源ごみ収集量								
成果指標	粗大ごみ収集量	個	目標	5,700	5,700	5,700	5,700	5,700	収集個数は令和元年度と比較すると増加している。新型コロナウイルス感染症防止による外出自粛に伴い、家庭から搬出される粗大ごみの量が増加したと考えられる。		
			実績	5,690	5,273	5,625					
<指標の計算方法>		粗大ごみ戸別回収収集個数									
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	199,667			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
事業の実績	①ごみ収集（可燃・資源） ・年間収集日数 258日 ・防災力向上及び知識スキルアップ向上として重機免許取得講習及び研修を受講した。 ・車両系建設機械(解体用)運転技能 2人 ・小型車両系建設機械特別教育 2人 ・車両系建設機械運転技能 2人 ・フォークリフト運転技能 4人			行った。 ⑥ごみ収集車管理 ・収集車両購入 購入額 2tパッカー車 2台 13,068,000円 2tダンプ車 1台 4,983,000円 計 3台 18,051,000円 ・収集車両売却 売却額 2tパッカー車 3台 1,486,000円 フロン回収車 1台 15,000円 計 4台 1,501,000円							
	②ごみ収集（粗大） 粗大ごみ戸別回収実績 ・収集件数 1,936件 ・収集個数 5,625個 ③ペットボトル拠点回収 ・拠点回収箇所数 32箇所 ④廃油回収 ・廃油回収量 3,4560 ⑤ごみ出し困窮家庭支援 ・環境省の高齢者ごみ出し支援制度導入に関する説明会に参加し、支援策の検討を			⑦ごみ収集事務所施設管理 ・洗車用高圧洗浄機修繕 294,470円 ・桃山事務所鳥防護網設置修繕 62,700円							
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・一般廃棄物の処理等に関しては、法令等により市で行わなければならないため必要な事業である。 ・市民の生活環境の維持及び限られた資源の有効活用を図るため、「ごみの出し方ルールとマナー」をもとに、分別を徹底し、排出量の抑制や効率化等を図るうえで必要な事業である。 ・高齢化等によりごみ出し困窮家庭に対する支援策について、国等の動向を注視しながら引き続き検討していかなければならない。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・目標については、ほぼ達成できる状況であり、また、ごみの排出量は年々減少傾向にあり、ごみの排出抑制の効果は見受けられていたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症防止による外出自粛に伴い、家庭から搬出されるごみの量が増加したと考えられる。 ・ごみの排出抑制に向けた取り組みについては、ごみ収集業務に携わる職員に年数回研修を行い、スキルの向上を図っている。また、今後はより一層講習会及び研修会を受講及び実施し、より一層住民サービスの向上を図りたい。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・ごみ収集業務を民間委託としても必ずしもコストダウンに繋がらない。ましてや、住民サービスの低下に繋がる可能性があり、費用対効果を含めて慎重に検討していく必要がある。 ・効率性及び人件費を含めたコスト削減について、様々な点に考慮しながら、収集計画及び収集体制の見直しを検討していく必要がある。										

事務事業の概要	事務事業名	廃棄物処理施設跡地管理事業			担当課	生活環境課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1147	
	予算科目	款	4	衛生費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	2	清掃費		施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会				
		目	2	塵芥処理費		基本施策	2	ごみや資源物の効率的な収集・処理				
事業概要	市が循環型社会の構築に寄与するために、一般廃棄物処理計画に基づく施策の推進を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	旧施設管理			⑤					⑨		
	②				⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	成果指標	跡地管理を行った施設箇所数	目標	2	2	3	3	2	跡地管理が必要な施設を適正に管理できた。			
			実績	2	2	3						
	<指標の計算方法>											
			目標									
		実績										
<指標の計算方法>												
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	1,454			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			1,454									
事業の実績	①旧施設管理 旧打田美化センター跡地植林管理、旧粉河クリーンセンター跡地植林管理及び雑草等刈取等を行う。 ・旧打田美化センター跡地植林管理 生育巡視等年7回、肥料・農薬散布年2回、草刈等年2回等 委託金額 462,000円 ・旧粉河クリーンセンター跡地植林管理 生育巡視等年10回、肥料・農薬散布年5回、草刈等年2回等 委託金額 722,700円 ・雑草等刈取作業委託 麻生津中地内5,231㎡ 委託金額 77,407円 ・旧粉河クリーンセンター河川水測定分析年2回 委託金額192,500円											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
			・市の廃棄物処理施設の跡地管理は市が責任を持って安全かつ適切に管理する必要がある。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
		・市の廃棄物処理施設の跡地を近隣の環境に配慮して安全かつ適切に管理することができている。										
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
		・市の廃棄物処理施設の跡地を今後も長期間にわたり安全かつ適切に管理していくにあたり、効率的な管理方法について適宜検討していく必要がある。										

事務事業の概要	事務事業名		収集事務所整備事業				担当課	生活環境課			事業区分	ハード事業		
	会計		一般会計				新規・継続	新規	事業期間	単年度繰返し			事業番号	956
	予算科目	款	4 衛生費				長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	2 清掃費					施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会				
		目	2 塵芥処理費					基本施策	2	ごみや資源物の効率的な収集・処理				
事業概要		収集業務の一元化による経費削減等が図られた収集体制を構築することを目的に、効率化された収集事務所を整備する事業												
事務事業を構成する細事業		①	収集事務所整備				⑤					⑨		
		②					⑥					⑩		
		③					⑦					⑪		
		④					⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析					
	成果指標	収集事務所整備工事の進捗率	%	目標	0	0	0	5	25	令和2年度において収集事務所整備工事の実施設計を行った。				
				実績	0	0	0							
	<指標の計算方法>													
			目標											
		実績												
<指標の計算方法>														
		目標												
		実績												
<指標の計算方法>														
		目標												
		実績												
<指標の計算方法>														
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳										
	24,239			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源					
			24,239											
事業の実績	①収集事務所整備 収集事務所整備事業建築工事基本設計実施設計業務並びに造成設計、地質調査及び排水等調査設計業務を行う。また、建築確認申請等に伴う事務処理手数料を支出する。 ・建築工事基本設計実施設計業務 契約金額 11,395,780円 ・造成設計、地質調査及び排水等調査設計業務 契約金額 12,628,000円 ・建築確認申請手数料 支払金額 215,000円													
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない											
		・一般廃棄物の処理は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律において市町村の責務とされ、ごみ処理事業を適正に効率的に運営することに努めなければならないことが定められており、市が必要な施設を整備することは妥当である。												
	有効性	評価結果	改善の余地がない											
・一般廃棄物の処理は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律において市町村の責務とされ、ごみ処理事業を適正に効率的に運営することに努めなければならないことが定められている。 ・収集業務の一元化された収集事務所を整備することにより、収集業務の効率化等を図ることができることから有効である。														
効率性	評価結果	改善の余地がない												
	・収集業務の一元化による収集体制を構築することにより、収集業務の効率化及び経費削減を図ることができる。													

事務事業の概要	事務事業名		し尿処理事業				担当課	那賀支所		事業区分	ソフト事業		
	会計		一般会計				新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	817
	予算科目	款	4	衛生費				長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境		
		項	2	清掃費					施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会		
		目	3	し尿処理費					基本施策	3	適切な生活排水対策の推進		
事業概要		市民が衛生的な生活を送れるように、那賀地区のし尿の処理を行う事業											
事務事業を構成する細事業		①	し尿収集				⑤				⑨		
		②	し尿処理収集車管理				⑥				⑩		
		③					⑦				⑪		
		④					⑧				⑫		
指標の実績	成果指標	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
		し尿汲取り件数		件	目標	4,600	4,600	4,500	4,500	4,500	合併浄化槽の普及や人口の減により減少傾向にある。		
					実績	4,344	4,449	4,149					
	<指標の計算方法>		し尿汲取り件数										
	活動指標	し尿収集車保有台数		台	目標	4	4	4	4	4	老朽化する車両の入替を行いながら4台を維持する。		
						実績	4	4	4				
	<指標の計算方法>		し尿収集車保有台数										
					目標								
					実績								
	<指標の計算方法>												
				目標									
				実績									
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)				財源内訳								
	25,862				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	886		
事業の実績	①し尿収集 (し尿汲取り件数) ・一般(普通)便槽：3,596件 ・合併浄化槽：364件 ・単独浄化槽：189件 (那賀衛生環境整備組合処理量) ・生し尿：1,648.78k1 ・浄化槽汚泥：1,457.45k1												
	②し尿処理収集車管理 ・4台(3トン車2台、2トン車2台)												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・地域住民・企業等の浄化槽清掃・維持管理のため、し尿収集業務を行い、公衆衛生の向上に努める。										
		評価結果	改善の余地がない ・地域住民・企業等の浄化槽のし尿収集申込みに対し、迅速に対応することで満足度は高く、衛生的な生活環境を満たしている。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある ・現状の実績等からすれば、人員については適正と考える。また収支のバランスを取る為料金改定の必要性が考えられる。申込に対する電話対応は支所職員全員で行っている。										
効率性													

事務事業の概要	事務事業名	那賀衛生環境整備組合事業			担当課	生活環境課			事業区分	一部事務組合				
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	818			
	予算科目	款	4	衛生費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境						
		項	2	清掃費		施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会						
		目	3	し尿処理費		基本施策	3	適切な生活排水対策の推進						
取組方針	2	浄化槽の普及促進とし尿の適正処理												
事業概要	市民が衛生的な生活を送れるように、那賀衛生環境整備組合の運営に参画する事業													
事務事業を構成する細事業	①	那賀衛生環境整備組合負担金			⑤					⑨				
	②				⑥					⑩				
	③				⑦					⑪				
	④				⑧					⑫				
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析				
	成果指標	し尿搬入量	k1	目標	18,900	18,900	18,900	18,000	18,000	し尿の搬入量は年々減少傾向にあり、合併処理浄化槽の普及と公共下水道への接続が要因である。今後ともみ取り便槽から合併処理浄化槽への転換、公共下水道への接続によってさらに減少していくと予想される。				
				実績	17,980.73	17,646.83	17,216.73							
	<指標の計算方法>		し尿搬入量											
	活動指標	浄化槽汚泥搬入量	k1	目標	21,900	21,900	21,900	21,900	21,900			浄化槽汚泥は年々増加傾向にあり、合併処理浄化槽を設置した住宅には、引き続き補助金が交付されるため、今後も、合併処理浄化槽へ転換する世帯が増加すると考えられるので、浄化槽汚泥は増加すると予想される。		
				実績	20,312.03	20,472.11	20,486.08							
	<指標の計算方法>		浄化槽汚泥搬入量											
			目標											
			実績											
<指標の計算方法>														
<指標の計算方法>														
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳										
	170,016			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	170,016				
事業の実績	①那賀衛生環境整備組合負担金 170,016,000円 均等割 $309,650,000円 \times 20\% \times 50.00\% = 30,965,000円$ 人口割 $309,650,000円 \times 30\% \times 53.67\% = 49,856,747円$ 利用割 $309,650,000円 \times 50\% \times 57.61\% = 89,194,683円$ 令和2年度交付税算入分を除いた負担割合 紀の川市 54.91% 岩出市 45.09% 平成31年3月末人口 (116,230人) 紀の川市 62,384人 岩出市 53,846人 平成30年度処理実績 (66,473k1) 紀の川市 38,293k1 岩出市 28,180k1													
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない											
		・し尿・浄化槽汚泥を適正に処理する処理施設是那賀衛生環境整備組合となるため、那賀衛生環境整備組合へ負担金を負担し適正な運営が行われるよう経営に参画している。												
	有効性	評価結果	改善の余地がない											
・し尿・浄化槽汚泥を適正に処理する処理施設是那賀衛生環境整備組合となるため、那賀衛生環境整備組合へ負担金を負担し適正な運営が行われるよう経営に参画している。														
効率性	評価結果	改善の余地がない												
	・し尿・浄化槽汚泥を適正に処理する処理施設是那賀衛生環境整備組合となるため、那賀衛生環境整備組合へ負担金を負担し適正な運営が行われるよう経営に参画している。													

事務事業の概要	事務事業名	雇用対策事業		担当課	商工労働課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	64	
	予算科目	款	5 労働費		長期総合計画体系	政策目標	3	産業・交流			
		項	1 労働諸費			施策目標	2	雇用・就労			
		目	1 労働諸費			基本施策	1	就労支援の充実と雇用創出の振興			
取組方針			3	就労への支援							
事業概要	市民の就業を支援するために、職業相談室の開設や運営を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	地域職業相談室開設事業			⑤	移住定住推進事業(しごと)			⑨		
	②	地元企業見学事業(バスツアー)			⑥	雇用調整助成金等申請支援事業			⑩		
	③	就職フェア開催事業			⑦				⑪		
	④	人材確保支援事業			⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	成果指標	地域職業相談室年間紹介成功率	目標	35	35	35	35	35	ワークプラザ紀ノ川 R2年度 30.6%		
			実績	37.2	34.1	35.6			近似値であるためエリアとして捉えるべき数値と考える		
	<指標の計算方法>		地域職業相談室で紹介した求人先に就職した割合								
	活動指標	合同企業説明会における参加者数	目標	50	100	100	100	100	合同企業説明会、市独自のイベントに加え、企業合同説明会をハローワークに協力を得ながら開催できたことが目標達成の要因		
			実績	55	80	112					
	<指標の計算方法>		合同開催した企業説明会参加者に加え、市単独で開催した企業説明会参加者数								
	成果指標	合同企業説明会における内定者数	目標	0	15	15	15	15	企業にとって魅力ある人材とのマッチングが不足した結果です		
			実績	0	8	2					
	<指標の計算方法>		合同開催した企業説明会時の内定者に加え、市単独で開催した企業説明会時の内定者数								
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	894			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	894	
事業の実績	①地域職業相談室開設事業			内定者 7名(市内在住者0名)			・高校生向け接遇ビジネスマナー研修				
	・ワークサロン貴志川職業相談 職業相談件数3,267件 紹介件数 825件 就職件数 294件(成功率35.6%)			募集人員156名(市内企業募集人員77名)			開催日 1月22日10:00-12:00				
②地元企業見学事業(バスツアー)			・ママジョブマルシェ(市単独)			会場 貴志川生涯学習センター					
新型コロナウイルス感染症拡大防止のため見送り			開催日 3月7日13:00-16:00			参加者 41名(男性21名/女性20名)					
③就職フェア開催事業			会場 紀の川市役所7階 ラウンジ			講師 ANAビジネスソリューションズ(株)					
・就職支援セミナー(合同開催)			参加者 7社(全て市内企業)			栗辻智子/広野幸恵					
開催日 10月14日14:00-15:30			参加者 15名(市内13名/市外2名)			テーマ 新入社員の心構えと職場のコミュニケーション・第一印象の重要性					
会場 旧和歌山県議会議事堂2F			・紀の川市企業合同説明会(合同開催)			・高校生向けビューティ講座					
参加者 14名(市内在住者1名)			開催日 3月12日13:00-16:00			開催日 1月22日13:00-14:00					
テーマ 第1部 志望動機を組み立て方			会場 打田生涯学習センター			会場 貴志川生涯学習センター					
第2部 面接トーク術			参加者 53名(市内在住者9名)			参加者 16名(全員女性)					
・紀の川岩出就職フェア(合同開催)			④人材確保支援事業			講師 資生堂ジャパン(株)近畿支社					
開催日 10月25日13:00-16:00			・人材確保セミナー			土肥智美					
会場 粉河ふるさとセンター小ホール			開催日 11月13日15:30-17:00			テーマ プレッシュヤーズ向けのポイントメイク					
参加企業 26社(市内企業13社)			会場 紀の川市役所5F 大会議室			⑤移住定住推進事業(しごと)					
参加者 44名(市内在住者20名)			参加者 18事業者(各1名参加)			⑥雇用調整助成金等申請支援事業 決定 7件					
			講師 ニッチモ代表取締役 海老原嗣生氏			・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため見送り					
			テーマ 不況と人材不足のダブルパンチをどう凌ぐか								
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
			・雇用施策の充実強化について和歌山労働局と雇用対策協定に基づく事業計画を策定していることから、市が関与すべきです。								
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
		・労働局と就業支援に対する役割を明確にし、企業が求める人材像を、的確に把握する必要があります。									
効率性	評価結果	改善の余地がない									
		・概ね自主運営事業で、経営者と就業希望者の接続を行える環境を整えていることから、現状の実施方法が最適です。									

事務事業の概要	事務事業名	ワークライフバランス推進事業			担当課	商工労働課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1121	
	予算科目	款	5 労働費			長期総合計画体系	政策目標	3	産業・交流			
		項	1 労働諸費				施策目標	2	雇用・就労			
		目	1 労働諸費				基本施策	1	就労支援の充実と雇用創出の振興			
事業概要	労働環境の改善と雇用問題に対して、ワークライフバランスの必要性を啓発するとともに、働き方改革への取組を一層強化する事業											
事務事業を構成する細事業	①	一般事業主行動計画策定支援事業			⑤					⑨		
	②	優良取組事例選定事業			⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	一般事業主行動計画策定事業者数	事業者	目標		5	5	5	5	職場環境の整備をすすめた事業所数		
			実績		1	2						
	<指標の計算方法>		一般事業主行動計画を市の補助により策定した事業者の数									
	成果指標	「くるみん」認定事業者数	事業者	目標		0	1	1	1	全国レベルに達する優れた職場環境の整備は短期間では困難である		
			実績		0	0						
	<指標の計算方法>		実績値による									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	100			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
									100			
事業の実績	①一般事業主行動計画策定支援事業											
	申請者 オーアイテック株式会社 (北勢田726-15) 社員数 55人(男36人 女19人) 目標 ・時間外労働の削減措置の実施											
申請者 東和製薬株式会社 (貴志川町丸栖1229) 社員数 43人(男22人 女21人) 目標 ・男性社員の育児休業取得 ・育児短時間勤務制度の周知 ・年次有給休暇の取得促進												
②優良取組事例選定事業 くるみんの取得は認められませんでした。												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・国が強く推進している、働き方改革の一環として取り組んでいる事業であることから、市が主体性を持ち推進すべきです。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・補助制度の理解は一定程度行き渡っているが、事業主旨と目的を周知する必要があります。												
効率性		評価結果	改善の余地がややある									
		・労働局と一体的に事業の主旨と目的を周知する必要があります。										

事務事業の概要	事務事業名	農業委員会運営事業		担当課	農業委員会事務局			事業区分	内部管理事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	811	
	予算科目	款	6 農林業費		長期総合計画体系	政策目標	99	*****			
		項	1 農業費			施策目標	99	*****			
		目	1 農業委員会費			基本施策	99	*****			
事業概要	農地の権利移動の許可、転用許可の意見決定業務や「農地等の利用の最適化」に関する業務（農地の集積・集約化、遊休農地の発生防止・解消、新規参入の促進）などを行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	農業委員会運営			⑤	許認可事務			⑨		
	②	農地利用最適化推進委員会運営			⑥				⑩		
	③	農地情報整備管理			⑦				⑪		
	④	県農業会議負担金			⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	総会開催	回	目標	12	13	12	12	12	計画どおり月1回の総会を開催することができました。	
			実績		12	13					
	<指標の計算方法>		総会開催回数								
	活動指標	農地の権利移動及び転用の審査	件	目標						農地法第3条の権利移動が20件増加し、農地法第4条・第5条の転用件数が10件減少しました。	
			実績		204	224	234				
	<指標の計算方法>		農地の権利移動（農地法3条）及び転用（農地法第4条・第5条）の審査件数								
活動指標	利用権設定	件	目標	350	350	400	400	400	大幅に増加しているのは、新型コロナウイルス感染症対策の交付金で法律に基づいた権利設定をしている農地が対象となったためです。		
		実績		426	415	676					
<指標の計算方法>		利用権設定件数									
活動指標	農地の適正管理指導	件	目標						適正管理の指導件数は、気象条件により変動します。		
		実績		145	245	197					
<指標の計算方法>		農地の適正管理指導件数									
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	20,060			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	17,643	
事業の実績	①農業委員会運営 総会 12回開催			⑤許認可事務 ・法令等に基づき適正な事務処理を行いました。							
	②農地利用最適化推進委員会運営 ・推進委員会 打田地区 11回開催 粉河地区 11回開催 那賀地区 11回開催 桃山地区 11回開催 貴志川地区 11回開催 ・新型コロナウイルス感染症に伴う緊急事態宣言の発出により、推進委員会の開催に代えて書面会議を1回行いました。			③農地情報整備管理 ・農家台帳等の整備を行いました。							
④県農業会議負担金 ・農業委員等に対する講習及び研修、その他農業委員会への支援などを行う和歌山県農業会議に負担金を支出しました。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・法定事務であり、市民ニーズや社会環境の変化に影響を受ける事業ではありません。 ・耕作者の地位の安定と農業生産の増大を図り、食糧の安定供給の確保を目的に、農地法に基づき農地を農地以外のものにすることを規制し、農地を効率的に利用する耕作者へ権利の取得の促進など農業上の利用を確保するための措置を講じる事業であるため、農業者を代表する公的機関として農業委員会が実施していることは妥当といえます。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・許認可事務等の処理件数を数値目標として設定することは適していないと考えます。 ・農業生産力の向上による農業経営の安定、農地の有効利用など農業経営の健全な発展に寄与するため有効な事業といえます。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・事務処理にかかるコストは、殆どが人件費のため削減の余地はありません。 ・許認可事務については、個人情報を含む事務であり、公平性や守秘義務の観点から民間等への委託は適していません。なお、遊休農地の適正管理指導については、民間委託し、職員の負担を軽減することが可能です。										

事務事業の概要	事務事業名		農業者年金事業				担当課	農業委員会事務局			事業区分	ソフト事業		
	会計		一般会計				新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し			事業番号	1079
	予算科目	款	6 農林業費				長期総合計画体系	政策目標	3	産業・交流				
		項	1 農業費					施策目標	1	農業振興・産業振興				
		目	1 農業委員会費					基本施策	1	地域の特性を生かした農業振興				
事業概要		市民（農業者・農業者年金加入者、受給者）が農業者年金に加入し、将来適正に受給し、安定した生活を送ることができるように、加入促進、各種届出の受付を行う事業												
事務事業を構成する細事業		①	農業者年金加入・相談				⑤						⑨	
		②	資格管理				⑥						⑩	
		③	農業者年金業務委託手数料				⑦						⑪	
		④					⑧						⑫	
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析					
	成果指標	新規加入者数	人	目標	7	7	7	8	8	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策で、推進活動を積極的にできないなか、農業委員や推進委員からの情報により新規加入者を確保することができました。				
				実績	5	6	4							
	<指標の計算方法>		県農業会議より割り振りされた数字											
	活動指標	受給手続説明会開催回数	回	目標	1	1	1	1	1	県農業会議と連携して受給手続説明会を計画どおり開催しました。				
				実績	1	1	1							
	<指標の計算方法>		受給手続説明会開催回数											
	活動指標	現況届受付件数	件	目標						対象件数477件のうち476件を受け付け、受給資格の確認を行いました。				
				実績	549	515	476							
	<指標の計算方法>		現況届受付件数											
活動指標	新年金加入推進PR活動回数	回	目標	1	1	1	1	1	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策で、加入推進PR活動を中止しました。					
			実績	1	1	0								
<指標の計算方法>		新年金加入推進PR活動回数												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳										
	81			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			81		
事業の実績	<ul style="list-style-type: none"> ①農業者年金加入・相談 <ul style="list-style-type: none"> ・農業委員や農地利用最適化推進委員とともに個別訪問を実施し、加入推進を図りました。 ②資格管理 <ul style="list-style-type: none"> ・被保険者の資格及び保険料関係書類の受付や農業者年金受給のための裁定請求の手続きを行いました。 ③農業者年金業務委託手数料 <ul style="list-style-type: none"> ・農業者年金業務委託契約に基づき、独立行政法人農業者年金基金に手数料の請求を行いました。 													
	事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
			・独立行政法人農業者年金基金法の規定による委託契約に基づく事業で、農業者の老後の安定した生活のために必要な事業であり、妥当性が高いといえます。											
事業の事後評価	有効性	評価結果	改善の余地がない											
		・加入の相談に適切に対応できるよう農業委員会で制度についての研修を行い、農業委員、農地利用最適化推進委員とともに加入推進を実施しています。												
事業の事後評価	効率性	評価結果	改善の余地がない											
		・独立行政法人農業者年金基金の定めた事務取扱要領に基づき、適切に事業を実施しており、コスト削減や実施手段の最適化の余地はありません。												

事務事業の概要	事務事業名	農業活動事業		担当課	農林振興課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	805	
	予算科目	款	6 農林業費		長期総合計画体系	政策目標	3	産業・交流			
		項	1 農業費			施策目標	1	農業振興・産業振興			
		目	2 農業総務費			基本施策	1	地域の特性を生かした農業振興			
取組方針	1	地域の魅力を生かす農業振興対策									
事業概要	那賀地方の農業従事者等が活気に満ち、持続可能な安定した農業経営ができるように、協議会への負担金の交付や、様々な普及活動を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	農業振興事務		⑤				⑨			
	②	那賀農業改良普及推進協議会負担金		⑥				⑩			
	③	都市農村交流（民泊）事務		⑦				⑪			
	④	那賀地方病害虫防除対策協議会負担金		⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	成果指標	新規の農業士認定者数	人	目標	3	3	3	3	3	県が認定する農業士は、青年農業士、地域農業士、指導農業士の3分野に分かれており、毎年、市から県に候補者を推薦しています。	
			実績	3	8	5					
	<指標の計算方法>		一定の要件を満たし、地域農業の中核者として活動してもらうに相応しいと、毎年、県が認定する農業士数								
	成果指標	農業士総数	人	目標	120	120	120	120	120	担い手不足及び高齢化により減少傾向にあります。平成31年度は新規認定された農業士が退任者数を上回ったため令和2年度で若干増加しました。	
			実績	117	110	113					
	<指標の計算方法>		指導農業士、地域農業士、青年農業士の総数								
			目標								
			実績								
	<指標の計算方法>										
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	9,508			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
				2,360					7,148		
事業の実績	①農業振興事務 指導農業士 1名推薦 → 1名県認定 地域農業士 3名推薦 → 3名県認定 青年農業士 1名推薦 → 1名県認定 県農林水産業賞 2名推薦 → 2名受賞 花き配送業務委託 市内の保育所、幼稚園、小・中学校、介護施設、障がい者施設に年4回花束を配送しました。 グリーンツーリズム推進事業補助金 紀の里農業協同組合の観光農園施設整備に補助金を支出しました。			ました。 ③都市農村交流（民泊）事務 ・農家民泊施設 既存 5施設 ④那賀地方病害虫防除対策協議会負担金 ・農作物の病害虫被害防止のため、発生状況等の調査や防除指針等の対策を講じる目的で那賀地方で構成された協議会に負担金を支出しました。 ※クビアカツヤカミキリ防除対策補助金交付金 3園地7本で発見されました。							
	②那賀農業改良普及推進協議会負担金 ・農業振興や農業改良普及推進のため、那賀地方で構成された協議会に負担金を支出し										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・当該事業は、紀の川市を含む那賀地方の農業振興に資するものであり、市が実施することは妥当であるといえます。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・活動及び成果指標に設定している農業士数については、年齢要件があるため、一旦農業士に認定されても一定の年齢となると認定解除となりますが、毎年、県に推薦した新規候補者が認定されているため、農業士はほぼ一定数確保されています。 ・今後は農業士数を増加させる施策も必要であると考えます。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・当該事業に要する事業費は、事務費や負担金などの少額であることから、これ以上の削減の余地はないものと考えます。 ・職員の業務量（人件費）についても、当該事業の執行にかかる最低限度の業務量であることから、現時点で効率性を改善する余地はないものと考えます。										

事務事業の概要	事務事業名	畜産・水産事業			担当課	農林振興課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	808	
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流				
		項	1 農業費				施策目標	1 農業振興・産業振興				
		目	2 農業総務費				基本施策	1 地域の特性を生かした農業振興				
取組方針	2 農業経営の安定と強化											
事業概要	畜産農家に安定した経営をしてもらうために、畜産農家、関係団体に負担金の交付や関連事務を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	畜産振興事務			⑤				⑨			
	②	県畜産協会負担金			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	成果指標	肉用牛個体登録頭数	頭	目標	50	50	50	50	50	畜産農家が規模拡大をしていることが増加の要因の一つである。今後、他の畜産農家も拡大を検討しているため、数は増える見込みです。		
				実績	40	62	63					
	<指標の計算方法>		個体登録を行った頭数									
	活動指標	畜産農家訪問回数	回	目標	12	12	12	12	12	保留確認を行うなど、月1回以上牛舎を訪問しています。		
				実績	15	15	15					
	<指標の計算方法>		牛舎等へ訪問を行った回数									
	成果指標	肉用牛飼養農家数	軒	目標	7	7	7	7	7	補助金の紹介等を行い、畜産農家経営の継続に努めています。		
				実績	7	7	7					
	<指標の計算方法>		市内で肉用牛を飼養している農家の数									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	76			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	76		
事業の実績	①畜産振興事務 熊野子牛市場出荷頭数 22頭											
	②県畜産協会負担金 ・家畜・畜産物を生産する事業者の経営診断や各種基金等を安定的に運営するため、また、消費者へ「食の安全・安心」を正しく啓発することなどを目的に、県下市町村、関係機関及び会員団体に構成された協会に負担金を支出しました。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		畜産協会が指定する事務委託先のひとつが市町村となっているため妥当といえます。 ・畜産の振興を図るものであり、畜産農家の自助努力ではならず、市が実施することは妥当といえます。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・畜産農家の戸数は、ほぼ横ばい状態を維持しています。大きな振興策はできていませんが、訪問等を通じて困窮内容の把握や助言することで経営継続の一助になっているものと考えます。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・事業費は少額の事務費や負担金のため削減の余地はないものと考えます。											

事務事業の概要	事務事業名	農業振興団体活動支援事業			担当課	農林振興課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	69
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流			
		項	1 農業費				施策目標	1 農業振興・産業振興			
		目	3 農業振興費				基本施策	1 地域の特性を生かした農業振興			
事業概要	農業振興団体の自立を促し農業振興や地域の活性化を図るために、補助金の交付や団体活動の支援を行う事業										
事務事業を構成する細事業	① 農業士会活動支援補助金		⑤ 生活研究グループ連絡協議会補助金		⑨ 鞆渕地域活性化実行委員会活動支援						
	② 4Hクラブ活動支援補助金		⑥ 環境保全型農業グループ補助金		⑩						
	③ 青年農業経営者協議会活動支援補助金		⑦ あら川の桃振興協議会補助金		⑪						
	④ 営農研究会活動支援補助金		⑧ 中国実習生受入協議会補助金		⑫						
指標の実績	指標名	単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	成果指標 補助団体の会員数	人	目標	926	926	926	926	926	農業従事者の高齢化や担い手不足などにより会員数は減少傾向にありますが、令和2年度は昨年度より増加しました。		
			実績	877	844	871					
	<指標の計算方法>		各農業振興団体の会員数総計								
	成果指標 補助団体の活動数	回	目標	164	164	164	164	164	新型コロナウイルス感染症により研修会等を中止したため、団体の活動数は昨年度より減少しました。		
実績			170	167	104						
<指標の計算方法>		各農業振興団体の年間活動数総計									
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)		財源内訳								
	3,129		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	3,129		
事業の実績	① 農業士会活動支援補助金 補助金額 195,000円 会員数 113人 活動数 12回		会員数 8人 (構成員数1,248人) 活動数 3回		⑤ 生活研究グループ連絡協議会補助金 補助金額 367,000円 会員数 117人 活動数 13回		⑨ 鞆渕地域活性化実行委員会活動支援 黒豆収穫体験等のイベント時に運営活動支援を行いました。				
	② 4Hクラブ活動支援補助金 補助金額 230,000円 会員数 19人 活動数 6回		⑥ 環境保全型農業グループ補助金 補助金額 390,000円 会員数 62人 活動数 22回		⑦ あら川の桃振興協議会補助金 補助金額 673,000円 会員数 522人 活動数 18回						
	③ 青年農業経営者協議会活動支援補助金 補助金額 0円 会員数 26人 活動数 2回 新型コロナウイルス感染症により事業を実施しなかったため補助金が全額返還されました。		⑧ 中国実習生受入協議会補助金 補助金額 900,000円								
	④ 営農研究会活動支援補助金 補助金額 374,000円										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・市が補助金を交付することで、それぞれの農業振興団体の主体的活動が活発化することは、団体だけでなく、地域農業の活性化と農業生産性の向上に繋がるので、市が実施することは妥当といえます。								
	有効性	評価結果	改善の余地がややある ・農業従事者の高齢化や担い手不足などにより会員数は減少傾向にありますが、農業を取り巻く厳しい状況の中では、活動を通じて市の農業振興に一定の効果をもたらしているといえます。 ・会員数を増やすためにも、定例となっている活動を見直し、新しい活動を取り入れるなど、団体活動をより魅力的なものにしていくことが必要です。								
	効率性	評価結果	改善の余地がややある ・各団体の会員数、活動回数、活動内容によって補助金額を見直していくことが必要です。 ・団体に自主性を持たすためにも、市職員の役割を見直していくことも必要です。								

事務事業の概要	事務事業名	農業資金・制度資金利子補給事業			担当課	農林振興課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	797	
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流				
		項	1 農業費				施策目標	1 農業振興・産業振興				
		目	3 農業振興費				基本施策	1 地域の特性を生かした農業振興				
事業概要	農業従事者等の農業関係資金や風水害等の被害に対する融資負担の軽減を図り、農業経営の安定化を図るために、利子補給を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	農業経営基盤強化資金利子補給金			⑤					⑨		
	②	生活営農資金利子補給金			⑥					⑩		
	③	特別融資制度推進会議運営			⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	生活営農資金利子補給件数	件	目標						昨年度中も順次融資が執行されており、令和2年度で前期後期共に全件対象となったため件数が増えています。繰上償還や償還期間の満了により、利子補給件数は減少していく見込みです。		
			実績		25	125	131					
	<指標の計算方法>		紀の川市生活営農資金利子補給金交付要綱に基づき利子補給した件数									
	活動指標	農業経営基盤強化資金利子補給件数	件	目標						償還期間の満了により減少が続いています。		
			実績		9	8	5					
	<指標の計算方法>		紀の川市農業経営基盤強化資金利子補給金交付要綱に基づき利子補給した件数									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	422			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		422	
事業の実績	①農業経営基盤強化資金利子補給金 5 件											
	②生活営農資金利子補給金 H30年台風20、21、24号対策 131 件											
	③農業振興資金利子補給金 7 件											
	④特別融資制度推進会議運営 ・対象となる融資がなかったため会議の開催はありませんでした。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的な農業者に対して利子補給を行い農業従事者の負担を軽減することは、安定した農業経営の確立につながり、長期総合計画の基本施策へ貢献することになります。 ・市が関与することにより融資期間の融資を円滑にし、農業者に長期で低利の資金融資を行うことができ、農業の近代化に資することができます。 ・県の事業への上乗せ補助制度のため、県事業とは重複しますが、農業従事者の負担軽減を図るもので妥当といえます。 										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
<ul style="list-style-type: none"> ・農業従事者の金利負担の軽減を図り、経営の安定と強化につながっています。 ・自然災害から復旧には多額の資金が必要となり、経営意欲の低下が懸念されますが、利子補給制度により農業経営の維持につながります。 												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	<ul style="list-style-type: none"> ・利子補給金及び人件費のみの事業です。 ・事務処理などに会計年度任用職員等を活用することにより、人件費コストの削減が可能であると考えられます。 											

事務事業の概要	事務事業名	有害獣被害防止対策事業			担当課	農林振興課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	798
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流			
		項	1 農業費				施策目標	1 農業振興・産業振興			
		目	3 農業振興費				基本施策	1 地域の特性を生かした農業振興			
事業概要	有害鳥獣による農作物被害を防止し、農家の経営安定と生産振興を図るため、紀の川市内の農地に設置する防護柵等の設置費用の一部に補助を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	有害鳥獣被害防止対策事業補助金			⑤				⑨		
	②	農作物鳥獣被害対策アドバイザー育成			⑥				⑩		
	③	野生鳥獣による農作物の被害状況調査			⑦				⑪		
	④				⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	成果指標	農作物鳥獣被害対策アドバイザー取得者数	人	目標	1	1	1	1	1	昨年度も2名のアドバイザーを育成することができました。農作物の被害軽減のための知識を習得し、対応につなげています。	
			実績	1	2	2					
	<指標の計算方法>		市職員の農作物鳥獣被害対策アドバイザー取得者数								
	活動指標	防護柵等設置面積(市単・県単)	ha	目標	50	50	50	50	50	例年と同様の面積となっています。※平成30年度は台風被害で防護柵対策まで至らなかったためこのような面積になっています。	
			実績	23.2	43.2	40					
	<指標の計算方法>		市補助及び県補助により防護柵等を設置した面積								
成果指標	有害獣による農作物被害額(イノシシ)	千円	目標	29,141	25,498	31,309	29,661	28,103	猟友会の協力により捕獲数が増加したことと、豚熱発生によるイノシシの生息数が大幅に減少したことによって被害金額が減少しました。		
		実績	32,957	30,319	16,458						
<指標の計算方法>		野生鳥獣による農作物の被害状況調査票による									
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 2年度決算額(単位:千円)			財源内訳							
	3,986			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	3,555	
事業の実績	①有害獣被害防止対策事業補助金(市単) 73件 37.4 ha										
	有害獣被害防止対策事業補助金(県単) 5件 2.6 ha										
	②農作物鳥獣被害対策アドバイザー育成アドバイザー取得者数 2名										
③野生鳥獣による農作物の被害状況調査 J A紀の里・和歌山県農業共済組合より被害状況聞き取り結果 イノシシによる農作物被害額 16,458千円											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・有害鳥獣による農作物の被害軽減を図ることは、農業経営の安定化につながり上位施策に貢献するものです。 ・農作物の被害防止対策は、農業従事者の自主的な取り組みだけでは限界があり、行政や地域での一体となった取り組みが必要です。 ・農家アンケートでは、農業経営上の悩みでは「鳥獣被害の拡大」を、農業振興策では「鳥獣対策の強化」をあげる方が多くニーズと合致しています。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・ピーク時に比べれば農作物の被害状況は減少に転じていますが、依然として高い数値となっているため、防護柵の有効性や補助事業を広報等で周知し、防止対策を推進していく必要があります。 ・防護柵の設置は被害対策として有効であるため、農業従事者の生産意欲の低下につながらないよう継続していく必要があります。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・地域一体での被害対策への取り組みによって、より効果が向上することが見込まれます。										

事務事業の概要	事務事業名	農産物販売促進事業			担当課	農林振興課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	801	
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流				
		項	1 農業費				施策目標	1 農業振興・産業振興				
		目	3 農業振興費				基本施策	1 地域の特性を生かした農業振興				
事業概要	農業従事者等の所得を向上させるために、市産農産物のトップセールスや販売促進に係るイベントを行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	産業まつり補助金			⑤				⑨			
	②	トップセールス等販売促進事業			⑥				⑩			
	③	海外販路拡大事業			⑦				⑪			
	④	農産物活用商品開発事業			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	産業まつり来場者数	人	目標	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催を中止した。		
			実績	6,500	6,500	0						
	<指標の計算方法>		産業まつり会場への来場者数									
	活動指標	トップセールス等の実施回数	回	目標	5	5	8	9	9	新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、トップセールスや新規直売イベントは規模を縮小または自粛した。Peach航空との連携イベントは、留学生への贈呈やオンラインキャンペーンに変更した。		
			実績	4	7	3						
	<指標の計算方法>		トップセールス等の年間実施回数									
	活動指標	海外現地商談件数	件	目標	60	30	0	0	0	令和元年度で事業は一旦終了する。		
			実績	55	0	0						
	<指標の計算方法>		海外バイヤーとの商談総件数									
成果指標	海外現地商談成約見込件数	件	目標	18	9	0	0	0	令和元年度で事業は一旦終了する。			
		実績	6	0	0							
<指標の計算方法>		海外バイヤーとの成約見込総件数										
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	3,191			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		3,191	
事業の実績	①産業まつり補助金 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催を中止。 ②トップセールス等販売促進事業 【トップセールス】 ・桃 実施日：7月6日 場所：大果大阪青果 (大阪市中央卸売市場) ・いちじく 実施日：8月25日 場所：大阪中央青果 (大阪市中央卸売市場) ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、人数を制限し、セレモニー等は行わず実施。柿(10月)、キウイ・中晩柑(2月)については中止。 【Peach Aviationとのコラボイベント】											
	・台湾人留学生への桃の贈呈 実施日：7月6日 場所：台北駐大阪経済文化弁事処(大阪) 内容：関西在住の台湾人留学生への桃のプレゼント。 ・オンラインキャンペーン 実施日：7月6日～12日 内容：Peachのフェイスブック上でPeachに関するエピソードを投稿した人の中から抽選で10名に桃をプレゼント。 ③海外販路拡大事業 ・関西国際空港の国際線制限エリア内農産物販売店舗にて市産農産物のプロモーション、モニタリング調査を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う店舗閉鎖により実施を見送る。 ④農産物活用商品開発事業 ・大手食品メーカーとのコラボ商品開発に向けた協議を引き続き実施。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・市産農産物の認知度を向上させ、ブランド化や産地化の推進を図ることは、農業従事者の所得向上に繋がるとともに、市の基幹産業である農業の振興を図るうえでも市の関与は必要です。 ・JA紀の里と連携して実施しており、実施主体としても適当であるといえます。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
		・産業まつりの来場者数は年々増加し、会場規模とつり合わなくなってきたため、開催会場の変更等について検討していくことが必要です。 ・市場や小売店との信頼関係を築く市場でのトップセールスに加え、消費者への認知度向上や消費拡大に繋げるために新たに実施を予定していた直売イベントは、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い見送りとなりましたが、引き続き実施していくことが必要です。 ・海外販路拡大事業は、この先の国内市場の縮小に伴い、海外市場の需要が大きくなる可能性が高いため、引き続き海外市場の動向を見ながら事業実施を検討していくことが必要です。										
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	シティプロモーション事業や観光施策と連携し、新たにオンライン事業を検討するなど、効率的・効果的な事業展開を進める必要があります。											

事務事業の概要	事務事業名	6次産業化支援事業			担当課	農林振興課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	992	
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3	産業・交流			
		項	1 農業費				施策目標	1	農業振興・産業振興			
		目	3 農業振興費				基本施策	1	地域の特性を生かした農業振興			
事業概要	6次産業化を実践する農業従事者等の新商品の開発や販路開拓の促進等を支援する事業											
事務事業を構成する細事業	①	6次産業化支援事業補助金			⑤					⑨		
	②	6次産業化スクール運営			⑥					⑩		
	③	事業の周知			⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	成果指標	新商品の開発数	単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析 一定のニーズはありましたが、補助金を活用し商品開発に至ったケースは多くありませんでした。		
			品	目標	4	4	4	4	4			
		実績	2	1	2							
		<指標の計算方法>	紀の川市6次産業化支援事業の補助メニューを活用して開発された商品の数									
	活動指標	補助金交付件数	単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析 一定のニーズはありましたが、補助金活用に至ったケースは多くありませんでした。		
			件	目標	4	4	4	4	4			
		実績	3	1	2							
	<指標の計算方法>	紀の川市6次産業化支援事業補助金の申請受付件数										
		目標										
		実績										
	<指標の計算方法>											
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	2,172			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	2,172		
事業の実績	①6次産業化支援事業補助金 ・新規販路の開拓や新商品の開発に対して補助金を交付し、6次産業化の支援を行いました。 【商品開発】2件 ②6次産業化スクール運営 ・6次産業化の取組み方を実践的に学ぶワークショップ形式のスクールと6次産業化実践者向けに個別相談会を実施しました。 【スクール】 開催回数：3回 参加者数：18名 【個別相談】 開催回数：3回 参加者数：延べ25名 ③事業の周知 ・広報紙、チラシ、SNS等において、事業の周知を行いました。											
	妥当性	評価結果	改善の余地がややある									
		・6次産業化は、農産物の価値を高め、農業者の所得向上につながる取組みであるため、引き続き支援を継続していく必要があります。 ・補助事業の内容については、より市民ニーズを満たせるように制度設計を見直すなど対応していく必要があります。										
有効性	評価結果	改善の余地が大きい										
	・6次産業化スクールや個別相談会の実施は、6次産業化実践者の確保に繋がっています。実践者の取組み事例を紹介するなど、引き続き事業周知を強化していくことが必要です。 ・補助事業の利用実績は横ばいですが、一定のニーズは得ております。新型コロナウイルス感染症拡大により、新たな投資に踏み切れないことも影響していると考えられるため、支援策の強化を図っていくことが必要です。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・6次産業化の創業を支援しつつ、補助事業の見直しや積極的な啓発を行う必要があります。また、創業にはリスクが伴うため、商工関連施策と連携しながら、そのリスクを軽減する効果的な措置を検討・実施していくことも必要です。											

事務事業の概要	事務事業名	農業経営基盤強化促進事業			担当課	農林振興課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	787
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流			
		項	1 農業費				施策目標	1 農業振興・産業振興			
		目	3 農業振興費				基本施策	1 地域の特性を生かした農業振興			
事業概要	意欲ある農業従事者及び新たに就農する青年等の農業経営基礎の確立を図るために、農業経営の改善及び安定化・効率化の促進等の支援を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	農業経営改善計画等認定審査会運営			⑤	農業経営管理合理化推進事業補助金		⑨			
	②	認定農業者・認定新規就農者支援			⑥	農地集積協力金		⑩			
	③	農地利用促進			⑦	農業従事者処遇改善（家族経営協定）		⑪			
	④	農地流動化奨励補助金			⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	農業経営改善計画等認定審査会の開催回数	目標	4	4	4	4	4	毎年4月、7月、10月、1月の年4回、認定農業者及び認定新規就農者の認定機会を設定しています。		
			実績	4	4	4	4				
	<指標の計算方法>		認定農業者及び認定新規就農者の決定機関（法第12条第4項及び第14条の4第3項）である審査会の開催数								
	成果指標	農用地利用配分計画（案）の作成回数	目標	6	6	6	6	6	農地中間管理機構を活用した農地等の賃借権の設定は、国が推奨する取組です。そのため、これを採択要件とする補助事業があり、それらの事業を活用する農業者が増えたことにより、作成件数が増えたと考えられます。		
			実績	5	12	12	12				
	<指標の計算方法>		農地中間管理事業を活用して農地等の賃借権の設定等を行ってもらうために作成する件数（法第19条第2項）								
	成果指標	農地流動化奨励事業の実施面積	目標	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	新型コロナウイルス感染症関連の国庫補助金の交付要件で利用権の設定が必要であったため、件数、面積ともに増大しています。		
			実績	984	1,120	3,538	3,538				
	<指標の計算方法>		認定農業者等が農業経営の規模拡大を図るために利用権設定した農地の面積								
活動指標	農業経営管理合理化推進事業の実施件数	目標	40	40	40	40	40	新型コロナウイルス感染症関連の国庫補助金との併用が可能であったため、申請件数が例年より増加したと考えられます。			
		実績	26	31	38	38					
<指標の計算方法>		認定農業者等が農業経営改善計画等の達成に必要な農業用機械の導入に対して補助した件数									
コストの実績	R 2年度決算額 （単位：千円）			財源内訳							
	7,414			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	7,414	
事業の実績	①農業経営改善計画等認定審査会運営 認定審査会を4回開催			0件							
	②認定農業者・認定新規就農者支援 営農・就農相談、農業関係制度説明を農業者等に随時実施			⑦農業従事者処遇改善（家族経営協定） 相談件数 2件							
	③農地利用促進 農用地利用集積計画の公告 12回 農用地利用配分計画の作成 12回										
	④農地流動化奨励補助金 87人 3538.89a										
	⑤農業経営管理合理化推進事業補助金 中型農機 12件 大型農機 26件										
	⑥農地集積協力金										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・持続可能な農業を実現するためには、人と農地の問題を一体的に考える必要があります。農業経営の安定化を図り、担い手を育成、確保するためには市が積極的に関与する必要があります。 ・本市の基幹産業である農業の振興、地域農業の活性化を図るものであり、長期総合計画の基本施策に適合しています。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・農業従事者の高齢化が著しいなか、指標は期待通りの数値とはなっていないが、継続して実施し維持していく必要があります。 ・農業研修生の受け入れ体制の整備をはじめとする農業振興戦略の具体化方策を事業化し、より効果的に実施する必要があります。 ・農地の流動化に対しては、影響が微弱であることから制度廃止を検討する必要があります。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・すぐに効果が表れる事業ではないため、継続実施による効果検証を行い事業の見直しを行っていきます。 ・新規就農や補助事業等で多くの方が相談に来られます。時間を要するため人件費コストは必要となりますが、専門的な知識が必要なため会計年度任用職員等への置き換えは困難であると考えます。										

事務事業の概要	事務事業名	農業次世代人材投資事業			担当課	農林振興課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	851	
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3	産業・交流			
		項	1 農業費				施策目標	1	農業振興・産業振興			
		目	3 農業振興費				基本施策	1	地域の特性を生かした農業振興			
事業概要	青年農業者の就農意欲の喚起と就農後の定着による就農者の増加を図るために、認定新規就農者へ資金の交付を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	農業次世代人材投資事業審査委員会の運営			⑤				⑨			
	②	農業次世代人材投資資金の交付			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	新規就農者研修会の開催回数	回	目標	2	2	2	2	2	新規就農者の経営確立を支援するための研修会が定期的に開催できています。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で1回のみ開催となりました。		
			実績	3	2	1						
	<指標の計算方法>		新規就農者を対象とした研修会の年間開催回数									
	活動指標	審査委員会の開催回数	回	目標	2	2	2	2	2	資金の承認申請を採択するための審査委員会が定期的に開催できています。平成31年度と令和2年度は新規採択者に対する県からの当初予算配分がなかったため前期分が開催できませんでした。		
			実績	2	1	1						
	<指標の計算方法>		農業次世代人材投資事業審査委員会の年間開催回数									
活動指標	資金の新規採択者数	人	目標	4	4	4	4	4	県からの予算配分内で採択できています。			
		実績	2	7	3							
<指標の計算方法>		農業次世代人材投資資金の新規採択者数										
成果指標	新規就農者数	人	目標	25	25	25	25	25	新規就農希望者の受入体制が確立されていないため、積極的な誘引ができていないことが目標値を下回っている要因であると考えられます。			
		実績	12	13	16							
<指標の計算方法>		県の新規就農者調査による前年度中の本市の新規就農者数										
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			36,908		36,654					254		
事業の実績	①農業次世代人材投資事業審査委員会の運営 開催回数 1回（下期）											
	②農業次世代人材投資資金の交付 ・次世代を担う農業者となることを志向する者に対し、就農直後の経営確立を支援するために資金を交付し、就農支援を行いました。 交付対象者数 28名（うち新規 3名）											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・新たな農業の担い手の育成と確保を図るものであり、上位の基本施策と合致しています。 ・新規就農者の就農初期の経営を支えるため、国の制度を活用して市が資金を交付する事業であり、市の関与は妥当といえます。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・国が要綱を制定し、事業の有効性を検証して見直しや改善等を行っており、市での裁量はありません。 ・市としては、当該事業を活用しながら農業研修生の受入体制の整備をはじめとする農業振興戦略の事業と連携を図り、新規就農者への支援を拡充していきます。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・国の要綱に基づき事業運用しており、他市町と比べて対象件数が多いなか、スムーズな事務処理が遂行できているため、コスト削減等について改善の余地はありません。 ・業務量については、国の要綱改正に伴い中間評価の実施等の業務が追加されていますが、新規就農者との相談対応等のコア業務が主要であるため会計年度任用職員等への置き換えでのコスト削減は困難です。											

事務事業の概要	事務事業名	担い手育成支援事業		担当課	農林振興課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1129	
	予算科目	款	6 農林業費		長期総合計画体系	政策目標	3	産業・交流			
		項	1 農業費			施策目標	1	農業振興・産業振興			
		目	3 農業振興費			基本施策	1	地域の特性を生かした農業振興			
事業概要	農業の担い手の確保・育成を図り、地域農業の振興を図る事業										
事務事業を構成する細事業	①	親元就農助成金審査委員会の運営		⑤				⑨			
	②	親元就農助成金の交付		⑥				⑩			
	③	担い手の受入基盤の整備		⑦				⑪			
	④			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	審査委員会の開催回数	目標		2	2	2	2	・親元就農助成金の交付を採択するための審査委員会が定期的に開催できています。		
			実績		2	2					
	<指標の計算方法>		親元就農助成金の採択を審査する審査委員会の年間開催回数								
	活動指標	新規採択者数	目標		10	6	8	8		・予算内で採択できています。今後も一定数の申請者（採択者）が見込まれます。	
			実績		5	5					
<指標の計算方法>		親元就農助成金の新規採択者数									
活動指標	検討委員会の開催回数	目標		0	4	3	3	・担い手の受入体制を構築するための内容を検討する検討委員会が定期的に開催できています。			
		実績		0	4						
<指標の計算方法>		担い手の受入体制を検討する検討委員会の年間開催回数									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
14,664			4,454						10,210		
事業の実績	①親元就農助成金審査委員会の運営 開催回数 2回（上期1回、下期1回）										
	②親元就農助成金の交付 交付対象者数 10名（うち新規5名）										
	③担い手の受入基盤の整備に係る検討委員会の開催回数 4回										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・次世代の就農意欲を喚起し、担い手を確保・育成することは、持続可能な力強い農業を将来にわたり実現することにつながり、上位の基本施策と合致しており市が実施するのは妥当といえます。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・親の農業を継承する者に対して支援を図ることで、農業経営を円滑に継承し地域農業の新たな担い手となることが期待できるため有効な事業であるといえます。 ・他産業などからの就農希望者を積極的に確保するためには、新規就農希望者の研修制度などの受入体制の整備を行う必要があります。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・親元就農者からの相談や助言等の対応や、県や農業関係団体との協議や連携などが必要で専門的な識見を要するため、会計年度任用職員等への置き換えでのコスト削減は困難です。										

事務事業の概要	事務事業名	経営所得安定対策等事業			担当課	農林振興課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1086
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3	産業・交流		
		項	1 農業費				施策目標	1	農業振興・産業振興		
		目	3 農業振興費				基本施策	1	地域の特性を生かした農業振興		
取組方針				2	農業経営の安定と強化						
事業概要	担い手農家の経営の安定や食糧自給力の維持向上を図るため、水田の活用を推進する経営所得安定対策事業の実施主体である地域再生協議会へ補助金の交付を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	農業再生協議会補助金			⑤				⑨		
	②	経営所得安定対策等事業			⑥				⑩		
	③				⑦				⑪		
	④				⑧				⑫		

指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	地域別事業説明会の開催	目標	16	16	16	16	16	新型コロナウイルス感染症の影響により説明会の開催を中止した。代わりに文書通知を行い業務を進めました。		
			実績	16	16	0					
	<指標の計算方法>		地域別説明会の開催箇所数								
	成果指標	産地交付金対象作物の作付面積	a	目標	21,620	21,730	21,000	20,000	20,000	令和2年度の目標値を達成できず、前年度実績より作付面積が減少した。要因の一つとしては、担い手不足や高齢化による農業者の減少が考えられる。	
			実績	20,561	21,096	20,981					
<指標の計算方法>		水田活用の直接支払交付金（産地交付金）の対象となる作物（野菜、花き・花木、果樹）の作付合計面積									
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											

コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)		財源内訳				
	6,006		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他
						5,743	263

事業の実績	①農業再生協議会補助金 ・農業経営の安定と地域農業の発展に向けた取組をしている紀の川市農業再生協議会に対して補助金を交付しました。						
	推進事業費補助金	国庫 3,872千円 市 310千円					
事業の実績	②経営所得安定対策等事業 交付金申請者数 741名						

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない		・水田の有効活用を推進する経営所得安定対策事業の実施主体である地域農業再生協議会に対して国庫補助金を交付する事業です。また、固定資産等個人情報の取り扱いや、市の業務との係わりが深いために、市が関与することが妥当といえます。
	有効性	評価結果	改善の余地がない		・国が要綱を制定し、本事業の有効性を検証して事業の見直しや改善等を行っています。 ・農業者から営農計画書の提出を受け、営農状況の把握及び水田台帳の整備ができています。 ・担い手不足・高齢化による農業者の減少
	効率性	評価結果	改善の余地が大きい		・国の要綱に基づき事業運用しているため、コスト削減等について改善の余地はありません。 ・事業対象である水田筆数が非常に多く事務量も膨大であるため、データ入力や単純作業において会計年度任用職員の任用が必然であり、効果的な活用ができています。 ・専門的な事務を継続して実施する事業であるため、専属する事務人員の増員を図り、事務の平準化やノウハウの蓄積に努める必要があります。

事務事業の概要	事務事業名		農業用施設整備支援事業			担当課		農林振興課		事業区分		ソフト事業	
	会計		一般会計			新規・継続		継続		事業期間		単年度繰返し	
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標		3 産業・交流		事業番号 1130		
		項	1 農業費				施策目標		1 農業振興・産業振興				
		目	3 農業振興費				基本施策		1 地域の特性を生かした農業振興				
事業概要		農業経営の安定化を図るため、モモせん孔細菌病対策の防風ネットやハウス整備に対して補助を行う事業											
事務事業を構成する細事業		①	モモせん孔細菌病対策事業補助金		⑤			⑨					
		②	ハウス整備支援事業補助金		⑥			⑩					
		③			⑦			⑪					
		④			⑧			⑫					

指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	モモせん孔細菌病対策事業補助件数	件	目標						平成30年度の台風に被災した防風ネットの事業件数が多かったため、件数が少ない状態が続いています。	
			実績	185	2	1					
	<指標の計算方法>		補助対象となった事業の件数								
	活動指標	ハウス整備支援事業補助件数	件	目標						ハウスの建設の計画は自己負担もあることから、件数には増減があります。	
			実績		7	2					
<指標の計算方法>		補助対象となった事業の件数									
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											

コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)		財源内訳					
	3,223		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
								3,223

事業の実績	①モモせん孔細菌病対策事業補助金		・モモせん孔細菌病の発病を抑えるための対策として、桃生産者の防風ネットの導入に係る経費の一部について補助金を交付しました。	
	申請件数	1件	受益面積	0.35ha
事業の実績	②ハウス整備支援事業補助金		・風害に強いハウスの導入に係る経費の一部について補助金を交付しました。	
	申請件数	2件	整備面積	20.1a

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がややある	<ul style="list-style-type: none"> 市の主要農産物である桃の生産性を確保し、農業経営の安定化を図ることは、長期総合計画の基本計画にも貢献するもので妥当といえます。 風害に強いハウスを導入することで、農業経営の安定化を図ることは、長期総合計画の基本計画にも貢献するもので妥当といえます。 防風ネットの設置やハウスの整備は国の事業にも補助制度がありますが、採択要件が違い重複するものではありません。 県の事業への上乗せ補助制度のため、県の事業とは重複しますが、農業従事者の負担軽減を図るもので妥当といえます。 桃の防風ネットは工事1件あたりの上限がありますが、ハウスは面積あたりの上限しか設けていないため、大きなハウスの建設があった場合に補助金額が際限なく上昇する可能性があります。
	有効性	評価結果	改善の余地がない	<ul style="list-style-type: none"> 防風ネットの設置は、モモせん孔細菌病の最も有効な対策であり、生産性の確保に効果が発揮されています。 今後も協力的な台風の接近が危惧される中、生産性の確保のために風害に強いハウスの導入が必要です。
	効率性	評価結果	改善の余地がない	<ul style="list-style-type: none"> 補助要綱に基づき事務を適正に実施しています。 県事業と市事業と併せて1/2補助で、受益者負担が1/2となり、負担割合は適正なものと考えています。

事務事業の概要	事務事業名	地産地消・食育推進事業		担当課	農林振興課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	74	
	予算科目	款	6	農林業費	長期総合計画体系	政策目標	3	産業・交流			
		項	1	農業費		施策目標	1	農業振興・産業振興			
		目	3	農業振興費		基本施策	1	地域の特性を生かした農業振興			
取組方針	1	地域の魅力を生かす農業振興対策									
事業概要	市民に市産農産物を使った健全な食生活を実践してもらうために、地産地消と食育推進の普及啓発を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	食育推進会議運営		⑤					⑨		
	②	食育フェアの開催		⑥					⑩		
	③	食育料理教室の開催		⑦					⑪		
	④	野菜フェスタ参加負担金		⑧					⑫		
指標の実績	活動指標	食育料理教室の開催数	単位	回	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析	
			目標	11	7	7	7	7	新型コロナウイルス感染症により開催を中止した。		
	実績	8	7	0							
	<指標の計算方法>		紀の川市立保育所での親子料理教室の開催回数								
	成果指標	食育フェア来場者数	単位	人	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析	
			目標	6,000	6,500	7,000	7,000	7	新型コロナウイルス感染症により開催を中止した。		
	実績	6,500	6,500	0							
	<指標の計算方法>		合同で開催している産業まつりへの集客も含んだ来場者数								
	成果指標	食育に関心を持っている成年の割合	単位	%	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析	
			目標	90	90	90	90	90	次回の調査は、中間年評価アンケートを実施する令和3年度です。		
実績	79.4										
<指標の計算方法>		紀の川市食育推進計画におけるアンケート調査結果より算出									
成果指標	三食規則正しく食べる成年の割合	単位	%	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
		目標	80	80	80	80	80	次回の調査は、中間年評価アンケートを実施する令和3年度です。			
実績	64.2										
<指標の計算方法>		紀の川市食育推進計画におけるアンケート調査結果より算出									
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	130			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	130	
事業の実績	①食育推進会議運営 1回開催 第1回 実績報告及び事業計画の報告について										
	②食育フェアの開催 新型コロナウイルス感染症により中止										
	③食育料理教室の開催 新型コロナウイルス感染症により中止										
	④野菜フェスタ参加負担金 新型コロナウイルス感染症により中止										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・海外からの輸入農産物の増加や食品偽装の発覚など、食を取り巻く環境が大きく変化する中、食への関心は依然として高く、一定の市民ニーズがあり、本事業継続の必要性は高いと考えられます。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・本市の食育推進の取組として一般市民を広く対象とした事業が少ないため、啓発の機会が料理教室の場等にとどまり、成果目標を達成できていない状況なので、広く一般に本市の食育の取組を十分に周知できていません。事業内容やそれに伴う広報・啓発のやり方について見直す必要があります。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・食育の考え方を広く普及・啓発していくあたり、各種イベント等での効果的なPR方法について検討していく必要があります。 ・関係団体を積極的に活用することで、より効率的かつ効果的な事業の実施が見込まれるので、各種団体との連携を強化する必要があります。										

事務事業の概要	事務事業名	環境保全型農業直接支払事業			担当課	農林振興課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	831
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3	産業・交流		
		項	1 農業費				施策目標	1	農業振興・産業振興		
		目	3 農業振興費				基本施策	1	地域の特性を生かした農業振興		
取組方針				2	農業経営の安定と強化						
事業概要	農業者団体が環境保全型農業の推進を図るために、地球温暖化防止や生物多様性保全に効果の高い営農活動や推進活動に対する支援を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	環境保全型農業直接支払交付金事業			⑤				⑨		
	②	環境保全型農業直接支払推進事業			⑥				⑩		
	③				⑦				⑪		
	④				⑧				⑫		

指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	取組団体数	件	目標	3	3	3	3	3	取組団体数、取組団体の構成員数ともに横ばいです。	
			実績	3	3	3					
	<指標の計算方法>		環境保全型農業直接支払交付金を受け活動を行う団体等の総数								
	成果指標	取組面積	a	目標	600	700	700	700	700	新たな農地を取得するなど、取組面積は増加傾向です。	
			実績	620	665	646					
	<指標の計算方法>		各団体等の取組総面積								
	成果指標	推進活動回数	回	目標	9	9	9	9	9	活動回数は横ばいですが、新たな活動を入れ替えて行うなど積極的な推進活動が行われています。	
			実績	8	9	7					
	<指標の計算方法>		各団体等の推進活動の総回数								
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											

コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)		財源内訳				
	867		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他
		621				246	

事業の実績	<p>①環境保全型農業直接支払交付金事業 地球温暖化防止、生物多様性保全等に貢献していくため、より環境保全に効果の高い営農活動を行う農業者団体等に補助を行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 取組団体数：3件 構成員人数：16人 取組み面積：646 a 推進活動数：7回 										
	<p>②環境保全型農業直接支払推進事業 環境保全型農業直接支払交付金事業の適正かつ円滑な実施の促進に資するため、推進事業を実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施状況の確認事務 16件 有機質肥料施用、低農薬防除の推進 										

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
		<ul style="list-style-type: none"> まだまだ慣行栽培が主流で、リスクを伴う環境保全型農業に取り組む農業者が少ないのが現状ですが、農業の有する多面的機能の発揮を促進するためにも、積極的な事業周知を図っていく必要があります。 									
効率性	評価結果	改善の余地がない									
<ul style="list-style-type: none"> 事業の実施方法は、国の実施要項、要領に基づき実施しています。 負担割合についても定められた要項に基づき実施しています。 											

事務事業の概要	事務事業名	農業振興地域整備計画事業			担当課	農林振興課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	77
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流			
		項	1 農業費				施策目標	1 農業振興・産業振興			
		目	3 農業振興費				基本施策	2 均衡の取れた農村や農地の整備			
事業概要	農地の無秩序な開発の防止や良好な営農環境の確保を図るために、農業振興地域内の農用地の変更申出の審査及び農用地利用計画の変更を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	農業振興地域整備促進協議会運営			⑤			⑨			
	②	農業振興地域整備計画管理			⑥			⑩			
	③				⑦			⑪			
	④				⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	成果指標	農用地区域変更件数	件	目標						農用地区域変更件数については、年度毎にばらつきがあります。	
			実績	67	70	47					
	<指標の計算方法>		農用地区域変更申出を精査し受付した件数の内、県同意を得て変更した件数								
	成果指標	農用地区域除外面積	a	目標						農用地区域除外面積については、令和元年度は、都市計画の土地利用規制誘導方針に基づく用途地域指定に伴う除外が実施されたため大幅に増加していましたが、今年度は減少するなど年度毎にばらつきがあります。	
			実績	658	7,210	372					
	<指標の計算方法>		農用地区域からの変更で除外した農用地面積								
成果指標	農用地区域編入面積	a	目標						農用地区域編入面積については、年度毎にばらつきがあります。		
		実績	252	28	117						
<指標の計算方法>		農用地区域からの変更で編入した農用地面積									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	332			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
								3	329		
事業の実績	①農業振興地域整備促進協議会運営 農業振興地域整備促進協議会 3回開催										
	②農業振興地域整備計画管理 計画変更回数 3回 農用地区域への編入 4件 117 a 農用地区域から除外 43件 372 a										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・本事務事業は、農業振興地域の整備に関する法律及び関連法令に基づく市の義務的事務であるため、市が実施主体となっている事務です。 ・良好な営農環境を守りながら、市民の農地転用のニーズに対しても適正に応えるため、農地と農地以外の土地の合理的な利活用の調整を図る事務でもあり、継続する必要性が高い事務だといえます。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・宅地化が進んでいるエリアでは、計画と現況との乖離が大きくなっており、土地利用の実情を踏まえて計画期間を概ね10年としている農業振興地域整備計画の全面見直しが必要です。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
		・コア業務以外の事務処理を会計年度任用職員に置き換えるなど、コスト削減の余地はあります。									

事務事業の概要	事務事業名	農業振興施設管理運営事業			担当課	農林振興課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	790
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流			
		項	1 農業費				施策目標	1 農業振興・産業振興			
		目	4 農業施設費				基本施策	1 地域の特性を生かした農業振興			
事業概要	農業振興施設が農業振興や住民の公共の福祉に寄与するために、施設管理を適切に行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	桃源郷学習体験館施設管理			⑤	西の池かんがい用水施設管理		⑨			
	②	農村改善センター施設管理			⑥			⑩			
	③	農村婦人の家施設管理			⑦			⑪			
	④	農産物直売所施設管理			⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	成果指標	桃源郷学習体験館施設利用回数	目標	170	170	170	170	170	新型コロナウイルス感染症の影響で約一か月休館していたことや外出の自粛で利用件数が減少している。		
			実績	175	164	117					
	<指標の計算方法>		有料施設使用許可申請書受付枚数								
	成果指標	農村改善センター施設利用回数	目標	380	380	380	380	380	新型コロナウイルス感染症の影響で約一か月休館していたことで利用回数は減っている。		
			実績	363	374	339					
	<指標の計算方法>		農村改善センター貸出予定及び実績報告書における施設利用回数								
	成果指標	農村婦人の家施設利用回数	目標	190	190	190	190	190	新型コロナウイルス感染症の影響で約一か月休館していたことや、普段利用する団体の使用自粛の影響で利用回数が減少している。		
			実績	171	202	146					
	<指標の計算方法>		農村婦人の家使用予定表における施設利用回数								
成果指標	桃源郷学習体験館一般来場者数	目標	1,900	1,900	1,900	1,900	1,900	新型コロナウイルス感染症の影響で約一か月休館していたことや、外出自粛で来場者数が減少している。			
		実績	1,660	1,876	1,610						
<指標の計算方法>		桃源郷学習体験館一般来場者数による来場者数									
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	9,144			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	129	9,015
事業の実績	①桃源郷学習体験館施設管理 施設利用回数 117回 一般来場者数 1,610人										
	②農村改善センター施設管理 施設利用回数 339回										
	③農村婦人の家施設管理 施設利用回数 146回										
	④農産物直売所施設管理 指定管理者制度により管理運営を行いました。										
	⑤西の池かんがい用水施設管理 電気設備の定期点検を委託により行いました。										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がややある								
		・市の所有施設であるため市の関与は必要な施設であるが、耐震性が無く老朽化が進んでいることもあり、統廃合の検討が必要です。 ・農村改善センターは、粉河公民館長田分館と併設され、農村婦人の家は、近隣に粉河公民館川原分館が存在します。利用実態も生涯学習及び生涯スポーツ活動での利用が多いことから、それらの事業との統廃合の検討が必要です。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・農村改善センターと農村婦人の家は、農業経営や生活の改善、農村在住者の健康増進と住民相互の親睦を図り、住みよい地域づくりを目的に設置されていますが、建設当初とは農村の生活環境も大きく変化していることから、農業振興施設の位置づけでの効果には疑問が残ります。 ・両施設とも地域住民には必要な集会所等の地域コミュニティ機能を有していることから、統廃合には自治区を含めた慎重な検討が必要です。											
効率性	評価結果	改善の余地が大きい									
	・農村交流施設（切畑ふれあい市場）については、指定管理者制度を導入して経費の削減を図っていますが、青洲の里での農産物直売所の建設計画が進んでいることから統廃合の検討が必要です。 ・農村改善センターと農村婦人の家は、その利用実態から教育施設への移管、自治区への移管、指定管理者制度の活用といった検討が必要です。										

事務事業の概要	事務事業名	青洲の里管理運営事業			担当課	農林振興課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	972
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流			
		項	1 農業費				施策目標	1 農業振興・産業振興			
		目	4 農業施設費				基本施策	1 地域の特性を生かした農業振興			
事業概要	利用者に情報発信・休憩・地域交流をはじめとする各種サービス・機能の提供を行うために、青洲の里の施設管理及び広報活動を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	青洲の里施設管理			⑤				⑨		
	②	青洲の里管理運営委託			⑥				⑩		
	③	全国道の駅連絡会負担金			⑦				⑪		
	④	近畿道の駅連絡会負担金			⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	成果指標	フラワーヒルミュージアム年間入場者数	人	目標	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	新型コロナウイルス感染症対策のための休業及び国・県の外出自粛措置が影響していると考えられる。	
			実績	39,861	33,404	18,831					
	<指標の計算方法>		青洲の里フラワーヒルミュージアムへの年間入場者数								
	成果指標	春林軒年間入場者数	人	目標	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	新型コロナウイルス感染症対策のための休業及び国・県の外出自粛措置が影響していると考えられる。	
			実績	7,778	7,441	5,956					
	<指標の計算方法>		春林軒・展示室の年間入場者数								
	成果指標	EV充電器利用回数	回	目標	1,380	1,380	1,380	1,380	1,380	利用ユーザー数は210→191に減少しているが、年間100回以上利用ユーザーが2人→3人に増加している。	
			実績	755	1,100	1,246					
	<指標の計算方法>		青洲の里駐車場EVステーション利用回数								
活動指標	情報発信回数	回	目標	70	70	100	100	100	FacebookのほかTwitterやInstagramへの投稿に取り組んでいる。		
		実績	92	107	105						
<指標の計算方法>		青洲の里フェイスブック更新回数									
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	31,853			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	270 31,583	
事業の実績	①青洲の里施設管理 ・修繕 春林軒蔵屋根（北面）改修 各所サイン修繕 ・工事 付属建物改修工事 蓮池栈橋撤去 ・管理 EV急速充電機、Wi-Fi等			④近畿道の駅連絡会負担金 負担金 27,000円							
	②青洲の里管理運営委託 ・一般財団法人青洲の里と管理及び運営に関する協定書を締結し、指定管理者による管理運営業務を行いました。 期間：令和3年4月1日～令和8年3月31日										
	③全国道の駅連絡会負担金 負担金 20,000円										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・農業振興と地域住民のコミュニティ活動及び市民と都市住民の交流等の拠点としての位置づけのもと、市が設置したものであることから、管理運営については市が当然実施すべきものと考えられます。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・指定管理者制度を導入による民間のノウハウや経営手法が発揮されつつある状況です。年々入場者数が減少傾向にあり、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策を実施するとともに、集客力を高める取り組みを実施していく必要があります。 ・春林軒及び展示室については、華岡青洲の偉業を発信し、施設の新たな魅力を創造するため、指定管理者や頭取会事務局と協議し、企画展示等を発案していく必要があります。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・道の駅としての機能など、集客が必要となる施設であることから、運営に関しては民間のノウハウを活用できる指定管理者制度を導入していきます。 ・指定管理委託料については、指定管理者の経営手法が存分に発揮できれば削減の余地はあります。										

事務事業の概要	事務事業名		青洲の里整備事業				担当課		農林振興課		事業区分	ハード事業	
	会計		一般会計				新規・継続	新規	事業期間	期間限定複数年度 (H30 ~ R 2)		事業番号	1017
	予算科目	款	6 農林業費		長期総合計画体系	政策目標	3	産業・交流					
		項	1 農業費			施策目標	1	農業振興・産業振興					
		目	4 農業施設費			基本施策	1	地域の特性を生かした農業振興					
事業概要		市民、利用者のさらなる利便性の向上を図るために、青洲の里の再整備を行う事業											
事務事業を構成する細事業		①	農産物直売所建設		⑤			⑨					
		②			⑥			⑩					
		③			⑦			⑪					
		④			⑧			⑫					
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析				
	成果指標	設計業務進捗率	目標	20	100				令和元年度で設計業務完了しています。				
			実績	20	100								
	<指標の計算方法>		直売所新築工事の設計業務の進捗率										
	成果指標	建設工事進捗率	目標			50	100		農産物直売所棟及び便所・休憩所棟は立ち上がっており内装施工しています。既存直売所解体撤去及び既存本館浄化槽入替は完了しています。駐車場整備は来場者の安全を確保し施工しています。				
			実績			59							
	<指標の計算方法>		直売所新築工事の進捗率										
		目標											
		実績											
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	180,133			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	32,268			
事業の実績	①農産物直売所建設												
	<p>工期：令和2年6月15日～令和3年8月31日</p> <ul style="list-style-type: none"> 農産物直売所棟新築 便所・休憩所棟新築 障がい者駐車場上屋新築 既存直売所解体撤去（完了） 既存本館浄化槽入替え（完了） 駐車場整備 北側駐車場整備 <ul style="list-style-type: none"> 公共施設等木造木質化支援事業補助金 640,000円 二酸化炭素排出抑制対策事業費補助金（省エネ型浄化槽システム導入推進事業）8,925,000円 												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・農業の振興と地域住民のコミュニティ活動及び市民と都市住民との交流等の拠点施設として位置づけのもと、市が設置した施設であることから、その活性化対策を実施することに市が関与することは妥当と言えます。											
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
・道の駅に農産物直売所を併設することにより、周辺農家の活性化を促すとともに、道の駅としての新たな魅力を発信することができます。・幹線道路に面した道の駅でないため、目的を持って訪れてもらう必要があります。例えばフルーツに重点を置いた直売所として特徴づけ、フルーツ王国紀の川市を発信しながら集客につなげることができます。													
効率性	評価結果	改善の余地がない											
	・入札により最も安価に業務執行を行うことができます。												

事務事業の概要	事務事業名	農業施設整備事業			担当課	農林整備課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	756
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流			
		項	1 農業費				施策目標	1 農業振興・産業振興			
		目	5 農地費				基本施策	2 均衡の取れた農村や農地の整備			
事業概要	農業従事者等が利用する農業用施設の長寿命化や農業基盤の整備充実を図るために、関連団体への補助金の交付や農道の維持管理を行う事業										
事務事業を構成する細事業	① 県土地改良事業団体連合会負担金		⑤ 県棚田等保全連絡協議会負担金		⑨						
	② 国営造成施設管理体制整備促進事業負担金		⑥ 冬期通水負担金		⑩						
	③ 県ため池保全整備連絡協議会負担金		⑦ 農業用施設整備補助金		⑪						
	④ 県ダム・発電関係協議会負担金		⑧		⑫						
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	成果指標	農業用施設整備補助金の補助件数	目標	45	59	51	46	60	年度途中の追加認定及び申請取り下げにより変動するが、最終的に増加する傾向にあります。		
			実績	63	100	81					
	<指標の計算方法>		交付要綱に基づき補助金を交付した件数								
	成果指標	整備箇所全体延長【農道・水路】	目標	1,355	1,905	1,266	1,123	1,000	年度途中の追加認定及び申請取り下げにより変動しました。		
			実績	2,102	1,644	1,180					
	<指標の計算方法>		整備した農道、水路の延長								
	成果指標	整備箇所全体箇所【ため池・農業用施設】	目標	8	11	14	5	11	年度途中の追加認定及び申請取り下げにより変動するが、最終的に増加する傾向にあります。		
			実績	14	23	26					
	<指標の計算方法>		整備したため池、農業用施設の箇所数								
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	37,348			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
			37,348								
事業の実績	①県土地改良事業団体連合会負担金 ②国営造成施設管理体制整備促進事業負担金 ③県ため池保全整備連絡協議会負担金 ④県ダム・発電関係協議会負担金 ⑤県棚田等保全連絡協議会負担金 ⑥冬期通水負担金 ・小田井土地改良区、荒見井土地改良区、藤崎井土地改良区、安楽川井土地改良区、貴志川土地改良区に冬季通水負担金を支出しました。 ⑦農業用施設整備補助金 ・補助金交付件数 81件 整備実績 農道 15件 253m 水路 40件 927m ため池 16件 16箇所 施設 10件 10箇所										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・農業施設を維持するにあたり、国・県の採択条件に満たない事業であり、施設の老朽化や豪雨により破損した箇所を早急に修繕したいとの要望が多く、迅速に対応が出来る事業です。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・緊急性が高い地元要望については、年度途中においても追加事業採択を行い早急に改修し、農産物の生産性・農業経営の安定が図られています。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
・本事業は農業用施設補修等の工事に対し補助金を交付する事業であり、地元関係者の認知は高く要望も多い。修繕箇所の早期解消に向けて、手順良く事業の活用を進めています。											

事務事業の概要	事務事業名	農村公園管理事業			担当課	農林整備課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1085	
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流				
		項	1 農業費				施策目標	1 農業振興・産業振興				
		目	5 農地費				基本施策	2 均衡の取れた農村や農地の整備				
事業概要	市民の憩いの場として有効活用するために、農村公園の施設管理を適切に行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	農村公園等管理業務			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	現地確認回数	目標	24	24	24	24		各公園の点検を月2回行うことで、故障等不具合箇所の早期発見、早期対処することが出来ました。			
			実績	24	30	24						
	<指標の計算方法>		現地確認回数									
	活動指標	修繕件数	目標						経年劣化等により修繕箇所が増加しています。日常から小規模な修繕をきめ細やかに行うことにより、大規模改修費用が抑制できています。			
			実績	3	5	5						
<指標の計算方法>		公園施設の修繕件数										
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	3,339			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		3,339	
事業の実績	①農村公園等管理業務 ・桜つつみ公園・北浦農村公園 場所：名手西野・北浦地内 業務内容：草刈(年2回) 消毒(年2回) トイレ清掃・施設清掃 修繕箇所：公園内栓改修 一式 浄化槽マンホール取替 一式 浄化槽ミニフロート取替 一式 男子トイレ手洗器修理 一式 ・はりま池公園 場所：貴志川町丸栖地内 修繕箇所：マルチハロゲン灯 一式											
	・南中ふれあい公園 場所：南中地内 業務内容：草刈(年2回) 消毒(年2回) トイレ清掃・施設清掃 ・曾池ふれあい公園 場所：桃山町調月地内 業務内容：清掃・草刈・消毒											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・市が設置している公園施設であり、公園利用者に快適に利用してもらえるよう維持管理は必要です。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・月2回の定期点検を目標に行うことにより、故障箇所の早期発見と早期対応することができ、安全かつ快適に利用することが出来る。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・はりま池公園管理については地元管理しており、定期点検時に消耗品の補給と修繕を行っている。 ・北浦農村公園・桜つつみ公園・南中ふれあい公園の管理については、シルバー人材センターに依頼しているため、公園での問題点が発生した場合でも早急に対応できます。 ・曾池ふれあい公園の維持管理は、清掃・草刈・消毒作業を地元へ管理依頼している。											

事務事業の概要	事務事業名		県営広域営農団地農道整備事業				担当課	農林整備課		事業区分	ハード事業						
	会計		一般会計				新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度 (H28 ~ R 4)		事業番号	759				
	予算科目	款	6 農林業費				長期総合計画体系	政策目標	3	産業・交流							
		項	1 農業費					施策目標	1	農業振興・産業振興							
		目	5 農地費					基本施策	2	均衡の取れた農村や農地の整備							
事業概要		農業従事者等が生産から流通にいたる一貫した広域産地体制化と市場圏拡大を図れるように、県営工事で農道の整備を行う事業															
事務事業を構成する細事業		①	県土地改良事業団体連合会負担金			⑤					⑨						
		②	県営紀の里地区広域営農団地農道整備事業負担金			⑥					⑩						
		③				⑦					⑪						
		④				⑧					⑫						
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析								
	成果指標	事業進捗率	%	目標	79.1	81.8	87.4	95.9	100	令和3年度完成に向け、事業主体の県と地元関係者が円滑に進むように調整し、工事を進めていたが、令和4年度に延期されたことにより、今後、県と工程の進捗について調整が必要							
				実績	76.2	81	87.1										
	<指標の計算方法>		実施事業費/総事業費														
			目標														
			実績														
	<指標の計算方法>																
			目標														
			実績														
	<指標の計算方法>																
		目標															
		実績															
<指標の計算方法>																	
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳													
	99,145			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	23,345							
事業の実績	①県土地改良事業団体連合会負担金 ・事業費に応じた負担金を支出しました。																
	②県営紀の里地区広域営農団地農道整備事業負担金 ・工事実施 道路工 1068.0m (荒見) 橋梁工 上部1橋 (荒見) ・業務委託 法面对策工設計業務 一式 (荒見)																
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない														
		・本事業は2市2町を広域的に整備する事業であるため県営で実施しており、事業主体である県と地元との調整を図り事業を進めることが必要です。															
	有効性	評価結果	改善の余地がない														
・長期間継続している事業であり、事業計画による事業効果発現の面からも早急に事業完了することで有効な効果を生むため、現状を維持しつつ事業を進めています。																	
効率性	評価結果	改善の余地がない															
	・本事業は県営事業であることから、現状を継続していくことが最も効率的に事業を行えている。																

事務事業の概要	事務事業名	県営ため池等整備事業		担当課	農林整備課			事業区分	ハード事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	763	
	予算科目	款	6 農林業費		長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心				
		項	1 農業費			施策目標	1 防災・防犯				
		目	5 農地費			基本施策	3 災害に強いまちの形成				
事業概要	ため池下流の市民に対して地震、豪雨等の災害による被害を未然に防止出来るよう、県営工事により、ため池の改修を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	県土地改良事業団体連合会負担金		⑤			⑨				
	②	県営ため池等整備事業負担金		⑥			⑩				
	③			⑦			⑪				
	④			⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	年度毎事業実施地区数	地区	目標	6	6	5	7	13	全面改修2箇所、部分改修3箇所を実施し、早期着手するため測量設計5箇所を追加し、本年度10箇所を実施しました。	
			実績	4	8	10					
	<指標の計算方法>		測量設計及び改修工事を実施した地区数								
	成果指標	年度毎改修工事完了地区数	地区	目標	1	3	2	1	4	全面改修1箇所、部分改修2箇所完了しました。	
			実績	1	3	3					
	<指標の計算方法>		改修工事が完了した地区数								
				目標							
				実績							
	<指標の計算方法>										
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	19,004			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	646	
事業の実績	①県土地改良事業団体連合会負担金 ・事業費に応じた負担金を支出しました。 改修ため池 10箇所			(全面改修) ・熊ノ倉池(貴志川町国主) 測量設計 一式							
	②県営ため池等整備事業負担金 ◎全面改修工事 ・中の池(桃山町最上) 洪水吐工・法面保護工 一式 ・野上大池(野上) 仮設道路・取水施設工 一式 ◎部分改修工事 ・小池(東大井) 緊急放流工・洪水吐工 一式 ・野末池(上田井) 緊急放流工・洪水吐工・仮設工 一式 ・佐川池(重行) 取水施設工 一式 ◎測量設計業務			・知谷池(北勢田) 測量設計 一式 ・上広野池(赤尾) 測量設計 (部分改修) 一式 ・上新池(麻生津中) 測量設計 一式 ・三ツ池下池(荒見) 測量設計 一式							
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・現在多発する集中豪雨や近年発生が懸念されている地震によるため池の決壊を防止する目的とし、ため池の各施設の改修や防災対策等ハード事業としては効果的です。 ・国庫補助事業であり、採択基準により市・地元負担金が少なく効果がある県営事業で実施しています。 ・市内に存在する多くのため池すべて実施出来るものではないため、被害の大きいため池から事業推進していく必要があると思われる。								
	有効性	評価結果	改善の余地がない ・本事業は県営事業であり、県の各種事業計画で定められた計画に基づいて実施されており、計画どおり進んでいます。								
	効率性	評価結果	改善の余地がない ・ため池の改修及び防災対策事業の中で受益者及び市の負担が最も軽減できる事業であり、事業効果も大きいことから現状で妥当と考えます。県主体で事業を行っており、地元調整についても県・市が連携しながら効果的に進めています。								

事務事業の概要	事務事業名	県営耕作放棄地解消・発生防止基盤整備事業（下丹生谷地区）			担当課	農林整備課		事業区分	ハード事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度（H30～R2）		事業番号	765	
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流				
		項	1 農業費				施策目標	1 農業振興・産業振興				
		目	5 農地費				基本施策	2 均衡の取れた農村や農地の整備				
事業概要	農業従事者等が営農効率の向上を図り優良な農地を確保できるように、県営工事で下丹生谷地区のほ場整備や農道整備を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	換地精算金			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名	単位		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	指標の分析			
	成果指標 事業進捗率	%	目標	87.5	100	100			換地精算金を支出し、事業は完成しました。			
			実績	90.4	97.7	100						
	<指標の計算方法>		実施事業費÷全体事業費×100									
		目標										
		実績										
	<指標の計算方法>											
	目標											
	実績											
<指標の計算方法>												
	目標											
	実績											
<指標の計算方法>												
コストの実績	R2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	15,358			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	15,358		
事業の実績	①換地精算金 ・換地精算金を支出しました。 【R1繰越明許】 換地精算金 15,358,260円											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・耕作放棄地が全国的な増加傾向にある中、優良農地の確保の観点からその解消・発生防止が喫緊の課題となっている。本事業は、基盤整備を契機とした耕作放棄地の解消・発生防止に向けた地域の取組を支援し事業主体である県と地元との調整を図り営農作業効率の向上を目指すことを目的とした適切な事業であります。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・本事業は県営事業であり、県で定められた各種計画に基づき実施されており、市の事業計画も県の事業計画に基づいております。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・県と市が連絡をとり協力し合い調整することにより事業の進捗率が上がり、また、県営事業で実施することで受益者及び市の負担軽減が図られ、事業効果も大きいと考える。											

事務事業の概要	事務事業名	県営農業競争力強化基盤整備事業（尼寺地区）			担当課	農林整備課		事業区分	ハード事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度（H30～R5）		事業番号	1011	
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3	産業・交流			
		項	1 農業費				施策目標	1	農業振興・産業振興			
		目	5 農地費				基本施策	2	均衡の取れた農村や農地の整備			
事業概要	農業従事者等が農業競争力の強化を図れるように、県営工事で尼寺地区のほ場整備や農道整備を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	県土地改良事業団体連合会負担金			⑤				⑨			
	②	県営農業競争力強化基盤整備事業負担金			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名	単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	成果指標	事業進捗率	%	目標	3.7	22.1	36.8	61	事業発注については、約1年半をかけて工事を行う計画をしているが、作付期間を鑑み地元協議会と事業量の調整を図った結果、実績値が減少しました。			
				実績	7.4	25.4	33.8					
	<指標の計算方法>		実施事業費÷全体事業費×100									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	12,356			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
				372	5,300		5,700	984				
事業の実績	①県土地改良事業団体連合会負担金 ・事業費に応じて負担金を支出しました。											
	②県営農業競争力強化基盤整備事業負担金 ・ほ場整備工 6.8ha											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・本地区は、まとまりのある未整備農地を区画整理して、農業経営の担い手への農地利用集積を図ることで地域農業の安定を目指すものであり、事業主体である県と地元との調整を図り営農作業効率の向上を目指すことを目的とした事業です。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・長期間継続していく事業であり、事業計画による事業効果発現の面からも早急に事業を完了することが有効な効果を生むため、現状を維持しつつ事業を進めることが有効です。 ・事業発注については、約1年半をかけて工事を行う計画をしているが、作付期間を鑑み地元協議会と事業量の調整を図った結果、実績値が減少したが、今後事業期間の見直しを行い対応していく。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・本事業については県営事業であり、県と市が連携をとりながら調整することにより、事業の進捗率向上が図られます。											

事務事業の概要	事務事業名	国営総合農地防災事業			担当課	農林整備課		事業区分	ハード事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度 (H27 ~ R7)		事業番号	905	
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心				
		項	1 農業費				施策目標	1 防災・防犯				
		目	5 農地費				基本施策	3 災害に強いまちの形成				
事業概要	市民が農業地域の湛水被害から安全が確保されるように、国営事業により湛水被害の軽減を図る事業											
事務事業を構成する細事業	①	水路清掃委託料			⑤				⑨			
	②	県土地改良事業団体連合会負担金			⑥				⑩			
	③	国営総合農地防災事業負担金			⑦				⑪			
	④	国営総合農地防災関連事業（県営）負担金			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	指標の分析			
	活動指標	年度事業実施箇所数	箇所	目標	2	3	2	2	2	事業計画により測量設計・改修工事に着手し実施している箇所数で国営事業1箇所、県営事業（嶋地区）水路工・（丸栖北地区）測量設計一式が順調に進んでいます。		
		<指標の計算方法>	測量設計及び改修工事実施数									
			実績	2	3	3						
			目標									
			実績									
			<指標の計算方法>									
		目標										
		実績										
		<指標の計算方法>										
コストの実績	R2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	38,924			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
					34,300		1,600	3,024				
事業の実績	①水路清掃委託料 ・岡田排水路清掃業務委託 排水路内土砂等清掃 2.4m ³											
	②県土地改良事業団体連合会負担金 県営嶋地区の事業について負担金を支出しました。											
	③国営総合農地防災事業負担金 市道整備部分の負担金を支出しました。 ・安楽川井C水路整備工事 3-4工区 ボックスカルパート L=117.9m 桃山町元 道路整備工事 L=117.9m											
	④国営総合農地防災関連事業（県営）負担金 ・県営嶋地区 水路工 L=230.0m ・県営丸栖北地区 測量設計 一式											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・国主体の防災事業及び関連県営事業であり、現在多発する集中豪雨による湛水被害の軽減を目的とした事業であるため必要である。水路改修を行う箇所は道路幅員が狭く緊急車両も進入できない為、水路改修と同時に道路拡幅工事を行っており、また、県営嶋地区排水路事業及び県営丸栖北地区排水機場事業についても湛水被害の軽減を図るため、国営・県営事業に対し負担金の支出が必要になります。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・本事業は国営・県営事業であり、国・県の計画事業で定められた計画に基づき実施されている。現在の進捗も計画どおりです。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・国・県の防災対策事業で市の負担が少なくなる事業であり、国・県の同時施工により事業効果が大きく影響する。											

事務事業の概要	事務事業名	多面的機能支払交付金事業			担当課	農林整備課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	770	
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流				
		項	1 農業費				施策目標	1 農業振興・産業振興				
		目	5 農地費				基本施策	2 均衡の取れた農村や農地の整備				
事業概要	農業従事者等が農業・農村の有する多面的機能を適切に維持・発揮できるように、対象地域の各活動組織に対して交付金の交付を行い、地域の共同活動の支援を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	多面的機能支払事業推進			⑤				⑨			
	②	多面的機能支払交付金事業			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	成果指標	事業認定面積	目標	181,804	179,483	188,046	188,000	188,000	R1年度の実績面積より新たに1組織が取組を始めたので、認定面積が増加しました。			
			実績	180,436	172,619	176,197						
	<指標の計算方法>		事業認定面積の実績									
	成果指標	活動組織数	目標	53	54	51	55	55	新たに1組織が取組を始めました。役員の高齢化等により、今後活動を終了する組織が増加する恐れがあります。			
			実績	53	51	52						
	<指標の計算方法>		活動組織数									
活動指標	個別説明会、個別相談の開催回数	目標	5	5	5	5	5	事業の周知のおかげで新規に活動を検討している3地区で説明が出来ました。今後も事業への周知に取り組んでいく必要があります。				
		実績	2	1	3							
<指標の計算方法>		個別説明会、個別相談の開催回数										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	107,585			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			79,898						27,687			
事業の実績	①多面的機能支払推進事業 ・活動内容の指導 52組織 ・現地確認の実施 52組織											
	②多面的機能支払交付金事業 活動内容 組織数 認定面積 ・農地維持支払 52組織 176,197a ・資源向上支払 (共同活動) 47組織 161,938a ・資源向上支払 (長寿命化) 47組織 165,704a											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・法制化された国の事業であり、地域の農業用施設の草刈りや泥上げ、改修等に交付金を交付するもので、地域の環境保全活動に対して市が支援することは必要です。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・農業用施設の維持管理や補修更新、花の植栽などの景観活動が地域で行われており、有意義な事業となっています。また、地域住民の参加により一体感や農業者と非農業者、高齢者と若年層のコミュニケーションの機会が増加するなど、地域の結びつきも強くなっています。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・国からの要綱・要領に基づいて事業を行っているので、事業費の削減の余地はありません。 ・活動組織の事務処理能力を向上させることで、提出された書類の審査などの時間は削減できます。											

事務事業の概要	事務事業名	中山間地域等直接支払事業			担当課	農林整備課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	73	
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流				
		項	1 農業費				施策目標	1 農業振興・産業振興				
		目	5 農地費				基本施策	2 均衡の取れた農村や農地の整備				
取組方針				3 地域一体となった農地の多面的利用の促進								
事業概要	中山間地域の協定者が農業生産活動の促進を図るために、交付金の交付を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	中山間地域等直接支払事業推進			⑤			⑨				
	②	中山間地域等直接支払交付金			⑥			⑩				
	③				⑦			⑪				
	④				⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	成果指標	協定面積	目標	52,305	51,801	51,932	40,922	40,922	協定の見直し時期であり、高齢化や担い手不足等により、組織を継続できなくなり、協定面積が減少しました。			
			実績	51,801	51,932	40,922						
	<指標の計算方法>		制度の対象農用地の合計面積									
	活動指標	協定件数	目標	47	47	47	43	43	協定の見直し時期であり、高齢化や担い手不足等により、組織を継続できなくなり、件数が減少しました。			
			実績	47	47	43						
	<指標の計算方法>		中山間地域の農用地を維持・管理していくための協定を締結している集落数									
	活動指標	協定参加人数	目標	669	666	665	527	527	協定の見直し時期であり、高齢化や担い手不足等により、組織を継続できなくなり、参加人数が減少しました。			
			実績	666	665	527						
	<指標の計算方法>		5年間農業生産活動等を継続する農業者の合計数									
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	52,397			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			38,921			13,476						
事業の実績	①中山間地域等直接支払推進事業 ・活動内容の指導 43件 ・現地確認の実施 43件											
	②中山間地域等直接支払交付金事業 ・地区名 協定数 参加人数 協定面積 打田 2件 15人 807a 粉河 29件 336人 23,314a 那賀 8件 162人 15,073a 桃山 2件 9人 1,270a 貴志川 2件 5人 458a 合計 43件 527人 40,922a											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・中山間地域等直接支払制度は、中山間地域等の多面的機能を有している農用地を農業生産活動を通じて維持継続して管理することを条件として、協定地域に交付金の支払いをしている。 ・中山間地域等では、今後さらに農業就業人口の減少や高齢化の進行と担い手不足等により、耕作放棄地の増加等、多面的機能の維持が難しくなるため、事業を行うことにより耕作放棄地の発生防止につながっている。 ・国の政策によるものであるため、交付金の交付や協定集落への指導など、今後も市で実施していく必要があります。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・国の要綱・要領において、市の役割が位置付けられているため、事務事業のやり方や進め方の見直しが出来ない。 ・協定期間である5年間は、新たな耕作放棄地の発生防止につながっています。 ・高齢化や担い手不足を抑制する意識付けが必要になってきます。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
		・国の要綱・要領において、対象農用地の条件により面積当たり支払額が定められており事業費の削減余地はない。										

事務事業の概要	事務事業名	農業基盤整備促進事業			担当課	農林整備課			事業区分	ハード事業				
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	887			
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3	産業・交流					
		項	1 農業費				施策目標	1	農業振興・産業振興					
		目	5 農地費				基本施策	2	均衡の取れた農村や農地の整備					
	事業概要	農業従事者等の減少を止め、生産効率の向上と農業競争力の強化を図るために、狭小で不整形な農地の整備や排水不良、農業用水の不足等の農業用施設等の整備を行う事業												
事務事業を構成する細事業	①	整備工事			⑤					⑨				
	②	県土地改良事業団体連合会負担金			⑥					⑩				
	③				⑦					⑪				
	④				⑧					⑫				
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析					
	成果指標	整備箇所数	箇所	目標	1	2	2	1	調月地区は繰越工事完了により断面不足が解消できた。また、藤井地区については素掘り水路から三面水路に改修ができた。					
			実績	2	1	2								
	<指標の計算方法>		整備工事箇所											
			目標											
			実績											
<指標の計算方法>														
		目標												
		実績												
<指標の計算方法>														
		目標												
		実績												
<指標の計算方法>														
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳										
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源					
		32,864			19,620			8,590	4,654					
事業の実績	①整備工事 ・1件 藤井水路改修 L=188m ②県土地改良事業団体連合会負担金 ・事業費に応じた負担金を支出。 【R1繰越明許】 工事請負費 10,000,100円 ・1件 調月水路改修 L=74m 県土地改良事業団体連合会負担金 50,000円													
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない											
			・受益者からの申請により実施する土地改良事業であり、事業主体が県営となりえない規模の事業内容が対象であることから、事業内容、事業費負担の面からも必要な事業である。											
	有効性	評価結果	改善の余地がない											
		・土地改良事業計画書に基づき各年度事業を振り分けており、また、地元負担が必要な事業であり地元関係者と調整して実施するため、地元の事業理解度は高く、計画的な事業実施が可能である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない												
		・基盤整備事業を活用することにより地元負担の軽減や市単費の削減となり事業効果も大きい。												

事務事業の概要	事務事業名		震災対策農業水利施設整備事業				担当課		農林整備課		事業区分	ソフト事業	
	会計		一般会計				新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	904
	予算科目	款	6 農林業費		長期総合計画体系		政策目標		1	安全・安心			
		項	1 農業費				施策目標		1	防災・防犯			
		目	5 農地費				基本施策		3	災害に強いまちの形成			
事業概要		市民が震災に起因する災害に備えるべく、ため池の調査、検討を行い、事業計画を作成する事業											
事務事業を構成する細事業	① 調査業務		⑤				⑨						
	②		⑥				⑩						
	③		⑦				⑪						
	④		⑧				⑫						
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析				
	活動指標	ため池改修の推進	目標	4	3	3			地元区長・水利組合等にため池改修について推進しました。				
			箇所	実績	4	3	3						
	<指標の計算方法>		ため池改修計画推進を開催した箇所数										
	成果指標	ため池改修計画策定箇所数	目標	4	3	2			ため池改修を実施するため池について、事業計画書を作成しました。				
			箇所	実績	3	3	2						
	<指標の計算方法>		ため池改修計画書を作成した箇所数										
	活動指標	ため池ハザードマップワークショップ開催回数	目標	10					国の事業変更により、令和元年度から別事業で実施することとなった。				
			回	実績	15								
	<指標の計算方法>		ワークショップ										
成果指標	ため池ハザードマップ作成ため池数	目標	56					国の事業変更により、令和元年度から別事業で実施することとなった。					
		箇所	実績	91									
<指標の計算方法>		ため池下流に被害のある池のハザードマップ作成数											
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	10,000			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源				
事業の実績	①調査業務 ・ため池事業計画策定業務 2箇所 月差池 【馬宿地区】 髭谷池 【貴志川町高尾地区】												
	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・現在多発する集中豪雨や地震による被害の軽減を目的とした事業であるため、市がため池改修事業に関与することは必要です。											
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
		・ため池事業計画策定により、ため池の改修及び農業用施設の必要性が周知できました。											
	効率性	評価結果	改善の余地がない										
		・事業実施にあたり、専門的な技術・知識が必要とされ、業務委託を行うことで事業実施が効率的に進んだ。また、国の定額補助事業で実施できました。											

事務事業の概要	事務事業名	農業水路等長寿命化・防災減災事業			担当課	農林整備課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1111	
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心				
		項	1 農業費				施策目標	1 防災・防犯				
		目	5 農地費				基本施策	3 災害に強いまちの形成				
事業概要	農業活動の基盤となる農業水利施設の長寿命化及び防災減災対策を推進する事業											
事務事業を構成する細事業	①	ため池機能廃止事業			⑤				⑨			
	②	ため池ハザードマップ作成業務			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	ため池廃止数	目標			2	4			西脇新池（西脇地区）・白岩池（桃山町元地区）2池について廃止工事を発注しましたが、仮設道路の変更等により、本年度中に施工が完了出来ないため、繰越しました。		
			実績									
	<指標の計算方法>		不用なため池の廃止件数									
	成果指標	ハザードマップ作成ため池数	目標		20	220				ため池ハザードマップを221箇所作成し、全ため池ハザードマップ401箇所を完了しました。		
			実績		23	221						
	<指標の計算方法>		ハザードマップを作成したため池数									
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	87,502			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	7,150		
事業の実績	①ため池廃止事業 【R2繰越明許】 工事請負費 20,450,000円 西脇新池（西脇地区） 白岩池（桃山町元地区） 県土地改良事業団体連合会負担金 103,000円											
	②ため池ハザードマップ作成業務 旧打田町 31箇所 旧粉河町 64箇所 旧那賀町 54箇所 旧桃山町 14箇所 旧貴志川町 58箇所 合計 221箇所											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・現在多発する集中豪雨や地震による被害の軽減及び災害想定により防災意識の向上を目的とした事業であり、防災重点農業用ため池について、直下流に民家、公共施設等が存在する箇所も市内には多く、ハザードマップ作成が必要。 ・不要になったため池について廃止を行い少しでも災害リスクを少なくする。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・災害による被害を予測し、非常時に安全かつ確かな避難行動が行えるよう、ワークショップを実施し住民一人一人の防災意識を高めるうえで有効である。 ・農家戸数の減少に伴い利用されなくなったため池については増加傾向にあり、このようなため池の貯水機能を廃止することにより下流域の浸水被害が軽減されることから有効である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・市民の安全・安心を確保していく上でハザードマップの作成は重要であり、策定過程に地域住民の参画を求めることで、地域特性の反映や、住民への周知、利活用の促進、さらには地域防災力の向上に役立つ資料である。 ・測量設計時において、現地特性・設計書籍に沿った内容で実施し、積算時においてもコスト比較を行い、安価で効果的な事業の実施に努めている。											

事務事業の概要	事務事業名	小規模土地改良事業			担当課	農林整備課		事業区分	ハード事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	80	
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流				
		項	1 農業費				施策目標	1 農業振興・産業振興				
		目	5 農地費				基本施策	2 均衡の取れた農村や農地の整備				
事業概要	農業従事者等の営農労力の軽減を図り農業経営を改善するために、地域の実情に即した生産基盤の整備を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	改良工事			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	改良地区数	箇所	目標	1	6	4	3	本年度予定していた工事について、事業間調整を行った結果、次年度に工事を実施することになった。			
			実績	3	5	3						
	<指標の計算方法>		実施箇所									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
	23,673				7,840			1,477	14,356			
	①改良工事											
	・粉河排水路整備工事（その1）（粉河） 水路工L=134.9m											
	・松尾池護岸改良工事（南勢田） 護岸工L= 9.1m											
・陰の池護岸改良工事（南志野） 護岸工L=37.1m												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・国の採択要件に満たない事業であり、県の補助金を受けることで地元負担が少なく、農業施設等の改修が出来る。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・事業に際し既存施設の改修については、地元要望に合わせた柔軟な計画が建てられ、また、早期着手による効果が発揮できる事から事業実施することが必要です。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
・地元要望事業であり、県費補助を活用することで地元負担の軽減も図り、また、早期事業に取り掛かれることが可能なため、緊急的な事業については効率的に解消することが出来ます。												

事務事業の概要	事務事業名	防災重点農業用ため池緊急整備事業			担当課	農林整備課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	新規	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1160	
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心				
		項	1 農業費				施策目標	1 防災・防犯				
		目	5 農地費				基本施策	3 災害に強いまちの形成				
事業概要	防災重点農業用ため池について、堤体や洪水吐、樋管などの劣化状況評価及び豪雨耐性評価を併せて実施し、防災工事の必要性について判断したため池について推進計画を策定する事業											
事務事業を構成する細事業	①	委託料			⑤			⑨				
	②	工事請負費			⑥			⑩				
	③				⑦			⑪				
	④				⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	成果指標	ため池管理システム設置箇所数	目標				1	0	0	R3年度予算より新規事業で海神池に水位計・雨量計及びカメラを設置する予定でしたが、本年度に国の緊急経済対策により事業予算が前倒しになった。また、事務手続き等により繰越しました。		
			実績				0					
	<指標の計算方法>		防災重点農業用ため池で管理システムを設置したため池数									
	成果指標	ため池改修計画策定箇所数	目標				4	0	0	R3年度予算より新規事業でため池改修を実施するため池4箇所について事業計画書を作成する予定であったが、本年度に国の緊急経済対策により事業予算が前倒しになった。また、事務手続き等により繰越しました。		
			実績				0					
	<指標の計算方法>		ため池改修計画書を作成した箇所数									
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
事業の実績	【R2繰越明許】											
	①委託料 21,002,000円 ・ため池管理システム 海神池 [北中地区] 1箇所 ・ため池整備計画策定 三ツ池中池 [荒見地区] 奥の池 [北長田地区] 池の谷池 [西山田地区] 下新池 [麻生津中地区] ②工事請負費 3,001,000円 ・ため池管理システム 海神池 [北中地区] 1箇所 ・県土地改良事業団体連合会 20,000円 ・国の防災・減災・国土強靱化のための3カ年緊急対策の補正予算の増額があり、工事期間等を取り、繰越しました。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・近年多発する集中豪雨や今後発生の可能性が高いとされる大地震により、ため池が決壊し下流域への湛水等被害防止を目的とした事業である。ため池管理システムの導入により、市民全体の防災意識向上を図り、ため池改修事業の基礎となる事業計画書策定を推進することで、災害に強い街づくりに繋げていくことができる。以上の点から本事業が必要と考えます。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・事業を実施して行くにあたり、事業内容は専門的な技術・知識が必要であるため、業務委託により事業推進する現在の計画は最適であります。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・事業に際し、専門知識を有する業者に委託しており短期間で低コストでの実現が可能となっており、効率的に実施している。											

事務事業の概要	事務事業名	緑化推進事業		担当課	農林振興課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	741	
	予算科目	款	6 農林業費		長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境			
		項	2 林業費			施策目標	3	自然環境			
		目	1 林業総務費			基本施策	1	豊かな自然環境の保全			
事業概要	市民が緑ある環境づくりを進めることができるように、緑の募金等を通じて、緑化の推進を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	緑化推進（緑の募金）			⑤	キノピー教室			⑨		
	②	紀の国ふるさとづくり協議会負担金			⑥				⑩		
	③	企業の森			⑦				⑪		
	④	市町村民の森			⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	成果指標	緑の募金額	目標	1,800	1,800	1,800	1,800	1,700	少子高齢化や地域のつながりも希薄になり、募金に協力してくれる家庭の減少により、募金額も年々減少傾向です。		
			実績	1,746	1,737	1,648					
	<指標の計算方法>		自治会等よりの募金額								
	活動指標	キノピー教室実施回数	目標	19	17	17	17	17	開催予定で進めてきましたが、新型コロナウイルス感染状況が低下していない状況であったため中止と判断しました。（16施設から要望がありました。）		
			実績	13	13	0					
	<指標の計算方法>		保育所でのキノピー教室の実施回数								
	成果指標	企業の森協定件数	目標	1	1	1	1	1	企業単位のレクリエーションより個人の時間が優先される昨今の情勢もあり現状に至っています。		
			実績	1	1	0					
	<指標の計算方法>		協定件数								
成果指標	緑の募金活用事業数	目標	1	1	1	1	1	少数ながら、有志の団体が緑化事業に参画していましたが、意欲のある団体が減少しているためか、今年度の実施はありませんでした。			
		実績	2	0	0						
<指標の計算方法>		事業件数									
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	305			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	140	
事業の実績	①緑化推進（緑の募金） ・緑の募金（家庭募金）を実施しました。										
	②紀の国ふるさとづくり協議会負担金 ・山村の役割・魅力を普及・啓発するため、和歌山県内の市町村及び和歌山県で構成された協議会に負担金を支出し、運営に参画しました。										
	③企業の森										
	④市町村民の森 ・和歌山県で開催された第62回全国植樹祭において植樹した田中財産区有林内の植栽地を維持するため、県の補助を受け、補植及び下草刈り作業を実施しました。										
	⑤キノピー教室 ・新型コロナウイルス感染状況が低下していない状況であったため中止しました。										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・豊かな自然環境を保全し、次世代につなげていくことは、市民と行政が一体となって取り組む必要があり、長期総合計画の基本施策とも合致しています。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・市民アンケートで「自然環境の保全」は、満足度で高い回答を得ています。その反面、重要度では低い回答となっているため、意識向上の取組が必要です。 ・緑化推進は緑の募金事業を活用して、自治区や団体等の自主活動が主な推進事業となっています。効果を向上させる観点からは、緑の募金事業の活用の啓発を図っていくことが考えられます。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・当該事業に要する事業費は、事務費や負担金などの少額であることから、これ以上の削減の余地はないものと考えます。 ・職員の業務量（人件費）についても、当該事業の執行にかかる最低限度の業務量であることから、現時点で効率性を改善する余地はないものと考えます。										

事務事業の概要	事務事業名	林業対策事業		担当課	農林振興課			事業区分	ソフト事業	
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	734
	予算科目	款	6 農林業費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境			
		項	2 林業費		施策目標	3	自然環境			
目	2 林業振興費	基本施策	1		豊かな自然環境の保全					
事業概要	市民、森林所有者、林業従事者が林業の活性化による森林の健全化や森林の多面的機能の維持を図れるように、森林の適切な整備・管理を行う事業									
事務事業を構成する細事業	①	森林病害虫防除委託			⑤	森林整備地域活動支援交付金			⑨	林業担い手社会保障制度等充実対策事業補助金
	②	林業労働力確保支援センター負担金			⑥	間伐材流通支援補助金			⑩	
	③	山村振興対策協議会負担金			⑦	森林保全管理			⑪	
	④	葛城高原まつり補助金			⑧	森林台帳整備・管理			⑫	
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析	
	活動指標	防除面積	ha	目標	121	121	121	121	121	面積及び伐倒材積は、県知事命令により指示されているので、変更がない限り増減はありません。
			実績	121	121	121	121	121		
	<指標の計算方法>		松くい虫の防除面積							
	活動指標	伐倒材積	m ³	目標	50	50	50	50	50	面積及び伐倒材積は、県知事命令により指示されているので、変更がない限り増減はありません。
			実績	50	50	50	50	50		
	<指標の計算方法>		松くい虫の伐倒駆除材積							
			目標							
			実績							
	<指標の計算方法>									
		目標								
		実績								
<指標の計算方法>										
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳						
	12,188			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	2,918
事業の実績	①森林病害虫防除委託 ・鎌垣・龍王両財産区有林内の松林の松枯れを防止するため、松くい虫の防除作業を実施しました。 特別防除 116 ha 地上散布 5 ha 伐倒駆除 50 m ³									
	②林業労働力確保支援センター負担金 ・林業労働者の安定した雇用の促進と林業の健全な発展のため、和歌山県内市町村で構成されたセンターへ負担金を支出し、運営に参画しました。									
	③山村振興対策協議会負担金 ・山村のあり方と安全で快適な生活基盤を形成するため、和歌山県内の山村振興地域に關係のある市町村及び和歌山県で構成された協議会に負担金を支出し、運営に参画しました。									
④葛城高原まつり補助金 ・和泉葛城山の山開きについては、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、神事のみで龍王財産区と龍王財産区内自治区で構成された実行委員会への補助金は未交付となりました。										
⑤森林整備地域活動支援交付金 ・森林施策の推進に必要な地域活動等を行う森林所有者等に対し交付。 申請 0件										
⑥間伐材流通支援補助金 ・紀の川市産間伐材の販売量を向上させ、間伐を促進することにより山林の荒廃を解消し、地球温暖化防止及び災害防止を図ることを目的に補助金を交付しました。 搬出材積 901.7 m ³										
⑦森林保全管理 ・森林法等に適応する伐採関係の届出を行ってもらい、森林整備計画に適合するかを確認し県に届け出ました。 届け出件数：24件 ・県が行う保安林の指定に関して意見聴取があった場合協議。 指定件数：1件										
⑧森林台帳整備・管理 ・森林法の改正により制度化された林地台帳を整備しました。										
⑨林業担い手社会保障制度等充実対策事業補助金 ・林業事業者の体質強化を図り、林業労働者の社会保障の充実に促進し、労働力の確保のため、事業主が負担しなければならない社会保険料等に補助金を交付しました。										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない							
		・林業経営体の所得向上を促し、担い手確保を図ることは、自然環境を保全し、森林の持つ水源の涵養、土砂災害防止等の多面的機能の発揮につながることから、市が関与することの妥当性は大きいといえます。また、上位計画の推進にも寄与します。								
	有効性	評価結果	改善の余地がややある							
・林業労働者の社会保障の充実や木材利用の啓発等、担い手の育成・確保に努めていますが、長引く木材価格の低迷等の林業環境を取り巻く環境は依然と厳しい状況にあり、顕著な効果が現れていません。 ・森林病害虫防除による森林環境の維持や間伐の促進対策など、森林の管理につながる取組は、森林の荒廃を防止する一定の効果が見込めます。										
効率性	評価結果	改善の余地がややある								
	・森林経営管理法に基づく新たな森林経営管理制度によって、森林環境譲与税を財源として林業の成長産業化と森林の適切な管理の両立に取り組むこととなります。									

事務事業の概要	事務事業名	森林経営管理事業			担当課	農林振興課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1126	
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境			
		項	2 林業費				施策目標	3	自然環境			
		目	2 林業振興費				基本施策	1	豊かな自然環境の保全			
取組方針	2			自然環境の保全・整備の推進								
事業概要	林業経営はこれまで森林所有者自ら又は民間事業者に委託するなどして行なってきたが、平成31年4月施行の森林経営管理法（森林経営管理制度）により森林所有者の森林管理の責務や市町村の役割が定められた。市町村が意向調査を行ない、経営管理を市町村に委ねる意向であった場合、森林経営管理権を取得する手続きを経て、林業経営に適した森林は意欲と能力のある林業経営体に経営を再委託し、林業経営に適しない森林は市町村が経営管理を行なう。											
事務事業を構成する細事業	①	意向調査業務			⑤				⑨			
	②	経営管理権集積計画の作成			⑥				⑩			
	③	市町村森林経営管理事業			⑦				⑪			
	④	経営管理実施権配分計画の作成			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	森林経営管理意向調査面積	ha	目標		55	64	402.44	400	調査区域85haの内、いくつかの調査要件により抽出した面積は49.21haであった。ここ数年間伐採など森林施業を行っていない森林が多く、森林の持つ多機能、多様性を十分に発揮できていない状況と考えます。		
			実績		20.66	49.21						
	<指標の計算方法>		意向調査を行なった人工林の面積合計									
	成果指標	森林経営管理権集積計画面積	ha	目標		33	42	15.73	50	意向調査で「市に森林経営を委託することを検討する」と返答の森林所有者全員から経営管理権の取得にかかる同意を得ました。新しい制度でため制度説明を行って趣旨を理解してもらうことが重要です。		
			実績		0	6.49						
	<指標の計算方法>		経営管理権集積計画を公告・縦覧した面積									
	成果指標	市町村経営管理事業面積	ha	目標		0	42	22.22	50	経営管理権集積計画の作成後、計画内容に従って森林保全のため期間内に間伐等を実施しますが、当初予定していた集積計画作成後の間伐等は集積計画作成が遅くなったため次年度以降に実施します。		
			実績		0	0						
	<指標の計算方法>		経営管理権集積計画に則り間伐等を実施した面積									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	990			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		990	
事業の実績	①森林経営管理意向調査業務 調査面積：49.21ha 調査対象者：45人 回答率：73.3%（内、市に経営管理を委託することを検討すると回答した割合：56.4%）											
	②経営管理権集積計画の作成 計画作成面積：6.49ha 計画作成件数：12件											
	③市町村森林経営管理事業 事業対象面積：0 実施面積：0											
	④森林経営管理権実施配分計画の作成 計画対象面積：0 作成面積：0											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がややある									
		・令和元年4月施行の新しい制度であり制度自体を森林の所有者が知る機会が少ないため今のところニーズは少ないが、今後は森林経営管理制度の事業啓発や周知を行うことによって活用が期待されます。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・年度当初の事業計画を実行性のあるものにするため、細事業の進行状況の把握とサイクルの見直しを行い、また今後増大するニーズに対応するため人員体制の強化に加え専門性の知識を持った人材の活用を検討していく必要があります。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・限られた人員、コストで今後増大してくる事業量をこなすため、職員の一連の事務作業のマニュアル化や事務のスマート化、データ管理の一元化を進めていく必要があります。											

事務事業の概要	事務事業名	有害鳥獣捕獲対策事業			担当課	農林振興課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	737	
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境			
		項	2 林業費				施策目標	3	自然環境			
		目	2 林業振興費				基本施策	1	豊かな自然環境の保全			
事業概要	農業従事者等の農作物被害の軽減を図るために、猟友会等と有害鳥獣対策を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	鳥獣被害防止対策協議会運営			⑤				⑨			
	②	鳥獣被害対策実施隊運営			⑥				⑩			
	③	有害鳥獣捕獲事業等補助金			⑦				⑪			
	④	猟友会補助金			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	実施隊捕獲出動回数	目標	15	15	15	15	15	捕獲活動が前年度より減少していますが実施隊の捕獲隊員の協力を得ることができ、目標に到達することができました。			
			実績	16	21	19						
	<指標の計算方法>		実施隊が捕獲活動に出動した回数									
	活動指標	有害鳥獣捕獲数	目標	1,500	1,500	1,500	1,500	1,650	捕獲数については年度ごとに増加していますが、野生鳥獣のため生息状況に応じたものと推察しています。			
			実績	1,223	1,451	1,746						
	<指標の計算方法>		年間の有害鳥獣（イノシシ・シカ・カラス・アライグマ）の捕獲頭（羽）数									
活動指標	狩猟免許取得者の補助人数	目標	10	20	20	20	20	農業被害への関心から農業従事者による免許取得者が一定数維持している傾向にあります。				
		実績	14	10	15							
<指標の計算方法>		補助金申請者数										
成果指標	有害獣による農作物被害額（イノシシ）	目標	29,141	25,498	31,309	29,661	28,013	猟友会の協力により捕獲数が増加したことと、豚熱発生によるイノシシの生息数が大幅に減少したことで被害金額が減少しました。				
		実績	32,957	30,319	16,458							
<指標の計算方法>		野生鳥獣による農作物の被害状況調査票による										
コストの実績	R 2年度決算額 （単位：千円）			財源内訳								
	17,424			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			9,396					4		8,024		
事業の実績	①鳥獣被害防止対策協議会運営 協議会総会 1回											
	②鳥獣被害対策実施隊運営 捕獲活動 19回											
	③有害鳥獣捕獲事業等補助金 イノシシ 1,015頭 シカ 152頭 アライグマ 492頭 カラス 87羽											
	④猟友会補助金 ・市内6分会で構成される猟友会の団体活動 支援として補助金を交付しました。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・有害鳥獣の捕獲対策を実施し、農作物の被害を軽減することにより、農業経営の安定化を図るものであり長期総合計画の基本施策に貢献するものです。 ・近年では、民家付近へのイノシシの出没が増加しており、市民生活の安全・安心のため市が積極的に関与する必要があります。 ・農家アンケートでも鳥獣被害対策は関心が高く、ニーズを的確に反映しているといえます。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
		・有害鳥獣捕獲や実施隊での捕獲を実施し、相当数の捕獲を行っています。農作物被害額には顕著に現れていない状況です。 ・捕獲従事者の増加を図るため、引き続き狩猟免許取得支援を実施するとともに、狩猟免許の取得者に対して狩猟登録を継続してもらう対策を併せて実施していく必要があります。 ・さらなる成果を向上させるためには、実施隊の活動回数の増加が必要です。										
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・事業を実施するには猟友会との連携・協力が不可欠な事業であり、今後も猟友会の協力を得て進めていきます。 ・捕獲効率の向上を図るため、捕獲に対しての新技術の導入など検討していく必要があります。 ・今後、国、県と連携できる事業等を模索していく必要があります。											

事務事業の概要	事務事業名	森林公園管理運営事業			担当課	農林振興課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	729	
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境			
		項	2 林業費				施策目標	3	自然環境			
		目	3 林業施設費				基本施策	1	豊かな自然環境の保全			
取組方針	3			自然とのふれあいの場の創出								
事業概要	市民、観光客が自然環境を保護し、自然公園等を安全に利用できるようにするために、管理・清掃を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	葛城山公衆トイレ施設管理			⑤	和泉葛城山保全活用対策協議会負担金			⑨			
	②	龍門山ハイキングコース施設管理			⑥	自然公園管理			⑩			
	③	ハイランドパーク粉河管理運営委託			⑦				⑪			
	④	葛城高原環境保全委託			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	成果指標	ハイランドパーク粉河年間利用者数	人	目標	25,000	25,000	25,000	25,000	25,000	新型コロナウイルス感染症拡大によるキャンプ場・展望台の営業中止があったが、利用者数は、微増となっています。		
			実績	16,327	19,039	19,911						
	<指標の計算方法>		ハイランドパーク粉河における年間の利用者数									
	成果指標	葛城高原環境保全活動日数	日	目標	50	50	50	50	50	新型コロナウイルス感染症拡大による活動自粛があったが、ほぼ週に一度以上の清掃活動が実施されており、良好な状態に保たれているといえます。		
			実績	58	61	52						
	<指標の計算方法>		中尾町内会に委託している葛城高原環境保全活動が年間に実施された日数									
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	8,129			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	171 7,958		
事業の実績	①葛城山公衆トイレ施設管理			等の清掃管理を実施しました。								
	②龍門山ハイキングコース施設管理 ・和海紀森林組合に委託し、龍門山頂周辺及びハイキングコースの雑草除去を実施しました。			・林道重谷線 (L=3,365m W=3.0~4.0m) の維持管理を実施しました。								
	③ハイランドパーク粉河管理運営委託 ・鎌垣財産区にハイランドパーク粉河の管理運営を委託しました。 ・管理運営委託施設 管理棟、展望台、イベント広場、野外ステージ、トイレ、キャンプ場、バーベキュー場、遊歩道、木製遊具 ・年間利用者数 19,911人			⑤和泉葛城山保全活用対策協議会負担金 ・国の天然記念物であるブナ林及びその周辺の豊かな自然環境を保護・保全するため、和泉葛城山を管轄する府・県・市で構成された協議会に負担金を支出しました。								
	④葛城高原環境保全委託 ・中尾町内会に委託し、葛城山周辺施設の環境保全(清掃)を実施しました。 ・葛城山頂周辺、公衆便所、駐車場、展望台			⑥自然公園管理 ・自然保護監視員として、所管する地域の県自然環境保全地域(金剛生駒紀泉国定公園、龍門山県立自然公園)を巡視等により状況把握に努めました。								
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・葛城山、龍門山はそれぞれ国定公園、県立自然公園の指定地となっていることから、自然環境保全の観点から市が関与することは妥当であるといえます。 ・ハイランドパーク粉河は、森林に関する知識の普及及び自然保護の意識高揚を図ることを主な目的として設置している施設であり、その維持管理については市が実施することが妥当な施設です。施設運営に関しては、民間の柔軟な発想による集客力の向上を図るため、指定管理者制度による運営を行っています。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
効率性	有効性	・葛城山と龍門山は、自治会や森林組合を通じて必要な維持管理を実施しており、自然環境の保全は図られていると考えています。 ・ハイランドパーク粉河は、利用者数が伸び悩んでいることから、新たな視点での集客策や活性化策等を指定管理者と協議を進め、実行していく必要があります。										
		評価結果	改善の余地がややある									
・葛城山と龍門山周辺の維持管理については、自治会や森林組合に外部委託をしており、管理面では効率的な運用が行われています。 ・ハイランドパーク粉河は、老朽化による修繕等が発生しており、その対応に要する業務量が増加傾向にあります。指定管理者による維持管理が行われている中、職員の関与が高くなっていることから対応策の検討が必要です。												

事務事業の概要	事務事業名		治山林道管理事業			担当課		農林整備課		事業区分	ソフト事業		
	会計		一般会計			新規・継続		継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	728
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	2 林業費				施策目標	3	自然環境				
		目	3 林業施設費				基本施策	1	豊かな自然環境の保全				
事業概要		市民、林業従事者等が森林へのアクセス道路を安全に走行できるように、林道のパトロールを強化し、林業施設の異変を早急に発見し、現状復旧を行う事業											
事務事業を構成する細事業		①	治山林道管理事業			⑤			⑨				
		②	林道施設整備事業補助金			⑥			⑩				
		③				⑦			⑪				
		④				⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析				
	活動指標	パトロール活動	回	目標	48	96	60	60	60	パトロールを行うことで林道施設の異変を早期発見、早期対応することが出来ました。また、積雪による通行止めや通行人からの連絡があったため回数が増えました。			
			実績	96	96	72							
	<指標の計算方法>		林道パトロールを行った回数										
	成果指標	事故報告件数	回	目標	0	0	0	0	0	安全かつ快適に通行することができ、事故報告はありませんでした。			
			実績	0	0	0							
<指標の計算方法>		事故の報告があった件数。パトロールを強化し年間を通じてゼロを目指す。											
		目標											
		実績											
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	7,301			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	7,301			
事業の実績	①治山林道管理事業			側溝清掃 4,392m									
	【雑草除去】 ・林道紀泉高原線 雑草除去12,000m ² 転石処理 一式 ・林道粉河中央線 雑草除去7,000m ²			【維持管理委託】 ・林道勝神線 維持管理委託 1,655m									
【崩土除去】 ・林道重谷線他 崩土除去 7.0m ³ L=20m 路肩復旧 4.0m ³ L=6m			【工事】 ・林道紀泉高原線 アスカーブ設置 L=169m ・林道粉河中央線 アスカーブ設置 L=282m										
【水路清掃】 ・林道粉河中央線 側溝清掃 5,829m ・林道紀泉高原線 側溝清掃 10,569m ・林道重谷線 側溝清掃 3,365m ・林道真国野田原			②林道施設整備事業補助金 ・補助金交付件数 2件 整備実績 林道米の郷線 路側改良 7.5m 林道米の郷東谷線 側溝清掃 628m										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・林道を安全かつ快適に通行できるように維持管理は必要です。											
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
・林道パトロールを定期的に行うことにより、道路施設、道路周辺の状況を確認することができ、側溝の土砂の堆積、枝打ち箇所など維持修繕箇所を発見し、早期に発見することにより、林道の安全性を高め未然に林道災害の防止に繋がります。													
効率性	評価結果	改善の余地がない											
	・林道を維持管理するにあたり、草刈、崩土除去、道路清掃と費用面はかかっているが、林道を通行する人が増え、安全かつ快適に利用されています。 ・生活環境課の不法投棄パトロール時に道路施設の確認、道路周辺の状況確認を行ってもらうことで効率よく、施設の状態を把握できている。												

事務事業の概要	事務事業名	シルバー人材センター運営支援事業			担当課	商工労働課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	726	
	予算科目	款	7 商工費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流				
		項	1 商工費				施策目標	2 雇用・就労				
		目	1 商工総務費				基本施策	1 就労支援の充実と雇用創出の振興				
取組方針	3 就労への支援											
事業概要	市民（高齢者）の就業機会の創出と生きがいづくりを促進するために、シルバー人材センター、関係機関に運営に対する補助や負担金の支出を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	全国シルバー人材センター負担金			⑤			⑨				
	②	県シルバー人材センター連合会負担金			⑥			⑩				
	③	シルバー人材センター運営補助金			⑦			⑪				
	④				⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	加入会員数	人	目標	400	400	400	400	400	岩出市 R2年度 503人 橋本市 R2年度 559人 新型コロナウイルス感染症の影響を受け入会説明会や加入促進チラシの配布を一時停止した結果、会員数を確保できませんでした。		
				実績	367	371	360					
	<指標の計算方法>		シルバー人材センターへ入会登録している会員（3月31日時点）									
	成果指標	加入会員の就業率	%	目標	85	85	85	85	85	岩出市 R2年度 85.3% 橋本市 R2年度 78.8% 会員数の減少に伴い就業率が増加しました。		
				実績	73.6	71.4	72.5					
	<指標の計算方法>		会員数に対する就業実人員の割合									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	23,200			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	23,200		
事業の実績	①全国シルバー人材センター負担金 ・負担金 50,000円			会員の平均年齢 73.1才 年会費 4月～9月加入 月2,000円 10月～3月加入 月1,000円				・就業率 請負委託 就業人数208÷会員数360=57.8% 労働派遣 就業人数 79÷会員数135=58.5% 総合 就業人数261÷会員数360=72.5% 就業年間延べ人数 25,226人 ・事故発生件数 6件(傷害保険 2件 / 賠償責任保険 4件)				
	②県シルバー人材センター連合会負担金 ・連合会負担金 150,000円 ・総会6月12日 勤労福祉会館[プラザホープ] ・新型コロナウイルス感染症拡大に伴い総会への参加を見送りました			会員の職歴 事務系 85名 技術系 139名 その他 102名 自営業 29名 無職 5名								
事業の実績	③シルバー人材センター運営補助金 ・運営補助金23,000,000円 5月29日 第1回理事会(書面決議) 6月27日 総会及び第2回理事会 10月28日 第3回理事会 3月17日 第4回理事会 ・組織概要(R3.3.31現在) 職員10名(事務局長1名/職員3名/嘱託5名/臨時1名) ・会員状況 会員数 360名(男性232名/女性128名)			・新規会員の入会動機 社会的 53.5%(男性 15名/女性 8名) 健康的 27.9%(男性 7名/女性 5名) 経済的 14.0%(男性 3名/女性 3名) その他 4.6%(男性 1名/女性 1名)				・受注状況 請負、委託 2,620件 (107,034,689円) 労働派遣 104件 (29,882,797円) ・契約状況 公共事業 114件 一般企業 369件 個人 2,241件				
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・高齢者の自立支援と生きがい対策の一環として行っている福祉的要因を含む就労対策であり、本市の高齢化率を踏まえれば更に必要性が高まると考えられるため、市が関与すべきです。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・会員登録者のうち就業しない若しくは出来ない方がいることから、ヒアリング等の実施により課題を明らかにする必要があります。 ・労働派遣事業の拡大に比例し、国費が増額することから労働派遣事業への取り組みを積極的に行う必要があります。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・事業計画と補助申請に対するヒアリングを年度当初に実施し、受注件数の見通しや重点取組事項など適正な補助申請額の積算になっているのかを検証する必要があります。											

事務事業の概要	事務事業名	消費者安全対策事業			担当課	商工労働課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	727	
	予算科目	款	7 商工費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心				
		項	1 商工費				施策目標	1 防災・防犯				
		目	1 商工総務費				基本施策	4 防犯・交通安全対策の推進				
取組方針	5 消費者の安全対策の推進											
事業概要	市民が消費者被害にあわないように、啓発や相談窓口を開設する事業											
事務事業を構成する細事業	①	消費者問題啓発事業			⑤			⑨				
	②	消費者問題相談事業			⑥			⑩				
	③	県都市消費生活対策連絡協議会負担金			⑦			⑪				
	④	消費者安全対策事業			⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	消費者問題相談件数	目標	90	90	90	90	90	岩出市 R2年度 149件 橋本市 R2年度 390件 前年度に引き続きインターネット通販に関する相談が多くなっています。			
			実績	142	115	167						
	<指標の計算方法>		市の消費相談窓口で受付した年間の相談件数									
	成果指標	消費者問題相談解決率	目標	80	80	80	80	80	インターネット通販など、クーリングオフが原則不可である相談内容と、法的知識が必要となる相談が増加し市の相談窓口では解決に至らない傾向があります。			
			実績	76	73	73						
	<指標の計算方法>		相談を受付した件数のうち、問題解決に至った件数の割合									
活動指標	啓発活動回数	目標	8	8	12	12	12	岩出市 R2年度 14件 橋本市 R2年度 23件 通年の啓発機会に加え、各種事業の開催に併せて啓発活動を実施したため回数が増加しました。				
		実績	5	12	14							
<指標の計算方法>		年間に実施した消費問題に関する啓発活動の回数										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	682			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	488		
事業の実績	①消費者問題啓発事業 ・啓発活動を14回実施しました。 4月18日 区長会関係 4月29日 消費者月間ポスター掲出 6月 9日 雇用調整助成金等制度説明会 6月23日 紀の川市立地企業連絡協議会 7月20日 子どもを守る運動 9月17日 紀の川市人権委員会理事会 11月13日 人材確保セミナー 12月 1日 那賀総合センター・スマホ講座 12月14日 打田地区民生児童委員会研修会 1月 5日 粉河公民館粉河分館・スマホ講座 1月10日 成人式 1月22日 高校生向け接遇ビジネスセミナー研修 3月 7日 ママジョブマルシェ 3月12日 企業合同説明会 ・出前講座を2回実施しました。 1月27日 粉河地区 民生委員児童委員連絡協議会											
	粉河ふるさとセンター 45名参加 3月17日 打田地区 民生委員児童委員連絡協議会 市役所501会議室 35名参加 ②消費者問題相談事業 ・相談窓口を開設しました。 47回 専門相談員(毎週月曜) 23回 ぐらしのネットワーク(第1・3水曜) 相談内訳 訪問販売 26件(内 25件解決) インターネット通販 67件(内 67件解決) 架空請求 19件(内 19件解決) クーリングオフ 9件(内 8件解決) その他 46件(内 4件解決) 計 167件(内123件解決) ・消費者教育パンフレットを配付しました。 部 数 1,500部 啓発先 市内中学生 ・スキルアップ研修に9回参加しました。 6月29日 消費生活相談等初任者研修											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・消費者安全法に基づき、各自治体は消費者安全の確保に関し施策を実施する責務を負うため、消費者庁はじめ県と連携を保ちながら消費者行政全般に対して、市が関与すべきです。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・職員の専門性を高めることが必要です。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・周辺自治体と広域的かつ専門的な相談体制の整備に関する可能性を検証する必要があります。											

事務事業の概要	事務事業名	商工振興事業		担当課	商工労働課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1016	
	予算科目	款	7 商工費		長期総合計画体系	政策目標	3	産業・交流			
		項	1 商工費			施策目標	1	農業振興・産業振興			
		目	2 商工振興費			基本施策	3	商工業の振興			
取組方針			1	既存商店の活性化の推進							
事業概要	商工業者の経営安定化につなげるために、運営、事業に対する支援や補助を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	中小企業支援対策(セーフティネット)			⑤	小企業資金利子補給金			⑨	経営安定化給付金事業	
	②	ジェトロ和歌山貿易情報センター負担金			⑥	中小企業ネットワーク構築事業			⑩	マスク等生産設備導入支援事業	
	③	商工会補助金			⑦	買物環境整備事業			⑪		
	④	商工会商品券補助金			⑧	テイクアウト参入支援			⑫		
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	成果指標	商工会会員数	人	目標	1,233	1,237	1,242	1,246	1,250	岩出市 R2年度 594人 橋本市 R2年度 769人 新規加入会員と既会員の脱退数を相殺すると全体では逡減しています。	
			実績	1,199	1,207	1,199					
	<指標の計算方法>		毎年度4月1日時点の紀の川市商工会及び那賀町商工会の会員数								
	活動指標	経営改善相談・指導件数	件	目標	5,000	5,500	5,500	5,500	5,500	新型コロナウイルスの影響により相談、指導件数が増加しています。	
			実績	5,449	5,951	8,405					
	<指標の計算方法>		各商工会が実施した年間の経営改善相談及び指導件数の合計								
	活動指標	後継者の育っている事業所数	人	目標	52	54	56	58	60	岩出市 R2年度 34人 橋本市 R2年度 44人	
			実績	50	49	43					
	<指標の計算方法>		毎年度4月1日時点の各商工会青年部会員数								
成果指標	プレミアム商品券利用率	%	目標	100	100	100	100	100	高い利用率を保持しているため、消費喚起につながっています。		
		実績	99.6	99.6	99.6						
<指標の計算方法>		各商工会が発行したプレミアム商品券のうち、利用(換金)された割合									
コストの実績	R 2年度決算額 (単位:千円)			財源内訳							
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
			216,499	156,280						60,219	
事業の実績	①中小企業支援対策(セーフティネット) ・書類審査 667件 4号248件 5号123件 危機関連296件			経営改善並びに指導相談件数 698件			⑥中小企業ネットワーク構築事業 登録事業所数 627事業所 配信回数 年32回				
	②ジェトロ和歌山貿易情報センター負担金 ・事業運営負担金200,000円 ・相談件数 28件			④商工会商品券補助金 プレミアム率 30% 予約申込口数 24,869口 当選口数 16,000口(当選率 64.3%)			⑦買物環境整備事業 アンケート調査を11月に実施 対象 1,528件 回答 468件(回答率30.6%)				
③商工会補助金 ・紀の川市商工会 補助金額 26,580,000円 会員数 996名(内青年部会員数 36名) 職員9名(局長1名/職員5名/嘱託3名) 会費決算額 13,325,000円 会費 13,378円(平均)			・那賀町商工会 補助金額 5,000,000円 会員数 203名(内青年部会員数 7名) 職員 4名(職員2名/嘱託2名) 会費決算額 1,062,000円 会費 5,231円(平均)			・那賀町商工会 加盟店舗数 386店舗 利用店舗数 299店舗(利用率77.5%) 販売枚数 362,856枚(13,956セット×26枚) 利用枚数 358,560枚(利用率 98.8%)			⑧テイクアウト参入支援 参入店舗数 22店舗 決定額 970,160円		
経営改善並びに指導相談件数 7,707件			・那賀町商工会 加盟店舗数 78店舗 利用店舗数 64店舗(利用率 82.1%) 販売枚数 53,144枚(2,044セット×26枚) 利用枚数 55,694枚(利用率 104.8%)			⑤小企業資金利子補給金 ・紀の川市商工会 件数 110件 / 利子補給額 3,707,900円			⑨経営安定化給付金事業 申請者 1,247事業者 決定者 1,186事業者 決定額 118,600,000円		
			・那賀町商工会 件数 32件 / 利子補給額 905,700円			⑩マスク等生産設備導入支援事業 申請者 株式会社 紀の川製帽 決定額 1,913,000円					
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がややある								
			・商工業が低迷している中で、市内事業者等の経営基盤の安定化と発展を、商工会と役割を協議しながら継続して支援する必要があります。								
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
		・新型コロナウイルス感染症の影響を受けている事業者に対し、状況に応じた対策を講じるため、既存事業をスクラップ&ビルドする必要があります。									
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
		・商品券事業など委託が可能な業務を洗い出す必要があります。 ・商品券の電子化などを検討する必要があります。									

事務事業の概要	事務事業名	創業支援事業		担当課	商工労働課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1088	
	予算科目	款	7	商工費	長期総合計画体系	政策目標	3	産業・交流			
		項	1	商工費		施策目標	2	雇用・就労			
		目	2	商工振興費		基本施策	1	就労支援の充実と雇用創出の振興			
事業概要	新規創業者の経営の安定と商工業の活性化を図るために、創業セミナーの開催や創業時の必要経費等に対する支援を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	創業セミナー開催補助金		⑤				⑨			
	②	創業支援補助金		⑥				⑩			
	③	インキュベーター教育導入事業		⑦				⑪			
	④			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	指標の分析		
	活動指標	創業セミナー参加者数	人	目標	10	10	10	10	10	岩出市 R2年度 6人 橋本市 R2年度 未開催 創業希望者へ開催情報を的確に届けることができました。	
			実績	22	10	24					
	<指標の計算方法>		商工会が実施しているする創業セミナーへの年間参加者								
	成果指標	創業支援補助金交付決定数	件	目標	3	3	3	3	3	創業時の初期投資に対する支援件数	
			実績	3	0	2					
	<指標の計算方法>		創業支援補助金交付要綱に基づき補助金を交付した件数								
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											
コストの実績	R2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	1,913			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
									1,913		
事業の実績	①創業セミナー開催補助金 ・委託先 紀の川市商工会 ・補助金額 500,000円 ・開催内容 講師 中小企業診断士 濱田智司氏 第1回 9月30日 経営① 第2回10月7日 経営② 第3回10月14日 財務① 第4回10月21日 財務② 第5回10月28日 人材育成① 第6回11月4日 人材育成② 第7回11月11日 販路開拓① 第8回11月25日 販路開拓② ・参加状況 参加者数 24名(男性 11名/女性 13名)			③インキュベーター教育導入事業 創業支援施策の一環として、市内高校生に対し、将来の選択肢の1つに「起業」という選択肢を考えてもらうことを目的に特別授業を開催しました。							
	②創業支援補助金 ・補助金額 750,000円×1名(農産物販売) 500,000円×1名(サービス業)			・貴志川高等学校 日時 1月26日 13:20~15:10 講師 関西ニュービジネス協議会 副会長 谷岡 樹氏 参加者数 生徒37名(男性15名/女性22名) 教員1名 ・粉河高等学校 日時 2月4日 11:55~12:45 講師 関西ニュービジネス協議会 副会長 谷岡 樹氏 参加者数 生徒39名(男性19名/女性20名) 教員1名							
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
			・創業支援等事業計画に基づき県ならびに経済産業省と連動した創業支援策は、市内商工業の基盤維持形成につながるため、市が関与すべきです。								
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
			・安定的に市内で創業希望者を確保することが困難であるため、域外からの創業希望者を募る必要があります。								
効率性	評価結果	改善の余地が大きい									
		・創業セミナー開催に伴う補助金について、他市と補助要件や対象経費を比較し適正額を検証する必要があります。									

事務事業の概要	事務事業名	企業誘致促進事業			担当課	商工労働課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	387
	予算科目	款	7 商工費			長期総合計画体系	政策目標	3	産業・交流		
		項	1 商工費				施策目標	2	雇用・就労		
		目	2 商工振興費				基本施策	1	就労支援の充実と雇用創出の振興		
事業概要	市民の雇用創出や市の税収拡大を図るために、進出を希望する企業に誘致活動を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	企業用地調査・情報提供			⑤	地域好循環型ビジネスモデル構築事業			⑨		
	②	県企業立地連絡協議会負担金			⑥	企業誘致活動			⑩		
	③	企業立地促進助成金			⑦				⑪		
	④	企業誘致関連法事務			⑧				⑫		

指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	フォローアップ訪問社数	社	目標	14	15	15	15	15	年度計画どおり各企業に対し、各助成金制度等の情報提供、市広報による企業紹介のための取材等のフォローアップを実施した。	
			実績	34	18	22					
	<指標の計算方法>		誘致後のフォローアップのために誘致企業を訪問した回数								
	活動指標	助成金支出企業数	社	目標	1	2	3	5	6	年度計画としていた進出企業に対し、助成支援ができた。	
			実績	1	2	3					
	<指標の計算方法>		企業立地促進条例に基づき助成金を交付した企業件数								
	成果指標	誘致企業地元雇用率(全体)	%	目標	38.1	38.1	38.2	38.2	38.2	新型コロナウイルス感染症による売上減少、生産調整等による影響により、主に地元非正規雇用人数が減少したため、全体雇用者数は微増であるが地元雇用率が減少した。	
			実績	37.9	37.8	34.9					
	<指標の計算方法>		誘致企業対象に実施するアンケート調査(毎年4月1日時点)								
成果指標	誘致企業地元雇用率(正社員)	%	目標	34.2	34.4	34.6	34.6	34.6	非正規雇用者の正規雇用等により全正規雇用者数は増加したが、新型コロナウイルス感染症の影響により新規雇用を控えた企業が多く新規雇用が減少したため、地元正規雇用者数が減少した。		
		実績	34.2	35.3	31.3						
<指標の計算方法>		誘致企業対象に実施するアンケート調査(毎年4月1日時点)									

コストの実績	R 2年度決算額(単位:千円)		財源内訳					
	36,583		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
								36,583

事業の実績	①企業用地調査・情報提供	雇用促進助成金 0円 工場設置助成金 0円 合計 3,148,000円	⑤地域好循環型ビジネスモデル構築事業
	民間所有の企業用空き用地の調査を行い、所有者が希望する用地についてはデータベース化しホームページで情報提供しました。 ・公開用地 2箇所(うち1箇所は売却済)	・デュプロ精工(株)(増設助成2年目) 企業立地促進助成金 3,360,000円 雇用促進助成金 150,000円 工場設置助成金 0円 合計 3,510,000円	市内で生産されるフルーツを活用し、生産から加工、販売、消費までを市内で行う経済的循環を目指すビジネスモデルに対し、参画の可能性のある企業を調査しました。
	②県企業立地連絡協議会負担金	・オーアイテック(株)(新設助成1年目) 企業立地促進助成金 2,478,000円 雇用促進助成金 1,050,000円 工場設置助成金 20,000,000円 合計 23,528,000円	・農産物加工業者進出動向調査及び規格外農産物量調査業務 契約者 帝国データバンク 契約額 1,326,490円(273社調査)
③企業立地促進助成金	④企業誘致関連法事務	⑥企業誘致活動	
条例に基づく協定企業の生産設備に関する新設及び増設に対し助成金を交付しました。 ・(株)梅丹本舗(新設助成3年目) 企業立地促進助成金 3,148,000円		工場立地法による工場の新設及び増設の届出に対し、協議、指導し計画を受理しました。 ・工場立地法届出の受理 4社	新規宿泊施設の市内への進出協定を締結しました。 ルートイングループ(協定日 R3.3.15)

事業の事後評価	妥当性	評価結果 改善の余地がややある ・市外からの企業誘致は、自主財源の確保や住民の雇用機会の創出、地域経済の発展、人口流出防止策として最も即効性のある施策であることから、市独自の企業誘致活動を行政が行うことは妥当であると考えます。 ・地域好循環型ビジネスモデルとして、市内産のフルーツを活用し、生産から加工、販売そして消費までを市内で回すスキームを構築するため、加工、販売の分野で進出意欲のある企業に対し誘致を行う必要があります。
	有効性	評価結果 改善の余地がややある ・市場の動向や各企業の経営方針、戦略を背景にその時々企業のニーズの変化は否めないものの、企業立地に伴う直接的な地元雇用の拡大、あるいは企業進出に伴う地域経済の波及効果や有効性及び貢献度は高いと考えます。 ・現在市が管理する企業団地に空きがなく、進出を検討している企業を逃がしている状態です。 ・条例の改定により市内の既存企業も助成対象となるよう事業要件を拡充したことにより、増設を計画する既存企業も現れてきたが、まだまだ事業の周知が十分でないため継続して広報していく必要があります。
	効率性	評価結果 改善の余地がややある ・市が、市及び市民を受益者として行う事業であり、どのような方法をとっても市の負担が発生することは否めません。また、新たに進出や増設を視野に入れている企業についての情報を掴み、民間の遊休用地や空き工場等を紹介することで一定の成果を得ているが、市の工業団地等に企業の欲するインフラの整った一定規模の企業用地がない現状であり、企業進出による自主財源の確保や新たな雇用機会の創出の点からも、新たな事業用地を整備・確保する必要があります。

事務事業の概要	事務事業名	立地企業連携事業			担当課	商工労働課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	483
	予算科目	款	7 商工費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流			
		項	1 商工費				施策目標	1 農業振興・産業振興			
		目	2 商工振興費				基本施策	3 商工業の振興			
事業概要	立地企業連絡協議会会員企業の新製品や新技術の開発を促進するために、企業間交流や研修会の開催を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	立地企業連絡協議会運営			⑤			⑨			
	②	企業間交流促進業務			⑥			⑩			
	③	雇用促進・就業支援体制整備			⑦			⑪			
	④	立地企業連絡協議会補助金			⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	先進技術や産業振興に必要な制度等の研修会	目標	3	3	3	3	3	総会により企業視察や研修会を合わせて3回の年度計画としていたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を踏まえ視察研修等を中止し、リモートによる参加などの感染症対策を講じた研修会を1回開催した。		
			実績	5	4	1					
	<指標の計算方法>		立地企業連絡協議会が主催する会員企業対象の研修会回数								
	活動指標	経営層だけでなく従業員も含めた活発な意見交換交流会	目標	4	4	4	1	1	総会により懇親会や交流会を合わせて4回の年度計画としていたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を踏まえ今年度はすべて中止した。また、役員会において翌年度の実施回数を減じることと決定した。		
			実績	4	3	0					
	<指標の計算方法>		立地企業連絡協議会が主催する交流会の回数								
	活動指標	会員企業連携による新製品や新技術開発検討会議	目標			1	1	1	協議会員による産官学連携による新商品、新技術開発協議は新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を踏まえ実施できなかったが、会員企業2社と市の調整により新商品として2品目のコロナ対策商品を開発するに至った。		
			実績			2					
	<指標の計算方法>		立地企業連絡協議会会員企業が連携し、新たに産出する商品開発検討会議の回数								
成果指標	業務提携件数	目標			1	2	3	上記のコロナ対策商品として、段ボールパーティション、アルコール消毒液の2品目が製品化に至り、市に納入及び一般販売ができた。			
		実績			2						
<指標の計算方法>		立地企業連絡協議会会員企業が提携し実施した業務件数（累計）									
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	62			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
事業の実績	①立地企業連絡協議会運営			会員企業を紹介した立地企業ガイドブックを就職希望者に見てもらえるように県内高校、専門学校、大学等に送付するなどの就職支援を行いました。				④立地企業連絡協議会補助金			
	<p>企業と地域の結びつきの促進、会員企業相互の連携と情報の収集・提供を目的とし、新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえで下記の通り活動しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加入企業等 31企業 1大学 総会 1回（書面決議） 役員会 2回 研修会 1回（リモート併用） 			<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドブック送付学校数 32校 秘書広報課と共同で会員企業を訪問し、広く市民に市内企業を周知し、認知度向上を行いました。 ・広報掲載企業 8企業（31企業中） R2. 5月号 ㈱メイワ ㈱コテック ㈱九重雑賀 R2. 10月号 中部抵抗器㈱ レンゴロージスティクス㈱ オーアイテック㈱ R3. 3月号 津田工業㈱ こおの交通㈱ 				<p>企業と地域の結びつきの促進、会員企業相互の連携と情報の収集・提供を目的とした立地企業連絡協議会に補助金を交付しました。</p>			
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・産学官連携、農商工連携、異業種連携等、新たな取組への投資、新製品の開発は、企業の投下固定資産の増加と新たな雇用の創出を期待することが出来ます。またこのような取組が地域社会への貢献につながることから、市が関わることは妥当と考えます。									
	有効性	評価結果	改善の余地が大きい								
・経営層の企業間の交流は十分に深まっているので、新製品、技術開発等に貢献する連携に繋げるための事業展開を行う必要があり、各企業の技術力等の情報を市民に広め企業の認知度を高める必要があります。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・協議会の会計収入のほとんどが会員からの会費で占められており、市の補助額は少額なため費用対効果は高く事業の効率性は高いが、今後実施する各研修会・交流会の内容に関し異業種連携等に関する内容をさらに吟味し、限られた各研修会・交流会に盛り込むよう、事業計画を調整する必要があります。										

事務事業の概要	事務事業名	工業団地維持管理事業			担当課	商工労働課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	484	
	予算科目	款	7 商工費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流				
		項	1 商工費				施策目標	2 雇用・就労				
		目	2 商工振興費				基本施策	1 就労支援の充実と雇用創出の振興				
事業概要	立地企業が安全、安心に操業できるようにするために、工業団地の施設の適切な維持管理と用地の有効活用を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	工業団地管理（草刈・水路管理）			⑤				⑨			
	②	用地貸付（歳入）			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	成果指標	維持管理面積	目標	18,889	18,700	19,513	19,105	19,105	計画していたとおり6箇所の工業団地について、市が管理する法面等の除草、伐採など維持管理を実施できた。（指標は恒常的に維持管理する面積である草刈表面積を記載）			
			実績	18,889	23,778	19,105						
	<指標の計算方法>		草刈り等、維持管理している面積									
	活動指標	維持管理箇所数	目標	5	5	6	6	6	計画していたとおり6箇所の工業団地の維持管理を実施できた。			
			実績	5	6	6						
	<指標の計算方法>		草刈り等、維持管理を実施した工業団地箇所数									
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	7,947			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		7,947	
事業の実績	①工業団地管理（草刈・水路管理）			※雑草除去業務は基本的に年2回とも業務委託（管理面積は2回目を計上しない実数）				北勢田第2工業団地にて侵食された法面を補修の上、長期的に除草維持管理に係る経費を削減するため、防草シート敷張工事を施工しました。				
	市内6箇所の工業団地の市管理地において雑草除去、高木伐採等の維持管理について業務委託にて実施しました。			桃山第2工業団地下流暗渠排水路の一部周辺で発生している漏水について、暗渠排水路の破損の有無を業務委託にて調査しました。				工事内容：防草シート敷張工 93 m (除草業務1回あたり約970㎡の削減見込)				
	・雑草除去業務委託	2 件	2,590㎡	調査内容：ボックスカート内部調査 100 m				②用地貸付（歳入）				
	打田東部工業用地	2 件	1,370㎡	施設の老朽化により発生している不具合箇所の修繕を実施しました。				平成19年度から賃貸借契約を締結している桃山第3工業団地の市管理地について、本年度も継続して貸付を行いました。				
	北勢田ハイテクパーク	4 件	4,491㎡	・排水路及び法面修繕				目的：携帯電話基地局用地として				
	北勢田第2工業団地	1 件	4,125㎡	北勢田第2工業団地 2 件				住所：紀の川市桃山町調月713-3・713-27				
	桃山第1工業団地	2 件	6,529㎡	桃山第2工業団地 1 件				(桃山第3工業団地敷地内)				
	桃山第2工業団地	1 件	134㎡	・車止め安全柵修繕				面積：200㎡				
	合計	11 件	19,105㎡	桃山第3工業団地 2 件								
	・高木伐採業務委託	3 件	1,142㎡									
	桃山第1工業団地	1 件	134㎡									
	桃山第3工業団地	2 件	1,008㎡									
	合計	3 件	1,142㎡									
	維持管理総計	14 件	20,247㎡									
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・基本的に市有地であるため、市による維持管理を行う必要があります。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・シルバー人材センターを積極的に活用しているが、会員の高齢化により急傾斜地等の危険箇所や集草等の重作業は辞退されるケースが増加しており、そのような箇所は民間を積極的に活用する必要があります。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・急傾斜法面部等の難作業箇所の業務費は高額になる傾向が高く、作業員の安全面等も考慮すると防草シートによる対策を講じることで委託面積を減じることができ、作業員の安全確保及び委託費用の軽減につながるため、防草対策工事を検討する余地があります。 ・造成工事より期間が経過しており老朽化による不具合が増加傾向であることから、不具合箇所に対し修繕工事等の対策を講じ、施設の長寿命化を図る必要があります。 ・シルバー人材センターより民間業者の方が委託費が高額となる傾向があるため、除草管理法面に防草シートによる対策を講じる等の委託費の軽減対策を検討する余地があります。											

事務事業の概要	事務事業名	観光振興事業			担当課	観光振興課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	720	
	予算科目	款	7 商工費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流				
		項	1 商工費				施策目標	3 観光・交流				
目	3 観光振興費			基本施策	1 観光資源を発掘・活用した観光振興							
目				取組方針	1 誘客・観光PRの促進							
事業概要	市に訪れる観光客数の増加につなげるために、観光客への情報の発信（PR）や各観光団体への取組支援や運営への参画を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	観光PR			⑤	紀の川エリア観光サイクリング推進協議会負担金		⑨	観光PR用車両管理			
	②	県観光連盟負担金			⑥	メイヤーズカップ補助金		⑩	観光振興業務			
	③	紀の川みち広域観光連絡協議会負担金			⑦	スカイグランプリ補助金		⑪				
	④	和みわかやまキャンペーン推進協議会負担金			⑧	観光協会補助金		⑫				
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	観光PR件数	件	目標	15	15	15	15	15	新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、ほぼ全てのイベントが中止になったことにより、観光PR件数は減少しました。		
			実績	17	12	2						
	<指標の計算方法>		観光キャンペーンスタッフの参加イベント数（複数日あるイベントも1件とする）									
	成果指標	観光協会会員数	会員	目標	130	130	130	135	135	市内観光資源の活用方法を考えPRを行うべく会員を勧誘したが、令和2年度は会員数が減少しました。		
			実績	129	128	124						
<指標の計算方法>		年度末時点の会員者数（特別会員含む）										
活動指標	特産品推奨制度新規登録商品数	品	目標	10	10	10	10	10	食品関係の新商品の開発があったが、令和2年度の新規登録商品数は減少しました。			
		実績	2	7	3							
<指標の計算方法>		推奨特産品の新規登録商品数（変更・更新は除く）										
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	4,829			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	4,829		
事業の実績	<p>①観光PR 日本のフルーツ王国を目指す本市の魅力をもとにPR動画4本を制作し配信しました。</p> <p>②県観光連盟負担金 和歌山県を売り出すことにより経済の発展を促す事業への支援をしました。</p> <p>③紀の川みち広域観光連絡協議会負担金 紀の川流域の市町村が協力して、広域観光事業の発展と交流を期することを目的とする事業への支援をしました。</p> <p>④和みわかやまキャンペーン推進協議会負担金 和みわかやまキャンペーン推進協議会において、県全域で「継続可能な観光地づくり」を推進する事業への支援をしました。</p> <p>⑤紀の川エリア観光サイクリング推進協議会負担金 国内外のサイクリング観光客を紀の川エリアに誘致するため、レンタサイクル事業やレンタサイクル利用促進に係る各種イベント開催事業等への支援をしました。</p> <p>⑥メイヤーズカップ補助金 フライトイン紀の川実行委員会により開催されるパラグライダー事業への支援をしました。</p> <p>⑦スカイグランプリ補助金(中止)</p> <p>⑧観光協会補助金 特産品推奨事業の実施 新規3商品3業者（計74商品、30業者） 推奨特産品パンフレット制作(9,000部) 特産品販売事業の実施(2回) ホームページの更新・運営(10回) 観光協会広報紙の発刊(3回) フェイスブックでの情報発信(125回) キャラクターグッズ販売及び観光PRイベントへの参加やメディアを活用した観光・特産品のPRの実施</p> <p>⑨観光PR用車両管理 観光PRのために利用</p> <p>⑩観光振興業務 観光ガイドブック印刷(15,000部)</p>											
	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		<p>・観光PRを進め、観光客の増加を図ることで、市の地域経済の発展や活性化につながるなどの効果が期待されるため、市が観光振興に取り組むことについては妥当性があります。また、各補助団体における補助事業についても地域経済の発展や活性化に必要な事業であると判断できるため、支援を行うことは妥当と考えます。</p>										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
<p>・積極的に観光PR活動や販売活動を行うとともに、SNS等を効果的に活用したPRを継続して実施していくことは本市の観光振興に有効であると考えます。しかし、観光協会の運営やPR事業にかかる業務が多いため、効果的かつ継続的に事業を実施していくには協会内の業務分担について改善の余地があると思われま。</p>												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	<p>・補助金交付対象団体は補助事業への取り組みについて常に創意工夫を重ねており、当面は現状維持での支援を行なっていくことが効率的であると考えます。</p>											

事務事業の概要	事務事業名	まつり開催支援事業			担当課	観光振興課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	88	
	予算科目	款	7 商工費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流				
		項	1 商工費				施策目標	3 観光・交流				
		目	3 観光振興費				基本施策	1 観光資源を発掘・活用した観光振興				
取組方針				1 誘客・観光PRの促進								
事業概要	市の交流人口の拡大と活性化につなげるために、実行委員会との協働により、まつりや各種イベントの開催を行う事業											
事務事業を構成する細事業	① 市民まつり補助金				⑤ まつり開催支援			⑨				
	② 粉河祭補助金				⑥			⑩				
	③ 青洲まつり補助金				⑦			⑪				
	④ 桃山まつり補助金				⑧			⑫				
指標の実績	指標名	単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析				
	成果指標	まつり関係構成員数(実行委員、協力団体)	人	目標	200	204	208	208	208	近年、まつり関係団体の構成員数は、ほぼ横ばいで推移しています。		
			実績	196	199	193						
	<指標の計算方法>		市民まつり、粉河祭、青洲まつり、桃山まつり関係構成員数(実行委員、協力団体)									
	成果指標	まつり集客数	人	目標	112,500	110,500	113,000	113,000	113,000	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策により、各まつりの開催が中止されたため、まつりによる来客数は皆無となりました。		
			実績	56,300	111,500	0						
<指標の計算方法>		観光客動態調査報告数値										
活動指標	まつり関係会議回数	回	目標	75	45	55	55	55	各まつりの中止に伴い会議回数は減少しました。なお、令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策として、書面による会議やスマートフォンアプリを活用したグループ会議を行うなど感染防止対策を意識した会議形式も採用しました。			
		実績	54	53	12							
<指標の計算方法>		市民まつり、粉河祭、青洲まつり、桃山まつり開催準備会議数										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額(単位:千円)		財源内訳									
	1,875		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	1,875			
事業の実績	①市民まつり補助金 開催中止 来場者数 0人 実行委員会運営 構成員数 34人			⑤まつり開催支援 開催中止に伴う、周知・広報を行った。								
	②粉河祭補助金 開催中止 来場者数 0人 粉河祭保存会運営 構成員数 83人											
	③青洲まつり補助金 開催中止 来場者数 0人 実行委員会運営 構成員数 51人											
	④桃山まつり補助金 開催中止 来場者数 0人 実行委員会運営 構成員数 25人											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・まつりの開催にあたっては、まつり実行委員会自らが考え、自らの運営により魅力のあるイベントをつくり上げることでそれぞれのまつりの集客や地域の活性化につなげることが大切です。 一方で、実行委員会が主となってまつりを運営できるような組織づくりをし、それぞれのまつりが安全かつ円滑に開催されるためには市の側面からのサポートが必要です。したがって、市がまつり運営に関与することは妥当であると考えます。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
		・それぞれのまつりは、それぞれの地で培われた魅力、歴史、伝統を広く参加者に伝え、地域の活性化につながるものです。また、まつりは市外からの誘客のきっかけになり、交流人口の増大や市民交流につながる事業であることから有効です。 ・事故を未然に防ぎ、より安全なまつりイベントの開催に向け、きめ細かな対策を講じる必要があります。 ・今後は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況を注視しながら、実施可能な取り組みを実行委員会と考える必要があります。										
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
・まつりの会場設営に関する業務は、実行委員会が外部委託しており効率化が図られています。 ・まつり運営に関しては、実行委員会が1年を通して活動する方向に導くことで、協賛金や募金活動も更にスムーズに行うことができ、自主財源の確保につながるため、今後も実行委員会組織の強化に努める必要があります。												

事務事業の概要	事務事業名	ほたる保護事業			担当課	観光振興課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	722
	予算科目	款	7 商工費			長期総合計画体系	政策目標	3	産業・交流		
		項	1 商工費				施策目標	3	観光・交流		
		目	3 観光振興費				基本施策	2	国際交流と国内交流		
事業概要	市民に環境保全の大切さについて理解を深めてもらうために、ほたる保護団体への活動支援、ほたるサミットや観賞会等の開催を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	ほたるの館施設管理			⑤	源氏ボタルを育てる会補助金			⑨		
	②	ほたる観賞会			⑥				⑩		
	③	ほたるサミット参加負担金			⑦				⑪		
	④	ほたる保存会補助金			⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	成果指標	ほたる保護団体数	団体	目標	5	5	5	5	5	細野、野田原、貴志川、鞆淵、上名手の5カ所が観賞地です。保護団体も高齢化が進んでいますが保護活動や、飛翔時期には献身的に交通警備を行っていただき、安全に観賞することができています。 令和2年度のホタルサミットは、コロナウイルス感染拡大防止対策の為に開催中止となり、加入市町村の増加には至りませんでした。	
			実績	5	5	5					
	<指標の計算方法>		ホタル保護を行っている団体数								
	活動指標	ほたるサミット参加市町村数	団体	目標	6	6	6	6	6		
			実績	6	6	6					
<指標の計算方法>		ホタルサミット参加市町村連絡協議会規約構成市町村数									
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	886			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	886	
事業の実績	①ほたるの館施設管理 ほたるの育成環境を保全するため、ほたるの館・観賞池の維持管理を行いました。			重谷川の自然に育ったほたるを保護するため生育環境保護と自然環境美化のための活動に対する補助を行いました。							
	②ほたる観賞会 令和2年度「ほたる観賞会」は、コロナウイルス感染症対策として開催中止となりました。			⑤源氏ボタルを育てる会補助金 ゲンジボタルの人工飼育による保護や自然保護と水質保全及び生物を学ぶ活動に対する補助を行いました。							
	③ほたるサミット参加負担金 日本一のほたるの里を目指す真庭市、下関市、北九州市、米原市、阿久比町、本市の6市町が参加しています。 「つなげよう自然とホタル 未来へ」をテーマとしたほたるの里を目指す6市町が一堂に会するサミットですが、令和2年度は、開催中止となりました。			ほたる保護団体の観賞情報は、紀の川市のホームページや観光ガイドブック及び県の観光情報誌等に掲載しました。							
	④ほたる保存会補助金										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・市内のほたる保護団体に、ホタル保護活動を行ってもらうことで、市内外の住民に対し広く自然環境保護のメッセージを発信していくことに繋がるため、市が関与することは妥当です。 ・ほたる保護活動を通じて自然環境保護の重要性を広く市内外に広めていくことは、次世代へ美しい郷土を引き継いでいくという目的達成への貢献度が高いと考えます。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・ほたるサミットに参加することで広く全国に紀の川市をアピールできています。 ・ほたるの観賞地は、飛翔時期には観光資源の一つです。観賞地の案内や駐車場警備は地元、警察、行政の3者において安全の確保を行っており、交流人口の増加や市の知名度アップに貢献していますが、年々増える観賞客に対応するため、さらに駐車場や安全性の確保が必要です。 ・保護団体の会員の高齢化が進んでいるため、新たな会員の確保と継承者の育成が課題です。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・ほたる保護活動については、各保護団体において人工飼育・自然飼育という活動方針に違いがあるものの効率的かつ自主的に活動しています。										

事務事業の概要	事務事業名	地域おこし促進事業			担当課	観光振興課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	991	
	予算科目	款	7 商工費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流				
		項	1 商工費				施策目標	3 観光・交流				
		目	3 観光振興費				基本施策	1 観光資源を発掘・活用した観光振興				
取組方針				3	DMOの推進							
事業概要	「フルーツのまち 紀の川市」の魅力を外内に広め、紀の川市への定住・定着を図るために、地域おこしの支援や地域活動を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	地域おこし協力隊募集			⑤				⑨			
	②	活動支援			⑥				⑩			
	③	定住・定着のための情報収集・技術取得			⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	地域おこし協力隊員数	人	目標	3	3	3	2	2	令和2年度は、1名の地域おこし協力隊が紀の川市の観光PR等の業務を行うとともに、任期満了後には紀の川市への定住をすべく活動を行いました。		
			実績	3	2	1						
	<指標の計算方法>		各年度に地域おこし協力隊員として活動している隊員数									
	成果指標	定住・定着者数	人	目標		2	1		1	協力隊の任期については最長3年であり、令和元年度任期満了の1名については、令和2年度から紀の川市に定住しています。		
			実績		2	1						
	<指標の計算方法>		各年度に委嘱期間終了後、紀の川市に定住した地域おこし協力隊員数									
活動指標	地域おこし活動件数	回	目標	90	60	60	60	60	令和2年度は、2年目の協力隊1名のみでの活動となり、かつ新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響でほとんどのイベント等が中止となったため、活動件数は激減しました。			
		実績	82	52	13							
<指標の計算方法>		協力隊員が行った地域おこし活動開催件数										
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	4,086			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		4,086	
事業の実績	①地域おこし協力隊募集 令和3年度任用予定者1名の地域おこし協力隊募集活動をしました。 ・募集期間 12/1～1/29 ・再募集 3/15～5/14(翌) ・JOIN(一般社団法人移住・交流推進機構)、日本移住・交流ナビ及び、市のホームページを通じて募集。 ・県主催のWakayama Love ドラフト(オンライン開催)に参加(11/14)			援しました。(会議等8回) ・その他の活動 SNS等による市の魅力発信 Instagram(108回) フェイスブック(91回)								
	②活動支援 (一社)紀の川フルーツ・ツーリズム等の地域づくり団体と活動しました。 ・ふる博5開催支援 フルーツのまち紀の川市の魅力を内外に広め、地域振興に貢献。市の魅力発信とファンづくりに寄与しました。(5回) ・あらかわの桃振興協議会の支援 若手農家で構成された、わか桃の会主催のフォトコンテスト等の開催・運営を支			③定住・定着のための情報収集・技術取得 ・定住に向けた起業支援セミナービジネスプラン基礎研修受講 ・紀の川市商工会主催創業セミナー受講								
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・協力隊の業務については、(一社)紀の川フルーツ・ツーリズム等の市民活動の支援、「フルーツのまち紀の川市」の魅力発信とファンづくり、フルーツを利用した商品開発・販売などです。観光振興事業を通じて協力隊個人の生きがいがづくりや生業の発見もしてもらっています。任期満了時には紀の川市に移住定住してもらうため、市が関与し様々な情報提供を行う必要があります。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない ・地域おこし協力隊は日常的に行政が携わりにくい地域の活動に直接参加することで、地域の活性化を図ることができるため、今後も制度を活用して地域活性化を図るには有効な手段です。令和元年度任期満了者である1名についても、本市へ定住し、引き続き積極的に地域活動に参画しています。									
	効率性	評価結果	改善の余地がややある ・地域おこし協力隊は国の制度であり、市において地域の活性化事業に取り組む際、地域おこし協力隊制度を活用することは、事業費の一部について特別交付税措置があるため効率性が高い事業です。 ・新たに着任する協力隊への効率的な引継ぎ方法を整理しておく必要があります。									

事務事業の概要	事務事業名	観光交流創造事業			担当課	観光振興課		事業区分	ソフト事業					
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1014			
	予算科目	款	7 商工費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流						
		項	1 商工費				施策目標	3 観光・交流						
		目	3 観光振興費				基本施策	1 観光資源を発掘・活用した観光振興						
事業概要	観光客、市民がフルーツのまちとしての魅力・イメージアップにつなげるために、地域資源であるフルーツと他の魅力ある地域資源を結びつける取組を行う事業													
事務事業を構成する細事業	①	まちづくり人材育成塾			⑤				⑨					
	②	紀の川フルーツ・ツーリズム補助金			⑥				⑩					
	③	DMO運営支援			⑦				⑪					
	④	観光交流拠点の運営			⑧				⑫					
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析					
	成果指標	体験交流人口	人	目標	6,300	7,100	7,800	8,600	9,300	令和2年度は、県事業であるほんまもん体験イベントの参加者が191名減少しました。また、(一社)紀の川フルーツ・ツーリズム主催のふる博4への参加者が617名減少し、合計808名の減少となりました。				
			実績	5,410	4,286	3,478								
	<指標の計算方法>		ほんまもん体験利用者数と市内体験交流催し参加者数の合算(観光客動態調査(暦年調査)による)											
	活動指標	年間外国人観光客数	人	目標	110,000	120,000	130,000	140,000	150,000	新型コロナウイルス感染症の影響で観光交流拠点への来客数が令和元年から8%減少していることから、貴志駅についても推定8万×17%=13,600名としました。貴志駅以外の外国人観光客数1,490名と合わせて15,090名となりました。				
			実績	104,596	90,380	15,090								
	<指標の計算方法>		各観光施設等への調査(観光客動態調査(暦年調査)による)											
成果指標	観光ファンクラブ会員数	人	目標	1,500	2,100	2,400	2,450	2,500	ファンクラブ会員名簿について、二重登録やメールアドレスの失効者及び住所不定者等について精査した結果、実質会員数は1,887人となりました。					
		実績	1,881	2,051	1,887									
<指標の計算方法>		紀の川ふるふるファンクラブ会員数(3月31日現在)												
<指標の計算方法>														
コストの実績	R 2年度決算額(単位:千円)			財源内訳										
	21,129			国庫支出金	1,300	県支出金		地方債		繰入金		その他		一般財源
事業の実績	①まちづくり人材育成塾 「フルーツ・ライフ・スクール」(中止) 市民活動の中核人材の育成を目的とし、全課程計4回の講座を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止としました。 ②紀の川フルーツ・ツーリズム補助金 「フルーツのまち紀の川市」をPRする市民団体である(一社)紀の川フルーツ・ツーリズムが開催する「ふるふる博覧会」への支援を行いました。 ・ふる博5令和3年3月7日から開催(体験催し38種類、内オンライン催し8種類、参加者数1,528人) ③DMO運営支援 まちづくりに関係する11の、構成団体による、(一社)紀の川フルーツ観光局を支援。観光を用いたまちづくりを推進していく取組を支援しました。 ・合同部会(2回)													
	<ul style="list-style-type: none"> ・理事会(5回) ・総会(1回) ・団体旅行等受入実施(7回、計378名) ・視察・研修受け入れ(2回、計8名) ・個人向けプラン実施(5回、計12名) ・紀の川ステイファーム企画実施(2回、計6名) ・マーケティング調査の実施・公表 観光庁「誘客多角化等のための魅力的な滞在コンテンツ造成」実証事業による実証実験を実施しました。 <ul style="list-style-type: none"> ・「電動シェアサイクル」の実証実験 ・「紀の川フルーツスタンプラリー」の開催 ・世界遺産「高野山」への新たなルート開拓の検証 ・「フルーツグルメ」DVDの制作・配布 ・コミュニティバスGoogleマップ経路検索機能掲載 <ul style="list-style-type: none"> ・フルーツ観光局専用LINEの開設 ・「紀の川周遊バス」電子クーポンの販売 ④観光交流拠点の運営 多くの外国人観光客が訪れる和歌山電鉄貴志駅前で、観光交流拠点「紀楽里(きらり)」を運営。観光案内、土産物の紹介、体験交流などを通じて紀の川市の魅力を発信しました。 <ul style="list-style-type: none"> ・来客数(R2.4~R3.3) 5,162人(内外国人43人) ・共用施設利用者数(R2.4~R3.3) 1F イベント広場(1回、300人) 2F 体験交流スペース(1回、7人) 両施設同時利用(0回、0人) 													
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がややある ・市民と協働して地域のブランド化、基幹産業である農業の振興と地域の活性化を図る取組です。 ・市民団体、民間企業及び大学等、観光まちづくりに携わる関係団体が多種多様であるため、それぞれの役割を明確にして、それぞれの事業を円滑に進めていく必要があります。											
	有効性	評価結果	改善の余地がややある ・成果指標である体験交流人口の増加を目指し、訪日外国人観光客との交流を進めていくことは、市民が気軽に参加できる国際交流の機会を増やします。 ・本事業において設定している指標の中には、社会情勢等による影響が大きいものもあり、実績数値のみを取り上げて有効性を判断することは難しいと思われます。											
	効率性	評価結果	改善の余地がややある ・令和3年度以降はDMO(観光地域づくり組織)への専門人材派遣員の削減や、観光案内業務は臨時職員を中心に行うようにするなどの取組を進める必要があります。											

事務事業の概要	事務事業名	観光施設管理運営事業			担当課	観光振興課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	89	
	予算科目	款	7 商工費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流				
		項	1 商工費				施策目標	3 観光・交流				
		目	4 観光施設費				基本施策	1 観光資源を発掘・活用した観光振興				
取組方針	2 観光基盤・受入体制の整備											
事業概要	市民が観光施設を安全で快適に利用できるように、適切な維持管理や改修を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	観光施設管理（トイレ等諸施設）			⑤	市営大門橋前駐車場施設管理		⑨				
	②	百合山緑化施設管理			⑥	貴志川観光物産センター		⑩				
	③	細野溪流キャンプ場施設管理			⑦	桃山産業振興館施設管理		⑪				
	④	きしべの里施設管理			⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	成果指標	細野溪流キャンプ場入場者数	人	目標	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	新型コロナウイルス感染症の感染防止対策のため、令和2年度は臨時休業期間を設け入場制限がなされました。そのため入場者数は減少しました。		
			実績	9,953	8,284	5,989						
	<指標の計算方法>		実績報告による（キャンプ場の入場者数）									
	成果指標	市営大門橋前駐車場駐車台数	台	目標	1,400	1,300	1,300	1,300	1,300	新型コロナウイルス感染症により観光客が減少し、駐車場利用台数が減少しました。		
			実績	1,484	1,447	883						
	<指標の計算方法>		実績による（普通車・マイクロバス・大型バスの駐車数合計）									
	成果指標	桃山産業振興館利用者数	人	目標	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	新型コロナウイルス感染症により市内を訪れる観光客は減少したが、観光を目的としない野菜・果物の購買需要が増えたため、施設利用者が増えたものと思われます。		
			実績	25,320	23,404	25,422						
	<指標の計算方法>		実績報告による（レジ客件数）									
活動指標	管理施設の修繕件数	件	目標						管理施設の修繕箇所はないことが望ましいが、施設も老朽化しているため修繕箇所も多くなっています。			
		実績	5	6	5							
<指標の計算方法>		管理施設の修繕実施件数										
コストの実績	R 2年度決算額（単位：千円）			財源内訳								
	8,472			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
					1,100		782	6,590				
事業の実績	①観光施設管理（トイレ等諸施設） 窪ちびっこ広場—施設清掃委託 山田ダム公衆便所—施設清掃委託 大池遊園公衆便所—施設清掃委託			⑥貴志川観光物産センター 指定管理 利用者数 60,143人								
	②百合山緑化施設管理 施設管理・トイレ清掃管理・樹木等維持管理委託			⑦桃山産業振興館施設管理 指定管理 利用者数 25,422人								
	③細野溪流キャンプ場施設管理 指定管理 入場者数 5,989人											
	④きしべの里施設管理 施設管理・清掃管理・雑草処理・植木保守委託											
	⑤市営大門橋前駐車場施設管理 施設管理委託 利用台数 883台											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・市が管理する観光施設を快適に利用していただくために維持管理を行う事業であるため、市の事業実施は妥当であると考えます。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
		・施設利用者から施設利用における事故や怪我等の報告もなく、安全に利用していただいていることから事業は有効に実施できていると考えます。 ・観光施設を利用するリピーターを増やすためには観光客や市民のニーズを把握する必要があります。ニーズを把握する方法を検討し、分析・検証することで有効活用に向けたその後の事業展開を考えなければなりません。										
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・観光施設の老朽化による修繕費用を軽減させるため、定期点検と随時修繕を行い施設の長寿命化に取り組んでいます。											

事務事業の概要	事務事業名	土木管理事業			担当課	道路河川課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	717	
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	1	土木管理費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通				
		目	1	土木総務費		基本施策	2	道路や橋梁などまちの基盤整備				
取組方針	9	その他										
事業概要	法定外公共物を適正に管理するために、法定許認可事務及び管理を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	土木総務管理			⑤					⑨		
	②	地形図整備・管理			⑥					⑩		
	③	法定外公共物管理			⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	法定外公共物許認可件数	件	目標						法定外公共物施行承認件数 同占用許可件数 同用途廃止件数 公有財産使用（借用）件数		
				実績	93	90	78					
	<指標の計算方法>		法定外公共物許認可件数									
	活動指標	白地図販売枚数	枚	目標						紀の川市管内図販売枚数		
				実績	151	134	69					
	<指標の計算方法>		枚数									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	770			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
								53	717			
事業の実績	①土木総務管理 ・土木管理事業に関する総務 ・管理に関する住民相談等											
	②地形図整備・管理 ・地図販売枚数 69枚											
③法定外公共物管理 ・施行承認件数 40件 ・占用許可件数 13件 ・用途廃止件数 10件 ・公有財産使用(借用)許可件数 15件												
開発や個人住宅建築また電気通信線路維持に伴う法定許認可事務を行いました。												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・地方分権施策により、市町村に権限移譲された法定外公共物の管理については、機能管理及び財産管理を地方自治体が一元管理することは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・地方分権施策により、市町村に権限移譲された法定外公共物の管理については、機能管理及び財産管理を地方自治体が一元管理することは有効である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・地方分権施策により、市町村に権限移譲された法定外公共物の管理については、機能管理及び財産管理を地方自治体が一元管理することは効率的である。 ・地形図販売等に関しては、ネット販売及び外部委託も可能である。											

事務事業の概要	事務事業名	道路管理事業		担当課	道路河川課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1047	
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境			
		項	1	土木管理費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通			
		目	1	土木総務費		基本施策	2	道路や橋梁などまちの基盤整備			
取組方針	1	橋梁の適正な維持管理									
事業概要	市の道路が適正に機能するように、道路の認定・廃止にもとづく道路台帳の整備や道路の占用管理等を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	許認可（占用管理・通行規制）			⑤	道路施設管理			⑨		
	②	市道認定・廃止			⑥	訴訟・事故・苦情対応			⑩		
	③	道路美化・愛護			⑦				⑪		
	④	道路台帳整備			⑧				⑫		
指標の実績	活動指標	許認可件数	単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析 道路法等、法令に基づき適正に処理する。	
		目標	件								
	実績			283	332	293					
	<指標の計算方法>	許認可件数									
	活動指標	市道認定路線数	単位								市道認定基準に基づき議会の議決を得る。
		目標	路線								
	実績			6	14	11					
	<指標の計算方法>	市道認定路線数									
	活動指標	道路一斉清掃参加人数	単位								国の示す道路愛護月間に管内一斉清掃を市民ボランティアとともに実施する。（本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により開催中止）
		目標	人		600	600	600		600		
実績				618	581						
<指標の計算方法>	道路一斉清掃参加人数										
活動指標	事故対応件数	単位								迅速かつ適切な判断のもと対応する。	
	目標	件									
実績				2	1						
<指標の計算方法>	市道における事故対応件数（保険対応分）										
コストの実績	R 2年度決算額 （単位：千円）			財源内訳							
	10,914			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	10,914	
事業の実績	①許認可（占用管理・通行規制）			・紀の川市道路台帳整備業務 4,983,000円							
	・占用許可件数 56件			新設及び改良等により区域変更された道路について台帳整備並びにシステム更新を行いました。							
	・掘削許可件数 144件			⑤道路施設管理							
	・施行承認件数 74件			・道路パトロール（幹線道路） 月2回実施							
・幅員証明・通行協議 19件			主に2車線の主要幹線道路を定期パトロールし、道路を安全に通行できるように管理・保全に努めました。								
・特殊車両通行協議 509件			⑥訴訟・事故・苦情対応								
開発や個人住宅建築また電気通信線路維持に伴う法定許認可事務を行いました。			・被害対応30件・加害対応0件								
②市道認定			市道敷における事故対応や、市道敷に張り出している樹木の伐採等の依頼を行いました。								
・市道廃止 2路線											
・市道認定 11路線											
・延長 1,034Km 路線数 2,860路線											
③道路美化・愛護											
・道路清掃参加人数 0人											
・新型コロナウイルス感染症拡大防止により中止											
④道路台帳整備											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		道路行政事務を行う上で妥当。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
道路行政事務を行う上で有効。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	道路行政事務を行う上で効率的。										

事務事業の概要	事務事業名	地籍調査事業		担当課	地籍調査課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度 (H30 ~ R 4)	事業番号	716		
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境			
		項	1	土木管理費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通			
		目	2	地籍調査費		基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備			
取組方針	3	地籍調査の着実な推進									
事業概要	市民（地権者）が正確な土地情報を把握し、土地の活用ができるように、市内の土地について調査・測量・閲覧を行い、地籍図及び地籍簿の作成を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	調査			⑤	近畿ブロック国土調査推進連絡協議会負担金			⑨		
	②	推進委員会運営			⑥	県地籍調査協議会負担金			⑩		
	③	閲覧・成果データ管理			⑦				⑪		
	④	全国国土調査協会負担金			⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	一筆地調査地区数	地区	目標	8	8	2	4	1	地籍調査計画に基づき設定した目標を達成できた。	
			実績	8	8	2					
	<指標の計算方法>		調査地区の地区数								
	活動指標	閲覧地区数	地区	目標	7	2	9	8	4	地籍調査計画に基づき設定した目標を達成できた。	
			実績	7	2	9					
	<指標の計算方法>		閲覧業務開催地区数								
活動指標	調査面積	km ²	目標	189.8	201.48	206.91	216.72	220.97	地籍調査計画に基づき設定した目標を達成できた。 当該年度の目標数値については、『和歌山県の地籍調査』公表数値との整合性をとる。		
		実績	190.48	201.77	208.14						
<指標の計算方法>		前年度末実施累計面積 + 当該年度実施済面積（地積測定確定後） + 19条5項指定済面積									
成果指標	調査面積に対する地籍調査の進捗率	%	目標	86	91.3	93.7	97.7	99.7	地籍調査計画に基づき設定した目標を達成できた。 当該年度の目標数値については、『和歌山県の地籍調査』公表数値との整合性をとる。		
		実績	86.3	91.5	93.9						
<指標の計算方法>		当該年度未完了済面積 ÷ 調査対象面積221.61									
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	161,518			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	48,441	
事業の実績	①調査		・閲覧実施地区 9地区		金		・33,200円				
			・一筆地測量実施地区 6地区		⑥県地籍調査協議会負担金		・10,000円				
			・一筆地調査実施地区 2地区								
	②推進委員会運営		・新型コロナウイルス感染症予防対策のため 書面開催。 内容：地籍調査の実施状況								
	③閲覧・成果データ管理		・法務局からの土地の分・合筆の異動に伴う地籍情報管理システムへの反映（随時） ・調査完了地区（登記完了）の地籍情報管理システムへ反映（10地区）								
④全国国土調査協会負担金		・97,700円									
⑤近畿ブロック国土調査推進連絡協議会負担											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		所有者、利害関係人又はこれらの代理人の確認を得て調査すること、また調査に必要な個人情報を取り扱うことから、市が実施していることが妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
順調に地籍調査が推移し、成果の利用ができています。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	外注方式により効率的に調査を実施した。										

事務事業の概要	事務事業名	登記事業		担当課	地籍調査課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	415	
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境			
		項	1	土木管理費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通			
		目	3	土地登記費		基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備			
取組方針	9	その他									
事業概要	市が取得した土地を市有名義として登記するために、所有権移転の手続きを行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	登記	⑤							⑨	
	②	相続調査	⑥							⑩	
	③		⑦							⑪	
	④		⑧							⑫	

指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析
	活動指標	地籍調査事業に基づく登記筆数	筆	目標					
		実績		362	217	370			
	<指標の計算方法>		地籍調査完了地区における、道路・水路敷の所有権を市名義に移転登記した筆数						
	活動指標	道路事業等に伴う登記筆数	筆	目標					道路等の整備ができ、地域住民の利用の円滑化を図ることができる。
		実績		384	294	318			
	<指標の計算方法>		道路事業等で所有権を市名義に移転登記した筆数						
			目標						
			実績						
<指標の計算方法>									

コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)		財源内訳					
	12,074		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
								12,074

事業の実績	①登記 ・地籍調査事業に基づく登記筆数：370筆 ・道路改良事業等に伴う登記筆数：318筆		
	②相続調査 ・道路改良事業に伴う所有者死亡による相続調査及び地籍調査事業における相続調査(随時)		

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない
		登記業務に関し、統一的な事務手続きが行える。	
	有効性	評価結果	改善の余地がない
		本事業は市の土地に関する事業事務において必要不可欠であり、他課からの登記依頼案件もある。	
	効率性	評価結果	改善の余地がない
		所有権移転登記業務を外注すれば多額の費用がかかるため、市が登記業務をすることにより費用が抑制される。	

事務事業の概要	事務事業名	道路行政推進事業			担当課	道路河川課			事業区分	ソフト事業				
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1048			
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境						
		項	2	道路橋りょう費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通						
		目	1	道路橋りょう総務費		基本施策	2	道路や橋梁などまちの基盤整備						
事業概要	市の計画的な道路行政の推進を図るために、関連団体の活動に参画する事業													
事務事業を構成する細事業	① 日本道路協会負担金		⑤ 県国道連絡会負担金		⑨									
	② 県高規格幹線道路建設促進委員会負担金		⑥ 県用地対策連絡協議会負担金		⑩									
	③ 県道路協会負担金		⑦ 県建設技術協会負担金		⑪									
	④ 県市町村道路整備促進期成同盟会負担金		⑧ 無電柱化を推進する市町村の会負担金		⑫									
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析					
	活動指標	総会参加回数	目標	5	5	5		5	幹線道路等の整備促進のためには、各団体への要望活動及び総会への参画は必要不可欠である。					
			実績	5	5	5								
	<指標の計算方法>		総会参加回数											
		目標												
		実績												
	<指標の計算方法>													
		目標												
		実績												
	<指標の計算方法>													
	目標													
	実績													
<指標の計算方法>														
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳										
	757			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源					
事業の実績	①日本道路協会負担金 ・30,000円 国内外の道路の果たす多様な役割を通じて、国民生活に不可欠な道路政策のあり方を研究し、道路に関する知識の普及啓発に努め、道路及び交通の発達を促進し、もって公共の福祉に寄与することを目的とする。			和歌山県の道路利用者の総意に基づき、道路整備を促進するとともに、道路交通の発展に寄与することを目的とする。			整及び損失補償に関する調査研究等を行い、もって公共用地取得の適正化とその円滑な推進に寄与することを目的とする。							
	②県高規格幹線道路建設促進委員会負担金 ・20,000円 近畿自動車道紀勢線、京奈和自動車道、東海南海自動車道、紀伊半島縦貫道等の早期整備を図るため、国等への要望活動を実施し、事業促進に必要な啓発等、目的達成に必要な事業を行い、もって本県産業経済の発展に寄与することを目的とする。			④県市町村道路整備促進期成同盟会負担金 ・12,000円 和歌山県内の市町村道の整備を推進するため、道路財源の確保、道路予算の拡大について活動を行うことを目的とする。			⑦県建設技術協会負担金 ・86,400円 建設関係施策の確立を促進するため、建設技術関係者の技術水準の向上とその処遇改善を図り、もって建設技術の向上発展に資することを目的とする。							
	③県道路協会負担金 ・559,800円 (管内県道等整備による事業費割)			⑤県国道連絡会負担金 ・23,000円 和歌山県内の地方道路の整備促進及びその適切な維持管理を支援することにより、快適な道路環境を実現し、住民の安全の確保、生活の安定向上を図ることを目的とする。			⑧無電柱化を推進する市区町村長の会負担金 ・3,000円 政府や民間等との連携・協力を図り、無電柱化のより一層の推進を進めることを目的とする。							
				⑥県用地対策連絡協議会負担金 ・22,500円 公共用地の取得に関し、会員相互間の連絡調										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない											
		・幹線道路の整備促進についての要望活動及び総会への参画は妥当。												
	有効性	評価結果	改善の余地がない											
・幹線道路の整備促進についての要望活動及び総会への参画は有効。														
効率性	評価結果	改善の余地がない												
	・幹線道路の整備促進についての要望活動及び総会への参画は効率的。													

事務事業の概要	事務事業名		国・県道整備促進事業				担当課	道路河川課		事業区分	ソフト事業		
	会計		一般会計				新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	714
	予算科目	款	8 土木費				長期総合計画体系	政策目標	4 都市基盤・生活環境				
		項	2 道路橋りょう費					施策目標	1 都市基盤整備・公共交通				
		目	1 道路橋りょう総務費					基本施策	2 道路や橋梁などまちの基盤整備				
事業概要		市が国道・県道の整備を促進するために、関連団体への整備要望や活動に参画する事業											
事務事業を構成する細事業	① 整備促進・要望活動		⑤				⑨						
	② 県京奈和自動車道建設促進協議会負担金		⑥				⑩						
	③ 県道整備期成同盟会補助金		⑦				⑪						
	④		⑧				⑫						
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析				
	活動指標	整備促進・要望活動回数	目標	3	3	3		3	国道、県道の整備促進のためには、各団体への要望活動及び総会への参画は必要不可欠である。				
			実績	3	3	3							
	<指標の計算方法>		整備促進・要望活動回数										
			目標										
			実績										
	<指標の計算方法>												
		目標											
		実績											
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	250			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	250			
事業の実績	①整備促進・要望活動 京奈和自動車道、国道480号等に関する要望活動の実施												
	②県京奈和自動車道建設促進協議会負担金 ・50,000円 京奈和自動車道の延伸及び4車線化を目指す団体。												
	③県道整備期成同盟会補助金 地域の福祉を増進するために、生活の根幹である県道の整備要望活動に対する補助金。 ・200,000円 県道かつらぎ桃山線大改修期成同盟会 野田原谷道路委員会												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・国、県道整備については、周辺自治体との連携が必要であり総会等への参画は妥当である。											
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
・国、県道整備については、周辺自治体との連携が必要であり総会等への参画は有効である。													
効率性	評価結果	改善の余地がない											
	・国、県道整備については、周辺自治体との連携が必要であり総会等への参画は効率性がある。												

事務事業の概要	事務事業名	京奈和関空連絡道路整備促進事業			担当課	道路河川課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	713	
	予算科目	款	8 土木費			長期総合計画体系	政策目標	4 都市基盤・生活環境				
		項	2 道路橋りょう費				施策目標	1 都市基盤整備・公共交通				
		目	1 道路橋りょう総務費				基本施策	2 道路や橋梁などまちの基盤整備				
取組方針				3 高速道路、国・県道の整備促進								
事業概要	市が京奈和関空連絡道路の早期事業化を目指すために、関係団体への要望活動及び道路の必要性を啓発する事業											
事務事業を構成する細事業	①	整備促進・要望活動			⑤				⑨			
	②	京奈和関空連絡道路建設促進期成同盟会			⑥				⑩			
	③	京奈和関空連絡道路建設促進調査業務委託			⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	成果指標	要望活動回数	目標	3	3	3		3	府県間を跨ぐ高規格道路である本道路の整備促進のためには、関係機関への要望活動は必要不可欠である。			
			実績	2	3							
	<指標の計算方法>		要望活動回数									
	活動指標	総会開催回数	目標	1	1	1		1	同盟会規約に基づき、会員市町首长並びに議長出席による総会を年1回開催する。			
			実績	1	1	1						
	<指標の計算方法>		総会開催回数									
活動指標	検討会開催回数	目標	1	1	1		1	本道路の整備効果検証を実施するには、専門的知識を有するコンサルタントに委託することが適当である。				
		実績	1	1	1							
<指標の計算方法>		検討会開催回数										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	2,137			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			2,137									
事業の実績	<p>①整備促進・要望活動 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため本年度要望活動は中止。</p> <p>②京奈和関空連絡道路建設促進期成同盟会 ・負担金 148,500円 ・総会（書面表決） ・啓発用物品作製（チラシ入りマスク作製）</p> <p>③京奈和関空連絡道路建設促進調査業務委託 ・調査業務委託費 本市負担金 1,787,500円</p> <p>委託業者による調査業務内容について、大阪府・和歌山県・泉佐野市・紀の川市にて、ワーキング及び調査検討会を開催しました。（検討会R3.3.22）</p>											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・市においては、本指標のみ実施し得る事業であるため妥当。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・本道路構想実現に向けて、要望活動は有効である。（本年度においては新型コロナウイルス感染症対策のため要望活動は中止。）												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・本道路構想実現に向けて、同盟会総意の要望は効率性がある。											

事務事業の概要	事務事業名	道路整備計画策定事業			担当課	道路河川課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度 (R1～R2)	事業番号	1049		
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	2	道路橋りょう費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通				
		目	1	道路橋りょう総務費		基本施策	2	道路や橋梁などまちの基盤整備				
事業概要	道路をとりまく財政状況、周辺の整備状況の変化により、効率的・計画的な道路整備を行うため、道路整備の策定を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	道路整備計画策定			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	指標の分析		
	活動指標	委託業者協議	回	目標				6		計画的に道路を整備するための、協議等を行い道路整備計画の策定を行う。		
				実績		3	6					
	<指標の計算方法>		協議回数									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	5,762			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	5,762		
事業の実績	①道路整備計画策定 ・整備計画策定委託料 5,762,000円 計画的な道路整備を行うため路線等の検討を行いました。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		計画的に道路整備を行うための整備計画であることから妥当といえる。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
整備計画を策定することにより、計画的に整備を進める上で必要となることから妥当といえる。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	計画的な道路整備を行うには道路状況の変化など道路をとりまく情勢の把握ができ効率的効果的な整備が行えることから妥当といえる。											

事務事業の概要	事務事業名	市道等維持修繕事業			担当課	道路河川課		事業区分	ハード事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	92	
	予算科目	款	8 土木費			長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境			
		項	2 道路橋りょう費				施策目標	1	都市基盤整備・公共交通			
		目	2 道路橋りょう維持費				基本施策	2	道路や橋梁などまちの基盤整備			
事業概要	市道利用者が安全快適に利用できるように、市道の適切な維持管理や修繕を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	市道維持修繕			⑤	道路付属施設管理		⑨				
	②	融解作業委託			⑥			⑩				
	③	道路管理清掃委託			⑦			⑪				
	④	舗装			⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	草刈清掃業務路線数	路線	目標						草刈業務については継続的に実施している。		
				実績	47	50	52					
	<指標の計算方法>		年間草刈業務及び清掃委託路線数									
	活動指標	要望による道路修繕箇所数	箇所	目標							緊急性の高いところから修繕を優先的に実施している。	
				実績	98	102	71					
<指標の計算方法>		地元要望による道路維持修繕箇所数										
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
205,565			10,400		8,600	110,000			76,565			
事業の実績	①市道維持修繕											
	・道路修繕 71箇所 88,404,800円											
	・維持修繕 44箇所 8,451,670円											
	②融解作業委託(材料費含む)											
	・融解作業 8件(32路線) 5,135,702円											
③道路管理清掃委託												
・草刈清掃業務 52路線 23,027,240円												
・崩土撤去 1箇所 258,500円												
④舗装(メンテナンス事業(4路線))												
・工事 23,545,500円												
⑤道路付属施設管理												
・道路灯修繕 20件 813,329円												
・排水施設管理棟扉修繕 1件 679,800円												
・道路灯LED化 237灯 32,600,700円												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・委託と直営施工により市道の維持管理や修繕を行い、利用者が安全・快適に利用できるよう市が主体となり実施することは妥当といえる。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・市道の維持管理及び修繕をすることは道路の安全性を高めるには有効である。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・維持管理や簡易修繕は会計年度任用職員で直営施工し。また発注する修繕については工法選定によりコスト削減に努めることは効率的である。 ・近年は高齢者が増加したことにより清掃活動が減少しており、簡易なものについては各支所で対応可能な範囲でお願いしたい。											

事務事業の概要	事務事業名	橋りょう維持修繕事業			担当課	道路河川課			事業区分	ハード事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	706	
	予算科目	款	8 土木費			長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境			
		項	2 道路橋りょう費				施策目標	1	都市基盤整備・公共交通			
		目	2 道路橋りょう維持費				基本施策	2	道路や橋梁などまちの基盤整備			
事業概要	橋りょう利用者が橋りょうを安全に利用できるように、5年毎に点検を行い、その結果を基に修繕を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	橋りょう維持修繕			⑤				⑨			
	②	点検調査業務			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	橋りょう点検箇所数	橋	目標	234	86	122	129	239	目標通りに点検を実施している。管理橋梁816橋の定期点検(回/5年)平成30年度で一巡し令和元年度より二巡目の点検となっている。		
				実績	207	86	122					
	<指標の計算方法>		計画による橋りょう点検箇所数									
	活動指標	橋りょう点検進捗率	%	目標	100	11	25	41	目標通りに点検を実施している。管理橋梁816橋の定期点検(回/5年)平成30年度で一巡し令和元年度より二巡目の点検となっている。			
				実績	100	11	25					
	<指標の計算方法>		橋りょう点検に対する進捗率									
	活動指標	橋りょう修繕件数	橋	目標	3	4	2	3	3	橋梁点検により早期の対応が必要な橋梁から補修を実施している。		
				実績	0	5	15					
	<指標の計算方法>		橋りょう点検に伴う修繕済み件数									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位:千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			210,636	108,211		78,500		2,833	21,092			
事業の実績	①橋りょう維持修繕 ・設計業務(R1繰越)(1橋) 3,413,500円 (馬宿西垣内線1号橋) ・補修工事(R1繰越)(12橋) 112,426,300円 (東1号線1号橋、愛宕橋、中瀬6号線1号橋他1橋、善田橋、粉河51号線1号橋、西原橋他2橋、西ノ谷橋他1橋、麻生津橋)											
	・補修工事(R2)(6橋) 77,803,100円 (麻生津橋、狼尾橋、西136号線1号橋、上丹生谷西川原線1号橋他1橋、鐘搦谷第一橋)											
事業の事後評価	②点検調査業務 ・橋梁定期点検(122橋) 16,992,800円											
	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・定期点検を行いその結果に基づき補修することで橋りょうを安全に利用できるよう市が実施することは妥当といえる。										
有効性	評価結果	改善の余地がややある										
	・橋梁点検結果を基に個別施設計画を作成し修繕を行うことは有効である。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・橋梁の損傷を早期に発見し従来の対症療法的な維持管理から損傷が軽微な段階で予防的に対策を講じる予防保全型の維持管理を行なう事で安全・安心を確保しつつライフサイクルコスト及び工法の検討によるコストの削減を図ることは効率的である。											

事務事業の概要	事務事業名	主要幹線道路整備事業		担当課	道路河川課			事業区分	ハード事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	696	
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境			
		項	2	道路橋りょう費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通			
		目	3	道路橋りょう新設改良費		基本施策	2	道路や橋梁などまちの基盤整備			
取組方針	2	市道の整備・充実									
事業概要	市道利用者の利便性の向上を図るために、市道（主要幹線道路）の整備、改良を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	市道上野庁舎前線			⑤					⑨	
	②	市道東国分赤尾線			⑥					⑩	
	③				⑦					⑪	
	④				⑧					⑫	

指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	市道上野庁舎前線道路整備率	目標			100			引き続き用地交渉		
			実績		90	98					
	<指標の計算方法>		整備による進捗率								
	活動指標	市道東国分赤尾線道路整備率	目標			60	80	100	令和元年度より工事施行中であり4年度完成を目指している		
			実績		37	43					
	<指標の計算方法>		整備による進捗率								
			目標								
			実績								
	<指標の計算方法>										
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											

コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)		財源内訳					
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	90,370	49,788			37,500		1,203	1,879

事業の実績	①市道上野庁舎前線		②市道東国分赤尾線	
	【R1繰越】	工事 1件 1,050,000円 用地 1件 2,029,000円 補償 3件 47,160,200円	【R2】	工事 3件 22,908,000円 用地 1件 40,500円 補償 1件 500,300円 委託 1件 462,000円

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・主要幹線市道を整備することにより、利用者の利便性が大きく向上することから妥当といえる。
	有効性	評価結果	改善の余地がない ・主要幹線市道を整備すると共に歩道整備も視野に入れ計画することで歩行者の安全性が向上するため有効である。
	効率性	評価結果	改善の余地がややある ・市主導での計画となることが多く長期計画となることからやや効率が悪くなる。 ・コスト削減に向けた使用部材・工法選定の検討・実施を行っている。

事務事業の概要	事務事業名		市道等改良事業				担当課	道路河川課			事業区分	ハード事業		
	会計		一般会計				新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し			事業番号	689
	予算科目	款	8 土木費				長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	2 道路橋りょう費					施策目標	1	都市基盤整備・公共交通				
		目	3 道路橋りょう新設改良費					基本施策	2	道路や橋梁などまちの基盤整備				
事業概要		市道利用者の利便性、安全性の向上を図るために、市道の改良工事を行う事業												
事務事業を構成する細事業		①	市道改良				⑤					⑨		
		②					⑥					⑩		
		③					⑦					⑪		
		④					⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析					
	活動指標	市道改良箇所数		箇所	目標					継続的に事業実施されている。				
					実績	56	55	64						
	<指標の計算方法>		道路改良箇所数											
				目標										
				実績										
<指標の計算方法>														
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)		財源内訳											
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源						
	241,953		17,179	5,772	197,600			21,402						
	①市道改良													
	・委託 21箇所 19,157,600円													
	・改良工事 64箇所 210,285,600円													
・土地購入 4件 879,800円														
・補償 15件 5,566,997円														
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない											
		生活道路的な市道を地元からの要望を基に事業を行っていることから、真に危険な箇所、不便な箇所を改良することにより、利便性の向上を図っており妥当といえる。												
	有効性	評価結果	改善の余地がない											
生活道路的な市道を地元からの要望を基に事業を行っていることから、真に危険な箇所、不便な箇所を改良することにより、利便性の向上を図っており有効といえる。														
効率性	評価結果	改善の余地がややある												
	・使用部材・工法選定を検討し、コスト縮減に努め、より多くの工事に対応し少しでも道路の安全性・通行性を向上させることは効率的といえる。													

事務事業の概要	事務事業名	道路整備等補助事業			担当課	道路河川課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	694	
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	2	道路橋りょう費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通				
		目	3	道路橋りょう新設改良費		基本施策	2	道路や橋梁などまちの基盤整備				
取組方針	2	市道の整備・充実										
事業概要	市民の住生活の改善を図るために、自治区の集落道や排水路の改修への補助を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	道路整備等事業補助金			⑤					⑨		
	②	生活環境施設整備事業補助金			⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	補助金交付指令件数	件	目標						毎年同じぐらいの要望数である。		
				実績	18	16	12					
	<指標の計算方法>		地元要望に対する補助金件数									
	活動指標	整備率	%	目標	100	100	100	100		要望に伴う整備工事については目標通り実施・完成している。		
				実績	100	100	100					
	<指標の計算方法>		補助金交付に対する整備率									
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	2,104			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	2,104		
事業の実績	①道路整備等事業補助金 補助金(50%) 9件 1,689,050円											
	②生活環境施設整備事業補助金 補助金(50%) 3件 414,500円											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・市道以外の集落道・集落排水については、地元(受益者)において機能管理しており住生活環境の向上を図る。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・自治区が事業主体であり、毎年度申請があることもあり住生活環境の向上には有効である。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・自治区が事業主体であり、工法のコスト縮減に努め事業を効率的に進めるよう協議を行っている。											

事務事業の概要	事務事業名	交通安全施設整備事業			担当課	道路河川課		事業区分	ハード事業					
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	94			
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心						
		項	2	道路橋りょう費		施策目標	1	防災・防犯						
		目	4	交通安全施設費		基本施策	4	防犯・交通安全対策の推進						
取組方針	2	交通安全施設の整備												
事業概要	市道利用者の安全確保を図るために、交通安全施設の整備を行う事業													
事務事業を構成する細事業	①	交通安全施設整備			⑤					⑨				
	②				⑥					⑩				
	③				⑦					⑪				
	④				⑧					⑫				
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析				
	活動指標	交通安全施設設置箇所数	目標							損傷の激しい箇所から随時修繕を実施している。 危険な箇所を優先的に修繕する。				
			実績		80	107	134							
	<指標の計算方法>		交通安全施設の設置箇所数											
			目標											
実績														
<指標の計算方法>														
		目標												
		実績												
<指標の計算方法>														
		目標												
		実績												
<指標の計算方法>														
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳										
		36,810		国庫支出金	868	県支出金		地方債		繰入金		その他	820	一般財源
事業の実績	①交通安全施設整備													
	【R1繰越】 ・工事 1,687,400円 グリーンベルト、区画線 3箇所 【R2】 ・工事、修繕 34,339,576円 カーブミラー 76箇所 防護柵 12箇所 区画線 32箇所 標識 4箇所 グリーンベルト 10箇所													
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない											
		・市道利用者の安全性を図るため、交通安全施設の整備を市が実施することは、妥当といえる。												
	有効性	評価結果	改善の余地がない											
・道路パトロールの強化により、施設の老朽化・損傷を早期に発見・修繕し安全性の向上を図ることは有効である。 ・施設の損傷度・緊急度・地域性を基に整備することは有効的といえる。 ・全ての施設について、状態把握できないことから地区からの要望を受け確認施工することは有効である。														
効率性	評価結果	改善の余地がない												
・ミラー取替等、簡易な施工については、会計年度任用職員で施工することによりコスト縮減にもなり早急に対応できることから効率が向上する。														

事務事業の概要	事務事業名	国・県河川行政推進事業			担当課	道路河川課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	95	
	予算科目	款	8 土木費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心				
		項	3 河川費				施策目標	1 防災・防犯				
		目	1 河川総務費				基本施策	3 災害に強いまちの形成				
目				取組方針	1 治水対策の推進							
事業概要	計画的な河川行政の推進を図るために、関連団体の活動に参画する事業											
事務事業を構成する細事業	①	日本河川協会			⑤			⑨				
	②	紀の川改修促進期成同盟会			⑥			⑩				
	③	紀の川水質汚濁防止連絡協議会			⑦			⑪				
	④				⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	総会参加回数	回	目標	1	1	1		1	河川整備事業の促進のためには、本団体への要望活動及び総会への参画は必要不可欠である。		
			実績	1	1	1						
	<指標の計算方法>		総会参加回数（和歌山県河川協会）									
	活動指標	総会参加回数	回	目標	1	1	1		1	紀の川整備事業の促進のためには、本団体への要望活動及び総会への参画は必要不可欠である。		
			実績	1	1	1						
	<指標の計算方法>		総会参加回数（紀の川改修促進期成同盟会）									
	活動指標	総会参加回数	回	目標	1	1	1		1	紀の川の水質汚濁防止のためには、本団体総会への参画は必要不可欠である。		
			実績	1	1	1						
	<指標の計算方法>		総会参加回数（紀の川水質汚濁防止連絡協議会）									
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	123			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		123	
事業の実績	①日本河川協会 和歌山河川協会負担金 75,000円 治水利水防災事業の促進を図ることを目的とする。			○海神川土砂埋め立てに関する協議・調整								
	②紀の川改修促進期成同盟会 紀の川改修促進期成同盟会負担金 48,000円 紀の川改修の促進を期し、流域住民が洪水による災禍を永遠に被らないよう努めることを目的とする。											
	③紀の川水質汚濁防止連絡協議会 その他各種事業に関する協議・要望 ○岩出狹窄部対策事業に関する協議・調整 ○藤崎狹窄部対策事業に関する協議・調整 ○麻生津無堤防地区に関する協議・調整 ○紀の川水系貴志川浚渫要望											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・ 総会等の参画に関しては、会員市としての責務であるため妥当。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・ 個別事業に関する要望や協議事案については、専門的知識を有する人材配置が有効。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・ 国、県においては、河川整備計画に基づき事業を実施しているため効率性がある。											

事務事業の概要	事務事業名		砂防行政推進事業				担当課	道路河川課		事業区分	ソフト事業		
	会計		一般会計				新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1050
	予算科目	款	8 土木費				長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心				
		項	3 河川費					施策目標	1 防災・防犯				
		目	1 河川総務費					基本施策	3 災害に強いまちの形成				
事業概要		砂防行政の推進を図るために、関連団体の活動に参画する事業											
事務事業を構成する細事業		①	全国治水砂防行政事業				⑤			⑨			
		②	全国治水砂防協会負担金				⑥			⑩			
		③					⑦			⑪			
		④					⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析				
	活動指標	総会参加回数	目標	1	1	1		1	土砂災害から市民の生命、財産を守るため、国や県と連携して防災機能の強化を図るため、総会等に参画する。				
			実績	1	1	1							
	<指標の計算方法>		総会参加回数										
			目標										
			実績										
	<指標の計算方法>												
		目標											
		実績											
<指標の計算方法>													
		目標											
		実績											
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	98			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源				
			98										
事業の実績	①全国治水砂防協会総会 治水・砂防施設の整備促進に向け関係省庁に対して要望活動を展開。												
	②全国治水砂防協会負担金 98,000円 和歌山県が実施する管内砂防整備事業について負担金として負担するもの。												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・治水砂防事業については、市民生活の安全性が向上されると見込まれるため妥当。											
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
・治水砂防事業に伴う協議等については、専門的知識を有する職員の配置が有効。													
効率性	評価結果	改善の余地がない											
	・管内事業採択により、負担金増額の可能性あり。												

事務事業の概要	事務事業名		県営急傾斜地崩壊対策事業			担当課		道路河川課		事業区分	ハード事業	
	会計		一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1141
	予算科目	款	8 土木費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心				
		項	3 河川費				施策目標	1 防災・防犯				
		目	1 河川総務費				基本施策	3 災害に強いまちの形成				
事業概要		急傾斜地崩壊対策として和歌山県が実施する事業に対し、市が費用を負担する事業										
事務事業を構成する細事業	①		県営急傾斜地崩壊対策事業負担金			⑤					⑨	
	②					⑥					⑩	
	③					⑦					⑪	
	④					⑧					⑫	
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	県営急傾斜地崩壊対策事業負担金比率	%	目標						和歌山県急傾斜地崩壊危険区域に指定された地区の事業実施に伴い、負担金5%を担う。		
				実績		5	5					
	<指標の計算方法>		全体事業費×負担率									
	活動指標	県営急傾斜地崩壊対策事業負担金比率	%	目標						和歌山県急傾斜地崩壊危険区域に指定された地区の事業実施に伴い、負担金10%を担う。		
				実績		10	10					
<指標の計算方法>		全体事業費×負担率										
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	8,815			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	415		
事業の実績	①県営急傾斜地崩壊対策事業負担金 平野地区（法枠工）			・事業費 51,300,000円		・負担金 2,565,000円(5%)		・負担金 600,000円(10%)				
								最上地区（法枠工）				
								・事業費 18,000,000円				
								・負担金 1,800,000円(10%)				
	②県営急傾斜地崩壊対策事業負担金 寺長地区（測量・調査・設計）			・事業費 10,500,000円		・負担金 1,050,000円(10%)						
	西川原地区（法枠工）			・事業費 16,000,000円		・負担金 1,600,000円(10%)						
常谷地区（法枠工）			・事業費 12,000,000円		・負担金 1,200,000円(10%)							
東川原地区（ブロック積工）			・事業費 6,000,000円									
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・和歌山県が急傾斜地崩壊危険区域として指定した地区について対策事業に対する負担金である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・和歌山県が急傾斜地崩壊危険区域として指定した地区について策事業に対する負担金である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・和歌山県が急傾斜地崩壊危険区域として指定した地区について策事業に対する負担金である。 ・市において対策が困難な災害箇所について、県営事業採択に向け調査協議を行う。											

事務事業の概要	事務事業名		県営小規模土砂災害対策事業			担当課		道路河川課		事業区分	ハード事業	
	会計		一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1142
	予算科目	款	8	土木費		長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心			
		項	3	河川費			施策目標	1	防災・防犯			
		目	1	河川総務費			基本施策	3	災害に強いまちの形成			
事業概要		小規模土砂災害対策として和歌山県が実施する事業に対し、市が費用を負担する事業										
事務事業を構成する細事業		①	県営小規模土砂災害対策事業負担金		⑤					⑨		
		②			⑥					⑩		
		③			⑦					⑪		
		④			⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	県営小規模土砂災害対策事業負担金比率	%	目標							県営小規模土砂災害対策事業に採択された地区の事業実施にあたり、地元負担金10%を担う。	
				実績		10	10					
	<指標の計算方法>		全体事業費×負担率									
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	600			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
事業の実績	①県営小規模土砂災害対策事業負担金											
	北山地区 (ブロック積工) ・事業費 6,000,000円 ・負担金 600,000円(10%)											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・和歌山県小規模土砂災害対策事業実施要領に基づく。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・和歌山県小規模土砂災害対策事業実施要領に基づく。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・和歌山県小規模土砂災害対策事業実施要領に基づく。											

事務事業の概要	事務事業名	河川管理保全事業			担当課	道路河川課		事業区分	ハード事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	687	
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心				
		項	3	河川費		施策目標	1	防災・防犯				
		目	2	河川管理費		基本施策	3	災害に強いまちの形成				
取組方針	1	治水対策の推進										
事業概要	市が治水機能の維持と水辺環境の美化保全を図るために、河川、河川公園の維持管理を適切に行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	河川愛護・美化保全			⑤					⑨		
	②	河川管理事務			⑥					⑩		
	③	河川公園管理 (3河川公園)			⑦					⑪		
	④	河川管理保全			⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	河川一斉清掃参加人数	人	目標	100	100	100	100	100	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により清掃活動を中止。		
				実績								
	<指標の計算方法>		河川一斉清掃参加人数									
	活動指標	河川維持管理件数	件	目標							10箇所の改修工事を実施した。 2箇所の浚渫工事を実施した。	
				実績		5	12					
<指標の計算方法>		河川維持管理件数										
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	23,599			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	11,999		
事業の実績	①河川愛護・美化保全 河川一斉清掃 (新型コロナウイルス感染症拡大により中止)											
	②河川管理事務 (許認可事務・法令に基づく規制等)											
	③河川公園管理 (3河川公園) 草刈清掃											
	④河川管理保全 委託 1件 1,118,700円 準用河川(鯉川)浚渫 499,400円 普通河川 浚渫(1河川) 258,500円 普通河川 工事(10河川) 21,722,800円											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		<ul style="list-style-type: none"> 河川掃除を通じ、市民の水辺環境の美化保全を考えてもらえる。 準用河川・普通河川を維持管理することは、防災を目的とする上で妥当である。 										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
<ul style="list-style-type: none"> 開催時期・期間も含めより多くの市民に携わっていただける検討が必要である。 堆積土の浚渫や河川構造物の修繕することは治水上有効である。 												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	<ul style="list-style-type: none"> 費用的にはボランティア清掃であるため、過大費用でない事業である。 市内の全河川は国県の管理河川に流れ込んでいることから国県の河川維持管理が必要である。 											

事務事業の概要	事務事業名	急傾斜地崩壊対策事業			担当課	道路河川課			事業区分	ハード事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	682	
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心				
		項	3	河川費		施策目標	1	防災・防犯				
		目	2	河川管理費		基本施策	3	災害に強いまちの形成				
事業概要	市民の安全性を確保するために、急傾斜対策を行った施設の維持管理を適切に行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	急傾斜地管理（調月北部）			⑤					⑨		
	②				⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	急傾斜地の維持管理箇所数	箇所	目標	1	1	1	1	1	調月北部の急傾斜対策済箇所について維持管理を行なっている。		
				実績	1	1	1					
	<指標の計算方法>		急傾斜地の維持管理箇所数									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	1,265			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	1,265		
事業の実績	①急傾斜地管理（調月北部） 草刈業務 1,265,000円											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・ 民家や公共施設に影響を及ぼす可能性がある急傾斜地対策済箇所の維持管理を市が実施することは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・ 急傾斜地対策済箇所の除草をすることで、法面の状態を把握するには有効である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・ 急傾斜地対策済箇所の除草をすることで、法面を適正に管理されている。											

事務事業の概要	事務事業名	排水対策事業			担当課	道路河川課			事業区分	ハード事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1144	
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	3	河川費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通				
		目	2	河川管理費		基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備				
取組方針	4	計画的な都市基盤整備の推進										
事業概要	用途地域区域設定により、宅地化による遊水地（田畑）減少予想に係る排水路の健全性の調査を令和2年度に行い、結果に基づいて適切な整備を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	排水路調査業務			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	調査件数	件	目標				1			用途地域区域設定により、宅地化による遊水地減少予想に係る排水路の健全性を調査する。	
				実績				1				
	<指標の計算方法>		既設排水路の調査件数									
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	6,820			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	6,820		
事業の実績	①排水路調査業務 委託(打田・貴志川管内)1件 6,820,000円											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 水害の影響を及ぼす可能性のある地区の調査対策を市が実施することは妥当である。 ・ 今後、宅地化が進む用途地域内と下流の調査を行うことは有効である。 										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
<ul style="list-style-type: none"> ・ 対象地区の調査をすることで今後の対策に有効である。 												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門業者へ委託することで効率的に進められる。 											

事務事業の概要	事務事業名	都市計画推進事業			担当課	都市計画課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	681	
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	4	都市計画費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通				
		目	1	都市計画総務費		基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備				
取組方針	4	計画的な都市基盤整備の推進										
事業概要	市の計画的な都市計画行政の推進を図るために、関連団体の運営や活動に参画する事業 良好な景観の形成、風致の維持、公衆に対する危害を防止する事業											
事務事業を構成する細事業	①	都市計画審議会運営			⑤	屋外広告物管理			⑨			
	②	全国都市計画協会負担金			⑥	都市計画マスタープラン更新			⑩			
	③	全国都市計画街路事業促進協議会負担金			⑦				⑪			
	④	県都市計画協会負担金			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	都市計画審議会開催件数	目標	1	1	1	1	1	都市計画審議会開催件数は、計画案件の有無により変動する。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、開催しなかった。			
			実績	1	2	0						
	<指標の計算方法>		都市計画審議会開催件数									
	活動指標	屋外広告物の更新率	目標	80	80	80	80	80	郵送で更新依頼し、申請が来なかった者に対して、再度電話等で更新手続きをお願いし、更新率の向上につなげている。			
			実績	94	70	91						
<指標の計算方法>		更新した件数÷更新予定件数（除却件数は除く）										
活動指標	都市計画マスタープラン更新	目標		50	100	100		都市計画マスタープラン策定委員会が、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、通常の体制で開催できなかった。そのため委員ひとりひとりの個別対応となり時間を要し、事業完了まで至らず、翌年度繰り越した。				
		実績		50	90							
<指標の計算方法>		スケジュールの進捗										
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)		財源内訳									
	1,719		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源				
事業の実績	①都市計画審議会運営 ・令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、開催しませんでした。			⑥都市計画マスタープラン更新 ・都市計画マスタープラン策定委員会が、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、通常の体制で開催できませんでした。そのため委員ひとりひとりの個別対応となり時間を要し、事業完了まで至らず、翌年度繰り越した。								
	②全国都市計画協会負担金 ・全国都市計画協会の事業費を負担しました。											
③全国都市計画街路事業促進協議会負担金 ・全国都市計画街路事業促進協議会の事業費を負担しました。												
④県都市計画協会負担金 ・和歌山県都市計画協会の事業費を負担しました。												
⑤屋外広告物管理 ・屋外広告物の各種届出を審査し、許認可事務を行いました。 ・違反広告物の簡易除却、パトロールを実施												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・住み良い都市環境の整備をするには、市以外が実施主体になりえない事務事業であるため妥当性がある。 ・違反広告物の減少により、良好な景観を形成している。(屋外広告物)										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・都市計画の案件に対して、都市計画審議会を開催し、審議会委員の意見を聴取することは有効性がある。 ・申請書の審査や違反広告物のパトロールを行うことにより、良好な景観を守ることは有効性がある。 ・都市計画マスタープランを策定することにより、まちづくりの方針を定めることは有効性がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・都市計画審議会の審議により、都市計画行政をすすめることは、効率性がある。 ・郵送での更新依頼を行うことにより、問合せや相談に要する時間が短縮できている。(屋外広告物) ・都市計画マスタープラン更新業務を業者委託しているが、都市計画行政に精通しているコンサルタントに委託することは効率性がある。											

事務事業の概要	事務事業名	開発指導事業			担当課	都市計画課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	677	
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	4	都市計画費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通				
		目	1	都市計画総務費		基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備				
取組方針	2	良好な居住環境の形成										
事業概要	市民に住みよいまちを提供するために、開発事業者に適正な開発指導を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	開発計画審議会運営			⑤				⑨			
	②	開発指導			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	無届開発摘発件数	件	目標	0	0	0	0	0	管内巡回や関係各課との連絡体制を取っており、事前に開発協議を促しているため、無届開発摘発件数は認められなかった。		
				実績	0	0	0	0				
	<指標の計算方法>		無届開発摘発件数									
	活動指標	開発審議会開催件数	件	目標	2	2	2	2	2	開発許可申請及び協議の件数により変動する。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、各委員宅を訪問し意見を聴取する等、個別対応も行った。		
				実績	7	2	3					
	<指標の計算方法>		開発審議会開催件数									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
	273							273				
事業の実績	①開発計画審議会運営 ・審議会の運営を実施しました。 ・新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、各委員宅を訪問し意見を聴取する等、個別対応も行いました。											
	②開発指導 ・紀の川市開発指導要綱及び宅地造成等規制法に基づく技術的指針を遵守し、適正な住宅地等の開発指導を行いました。											
R2年度 開発許可 5件 開発協議 25件												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・無秩序な開発事業を防止し、適正な住宅地等の開発の指導を行うことは、妥当性がある。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・開発許可申請に対して、開発審議会を開催し、審議会委員の意見を聴取することは有効性がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・秩序あるまちづくりの形成のためには、事業者に対して開発指導を行うことは効率性がある。											

事務事業の概要	事務事業名	都市施設管理運営事業			担当課	都市計画課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	680	
	予算科目	款	8 土木費			長期総合計画体系	政策目標	4 都市基盤・生活環境				
		項	4 都市計画費				施策目標	1 都市基盤整備・公共交通				
		目	1 都市計画総務費				基本施策	1 土地の有効利用と住みよい都市環境の整備				
取組方針				取組方針	4 計画的な都市基盤整備の推進							
事業概要	市民が都市施設を安全で快適に利用できるように、維持管理を適切に行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	JR粉河駅周辺都市施設管理			⑤				⑨			
	②	街路灯管理			⑥				⑩			
	③	下水道管接続工事			⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	成果指標	管理不十分による問い合わせ件数	件	目標	0	0	0	0	0	施設の修繕や、植栽の刈り込み等早い対応ができたため、管理不十分による問い合わせがなかった。		
			実績	1	0	0						
	<指標の計算方法>		問い合わせ件数									
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	3,238			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	3,238		
事業の実績	①JR粉河駅周辺都市施設管理 ・植栽の手入れを適切な時期に行いました。 ・JR粉河駅南広場周辺の雑木を伐採し、環境整備に努めました。 ・トイレの日常管理を行いました。 ・破損アーケードの応急処置をしました。											
	②街路灯管理 ・灯具が故障していないか等、点検・管理を行いました。											
	③下水道管接続工事 ・JR粉河駅南広場トイレの下水道管接続工事を行いました。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・市民が安全・安心に暮らすためには、必要な事業であり、植栽の管理、街路灯の管理は、メンテナンスが必要な観点から継続して行う必要があるため妥当性がある。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・JR粉河駅周辺都市施設を管理することにより、市民が通行する際の安全面を確保することができ有効性がある。また街路灯の管理をすることにより、防犯にもつながるため有効性がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・トイレの日常管理や、植栽管理等を民間に委託しているため効率性がある。											

事務事業の概要	事務事業名	都市公園管理運営事業			担当課	都市計画課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	101	
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	4	都市計画費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通				
		目	2	都市公園費		基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備				
取組方針	4	計画的な都市基盤整備の推進										
事業概要	市民が都市公園を安全で快適に利用できるように、自治会に協力をお願いしながら、都市公園の適切な維持管理を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	西井阪公園施設管理			⑤	王子公園施設管理			⑨	平池緑地公園管理運営委員会補助金		
	②	東国分公園施設管理			⑥	名手公園施設管理			⑩			
	③	古和田公園施設管理			⑦	桃源郷運動公園施設管理			⑪			
	④	秋葉山公園施設管理			⑧	平池緑地公園施設管理			⑫			
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	成果指標	管理不足での事故件数	件	目標	0	0	0	0	0	遊具の安全点検や定期的な草刈りなどの結果、事故なく管理ができた。		
				実績	0	0	0					
	<指標の計算方法>		事故件数									
		目標										
		実績										
	<指標の計算方法>											
		目標										
		実績										
	<指標の計算方法>											
	目標											
	実績											
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	26,279			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	6 26,273		
事業の実績	①～⑧各公園施設管理 ・施設、器具の修繕をしました。 ・植木、トイレ等の日常管理をしました。											
	⑨平池緑地公園管理運営委員会補助金 ・委員会の活動(美化活動等)に要する補助金を交付しました。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・自治会に管理を委託することにより、施設を大切に使用する啓発となるため、自治会に協力をお願いしながら、維持管理することには妥当性がある。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・自治会に管理を委託することにより、施設を大切に使用する啓発となるため、自治会に協力をお願いしながら、維持管理することには有効性がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・自治会に管理を委託することにより、施設を大切に使用する啓発となるため、自治会に協力をお願いしながら、維持管理することには効率性がある。											

事務事業の概要	事務事業名		都市公園活性化事業				担当課	都市計画課		事業区分	ソフト事業		
	会計		一般会計				新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	837
	予算科目	款	8	土木費				政策目標	4	都市基盤・生活環境			
		項	4	都市計画費				施策目標	1	都市基盤整備・公共交通			
		目	2	都市公園費				基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備			
事業概要		市民の都市公園利用の促進を図るために、都市公園でイベント開催等を行う事業											
事務事業を構成する細事業		①	貴志川イルミネーション実行委員会				⑤					⑨	
		②	大賀ハス観蓮会				⑥					⑩	
		③					⑦					⑪	
		④					⑧					⑫	
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析				
	活動指標	イベント開催回数	回	目標	2	2	2	2	2	毎年開催されているため、年々知名度が高まっているが、本年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、すべてのイベントの開催を中止にした。			
			実績	2	2	0							
	<指標の計算方法>		イベント開催回数										
			目標										
			実績										
	<指標の計算方法>												
		目標											
		実績											
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	350			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源				
									350				
事業の実績	<p>①貴志川イルミネーション実行委員会 ・実行委員会を軸に貴志川イルミネーションを開催していましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、中止となりました。</p> <p>②大賀ハス観蓮会 ・実行委員会を軸に大賀ハス観蓮会を開催していましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、中止となりました。</p>												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・実行委員会に運営の主体において、行政側がサポートすることは、イベントの本質から鑑み妥当性がある。											
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
・都市公園でイベントを開催することにより、幅広い年齢層の人々が都市公園に関心を示し、来場されることで紀の川市の魅力、関心が高まることは有効である。													
効率性	評価結果	改善の余地がない											
	・実行委員会に運営の主体において、行政側がサポートすることは、イベントの本質から鑑み効率性がある。												

事務事業の概要	事務事業名	都市公園整備事業			担当課	都市計画課			事業区分	ハード事業		
	会計	一般会計			新規・継続	新規	事業期間	単年度のみ		事業番号	102	
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	4	都市計画費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通				
		目	2	都市公園費		基本施策	1	計画的な都市基盤整備の推進				
事業概要	都市公園を整備し、スポーツ活動だけでなく市民等の健康増進や地域コミュニケーションの促進を図る事業											
事務事業を構成する細事業	①	都市公園整備			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名	単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標 紀の川市民公園「野あそびの丘」複合遊具等設置工事進捗率	%	目標			100				紀の川市民公園「野あそびの丘」複合遊具を、事故なく設置することができた。		
			実績			100						
	<指標の計算方法>											
			目標									
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)	財源内訳										
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源				
	72,998			636		70,000			2,362			
事業の実績	①都市公園整備 紀の川市民公園「野あそびの丘」に 1歳～12歳を対象にした複合遊具等の設置											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・市民意識調査の結果を反映し、事業を計画したものであり、市が実施することは妥当性がある。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・幼児・児童が安全で快適に利用できる施設を目指し、走り回る体力、4つの運動スキル（移動系、非移動系、バランス系、操作系）による社会性を培うのに有効性がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・周りにスポーツ施設等が集まっているため、世代を超えた交流をするのに、効率性がある。											

事務事業の概要	事務事業名	運動公園管理運営事業			担当課	生涯スポーツ課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	873	
	予算科目	款	8 土木費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	4 都市計画費				施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ			
		目	3 運動公園費				基本施策	3	スポーツの振興と環境の充実			
取組方針				2	スポーツ施設の充実と適切な管理							
事業概要	市民が運動公園施設を安全で快適に利用できるように、維持管理を適切に行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	桃源郷運動公園陸上競技場施設管理			⑤	市民公園(市民体育館)施設管理			⑨	市民公園(ゲートボール場)施設管理		
	②	愛宕池公園施設管理			⑥	市民公園(打田若もの広場)施設管理			⑩			
	③	河南緑地公園施設管理			⑦	市民公園(市民プール)施設管理			⑪			
	④	粉河運動場施設管理			⑧	市民公園(テニスコート)施設管理			⑫			
指標の実績	成果指標	年間利用者数	単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
		人	目標		188,000	190,000	193,000	195,000	195,000	新型コロナウイルス感染症拡大防止のための施設使用制限や工事のため、年間利用者数が減少した。		
		実績		159,072	168,269	129,221						
		<指標の計算方法>	運動公園施設全体の年間利用者数									
	活動指標	施設使用料	単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
		円	目標		9,803,900	9,798,000	9,952,000	9,952,000	9,952,000	年間利用者数が減少したため、結果的に施設使用料収入は減少した。		
		実績		9,611,590	10,001,420	7,308,110						
		<指標の計算方法>	運動公園施設全体の利用料									
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
		目標										
		実績										
	<指標の計算方法>											
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	143,555			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
								27,186	116,369			
事業の実績	施設利用状況											
	①桃源郷運動公園陸上競技場施設管理 ・サッカー 99件 7,970人 ・陸上 137件 3,172人 ・その他 3件 215人			⑤市民公園(市民体育館)施設管理 1,407件 63,689人								
②愛宕池公園施設管理 ・多目的グラウンド 140件 4,349人 ・テニスコート 7件 20人 ・ゲートボール場 1件 200人			⑥市民公園(打田若もの広場)施設管理 519件 21,466人									
③河南緑地公園施設管理 0人			⑦市民公園(市民プール)施設管理 0人(中止)									
④粉河運動場施設管理 ・野球場 127件 4,084人 ・ソフトボール場 134件 4,086人 ・多目的広場 142件 4,398人 ・テニスコート 293件 2,220人			⑧市民公園(テニスコート)施設管理 1,625件 12,735人									
			⑨市民公園(ゲートボール場)施設管理 66件 617人									
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がややある									
		・市民が利用し、市が管理運営する施設であるため、環境を整え、備品や設備等の充実を図り、適正な管理が必要である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・安全で快適に利用できる施設を目指し、市民のニーズを的確に把握していく必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・利用者数の増加と運営効率の観点から、指定管理制度の導入に向けて、協議を進めていく。 ・受益者負担の観点からも、施設利用料にかかる減免基準の見直しの必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名	市営住宅施設管理事業			担当課	都市計画課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	655	
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	5	住宅費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通				
		目	1	住宅費		基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備				
取組方針	5	市営住宅の適正管理										
事業概要	市営住宅入居者が快適に市営住宅を利用できるように、施設管理や入居者管理を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	市営住宅施設管理			⑤				⑨			
	②	入居者管理			⑥				⑩			
	③	耐震不足住宅入居者移転促進			⑦				⑪			
	④	長寿命化計画の見直し			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	修繕戸数	戸	目標	103	127	94	100	100	適正な施設の維持管理が行えている。		
				実績	117	90	84					
	<指標の計算方法>		修繕戸数									
	活動指標	公募戸数	戸	目標	3	3	3	3	9	3戸を公募し、3件の申し込みがあった。市営住宅に対する需要があることをうかがわせている。		
				実績	4	1	3					
	<指標の計算方法>		公募戸数									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
71,161			2,887					12,440	55,834			
事業の実績	<p>①市営住宅施設管理</p> <ul style="list-style-type: none"> 適正な施設の維持管理を行い、不具合等については修繕対応をしました。修繕件数73件。 移転用住宅の修繕を8戸実施しました。 R3年度公募用住宅の修繕を3戸実施しました。 <p>②入居者管理</p> <ul style="list-style-type: none"> 3戸の公募を行いました。 <p>③耐震不足住宅入居者移転促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 後田公営住宅から2戸が移転しました。(親族と同居・古家購入) <p>④長寿命化計画の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> R3年度から10年間の計画を改定しました。 											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
			<ul style="list-style-type: none"> 市営住宅に対するニーズは少なからずある。住宅に困窮している低額所得者のためのものであり、修繕していくことは妥当である。 限られた予算のなかで公募修繕を行うため、必ずしも需要に応じられる状況ではない。 									
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
		<ul style="list-style-type: none"> 一定数の公募をする必要があると思うが、住宅に困窮している低額所得者のための住宅確保が目的であるため、必ずしも入居者数が増えることが有効性を示すものではない。 										
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
		<ul style="list-style-type: none"> 施設管理の一部に関して、業務分担や委託をするなど検討の余地はある。 										

事務事業の概要	事務事業名	市営住宅改修事業			担当課	都市計画課			事業区分	ハード事業				
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	654			
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境						
		項	5	住宅費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通						
		目	1	住宅費		基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備						
	取組方針	5	市営住宅の適正管理											
事業概要	市営住宅入居者が市営住宅で安全、安心に生活できるように、耐震診断や改修を行う事業 社会資本整備総合交付金対象事業（国庫補助事業）である。													
事務事業を構成する細事業	①	改修			⑤				⑨					
	②				⑥				⑩					
	③				⑦				⑪					
	④				⑧				⑫					
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析				
	成果指標	長寿命化改修	棟	目標	5	5	12	0	0	長寿命化計画を基に、庄屋改良住宅12棟24戸について、屋根、ベランダ等の防水改修。 長寿命化計画について、R5年度より改修開始のため、R3.4年度は関係者への説明及び工法検討等の準備を行う。				
				実績	5	5	12							
	<指標の計算方法>		改修棟数											
			目標											
			実績											
	<指標の計算方法>													
			目標											
			実績											
	<指標の計算方法>													
<指標の計算方法>														
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳										
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源					
62,790			27,360							35,430				
事業の実績	①改修 ・庄屋改良住宅の屋根、ベランダ等の防水改修を行いました。													
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない											
		・市営住宅の長寿命化を図る事業であり、市が実施主体となり継続的に進めることが妥当である。												
	有効性	評価結果	改善の余地がない											
・市営住宅の改修や修繕等について、建築工事が主体となっており専門性をもった人材を活用している。														
効率性	評価結果	改善の余地がない												
	・市営住宅の整備は一定水準以上の品質を有する必要があるため、設計監理及び工事請負ともに入札によるものでコスト削減の余地はない。													

事務事業の概要	事務事業名	市営住宅解体整備事業			担当課	都市計画課			事業区分	ハード事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1046	
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	5	住宅費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通				
		目	1	住宅費		基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備				
取組方針	5	市営住宅の適正管理										
事業概要	市民が市営住宅を今後も利用できるように、解体整備を計画的に行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	下野井公営住宅解体			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	市営住宅解体	棟	目標	8	7	1	0	3	下野井公営住宅1棟の解体を実施。		
				実績	1	7	1					
	<指標の計算方法>		解体棟数									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	15,607			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	1,607		
事業の実績	①下野井公営住宅解体 ・1棟3戸分の解体工事を行い、駐車場3区画を整備しました。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・老朽化し使用されない市営住宅については、解体、整地を行っていく必要があり妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・建築分野の知識を持った職員を配置し、適正な解体業務を行っている。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・老朽化及び耐震性能の不足による解体のため、コスト削減は難しいと考える。											

事務事業の概要	事務事業名	住宅用地管理運営事業			担当課	都市計画課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	419	
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	5	住宅費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通				
		目	1	住宅費		基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備				
取組方針	5	市営住宅の適正管理										
事業概要	市の住宅用地の適切な提供を行うために、住宅用地の管理等を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	住宅用地管理			⑤				⑨			
	②	徴収			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	成果指標	売買金の徴収金額	円	目標	1,240,000	1,340,000	1,966,000	1,730,000	1,700,000	目標1,966,000円に対して、1,741,000円集金しました。		
				実績	2,489,550	1,864,000	1,741,000					
	<指標の計算方法>		個別の徴収金額の積上げ									
	成果指標	売買金の残額	円	目標	21,362,000	19,712,000	17,222,000	15,717,000	14,017,000	毎月契約者を訪問し、納付指導している。		
				実績	21,052,000	19,188,000	17,447,000					
	<指標の計算方法>		個別の残額の積上げ									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
事業の実績	①住宅用地管理 ・契約金額完済の該当がありませんでした。											
	②徴収 ・契約金未納9件の内、7名から集金をしました。 1. 100,000円 2. 60,000円 3. 40,000円 4. 600,000円 5. 5,000円 6. 336,000円 7. 600,000円 計1,741,000円											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・同対策事業に関連して立ち退き等を余儀なくされた地権者への土地販売であることから妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・契約者の死亡など解決困難な懸案が残っているが、早期解決・事業終了を図るべき方策を立てることが有効である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
・費用のほとんどが人件費となっているので、早期に事業を終了させることが一番の費用削減であるが内部事情に精通している人員を配置することは効率性がある。												

事務事業の概要	事務事業名	市営住宅使用料等徴収事業			担当課	都市計画課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	657	
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	5	住宅費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通				
		目	1	住宅費		基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備				
取組方針	5	市営住宅の適正管理										
事業概要	市営住宅入居者の公平性を確保し、市営住宅の適正管理を行うために、住宅使用料の適正な徴収を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	住宅管理指導員設置			⑤						⑨	
	②	徴収			⑥						⑩	
	③				⑦						⑪	
	④				⑧						⑫	
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	市営住宅(現年) 収納金額	千円	目標	6,485	6,485	4,920	4,589	徴収訪問等により実質収納率は上がっている。			
				実績	5,820	5,268	4,433					
	<指標の計算方法>		実績を元に計算									
	活動指標	市営住宅(過年) 収納金額	千円	目標	1,306	1,306	336	303	新たな滞納をつくらないように指導する。滞納分は分納計画などにより納付してもらう。現年優先の納付指導のため滞納分の比率が下がった。			
				実績	309	293	183					
	<指標の計算方法>		実績を元に計算									
	活動指標	改良住宅(現年) 収納金額	千円	目標	29,256	29,256	26,601	25,097	新たな滞納をつくらないように指導により収納率の向上が見られた。			
				実績	25,719	26,235	25,733					
	<指標の計算方法>		実績を元に計算									
	活動指標	改良住宅(過年) 収納金額	千円	目標	951	951	964	1,084	新たな滞納をつくらないように指導する。滞納分は分納計画などにより納付してもらう。明け渡し請求等に伴い滞納整理が進んだ。			
				実績	789	902	1,928					
<指標の計算方法>		実績を元に計算										
コストの実績	R 2年度決算額 (単位:千円)			財源内訳								
	3,390			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	2,367		
事業の実績	①住宅管理指導員設置 ・指導員1名を設置し、助言をもらった。											
	②徴収 ・駐車場使用料 1,990,060円 ・市営住宅使用料 4,615,460円 ・改良住宅使用料 27,661,100円 を徴収しました。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・住宅に困窮している低所得者に住宅を提供しているため妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地が大きい									
・他の料金を徴収している部課があるため、連携することも可能である。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
・入居者は低所得者でリストラ等、収入状況の変化による家賃納付の相談が多いことから、市が実施するのが適正である。コストは最小限の歳出に止めており、適正である。												

事務事業の概要	事務事業名	建築指導事業			担当課	都市計画課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1070	
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	5	住宅費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通				
		目	1	住宅費		基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備				
取組方針	2	良好な居住環境の形成										
事業概要	市民に無秩序な建築等が防止された住みよいまちに居住してもらうために、市民（施工事業者）からの建築確認申請等の審査や受付を行なう事業											
事務事業を構成する細事業	①	建築確認審査			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	建築確認申請経由進達	件	目標	200	200	200	200	200	建築確認申請の審査を的確に行うことで、速やかに経由進達が出来た。		
				実績	244	198	235					
	<指標の計算方法>		経由進達件数									
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
2,404								133	2,271			
事業の実績	①建築確認審査 ・建築確認申請等が紀の川市の各種規制に適合しているか審査して、建築主事に経由進達しました。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		建築確認申請内容が、紀の川市の各種規制に適合しているか審査し、建築主事に進達する事業である										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
建築主事を補うため、市内の各種規制の情報を提供している												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	建築主事を補うため、市内の各種規制の情報を提供している											

事務事業の概要	事務事業名		住宅耐震化促進事業				担当課	都市計画課		事業区分	ソフト事業		
	会計		一般会計				新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	673
	予算科目	款	8 土木費				長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心				
		項	5 住宅費					施策目標	1 防災・防犯				
		目	1 住宅費					基本施策	3 災害に強いまちの形成				
事業概要		市民が耐震基準の満たされた住宅に居住できるように、耐震基準を満たさない民間住宅の耐震化の促進と診断、改修に対する補助を行う事業											
事務事業を構成する細事業		①	木造住宅耐震診断事業				⑤			⑨			
		②	住宅耐震改修事業補助金交付				⑥			⑩			
		③	耐震化促進啓発				⑦			⑪			
		④	危険度判定士研修・育成				⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析				
	成果指標	木造住宅耐震診断件数	目標	50	50	60	60	60	国、県の補助金等を活用して、県建築士会に業務委託して耐震診断する。				
			実績	49	49	55							
	<指標の計算方法>		件数										
	成果指標	住宅耐震改修事業費補助	目標	15	15	20	20	20	国、県の補助金等を活用して、耐震改修工事1件、耐震補強設計と耐震改修工事の総合的な実施12件。総合的な実施1件が地盤改良による工期変更により翌年度へ繰越				
			実績	16	14	13							
	<指標の計算方法>		補助件数										
活動指標	戸別訪問	目標	200	350	350	350	350	県、県建築士会と協力し、耐震化について啓発し、補助制度を利用した耐震化促進へつなげている。実施当年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、戸別訪問を延期したため目標に対して実施件数が少ない。					
		実績	243	441	114								
<指標の計算方法>		訪問戸数											
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源				
17,769			7,320	4,656					5,793				
事業の実績	<p>①木造住宅耐震診断事業 ・県建築士会への委託により、診断士を派遣して、申請者に診断結果を報告しました。</p> <p>②住宅耐震改修事業補助金交付 ・耐震補強設計、耐震改修工事の補助金を交付しました。 ・総合的な実施1件は翌年度へ繰越し。</p> <p>③耐震化促進啓発 ・県、県建築士会の協力のもと戸別訪問、また広報による啓発を実施しました。</p> <p>④危険度判定士研修・育成 ・被災宅地危険度判定士、被災建築物応急危険度判定士を育成しました。</p>												
	事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・国、県の交付金や補助金を活用しての事業実施であり、市が実施主体となり継続的に進めることが妥当である。 ・危険度判定士の養成講習等は、県が主体となって行われるため、改善の余地はない。									
		有効性	評価結果	改善の余地がない ・補助制度を利用した耐震診断、改修が一定数なされており、耐震化は図られている。									
		効率性	評価結果	改善の余地がない ・会計年度任用職員による訪問啓発、技術職員による検査対応ができています。									

事務事業の概要	事務事業名		空家等対策事業				担当課		都市計画課		事業区分	ソフト事業	
	会計		一般会計				新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	678
	予算科目	款	8 土木費				長期総合計画体系	政策目標	4 都市基盤・生活環境				
		項	5 住宅費					施策目標	1 都市基盤整備・公共交通				
		目	1 住宅費					基本施策	1 土地の有効利用と住みよい都市環境の整備				
事業概要		空家の倒壊による事故を防ぎ、景観、環境面の保全を図るために、空家所有者に空家の適正管理等を促す事業											
事務事業を構成する細事業	① 空家等対策協議会運営						⑤			⑨			
	② 空家等指導						⑥			⑩			
	③ 特別措置法に基づく措置						⑦			⑪			
	④						⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析				
	活動指標	空家除却件数	戸	目標	1	1	1	1	1	除却に限らず、適正な管理に努めるよう助言・指導を行っている。建材の飛散防止などの対応をされている場合もある。			
				実績	1	2	0						
	<指標の計算方法>		危険性の高い空家等の除却件数										
	活動指標	特別措置法に基づく指導件数	件	目標	2	3	5	5	5	特定空家の所有者等に対して、特別措置法に基づく段階的な指導を行う。助言・指導4件、勧告1件			
				実績	1	5	5						
	<指標の計算方法>		指導等の件数										
			目標										
			実績										
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	215			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	187 28			
事業の実績	①空家等対策協議会運営 ・協議会において、法に基づく段階的な措置の実施について協議しました。												
	②空家等指導 ・空家等の所有者等に対して、修繕、除却などの対応をとるように助言・指導を行いました。												
	③特別措置法に基づく措置 ・特定空家の所有者等に対して、法に基づく助言・指導、勧告を行いました。												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・特別措置法に基づく措置等、市が実施主体となることが妥当である。											
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
・市からの助言で対応に至ることもあり、行政からの助言・指導という形が有効的な手段ではあるが、所有者等の権利関係に踏み込めない部分もある。													
効率性	評価結果	改善の余地がない											
	・コスト削減の余地はない。												

事務事業の概要	事務事業名	危機管理対策事業			担当課	危機管理消防課			事業区分	ソフト事業						
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	946					
	予算科目	款	9 消防費			長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心							
		項	1 消防費				施策目標	1	防災・防犯							
		目	1 消防総務費				基本施策	1	地域防災力の向上							
事業概要	市の危機発生時における防災力の強化につなげるために、市民、職員、協力機関が災害に備えて防災体制の整備を行う事業															
事務事業を構成する細事業	① 防災会議運営			⑤ 災害時応援協定			⑨ 災害対策費用保険									
	② 国民保護協議会運営			⑥ 職員防災力強化			⑩									
	③ 災害対策本部運営			⑦ 県総合防災情報システム運営負担金			⑪									
	④ 地域防災計画・ハザードマップ管理			⑧ 県防災ヘリコプター協定負担金			⑫									
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析							
	活動指標	職員避難所開設等訓練	目標	2	3	3	3	3	職員の防災力強化として、新規採用職員・安全推進監合同訓練、有志による一般職員への訓練をそれぞれ実施。新型コロナウイルスに対応した新しい避難所での受付方法や、ウイルスが拡散しないよう段ボールパーティションの設置方法を反映させた訓練を行った。各種団体と災害協定を順次締結しており、年々協定数は増加しています。							
			実績	4	2	3										
	<指標の計算方法>		避難所の開設数(訓練等を含む) マニュアル策定による机上訓練1回・市防災総合訓練1回 計2回													
	成果指標	災害協定締結件数	目標	40	40	40	40	40								
			実績	35	38	41										
	<指標の計算方法>		協定件数(累計)													
			目標													
			実績													
	<指標の計算方法>															
		目標														
		実績														
<指標の計算方法>																
コストの実績	R 2年度決算額 (単位:千円)			財源内訳												
	20,323			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源							
事業の実績	①防災会議運営 ・3月に新型コロナウイルスのため書面会議を行った。			店舗閉鎖による減少1団体			・きのくにe-net 307,824円									
	②国民保護協議会運営 ・開催なし			⑥職員防災力強化 ・Jアラートテスト実行(12回)、Jアラート情報伝達訓練(4回)、Jアラート緊急地震速報訓練(2回)、Jアラート伝達訓練(1回)、新規採用職員・安全推進監合同訓練(1回)、市防災総合訓練(中止)、コロナ対策避難所開設・運営訓練(1回)、発熱等避難所開設訓練(1回)、危機対応能力図上訓練(1回)、アマチュア無線通信訓練(1回)、職員防災初動マニュアル策定に係る机上訓練(マニュアル策定が期間延長したため中止)			⑧県防災ヘリコプター協定負担金 ・ヘリ運行連絡協議会負担金 6,592,997円									
③災害対策本部運営 ・大きな被害なし 警戒1号体制 2回 ・新型コロナウイルス対策本部の開催 随時本部会議を実施			⑦県総合防災情報システム運営負担金 ・県防災システム 917,819円			⑨災害対策費用保険 ・避難勧告等を発令した場合の災害対応にかかる避難所の開設運営費用や救助費用職員の手当等を対象に保険金が支払われる。										
④地域防災計画・ハザードマップ管理 ・今年度は大幅に地域防災計画の見直しを行った。 ・ハザードマップは令和3年度に見直し予定			⑤災害時応援協定 ・災害発生時の各種協定の締結 締結による増加4団体													
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない													
		・防災の観点から必要不可欠の事業である。														
	有効性	評価結果	改善の余地がややある													
		・実災害が発生した場合に効果は検証できるが、他の事業と比べて非常に検証しづらい。														
効率性	評価結果	改善の余地が大きい														
	災害対策本部運営について、今後システム化を検討していき、効率化をはかる必要がある。															

事務事業の概要	事務事業名	地域防災力強化事業		担当課	危機管理消防課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	644
	予算科目	款	9 消防費		長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心		
		項	1 消防費			施策目標	1	防災・防犯		
		目	1 消防総務費			基本施策	1	地域防災力の向上		
事業概要	市民、自治区の防災意識の向上と地域防災力の向上につなげるために、防災に関する啓発や訓練の支援、または、資機材整備の補助を行う事業									
事務事業を構成する細事業	① 防災総合訓練		⑤ 防災ボランティア活動負担金		⑨					
	② 小学生防災教室		⑥ 防災ボランティア活動補助金		⑩					
	③ 防災啓発研修会		⑦ 自主防災組織育成事業補助金		⑪					
	④ 防災リーダー会運営		⑧ 自主防災組織の研修及び訓練		⑫					
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析	
	成果指標	自主防災組織率（世帯割）	目標	100	100	100	100	100	・自主防災組織設立自治区数は、134自治区(23,187世帯)のままである。新型コロナウイルス感染拡大防止のため会合できず、23,386(世帯)÷26,576(全自治区世帯数)×100=88.0% ・市防災総合訓練参加者 0名 ※新型コロナウイルス感染拡大防止により中止。 ・自主防、サロン等の参加者 190名 ・小学生防災教室 740名 ※書面による防災教室 ・新型コロナウイルス感染拡大防止により活動自粛する自治区が大半であったことから参加人数は極端に減少している。 ・備蓄割合は少しずつではあるが上昇傾向にあるといえる。	
			実績	86.8	87.5	88				
	<指標の計算方法>		自主防災組織設立自治区世帯数÷全自治区世帯数×100							
	成果指標	市や地域での防災訓練への参加者数	目標	3,000	3,500	4,000	4,500	5,000		
			実績	3,523	3,749	930				
	<指標の計算方法>		防災訓練への参加者数							
	成果指標	自主防災組織の活動に参加している市民の割合	目標	50	50	50	50	50		
			実績	15	17.6	9.9				
	<指標の計算方法>		市民意識調査で「参加している」と回答した市民の割合							
成果指標	水や食料などを備蓄している市民の割合	目標	70	70	70	70	70			
		実績	41.7	43.6	46.2					
<指標の計算方法>		市民意識調査で「一週間分以上の備蓄をしている」「3日分程度の備蓄をしている」と回答した市民の割合								
コストの実績	R 2年度決算額（単位：千円）		財源内訳							
	3,078		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	3,068	
事業の実績	①防災総合訓練 新型コロナウイルス感染防止のため中止		補助金…13,000円		合計		…3回、参加者 127名			
	②小学生防災教室 市内6校(4～6年生児童)…740名 新型コロナウイルス感染防止により体験型を中止。 防災教室用資料を作成・配布。 学校教諭への防災授業の実施依頼。		⑤防災ボランティア活動負担金 2団体(42名)の防災ボランティア活動 保険加入。		⑥防災ボランティア活動負担金 打田福祉防災ボランティア会…71,000円 粉河福祉防災ボランティア会…54,000円 那賀福祉防災ボランティア会…62,000円 桃山福祉防災ボランティア会…62,000円 貴志川福祉防災ボランティア会…44,000円					
	③防災啓発研修会(自主防災組織以外) 研修回数…2回、参加者 25名 訓練回数…2回、参加者 38名 合計 …4回、参加者 63名		⑦自主防災組織育成事業補助金 資機材整備事業補助金交付 25組織…2,278,100円							
	④防災リーダー会運営 総会(書面会議)・役員会…7回 研修…0回 県外研修…0回		⑧自主防災組織の研修及び訓練 研修回数…1回、参加者 30名 訓練回数…2回、参加者 97名							
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がややある							
		・大規模災害時に備え、避難行動(避難ルート、危険箇所の確認)や避難所設営(震度感知式鍵ボックス、感染症対策、避難所機能等)等より実践的な研修・訓練の推進が必要である。								
	有効性	評価結果	改善の余地がややある							
・職員の業務知識の向上や専門性がある人材の活用により事業の有効性を高める必要がある。										
効率性	評価結果	改善の余地がややある								
	・地域における研修や訓練の際、専門性がある人材の活用や関係団体の積極的な参画を図ることで、より効率的な事業の実施に繋げていく必要がある。									

事務事業の概要	事務事業名	指定避難所鍵保管装置整備事業			担当課	危機管理消防課		事業区分	ソフト事業				
	会計	一般会計			新規・継続	完了	事業期間	期間限定複数年度 (H30 ~ R 2)		事業番号	1089		
	予算科目	款	9 消 防 費			長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心				
		項	1 消 防 費				施策目標	1	防災・防犯				
		目	1 消防総務費				基本施策	1	地域防災力の向上				
取組方針	2	防災施設などの計画的な整備											
事業概要	市民や帰宅困難者が被災後早期に避難できるように、指定避難所に鍵保管装置の設置を行う事業												
事務事業を構成する細事業	①	鍵保管装置設置業務			⑤				⑨				
	②	装置取扱及び避難所開設研修業務			⑥				⑩				
	③				⑦				⑪				
	④				⑧				⑫				
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	指定避難所鍵保管装置設置数	か所	目標	20	15	14			設置予定数は14ヶ所だったが、現地調査により15ヶ所への設置となった。 令和2年度をもって3箇年計画完了。 (指定避難所等49ヶ所・設置台数50台)			
				実績	20	15	15						
	<指標の計算方法>		鍵保管装置の設置数										
	活動指標	装置取扱及び避難所開設研修回数	回	目標	20	15	14					・施設管理者等への鍵保管装置の取扱説明及び避難所開設研修の実施回数。 ・取扱説明は実施できているが避難所開設訓練・研修の実施については新型コロナウイルスの影響により未実施。	
				実績	20	15	14						
	<指標の計算方法>		取扱説明や避難所開設研修の実施回数										
			目標										
			実績										
<指標の計算方法>													
			目標										
			実績										
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	4,149			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	2,087			
事業の実績	①鍵保管装置設置業務 ・14施設、15台の鍵保管装置を設置。 ・夜間の使用に備え、懐中電灯も装置内に収納。												
	②装置取扱及び避難所開設研修業務 ・鍵保管装置の設置完了後、施設管理者への取り扱い説明を実施。												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・指定避難所鍵保管装置を設置することにより、大規模災害時、市職員や施設管理者を待たずして第一避難者が避難所を開錠し、避難所設営及び運営をできるようにすることは市民の生命を守ることに繋がることから市が実施すべき事業といえる。											
	有効性	評価結果	改善の余地がややある										
・有効性を高めるため、地域への周知方法、研修・訓練方法について検討を要する。													
効率性	評価結果	改善の余地がない											
		・令和2年度をもって本事業は完了。											

事務事業の概要	事務事業名	家具転倒防止対策促進事業		担当課	危機管理消防課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1005	
	予算科目	款	9	消 防 費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心			
		項	1	消 防 費		施策目標	1	防災・防犯			
		目	1	消防総務費		基本施策	1	地域防災力の向上			
取組方針	1	防災意識の啓発、普及									
事業概要	市民の災害発生時の被害を軽減するために、家具転倒防止対策に支援を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	金具取付委託		⑤				⑨			
	②			⑥				⑩			
	③			⑦				⑪			
	④			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	家具転倒防止金具取付支援事業	件	目標	60	60	30	30	30	要綱改正による申請方法の簡略化で実績値が増加した。	
				実績	7	13	27				
	<指標の計算方法>		申請件数								
	成果指標	家具固定を行っている市民の割合	%	目標	50	50	50	50	50	60代での家具固定をしていない割合が高い状況です。(固定している割合+固定が必要な家具類がない割合)	
				実績	24.3	22.6	22				
	<指標の計算方法>		市民意識調査で「固定している」「固定が必要な家具類がない」と回答した市民の割合								
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	1,650			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	828	
事業の実績	①金具取付委託 ・3台の家具を上限 ・27世帯										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がややある								
		・家具転倒防止については、個人や各家庭で出来る有効な防災対策ではあるが、高齢者世帯や要配慮者のいる世帯では個人での対策が難しい状況もあると思われる。そのためにも市が支援を行う必要がある。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・自治区や団体の防災研修において、家具転倒防止の啓発を行い、家具固定の有効性は理解してもらっているが、今年度はコロナ関連で説明機会が少なかった。 ・申請方法については、要綱改正により一度の来庁で済むようになったため、改善された。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・県補助金を活用した事業でありコスト面の効率性は高い事業である。要綱改正により申請者にとっての手続きが簡素化された。また、申請件数も増え前年度に比べて改善されている。										

事務事業の概要	事務事業名	消防防火対策事業		担当課	危機管理消防課			事業区分	ソフト事業	
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	647
	予算科目	款	9 消防費		長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心			
		項	1 消防費			施策目標	1 防災・防犯			
		目	1 消防総務費			基本施策	2 効率的で効果的な消防体制の整備			
事業概要	市民の防火意識の向上と防火体制の強化を図るために、協力機関・団体へ補助等の支援や運営を行う事業									
事務事業を構成する細事業	①	消防防火対策業務		⑤				⑨		
	②	阪和林野消防協議会負担金		⑥				⑩		
	③	消防協会負担金		⑦				⑪		
	④	婦人防火クラブ補助金		⑧				⑫		
指標の実績	活動指標	地区研修等活動数	単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析	
		回	目標	30	30	30	30	30		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、活動自粛となり大幅に減少となった。
		実績	30	23	4					
		<指標の計算方法>	年間活動数							
	活動指標	市主催行事開催数	単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析	
		回	目標	4	4	4	4	4		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、活動自粛となり大幅に減少となった。
		実績	5	5	1					
		<指標の計算方法>	年間開催数							
	活動指標	活動補助金申請地区数	単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析	
		地区	目標	39	38	38	38	38		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、活動自粛となり大幅に減少となった。
	実績	32	29	4						
	<指標の計算方法>	申請地区数								
成果指標	活動への参加者数	単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	人	目標	800	800	800	800	800		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、活動自粛となり大幅に減少となった。	
	実績	776	609	27						
	<指標の計算方法>	参加者数								
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)		財源内訳							
	1,109		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
						600	509			
事業の実績	①消防防火対策業務 ②阪和林野消防協議会負担金 15,000円 ③消防協会負担金 382,416円 ④女性防火クラブ補助金 4地区 16,050円									
	<女性防火クラブ地区研修訓練> ・地区研修訓練回数(4回) <女性防火クラブ活動実績> 【市主催行事】 ・6/19 令和2年度紀の川市女性防火クラブ 連絡協議会総会書面開催 計1回 <活動への参加者数> ◆地区活動参加数 計27人									
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない							
			・女性防火クラブには、公的な法令等はないが、家庭防火をはじめ、防火・防災のための幅広い実践活動や災害時の後方支援活動等を行うことができ、地域住民の生命・身体および財産を守るための事業であることから、市が実施することは妥当である。							
	有効性	評価結果	改善の余地がややある							
		・防火・防災訓練及び研修、救命講習等は各地域にて定期的にはほぼ実施している。さらに、安定して地域住民の生命・財産を守ることが必要であり、職員の人員不足を補うため、専門知識や技能習得者の確保及び職員の知識向上にも必要である。								
効率性	評価結果	改善の余地がややある								
		・高齢化、人口減少に伴い、会員確保や地域単位のクラブを結成するなど今後、紀の川市全体としての女性防火クラブ運営ができるよう検討する必要がある。								

事務事業の概要	事務事業名	那賀消防組合事業		担当課	危機管理消防課			事業区分	一部事務組合		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	106	
	予算科目	款	9 消防費		長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心			
		項	1 消防費			施策目標	1	防災・防犯			
		目	2 常備消防費			基本施策	2	効率的で効果的な消防体制の整備			
取組方針	1	消防・救急・救助体制の充実									
事業概要	市民に安全、安心な消防、救急体制を提供するために、那賀消防組合の運営に参画する事業										
事務事業を構成する細事業	①	消防指令車等更新		⑤				⑨			
	②	消防組合職員確保		⑥				⑩			
	③			⑦				⑪			
	④			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	消防指令車等更新	目標	2	2	2	2	2	那賀消防組合の緊急自動車購入計画に基づき装備品の充実を図る。		
			実績	3	2	2					
		<指標の計算方法>		更新台数							
	活動指標	消防組合職員確保	目標	128	128	128	128	128	那賀消防組合の人数の維持を図る。		
			実績	128	128	129					
		<指標の計算方法>		職員人数							
	成果指標	消防、救急体制に対して満足と感じている市民の割合	目標	70	70	70	70	70	那賀消防組合との連携を強化し、消防・救急・救助体制を充実させる。出動回数は前年に比べ増加しているが、満足度は9.2%減となっている。		
			実績	52.6	54.3	45.1					
		<指標の計算方法>		市民意識調査で「満足」「まあ満足」と回答した市民の割合							
		目標									
		実績									
	<指標の計算方法>										
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)		財源内訳								
	692,786		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	692,786		
事業の実績	①消防指令車等更新 ・消防指令車等更新 緊急車両 2台 (参考) 保有車両台数 43台 ②消防組合職員確保 職員数 129人(うち新規採用3名) (参考) 出動回数 火災 31回 救助 96回 警戒等 184回 救急 4,692回										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・市民の生命と財産を災害や火災等から守るために、一部事務組合に消防活動を行ってもらう事業である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・車両の更新や職員数を計画的に確保することは、多様化する災害に迅速・的確に対応ができ、市民の生命財産を守ることに直結する。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・緊急車両等を計画的に更新を行う。また、職員数の確保を行うことで地域住民の生命・財産を守ることができる。										

事務事業の概要	事務事業名	消防団運営事業		担当課	危機管理消防課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	107	
	予算科目	款	9 消防費		長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心				
		項	1 消防費			施策目標	1 防災・防犯				
		目	3 非常備消防費			基本施策	2 効率的で効果的な消防体制の整備				
事業概要	消防団員の消防力を強化するために、消防団員に研修や訓練の実施、装備品の充実、福利厚生を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	消防委員会運営		⑤	消防団員報酬・福利厚生		⑨				
	②	消防団活動		⑥	消防団活動補助金		⑩				
	③	消防団出初式・訓練		⑦			⑪				
	④	ポンプ操法大会参加		⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	消防団員数	人	目標	220	220	220	220	全国の消防団員数は減少傾向にある。市の人口も減少している中でも消防団員は現状維持できている。		
		実績		217	219	220					
	<指標の計算方法>		紀の川市の人口1万人あたりの消防団員数（全国と比較）								
	活動指標	消防団活動回数	回	目標	80	50	80	50	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会議及び平素の訓練実施を自粛したことにより大幅に減少している。		
		実績		73	86	37					
	<指標の計算方法>		訓練、会議等の回数								
活動指標	女性分団活動回数	回	目標	30	60	30	60	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、応急手当普及員としての地域での指導、また、防火広報活動等自粛により大幅に減少している。			
	実績		20	63	7						
<指標の計算方法>		訓練及び指導、会議等の回数									
成果指標	消防団活動が地域の防災力向上に貢献している市民の割合	%	目標	100	100	100	100	100	市民意識調査で貢献していると感じている割合は、日頃の消防団活動内容等を分かって頂くことで増えていくと考えられる。		
	実績		69.2	62	63.8						
<指標の計算方法>		市民意識調査で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した市民の割合									
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	121,187			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
			26,781						94,406		
事業の実績	①消防委員会運営 消防委員会開催5/20 消防委員会委員報酬 (77,000円)			(31,272,289円) 【報酬】 ・消防団員退職報償金 (26,781,000円)							
	②消防団活動 訓練、会議等の回数 37回			【福利厚生】 ・消防団員公務災害補償掛金負担金 (2,673,300円) ・消防団員退職報償金掛金負担金 (27,014,400円) ・消防団員福祉共済掛金負担金 (4,221,000円) ・消防作業従事者掛金 (125,232円)							
	③消防団出初式・訓練 年末特別警戒12/28～中止 消防団出初式1/10中止 火災・風水害・捜索活動 その他、会議・各方面隊訓練			⑥消防団活動補助金 (8,641,200円) 本部、方面隊 (5)、分団 (24) 捜索活動・風水害活動補助・消防学校入校補助等							
	④ポンプ操法大会 第28回和歌山県消防操法大会開催延期										
	⑤消防団員報酬・福利厚生 【報酬】 ・消防団員報酬										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・消防組織法に基づき、消防団を設置し、身体及び財産を守るための事業であり、市が実施することは妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・定期的に訓練を実施し、消防力向上を図る。 ・専門性を持った人材育成及び職員の知識向上を図る。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・業務分担及び委託等検討し、現状の消防団活動を維持、防災力強化の取組みも導入できる体制を整える。										

事務事業の概要	事務事業名	消防施設管理事業			担当課	危機管理消防課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	637	
	予算科目	款	9 消防費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心				
		項	1 消防費				施策目標	1 防災・防犯				
		目	4 消防施設費				基本施策	2 効率的で効果的な消防体制の整備				
事業概要	消防団、那賀消防組合が円滑に消火活動を行えるように、消防施設の維持管理を適切に行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	消防器具庫管理			⑤				⑨			
	②	防火水槽管理			⑥				⑩			
	③	小型動力ポンプ付積載車管理			⑦				⑪			
	④	消火栓管理			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	消防器具庫修繕	目標	1	1	1	1	1	区長要望にて集約し施設の修繕及び施設物品の購入を行う。			
			箇所									
			実績	1	1	1						
	<指標の計算方法>		修繕箇所数									
	活動指標	防火水槽修繕	目標	3	3	3	3	3	区長要望にて集約し必要な箇所の修繕を行う。			
			箇所									
			実績	2	1	1						
	<指標の計算方法>		修繕箇所数									
	活動指標	小型動力ポンプ積載車点検修繕	目標	123	124	124	124	124	車検時に必要な台数の修繕を行う。			
			台									
			実績	123	124	124						
<指標の計算方法>		必要台数										
活動指標	消火栓修繕	目標		1	1	1	1	区長要望にて集約し必要な箇所の修繕を行う。				
		箇所										
		実績		1	4							
<指標の計算方法>		修繕箇所数										
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	14,259			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	14,259		
事業の実績	①消防器具庫管理 丸瀬消防器具庫（土囊等資機材）1箇所											
	②防火水槽管理 桃山町元地区防火水槽設備修繕 1箇所											
	③小型動力ポンプ付積載車管理 ・124台											
	④消火栓管理 消火栓漏水修繕（神領・東国分）2箇所 馬宿地区消火栓修繕 1箇所 脇谷地区消火栓修繕 1箇所											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・地域の消防団、那賀消防組合が円滑に消火活動ができるように、市として消防施設の維持管理を行い、常時使用可能にしておく必要がある。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
		・火災等突然の災害時に消防施設を使用可能な状況に施設管理しておく。今後専門性をもった人材（職員）が必要である。										
	効率性	評価結果	改善の余地がややある									
		・必要に応じた修繕工事、車両修繕があり、火災・災害時に必要な施設となるため効率よく修繕を行うことが必要である。										

事務事業の概要	事務事業名	消防施設整備事業			担当課	危機管理消防課		事業区分	ハード事業					
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	108			
	予算科目	款	9 消防費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心						
		項	1 消防費				施策目標	1 防災・防犯						
		目	4 消防施設費				基本施策	2 効率的で効果的な消防体制の整備						
事業概要	消防団、那賀消防組合が円滑に消火活動を行えるように、消防施設の整備を計画的に行う事業													
事務事業を構成する細事業	①	消防器具庫整備			⑤				⑨					
	②	防火水槽整備			⑥				⑩					
	③	小型動力ポンプ付積載車整備			⑦				⑪					
	④	消火栓整備			⑧				⑫					
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析					
	活動指標	消防器具庫新築件数	棟	目標	2	2	2	3	2	火災・災害による被害の軽減を図るため、消防器具庫建築を計画的に行う必要があるが、本年度は、用地の確保及び条件により、建築完成にいたらず、減少した。				
				実績	4	2	0							
	<指標の計算方法>		新築件数											
	活動指標	防火水槽新設基数	基	目標	2	2	2	2	2				火災での初期消火に必要な水利の確保のため、防火水槽を計画的に整備しているが、用地の確保及び条件により、建設完成にいたらず、目標に達しなかった。	
				実績	1	0	1							
	<指標の計算方法>		新設基数											
	活動指標	積載車購入台数	台	目標	5	5	5	5	5	計画どおり、小型ポンプ付積載車の購入にて、火災・災害に対する地域防災力の強化が行えた。				
				実績	5	5	5							
	<指標の計算方法>		購入台数											
			目標											
			実績											
<指標の計算方法>														
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳										
	46,121			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源					
					39,500		200	6,421						
事業の実績	①消防器具庫整備 なし													
	②防火水槽整備 北勢田地区防火水槽 1基													
	③小型動力ポンプ付積載車整備 小型動力ポンプ付積載車 5台													
	④消火栓整備 猪垣地区 1基													
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない											
			・火災・災害時等による被害を最小限にとどめ、活動の拠点となる施設を設置することで地域防災力の強化につながるため妥当である。											
	有効性	評価結果	改善の余地がややある											
		・地域の消防活動、災害時における活動拠点となる施設であるため整備が必要であるが、建築工事であるため、専門性を持った職員が必要である。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある												
		・計画的な整備及び購入を行っている。												

事務事業の概要	事務事業名	防災施設管理運営事業			担当課	危機管理消防課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	639	
	予算科目	款	9 消 防 費			長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心			
		項	1 消 防 費				施策目標	1	防災・防犯			
		目	4 消防施設費				基本施策	1	地域防災力の向上			
取組方針	2	防災施設などの計画的な整備										
事業概要	市民の災害発生時の被害を軽減するために、防災施設の計画的な整備や適切な維持管理を行う事業											
事務事業を構成する細事業	① 備蓄物資管理				⑤				⑨			
	② 資機材整備管理				⑥				⑩			
	③ 防災行政無線管理運営				⑦				⑪			
	④ 戸別受信機設置				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	備蓄食糧 (アルファ米・パン)	目標	47	57	59	67	84	三連動地震の被災者想定4,500人。1人が1日に3食を3日分。期限前の有効活用により目標値より多少下回っているが、予定通り配備が行えている。			
			実績	47	45	52						
	<指標の計算方法>		保有数合計÷ (4,500人×3食×3日分)									
	活動指標	備蓄水	目標	29	43	45	62	81	三連動地震の被災者想定4,500人。1人が1日に必要な水分30を3日分。500mlボトルで保管。期限前の有効活用により目標値より多少下回っているが、予定通り配備が行えている。			
			実績	31	26	43						
	<指標の計算方法>		保有本数合計÷ (4,500人×6本×3日分)									
	活動指標	備蓄携帯トイレ	目標	24	92	96	100	100	三連動地震の被災者想定4,500人。1人が1日に5回の排泄を3日分。5個入りパックで保管。予定通り配備が行えている。			
			実績	71	92	96						
	<指標の計算方法>		保有数合計÷ (4,500人×3日分)									
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位:千円)			財源内訳								
	21,722			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			21,722									
事業の実績	①備蓄物資管理 (追加購入実績) 保存水 14976本 アルファ米 4000本 備蓄パン 1600本 携帯トイレ 540個											
	②資機材整備管理 AED付属消耗品取替 25箇所 緊急取替 2箇所											
	③防災行政無線管理運営 保守管理 親局1局、操作卓6台、中継局2局、再送信局3局、子局268局											
	④戸別受信機設置 1件											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・防災の観点から必要不可欠な事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・災害対応等に緊急時の使用や破損等が嵩む場合、目標の達成が困難になる。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・保管場所が多岐にわたるため、資機材の管理運営に検討の余地あり。											

事務事業の概要	事務事業名	避難所機能強化事業			担当課	危機管理消防課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	完了	事業期間	期間限定複数年度 (R1～R2)		事業番号	1136
	予算科目	款	9 消 防 費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心			
		項	1 消 防 費				施策目標	1 防災・防犯			
		目	4 消防施設費				基本施策	1 地域防災力の向上			
事業概要	市民や帰宅困難者が安全で安心して避難できるように、南海トラフ地震や台風などの自然災害に備え、避難所機能の充実を図る事業										
事務事業を構成する細事業	①	防災倉庫設置場所検討・打合せ業務			⑤				⑨		
	②	防災倉庫、資機材等購入業務			⑥				⑩		
	③	防災倉庫、資機材等設置業務			⑦				⑪		
	④	防災倉庫、資機材等点検・入替業務			⑧				⑫		
指標の実績	指標名	単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	成果指標 防災倉庫及び資機材設置箇所数	目標			36	30	0	0	設置目標数に対し、同数の設置ができた。		
		実績			36	30					
	<指標の計算方法>		防災倉庫及び資機材設置箇所数								
		目標									
		実績									
	<指標の計算方法>										
		目標									
		実績									
	<指標の計算方法>										
	目標										
	実績										
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)		財源内訳								
	13,136		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	7,606		
事業の実績	①防災倉庫設置場所検討・打合せ業務 防災倉庫の設置協議 16施設										
	②防災倉庫、資機材等購入業務 防災倉庫：14か所（14棟） 発電機：16台 投光器：32基 コードリール：32巻 携行缶：16缶 リヤカー：16台 毛布：16箱 カセットコンロ：16台 やかん：16個 テレビ（BSアンテナ付）：14台 ホワイトボード：15台 チェンソー：17台 チェンソー防護服：37着										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・利用者等の増減への対応については、必要最小限の資機材の整備としているため、やむを得ないとする。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・予定した資機材を計画通りに整備していく事業のため、特に改善の必要はない。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・業務分担（会計年度任用職員への移管の促進等）については、購入は正規職員、設置は会計年度任用職員も含め業務にあたった。										

事務事業の概要	事務事業名	水防事業		担当課	危機管理消防課			事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	109		
	予算科目	款	9 消 防 費		長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心				
		項	1 消 防 費			施策目標	1	防災・防犯				
		目	5 水 防 費			基本施策	3	災害に強いまちの形成				
事業概要	市民の水害による被害を抑制するために、排水機場等の維持管理や運営を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	水防計画管理			⑤	水防活動			⑨			
	②	樋門・排水機場操作委託			⑥				⑩			
	③	排水機場施設管理			⑦				⑪			
	④	水防資機材管理			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	水防訓練・講習会	目標	4	4	4	4	4	講習会（樋門操作要領・避難要領等）一斉操作訓練（開閉操作・情報伝達訓練）を行う。樋門操作員出動マニュアルを作成し、各樋門施設に掲示する。なお、講習会（2回）は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となり減少となった。			
			実績	4	4	2						
	<指標の計算方法>		水防訓練・講習会実績									
	活動指標	排水機場保守点検実施	目標	7	7	7	7	7		保守点検実施の結果、修繕の優先順位をつけ、今後運転に支障があるものから早期対応を行う。		
			実績	7	7	7						
	<指標の計算方法>		実績箇所数									
	活動指標	樋門・排水機場修繕実施	目標	20	20	20	20	20			出水期までに、不具合箇所を修繕し、オイル交換を行い水害対応に備える。	
			実績	14	13	14						
	<指標の計算方法>		修繕実施回数									
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源					
	35,571	14,514					21,057					
事業の実績	①水防計画管理 ・地域防災計画の基本方針の確定及び校正を行った。											
	②樋門・排水機場操作委託 委託契約を行い講習会・訓練・毎月の施設点検・河川水位上昇による出動											
	③排水機場施設管理 委託契約を行い講習会・訓練・毎月の施設点検・河川水位上昇による出動											
	④水防資機材管理 出水期に点検・管理を行う。											
	⑤水防活動 樋門操作員出動（自宅待機要請含む）回数 6回											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がややある									
			・水害を警戒し、被害を軽減させることで、公共の安全性を保持することを目的とし、市が水防施設を管理し、樋門操作員に施設点検、水防活動を行ってもらうことは妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
		・大雨や増水による出水期は、被害が発生することがあるが、水防施設の維持管理及び水防出動により被害を防止または軽減している。										
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
		・随時修繕を行い、また保守点検による不具合箇所の改善を行っている。機械が老朽化しているので、設備の改修や更新等の対策が必要である。										

事務事業の概要	事務事業名	教育委員会運営事業			担当課	教育総務課		事業区分	内部管理事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	110
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	99 ****			
		項	1 教育総務費				施策目標	99 ****			
		目	1 教育委員会費				基本施策	99 ****			
取組方針				9	その他						
事業概要	教育委員会が効率的、効果的な教育行政を進めるために、教育委員、市長、関係者が教育行政における重要課題や方針について、検討や協議を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	教育委員会運営			⑤	市町村教育委員会連絡協議会負担金		⑨			
	②	総合教育会議運営			⑥			⑩			
	③	外部評価			⑦			⑪			
	④	学校適正規模適正配置検討			⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	教育委員会定例会・臨時会への上程議案・報告事項・その他件数	目標						教育委員会定例会・臨時会において審議及び協議された件数		
			実績	87	88	91			議案54件、報告事項23件、その他14件		
	<指標の計算方法>		教育委員会定例会・臨時会への上程議案・報告事項・その他件数								
	活動指標	学校訪問・かけはし訪問の日数	目標						教育委員の学校訪問・かけはし訪問日数		
実績			44	44	42			学校訪問21日、かけはし訪問21日			
<指標の計算方法>		学校訪問・かけはし訪問の日数									
活動指標	教育委員会定例会・臨時会議決案件数	目標						教育委員会定例会・臨時会において議決された件数			
		実績	47	47	54						
<指標の計算方法>		教育委員会定例会・臨時会での議決案件数									
活動指標	総合教育会議の議題件数	目標						市長と教育委員会が連携を図りつつ、より一層教育行政を推進していくため開催			
		実績	1	3	2						
<指標の計算方法>		総合教育会議の議題件数									
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	2,522			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	2,522	
事業の実績	①教育委員会運営 ・定例会12回、臨時会6回			90,000円(当初) (人口割) 60,123人×0.5円 30,000円 (教育委員会数割) 1市町村の教育委員会ごとに15,000円 (市町村割) 1市町村ごとに 45,000円							
	②総合教育会議運営 ・紀の川市立小・中学校の安全確保について ・紀の川市立適正規模適正配置検討委員会の報告について (上記2件の議題について協議)			※新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う 総会・常任委員会未開催による減額措置後 59,000円の負担金額となる							
	③外部評価 ・令和2年度予算編成事業ごとに事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を行うため外部評価委員会に評価を依頼 (年3回開催)										
	④学校適正規模適正配置検討 令和2年度より「学校適正規模適正配置推進事業」へ移行。										
	⑤市町村教育委員会連絡協議会負担金										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・教育委員会は、地域における学校教育・社会教育・文化・スポーツ等に関する事務を担当する行政機関である。 ・教育長を含む5名で構成された教育委員会が、教育行政や学校運営における具体的な施策を客観的に審議し総括して推進を図る事業である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・教育委員会定例会において、教育の基本方針や教育・文化・スポーツの振興など教育全般について、諸問題や検討課題及び計画等の審議を行い、目標通り進めている。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・AIによる議事録作成については、音声文字変換の精度が上がれば導入を検討するが、現状は職員が対応することが望ましい。										

事務事業の概要	事務事業名	教育委員会事務局運営事業			担当課	教育総務課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	630
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	99 ****			
		項	1 教育総務費				施策目標	99 ****			
		目	2 事務局費				基本施策	99 ****			
目				取組方針	9 その他						
事業概要	教育委員会が円滑な運営を行えるように、教育長、教育委員の活動に支援を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	教育委員会事務局運営事業			⑤	近畿都市教育長協議会負担金		⑨			
	②	栄典・表彰業務（教育功労）			⑥	県都市教育長会負担金		⑩			
	③	教育長秘書			⑦	県公立学校施設整備期成会負担金		⑪			
	④	全国都市教育長会負担金			⑧			⑫			
指標の実績	指標名	単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標 後援名義許可件数	件	目標					教育総務課7件、生涯学習課4件、生涯スポーツ課6件			
			実績	61	59	17					
	<指標の計算方法>		後援名義許可件数								
	活動指標 叙位・叙勲・栄典等承認件数	件	目標					秋の叙勲受章1件、高齢者叙勲受章1件、和歌山県教育委員会教育功労賞受章1件			
実績			3	6	3						
<指標の計算方法>		叙位・叙勲・栄典等承認件数									
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)		財源内訳								
	1,157		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		1,157	
事業の実績	①教育委員会事務局運営事業 ・総合教育会議の開催 ・学校基本調査、教育費調査等の統計調査のとりまとめ ・教育や文化の向上振興に寄与する事業への「紀の川市教育委員会」の後援名義の許可			⑥県都市教育長会負担金 20,000円			⑦県公立学校施設整備期成会負担金 15,500円				
	②栄典・表彰業務（教育功労） ・永年に亘って教育の振興に貢献された教育関係者の方々の栄典授与に関する事務を行う。			(令和2年度分) 補助金割 20,927,000円×0.03% 6,300円 学校数割 300円×24校 7,200円 へき地校割 1,000円×2校 2,000円							
③教育長秘書 ・教育長の公務の日程調整や教育部内の行事予定のとりまとめ											
④全国都市教育長会負担金 17,000円											
⑤近畿都市教育長協議会負担金 0円 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・教育委員会の権限に属する事務であり、市が主体となり実施すべき事業である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・「紀の川市教育委員会」の後援名義の許可審査や教育の振興に貢献された方の功績等の確認など、適切に事務処理を行い、事業目的を達成している。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・許可審査など判断が必要な事務に職員が従事することで円滑に実施できている。外部委託できる業務はない。										

事務事業の概要	事務事業名	学校教育総務管理事業			担当課	教育総務課		事業区分	ソフト事業				
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1084		
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育				
		項	1 教育総務費				施策目標	2	学校教育				
		目	3 教育諸費				基本施策	1	学校教育環境の充実				
事業概要	児童、生徒が円滑に学校生活が行えるように、教職員に学校運営に係る支援を行う事業												
事務事業を構成する細事業	①	学校安全対策協議会負担金			⑤	校務支援システム構築			⑨				
	②	教科別研究会等負担金			⑥				⑩				
	③	鞆淵地区山村留学補助金			⑦				⑪				
	④	学校安全対策・通学路安全対策			⑧				⑫				
指標の実績	指標名	単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析					
	成果指標	スクールサポーター登録者数	人	目標	450	450	450	450	450	一部の学校では登録者数が増加しているが、全体では減少している。これまで登録されていた方の高齢化により協力を得ることが難しくなっている学校がある。			
			実績	413	411	396							
	<指標の計算方法>		スクールサポーター登録者数										
	活動指標	通学路安全対策実施箇所	箇所	目標	11	17	11	15	15			国・県・警察等の関係機関と連携し、年次的に対策を講じている。	
			実績	11	17	11							
	<指標の計算方法>		学校から危険箇所の報告があったもののうち、対策を講じた件数										
			目標										
			実績										
	<指標の計算方法>												
		目標											
		実績											
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)		財源内訳										
	15,591		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	15,591				
事業の実績	①学校安全対策協議会負担金 330,000円 学校安全対策協議会の設置 市内在住の児童及び生徒の安全確保を図るため、学校長やPTA、青少年健全育成推進員、民生委員児童委員連絡協議会委員等の代表で組織し、協議しました。			⑤校務支援システム構築 システムを構築し、小学校では2学期から運用を開始しました。									
	②教科別研究会等負担金 462,318円 紀の川市、岩出市管内小中学校の教科別研究会に対し、岩出市とともにその負担割合に応じ、活動費用の一部を負担しました。												
	③鞆淵地区山村留学補助金 310,400円 鞆淵地区山村留学センターの運営費用の一部に補助を行いました。												
	④学校安全対策・通学路安全対策 通学路交通安全点検プログラム等により、危険箇所の改修を図りました。												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
			・通学路における児童生徒の安全確保を図るとともに円滑な学校生活が行えるよう、学校運営に関する支援を行っており継続することが妥当な事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
		・学校からの通学路等の危険箇所改修の要望を県や警察等の関係機関と連携して点検や改修を行っており、児童生徒の安全確保に大変有効である。 ・スクールサポーター（見守り活動）に登録されている方の高齢化が進み、協力していただきにくい学校もあるが、地域・保護者・学校が連携して見守り活動を実施できている。											
効率性	評価結果	改善の余地がない											
		・県や警察と連携していることで危険箇所等の情報共有を図ることができ、改修までの対応がスムーズであり効率的な事業である。											

事務事業の概要	事務事業名	学校教育推進事業		担当課	教育総務課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	615	
	予算科目	款	10	教育費	長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	1	教育総務費		施策目標	2	学校教育			
		目	3	教育諸費		基本施策	2	子供の力をのばす教育			
事業概要	児童、生徒の力をのばすために、学力・体力向上につながる取組を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	教職員研修	⑤					⑨			
	②	英語教育	⑥					⑩			
	③		⑦					⑪			
	④		⑧					⑫			

指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	市主催の研修(講演会)に参加した教職員数	人	目標	680	660	660	660	660	新型コロナウイルス感染症拡大予防の観点から研修を実施できなかったため。	
				実績	660	485	0				
	<指標の計算方法>		研修に出席した教職員数								
	活動指標	外国語指導員と担任によるTT授業時数	時間	目標		70	70	70	70	新型コロナウイルス感染症拡大に伴う4、5月の長期臨時休業により、授業時間数が減少したため。	
				実績		70	64.5				
<指標の計算方法>		TT(ティー・ティー・チング：複数教員で行う授業)授業を実施した5、6年生の1学級あたり時間数の平均									
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											

コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)		財源内訳					
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
		30,374	22,000					8,374

事業の実績	①教職員研修 新型コロナウイルス感染症予防のため、例年行っている研修は実施できなかった。							
	②英語教育 ・ALT(外国語指導助手)は、新型コロナウイルス感染症拡大により、海外からのALTの確保が困難であるため実施できなかった。 ・小学校教諭の外国語科(活動)に係る授業力の向上を図るため、外国語指導員5名と県に加配要望したことで英語専科2名の合計7名を配置した。							

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない	・教職員の資質向上を目指した各種研修会や外国語指導員の配置・ALT(外国語指導助手)の派遣等、児童生徒の学力向上につながる事業であるため、継続することが妥当な事業である。
	有効性	評価結果	改善の余地がない	・教職員の資質向上を目指した各種研修会や外国語指導員の配置・ALT(外国語指導助手)の派遣等、児童生徒の学力向上につながる有効な事業である。
	効率性	評価結果	改善の余地がない	・今年度は実施できなかったが、ALT(外国語指導助手)派遣については、プロポーザル方式により受託業者を選定しており、実施内容や費用等を総合的に判断しており、効率的に実施できている。 ・中学校英語科のOBを外国語指導員として小学校に配置したことにより、小学校教員の英語の授業力のスキルアップにつなげることができている。

事務事業の概要	事務事業名	学校図書館教育推進事業			担当課	教育総務課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1132	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	1 教育総務費				施策目標	2	学校教育			
		目	3 教育諸費				基本施策	2	子供の力をのばす教育			
事業概要	子どもや教員が活用しやすい環境づくりと教員の授業支援を進めるため、学校図書館の環境整備と学校司書を配置する事業											
事務事業を構成する細事業	①	学校司書配置			⑤				⑨			
	②	学校図書館のICT化			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			

指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	学校司書の配置数	人	目標		5	7	10	10	目標どおり配置することができている。		
			実績		5	8						
	<指標の計算方法>		配置人数									
	活動指標	システム導入校数	校	目標		10	15	18	21	目標どおり導入・運営することができている。		
			実績		10	15						
	<指標の計算方法>		学校図書館システムを導入した学校数									
	成果指標	授業での年間図書活用回数	回	目標		35	42	44	45	新型コロナウイルス感染症拡大防止に係る学校の長期臨時休業及び学校再開後の授業時数確保や指導事項履修のため、学校図書館を活用した授業を行えず、目標達成には至らなかった。		
			実績		40	27						
	<指標の計算方法>		各学校での活用回数の平均									
成果指標	1ヶ月あたりの児童生徒の図書貸出冊数	冊	目標		2	2.7	2.8	3	新型コロナウイルス感染症拡大防止に係る学校の長期臨時休業により、図書の貸出冊数の目標達成には至らなかった。			
		実績		2.5	2.2							
<指標の計算方法>		1ヶ月の貸出冊数の平均										

コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)		財源内訳					
	21,270		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
						3,404	17,866	

事業の実績	①学校司書配置 学校司書の配置により、5校のシステム導入と3校の蔵書整理を進めることができた。これにより、市内15校のシステム導入と18校の蔵書整理が完了した。										
	②学校図書館のICT化 学校司書間で連携し、ICT化を進めることにより蔵書の情報を共有することができた。										

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」により、学校図書館が果たす役割が重要視され、継続する必要がある事業である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある ・学校図書館の整備とICT化により、児童生徒及び教員の学校図書館の活用が広がり、学びの質を高めることができる。 ・年次的に学校司書の増員を図っており、未だ全校配置に至っていない。									
	効率性	評価結果	改善の余地がない ・学校司書の配置により、選書情報を共有してできるだけ重複しないように図書を購入することができた。									

事務事業の概要	事務事業名	教育相談事業		担当課	教育総務課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	619	
	予算科目	款	10	教育費	長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	1	教育総務費		施策目標	2	学校教育			
		目	3	教育諸費		基本施策	1	学校教育環境の充実			
取組方針	1	教育相談の充実									
事業概要	児童、生徒、保護者が不登校、いじめ等の問題解決を図り、教育に対する不安を解消できるように、相談の実施や適応指導教室の運営を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	教育相談		⑤					⑨		
	②	適応指導教室運営		⑥					⑩		
	③			⑦					⑪		
	④			⑧					⑫		

指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析	
	活動指標	適応指導教室通級指導員数	人	目標	8	8	9	9	9	目標通り達成できている。
			実績	8	8	9				
	<指標の計算方法>		配置人数							
	活動指標	教育相談員配置事業相談指導者数	人	目標	4	5	5	5	5	県費SSW（スクールソーシャルワーカー）が今年度1名増加したが、1人当たりの配置日数が減少したため効果は表れていない。
			実績	5	5	6				
	<指標の計算方法>		配置人数							
	成果指標	適応指導教室通級児童生徒数	人	目標						昨年度の中学3年生生徒が多く在籍しており、その卒業とともに在籍児童生徒数も減少した。
			実績	21	21	14				
	<指標の計算方法>		年度内での実在籍者数							
成果指標	教育相談員相談指導件数	件	目標						相談件数は大きく増減することなく例年並みであるが、相談員に相談することが浸透しているものと思われる。	
		実績	1,112	1,118	1,108					
<指標の計算方法>		相談員の延べ相談指導件数の合計								

コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)		財源内訳					
	12,433		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
								12,433

事業の実績	①教育相談 ・市費の教育相談員3人と県費のSSW（スクールソーシャルワーカー）3人を配置し、児童生徒の不登校や就学指導等の問題解決にあたりました。 ・相談、指導件数：1,108件（延べ件数） 保護者・児童生徒：856件 学校関係等：252件 ・スクールソーシャルワーカー 相談件数：888件（延べ件数）	
	②適応指導教室運営 ・主に不登校児童生徒を対象に貴志川生涯学習センター（月曜日休み）及び旧粉河中学校校舎内に設置し、今年度より開設時間を午後3時まで延長しました。 ・貴志川教室：8人、粉河教室：6人 うち高校進学：5人、学校復帰：0人	

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない	・児童生徒や保護者、教職員が持つ様々な悩みや問題の解決を図るため教育相談を実施している。 ・不登校児童生徒の集団生活への適応や基礎学力の補充等の指導を行い、学校への復帰や進学に関する支援を行う適応指導教室を開設している。
	有効性	評価結果	改善の余地がない	・児童生徒の悩みや問題の解決を図る。 ・不登校児童生徒に支援を行うことで、学校への復帰や進学につながる有効な事業である。
	効率性	評価結果	改善の余地がややある	・県費のスクールソーシャルワーカーを含め、児童生徒やその保護者、教職員が抱える悩みや問題の解決に向け、相談体制が構築されて機能している。 ・適応指導教室については今年度より開設時間を午後3時まで延長し、午前中に来室しにくかった在籍児童生徒にも対応できている。

事務事業の概要	事務事業名	特別支援教育推進事業			担当課	教育総務課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	937
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育			
		項	1 教育総務費				施策目標	2 学校教育			
		目	3 教育諸費				基本施策	1 学校教育環境の充実			
取組方針	2 特別支援教育の充実										
事業概要	教育上配慮が必要な児童、生徒が安心して学校に通えるように、相談の実施、介助員等の設置を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	学齢期発達相談			⑤			⑨			
	②	早期支援コーディネーター設置			⑥			⑩			
	③	就学相談			⑦			⑪			
	④	介助員設置			⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	保護者に特別支援教育の理解啓発を行った学校数	校	目標	16	16	16	16	16	覇瀨小学校で次年度入学予定者がなく、就学時健診が実施されなかったため、目標値より1減となる。	
			実績	15	15	15					
	<指標の計算方法>		就学時健診で保護者に特別支援教育の理解啓発を行った学校数								
	活動指標	就学指導対象園児の延べ観察回数	回	目標	65	100	100	100	100	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、必要最低限の訪問にとどめざるを得なかったため。	
			実績	99	71	34					
	<指標の計算方法>		保育所・幼稚園等を訪問し、対象園児を観察した延べ回数								
成果指標	就学園児で学校教育法施行令第22条の3判断で支援学校を選択した割合	%	目標						地域の学校からスタートさせたいという保護者の思いがあるため。		
		実績	63.6	62.5	50						
<指標の計算方法>		就学園児で教育支援委員会での判断が2条の3に該当する園児のうち支援学校を選択した割合									
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	63,490			国庫支出金	1,300	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	62,190
事業の実績	①学齢期発達相談 ・教員や保護者に対し、特別支援学級に在籍する児童生徒、通常学級に在籍する支援を必要とする児童生徒への日常の関わり方や発達上の課題、適切な教育環境の選択等について相談活動を実施しました。			こども課が実施する発達相談に同席し就学に関する相談を受けたり、学校見学やつなぎ愛シート作成の場に同席して保護者や学校に対してアドバイスを行いました。							
	②早期支援コーディネーター設置 ・障害のある園児とその保護者に対し、就学前から就学後まで切れ目ない支援を行うため早期支援コーディネーター2人を配置しました。 ・学校訪問 延べ 62回（実態調査、学校見学、体験学習の同行） ・教育相談 延べ65回（未就学児の保護者） ・保育所等訪問 延べ 34回（実態調査、保護者説明会）			④介助員設置 ・介助が必要な児童生徒のいる対象校16校に28人の介助員を配置しました。							
③就学相談 次年度就学予定の園児の保護者に対して、											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・早期支援コーディネーターを配置し、こども課や保育所・幼稚園等の各関係機関と連携し、未就学児童の就学に関する相談や支援を行うことで、児童や保護者が安心して就学できるようにしている。 ・丁寧な支援を必要とする児童生徒に介助員を配置し、安全安心な学習環境の提供を行っている。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・早期支援コーディネーターを配置し、こども課や保育所・幼稚園等の各関係機関と連携し、未就学児童の就学に関する相談や支援を行うことで、児童や保護者が安心して就学できるようにしている。 ・丁寧な支援を必要とする児童生徒に介助員を配置し、安全安心な学習環境の提供を行っている。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・指導主事を中心に早期支援コーディネーターや各関係機関との情報共有が図れており、効率的な支援を行うことができている。										

事務事業の概要	事務事業名		遠距離通学対策事業			担当課	教育総務課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計					新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	112
	予算科目	款	10 教育費					長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育		
		項	1 教育総務費						施策目標	2	学校教育		
		目	3 教育諸費						基本施策	1	学校教育環境の充実		
目						取組方針	3		安全・安心で快適な教育環境の充実				
事業概要		遠距離通学児童、生徒が安全に通学できるように、登下校時にスクールバスの運行を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	スクールバス運行				⑤						⑨	
	②	スクールバス車両管理				⑥						⑩	
	③					⑦						⑪	
	④					⑧						⑫	

指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	巡回路線数	コース	目標	4	4	5	5	5	荒川中学校（野田原・銚子ノ口）コースの新規開設により、全5コース運行		
			実績	4	4	5						
	<指標の計算方法>		巡回路線数									
	活動指標	運行回数	回	目標						新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う学校臨時休業により4月の運行回数は例年比で減少したが、それ以外の月は例年並みとなっている。また、新規コース開設により運行回数が大幅に増加している。		
			実績	1,951	1,505	2,136						
	<指標の計算方法>		各コースの合計運行回数									
成果指標	乗車児童・生徒数	名	目標						新規コースを開設し、乗車すべき児童生徒を漏れることなく乗車させることができている。			
		実績	36	28	22							
<指標の計算方法>		各コースの合計乗車実人数										
成果指標	スクールバス購入台数	台	目標	0	2	0	0	0	令和2年度については購入なし。			
		実績	0	2	0							
<指標の計算方法>		更新（買い替え）・新規購入										

コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)		財源内訳					
	16,832		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源

事業の実績	①スクールバス運行 ・学校、委託者とともに、授業時間・クラブ活動を考慮した効率的な運行を計画し、乗車人数を調整した。 (桃山管内小中学校20名、鞆渕小学校2名 安小(黒川・善田)コース379回 安小(野田原・銚子ノ口)コース377回 荒中(細野・黒川)コース460回 荒中(野田原・銚子ノ口)コース400回 鞆小コース520回 R2実績 ・安全に運行業務を委託できる業者を選定するとともに、低価格で契約できている。 桃山・鞆渕管内委託料：15,564,340円										
	②スクールバス車両管理 燃料費 1,129,093円 自動車損害保険料 64,630円 公課費 73,800円										

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・スクールバス運行対象地区内でのニーズを的確に把握し、事業内容に適切に反映している。 ・教育環境を整えるという観点から、継続する必要性が高い事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・乗車人数については、対象地区内で希望する児童生徒全員が乗車できている。また、転入・転居等で新たに乗車対象となった児童生徒についても、学校と連携しながら漏れることなく対応できている。 ・無事故で運行できた。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・委託業者を1社とすることにより運行管理が一元化でき、コスト削減を意識した効率的な運行ができている。 ・スクールバス運行は社会的責務のため無償運行が望ましく、受益者負担を求めない。											

事務事業の概要	事務事業名		教職員人事管理事業				担当課	教育総務課			事業区分	ソフト事業		
	会計		一般会計				新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し			事業番号	1083
	予算科目	款	10 教育費				長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育				
		項	1 教育総務費					施策目標	2	学校教育				
		目	3 教育諸費					基本施策	1	学校教育環境の充実				
事業概要		教職員が円滑に授業を進めるように、教職員の健康管理、人事管理を行う事業												
事務事業を構成する細事業		①	教職員検診				⑤					⑨		
		②					⑥					⑩		
		③					⑦					⑪		
		④					⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析					
	成果指標	教職員健診受診率	目標	80	80	80	80	80	人間ドック受診により、毎年多少の変動が生じている。					
			実績	76.5	77.3	76.3								
	<指標の計算方法>		教職員健診の受診者数÷対象者数											
	成果指標	教職員のストレスチェック受診率	目標	100	100	100	100	100	十分な周知を行ったことで受診率向上につながったと思われる。					
			実績	97.2	94.1	99								
	<指標の計算方法>		ストレスチェック受診者数÷対象者数											
		目標												
		実績												
<指標の計算方法>														
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳										
	3,789			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源					
									3,789					
事業の実績	①教職員検診 教職員健診とストレスチェックを実施しました。													
	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員健診 対象者数 422名 受診者数 322名 ・ストレスチェック 対象者数 425名 受診者数 421名 													
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない											
		・学校保健安全法、労働安全衛生法で定められている健康診断の実施及びストレスチェックを実施しており、今後も継続しなければならない事業である。												
	有効性	評価結果	改善の余地がない											
・学校保健安全法、労働安全衛生法で定められている健康診断の実施及びストレスチェックを実施しており、教職員が心身の健康を保持するのに有効である。														
効率性	評価結果	改善の余地がややある												
	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健安全法、労働安全衛生法で定められている健康診断を実施しているが、駐車場の関係で平成30年度より会場が市役所本庁南別館から市民体育館に変更となったことで、業務効率としては低下している。 ・新型コロナウイルス感染予防対策が必要となったことで、健診の実施にあたっては例年より課の人員が多く必要となった。 													

事務事業の概要	事務事業名	学校施設長寿命化計画策定事業			担当課	教育総務課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度 (R1～R2)		事業番号	1135	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	1 教育総務費				施策目標	2	学校教育			
		目	3 教育諸費				基本施策	1	学校教育環境の充実			
事業概要	中長期的な維持管理・更新にかかるトータルコストの縮減や予算の平準化を図るため、市内の小中学校校舎等について、施設の老朽化の状況を調査し、長寿命化計画を策定する事業											
事務事業を構成する細事業	①	各施設の老朽化調査業務			⑤				⑨			
	②	計画策定業務			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	指標の分析			
	成果指標	老朽化調査に係る打ち合わせ	目標			3	0	0	0	老朽化調査は令和元年度で完了しているため、令和2年度は実施していない。		
			実績			3	0					
	<指標の計算方法>		老朽化調査に係る打ち合わせ回数									
	活動指標	計画策定に係る打ち合わせ	目標				3			計画策定にあたり、着工前、中間、計画書提出前の打ち合わせを実施（新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため、リモート会議を1回実施）		
			実績				4					
	<指標の計算方法>		計画策定に係る打ち合わせ回数									
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	3,520			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
事業の実績	①各施設の老朽化調査業務 ・令和元年度において完了											
	②計画策定業務 ・打ち合わせ（リモート会議も含め4回） ・計画書（案）及び概要版（案）の精査 ・実施計画の検討 ・関係各課との協議を重ね、公共施設マネジメント検討委員会に付議											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減及び予算の平準化を図りつつ、学校施設に求められる機能・性能を確保するために、令和2年度までに長寿命化計画を策定することが文部科学省から求められているため、必要な事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書（平成29年3月 文部科学省）による老朽化調査の結果を基に、改修計画を検討した結果、当初予定した実施項目が達成できた。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・長寿命化計画策定において実績のある専門員に計画書策定を委託したことにより、投資効果は高いと考える。											

事務事業の概要	事務事業名	学校適正規模適正配置推進事業			担当課	教育総務課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	新規	事業期間	期間限定複数年度 (R2～R5)		事業番号	1146
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育			
		項	1 教育総務費				施策目標	2 学校教育			
		目	3 教育諸費				基本施策	1 学校教育環境の充実			
事業概要	次代を担う子供たちのためによりよい教育環境の確保及びその向上を図ることを目的に、保護者・市民等の意見聴取を通じて、小中学校の適正規模適正配置を推進するための事業										
事務事業を構成する細事業	①	適正規模適正配置検討委員会開催			⑤				⑨		
	②	アンケート実施			⑥				⑩		
	③				⑦				⑪		
	④				⑧				⑫		
指標の実績	指標名	単位		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	指標の分析		
	活動指標	検討委員会	回	目標			5	5	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、当初予定通り開催できなかったため。		
				実績			3				
	<指標の計算方法>		検討委員会の開催回数								
				目標							
				実績							
	<指標の計算方法>										
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											
コストの実績	R2年度決算額 (単位:千円)			財源内訳							
	227			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
			227								
事業の実績	①適正規模適正配置検討委員会開催 ・検討委員会委員の選任 ・検討委員会開催 (10/13、1/20、3/12) ・教育長から検討委員会会長へ諮問										
	②アンケート実施 ・当初の予定どおり検討委員会が開催できずアンケート内容が未確定のため、アンケート発送については、令和3年度へ繰越 (令和2年度末にて内容確定)										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・市立学校の今後の在り方を検討する有識者会議を主催する事業であり、市 (教育委員会) が所管し、継続することが妥当な事業である。								
		評価結果	改善の余地がない ・有識者、住民や保護者の代表、学校関係者等で検討委員会を構成し、意見を聴取しながら検討を行うものであるため、今後の学校のあり方の方向性を検討するには大変有効である。								
	効率的性	評価結果	改善の余地がない ・有識者、住民や保護者の代表、学校関係者等で検討委員会を構成しており、それぞれの立場からの意見を聴取し協議を行えるため効率的である。								

事務事業の概要	事務事業名	小学校運営事業			担当課	教育総務課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	606	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	2 小学校費				施策目標	2	学校教育			
		目	1 小学校管理費				基本施策	1	学校教育環境の充実			
目				取組方針	9		その他					
事業概要	児童が円滑に学校生活が行えるように、小学校に校務員の配置や備品の整備等を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	学校運営協議会			⑤					⑨		
	②	校務員設置			⑥					⑩		
	③	学校備品整備			⑦					⑪		
	④	小学校教科別研究会等負担金			⑧					⑫		
指標の実績	活動指標	指標名	単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
		校務員配置校数	校	目標	16	16	16	16	16	覇瀧小・中学校は兼務となるが、全小学校に校務員を配置している。		
			実績	16	16	16						
		<指標の計算方法>	校務員を配置している小学校数									
	活動指標	備品購入費決算額	千円	目標						新型コロナウイルス感染症対策として、扇風機、非接触型体温計、サーマルカメラ等の導入や校務用パソコンの入れ替えを行ったが、1人1台端末の導入により、毎年実施してきたコンピュータ教室の整備を実施しなくなったため実績額が減少した。		
				実績	46,501	62,201	30,619					
		<指標の計算方法>	全小学校における備品購入費（庁用器具購入費と機械器具購入費）に係る決算額									
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			203,019	25,826					1,187	176,006		
事業の実績	①学校運営協議会 全小学校に学校運営協議会を設置し、年間3回程度開催しました。											
	②校務員設置 全小学校16校に1人ずつ配置しました。											
	③学校備品整備 校務用PCやサーマルカメラなどの備品を購入しました。											
	④小学校教科別研究会等負担金 ・各教科別研究会に対し負担金を支払い、その研究活動を支援しました。 1,064,600円											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
			・小学校の運営に必要な経常経費であり、継続して行うのが妥当な事業である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
		・小学校の運営に必要な経常経費であるが、限られた予算を有効に執行できるように学校へ指導をしている。										
効率性	評価結果	改善の余地がない										
		・支払事務の効率化を図るため、学校への継続的な指導が必要である。										

事務事業の概要	事務事業名	小学校施設管理事業			担当課	教育総務課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	599	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	2 小学校費				施策目標	2	学校教育			
		目	1 小学校管理費				基本施策	1	学校教育環境の充実			
事業概要	児童、教職員が学校施設を安全で快適に利用できるように、小学校の施設の適切な維持管理や改修を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	小学校施設管理			⑤					⑨		
	②	小学校施設改修			⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	普通教室及び音楽室への空調機器設置工事実施校数	校	目標	1	1	1			計画どおり特別支援教室の空調設備未設置校（西貴志小学校）に設置した。		
				実績	1	1	1					
	<指標の計算方法>		普通教室及び音楽室に新たに空調機器を設置する学校数									
	成果指標	普通教室及び音楽室への空調機器設置を完了した学校の割合	%	目標	100	100	100			入級児童数の増により、西貴志小学校の特別支援教室が1教室増となったため、空調設備を設置し、令和2年度における普通教室及び音楽室の設置率が100%となった。		
				実績	100	100	100					
	<指標の計算方法>		普通教室及び音楽室の室数に占める空調機器設置室数の割合									
成果指標	施設改修工事実施箇所数	箇所	目標	7	5	5	4	4	前年度に学校からヒアリングを行い、必要に応じた改修工事を実施し、児童・教職員に安全で快適な学習環境を提供できている。			
			実績	13	11	5						
<指標の計算方法>		防水工事や機能改善等に係る工事の実施箇所数										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	88,289			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
							226	88,063				
事業の実績	①小学校施設管理 ・施設管理に伴う各種業務委託 ・使用料及び賃借料（土地借り上げ、電柱共架料）の契約事務及び支払い ・施設器具修繕 ②小学校施設改修 （改修工事に伴う設計監理業務委託を含む） ・上名手小学校渡り廊下等改修工事 ・安楽川小学校屋内運動場床改修工事 ・調月小学校プールろ材入替え工事 ・西貴志小学校特別支援教室空調設備設置工事 ・鞆淵小学校消火配管改修工事											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・児童及び教職員が安全かつ快適に使用できるように、老朽化していく施設の維持管理に必要な事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・老朽化していく施設の状況等を鑑みると修繕費を減らすことは難しいが、各校とも限られた予算の中で大きな改修に至らないよう修繕で対応できるうちに対応し、施設の維持管理に努めている。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・保守点検結果や前年度に実施する学校からのヒアリングをもとに、緊急性や優先度を精査した上で、事業毎に必要な応じた改修工事を実施し、児童・教職員に安全及び快適な学習環境を提供できている。											

事務事業の概要	事務事業名	小学校休校校舎解体整備事業			担当課	教育総務課			事業区分	ハード事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度のみ		事業番号	1034	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	2 小学校費				施策目標	2	学校教育			
		目	1 小学校管理費				基本施策	1	学校教育環境の充実			
取組方針				3	安全・安心で快適な教育環境の充実							
事業概要	校舎に係る管理費用をなくすために、休校となっている小学校を廃校とし、老朽化した校舎の解体を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	桃山小学校解体工事			⑤				⑨			
	②	解体工事に伴う監理業務委託			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	校舎解体工事設計業務に伴う工程会議数	回	目標	20	10	20			工事着手に先立ち、地元区長説明を行い、主要工程の度に施工方針等を会議にて協議、決定を行っていった。現場施工条件の大幅な変更にも柔軟に対応し施工業者に指示を行った。		
				実績	10	10						
	<指標の計算方法>		校舎解体工事設計業務に伴う工程会議数									
	成果指標	工事完成率	%	目標	100		100			予定工程通り施工実施し目標を達成した。		
				実績	100		100					
	<指標の計算方法>		工事完成率									
	活動指標	解体実施校数	校	目標	1		1			予定通り解体実施し目標を達成した。		
				実績	1		1					
	<指標の計算方法>		解体実施校数									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	68,190			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	4,090		
事業の実績	①桃山小学校解体工事 ・校舎解体工事 ・し尿汚泥汲取り											
	②解体工事に伴う監理業務委託											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・廃校になった校舎の利活用の要望がないため、校舎の維持管理費用をなくすための事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・当初の計画どおり目標を達成している。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・跡地利用の計画もないことから、解体後の整地を最小限におさえ、コスト削減を図った。											

事務事業の概要	事務事業名	小学校トイレ洋式化事業			担当課	教育総務課			事業区分	ハード事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1033	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	2 小学校費				施策目標	2	学校教育			
		目	1 小学校管理費				基本施策	1	学校教育環境の充実			
取組方針	3	安全・安心で快適な教育環境の充実										
事業概要	児童、教職員がトイレを快適に利用できるように、小学校のトイレの洋式化を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	トイレ改修工事			⑤					⑨		
	②	設計監理業務委託			⑥					⑩		
	③	国庫補助金等の申請			⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	工事実施校数	校	目標		1	3	4	4	目標通り実施できている。		
				実績		1	3					
	<指標の計算方法>		トイレ改修を実施した小学校数									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	28,424			国庫支出金	4,036	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源 24,388		
事業の実績	①トイレ改修工事 ・池田小学校トイレ改修工事 ・西貴志小学校トイレ改修工事 ・中貴志小学校トイレ改修工事 ②設計監理業務委託 ・池田小学校トイレ改修工事設計監理業務 ・西貴志小学校トイレ改修工事設計監理業務 ・中貴志小学校トイレ改修工事設計監理業務 ③国庫補助金等の申請 ・学校施設環境改善交付金の申請 ・施工完了後、速やかに実績報告書を作成 ・歳入処理											
	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		生活様式の変化に対応するための改修工事であり、トイレ環境の充実を図ることができている。										
有効性	評価結果	改善の余地がない										
	当初計画の通り、目標達成。											
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・国庫補助金を申請し、一般財源の負担削減に努めた。											

事務事業の概要	事務事業名	小学校教育情報化事業			担当課	教育総務課			事業区分	ハード事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度 (R1～R4)		事業番号	1152	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	2 小学校費				施策目標	2	学校教育			
		目	1 小学校管理費				基本施策	1	学校教育環境の充実			
事業概要	児童に個別最適化された教育を効果的・効率的に実現するため、小学校におけるICT環境の整備を行う事業。											
事務事業を構成する細事業	①			⑤					⑨			
	②			⑥					⑩			
	③			⑦					⑪			
	④			⑧					⑫			
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	指標の分析		
	成果指標	教育のICT化に向けた環境整備5か年計画の達成率	%	目標	20	40	60	80	100	本年度に集中的に整備したため、目標値を上回ることができた。		
				実績	20	20	80					
	<指標の計算方法>		計画に掲げている目標水準6項目の達成率									
				目標								
				実績								
<指標の計算方法>												
コストの実績	R2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	462,515			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			219,047			70,600		58,766	114,102			
事業の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・学習者・指導者用コンピュータの整備 児童及び教員用として、iPad 3,195台を購入(予備機含む) ・大型提示装置・実物投影機の整備 全普通学級へ導入 ・インターネット及び無線LANの整備 全校に整備 ・ICT支援員の配置 小中学校全体で5名の支援員と1名の管理支援員を配置 											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		これからの子供たちにとって、教育におけるICTを基盤とした先端技術等の効果的な活用が求められる一方で、現在の学校ICT環境の整備は遅れており、自治体間の格差も大きい。令和時代のスタンダードな学校像として、全国一律のICT環境整備が急務とされている。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
国庫補助や地方財政措置などを有効活用して事業を行っている。 また、新型コロナウイルス感染症対策のために小中学校を臨時休業する場合の学習の保障等にもICTの環境整備は有効である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	市内小中学校全体を整備することにより、スケールメリットを生かして予算を効率的に執行するとともに、人的負担も軽減している。											

事務事業の概要	事務事業名	小学校教育活動事業			担当課	教育総務課		事業区分	ソフト事業				
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	595		
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育				
		項	2 小学校費				施策目標	2	学校教育				
		目	2 小学校教育振興費				基本施策	2	子供の力をのばす教育				
事業概要	児童の学力向上と豊かな心や感性を育むために、教材の購入や各種補助金の交付を行う事業												
事務事業を構成する細事業	①	教材器具・教科書整備			⑤				⑨				
	②	研究指定校補助金			⑥				⑩				
	③	緑育推進事業補助金			⑦				⑪				
	④	宿泊体験活動推進事業補助金			⑧				⑫				
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析				
	成果指標	図書充足率を満たしている学校数	校	目標	16	16	16	16	16	学校司書の配置により蔵書整理が進み、一時的に充足率が低下したが年次計画的に図書を購入している。			
			実績	10	5	5							
	<指標の計算方法>		文科省が定める学校図書館図書標準に対する充足率を満たしている学校数										
			校	目標									
			実績										
	<指標の計算方法>												
		校	目標										
		実績											
<指標の計算方法>													
		校	目標										
		実績											
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	39,255			国庫支出金	47	県支出金	300	地方債	繰入金	その他	一般財源	38,908	
事業の実績	①教材器具・教科書整備 29,077,115円 教科書大改訂に伴う増額			上名手小：17人 179,994円 合計 2校：24人									
	②研究指定校補助金 916,928円 学校の実情や課題に即した学力向上を図るための研究指定を受けた2校に対し補助を行いました。 池田小学校、丸栖小学校			④宿泊体験活動推進事業補助金 1,125,214円 ・共同生活を通して豊かな心や感性を育むために行う集団宿泊体験に対し補助を行いました。									
	③緑育推進事業補助金 300,463円 森林学習や間伐体験を通し、森林の持つ様々な機能や大切さを学び、間伐材を利用した木工クラフトや本立て等を製作しました。 当初4校(川原小、上名手小、長田小、竜門小)を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大により2校(長田小、竜門小)が中止となった。 実施校及び参加人数 川原小：7人 120,469円												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・教育活動に必要な不可欠な教材等の購入や活動に対する補助を行う事業であり、今後も継続するのが妥当な事業である。											
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
・教育活動に必要な不可欠な教材や備品、図書等の購入にあたり、教社から見積を徴して少しでも安価に購入できるようにしている。 ・研究授業や各種体験等に係る費用の一部を補助し、円滑に教育活動が行えるよう支援できている。													
効率性	評価結果	改善の余地がない											
	・次年度予算策定にあたり、学校から要望を聴取した上で査定したり、日常的に購入事務等について指導していることで効率的な事業及び予算の執行が行えている。												

事務事業の概要	事務事業名	児童就学援助事業		担当課	教育総務課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	589	
	予算科目	款	10 教育費		長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	2 小学校費			施策目標	2	学校教育			
		目	2 小学校教育振興費			基本施策	1	学校教育環境の充実			
取組方針			5	教育の機会均等の確保							
事業概要	経済的理由により就学が困難となる児童が就学できるように、保護者に学用品や給食費の一部に支援を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	要保護及び準要保護児童生徒就学援助費		⑤					⑨		
	②	特別支援教育就学奨励費		⑥					⑩		
	③			⑦					⑪		
	④			⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析	
	成果指標	就学援助費認定者数	人	目標						児童数は減少傾向にあるが、就学援助の支援を必要とする保護者は増加傾向にある。	
			実績		349	380	384				
	<指標の計算方法>		年度内認定者数（4月1日付で認定取り消しした者を除く）								
	活動指標	特別支援教育就学奨励費認定者数	人	目標						特別支援学級対象児童の増加、及び医療的ケアを必要とする児童・保護者が特別支援学校ではなく、地元校への進学希望が増加傾向にあるため。	
			実績		112	120	131				
	<指標の計算方法>		年度内の認定者数								
成果指標	市立小学校における就学援助認定者の割合	%	目標						認定者数が増加したため。		
		実績		11	12.6	13.2					
<指標の計算方法>		年度内認定者数（4月1日付で認定取り消しした者を除く）÷3月1日現在児童数									
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 2年度決算額 （単位：千円）			財源内訳							
	30,627			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	28,362	
事業の実績	①要保護及び準要保護児童生徒就学援助費 ・経済的に就学が困難な児童に対し、学用品費、修学旅行費等必要な援助を行い、円滑な義務教育の推進を図りました。 ・要保護及び準要保護児童生徒就学援助費認定者数 市内:15小学校 382人 市外:1小学校 2人、市内小学校の認定率 13.2% 支給者数 373人（うち市外2人） ・令和2年度に新1年生になる児童に対し、新入学学用品費等の入学前支給を行いました。 （生活保護法第6条第2項に規定する要保護者で現に保護を受けている保護者に準ずる程度に困窮している保護者） 支給者数：30人 ・特別支援教育就学奨励費認定者数 市内14小学校 131人 支給者数 130人										
	②特別支援教育就学奨励費 ・特別支援学級に就学する児童の保護者の経済的負担を軽減し、特別支援教育の普及奨励を図りました。										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・就学援助費は、経済的に就学が困難な児童を就学させるために必要な事業である。 ・特別支援教育就学奨励費は、特別支援学級に入級している児童の保護者のうち、世帯所得が一定の額より低い保護者に対して就学に関する経済的負担を軽減させており、継続するのが妥当な事業である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・就学援助費、就学奨励費とも支給することで就学にかかる保護者の経済的負担が軽減されており、児童の適正な就学に有効な事業である。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・自前のExcel等での管理であるため、あらゆる事務処理について時間を取られてしまっている。 ・令和3年度にシステムを導入する予定にしており、事務処理にかかる時間は短縮される見込みである。										

事務事業の概要	事務事業名		中学校運営事業			担当課	教育総務課		事業区分	ソフト事業		
	会計		一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	583
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	3 中学校費				施策目標	2	学校教育			
		目	1 中学校管理費				基本施策	1	学校教育環境の充実			
事業概要		生徒が円滑に学校生活が行えるように、中学校に校務員の配置や備品の整備等を行う事業										
事務事業を構成する細事業		①	学校運営協議会	⑤					⑨			
		②	校務員設置	⑥					⑩			
		③	学校備品整備	⑦					⑪			
		④	中学校教科別研究会等負担金	⑧					⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	校務員配置校数	校	目標	5	5	5	5	5	鞆淵小・中学校については兼務となるが、全中学校に校務員を配置している。		
				実績	5	5	5					
	<指標の計算方法>		校務員を配置している中学校数（鞆淵中学校は小学校と兼務のため小学校で計上）									
	活動指標	備品購入費決算額	千円	目標						新型コロナウイルス感染症対策として、扇風機、非接触型体温計、サーマルカメラ等の導入や校務用パソコンの入れ替えを行ったため実績額が増加した。		
				実績	17,543	1,048	14,137					
	<指標の計算方法>		全中学校における備品購入費（庁用器具購入費と機械器具購入費）に係る決算額									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
98,608			11,428	912				569	85,699			
事業の実績	①学校運営協議会 ・全中学校に学校運営協議会を設置し、年間3回程度開催しました。											
	②校務員設置 ・中学校5校（打田中学校仙溪分校と鞆淵中学校除く）に校務員を配置しました。											
	③学校備品整備 校務用PCやサーマルカメラなどの備品を購入しました。											
	④中学校教科別研究会等負担金 ・教科別研究会に負担金を支出し、その研究活動を支援しました。670,030円											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・中学校の運営に必要な経常経費であり、継続して行うのが妥当な事業である。									
		評価結果	改善の余地がない ・中学校の運営に必要な経常経費であるが、限られた予算を有効に執行できるように学校へ指導をしている。									
	効率性	評価結果	改善の余地がない 支払事務の効率化を図るため、学校への継続的な指導が必要である。									

事務事業の概要	事務事業名	中学校施設管理事業			担当課	教育総務課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	580	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	3 中学校費				施策目標	2	学校教育			
		目	1 中学校管理費				基本施策	1	学校教育環境の充実			
事業概要	生徒、教職員が学校施設を安全で快適に利用できるように、中学校の施設の適切な維持管理や改修を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	中学校施設管理			⑤				⑨			
	②	中学校施設改修			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	普通教室及び音楽室への空調機器設置工事実施校数	校	目標	1	1	0	0	0	特別教室の空調設備未設置校（那賀中学校）において、理科教室への設置及び保健室の空調設備更新工事を実施した。		
				実績	1	1	0	0				
	<指標の計算方法>		普通教室及び音楽室に新たに空調機器を設置する学校数									
	成果指標	普通教室及び音楽室の空調機器設置を完了した学校の割合	%	目標	83	100	100	100	100	普通教室及び音楽室の設置状況に増減はなかったため、設置率100%を維持。		
				実績	83	100	100	100				
	<指標の計算方法>		普通教室及び音楽室の室数に占める空調機器設置室数の割合									
成果指標	施設改修工事実施箇所数	箇所	目標	2	2	2	3	3	前年度に学校からヒアリングを行い、必要に応じた改修工事を実施し、生徒・教職員に安全及び快適な学習環境を提供できている。			
			実績	6	3	2	2					
<指標の計算方法>		防水工事や機能改善等に係る工事の実施箇所数										
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	36,872			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
					10,100		418	26,354				
事業の実績	①中学校施設管理 ・施設管理に伴う各種業務委託 ・使用料及び賃借料（土地借上げ、電柱共架料）の契約事務及び支払 ・施設器具修繕 ②中学校施設改修 （改修工事に伴う設計監理業務委託を含む） ・打田中学校屋内運動場照明設備改修工事 ・那賀中学校理科室等空調設備設置工事											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・生徒及び教職員が安全かつ快適に使用できるように、老朽化していく施設の維持管理に必要な事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・老朽化していく施設の状況等を鑑みると修繕費を減らすことは難しいが、各校とも限られた予算の中で大きな改修に至らないよう修繕で対応できるうちに対応し、施設の維持管理に努めている。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・保守点検結果や前年度に実施する学校からのヒアリングをもとに、緊急性や優先度を精査した上で事業毎に必要なに応じた改修工事を実施し、生徒・教職員に安全及び快適な学習環境を提供できている。											

事務事業の概要	事務事業名		中学校休校校舎解体整備事業				担当課	教育総務課			事業区分	ハード事業		
	会計		一般会計				新規・継続	継続	事業期間	単年度のみ			事業番号	1134
	予算科目	款	10 教育費				長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育				
		項	3 中学校費					施策目標	2	学校教育				
		目	1 中学校管理費					基本施策	1	学校教育環境の充実				
事業概要		校舎に係る管理費用をなくすために、休校となっている中学校を廃校とし、老朽化した校舎の解体を行う事業												
事務事業を構成する細事業		①	桃山中学校解体工事				⑤					⑨		
		②	解体工事に伴う監理業務委託				⑥					⑩		
		③					⑦					⑪		
		④					⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析					
	活動指標	校舎解体工事設計業務に伴う工程会議数	回	目標		10	20			工事着手に先立ち、地元区長説明を行い、主要工程の度に施工方針等を会議にて協議、決定を行っていった。騒音・振動による近隣住民からの苦情もあったが、丁寧に説明してご理解いただいた。 予定通り解体実施し目標を達成した。				
			実績		10	20								
	<指標の計算方法>		校舎解体工事設計業務に伴う工程会議数											
	成果指標	解体実施校数	校	目標			1							
			実績			1								
	<指標の計算方法>		解体実施校数											
			目標											
			実績											
<指標の計算方法>														
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳										
	70,871			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源					
			67,000			3,871								
事業の実績	①桃山中学校解体工事 ・校舎解体工事 ・し尿汚泥汲取り													
	②解体工事に伴う監理業務委託													
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない											
		・廃校になった校舎の利活用の要望がないため、校舎の維持管理費用をなくすための事業である。												
	有効性	評価結果	改善の余地がない											
・当初の計画どおり目標を達成している。														
効率性	評価結果	改善の余地がない												
	・跡地利用の計画もないことから、解体後の整地を最小限におさえ、コスト削減を図った。													

事務事業の概要	事務事業名	中学校教育情報化事業			担当課	教育総務課			事業区分	ハード事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度 (R1～R4)		事業番号	1153	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	3 中学校費				施策目標	2	学校教育			
		目	1 中学校管理費				基本施策	1	学校教育環境の充実			
取組方針	3	安全・安心で快適な教育環境の充実										
事業概要	生徒に個別最適化された教育を効果的・効率的に実現するため、小学校におけるICT環境の整備を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①			⑤					⑨			
	②			⑥					⑩			
	③			⑦					⑪			
	④			⑧					⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	指標の分析			
	成果指標	教育のICT化に向けた環境整備5か年計画の達成率	%	目標	20	40	60	80	100	本年度に集中的に整備したため、目標値を上回ることができた。		
				実績	20	20	80					
	<指標の計算方法>		計画に掲げている目標水準6項目の達成率									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	223,791			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	57,012		
			103,282			33,300		30,197				
事業の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・学習者・指導者用コンピュータの整備 1人1台の端末を導入 ・大型提示装置・実物投影機の整備 全普通学級へ導入 ・インターネット及び無線LANの整備 全校に整備 ・ICT支援員の配置 小中学校全体で5名の支援員と1名の管理支援員を配置 											
	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		これからの子供たちにとって、教育におけるICTを基盤とした先端技術等の効果的な活用が求められる一方で、現在の学校ICT環境の整備は遅れており、自治体間の格差も大きい。令和時代のスタンダードな学校像として、全国一律のICT環境整備が急務とされている。										
		評価結果	改善の余地がない									
有効性	国庫補助や地方財政措置などを有効活用して事業を行っている。 また、新型コロナウイルス感染症対策のために小中学校を臨時休業する場合の学習の保障等にもICTの環境整備は有効である。											
	効率性	評価結果	改善の余地がない									
市内小中学校全体を整備することにより、スケールメリットを生かして予算を効率的に執行するとともに、人的負担も軽減している。												

事務事業の概要	事務事業名	中学校教育活動事業			担当課	教育総務課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	576	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	3 中学校費				施策目標	2	学校教育			
		目	2 中学校教育振興費				基本施策	2	子供の力をのばす教育			
事業概要	生徒の学力向上と豊かな心や感性を育むために、教材の購入や各種補助金の交付を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	教材器具・教科書整備			⑤				⑨			
	②	生徒派遣費補助金			⑥				⑩			
	③	研究指定校補助金			⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	成果指標	図書充足率を満たしている学校数	校	目標	7	7	7	7	7	学校司書の配置により蔵書整理が進み、一時的に充足率が低下したが年次計画的に図書を購入している。		
			実績	3	1	2						
	<指標の計算方法>		文科省が定める学校図書館図書標準に対する充足率を満たしている学校数									
			校	目標								
			実績									
	<指標の計算方法>											
		校	目標									
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
11,657			244						11,413			
事業の実績	①教材器具・教科書整備 1,273,250円											
	②生徒派遣費補助金 ・体育の振興及び文化の向上を図るため、市立中学校がクラブ活動において全国大会を始めとする各種大会に選手を派遣する際の交通費、宿泊費等の経費について補助しました。 3,862,982円											
	③研究指定校補助金 ・学校の実情や課題に即した学力向上を図るため市の研究指定を受けた1校に対し、補助を行いました。 荒川中学校 500,000円											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・教育活動に必要な不可欠な教材等の購入や活動に対する補助を行う事業であり、今後も継続するのが妥当な事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・教育活動に必要な不可欠な教材や備品、図書等の購入にあたり、教社から見積を徴して少しでも安価に購入できるようにしている。 ・教育活動において、研究事業や各種体験等に係る費用の一部を補助し、円滑に教育活動が行えるよう支援できている。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・次年度予算策定にあたり、学校から要望を聴取した上で査定したり、日常的に購入事務等について指導していることで効率的な事業及び執行が行えている。											

事務事業の概要	事務事業名	生徒就学援助事業		担当課	教育総務課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	571	
	予算科目	款	10 教育費		長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育				
		項	3 中学校費			施策目標	2 学校教育				
		目	2 中学校教育振興費			基本施策	1 学校教育環境の充実				
取組方針	5 教育の機会均等の確保										
事業概要	経済的理由により就学が困難となる生徒が就学できるように、保護者に学用品や給食費の一部に支援を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	要保護及び準要保護児童生徒就学援助費		⑤				⑨			
	②	特別支援教育就学奨励費		⑥				⑩			
	③			⑦				⑪			
	④			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	就学援助費認定者数	人	目標						市全体として生徒は減少傾向にあるが、就学援助の支援を必要とする保護者は増加傾向にある。	
			実績	208	181	186					
	<指標の計算方法>		年度内認定者数（4月1日付で認定取り消しした者を除く）								
	活動指標	特別支援教育就学奨励費認定者数	人	目標						特別支援学級対象の生徒の増加と医療的ケアを必要とする生徒・保護者が特別支援学校ではなく地元校に進学希望が増加傾向にあるため。	
			実績	50	41	44					
<指標の計算方法>		年度内認定者数									
成果指標	市立中学校における就学援助認定者の割合	%	目標						生徒数の増加率以上に認定者数の増加率が多かったため。		
		実績	13.7	12.6	12.8						
<指標の計算方法>		年度内認定者数（4月1日付で認定取り消しした者を除く）÷3月1日現在生徒数									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 2年度決算額 （単位：千円）			財源内訳							
	19,747			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	18,783	
事業の実績	①要保護及び準要保護児童生徒就学援助費 ・経済的に就学が困難な生徒に対し、学用品費、修学旅行費等必要な援助を行い、円滑な義務教育の推進を図りました。 ・要保護及び準要保護児童生徒就学援助費認定者数：市内6中学校 182人、市外3中学校4人 市内中学校の認定率12.8% 支給者数 180人（うち市外4人） ・令和2年度に新1年生になる生徒に対し、新入学学用品費等の入学前支給を行いました。（生活保護法第6条第2項に規定する要保護者で現に保護を受けている保護者に準ずる程度に困窮している保護者）支給者数：56人 中学校 44人 支給者数 44人										
	②特別支援教育就学奨励費 ・特別支援学級に就学する生徒の保護者の経済的負担を軽減し、特別支援教育の普及奨励を図りました。 ・特別支援教育就学奨励費認定者数：市内5										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・就学援助費は、経済的に就学が困難な家庭の生徒を就学させるために必要な事業である。 ・特別支援教育就学奨励費は、特別支援学級に入級している生徒の保護者のうち、世帯所得が一定の額より低い保護者に対して就学に関する経済的負担を軽減させており、継続するのが妥当な事業である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・就学援助費、特別支援教育就学奨励費とも就学にかかる保護者の経済的負担が軽減されており、生徒の適正な就学に有効な事業である。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・自前のExcel等での管理であるため、あらゆる事務処理について時間を取られてしまっている。 ・令和3年度にシステムを導入する予定にしており、事務処理にかかる時間は短縮される見込みである。										

事務事業の概要	事務事業名	私立幼稚園運営支援事業			担当課	教育総務課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	119	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育				
		項	4 幼稚園費				施策目標	2 学校教育				
		目	1 幼稚園費				基本施策	2 子供の力をのばす教育				
事業概要	幼児が適正に就園できるように、保護者、幼稚園に施設等利用給付費や運営費の支給を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	施設等利用費			⑤				⑨			
	②	私立幼稚園運営補助金			⑥				⑩			
	③	私立幼稚園第二子以降無料化事業補助金			⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	成果指標	就園奨励費補助金支給園児数	人	目標	0	0	0	0	0	昨年度の下半期より幼児教育・保育の無償化事業が開始されたことに伴い、昨年度の上半期で本補助金が終了したため本年度の実績は無し。		
			実績	131	56	0						
	<指標の計算方法>		就園奨励費補助金支給園児数									
	成果指標	第2子以降保育料無料化事業費補助金支給園児数	人	目標	0	0	0	0	0	昨年度の下半期より幼児教育・保育の無償化事業が開始されたことに伴い、本年度の実績は無し。		
			実績	15	11	0						
	<指標の計算方法>		第2子以降保育料無料化事業費補助金支給園児数									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
25,380			9,946	5,090					10,344			
事業の実績	①施設等利用費 ・施設等利用費 紀の川市 1幼稚園 49人 岩出市 2幼稚園 20人 和歌山市 3幼稚園 4人 ・補足給付費 紀の川市 1幼稚園 12人 岩出市 2幼稚園 3人											
	②私立幼稚園運営補助金 ・紀の川市内私立幼稚園の運営を助成し、幼児教育の推進を図りました。											
	③私立幼稚園第二子以降保育料無料化事業費補助金 ・補助申請実績はありませんでした。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がややある									
		・運営補助金について、子ども・子育て支援制度に移行していない幼稚園のみを対象として支出しているが、その金額の妥当性、他の優遇措置（施設利用時の費用減免など）などを検討し、今後の支出額を決めていく必要がある。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・保護者の経済的負担を軽減することで子育て支援策の充実を図ることができている。 ・私立幼稚園の運営を補助することで教育環境の充実を図っている。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・幼児教育・保育の無償化事務は、就園奨励費の事務の名残で現在本市での事務はこども課と教育総務課の2課にまたがって実施しているが、無償化は子ども・子育て支援法により実施されることとなったので、利用者にも担当部署をわかりやすくするために、窓口を一本化することが望ましいと考える。											

事務事業の概要	事務事業名	社会教育推進事業			担当課	生涯学習課			事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	567		
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育				
		項	5 社会教育費				施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ				
		目	1 社会教育総務費				基本施策	1	生涯学習の推進				
目	1 社会教育総務費			取組方針	1		生涯学習機会の提供						
事業概要	市が適切に社会教育施策を推進するために、関係機関との連携、協力や支援を行う事業												
事務事業を構成する細事業	①	社会教育委員会運営			⑤	社会教育主事育成・研修			⑨				
	②	社会教育指導員設置			⑥	社会教育推進事務			⑩				
	③	県社会教育委員連絡協議会負担金			⑦				⑪				
	④	県社会教育主事等連絡協議会負担金			⑧				⑫				
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析				
	活動指標	社会教育委員会及び研修会の開催回数	目標	6	6	6	6	6	社会教育委員会議は3回開催し、生涯学習振興計画を策定することができた。第2回の社会教育委員会と同日に研修会を行った。				
			実績	10	3	4							
	<指標の計算方法>		社会教育委員会及び研修会の開催回数										
	活動指標	社会教育指導員連絡会の開催回数	目標	10	10	6	6	6	社会教育指導員連絡会は目標値同数を開催することができた。				
			実績	4	3	6							
	<指標の計算方法>		社会教育指導員連絡会の開催回数										
			目標										
			実績										
	<指標の計算方法>												
		目標											
		実績											
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	13,554			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源				
			13,554										
事業の実績	①社会教育委員会運営 第1回 7月 1日 第2回 12月 9日 第3回 3月17日 社会教育委員研修 内容「社会教育とは何か」 講師 和歌山大学紀伊半島価値共創基幹 教授 村田 和子 氏			⑤社会教育主事育成・研修 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため 中止									
	②社会教育指導員設置 指導員数 5人			⑥社会教育推進事務									
	③県社会教育委員連絡協議会負担金 25,000円												
	④県社会教育主事等連絡協議会負担金 22,000円												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・社会教育法に基づき委員を委嘱しており、社会教育に関する調査研究、諸計画の立案や提言など社会教育を推進する上で重要な役割を担っている。 ・社会教育指導員は、地区公民館に配置し、市における社会教育について直接指導、学習相談、社会教育団体の育成に努め、社会教育を推進する具体策を企画提案しており、市の社会教育の推進に重要な役割を担っている。											
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
		・社会教育委員の立案や提言を求めながら市の社会教育のあるべき姿をモデル化し、各計画を策定する。											
効率性	評価結果	改善の余地がない											
	・社会教育法に基づき社会教育委員を委嘱している。 ・社会教育指導員については、学識経験者を各地区公民館に会計年度任用職員で配置しているため、現状の実施方法が最適である。												

事務事業の概要	事務事業名		文化振興事業			担当課	生涯学習課		事業区分	ソフト事業		
	会計		一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	565
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	5 社会教育費				施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ			
		目	1 社会教育総務費				基本施策	1	生涯学習の推進			
事業概要		市民の芸術文化への関心を高めるために、関連団体への支援やイベント、啓発を行う事業										
事務事業を構成する細事業		①	文化協会運営補助金		⑤					⑨		
		②	自主文化事業（粉河ふるさとセンター）		⑥					⑩		
		③	自主文化事業（貴志川生涯学習センター）		⑦					⑪		
		④	劇団運営補助金		⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	自主文化事業開催回数	目標	8	8	8	8	8	自主文化事業開催回数。新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い全事業を中止した。			
			実績	9	9	0						
	<指標の計算方法>		自主文化事業開催回数									
	成果指標	自主文化事業入場者数	目標	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	自主文化事業入場者数。新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い全事業を中止したため、入場者数なし。			
			実績	3,915	2,517	0						
	<指標の計算方法>		自主文化事業入場者数									
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	4,723			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			4,723									
事業の実績	①文化協会運営補助金 加盟団体 131団体 (打田支部 33団体、粉河支部 35団体、 那賀支部 15団体、桃山支部 13団体、 貴志川支部 35団体)											
	・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため 文化祭を自粛											
	②自主文化事業（粉河ふるさとセンター）											
	・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため 自粛											
③自主文化事業（貴志川生涯学習センター）												
・新型コロナウイルス感染症防止のため自粛												
④劇団運営補助金 70,000円												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がややある									
		・文化協会加入のクラブが文化的活動をし、広く地域の芸術文化振興に寄与する活動に対して、市が支援することは妥当である。しかしながら、各クラブの利益追求のみに固執している活動に補助を出す事は妥当ではない。 ・自主文化事業については、あらゆる世代の市民に優れた芸術に触れる機会を提供するため、様々な文化芸術事業を行うことは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地が大きい									
・自主文化事業については、一般職の職員が行っており、専門的な知識をもった職員を配置する必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地が大きい										
	・文化協会会員の、高齢化、会員数の減少が顕著である。市の補助だけでなく各クラブ自身の活性化に向けての取り組みが早急に必要である。 ・効果的な文化事業を展開するには、長期的な視点も必要となることから、今後民間のノウハウを活用した文化振興策を検討する必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名		家庭教育推進事業				担当課	生涯学習課		事業区分	ソフト事業		
	会計		一般会計				新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	562
	予算科目	款	10 教育費				長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育				
		項	5 社会教育費					施策目標	1 子育て環境・保育サービス				
		目	1 社会教育総務費					基本施策	3 地域の子供の健全育成の推進				
事業概要		市民（保護者）が家庭教育の意識を高揚させるために、家庭教育の重要性の啓発を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①		子ども読書活動推進				⑤			⑨			
	②		PTA連絡協議会補助金				⑥			⑩			
	③		家庭教育講座				⑦			⑪			
	④						⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析				
	活動指標	読み聞かせ回数	回	目標	50	50	50	50	50	新型コロナウイルス感染拡大防止のため回数を制限したことから減少した。			
			実績	53	48	27							
	<指標の計算方法>		河北・河南図書館での開催回数 定例（月2回程度）＋夏休み期間中分										
	成果指標	読み聞かせ参加者数	人	目標	850	900	900	900	900	新型コロナウイルス感染拡大防止のため回数を制限したことと感染症予防のため参加者が減少傾向だった。			
			実績	926	677	249							
	<指標の計算方法>		河北・河南図書館での参加人数 定例（月2回程度）＋夏休み期間中分										
		目標											
		実績											
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	259			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			259	
事業の実績	①子ども読書活動推進 ・学校司書との連携、学校図書館訪問 ・読み聞かせ 〔河北図書館〕 〔河南図書館〕				②PTA連絡協議会補助金 150,000円 ③家庭教育講座 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、個別相談に変更。 代わりとして啓発リーフレットを作成し1歳児健康相談、1歳8か月児健診において都度配布する。								
	4月	0回	0人	0回	0人								
5月	0回	0人	0回	0人									
6月	0回	0人	0回	0人									
7月	1回	1人	0回	0人									
8月	0回	0人	2回	10人									
9月	0回	0人	1回	15人									
10月	2回	15人	3回	36人									
11月	2回	14人	1回	16人									
12月	1回	16人	3回	29人									
1月	3回	26人	1回	5人									
2月	1回	9人	2回	23人									
3月	2回	6人	2回	28人									
計	12回	87人	15回	162人									
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・子供読書活動推進は、未来を担う子供たちが読書を通して自ら学び、自ら考え、力強く成長していけることを目的としており、市が実施することは妥当である。 ・PTA連絡協議会については、単位PTAとの緊密な連絡と相互の協力によって、保護者と学校と地域の結びつき強化や児童生徒の福祉の増進を図り、教育の振興に寄与する活動に対して市が支援することは妥当である。											
	有効性	評価結果	改善の余地がややある										
・親子の基本的信頼関係の土台の構築や愛着形成を育むために重要な時期である妊娠期から乳幼児期に間に保護者が子供の発達の特徴や親子のふれあいの重要性を学ぶ機会を持ち、安心して子育てできるよう支援する事業であり有効である。 ・PTA連絡協議会の運営について、前年までの運営の流れをなぞるのではなく、さらに保護者と地域、学校の協力を強めるための啓発活動・研修の実施などを役員が積極的に企画し取り組めるよう支援することが必要である。													
効率性	評価結果	改善の余地がない											
	・読み聞かせについては図書館ボランティアの協力で事業を運営していることから、効率的でコスト削減の余地はない。												

事務事業の概要	事務事業名	生涯学習推進事業		担当課	生涯学習課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	848	
	予算科目	款	10 教育費		長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	5 社会教育費			施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ			
		目	1 社会教育総務費			基本施策	1	生涯学習の推進			
事業概要	市民に生涯学習の提供をするために、生涯学習活動に支援を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	成人式実行委員会運営	⑤		⑨						
	②	成人式開催	⑥		⑩						
	③	ユネスコ連絡協議会補助金	⑦		⑪						
	④	婦人会補助金	⑧		⑫						
指標の実績	指標名	単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	成人式実行委員会委員数	人	目標	15	15	12	12	12	都合により3人の辞退があったこともあり、前年度より減となった。	
			実績	11	12	6					
	<指標の計算方法>		成人式実行委員会委員数								
	成果指標	成人式出席率	%	目標	80	80	80	80	80	コロナ禍での開催であったが、前年より1.88%の増となった。	
			実績	73.07	74.17	76.05					
	<指標の計算方法>		当日の出席者を対象者（住登外で出席申込希望者含）で除した割合								
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)		財源内訳								
	4,147		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	4,147		
事業の実績	①成人式実行委員会運営 第1回 7月10日 第2回 8月26日 第3回 10月5日 第4回 10月26日 第5回 11月30日 第6回 12月21日 第7回 2月8日										
	②成人式開催 1月10日 ・開会式典（短縮） ・自主イベント 「紀の川市がキュンです 一別にコロナを求めてないけどー」 (実行委員製作のスライドショー上映)										
	③ユネスコ連絡協議会補助金 90,000円										
	④婦人会補助金 100,000円										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・市民に生涯学習活動を推進するため行政が関与及び支援することは妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・例年募集している新成人による成人式実行委員会は、成人式式典の進行やイベントの企画・運営を行うことにより、社会の一員として組織で活動する意識や責任感、達成感を得ることができ、有効性が高い。 ・実行委員の参画者を募るのに例年苦慮しており、募集方法などについて改善が必要である。 ・ユネスコ連絡協議会や婦人会の活動については、自主運営できており事業の有効性は高い。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・事業内容を精査し、補助金を減額するなど節減努力に努め、低コストでの事業を展開しており、効率性は高い。										

事務事業の概要	事務事業名	国民文化祭事業			担当課	生涯学習課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度 (R2～R3)		事業番号	1143
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育		
		項	5 社会教育費				施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ		
		目	1 社会教育総務費				基本施策	1	生涯学習の推進		
事業概要	文化遺産や伝承文化等、地域の人々が長い間守り継承してきた文化（芸能）を披露し、その魅力を発信する										
事務事業を構成する細事業	①	紀の川市国民文化祭実行委員会運営			⑤				⑨		
	②	国民文化祭PR			⑥				⑩		
	③				⑦				⑪		
	④				⑧				⑫		
指標の実績	指標名	単位		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	指標の分析		
	活動指標	紀の川市国民文化祭実行委員会開催回数	目標	0	1	3	3	0	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面議決により会議を行った。負担金の要綱について審議、策定することができた。		
			実績	0	1	1					
	<指標の計算方法>		実行委員会を開催した回数								
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R2年度決算額 (単位：千円)	財源内訳									
		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源				
	114								114		
	①紀の川市国民文化祭実行委員会 令和2年8月14日（金） 予算案及び補助金交付要綱を書面議決 補助対象団体「大正琴」「民謡・民舞」										
	②国民文化祭PR 「大正琴」 大正琴協会のホームページでPR 「民謡・民舞」 民謡専門雑誌に掲載 ポスター及びチラシで関係機関へ周知										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・和歌山県が開催地となり、全国の各種文化団体が交流を深める文化の祭典であり、市が開催することは妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・開催に向けた県内の当該団体との連絡調整は順調であるが、県外団体との連絡調整は新型コロナウイルス感染症の影響で滞っている部分がある。 ・実行委員会の設置や会則、事務規程等の整備は整い運営母体も確立している。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・効率的な事業の運営を展開するためには、効果的な人員配置を行い対応していく必要がある。										

事務事業の概要	事務事業名	公民館活動推進事業			担当課	生涯学習課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	564	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	5 社会教育費				施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ			
		目	2 公民館費				基本施策	1	生涯学習の推進			
事業概要	市民の交流機会の創出や教養を高めてもらうために、公民館でのイベントや講座の開催を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	公民館講座・各種教室開催			⑤	公民館へいこらフェア			⑨			
	②	公民館主事設置			⑥	県公民館連絡協議会負担金			⑩			
	③	公民館活動・運営委託			⑦				⑪			
	④	公民館運営審議会			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	公民館講座教室数	教室	目標	55	50	45	45	45	各地区公民館及びコミュニティセンターで開催している講座教室数。小中学校の夏季休暇の短縮に伴い子ども公民館講座が開催できなかったため、講座教室数は減少。		
				実績	44	49	41					
	<指標の計算方法>		各地区公民館及びコミセンで開催の講座教室数									
	成果指標	公民館講座出席率	%	目標	80	80	80	80	80	各地区公民館及びコミュニティセンターで開催の講座申込者の平均出席率は前年比微増。		
				実績	79.5	76.1	76.6					
	<指標の計算方法>		各地区公民館及びコミセンで開催の講座教室申込者の平均出席率									
	活動指標	公民館へ行こらフェア開催日数	日	目標	15	15	15	15	15	公民館へ行こらフェアの開催日数は「保田龍門作品展」が53日間の展示期間であったため大幅に増加。		
				実績	14	15	65					
	<指標の計算方法>		公民館へ行こらフェア開催日数									
成果指標	公民館へ行こらフェア参加人数	人	目標	750	750	750	750	750	公民館へ行こらフェアの参加人数は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、縮小及び中止したことにより前年比微減。			
			実績	545	567	513						
<指標の計算方法>		公民館へ行こらフェア参加人数										
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	22,732			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	792 21,940		
事業の実績	①公民館講座・各種教室開催 打田地区公民館 5講座(延べ)1,118人 粉河地区公民館 9講座(延べ)1,051人 那賀地区公民館 7講座(延べ)1,063人 桃山地区公民館 5講座(延べ)748人 貴志川地区公民館 4講座(延べ)725人 貴志川4コミセン 11講座(延べ)1,416人			新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となったが、紀の川市FaceBookにおいて動画を配信した。(15名出演) ひょうたん細工体験教室(10人) お菓子作り体験教室(那賀地区と合同開催)(20人) 保田龍門作品展(244人) 保田龍門講演会(14人)			～音楽に彩を～(51人) 季節の花のミニ寄せ植え ～お正月を飾ろう～(25人) ⑥県公民館連絡協議会負担金 30,000円					
	②公民館主事設置 貴志川地区公民館 1名(非常勤職員)			那賀地区公民館 押し花体験教室(20人)								
③公民館活動・運営委託 粉河地区5分館 575,780円 那賀地区5分館 1,999,978円 貴志川地区4コミセン 640,000円			桃山地区公民館 オリジナルはんこ作り(9人) 羊毛フェルトでパンダブローチを作ろう(10人)									
④公民館運営審議会 3回開催			ダンス体験(20人) バレンタインデコ(41人)									
⑤公民館へいこらフェア 打田地区公民館 おうちでできる『てくてく体操』(14人) お花のランチオンマット(5人) 粉河地区公民館 あったかコンサート			貴志川地区公民館 美容と健康のためのインド式ヨガを体験しませんか!(14人) Colorsによるいんどりコンサート									
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・社会情勢や市民のニーズに合わせて公民館活動の推進を図る必要があり、地域の要望・課題に対応する講座や公民館へ来館するきっかけとなるイベント開催は、社会教育が担う部分が多く、市が公民館活動を推進することは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・公民館活動には仲間の形成や地域とのつながりを醸成させる目的があり、地域における公民館の役割は大きい。 ・公民館講座は趣味・稽古事だけに限らず、社会的な課題に関する内容の講座を開講するなど改善の余地がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・公民館講座教室及び公民館へ行こらフェア等の参加者には受講料及び材料費等の受講者負担を徴収していることから効率性は高い。											

事務事業の概要	事務事業名	公民館管理運営事業			担当課	生涯学習課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	121	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	5 社会教育費				施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ			
		目	2 公民館費				基本施策	1	生涯学習の推進			
事業概要	市民が公民館を安全で快適に利用できるように、公民館の適切な維持管理や改修を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	中貴志コミュニティセンター施設管理			⑤	ふれあいコミュニティセンター施設管理			⑨			
	②	東貴志コミュニティセンター施設管理			⑥	粉河5分館(川原、竜門、粉河、長田、鞆瀬)施設管理			⑩			
	③	西貴志コミュニティセンター施設管理			⑦	那賀5分館(麻生津、名手、那賀、上名手、王子)			⑪			
	④	丸栖コミュニティセンター施設管理			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	成果指標	コミュニティセンター利用団体数	団体	目標	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	コミュニティ施設5館(桃山地区1館、貴志川地区4館)の利用団体数。新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う臨時休館の影響で減少		
				実績	1,135	1,313	975					
	<指標の計算方法>		コミュニティセンター利用団体数									
	成果指標	コミュニティセンター利用人数	人	目標	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	コミュニティ施設5館(桃山地区1館、貴志川地区4館)の利用人数。新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う臨時休館の影響で減少		
				実績	47,370	51,417	34,912					
	<指標の計算方法>		コミュニティセンター利用人数									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	42,304			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
							234	42,070				
事業の実績	①中貴志コミュニティセンター施設管理 [修繕] トイレ手洗自動水栓取付修繕			⑤ふれあいコミュニティセンター施設管理 [修繕] トイレ手洗自動水栓取付修繕								
	②東貴志コミュニティセンター施設管理 [修繕] トイレ手洗自動水栓取付修繕 浄化槽マンホール蓋枠修繕 浄化槽ブローア取替修繕 [工事] ガス給湯器取替工事			⑥粉河5分館(川原、竜門、粉河、長田、鞆瀬))施設管理								
	③西貴志コミュニティセンター施設管理 [修繕] トイレ手洗自動水栓取付修繕 浄化槽マンホール蓋枠修繕 補給水槽修繕 給水管取替修繕 誘導灯取替修繕			⑦那賀5分館(麻生津、名手、那賀、上名手、王子)								
	④丸栖コミュニティセンター施設管理 [修繕] トイレ手洗自動水栓取付修繕 誘導灯取替修繕 [工事] 調理実習室空調機取替工事											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・地域と密接に関わる分館は、地域の人が集う場所であって、地域をつくる拠点として地域活動を市が支援していくのは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・地域の実情に沿って地域に寄り添った自主的な分館活動及びコミュニティ活動として、概ね効果的に事業を実施できているが、地域によってはそうでない分館もあり、地域に寄り添う形の施設にしていく必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地が大きい										
	・稼働率が低く老朽化が進んだ施設は、周辺の集会機能を有する施設などへ集約化や複合化を検討する必要があるため長期的な計画を立てる必要がある。 ・使用料について減免を必要とする団体や活動、各地域の実情も十分考慮したうえで適正な金額となるよう見直す必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名	人権教育推進事業			担当課	生涯学習課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	561	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	5 社会教育費				施策目標	1	人権尊重			
		目	3 人権教育費				基本施策	1	人権が尊重された差別のない社会の実現			
事業概要	市民の人権意識の高揚を図るために、講座の開催や啓発、関係機関の補助を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	人権学習講座開催			⑤				⑨			
	②	保護者学級補助金			⑥				⑩			
	③	識字学級を支援			⑦				⑪			
	④	人権啓発ポスター・標語作成			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	じんけん学習講座開催回数	目標	5	5	5	5	5	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予定していた6回のうち4回を中止とした。			
			実績	4	5	2						
	<指標の計算方法>		じんけん学習講座開催回数									
	成果指標	じんけん学習講座参加者数	目標	200	200	200	200	200	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予定していた6回のうち4回を中止とした。			
			実績	166	173	40						
	<指標の計算方法>		じんけん学習講座参加者数									
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	4,193			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	3,769		
事業の実績	①人権学習講座開催 6回のうち4回を中止 参加者40名											
	②保護者学級補助金 小学校に在籍する児童の保護者の人権意識を高めるため、様々な人権について学ぶ保護者学級の運営補助を行いました。											
	③識字学級を支援 定例学級開催、交流会や研修会への参加を支援しました。											
	④人権啓発ポスター・標語作成 啓発物資・人権啓発カレンダーを作成 除菌ウェットティッシュ 5,000個 人権啓発カレンダー 400冊											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・人権啓発ポスターを募集し、人権啓発ポスターを掲載したカレンダーを作成、また人権標語を印字した啓発物資を配布することにより、児童生徒をはじめ広く市民の人権意識の高揚を図る効果があることから市が実施することは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・人権啓発ポスターの入賞作品以外の応募作品について、公民館にて展示会を行うことができた。1地域での開催となったことや学校によって募集数の差があったことなど、改善すべき点がいくつかある。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・県からの補助金もあり、費用面での効率性は高いと考えられる。											

事務事業の概要	事務事業名	文化財保護事業			担当課	生涯学習課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	558	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育				
		項	5 社会教育費				施策目標	3 生涯学習・生涯スポーツ				
		目	4 文化財保護費				基本施策	2 歴史資産の保護・活用				
事業概要	市内の文化財を後世に残すために、文化財の保護や活用を行う事業											
事務事業を構成する細事業	① 文化財保護審議会運営			⑤ 全国史跡整備市町村協議会負担金			⑨ 医聖華岡青洲顕彰会補助金					
	② 発掘調査・研究			⑥ 文化財等保存整備事業補助金			⑩					
	③ 文化財保護管理委託			⑦ 指定文化財管理費補助金			⑪					
	④ 活用事業（講演・企画展等）・啓発			⑧ 無形民俗文化財等保存団体補助金			⑫					
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	成果指標	歴史体験教室・企画展等の参加者数	人	目標	600	600	600	600	600	企画展について地元の協力などもあり、来館者が増加した。		
			実績	290	325	507						
	<指標の計算方法>		参加者名簿から算出									
	活動指標	歴史体験教室・企画展等の開催数	回	目標	6	6	6	6	6	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、企画展の開催のみとなった。		
			実績	4	2	1						
	<指標の計算方法>		開催数をカウント									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	16,869			国庫支出金	1,000	県支出金	100	地方債	繰入金	10,959	その他	一般財源
事業の実績	①文化財保護審議会運営 ・第1回(理事会)7月22日 委員4人 ・第1回(審議会)3月11日 委員11人 ・視察 11月4日 委員7人			・旧南丘家住宅では、2月21・27・28日、3月6・7・13日に春季特別開館を実施した。								
	②発掘調査・研究 ・開発事業に伴う発掘調査17件、史跡整備等に伴う内容確認調査1件を実施 ・昨年の調査内容をまとめた市内遺跡発掘調査概要報告書300部を作成			⑤全国史跡整備市町村協議会負担金								
	③文化財保護管理委託 ・指定文化財の内、9件について所有者に保護管理委託を行なった。			⑥文化財等保存整備事業補助金 ・粉河祭保存会、百合山の自然と遺跡を生かす会の活動と鞆淵八幡神社の防災設備の修繕に補助を行った。								
	④活用事業(企画展等) ・紀の川市歴史民俗資料館では、1月27日～2月28日にかけて「麻生津荘の歴史をめぐると題し企画展を開催した。期間中の来館者数は507人であった。			⑦指定文化財管理費補助金 ・対象 粉河寺、鞆淵八幡神社、三船神社 ⑧無形民俗文化財等保存団体補助金 ・対象 2保存団体 ⑨医聖華岡青洲顕彰会補助金 ・医聖華岡青洲顕彰会の行う顕彰事業に補助を行った。								
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・文化財は保存するだけでなく企画展の開催などで文化財の活用を行うことは、紀の川市の歴史に触れる機会を作るだけでなく文化財の継承や保存につながるため重要である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・紀の川市郷土の歴史について活用を行うことは、市民に文化財の価値を伝え地域のすばらしさを認識させる良い機会であるが、市所有の文化財の保存修理などの事業を優先して実施しているため、調査など時間をかけて実施できない状況にある。 ・企画展の内容を地元により近いテーマを選び実施することでより効果が現れていると考える。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・企画展は関係機関の協力などにより必要物品の削減を行うとともに、専門業者を使用せず職員が資料の運搬を行うことでコスト面で有効性が取れている。											

事務事業の概要	事務事業名	文化財施設管理運営事業			担当課	生涯学習課			事業区分	ソフト事業					
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	553				
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育						
		項	5 社会教育費				施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ						
		目	4 文化財保護費				基本施策	2	歴史資産の保護・活用						
取組方針				1	歴史文化の保護・継承										
事業概要	市民が文化財施設を快適に利用できるように、適切な維持管理や改修を行う事業														
事務事業を構成する細事業	①	歴史民俗資料館・体験館施設管理			⑤	旧南丘家住宅管理			⑨						
	②	紀伊国分寺公園管理			⑥	藤崎弁天堂管理			⑩						
	③	西行法師像モニュメント管理			⑦				⑪						
	④	旧名手宿本陣管理			⑧				⑫						
指標の実績	成果指標	旧名手宿本陣利用者数	単位	人	H30年度	3,000	R 1年度	3,000	R 2年度	3,000	R 3年度	3,000	R 4年度	3,000	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため一時閉館していたので、利用者が減少した。
			実績	2,671	3,467	1,818									
	<指標の計算方法>		芳名録からカウント												
	成果指標	歴史民俗資料館利用者数	単位	人	H30年度	3,000	R 1年度	3,000	R 2年度	3,000	R 3年度	3,000	R 4年度	3,000	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため一時閉館していたので、利用者が減少した。
			実績	1,800	1,734	1,644									
	<指標の計算方法>		芳名録からカウント												
			単位		H30年度		R 1年度		R 2年度		R 3年度		R 4年度		
			実績												
	<指標の計算方法>														
			単位		H30年度		R 1年度		R 2年度		R 3年度		R 4年度		
		実績													
<指標の計算方法>															
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳											
	32,132			国庫支出金	県支出金	4,000	地方債	14,400	繰入金	その他	一般財源	13,732			
事業の実績	①歴史民俗資料館・体験館施設管理 資料館便所フロー修繕を実施 ②紀伊国分寺公園管理 基壇、公園内木製ベンチの修繕を実施 ③西行法師像モニュメント管理 ④旧名手宿本陣管理 年間を通し雑草除去や建物の清掃、見学者の対応を委託。経年により破損した主屋戸袋を修繕した。 ⑤旧南丘家住宅管理 特別開館にあわせて清掃を実施。主屋漆喰外壁の剥落部を修繕した。 ⑥藤崎弁天堂管理 弁天堂の修理工事を開始した。破損建物を一部を残し解体し、補修の後、軸部等の組立工事を実施した。														
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない												
		・文化財は地域の歴史の証であり文化財を後世に受け継ぐことで、地域の素晴らしさを再認識することにつながる。文化財施設は、市民の文化財への関心や興味を持たせるため不可欠であり、施設を適切に管理し文化財の価値を伝えることは重要である。													
	有効性	評価結果	改善の余地がややある												
・資料館などで事業を実施した際には来館者が増加する。各施設で事業を実施するようにしているが、あまり準備の要しない事業を行うなど、負担のない程度で実施内容の検討が必要である。															
効率性	評価結果	改善の余地がややある													
	・施設管理などは個人等に委託しておりコストを抑えている。文化財施設の活用には専門的知識が必要だが文化財の説明などについては十分対応できていない状況にある。														

事務事業の概要	事務事業名	旧名手宿本陣整備事業			担当課	生涯学習課			事業区分	ハード事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	552	
	予算科目	款	10	教育費	長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育				
		項	5	社会教育費		施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ				
		目	4	文化財保護費		基本施策	2	歴史資産の保護・活用				
事業概要	旧名手本陣を後世に残すために、整備や活用を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	紀の川市名手本陣保存整備委員会運営			⑤	重要文化財保存活用計画策定			⑨			
	②	発掘調査			⑥				⑩			
	③	保存整備計画進捗管理			⑦				⑪			
	④	保存整備・保存修理			⑧				⑫			
指標の実績	成果指標	指標名	単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
		旧名手宿本陣利用者数	人	目標 3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため一時閉館していたので、利用者が減少した。			
			実績	2,671	3,467	1,818						
		<指標の計算方法>	芳名録からカウント									
			目標									
			実績									
		<指標の計算方法>										
			目標									
			実績									
		<指標の計算方法>										
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
		22,384		10,965	1,096	8,800			1,523			
事業の実績	①紀の川市名手本陣保存整備委員会運営 第1回、書面表決 第2回、3月4日											
	②発掘調査 史跡整備のための発掘調査の実施											
	③保存整備計画進捗管理 文化庁・保存整備委員会・県に指導助言いただき計画の進捗管理を実施											
	④保存整備・保存修理 名手役所主屋及び離れ・蔵復旧整備その2 工事（離れ・蔵の復旧工事）を実施											
	⑤重要文化財保存活用計画策定 計画の一部を作成											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
			・市所有の土地及び建物はいずれも国指定文化財に指定されており、地域にとって重要な歴史的財産である。市内だけではなく、県内や県外から来館者が訪れ、地域の学習にも利用されている。本来あるべき姿へ整備することは、本質的な価値を高め、市民の郷土愛への醸成につながる。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
		・整備基本計画にそって、情勢に合わせて整備事業が実施できている。現状では整備途中であるため、全面的に活用できないが、可能な範囲で公開等に活用できている。										
効率性	評価結果	改善の余地がない										
		・整備事業は、国や県の補助金をもらいながら実施している。維持管理には、地元の個人やシルバー人材センターに委託し、低コストで管理できている。										

事務事業の概要	事務事業名	青少年健全育成事業			担当課	生涯学習課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	551	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育				
		項	5 社会教育費				施策目標	1 子育て環境・保育サービス				
		目	5 青少年育成費				基本施策	3 地域の子供の健全育成の推進				
取組方針	2 地域との交流・活動の推進											
事業概要	青少年の健全育成を図るために、関係団体への活動支援や啓発活動を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	青少年育成市民会議活動			⑤			⑨				
	②	青少年健全育成事業			⑥			⑩				
	③	ガールスカウト補助金			⑦			⑪				
	④	少年少女発明クラブ補助金			⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	紀の川市少年メッセージ参加者数	人	目標	340	340	340	340	340	紀の川市少年メッセージについて、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため作文審査のみとなり発表審査は行わなかった。		
			実績	290	282	0						
	<指標の計算方法>		紀の川市少年メッセージ参加者数（主催者、来賓、発表者、スタッフ含む）									
	活動指標	紀の川市青少年健全育成推進員人数	人	目標	100	100	100	100	100	紀の川市青少年健全育成推進員数は、ほぼ現状維持している。		
			実績	103	101	101						
	<指標の計算方法>		紀の川市青少年健全育成推進員総数									
	活動指標	紀の川市少年少女発明クラブ開催日数	日	目標	12	12	12	12	12	紀の川市少年少女発明クラブ開催日数目標値については年間12日であるが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため10月からの開講となった。		
			実績	12	11	6						
	<指標の計算方法>		紀の川市少年少女発明クラブ開催日数									
成果指標	紀の川市少年少女発明クラブ参加人数	人	目標	300	350	330	330	330	新型コロナウイルス感染拡大防止のため10月からの開講となったため、参加人数は減少した。			
		実績	310	272	156							
<指標の計算方法>		紀の川市少年少女発明クラブ参加人数										
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	3,160			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	3,160		
事業の実績	<p>①青少年育成市民会議活動 「紀の川市少年メッセージ2020」 内容：市内の6中学校より提出のあった作文1,371作品を2度の審査会にて最優秀賞（1点）、優秀賞（2点）、佳作（6点）及び入選（38点）として表彰を行った。 記念冊子配布部数：285冊</p> <p>②青少年健全育成事業 紀の川市青少年健全育成推進員を中心に、地域・学校・家庭と連携し、各地区での地区事業を実施した。</p> <p>③ガールスカウト補助金 ガールスカウト 粉河・貴志川 2団</p> <p>④少年少女発明クラブ補助金 創造性豊かな少年少女を育成するために、科学的な興味・関心を追究する場を提供し、自由な環境の下で創造活動を行った。 紀の川市内の小学校4年生から6年生の児童が対象で、昨年度は定員以上の応募があり、抽選により選ばれた29人がクラブ員として活動した。紀の川市少年少女発明クラブ開催日数については年間12回であるが、今年度は新型コロナウイルス感染予防のため10月からの活動となった。 年間活動回数：6回</p>											
	事業の事後評価	妥当性	<p>評価結果 改善の余地がない</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民の総意を結集し、家庭、学校、地域、企業、関係機関その他あらゆる分野におけるすべての構成員が相互に協力しながら、次代を担う青少年の健全な育成を図る青少年育成市民会議活動や、紀の川市各地域間の連絡を密にしながら、青少年健全育成のために協力し、青少年健全育成活動の強力な推進を図る青少年健全育成事業について市が事業を実施することは妥当である。 青少年健全育成団体であるガールスカウト及び紀の川市少年少女発明クラブに対し補助金を交付することは妥当である。 									
		有効性	<p>評価結果 改善の余地がない</p> <ul style="list-style-type: none"> 青少年育成市民会議活動では、紀の川市少年メッセージの開催により大人が中学生に対する理解を深めるとともに郷土の未来を担う次世代の育成を図っており、有効性は高い。 青少年健全育成事業は、青少年が市内各地域に根ざした様々な学習体験を行えるため有効性が高い。 青少年健全育成団体の支援と育成のために補助金を交付することは、有効性が高い。 									
		効率性	<p>評価結果 改善の余地がややある</p> <ul style="list-style-type: none"> 青少年育成市民会議活動及び青少年健全育成事業については、事業委託を行っており効率性が高い。 事業委託団体の節減努力により事業費については必要最小限で実施しており、効率性は非常に高い。 									

事務事業の概要	事務事業名	地域子ども会活動支援事業			担当課	生涯学習課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	124	
	予算科目	款	10	教育費	長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育				
		項	5	社会教育費		施策目標	1	子育て環境・保育サービス				
		目	5	青少年育成費		基本施策	3	地域の子供の健全育成の推進				
事業概要	児童の健全育成を図るために、子ども会への活動支援を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	子ども会活動支援			⑤					⑨		
	②	地域子ども会活動支援事業補助金			⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	紀の川市地域活動連絡協議会加盟子ども会数	団体	目標	30	30	32	30	30	少子化の影響に伴い会員数は減少しているものの、加盟子ども会数については現状維持。		
				実績	32	32	31					
	<指標の計算方法>		紀の川市地域活動連絡協議会加盟子ども会数									
	成果指標	公益社団法人全国子ども会連合会全国子ども会安全共済会加入者数	人	目標	1,800	1,800	1,650	1,600	1,600	今年度は新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、活動を自粛している子ども会があり、共済加入者数が減少している。		
				実績	1,634	1,590	1,139					
<指標の計算方法>		公益社団法人全国子ども会連合会全国子ども会安全共済会加入者数（当初加入者人数）										
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	1,182			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	648		
事業の実績	①子ども会活動支援 紀の川市ソフトドッジボール大会(7/4予定) →新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止 指導者研修会(秋予定) →新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止			補助金額 53,000円 補助子ども会数： 2団体 地域活動事業補助金(B)：市単独補助金 会員数10人以上、活動日数3日以上 補助金額 26,000円 補助子ども会数： 1団体								
	②地域子ども会活動支援事業補助金 (地域総合活動)：市および県補助金 会員数40人以上、活動日数50日以上 補助金額 212,000円 補助子ども会数： 1団体 地域子ども会活動支援事業補助金 (地域集団活動)：市および県補助金 会員数20人以上、活動日数12日以上 補助金額 106,000円 補助子ども会数： 11団体 地域活動事業補助金(A)：市単独補助金 会員数15人以上、活動日数6日以上											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・地域のよりよい環境の中で子どもたちが健やかに成長できる地域社会の実現を図るため、市が支援していくことは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・少子化の影響により、単位子ども会数及び加入者数は減少傾向にあるが、子ども会活動は、生徒、児童及び幼児だけでなく、保護者及び指導者を含めた地域活動の場を提供している。 ・それにより自然と地域の方々との交流も増え、地域全体で子どもたちの成長を支援することができる本事業は有効であると考えられる。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・県費補助対象のため、費用面での効率性が高い。											

事務事業の概要	事務事業名	放課後子どもプラン推進事業			担当課	生涯学習課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	549	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育				
		項	5 社会教育費				施策目標	1 子育て環境・保育サービス				
		目	5 青少年育成費				基本施策	3 地域の子供の健全育成の推進				
事業概要	児童、生徒の居場所づくりをするために、地域や関連団体と協力して教室等の開催を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	子どもの居場所づくり推進事業運営委託			⑤				⑨			
	②	共育コミュニティ推進			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	居場所づくり事業開催日数	日	目標	95	100	95	95	95	小中学校の5月末までの臨時休校により夏休み日数が減少し、総開催時間数は例年通りであるものの今年度事業開催日数は目標値以上に実施できた。		
			実績	95	90	105						
	<指標の計算方法>		居場所づくり事業年間の開催日数									
	成果指標	居場所づくり事業参加人数	人	目標	1,900	1,900	1,900	1,900	1,900	新型コロナウイルス感染症拡大を危惧してか、今年度事業参加人数は目標値よりも大きく下回った。		
			実績	1,900	1,348	1,248						
	<指標の計算方法>		年間の参加人数									
	活動指標	共育コミュニティ事業実施日数	日	目標	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、共育コミュニティ事業実施日数は減目標値よりも大きく下回った。		
			実績	1,169	1,359	968						
	<指標の計算方法>		年間の実施日数									
成果指標	共育コミュニティボランティア活動人数	人	目標	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため共育コミュニティ事業実施日数について減少したことにより、ボランティア活動人数も目標値を大きく下回った。			
		実績	6,069	7,115	4,799							
<指標の計算方法>		年間の延べ活動人数										
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
	1,108				522					586		
事業の実績	①子どもの居場所づくり推進事業運営委託 放課後等、公民館施設などで、安全・安心な子供の居場所を設け、地域の人々の協力を得て、一緒に過ごすことでコミュニケーション力の向上や学習習慣を身につけられるよう支援している。			ボランティア延べ人数 331人 貴志川地区 実施回数 165回 ボランティア延べ人数 1,961人								
	・みんなの家 (NPO法人 ロッツ) 活動日数 平日84日 土曜日等休日21日 計105日 参加人数 延べ1,248人											
事業の実績	②共育コミュニティ推進											
	打田地区 実施回数 105回 ボランティア延べ人数 526人 粉河地区 実施回数 412回 ボランティア延べ人数 1,520人 那賀地区 実施回数 240回 ボランティア延べ人数 461人 桃山地区 実施回数 46回											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、相互の連携・協働のもと学校づくりと地域づくりを進め、一体となって子供たちの成長を支えることを市が支援することは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
		・地域創生の観点からも必要な事業であり、短期的な結果を求めめるのではなく、引き続き事業を展開していくことが大切と思われる。本事業によって地域のつながりも顕著に表れており有効性は高い。 ・コミュニティ・スクールと連携を図り、学校や地域の課題を協働で取り組み解決に導くための事業を推進する必要がある。										
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・共育コミュニティボランティアについては無償であるため、コスト面においては改善の余地がない。 ・ボランティア、指導員及びコーディネーターの負担軽減や、次の担い手の人材発掘及び育成が当面の課題である。 ・令和元年度から市内全小中学校に導入されたコミュニティ・スクールとの一体的な推進を図ることで、さらに事業の効率性が向上するものである。											

事務事業の概要	事務事業名		青少年センター運営事業			担当課	生涯学習課		事業区分	ソフト事業		
	会計		一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	550
	予算科目	款	10 教育費									
		項	5 社会教育費									
		目	5 青少年育成費									
事業概要		青少年を非行防止及び健全育成を図るために、青少年センターの円滑な運営を行う事業										
事務事業を構成する細事業		①	青少年センター運営			⑤	関係機関との連携業務			⑨		
		②	青少年センター施設管理			⑥				⑩		
		③	啓発・広報・補導活動			⑦				⑪		
		④	青少年防犯業務			⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	街頭補導事業実施回数	目標	320	320	320	320	320	年間の街頭補導事業実施回数は、ほぼ目標値を維持している。			
			実績	354	351	335						
	<指標の計算方法>		街頭補導事業年間実施回数									
	活動指標	広報啓発事業実施回数	目標	90	90	90	90	90	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため各イベント等が中止になったことに伴い年間の広報啓発事業実施回数は減少した。			
			実績	97	98	67						
	<指標の計算方法>		街頭啓発、各種教室開催回数及びチラシ配布回数の合計									
活動指標	環境浄化事業実施回数	目標	140	140	140	140	140	環境浄化事業実施回数は、ほぼ目標値を維持している。				
		実績	145	122	141							
<指標の計算方法>		書店等立入回数及び自販機調査数の合計										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	12,444			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			75								12,369	
事業の実績	①青少年センター運営											
	②青少年センター施設管理											
	③啓発・広報・補導活動 青少年の健全育成を目的とし、非行防止・事故防止のため、広報活動や補導活動を実施した。											
	④青少年防犯業務 年間を通じ地域・学校・警察・関係施設などと連携協力し、不審者情報等の共有に努めた。											
	⑤関係機関との連携業務 年間を通じ地域・学校・警察・関係施設などと連携協力し、青少年の健全育成に努めた。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・青少年防犯業務及び啓発・広報・補導活動については一部民間団体とも連携をとっているが、触法少年の個人情報や不審者の判断をも扱う業務であるため、行政において実施することが妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・青少年に関する問題は常に社会情勢の変化に伴い多様化・複雑化してきており、事業実施の有効性は高い。 ・今後も社会情勢の変化に沿って、青少年問題について取り組む必要がある、より専門性を持った人材及び関係機関の協力を得ながら本事業に取り組む必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・青少年センター運営事業は業務委託等に適さないが、現在4名の会計年度任用職員を専任で配置しているため費用面での効率性は高いと考える。											

事務事業の概要	事務事業名	図書館運営事業			担当課	生涯学習課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	546	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	5 社会教育費				施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ			
		目	6 図書館費				基本施策	1	生涯学習の推進			
目				取組方針	3		図書館の充実					
事業概要	市民に文化や教養を高めてもらうために、図書館の蔵書購入やイベントの開催等を行う事業											
事務事業を構成する細事業	① 図書館運営			⑤ 読書活動推進			⑨					
	② 利用促進（講演会・イベント開催）			⑥ 新型コロナウイルス感染症対策事業			⑩					
	③ 図書・雑誌購入			⑦			⑪					
	④ システム・図書データ管理			⑧			⑫					
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	成果指標	図書館利用者登録率（人口比）	目標	40	40	42	43	44	利用登録の推進を図ることにより利用登録者数は増加している。			
			実績	42.5	44	45						
	<指標の計算方法>		図書館利用者登録率（人口比）									
	成果指標	図書館貸出冊数（年間）	目標	330,000	330,000	330,000	330,000	330,000	1日当たりの貸出冊数で比較すると前年度より大幅に減少している。新型コロナウイルス感染症の影響による外出自粛や夏休みが短縮されたこと等により利用が減少したものとする。			
			実績	300,173	288,103	223,893						
	<指標の計算方法>		図書館貸出冊数（年間）									
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額（単位：千円）			財源内訳								
	56,008			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
事業の実績	①図書館運営 ・第2次紀の川市図書館基本計画策定			・イベント実施回数 河北図書館 17回 河南図書館 13回			⑤読書活動推進 ・市内小中学校司書との連携・協働 ・市内小中学校図書館支援 ・おはなし会の実施 河北図書館12回 参加人数 87人 河南図書館15回 参加人数 162人 ・読書推進に係るイベントの実施 河北図書館 2回 河南図書館 6回					
	・開館日数 河北図書館 264日 河南図書館 265日			・イベント参加人数 河北図書館 1,690人 河南図書館 591人			⑥新型コロナウイルス感染症対策事業 ・図書消毒機購入 ・ICタグ装備済み図書購入 ・図書館システム改修 ・図書館システム機器購入					
事業の実績	・来館者数 河北図書館 68,563人 河南図書館 78,367人			③図書・雑誌購入 ・蔵書冊数 河北図書館 98,861冊 河南図書館 77,095冊								
	・貸出者数 51,750人			・購入雑誌種数 河北図書館 74種 河南図書館 69種								
事業の実績	・貸出冊数 223,893冊			・購入新聞種数 河北図書館 9種 河南図書館 9種								
	・1日当たり貸出者数 河北図書館 96人 河南図書館 91人			④システム・図書データ管理 ・図書館システム管理に係る契約件数 5件								
事業の実績	・1日当たり貸出冊数 河北図書館 431冊 河南図書館 403冊			・資料購入契約件数 5件								
	②利用促進（講演会・イベント開催）											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・現在の事業実施について妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・事業の成果を向上させるためには、より専門性をもった人材の育成および活用が不可欠である。 ・事業の目標や課題に向かって積極的に取り組む必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・事業の一部については業務分離させることで、多様な成果が期待できるかもしれない。											

事務事業の概要	事務事業名	図書館施設管理事業			担当課	生涯学習課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	987	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	5 社会教育費				施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ			
		目	6 図書館費				基本施策	1	生涯学習の推進			
事業概要	市民が図書館を安全で快適に利用できるように、維持管理を適切に行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	河北図書館施設管理			⑤				⑨			
	②	河南図書館施設管理			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	図書館施設管理業務	目標			14	14	14	施設の適正な維持管理に伴う業務委託に加え、新型コロナウイルス感染症への対策として、換気のための窓部修繕が増加した。			
			実績	14	10	15						
	<指標の計算方法>		施設維持管理に必要な業務委託等の件数									
	成果指標	図書館利用者数	目標	80,000	80,000	75,000	75,000	75,000	新型コロナウイルス感染症による臨時休館等の影響により総利用人数も1日当たりの利用人数も大幅に減少した。			
			実績	73,960	70,443	51,750						
<指標の計算方法>		図書館利用者数										
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	10,317			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			10,317									
事業の実績	①河北図書館施設管理 業務委託実績なし。 ただし、河北図書館に係る施設維持管理業務および大規模修繕は打田生涯学習センター維持管理業務に含まれる。			修繕 ・看板補修 ・窓網戸取付 ・浄化槽マンホール取替修繕 ・トイレ棚付け修繕 ・エアコン修繕 ・2階電気設備修繕（公マネ） ・3階窓修繕（公マネ） ・3階トイレ窓網戸取付（公マネ）								
	修繕 ・東側窓修繕											
事業の実績	②河南図書館施設管理 業務委託											
	・定期清掃業務（日常清掃） ・貯水槽清掃業務 ・機械警備業務 ・電気保安管理業務 ・空調設備保守点検業務 ・エレベーター保守点検業務 ・消防設備保守点検業務 ・浄化槽保守点検業務 ・植木管理業務											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
			・図書館運営と連動させながら施設の維持管理を適正に行うことが望ましく、現在の事業実施方法が妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
		・図書館利用に係る成果指標について、達成できなかった要因として新型コロナウイルス感染症による施設利用低下および臨時休館等が考えられる。感染症への対策を行いながら図書館利用を回復させる方法を検討しなければならない。										
効率性	評価結果	改善の余地がない										
		・最低人員で施設管理を担当しており、施設管理に係る専門的な知識を要する部分については公共施設マネジメント課等の指導を受けながら実施している。										

事務事業の概要	事務事業名	生涯学習施設管理運営事業			担当課	生涯学習課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	543	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	5 社会教育費				施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ			
		目	7 生涯学習施設費				基本施策	1	生涯学習の推進			
目				取組方針	2		生涯学習施設の整備充実					
事業概要	市民が生涯学習施設を安全で快適に利用できるように、適切な維持管理や改修を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	打田生涯学習センター施設管理			⑤	粉河ふるさとセンター施設管理			⑨	貴志川生涯学習センター施設管理		
	②	東大井教育集会所施設管理			⑥	那賀総合センター施設管理			⑩			
	③	東国分教育集会所施設管理			⑦	西元町教育集会所施設管理			⑪			
	④	古和田教育集会所施設管理			⑧	桃山会館施設管理			⑫			
指標の実績	成果指標	生涯学習施設使用団体数	単位	団体	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
		目標		1,700	1,800	1,800	1,800	1,800		生涯学習施設の利用団体数。新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う臨時休館の影響で減少。		
	実績		1,847	2,391	1,587							
	<指標の計算方法>		生涯学習施設使用団体数									
	成果指標	生涯学習施設利用人数	単位	人	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
		目標		150,000	150,000	150,000	150,000	150,000		生涯学習施設の利用人数。新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う臨時休館の影響で減少。		
	実績		165,515	128,009	64,808							
	<指標の計算方法>		生涯学習施設利用人数									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	138,589			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
事業の実績	①打田生涯学習センター施設管理 [修繕] 空調設備修繕 学習室等ブラインド改修 トイレ洋式便器修繕 自動ドア修繕			エレベーター修繕 非常用放送設備改修 非常用照明改修 消防用設備改修 防火シャッター改修 防火扉改修 煙感知器改修 野外ステージトイレ改修			[修繕] トイレ手洗自動水栓取付修繕 玄関底防水修繕 玄関照明器具取替修繕 非常用照明改修 事務所空調改修 屋根雨漏り防水修繕					
	②東大井教育集会所施設管理 [修繕] 屋根雨漏り修繕 玄関ポーチ屋根修繕 屋根側面コーキング修繕 和室畳張替修繕			[工事] 舞台吊物設備ローブロック改修 屋外ポールライト設置工事			⑨貴志川生涯学習センター施設管理 [修繕] 浄化槽修繕 舞台吊物設備修繕 外壁水切り修繕 地下トイレセンサー取替修繕					
	③東国分教育集会所施設管理			⑥那賀総合センター施設管理 [修繕] トイレ手洗自動水栓取付修繕 玄関ポーチ雨漏り修繕 調理室漏水修繕			[工事] 非常用照明改修 防災監視盤更新					
	④古和田教育集会所施設管理 [修繕] 外灯改修 玄関入口フロアヒンジ取替修繕			⑦西元町教育集会所施設管理								
	⑤粉河ふるさとセンター施設管理 [修繕] トイレ手洗自動水栓取付修繕			⑧桃山会館施設管理								
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・地域の学習活動の拠点となる生涯学習施設は、社会教育、生涯学習を推進していく拠点として市が支援していくのは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・文化施設及び生涯学習施設は、市民が芸術文化に触れるため必要な施設と考えるが、施設の維持管理に係る費用は多く、財政負担が大きくなっている。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・使用料について、受益者負担の視点に立ち、減免を必要とする団体や活動、地域の実情も十分考慮したうえで、適切な金額となる検討が必要である。 ・粉河ふるさとセンター及び貴志川生涯学習センターは公民館を含む複合施設であるが、事業内容を見極めたうえで自主運営を続けるか民間委託に移行するかを継続的に検討する必要がある。 ・教育集会所は、社会教育施設等への集約化や地元自治会への移管など効率的な施設運営について継続的に検討が必要である。											

事務事業の概要	事務事業名	スポーツ推進委員協議会運営事業			担当課	生涯スポーツ課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	542	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	6 保健体育費				施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ			
		目	1 保健体育総務費				基本施策	3	スポーツの振興と環境の充実			
事業概要	市民にスポーツを通じて心身ともに健康的な生活を送ってもらうために、スポーツ推進委員に行政と地域住民のパイプ役となってもらったための支援を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	スポーツ推進委員協議会運営			⑤				⑨			
	②	全国スポーツ推進委員連合会負担金			⑥				⑩			
	③	県スポーツ推進委員協議会負担金			⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	成果指標	研修等参加回数	回	目標	3	3	3	3	3	令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により近畿スポーツ推進委員研究協議会は中止となったため、和歌山県スポーツ推進委員研究協議会と和歌山県新任スポーツ推進委員研修が開催された。		
			実績	4	2	2						
	<指標の計算方法>		スポーツ推進委員関係の研修等への参加回数									
	成果指標	研修等参加人数	人	目標	44	38	50	50	50	令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により近畿スポーツ推進委員研究協議会は中止となったため、例年よりも参加者が減数している。		
			実績	15	16	10						
<指標の計算方法>		スポーツ推進委員関係の研修等への参加人数										
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	1,241			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			1,241									
事業の実績	①スポーツ推進委員協議会運営 ・スポーツ推進委員 39人 ・スポーツ推進委員研修等参加人数 近畿 新型コロナウイルス感染症の影響により中止 県 7人 県新任 3人 ②全国スポーツ推進委員連合会負担金 39人 19,500円 ③県スポーツ推進委員協議会負担金 39人 39,000円											
	妥当性	評価結果	改善の余地がややある									
		・スポーツ基本法により市教育委員会が委嘱することとなっているため、市が実施することが妥当と考える。 ・女性委員が14名と少ないので、女性委員の加入を促していきたい。また、平均年齢も54才と高齢なため、若い委員の加入も併せて検討したい。										
有効性	評価結果	改善の余地がややある										
	・成果指標に設定していた数値に達しなかったため、スポーツ推進委員の更なる資質向上のためにも研修参加者を増員できるよう努めていきたい。											
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・研修等で習得したことを、各ブロック(旧町単位)に持ち帰って、ニュースポーツ教室、障害者スポーツ教室など地域に密着した教室を開催し、スポーツの振興に努めている。											

事務事業の概要	事務事業名	生涯スポーツ振興事業			担当課	生涯スポーツ課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	130	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	6 保健体育費				施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ			
		目	2 生涯スポーツ振興費				基本施策	3	スポーツの振興と環境の充実			
事業概要	市民にスポーツを通じて心身ともに健康的な生活を送ってもらうために、関係機関等への運営の参画や補助金の交付等の支援を行う事業											
事務事業を構成する細事業	① スポーツ振興・啓発		⑤ 県体育施設協会負担金			⑨ 総合型地域スポーツクラブ事業補助金						
	② スポーツ賞表彰		⑥ 県レクリエーション協会負担金			⑩ スポーツ大会派遣費補助金						
	③ スポーツインストラクター派遣委託料		⑦ 県B&G地域海洋センター連絡協議会負担金			⑪						
	④ 近畿ブロック地域海洋センター連絡協議会負担金		⑧ 体育協会補助金			⑫						
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	成果指標	事業実施数	目標	84	86	88	88	88	新型コロナウイルス感染症拡大に伴う日本政府による緊急事態宣言や各加盟団体においても感染拡大防止の観点から開催中止となった事業が多く、前年度実績よりも事業数が減少している。			
			実績	68	62	23						
	<指標の計算方法>		体育協会加盟団体が実施した事業数（年間）									
	活動指標	加盟団体数	目標	32	33	34	34	34	加盟団体数の増減は無く、前年度と同数となっている。			
			実績	32	32	32						
	<指標の計算方法>		体育協会に加盟している団体数（競技種目別連盟等）									
	活動指標	登録人数	目標	3,650	3,700	3,750	3,800	3,800	加盟団体数の増減は無いが、構成メンバーの入れ替わりなどで減少している。			
			実績	3,013	3,356	3,347						
	<指標の計算方法>		体育協会の加盟団体（競技種目別連盟等）に加入している人数									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 （単位：千円）			財源内訳								
	6,407			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		6,407	
事業の実績	① スポーツ振興・啓発 ・市広報、市ホームページを活用し、イベントや各種教室等の周知を行う			④ 近畿ブロック地域海洋センター連絡協議会負担金 ・負担金 0円 ※新型コロナウイルス感染症の影響で協議会が開催されなかった為			事業件数：23事業 ⑨ 総合型地域スポーツクラブ事業補助金 ・補助金 60,000円 総合型地域スポーツクラブ桃山体育王国					
	② スポーツ賞表彰 ・受賞式開催日 10月11日 ・推薦依頼件数 479件 ・推薦件数 個人 15件、団体 1件 ・選考委員会開催数 1回（9月9日） ・スポーツ賞受賞者 個人：スポーツ顕彰 1人 スポーツ賞 9人 スポーツ功労賞 3人 スポーツ特別賞 1人 団体：スポーツ特別賞 1団体			⑤ 県体育施設協会負担金 ・負担金 15,000円 ⑥ 県レクリエーション協会負担金 ・負担金 3,000円 ⑦ 県B&G地域海洋センター連絡協議会負担金 ・負担金 40,000円 ⑧ 体育協会補助金 ・補助金 2,723,866円 加盟団体：32団体、加盟チーム：172チーム 加盟人数：3,347人			⑩ スポーツ大会派遣費補助金 ・補助金 20,540円 スポーツ少年団加盟団体 1団体 体育協会加盟団体 無し					
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・各種団体が自主運営できる部分もあるが、市のスポーツ振興を行う団体や個人等の育成及び発掘を行っていくため、市が実施することが妥当といえる。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・市民ニーズにあわせた幅広い年齢層を対象とし、初心者でも気軽にできるスポーツ教室等を開催していくため、各種団体の専門性を活用していく必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・各種団体の自主運営及び補助金の見直し等を行うことで、各種団体の競技に対する専門知識やノウハウを活用することにより効果の向上や内容の充実を図ることに繋がる。											

事務事業の概要	事務事業名	スポーツイベント開催事業			担当課	生涯スポーツ課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	539	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	6 保健体育費				施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ			
		目	2 生涯スポーツ振興費				基本施策	3	スポーツの振興と環境の充実			
事業概要	市民（大会参加者）にスポーツを通じて心身ともに健康的な生活を送ってもらうために、スポーツ教室やイベント等の開催を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	スポーツフェスティバル開催			⑤	桃源郷マラソン大会補助金			⑨			
	②	市町村対抗ジュニア駅伝参加支援			⑥	教室開催（B&G事業）			⑩			
	③	スポーツ教室開催			⑦				⑪			
	④	市町村対抗ジュニア駅伝参加補助金			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	スポーツ教室・大会等事業数	目標	10	10	10	10	10	新型コロナウイルス感染症により、主な事業である、桃源郷ハーフマラソン、スポーツフェスティバル、各種教室が中止となったため、事業数が大幅に減少となった。			
			実績	10	9	3						
	<指標の計算方法>		実施したスポーツ教室・大会等の事業数の合計									
	成果指標	スポーツ教室・大会等事業参加人数	目標	4,300	4,350	4,400	4,450	4,450	新型コロナウイルス感染症により、主な事業である、桃源郷ハーフマラソン、スポーツフェスティバル、各種教室が中止となったため、参加人数が大幅に減少となった。			
			実績	3,542	2,074	718						
	<指標の計算方法>		実施したスポーツ教室・大会等の参加人数の合計									
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	3,603			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			71							3,532		
事業の実績	①スポーツフェスティバル開催（10月11日） ・新型コロナウイルス感染症の影響で中止			・夏休みスイミング教室（新型コロナウイルス感染症の影響で中止）								
	②市町村対抗ジュニア駅伝参加支援 ・選考会 12月5日・12月12日・12月19日 ・練習 12月18日～2月20日 ・大会当日 2月21日 結果：25チーム中4位			④市町村対抗ジュニア駅伝参加補助金 ・補助金 565,603円 選手18名、指導者3名								
③スポーツ教室開催 ・スポーツ教室 4月～3月実施 実施内容 健康体操、親子体操、キッズ体操、ジュニア体操、卓球、スポーツウエルネス吹矢、フラダンス（参加者 延650人） ・ディスコン（新型コロナウイルス感染症の影響で中止） ・障害者スポーツ教室（新型コロナウイルス感染症の影響で中止） ・ニュースポーツ教室（スポーツ鬼ごっこ）12月25日 実施（参加者50人）			⑤桃源郷マラソン大会補助金 ・第15回紀の川市桃源郷ハーフマラソン開催日 4月5日（新型コロナウイルス感染症の影響で中止） 申込者数：1,046人（参加者：-） ・補助金 2,427,026円									
			⑥教室開催（B&G事業） ・アクアビクス教室（新型コロナウイルス感染症の影響で中止） ・大人の水泳教室（新型コロナウイルス感染症の影響で中止）									
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・市民ニーズの把握等、民間や各種団体を活かすために、市が積極的に関与していく必要があり、市が実施することが妥当といえます。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・新型コロナウイルス感染症の影響で多数のイベントが中止となり、目標達成には至らなかった。スポーツ教室についても開催は出来たが参加者が減少した。今後は感染症対防止策をおこない、実施状況や市民ニーズに合った事業の充実を図り事業の見直しをおこなう。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・専門的知識やノウハウを持った講師や他団体を活用して事業の幅を広げていく必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名	スポーツ少年団運営事業			担当課	生涯スポーツ課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	540	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	6 保健体育費				施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ			
		目	2 生涯スポーツ振興費				基本施策	3	スポーツの振興と環境の充実			
取組方針	1	生涯を通じたスポーツ活動の推進										
事業概要	青少年がスポーツを通じて健康な身体をつくり、よりよい社会人となってもらうために、スポーツ少年団の運営に支援を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	スポーツ少年団運営			⑤				⑨			
	②	スポーツ少年団指導者協議会負担金			⑥				⑩			
	③	スポーツ少年団運営費補助金			⑦				⑪			
	④	スポーツ少年団指導員資格取得費補助金			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	スポーツ少年団募集チラシ発行回数	目標	1	1	1	1	1	年度末にチラシを配布している。			
			実績	1	1	1	1					
	<指標の計算方法>		市内の保育所(園)年長、小学校1~6年生、中学校1・2年生に団員募集チラシを配布する回数									
	成果指標	スポーツ少年団加入率	目標	17	17	17.25	17.25	17.35	スポーツ少年団の加入率は年によって増減はあるがほぼ横ばいで推移している。			
			実績	17	17	17.32						
	<指標の計算方法>		市スポーツ少年団の市内小中学生の加入率									
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位:千円)			財源内訳								
	3,334			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		3,334	
事業の実績	①スポーツ少年団運営 ・本部総会:書面決議 (新型コロナウイルス感染症の影響で中止) ・指導者協議会:1回目は書面決議(5月)、2回目は通常通り開催(2月) ・入団式・体力テスト (新型コロナウイルス感染症の影響で中止)											
	②スポーツ少年団指導者協議会負担金 ・那賀地方スポーツ少年団指導者協議会負担金 47,080円											
	③スポーツ少年団運営費補助金 ・補助金 2,963,235円 52単位団 指導者数 176人 役員・スタッフ 数127人、団員数735人											
	④スポーツ少年団指導員資格取得費補助金 ・補助金 324,000円 公認スポーツ指導者資格取得指導員数 28人											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・スポーツを通じて青少年の健全育成を図り、その活動をしていくため、市が実施することは妥当であります。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・少子化により団員数は減少している中、スポーツ少年団の加入率については、ほぼ目標値に達しているため、事業実施については有効と思われます。 ・今後は、団活動を継続していくため、団の統廃合も含め検討が必要と考えます。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・指導者がボランティアで指導や団運営を行っているため、コスト削減の余地はない。											

事務事業の概要	事務事業名	スポーツ交流事業			担当課	生涯スポーツ課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	983	
	予算科目	款	10	教育費	長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育				
		項	6	保健体育費		施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ				
		目	2	生涯スポーツ振興費		基本施策	3	スポーツの振興と環境の充実				
事業概要	市民のスポーツ振興と健康づくりを図るために、関係機関と相互協定に基づく交流を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	児童派遣	⑤					⑨				
	②	体育・スポーツ推進協議会運営	⑥					⑩				
	③	指導講師招聘	⑦					⑪				
	④		⑧					⑫				
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	成果指標	紀の川市体育・スポーツ推進協議会開催数	回	目標	2	2	2	2	2	書面決議を1回含め、2回の審議について協議いただいた。		
				実績	2	3	2					
	<指標の計算方法>		年間協議会開催数									
	成果指標	児童派遣人数	人	目標	30	30	30	30	30	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、今年度は児童派遣を行うことができなかった。感染の状況が治まってくれば、来年度は30名の派遣が可能と思われる。		
実績				30	30							
<指標の計算方法>		日体大への児童派遣人数										
成果指標	講師招聘・講座開催数	回	目標	1	1	1	1	1	日本体育大学が講師派遣を中止としたため、招聘できなかった。オンライン講座も当市でホール等に人を集めることは感染の危険があるため見合わせた。感染状況が治まれば来年度は講師招聘が可能と思われる。			
			実績	1	1							
<指標の計算方法>		日体大からの講師招聘による講座開催回数										
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
42										42		
事業の実績	①児童派遣 ・新型コロナウイルス感染症の影響で中止											
	②体育・スポーツ推進協議会運営 ・1回目は通常通り開催(7月) ・2回目は書面決議(1月) ・日体大主催事業(N I T T A I D A I × 自治体フォーラム2020)中止(11月) (新型コロナウイルス感染症の影響で中止) ③指導講師招聘 ・新型コロナウイルス感染症の影響で中止											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・日本体育大学と市の協定に基づく事業のため、市が実施することは妥当であります。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・専門的知識、優れた技能をもつ講師による講習等を受講することにより事業の目的は達成している。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・コストも削減の余地のないもの(旅費)が大半を占め、現在の状況で適正である。											

事務事業の概要	事務事業名	体育施設管理運営事業			担当課	生涯スポーツ課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	131	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	6 保健体育費				施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ			
		目	3 体育施設費				基本施策	3	スポーツの振興と環境の充実			
事業概要	市民が体育施設を安全で快適に利用できるように、維持管理を適切に行う事業											
事務事業を構成する細事業	① 体育館施設管理			⑤ 夜間照明施設管理			⑨ 貴志川スポーツ公園施設管理					
	② 粉河武道館施設管理			⑥ 粉河西部・中部運動場施設管理			⑩ 那賀B&G海洋センター施設管理					
	③ パークゴルフ場施設管理			⑦ 奥安楽川広場施設管理			⑪					
	④ トレーニング施設管理			⑧ 長山ふれあい公園(多目的広場)施設管理			⑫					
指標の実績	成果指標	年間利用者数	単位	人	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
		目標			221,000	224,000	227,000	230,000	230,000	新型コロナウイルス感染症拡大防止のための施設使用制限や工事のため、年間利用者数が減少した。		
	実績			232,583	212,554	156,246						
	<指標の計算方法>	社会体育施設全体の年間利用者数										
	活動指標	施設使用料	単位	円	目標	13,547,000	13,821,000	14,006,000	14,006,000	14,006,000	年間利用者数が減少したため、結果的に施設使用料収入は減少した。	
		実績			13,100,330	11,618,065	10,164,770					
	<指標の計算方法>	社会体育施設全体の利用料										
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	115,341			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
					39,500		10,165	65,676				
事業の実績	施設利用状況				西部運動場	67件	860人					
					中部運動場	137件	2,840人					
	① 体育館施設管理				・那賀中学校・調月小学校夜間照明施設管理			⑨ 貴志川スポーツ公園施設管理				
	・粉河体育館 641件 11,307人				・那賀中学校 15件 258人			・野球場 140件 8,976人				
	・那賀体育館 566件 12,913人				調月小学校 42件 1,260人			・ソフトボール場 189件 7,434人				
	・桃山勤労者体育館 445件 9,820人							・テニスコート 1,183件 7,291人				
・貴志川体育館 1,099件 32,278人				・貴志川スポーツ公園夜間照明施設管理			⑩ 那賀B&G海洋センター施設管理 0人					
② 粉河武道館施設管理				ソフトボール場 19件 409人								
405件 5975人				テニスコート 145件 552人								
③ パークゴルフ場施設管理				⑥ 粉河西部・中部運動場施設管理								
3,151組 14,482人				・西部運動場 96件 2,440人								
④ トレーニング施設管理				・中部運動場 182件 5,725人								
・那賀体育館トレーニングルーム 5,326人				⑦ 奥安楽川広場施設管理								
・貴志川トレーニングプラザ 12,798人				21件 1,360人								
⑤ 夜間照明施設管理				⑧ 長山ふれあい公園(多目的広場)施設管理								
・粉河西部・中部運動場夜間照明施設管理				420件 11,942人								
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がややある									
			・市民が利用し、市が管理運営する施設であるため、環境を整え、備品や設備等の充実を図り、適正な管理が必要である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
		・安全で快適に利用できる施設を目指し、市民ニーズを的確に把握していく必要がある。										
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
		・利用者数の増加と運営効率の観点から、指定管理制度等の民間活力の導入も検討していく必要がある。 ・受益者負担の観点からも、施設利用料にかかる減免基準の見直しの必要がある。										

事務事業の概要	事務事業名	学校給食運営事業			担当課	教育総務課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	533	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育				
		項	6 保健体育費				施策目標	2 学校教育				
		目	4 学校給食費				基本施策	1 学校教育環境の充実				
事業概要	児童、生徒に安全、安心な給食を提供するために、調理配送委託先への指導監督や給食の管理運営を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	学校給食運営・安全対策			⑤	県学校栄養士研究会負担金		⑨				
	②	学校給食委託			⑥	栄養教諭設置期成会負担金		⑩				
	③	給食配送車管理			⑦			⑪				
	④	全国学校栄養士協議会負担金			⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	年間給食実施日数	日	目標	202	203	201	201	201	粉河学校給食センターが粉河・那賀管内8小学校及び3中学校が対象。河南学校給食センターが打田・桃山・貴志川地区管内8小学校及び3中学校に対して学校給食の調理・配送を行う。【新型コロナウイルス感染症対策による学校の臨時休業（令和2年4月・5月）のため減少。6月より給食開始。夏休み短縮により8月給食実施。】		
				実績	196	183	180					
	<指標の計算方法>		粉河学校給食センターと河南学校給食センターの給食実施日数の平均									
	成果指標	年間給食実食数	食	目標	762,000	753,000	900,000	900,000	900,000		粉河学校給食センターが1日約1,300食、河南学校給食センターが1日約3,500食の学校給食を調理する。【新型コロナウイルス感染症対策による学校の臨時休業（令和2年4月・5月）のため減少。6月より給食開始。夏休み短縮により8月給食実施。】	
				実績	908,848	832,369	837,817					
	<指標の計算方法>		粉河学校給食センターと河南学校給食センターの給食食数の合計									
活動指標	フルーツ給食の実施回数	回	目標	22	22	30	34	34	学校給食に紀の川市産のフルーツを食材として使用し、食育の一環として活用する。【新型コロナウイルス感染症対策による学校の臨時休業（令和2年4月・5月）のため減少。6月より給食開始。夏休み短縮により8月給食実施。】			
			実績	38	30	32						
<指標の計算方法>		粉河学校給食センターと河南学校給食センターでフルーツ給食を提供した回数										
成果指標	年間フルーツ給食の実食数	食	目標	60,170	59,070	65,000	67,000	67,000		地産地消を推進し、児童・生徒に郷土のフルーツを提供することにより地元産業について理解を深めてもらう。【新型コロナウイルス感染症対策による学校の臨時休業（令和2年4月・5月）のため減少。6月より給食開始。夏休み短縮により8月給食実施。】		
			実績	87,067	69,190	66,987						
<指標の計算方法>		粉河学校給食センターと河南学校給食センターでフルーツ給食を提供した実食数										
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			453,917	312				213,778	239,827			
事業の実績	①学校給食運営・安全対策 ・フルーツ給食食材費 粉河学校給食センター 18回 20,125食 527,770円 河南学校給食センター 14回 46,862食 1,658,870円			⑤和歌山県学校栄養士研究会負担金 ・一律5,000円 ・@2,000円×3名分(粉河1名、河南2名) 6,000円								
	②学校給食委託 ・粉河、河南学校給食センター (給食調理・配送・施設管理) 164,374,540円			⑥栄養教諭設置期成会負担金 ・@5,000円×3名分(粉河1名、河南2名)								
③給食配送車管理 ・粉河学校給食センター 配送車：2t車 3台、軽貨物車1台 ・河南学校給食センター 配送車：2t車 5台			※参考(④～⑥について) 共同調理場における栄養士の配置人数 (文部科学省教職員定数より) 1,500食以下 1名(粉河) 1,501食～6,000食 2名(河南)									
④全国学校栄養士協議会負担金 ・@7,000円×3名分(粉河1名、河南2名) 21,000円												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・安全安心な学校給食を提供するために今後も市が継続していくことが妥当な事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・地産地消を積極的に推進するとともに、地元産果物を使用したフルーツ給食の提供など、安全安心な給食の提供及び食育の観点からも大変有意義な事業である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・学校給食の調理、配送、施設の保守及び衛生管理業務を委託しており、効率化が図られている。											

事務事業の概要	事務事業名	学校給食センター管理事業			担当課	教育総務課			事業区分	ソフト事業					
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1087				
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育						
		項	6 保健体育費				施策目標	2	学校教育						
		目	4 学校給食費				基本施策	1	学校教育環境の充実						
事業概要	児童、生徒に安全な給食を滞りなく提供するために、学校給食センター維持管理を適切に行う事業														
事務事業を構成する細事業	①	粉河学校給食センター施設管理			⑤					⑨					
	②	河南学校給食センター施設管理			⑥					⑩					
	③				⑦					⑪					
	④				⑧					⑫					
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析						
	活動指標	施設設備の点検、メンテナンス、改良工事件数	件	目標	29	31	20	15	15	定期的なメンテナンス修繕や法定検査を実施することにより、施設の不備による原因で学校給食を提供できなくなる事態を防ぐ。令和2年度より両センターにおいて、委託可能な施設設備（厨房設備除く）に関する保守点検業務（河南8業務・粉河6業務）を学校給食委託業者に委託した。					
				実績	51	39	15								
	<指標の計算方法>		粉河学校給食センターと河南学校給食センターの施設設備（厨房設備除く）のメンテナンス修繕件数、法定検査、委託点検、改良工事の合計件数（予算計上分）												
	活動指標	施設設備の緊急を要する修繕・工事件数	件	目標	5	5	5	5	5				施設の経年劣化による突発的な修繕等が年々増加している。		
				実績	4	7	15								
	<指標の計算方法>		粉河学校給食センターと河南学校給食センターの施設設備（厨房設備除く）の予定していない修繕と工事の合計件数（予算計上していないもの）												
成果指標	施設設備の不具合で給食が提供できなかった日数	日	目標	0	0	0	0	0	令和2年度において、突発的な事故・故障による給食の停止はなかった。						
			実績	0	2	0									
<指標の計算方法>		施設設備の不具合で給食が提供できなかった日数													
<指標の計算方法>															
コストの実績	R 2年度決算額（単位：千円）			財源内訳											
	13,862			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	13,862					
事業の実績	①施設設備の点検、修繕件数（予算計上分）														
	粉河学校給食センター ・施設修繕 4件 2,129,490円 ・法定及び定期検査 4件 543,200円 河南学校給食センター ・施設修繕 3件 1,831,325円 ・法定及び定期検査 3件 1,639,000円 ・工事 1件 2,156,000円														
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない												
		・学校給食センターの施設・設備等の保守及び管理を行う業務であり、市が継続していくことが妥当な事業である。													
事業の事後評価	有効性	評価結果	改善の余地がない												
		・施設や設備等の老朽化及び経年劣化による修繕等が発生する中、定期的なメンテナンスや修繕を行っていることで、設備の不備に起因する学校給食の提供中止の事態を避けることができる。													
事業の事後評価	効率性	評価結果	改善の余地がない												
		・施設管理に特化した事業であり、メンテナンスについては学校の長期休業中に計画的に実施している。													

事務事業の概要	事務事業名	農業用施設災害復旧事業			担当課	農林整備課		事業区分	ハード事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	135
	予算科目	款	11 災害復旧費			長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心		
		項	1 農林施設災害復旧費				施策目標	1	防災・防犯		
		目	2 農業用施設災害復旧費				基本施策	3	災害に強いまちの形成		
取組方針	3	農地・農業用施設の災害対策の推進									
事業概要	農業従事者等が地域の農業の維持を図り、併せてその経営の安定に寄与できるように、災害により被災した農業用施設を農業経営が維持できるように復旧する事業										
事務事業を構成する細事業	①	農業用施設災害復旧			⑤				⑨		
	②	農業用施設災害復旧補助			⑥				⑩		
	③				⑦				⑪		
	④				⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	成果指標	災害復旧	目標						農業用施設（水路）を復旧しました。		
			箇所								
		実績	10		1						
	<指標の計算方法>		復旧箇所								
	成果指標	災害現場復旧補助金交付	目標						災害復旧事業にのらない箇所について市単独補助により復旧しました。		
			箇所								
		実績	18		12						
	<指標の計算方法>		交付箇所								
			目標								
		実績									
<指標の計算方法>											
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	5,100			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	5,100	
事業の実績	①農業用施設災害復旧 ・令和2年7月8日及び7月24日梅雨前線豪雨災害により被災した農業用施設の復旧工事を実施しました。 水路 1件 L=31.2m (水路工・附帯工一式)										
	②農業用施設災害復旧補助 ・令和2年7月8日及び7月24日梅雨前線豪雨災害により被災した農業用施設について地元により復旧した施設に対して補助金を交付しました。 打田地区 1件 粉河地区 4件 那賀地区 4件 貴志川地区 1件 土地改良区 2件 合計 12件										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・災害発生時の災害規模に応じて実施する事業であり比較的高率な補助金が交付される事業であります。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・災害発生時の災害規模に応じて実施する事業であり補助金が交付され、早期に対応可能な事業であります。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・災害発生時の災害規模に応じて実施する事業であり比較的高率な補助金が交付される事業のため、復旧工事にあたり受益者及び市の事業負担が軽減できます。										

事務事業の概要	事務事業名		林業施設災害復旧事業				担当課	農林整備課		事業区分	ハード事業		
	会計		一般会計				新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	136
	予算科目	款	11	災害復旧費				長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境		
		項	1	農林施設災害復旧費					施策目標	3	自然環境		
		目	3	林業施設災害復旧費					基本施策	1	豊かな自然環境の保全		
事業概要		林業従事者等が森林の保全や管理が出来るように、災害により被災した林業用施設を森林の保全や管理を行えるように復旧する事業											
事務事業を構成する細事業		①	林業施設災害復旧		⑤					⑨			
		②	崩土除去委託		⑥					⑩			
		③			⑦					⑪			
		④			⑧					⑫			
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析			
	活動指標	災害復旧	件	目標							被災した施設の復旧を実施しました。		
		実績		10		1							
	<指標の計算方法>		被災箇所の復旧件数										
				目標									
				実績									
	<指標の計算方法>												
			目標										
			実績										
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	610			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	610			
事業の実績	①林道施設災害復旧 令和2年7月8日・7月24日梅雨前線豪雨により、林道に支障をきたす崩土を除去しました。 ・崩土除去委託 1件(3路線 25箇所)												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・災害発生時の災害規模に応じて実施する事業であり比較的高率な補助金が交付される事業であります。											
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
・災害発生時の災害規模に応じて実施する事業であり比較的高率な補助金が交付され早期に対応可能な事業であります。													
効率性	評価結果	改善の余地がない											
	・災害発生時の災害規模に応じて実施する事業であり比較的高率な補助金が交付される事業のため、復旧工事にあたり市の事業負担が軽減できる事業です。												

事務事業の概要	事務事業名	土木施設災害復旧事業		担当課	道路河川課			事業区分	ハード事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	137	
	予算科目	款	11	災害復旧費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境			
		項	2	公共土木施設災害復旧費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通			
		目	1	道路橋りょう災害復旧費		基本施策	2	道路や橋梁などまちの基盤整備			
取組方針	2	市道の整備・充実									
事業概要	市民の安全性を確保するために、被災箇所の復旧工事を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	土木施設災害復旧			⑤					⑨	
	②				⑥					⑩	
	③				⑦					⑪	
	④				⑧					⑫	

指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析	
	活動指標	災害復旧件数	件							例年発生する梅雨前線や台風による被害が数件発生している。
		目標								
	実績		29	3	14					
	<指標の計算方法>		被災箇所の復旧件数							
	目標									
	実績									
<指標の計算方法>										
目標										
実績										
<指標の計算方法>										
目標										
実績										
<指標の計算方法>										

コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)		財源内訳					
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	202,143	108,796			59,000		8,269	26,078

事業の実績	①土木施設災害復旧							
	【R1繰越】							
	工事	2件	126,602,300円					
	用地	4件	1,222,500円					
	補償	5件	6,545,819円					
	【R2】							
	委託	14件	34,074,458円					
	工事	13件	32,715,575円					
	用地	1件	27,300円					
	補償	3件	233,600円					

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない	
		・被災した公共施設（市道・河川）の復旧を市が行うことは妥当といえる。		
	有効性	評価結果	改善の余地がない	
	・国土交通省補助事業を利用して、被災箇所の復旧を行うことは有効である。			
効率性	評価結果	改善の余地がない		
	・国土交通省補助事業であるため、査定等の協議を複数回行う必要があり、復旧までに期間を要するため、二次被害防止対策を行い危険を回避することは効率的である。			

9. 特別会計主要施策の成果

住宅新築資金等貸付事業特別会計

款 項 目	担当課室	予 算 現 額	収 入 済 額	事 業 等 実 施 内 容					
5-2-1 貸付金元利収入	都市計画課	446,000	444,552	◎貸付金元利収入 現年度分					
				令和2年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損 額 件数	
				住宅新築資金(国)	668,376	444,552	66.5%	—	—
				住宅新築資金(県)	95,052	0	0.0%	—	—
				宅地取得資金(国)	120,600	0	0.0%	—	—
				住宅改修資金(国)	161,724	0	0.0%	—	—
				合 計	1,045,752	444,552	42.5%	—	—
				令和元年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損 額 件数	
				住宅新築資金(国)	668,376	444,552	66.5%	—	—
				住宅新築資金(県)	95,052	0	0.0%	—	—
				宅地取得資金(国)	120,600	0	0.0%	—	—
				住宅改修資金(国)	161,724	0	0.0%	—	—
				合 計	1,045,752	444,552	42.5%	—	—
	都市計画課	10,091,000	13,033,722	◎貸付金元利収入 滞納繰越分					
				令和2年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損 額 件数	
				住宅新築資金(国)	151,723,392	9,549,138	6.3%	—	—
				住宅新築資金(県)	19,842,663	450,236	2.3%	—	—
				宅地取得資金(国)	77,063,429	2,651,092	3.4%	—	—
				宅地取得資金(県)	0	0	—	—	—
				住宅改修資金(国)	12,578,440	383,256	3.0%	—	—
				合 計	261,207,924	13,033,722	5.0%	—	—
				令和元年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損 額 件数	
				住宅新築資金(国)	159,703,212	8,203,644	5.1%	—	—
				住宅新築資金(県)	20,463,156	715,545	3.5%	—	—
				宅地取得資金(国)	79,303,324	2,360,495	3.0%	—	—
				宅地取得資金(県)	209,935	209,935	100.0%	—	—
				住宅改修資金(国)	12,946,113	529,397	4.1%	—	—
				合 計	272,625,740	12,019,016	4.4%	—	—

国民健康保険事業勘定特別会計

款 項 目	担当課	予 算 現 額	収 入 済 額	事 業 等 実 施 内 容																																																																			
1-1-1 一般被保険者保険税	国保年金課	1,393,323,000	1,468,266,675	◎一般被保険者分保険税 現年課税分 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">令和2年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療給付分</td> <td>1,054,514,091</td> <td>1,019,411,084</td> <td>96.7%</td> <td rowspan="4">—</td> <td rowspan="4">—</td> </tr> <tr> <td>後期支援分</td> <td>336,369,809</td> <td>325,032,526</td> <td>96.6%</td> </tr> <tr> <td>介護納付分</td> <td>130,024,700</td> <td>123,823,065</td> <td>95.2%</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>1,520,908,600</td> <td>1,468,266,675</td> <td>96.5%</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">令和元年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療給付分</td> <td>1,063,323,052</td> <td>1,020,946,807</td> <td>96.0%</td> <td rowspan="4">—</td> <td rowspan="4">—</td> </tr> <tr> <td>後期支援分</td> <td>349,146,015</td> <td>334,955,749</td> <td>95.9%</td> </tr> <tr> <td>介護納付分</td> <td>144,224,063</td> <td>136,270,692</td> <td>94.5%</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>1,556,693,130</td> <td>1,492,173,248</td> <td>95.9%</td> </tr> </tbody> </table> 【新型コロナウイルス感染症の影響による減免】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>件数</th> <th>減免税額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>68件</td> <td>13,873,400</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>53件</td> <td>1,645,500</td> </tr> </tbody> </table> 【新型コロナウイルス感染症の影響による徴収猶予】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>件数</th> <th>猶予税額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>3件</td> <td>146,400</td> </tr> </tbody> </table>	令和2年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	医療給付分	1,054,514,091	1,019,411,084	96.7%	—	—	後期支援分	336,369,809	325,032,526	96.6%	介護納付分	130,024,700	123,823,065	95.2%	合 計	1,520,908,600	1,468,266,675	96.5%	令和元年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	医療給付分	1,063,323,052	1,020,946,807	96.0%	—	—	後期支援分	349,146,015	334,955,749	95.9%	介護納付分	144,224,063	136,270,692	94.5%	合 計	1,556,693,130	1,492,173,248	95.9%	年度	件数	減免税額	令和2年度	68件	13,873,400	令和元年度	53件	1,645,500	年度	件数	猶予税額	令和2年度	3件	146,400
	令和2年度	調定額	収入済額	収納率					不納欠損																																																														
額					件数																																																																		
医療給付分	1,054,514,091	1,019,411,084	96.7%	—	—																																																																		
後期支援分	336,369,809	325,032,526	96.6%																																																																				
介護納付分	130,024,700	123,823,065	95.2%																																																																				
合 計	1,520,908,600	1,468,266,675	96.5%																																																																				
令和元年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																																																			
				額	件数																																																																		
医療給付分	1,063,323,052	1,020,946,807	96.0%	—	—																																																																		
後期支援分	349,146,015	334,955,749	95.9%																																																																				
介護納付分	144,224,063	136,270,692	94.5%																																																																				
合 計	1,556,693,130	1,492,173,248	95.9%																																																																				
年度	件数	減免税額																																																																					
令和2年度	68件	13,873,400																																																																					
令和元年度	53件	1,645,500																																																																					
年度	件数	猶予税額																																																																					
令和2年度	3件	146,400																																																																					
	収納対策課	58,600,000	70,624,302	◎一般被保険者分保険税 滞納繰越分 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">令和2年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療給付分</td> <td>164,411,024</td> <td>48,649,905</td> <td>29.6%</td> <td rowspan="4">9,454,023</td> <td rowspan="4">802件</td> </tr> <tr> <td>後期支援分</td> <td>39,760,246</td> <td>13,795,473</td> <td>34.7%</td> </tr> <tr> <td>介護納付分</td> <td>27,207,095</td> <td>8,178,924</td> <td>30.1%</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>231,378,365</td> <td>70,624,302</td> <td>30.5%</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">令和元年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療給付分</td> <td>186,816,555</td> <td>53,668,924</td> <td>28.7%</td> <td rowspan="4">11,582,819</td> <td rowspan="4">1,266件</td> </tr> <tr> <td>後期支援分</td> <td>41,336,887</td> <td>13,617,866</td> <td>32.9%</td> </tr> <tr> <td>介護納付分</td> <td>30,084,383</td> <td>8,644,061</td> <td>28.7%</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>258,237,825</td> <td>75,930,851</td> <td>29.4%</td> </tr> </tbody> </table>	令和2年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	医療給付分	164,411,024	48,649,905	29.6%	9,454,023	802件	後期支援分	39,760,246	13,795,473	34.7%	介護納付分	27,207,095	8,178,924	30.1%	合 計	231,378,365	70,624,302	30.5%	令和元年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	医療給付分	186,816,555	53,668,924	28.7%	11,582,819	1,266件	後期支援分	41,336,887	13,617,866	32.9%	介護納付分	30,084,383	8,644,061	28.7%	合 計	258,237,825	75,930,851	29.4%															
令和2年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																																																			
				額	件数																																																																		
医療給付分	164,411,024	48,649,905	29.6%	9,454,023	802件																																																																		
後期支援分	39,760,246	13,795,473	34.7%																																																																				
介護納付分	27,207,095	8,178,924	30.1%																																																																				
合 計	231,378,365	70,624,302	30.5%																																																																				
令和元年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																																																			
				額	件数																																																																		
医療給付分	186,816,555	53,668,924	28.7%	11,582,819	1,266件																																																																		
後期支援分	41,336,887	13,617,866	32.9%																																																																				
介護納付分	30,084,383	8,644,061	28.7%																																																																				
合 計	258,237,825	75,930,851	29.4%																																																																				
1-1-2 退職被保険者等保険税	国保年金課	3,000	0	◎退職被保険者分保険税 現年課税分 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">令和2年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療給付分</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>—</td> <td rowspan="4">—</td> <td rowspan="4">—</td> </tr> <tr> <td>後期支援分</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>介護納付分</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">令和元年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療給付分</td> <td>933,027</td> <td>930,512</td> <td>99.7%</td> <td rowspan="4">—</td> <td rowspan="4">—</td> </tr> <tr> <td>後期支援分</td> <td>305,706</td> <td>304,821</td> <td>99.7%</td> </tr> <tr> <td>介護納付分</td> <td>327,437</td> <td>327,037</td> <td>99.9%</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>1,566,170</td> <td>1,562,370</td> <td>99.8%</td> </tr> </tbody> </table>	令和2年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	医療給付分	0	0	—	—	—	後期支援分	0	0	—	介護納付分	0	0	—	合 計	0	0	—	令和元年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	医療給付分	933,027	930,512	99.7%	—	—	後期支援分	305,706	304,821	99.7%	介護納付分	327,437	327,037	99.9%	合 計	1,566,170	1,562,370	99.8%															
	令和2年度	調定額	収入済額	収納率					不納欠損																																																														
額					件数																																																																		
医療給付分	0	0	—	—	—																																																																		
後期支援分	0	0	—																																																																				
介護納付分	0	0	—																																																																				
合 計	0	0	—																																																																				
令和元年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																																																			
				額	件数																																																																		
医療給付分	933,027	930,512	99.7%	—	—																																																																		
後期支援分	305,706	304,821	99.7%																																																																				
介護納付分	327,437	327,037	99.9%																																																																				
合 計	1,566,170	1,562,370	99.8%																																																																				
	収納対策課	900,000	934,901	◎退職被保険者分保険税 滞納繰越分 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">令和2年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療給付分</td> <td>3,382,885</td> <td>646,291</td> <td>19.1%</td> <td rowspan="4">39,200</td> <td rowspan="4">8件</td> </tr> <tr> <td>後期支援分</td> <td>638,638</td> <td>137,526</td> <td>21.5%</td> </tr> <tr> <td>介護納付分</td> <td>755,684</td> <td>151,084</td> <td>20.0%</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>4,777,207</td> <td>934,901</td> <td>19.6%</td> </tr> </tbody> </table>	令和2年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	医療給付分	3,382,885	646,291	19.1%	39,200	8件	後期支援分	638,638	137,526	21.5%	介護納付分	755,684	151,084	20.0%	合 計	4,777,207	934,901	19.6%																																									
令和2年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																																																			
				額	件数																																																																		
医療給付分	3,382,885	646,291	19.1%	39,200	8件																																																																		
後期支援分	638,638	137,526	21.5%																																																																				
介護納付分	755,684	151,084	20.0%																																																																				
合 計	4,777,207	934,901	19.6%																																																																				

款 項 目	担当課	予 算 現 額	収 入 済 額	事 業 等 実 施 内 容																																																			
				<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">令和元年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療給付分</td> <td>4,701,078</td> <td>934,580</td> <td>19.9%</td> <td rowspan="4">550,258</td> <td rowspan="4">83件</td> </tr> <tr> <td>後期支援分</td> <td>915,830</td> <td>209,642</td> <td>22.9%</td> </tr> <tr> <td>介護納付分</td> <td>1,108,557</td> <td>257,578</td> <td>23.2%</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>6,725,465</td> <td>1,401,800</td> <td>20.8%</td> </tr> </tbody> </table>								令和元年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	医療給付分	4,701,078	934,580	19.9%	550,258	83件	後期支援分	915,830	209,642	22.9%	介護納付分	1,108,557	257,578	23.2%	合 計	6,725,465	1,401,800	20.8%																		
令和元年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																																			
				額	件数																																																		
医療給付分	4,701,078	934,580	19.9%	550,258	83件																																																		
後期支援分	915,830	209,642	22.9%																																																				
介護納付分	1,108,557	257,578	23.2%																																																				
合 計	6,725,465	1,401,800	20.8%																																																				
				<p>◎軽減世帯数および軽減被保険者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">被保険者別</th> <th colspan="4">世帯数</th> <th colspan="4">被保険者数</th> </tr> <tr> <th>7割</th> <th>5割</th> <th>2割</th> <th>計</th> <th>7割</th> <th>5割</th> <th>2割</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般被保険者</td> <td>2,764</td> <td>1,620</td> <td>1,255</td> <td>5,639</td> <td>3,882</td> <td>3,072</td> <td>2,421</td> <td>9,375</td> </tr> <tr> <td>退職被保険者</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>2,764</td> <td>1,620</td> <td>1,255</td> <td>5,639</td> <td>3,882</td> <td>3,072</td> <td>2,421</td> <td>9,375</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 同一世帯内に一般被保険者と退職被保険者が混在する場合は、一般被保険者の世帯数として計上</p>								被保険者別	世帯数				被保険者数				7割	5割	2割	計	7割	5割	2割	計	一般被保険者	2,764	1,620	1,255	5,639	3,882	3,072	2,421	9,375	退職被保険者	0	0	0	0	0	0	0	0	合 計	2,764	1,620	1,255	5,639	3,882	3,072	2,421	9,375
被保険者別	世帯数				被保険者数																																																		
	7割	5割	2割	計	7割	5割	2割	計																																															
一般被保険者	2,764	1,620	1,255	5,639	3,882	3,072	2,421	9,375																																															
退職被保険者	0	0	0	0	0	0	0	0																																															
合 計	2,764	1,620	1,255	5,639	3,882	3,072	2,421	9,375																																															
				<p>◎賦課割合 (被保険者全体)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">賦 課 区 分</th> <th colspan="3">応 能 割</th> <th colspan="3">応 益 割</th> </tr> <tr> <th></th> <th>所得割</th> <th>資産割</th> <th></th> <th>均等割</th> <th>平等割</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療給付分</td> <td>51.82%</td> <td>51.82%</td> <td>0.00%</td> <td>48.18%</td> <td>34.14%</td> <td>14.04%</td> </tr> <tr> <td>後期支援分</td> <td>52.68%</td> <td>52.68%</td> <td>0.00%</td> <td>47.32%</td> <td>33.49%</td> <td>13.83%</td> </tr> <tr> <td>介護納付分</td> <td>50.08%</td> <td>50.08%</td> <td>0.00%</td> <td>49.92%</td> <td>35.22%</td> <td>14.70%</td> </tr> <tr> <td>区 分 全 体</td> <td>51.53%</td> <td>51.53%</td> <td>0.00%</td> <td>48.47%</td> <td>34.28%</td> <td>14.19%</td> </tr> </tbody> </table>								賦 課 区 分	応 能 割			応 益 割				所得割	資産割		均等割	平等割	医療給付分	51.82%	51.82%	0.00%	48.18%	34.14%	14.04%	後期支援分	52.68%	52.68%	0.00%	47.32%	33.49%	13.83%	介護納付分	50.08%	50.08%	0.00%	49.92%	35.22%	14.70%	区 分 全 体	51.53%	51.53%	0.00%	48.47%	34.28%	14.19%			
賦 課 区 分	応 能 割			応 益 割																																																			
		所得割	資産割		均等割	平等割																																																	
医療給付分	51.82%	51.82%	0.00%	48.18%	34.14%	14.04%																																																	
後期支援分	52.68%	52.68%	0.00%	47.32%	33.49%	13.83%																																																	
介護納付分	50.08%	50.08%	0.00%	49.92%	35.22%	14.70%																																																	
区 分 全 体	51.53%	51.53%	0.00%	48.47%	34.28%	14.19%																																																	

[歳出]

事務事業の概要	事務事業名	総務費		担当課	国保年金課			事業区分	ソフト事業		
	会計	国民健康保険事業勘定特別会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	7001	
	予算科目	款項目	1	総務費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心			
						施策目標	2	健康・医療			
						基本施策	3	医療保険制度の安定運営			
				取組方針		1	国民健康保険制度の安定的運営				
事業概要	国民健康保険制度に基づき被保険者が医療保険を利用できるよう管理を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	総務管理費		⑤				⑨			
	②	徴税费		⑥				⑩			
	③	運営協議会費		⑦				⑪			
	④			⑧				⑫			

指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析	
	成果指標	国民健康保険税（現年課税分）の収納率	%	目標	95.3	95.3	95.3	95.3	95.3	収納率は高水準を維持している。
				実績	96	95.9	96.5			
	<指標の計算方法>		現年分（一般+退職）収納済み額÷現年度調定額							
	活動指標	被保険者証の交付（年度更新）	枚	目標						後期高齢者医療制度への移行、社会保険の適用拡大により被保険者数は減少傾向にある。
実績				16,958	16,111	15,566				
<指標の計算方法>		被保険者証の一斉更新対象の被保険者数								
活動指標	国民健康保険事業の運営に関する協議会の開催	回	目標	4	4	4	4	4	決算報告、税率改正などの協議がスムーズに行えたため、前年度と同様の開催回数とすることができた。	
			実績	3	3	3				
<指標の計算方法>		年間実施回数								
			目標							
			実績							
<指標の計算方法>										

コストの実績	R 2年度決算額（単位：千円）		財源内訳					
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	40,640		2,310	8,634			901	28,795

事業の実績	①総務管理費	②徴税费
	<p>【被保険者の状況（年度平均）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 世帯数 9,514世帯 被保険者数（全体） 16,125人 （内訳）一般被保険者 16,125人 退職被保険者 0人 （再掲）介護保険第2号被保険者 5,312人 <p>◎紀の川市国民健康保険運営</p> <ul style="list-style-type: none"> 被保険者証の更新 保険者事務電算共同処理委託 事務システムの保守・開発 各種受給者証等の作成 県国民健康保険団体連合会負担金 会員負担金 保険者均等割 380,000円 被保険者割 4,376,299円 ※当該年度の4月末現在の被保険者数に応じて算出（R2.4月末 16,297人） 	<ul style="list-style-type: none"> ◎国民健康保険税賦課徴収 <ul style="list-style-type: none"> 納税通知書等作成・送付 口座振替手数料費用 264,935円（単価：10円【税別】） コンビニ収納手数料費用 1,126,406円（単価：59円【税別】） 収納率向上のための徴収員（収納対策課配属）の雇用 ③運営協議会費 <ul style="list-style-type: none"> ◎紀の川市の国民健康保険事業の運営に関する協議会（委員数17名） <ul style="list-style-type: none"> 開催回数 3回 第1回 令和2年8月20日 第2回 令和3年1月21日 第3回 令和3年2月25日

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない
		・保険者として国民健康保険法、地方税法等に基づき実施する事務である。	
	有効性	評価結果	改善の余地がない
・保険者として国民健康保険法、地方税法等に基づき実施する事務である。			
効率性	評価結果	改善の余地がない	
・大量印刷物（被保険者証、納税通知等）の印刷、封入などを外部委託しており、事務効率の改善については、余地がない状況である。			

事務事業の概要	事務事業名	保険給付費		担当課	国保年金課			事業区分	ソフト事業		
	会計	国民健康保険事業勘定特別会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	7002	
	予算科目	款	2 保険給付費		長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心			
		項				施策目標	2	健康・医療			
		目				基本施策	3	医療保険制度の安定運営			
取組方針	1	国民健康保険制度の安定的運営									
事業概要	国民健康保険制度に基づき被保険者が医療保険を利用できるよう運営を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	療養諸費		⑤	移送費		⑨				
	②	高額療養費		⑥	傷病諸費		⑩				
	③	出産育児諸費		⑦			⑪				
	④	葬祭諸費		⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	出産育児一時金支給件数	件	目標	72	62	52	42	42	被保険者数の減少等により支給件数は減少となった。少子化が進んでいることが窺える。	
			実績	47	47	29					
	<指標の計算方法>		当該年度の支給実績件数								
	活動指標	葬祭費支給件数	件	目標	110	116	101	104	104	被保険者数の減少等により支給件数は減少となった。	
			実績	126	108	80					
	<指標の計算方法>		当該年度の支給実績件数								
	活動指標	1人あたり費用額	円	目標						1人あたり費用額は、前年度と比較して減少となった。新型コロナウイルス感染症の影響により、受診回数が減少したためと考えられる。	
			実績	370,395	392,228	367,712					
	<指標の計算方法>		当該年度の療養給付費・療養費の費用額（一般・退職）÷当該年度の平均被保険者数								
活動指標	1人あたり保険者負担額	円	目標						1人あたり保険者負担額は、前年度と比較して減少となった。新型コロナウイルス感染症の影響により、受診回数が減少したためと考えられる。		
		実績	269,521	285,651	269,186						
<指標の計算方法>		当該年度の療養給付費・療養費の保険者負担額（一般・退職）÷当該年度の平均被保険者数									
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
			5,004,099		4,973,167					30,932	
事業の実績	①療養諸費		③出産育児諸費		④葬祭諸費		⑤移送費				
	◎給付件数（療養給付費）		◎支給件数		◎支給件数		◎支給件数				
	・一般被保険者 265,142件		・420,000円 29件		・80件		・0件				
	・退職被保険者 9件		・404,000円 0件								
	◎給付件数（療養費）		◎支給件数								
	・一般被保険者 12,607件										
・退職被保険者 3件											
◎審査支払件数											
・一般被保険者 278,212件											
・退職被保険者 10件											
②高額療養費		⑥傷病諸費									
◎給付件数（高額療養費）		◎相談件数		◎申請件数		◎支給件数					
・一般被保険者 10,231件		0件		0件		0件					
・退職被保険者 1件											
◎給付件数（高額介護合算療養費）		◎支給件数									
・一般被保険者 17件											
・退職被保険者 0件											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・保険者として健康保険法等に基づき法定給付（療養の給付、療養費の支給、高額療養費の支給、出産育児一時金の支給、葬祭費の支給等）を実施する事務である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・保険者として健康保険法等に基づき法定給付（療養の給付、療養費の支給、高額療養費の支給、出産育児一時金の支給、葬祭費の支給等）を実施する事務である。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・保険者として健康保険法等に基づき法定給付（療養の給付、療養費の支給、高額療養費の支給、出産育児一時金の支給、葬祭費の支給等）を実施する事務である。										

事務事業の概要	事務事業名	保健事業		担当課	国保年金課		事業区分	ソフト事業		
	会計	国民健康保険事業勘定特別会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	7006
	予算科目	款	6	保健事業費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心		
						施策目標	2	健康・医療		
	目	基本施策	3	医療保険制度の安定運営						
取組方針		1	国民健康保険制度の安定的運営							
事業概要	高齢者の医療の確保に関する法律に基づき、国民健康保険被保険者の健康の保持増進及び健康寿命の延伸を目的に行う事業									
事務事業を構成する細事業	①	特定健康診査等事業		⑤			⑨			
	②	保健事業		⑥			⑩			
	③			⑦			⑪			
	④			⑧			⑫			

指標の実績	成果指標	特定健診受診率	単位	%	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析 新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、対象者が健診受診を控えたことにより前年度より受診率が大幅に低下した。	
		目標	37	38	39	34	38				
	実績	39.9	40.18	31.8							
	<指標の計算方法>		特定健診受診者数÷特定健診対象者数								
	成果指標	特定保健指導率	単位	%	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析 新型コロナウイルス感染症の影響により、利用を控える対象者が多く、特定保健指導の目標を達成できなかった。	
		目標	21	22	23	21.3	23.1				
	実績	18.8	22.19	16							
	<指標の計算方法>		特定保健指導終了者数÷特定保健指導対象者数								
	成果指標	未受療者受療勧奨による受療率	単位	%	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析 新型コロナウイルス感染症の影響により、受診行動に結びつきにくく、目標を達成できなかった。	
		目標	40	50	60	63.3	66.6				
実績	83.3	64	41.9								
<指標の計算方法>		受療者数÷対象者数									
活動指標	医療費通知の通知回数	単位	回	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析 予定通り実施することができた。		
	目標	6	6	6	6	6					
実績	6	6	6								
<指標の計算方法>		医療費通知の通知回数									

コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)	財源内訳					
		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	81,254		65,005				16,249

事業の実績	①特定健康診査等事業	②保健事業
	1. 特定健康診査 ・対象者数:11,969人 受診者数:3,808人受診率:31.8% 集団健診受診者数:304人 個別健診受診者数:3,297人 脳ドック検診の特定健診受診者数:207人 2. 特定保健指導 ・保健指導利用者内訳 動機付け支援:対象者357人 利用者59人(16.5%) 積極的支援:対象者87人 利用者12人(13.8%) 3. 糖尿病性腎症重症化予防事業 ・受療勧奨 対象者:31人 受療者13人(41.9%) ・保健指導 対象者:146人 実施人数:10人(6.8%)	1. 重複・多剤対策事業 対象者:326人 重複(一部含む)解除:29人 削除された薬剤費の合計:43,050円/1か月 2. 歯周病検診 対象者:117人 受診者:5人(4.3%) 3. スマホドック事業 対象者:616人 申込者:106人 受診者:93人(15.1%) 4. 脳ドック事業 申込者:281人 承認者:271人 受診者:256人(94.5%) 5. 生活習慣病重症化予防(LDL)の健康相談 対象者:198人 健康相談:61人(30.8%)

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない
	有効性	特定健診及び特定保健指導は、高齢者の医療の確保に関する法律に基づいて実施しており、またその他の保健事業についても、被保険者の健康を保持増進するという観点から有効な事業である。	
		評価結果	改善の余地がない
効率性	評価結果	改善の余地がややある	
	糖尿病性腎症重症化予防事業等のデータ分析等の業務を委託することで、対象者の選定など事業を効率的に実施しているが、今後は、他の保健事業でも幅広く活用することができるデータ分析システムの導入等、事務作業の効率化により更なる効率化に努める。		

国民健康保険直営診療施設勘定特別会計

[歳出]

事務事業の概要	事務事業名	一般管理事業		担当課	国保年金課			事業区分	ソフト事業		
	会計	国民健康保険直営診療施設勘定特別会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	186	
	予算科目	款	1	施設費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心			
		項	1	施設管理費		施策目標	2	健康・医療			
		目	1	一般管理費		基本施策	2	地域医療体制・医療サービスの充実			
取組方針	4	鞆淵診療所の安定的運営									
事業概要	市民（鞆淵地域及び周辺地域住民）が適切な医療行為を受けられるよう診療所の管理を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	一般管理事業			⑤					⑨	
	②				⑥					⑩	
	③				⑦					⑪	
	④				⑧					⑫	

指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	活動指標	診療日数	日	目標						診療日数はできるだけ維持できるように行っており、昨年度と比較してもほぼ横ばいである。	
			実績		206	188	191				
	<指標の計算方法>		当該年度における診療日数								
	活動指標	受診者数	人	目標						地域の人口減少に伴い年間延べ受診者数は減少傾向にある。	
			実績		2,509	1,897	1,641				
<指標の計算方法>		当該年度における延べ受診者数									
活動指標	レセプト請求件数	件	目標						受診者数の減少に比例してレセプト請求件数も減少傾向にある。		
		実績		1,937	1,600	1,471					
<指標の計算方法>		当該年度におけるレセプト請求件数									
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											

コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)		財源内訳					
	27,212		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
								27,212

事業の実績	①一般管理事業 ・直営診療施設受診者数 1,488名（鞆淵診療所） 153名（細野診療所） ・レセプト請求件数 1,337件（鞆淵診療所） 134件（細野診療所） ・診療所通院バス運転委託料 高齢者などの交通弱者が鞆淵診療所へ来院できるように通院バスの運行を行う。（午前中最大4便運行） 【利用状況】 運行回数 511回 乗降人数 425人 ・管理運営委託料 鞆淵診療所指定管理事業者への管理運営委託料 24,751千円									

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・周辺に医療機関がない山間地（へき地）であり、民間の医療機関の参入・進出が見込めない地域であるため、直営診療施設での医療行為の提供は、妥当な事業である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・周辺に医療機関がない山間地（へき地）であり、民間の医療機関の参入・進出が見込めない地域であるため、直営診療施設での医療行為の提供は、有効な事業である。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・令和元年度から指定管理者制度を実施しており、運営の効率化及びコスト削減に取り組んでいる。										

後期高齢者医療特別会計

款 項 目	担当課	予 算 現 額	収 入 済 額	事 業 等 実 施 内 容					
1 - 1 - 1 後期高齢者医療保険料	国保年金課	640,092,000	638,094,000	◎後期高齢者医療保険料 現年度分					
				令和2年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損	
								額	件数
				特別徴収分	409,377,300	409,377,300	100.0%	—	—
				普通徴収分	230,993,900	228,716,700	99.0%	—	—
				合 計	640,371,200	638,094,000	99.6%	—	—
				令和元年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損	
								額	件数
				特別徴収分	362,642,500	362,642,500	100.0%	—	—
				普通徴収分	203,113,800	201,479,600	99.2%	—	—
				合 計	565,756,300	564,122,100	99.7%	—	—
				◎軽減被保険者数					
				被保険者別	被保険者数				
					7.75割	7割	5割	2割	計
				一般	2,117	2,336	1,193	1,126	6,772
				元被扶養者	291	490	44	44	869
				合 計	2,408	2,826	1,237	1,170	7,641
				【新型コロナウイルス感染症の影響による減免】					
				年度	件数	減免税額			
				令和2年度	11件	821,300			
				令和元年度	10件	146,200			
				【新型コロナウイルス感染症の影響による徴収猶予】					
				年度	件数	猶予税額			
				令和2年度	—	—			
		1,140,000	1,591,344	◎後期高齢者医療保険料 滞納繰越分					
				年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損	
								額	件数
				令和2年度	3,114,270	1,591,344	51.1%	680,500	12件
				令和元年度	2,904,800	1,490,630	51.3%	151,400	11件

[歳出]

事務事業の概要	事務事業名	一般管理事業		担当課	国保年金課			事業区分	ソフト事業		
	会計	後期高齢者医療特別会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	391	
	予算科目	款	1	総務費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心			
		項	1	総務管理費		施策目標	2	健康・医療			
		目	1	一般管理費		基本施策	3	医療保険制度の安定運営			
取組方針	2	後期高齢者医療制度の安定的運営									
事業概要	後期高齢者医療制度に基づき、被保険者が医療保険を利用できるよう、受付等の業務を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	一般管理事業			⑤					⑨	
	②				⑥					⑩	
	③				⑦					⑪	
	④				⑧					⑫	

指標の実績	指標名	単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析
	活動指標 被保険者証（新規）送付件数	件	目標						昨年度に続き件数が減少した。
			実績		817	714	538		
	<指標の計算方法>	新規取得の被保険者証送付件数							
	活動指標 減額証・限度証送付件数	件	目標						限度額適用・標準負担額減額認定証と限度額適用認定証の所持者数の増加に伴い、増加した。
実績				1,437	1,600	2,027			
<指標の計算方法>	継続の減額認定証送付件数								
活動指標 高額介護合算通知書送付件数	件	目標						郵送件数が減少した。	
		実績		793	901	867			
<指標の計算方法>	該当者に対して送付する高額介護合算通知書件数								
		目標							
		実績							
<指標の計算方法>									

コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)	財源内訳					
		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	4,191						4,191

事業の実績	①一般管理事業 保険者である和歌山県後期高齢者医療広域連合の業務に対し、市が行う受付業務に係る郵送件数 被保険者証（更新）郵送 10,250通 被保険者証（新規）郵送 538通 減額証・限度証（更新）郵送 2,027通 高額介護合算通知書郵送 867通 被保険者数（R3.3月末現在）10,332人

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない	・高齢者の医療の確保に関する法律に規定する後期高齢者医療制度に関する事業であり、和歌山県後期高齢者医療広域連合規約及び和歌山県後期高齢者医療広域連合計画に規定のある市町村事務で、高齢者の医療を確保するために実施する事業である。
	有効性	評価結果	改善の余地がない	・高齢者の医療の確保に関する法律に規定する後期高齢者医療制度に関する事業であり、和歌山県後期高齢者医療広域連合規約及び和歌山県後期高齢者医療広域連合計画に規定のある市町村事務で、高齢者の医療を確保するために実施する事業である。
	効率性	評価結果	改善の余地がない	・大量印刷物（納付通知等）の印刷、封入などを外部委託しており、事業効率の改善については余地がない状況である。

事務事業の概要	事務事業名	徴収事業		担当課	国保年金課			事業区分	ソフト事業		
	会計	後期高齢者医療特別会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	392	
	予算科目	款	1	総務費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心			
		項	2	徴収費		施策目標	2	健康・医療			
		目	1	徴収費		基本施策	3	医療保険制度の安定運営			
取組方針	2	後期高齢者医療制度の安定的運営									
事業概要	後期高齢者医療制度に基づき、保険料徴収等の業務を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	徴収事業		⑤					⑨		
	②			⑥					⑩		
	③			⑦					⑪		
	④			⑧					⑫		

指標の実績	指標名	単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析	
	成果指標 現年度分保険料収 納率	%	目標	99.8	99.8	99.8	99.8	99.8	収納率は、高水準を維持している。
			実績	99.7	99.7	99.6			
	<指標の計算方法>		現年度保険料（特別徴収・普通徴収）収納率（%）						
		目標							
		実績							
	<指標の計算方法>								
	目標								
	実績								
<指標の計算方法>									
	目標								
	実績								
<指標の計算方法>									

コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)	財源内訳					
		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	3,007					106	2,901

事業の実績	①徴収事業 保険料の納付書、督促状等の発送 当初額決定通知書郵送 10,452通 督促状郵送 1,149通 納付証明書郵送 3,356通 更正通知郵送 1,125通 口座振替手数料 8,687件 94,081円 コンビニ収納手数料 1,546件 100,332円			

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・高齢者の医療の確保に関する法律に規定する後期高齢者医療制度に関する事務であり、和歌山県後期高齢者医療広域連合規約及び和歌山県後期高齢者医療広域連合計画に規定のある市町村事務で、高齢者の医療を確保するために実施する事業である。
	有効性	評価結果	改善の余地がない ・高齢者の医療の確保に関する法律に規定する後期高齢者医療制度に関する事務であり、和歌山県後期高齢者医療広域連合規約及び和歌山県後期高齢者医療広域連合計画に規定のある市町村事務で、高齢者の医療を確保するために実施する事業である。
	効率性	評価結果	改善の余地がない ・被保険者の保険料への理解の向上や口座振替の推進等に取り組み、効率的に事業を行っている。

事務事業の概要	事務事業名	保健事業		担当課	国保年金課			事業区分	ソフト事業		
	会計	後期高齢者医療特別会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	428	
	予算科目	款	3	保健事業費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心			
		項	1	保健事業費		施策目標	2	健康・医療			
		目	1	保健事業費		基本施策	3	医療保険制度の安定運営			
事業概要	高齢者の健康保持のために行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	保健事業		⑤				⑨			
	②			⑥				⑩			
	③			⑦				⑪			
	④			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析	
	成果指標	脳ドック検診の受診者数	人	目標	30	30	30	30	30	受付上限人数がほぼ受診している。	
				実績	29	29	28				
	<指標の計算方法>		脳ドック検診の受診者数								
			目標								
			実績								
	<指標の計算方法>										
			目標								
			実績								
	<指標の計算方法>										
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	1,085			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
							450	635			
事業の実績	①保健事業 脳ドックに要した検査費用の一部助成										
	・受付上限人数 30人 受診者 28人 申込者数 111人										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・脳ドック助成は、脳血管疾患等の発症又は進行を防止することによる高齢者の健康保持のために、妥当な事業である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・脳ドック助成対象者の募集、抽選をいずれも国保加入者と同時に行うことで、事業を効率的に行っている。事業効率の改善については余地がない状況である。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
・脳ドック助成対象者の募集、抽選をいずれも国保加入者と同時に行うことで、事業を効率的に行っている。事業効率の改善については余地がない状況である。											

介護保険事業勘定特別会計

款 項 目	担当課	予 算 現 額	収 入 済 額	事 業 等 実 施 内 容																																																																																																																			
1 - 1 - 1 第1号被保険者保険料	高齢介護課	1,459,844,000	1,485,026,400	<p>◎介護保険料段階別人数（令和3年3月末現在） ・65歳以上の方の保険料は、所得段階によって分かれます。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>所得段階</th> <th>被保険者数</th> <th>所得段階</th> <th>被保険者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1段階</td> <td>3,832</td> <td>第7段階</td> <td>2,513</td> </tr> <tr> <td>第2段階</td> <td>1,687</td> <td>第8段階</td> <td>1,059</td> </tr> <tr> <td>第3段階</td> <td>1,516</td> <td>第9段階</td> <td>563</td> </tr> <tr> <td>第4段階</td> <td>2,793</td> <td>第10段階</td> <td>196</td> </tr> <tr> <td>第5段階</td> <td>2,372</td> <td>第11段階</td> <td>164</td> </tr> <tr> <td>第6段階</td> <td>3,453</td> <td>合計</td> <td>20,148</td> </tr> </tbody> </table> <p>◎介護保険料 現年度分</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">令和2年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>特別徴収分</td> <td>1,366,185,700</td> <td>1,366,185,700</td> <td>100.0%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>普通徴収分</td> <td>126,437,700</td> <td>118,840,700</td> <td>94.0%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>1,492,623,400</td> <td>1,485,026,400</td> <td>99.5%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>令和元年度</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">令和元年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>特別徴収分</td> <td>1,394,336,700</td> <td>1,394,336,700</td> <td>100.0%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>普通徴収分</td> <td>130,402,700</td> <td>118,787,100</td> <td>91.1%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>1,524,739,400</td> <td>1,513,123,800</td> <td>99.2%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>【新型コロナウイルス感染症の影響による減免】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>件数</th> <th>減免税額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>28件</td> <td>1,983,500</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>23件</td> <td>287,800</td> </tr> </tbody> </table> <p>【新型コロナウイルス感染症の影響による徴収猶予】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>件数</th> <th>猶予金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>◎介護保険料 滞納繰越分</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>25,446,200</td> <td>8,595,547</td> <td>33.8%</td> <td>5,202,500</td> <td>181件</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>31,005,500</td> <td>5,774,200</td> <td>18.6%</td> <td>11,086,100</td> <td>201件</td> </tr> </tbody> </table>	所得段階	被保険者数	所得段階	被保険者数	第1段階	3,832	第7段階	2,513	第2段階	1,687	第8段階	1,059	第3段階	1,516	第9段階	563	第4段階	2,793	第10段階	196	第5段階	2,372	第11段階	164	第6段階	3,453	合計	20,148	令和2年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	特別徴収分	1,366,185,700	1,366,185,700	100.0%	—	—	普通徴収分	126,437,700	118,840,700	94.0%	—	—	合 計	1,492,623,400	1,485,026,400	99.5%	—	—	令和元年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	特別徴収分	1,394,336,700	1,394,336,700	100.0%	—	—	普通徴収分	130,402,700	118,787,100	91.1%	—	—	合 計	1,524,739,400	1,513,123,800	99.2%	—	—	年度	件数	減免税額	令和2年度	28件	1,983,500	令和元年度	23件	287,800	年度	件数	猶予金額	令和2年度	—	—	年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	令和2年度	25,446,200	8,595,547	33.8%	5,202,500	181件	令和元年度	31,005,500	5,774,200	18.6%	11,086,100	201件
所得段階	被保険者数	所得段階	被保険者数																																																																																																																				
第1段階	3,832	第7段階	2,513																																																																																																																				
第2段階	1,687	第8段階	1,059																																																																																																																				
第3段階	1,516	第9段階	563																																																																																																																				
第4段階	2,793	第10段階	196																																																																																																																				
第5段階	2,372	第11段階	164																																																																																																																				
第6段階	3,453	合計	20,148																																																																																																																				
令和2年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																																																																																																			
				額	件数																																																																																																																		
特別徴収分	1,366,185,700	1,366,185,700	100.0%	—	—																																																																																																																		
普通徴収分	126,437,700	118,840,700	94.0%	—	—																																																																																																																		
合 計	1,492,623,400	1,485,026,400	99.5%	—	—																																																																																																																		
令和元年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																																																																																																			
				額	件数																																																																																																																		
特別徴収分	1,394,336,700	1,394,336,700	100.0%	—	—																																																																																																																		
普通徴収分	130,402,700	118,787,100	91.1%	—	—																																																																																																																		
合 計	1,524,739,400	1,513,123,800	99.2%	—	—																																																																																																																		
年度	件数	減免税額																																																																																																																					
令和2年度	28件	1,983,500																																																																																																																					
令和元年度	23件	287,800																																																																																																																					
年度	件数	猶予金額																																																																																																																					
令和2年度	—	—																																																																																																																					
年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																																																																																																			
				額	件数																																																																																																																		
令和2年度	25,446,200	8,595,547	33.8%	5,202,500	181件																																																																																																																		
令和元年度	31,005,500	5,774,200	18.6%	11,086,100	201件																																																																																																																		
		4,500,000	8,595,547																																																																																																																				

[歳出]

事務事業の概要	事務事業名	総務費		担当課	高齢介護課			事業区分	ソフト事業			
	会計	介護保険事業勘定特別会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	8001		
	予算科目	款	1 総務費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心					
		項目			施策目標	3	福祉					
	目				基本施策	2	高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進					
事業概要	介護保険制度に基づき、被保険者が介護保険サービスを利用できるよう管理運営を行う事業											
事務事業を構成する細事業	① 一般管理事業				⑤ 計画策定委員会運営事業				⑨			
	② 賦課徴収事業				⑥				⑩			
	③ 介護認定審査会事業				⑦				⑪			
	④ 認定調査等事業				⑧				⑫			
指標の実績	指標名	単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析				
	成果指標	介護保険料収納率	目標	96.8	96.8	96.8	96.8	96.8	昨年に引き続き、保険料収納率が上昇した。コンビニ収納の導入、口座振替の推奨による対象者の増加、督促状・催告書の発送、臨戸徴収等により収納率が上昇したと考えられる。			
			実績	97.3	97.6	98.4						
	<指標の計算方法>		特別徴収・普通徴収・滞納繰越分の合計収納率									
	活動指標	要介護認定者数	目標	4,900	5,038	5,157	5,135	4,660	事業計画で推計した人数よりも減少している。自立支援の取組により、身体状況が悪化することが少なく、要介護・要支援認定を受ける人数が減少したのではないかと考えられる。			
			実績	4,653	4,519	4,514						
<指標の計算方法>		各年度末認定者数										
活動指標	要介護認定審査会	目標	190	190	190	190	190	更新申請時の認定有効期間の上限延長、新型コロナウイルス感染症に係る要介護認定の臨時的な取り扱い（有効期間の延長）のため、認定審査件数が減少したと考えられる。				
		実績	163	157	141							
<指標の計算方法>		認定審査会の開催回数										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 2年度決算額 (単位：千円)		財源内訳									
	109,202		国庫支出金	3,240	県支出金		地方債		繰入金		その他	一般財源
事業の実績	①一般管理事業 被保険者の状況（令和3年3月末現在） 65歳以上75歳未満 9,944人 75歳以上85歳未満 6,473人 85歳以上 3,731人 うち外国人被保険者 33人 うち住所地特例被保険者 93人 合計 20,148人		・要介護（要支援）認定者数 第1号被保険者 第2号被保険者		⑤計画策定委員会運営事業 介護保険事業計画策定委員会実施回数							
	②賦課徴収事業 ・介護保険料の過誤納による還付金 還付件数 534件 ・介護保険料の過誤納による還付加算金 加算件数 0件		要支援1 654人 10人 要支援2 852人 9人 要介護1 731人 4人 要介護2 721人 18人 要介護3 547人 14人 要介護4 586人 11人 要介護5 348人 9人 小計 4,439人 75人		【第7期介護保険事業計画】 (平成30～令和2年度) 平成27年度 実績なし 平成28年度 1回 平成29年度 3回							
	③介護認定審査会事業 ・介護認定審査会の開催 審査回数 141回 審査件数 4,316件		④認定調査等事業 認定調査件数 4,277件		【第8期介護保険事業計画】 (令和3～5年度) 平成30年度 実績なし 令和元年度 1回 令和2年度 2回（うち1回書面会議）							
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・介護保険法等により市に義務付けられた事業であるため、妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・指標の性質上、目標値は介護保険事業計画における計画数値である。 ・介護保険財源の確保、公正な要介護認定を行い、介護保険制度の円滑かつ適正な運営を図ることで、適正な介護サービスを提供する事業である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・業務の一部委託を実施している。											

事務事業の概要	事務事業名		担当課		高齢介護課		事業区分	ソフト事業		
	保険給付費		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	8002		
	会計	介護保険事業勘定特別会計		長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心			
	予算科目	款	項		施策目標	3	福祉			
目	2 保険給付費		基本施策		2	高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進				
事業概要	介護保険制度に基づき、被保険者が介護保険サービスを利用できるよう管理運営を行う事業									
事務事業を構成する細事業	① 居宅介護(予防) サービス等給付事業		⑤ 特定入所者介護(予防) サービス等事業		⑨					
② 地域密着型介護(予防) サービス給付事業		⑥		⑩						
③ 施設介護サービス給付事業		⑦		⑪						
④ 高額介護(予防) サービス等事業		⑧		⑫						
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析	
	活動指標	第1号被保険者数	人	目標	19,714	19,914	19,958	19,992	19,998	長寿化に伴い、被保険者数は計画値を上回っている。
			実績		19,920	20,005	20,148			
	<指標の計算方法>		65歳以上・住所地特例者含む(目標値は計画数値)							
	活動指標	居宅介護(介護予防) サービス受給者数	人	目標	29,484	30,216	31,152	31,775	28,260	要介護認定者数の減少に伴い、居宅介護サービス受給者数も計画値を下回っている。
			実績		29,024	28,544	28,053			
	<指標の計算方法>		第1号・第2号被保険者合計(目標値は計画数値)							
	活動指標	施設介護サービス受給者数	件	目標	7,968	8,208	8,844	9,020	8,268	要介護認定者数の減少に伴い、施設介護サービス受給者数も計画値を下回っている。
			実績		8,093	7,987	7,845			
	<指標の計算方法>		第1号・第2号被保険者合計(目標値は計画数値)							
活動指標	地域密着型介護(介護予防) サービス受給者数	件	目標	5,556	5,688	5,856	5,973	4,956	要介護認定者数の減少に伴い、地域密着型サービス受給者数も計画値を下回っている。	
		実績		5,013	4,937	4,783				
<指標の計算方法>		第1号・第2号被保険者合計(目標値は計画数値)								
コストの実績	R 2年度決算額 (単位:千円)		財源内訳							
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
		6,323,590	1,558,248	907,148			1,684,274	2,173,920		
事業の実績	① 居宅介護(予防) サービス等給付事業 訪問介護サービスや通所介護サービスなど居宅において利用するサービスへの給付を行う		③ 施設介護サービス給付事業 介護保険施設において利用するサービスへの給付を行う		⑤ 特定入所者介護(予防) サービス等事業 低所得者が施設利用したときに居住費等・食費の利用負担が限度額を超えた分への給付を行う					
	要支援者	6,198人	介護老人福祉施設	5,349人	【食費】	介護老人福祉施設	3,822件			
要介護者	21,855人	介護老人保健施設	1,903人	介護老人保健施設	1,211件	介護老人保健施設	208件			
合計	28,053人	介護療養型医療施設	423人	介護医療院	123件	介護療養型医療施設	159件			
② 地域密着型介護(予防) サービス給付事業 地域密着型事業所等を利用するサービスへの給付を行う		④ 高額介護(予防) サービス等事業 利用した介護サービス費用が基準を超えた分について利用者に支払う業務を実施				地域密着型介護老人福祉施設	159件			
要支援者	29人	高額介護(予防) サービス	12,753件	介護老人福祉施設	3,842件	介護老人福祉施設	1,020件			
要介護者	4,754人	高額医療合算介護(予防) サービス	878件	介護老人保健施設	197件	介護療養型医療施設	124件			
合計	4,783人			介護医療院	159件	地域密着型介護老人福祉施設	159件			
						短期入所生活・療養介護	1,361件			
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない							
			<ul style="list-style-type: none"> 介護保険法第3条の規定により、市が行う事務とされている。 介護保険法の規定に基づき、全国一律の対象者に対し、全国一律の手段を用いて実施している。 利用者が介護保険サービスを利用し、自立性を高めている。 							
	有効性	評価結果	改善の余地がない							
		<ul style="list-style-type: none"> 介護保険法等により市に義務付けられた事業であるため、適正に実施している。 高齢者人口は増加しているが、介護サービス受給者や介護給付費は、ほぼ横ばいである。今後も制度の持続性を高める視点からサービス利用の適正化が求められている。 介護サービスを利用することで、利用者がより自立性を高めた生活を送ることができる。 								
効率性	評価結果	改善の余地がない								
		<ul style="list-style-type: none"> 介護保険法等により市に義務付けられた事業であるため、適正に実施している。 制度の趣旨普及やケアプラン点検などの介護給付費適正化事業を実施していく。 								

事務事業の概要	事務事業名	地域支援事業費		担当課	高齢介護課			事業区分	ソフト事業		
	会計	介護保険事業勘定特別会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	8004	
	予算科目	款	項目	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心				
					実施目標	3	福祉				
事業概要	被保険者が、要介護状態等となることを予防し、社会に参加しつつ、地域において自立した日常生活を営むことができるよう支援する事業										
事務事業を構成する細事業	① 介護予防・生活支援サービス事業		⑤ 地域リハビリテーション活動支援事業		⑨						
	② 介護予防ケアマネジメント事業		⑥ 介護予防把握事業		⑩						
	③ 介護予防普及啓発事業		⑦ 包括的支援事業		⑪						
	④ 地域介護予防活動支援事業		⑧ 任意事業		⑫						
指標の実績	指標名		単位	H30年度	R 1年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度	指標の分析		
	成果指標	要介護（要支援）認定率	目標	23.2	23	23	23	23	要介護（要支援）の認定率はH30年度までは、ほぼ横ばいであったが、R1年度より減少傾向となっている。介護予防の取組の効果が現れているとの見方もできるが、長期的に経過を見ていく必要がある。		
			実績	23	22.2	22					
	<指標の計算方法>		要介護（要支援）認定者÷第1号被保険者数（65歳以上）								
	活動指標	紀の川歩（てくてく）体操活動拠点数	目標	75	85	95	105	115	体操活動拠点のない地域を中心に専門職による個別健康相談等が可能な体験会を開催することにより拠点数が増加した。		
			実績	74	86	91					
<指標の計算方法>		紀の川歩（てくてく）体操活動拠点数									
活動指標	フレイルチェック実施回数	目標	95	105	115	125	135	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、フレイルチェック事業を中止した。			
		実績	95	90	0						
<指標の計算方法>		紀の川歩（てくてく）体操活動拠点等においてフレイルチェックを実施した回数									
活動指標	認知症サポーター数	目標	1,880	3,000	3,200	4,700	5,200	新型コロナウイルス感染症拡大防止により講座の開催数が減少したが、これまでの取組により目標は達成できた。			
		実績	2,922	3,897	4,052						
<指標の計算方法>		認知症サポーター養成講座参加者累計人数									
コストの実績	R 2年度決算額（単位：千円）		財源内訳								
	341,572		国庫支出金	132,787	県支出金	53,730	地方債	繰入金	その他	87,751	一般財源
事業の実績	①介護予防・生活支援サービス事業		・てくてく体操延べ参加人数…2,600人		・専門職（PT等）派遣回数…317回		・フレイルサポーター登録者数…75人		生活支援体制整備事業の実施		
	②介護予防ケアマネジメント事業…3,195件		⑥介護予防把握事業		・基本チェックリスト回答者数…8,192人		・回答率…63.3%		⑧任意事業		
	③介護予防普及啓発事業		・予防教室等開催数…82回		・予防教室等延べ参加人数…1,190人		・通所型予防教室開催数、延べ参加人数…2箇所/年10回開催、100人		紙おむつ購入助成事業の実施		
	④地域介護予防活動支援事業		・介護予防自主活動支援…29箇所/75回/延べ864人		⑦包括的支援事業		地域包括支援センターの運営		・実施回数…16回/参加人数…16人		
	⑤地域リハビリテーション活動支援事業		・介護予防自主活動支援…29箇所/75回/延べ864人		・総合相談支援事業…5,258件		・権利擁護事業…1,122件		徘徊高齢者対策事業の実施		
				・包括、継続的ケアマネジメント支援事業…406件		・介護予防ケアマネジメント事業…9,042件		・高齢者徘徊早期発見ネットワーク登録者数…27人			
				認知症施策推進事業の実施		医療と介護の連携推進事業の実施		・GPS利用者数…4人			
				自立支援、重度化防止推進事業の実施				高齢者見守り事業の実施			
								・利用者…月平均124人			
								・延べ回数…13,619回			
								家族介護慰労事業の実施			
								・慰労金支給人数…0人			
								介護給付費適正化事業の実施			
								成年後見人制度支援事業の実施			
								・市長申立件数…7件			
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・介護保険法等により市に義務付けられた事業であるため妥当である。 ・任意事業においても、在宅で介護する家族等への精神的、経済的支援として妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・介護保険法等により市に義務付けられた事業であるため適正に実施している。 ・リハビリ専門職と連携し考案した「紀の川歩（てくてく）体操」を、市内各活動拠点で実施し、自主的活動への拠点創設・継続に対する支援により、要介護状態への移行を遅らすことで、自立支援、重度化防止に有効であり、自立状態を継続できるような地域資源として周知活用の促進をしている。 ・令和2年度においては、外出自粛による生活不活発を防止すべく、自宅でも可能な体操の考案や、フレイル予防に関する積極的な情報発信、民間事業者との連携による生活支援や見守り体制の構築など、コロナ禍において、地域に向け多様な取組を行い、有効性を高めた。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・介護保険法等により市に義務付けられている事業であるため適正に実施している。 ・要介護（要支援）認定率の低下と介護保険給付費の抑制を目指し、地域ボランティア（フレイルサポーター等）を育成することで、ボランティアを中心に、市民が自ら主体となり、積極的に介護予防、健康づくり活動を実践しているため効率性は高い。										

財産区特別会計（1 1 会計）

[歳入・歳出]

(単位：円)

財産区名	担当課	歳入総額	歳出総額	事業等実施内容																		
池田財産区	農林振興課	4,903,282	2,011,268	<p>◎ 歳入の主なものは土地賃貸料及び採掘権収入。歳出では財産区台帳整理のための一般会計への繰出金及び崩土除去費です。主な事業内容等は次のとおりです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業等</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>管理会委員数</td> <td>7人(うち看守人兼任1人)</td> </tr> <tr> <td>管理会開催数(その他活動数)</td> <td>3回管理会開催(巡視1回)</td> </tr> <tr> <td>財産貸付件数</td> <td>439件</td> </tr> <tr> <td>保有面積(ha)</td> <td>867.9</td> </tr> <tr> <td>崩土除去委託事業</td> <td>東山田地内崩土除去業務2件</td> </tr> <tr> <td>地域活動事業補助金</td> <td>西三谷集会所エアコン設置工事費補助</td> </tr> <tr> <td>有害鳥獣防除補助金</td> <td>猟友会紀の川市総合分会打田分会への補助金</td> </tr> </tbody> </table>	事業等	内 容	管理会委員数	7人(うち看守人兼任1人)	管理会開催数(その他活動数)	3回管理会開催(巡視1回)	財産貸付件数	439件	保有面積(ha)	867.9	崩土除去委託事業	東山田地内崩土除去業務2件	地域活動事業補助金	西三谷集会所エアコン設置工事費補助	有害鳥獣防除補助金	猟友会紀の川市総合分会打田分会への補助金		
事業等	内 容																					
管理会委員数	7人(うち看守人兼任1人)																					
管理会開催数(その他活動数)	3回管理会開催(巡視1回)																					
財産貸付件数	439件																					
保有面積(ha)	867.9																					
崩土除去委託事業	東山田地内崩土除去業務2件																					
地域活動事業補助金	西三谷集会所エアコン設置工事費補助																					
有害鳥獣防除補助金	猟友会紀の川市総合分会打田分会への補助金																					
田中財産区	農林振興課	3,167,216	2,045,422	<p>◎ 歳入の主なものは土地賃貸料。歳出では財産区台帳整理のための一般会計への繰出金及び森林保育委託料です。主な事業内容等は次のとおりです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業等</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>管理会委員数</td> <td>6人(ほか取締り1人、看守人1人)</td> </tr> <tr> <td>管理会開催数(その他活動数)</td> <td>3回管理会開催(巡視1回)</td> </tr> <tr> <td>財産貸付件数</td> <td>92件</td> </tr> <tr> <td>保有面積(ha)</td> <td>250.0</td> </tr> <tr> <td>森林保育委託事業</td> <td>伐採・下刈り業務</td> </tr> <tr> <td>支障木伐採委託事業</td> <td>竹房字寺山支障木伐採業務</td> </tr> <tr> <td>地域活動事業補助金</td> <td>東大井集会所外装工事費補助</td> </tr> <tr> <td>有害鳥獣防除補助金</td> <td>猟友会紀の川市総合分会打田分会への補助金</td> </tr> </tbody> </table>	事業等	内 容	管理会委員数	6人(ほか取締り1人、看守人1人)	管理会開催数(その他活動数)	3回管理会開催(巡視1回)	財産貸付件数	92件	保有面積(ha)	250.0	森林保育委託事業	伐採・下刈り業務	支障木伐採委託事業	竹房字寺山支障木伐採業務	地域活動事業補助金	東大井集会所外装工事費補助	有害鳥獣防除補助金	猟友会紀の川市総合分会打田分会への補助金
事業等	内 容																					
管理会委員数	6人(ほか取締り1人、看守人1人)																					
管理会開催数(その他活動数)	3回管理会開催(巡視1回)																					
財産貸付件数	92件																					
保有面積(ha)	250.0																					
森林保育委託事業	伐採・下刈り業務																					
支障木伐採委託事業	竹房字寺山支障木伐採業務																					
地域活動事業補助金	東大井集会所外装工事費補助																					
有害鳥獣防除補助金	猟友会紀の川市総合分会打田分会への補助金																					
長田竜門財産区	農林振興課	776,964	705,505	<p>◎ 歳入の主なものは土地賃貸料。歳出では地域活動事業補助金です。主な事業内容等は次のとおりです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業等</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>管理会委員数</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>管理会開催数(その他活動数)</td> <td>2回管理会開催</td> </tr> <tr> <td>財産貸付件数</td> <td>37件</td> </tr> <tr> <td>保有面積(ha)</td> <td>114.7</td> </tr> <tr> <td>地域活動事業補助金</td> <td>長田竜門6ヶ字区有山管理事業</td> </tr> </tbody> </table>	事業等	内 容	管理会委員数	6人	管理会開催数(その他活動数)	2回管理会開催	財産貸付件数	37件	保有面積(ha)	114.7	地域活動事業補助金	長田竜門6ヶ字区有山管理事業						
事業等	内 容																					
管理会委員数	6人																					
管理会開催数(その他活動数)	2回管理会開催																					
財産貸付件数	37件																					
保有面積(ha)	114.7																					
地域活動事業補助金	長田竜門6ヶ字区有山管理事業																					
竜門財産区	農林振興課	83,396	40,176	<p>◎ 主な事業内容等は次のとおりです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業等</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>管理会委員数</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>管理会開催数(その他活動数)</td> <td>2回管理会開催</td> </tr> <tr> <td>財産貸付件数</td> <td>6件</td> </tr> <tr> <td>保有面積(ha)</td> <td>192.2</td> </tr> </tbody> </table>	事業等	内 容	管理会委員数	7人	管理会開催数(その他活動数)	2回管理会開催	財産貸付件数	6件	保有面積(ha)	192.2								
事業等	内 容																					
管理会委員数	7人																					
管理会開催数(その他活動数)	2回管理会開催																					
財産貸付件数	6件																					
保有面積(ha)	192.2																					
南北志野財産区	農林振興課	375,419	135,526	<p>◎ 主な事業内容等は次のとおりです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業等</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>管理会委員数</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>管理会開催数(その他活動数)</td> <td>2回管理会開催</td> </tr> <tr> <td>財産貸付件数</td> <td>26件</td> </tr> <tr> <td>保有面積(ha)</td> <td>61.8</td> </tr> </tbody> </table>	事業等	内 容	管理会委員数	7人	管理会開催数(その他活動数)	2回管理会開催	財産貸付件数	26件	保有面積(ha)	61.8								
事業等	内 容																					
管理会委員数	7人																					
管理会開催数(その他活動数)	2回管理会開催																					
財産貸付件数	26件																					
保有面積(ha)	61.8																					
飯盛財産区	農林振興課	388,922	204,648	<p>◎ 主な事業内容等は次のとおりです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業等</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>管理会委員数</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>管理会開催数(その他活動数)</td> <td>2回管理会開催</td> </tr> <tr> <td>財産貸付件数</td> <td>1件</td> </tr> <tr> <td>保有面積(ha)</td> <td>163.5</td> </tr> </tbody> </table>	事業等	内 容	管理会委員数	6人	管理会開催数(その他活動数)	2回管理会開催	財産貸付件数	1件	保有面積(ha)	163.5								
事業等	内 容																					
管理会委員数	6人																					
管理会開催数(その他活動数)	2回管理会開催																					
財産貸付件数	1件																					
保有面積(ha)	163.5																					
静川財産区	農林振興課	434,487	154,520	<p>◎ 主な事業内容等は次のとおりです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業等</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>管理会委員数</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>管理会開催数(その他活動数)</td> <td>2回管理会開催</td> </tr> <tr> <td>財産貸付件数</td> <td>14件</td> </tr> <tr> <td>保有面積(ha)</td> <td>45.0</td> </tr> </tbody> </table>	事業等	内 容	管理会委員数	7人	管理会開催数(その他活動数)	2回管理会開催	財産貸付件数	14件	保有面積(ha)	45.0								
事業等	内 容																					
管理会委員数	7人																					
管理会開催数(その他活動数)	2回管理会開催																					
財産貸付件数	14件																					
保有面積(ha)	45.0																					

財産区名	担当課	歳入総額	歳出総額	事業等実施内容														
最上、神田、市場、元財産区	農林振興課	1,128,288	254,568	<p>◎ 主な事業内容等は次のとおりです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業等</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>管理会委員数</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>管理会開催数(その他活動数)</td> <td>2回管理会開催</td> </tr> <tr> <td>保有面積 (ha)</td> <td>187.5</td> </tr> </tbody> </table>	事業等	内 容	管理会委員数	7人	管理会開催数(その他活動数)	2回管理会開催	保有面積 (ha)	187.5						
事業等	内 容																	
管理会委員数	7人																	
管理会開催数(その他活動数)	2回管理会開催																	
保有面積 (ha)	187.5																	
調月財産区	農林振興課	262,339	250,913	<p>◎ 主な事業内容等は次のとおりです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業等</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>管理会委員数</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>管理会開催数(その他活動数)</td> <td>3回管理会開催</td> </tr> <tr> <td>保有面積 (ha)</td> <td>38.3</td> </tr> </tbody> </table>	事業等	内 容	管理会委員数	7人	管理会開催数(その他活動数)	3回管理会開催	保有面積 (ha)	38.3						
事業等	内 容																	
管理会委員数	7人																	
管理会開催数(その他活動数)	3回管理会開催																	
保有面積 (ha)	38.3																	
丸栖財産区	農林振興課	942,437	481,150	<p>◎ 歳入の主なものとは土地賃貸料です。主な事業内容等は次のとおりです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業等</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>管理会委員数</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>管理会開催数(その他活動数)</td> <td>2回管理会開催</td> </tr> <tr> <td>財産貸付件数</td> <td>1件</td> </tr> <tr> <td>保有面積 (ha)</td> <td>23.9</td> </tr> </tbody> </table>	事業等	内 容	管理会委員数	7人	管理会開催数(その他活動数)	2回管理会開催	財産貸付件数	1件	保有面積 (ha)	23.9				
事業等	内 容																	
管理会委員数	7人																	
管理会開催数(その他活動数)	2回管理会開催																	
財産貸付件数	1件																	
保有面積 (ha)	23.9																	
平池財産区	農林振興課	1,377,235	908,505	<p>◎ 歳入の主なものとは土地賃貸料。歳出では平池雑草等刈取委託料です。主な事業内容等は次のとおりです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業等</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>管理会委員数</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>管理会開催数(その他活動数)</td> <td>3回管理会開催</td> </tr> <tr> <td>財産貸付件数</td> <td>1件</td> </tr> <tr> <td>保有面積 (ha)</td> <td>11.2</td> </tr> <tr> <td>雑草等刈取委託事業</td> <td>平池堤防草刈り</td> </tr> <tr> <td>地域活動事業補助金</td> <td>神戸平池水利管理事業</td> </tr> </tbody> </table>	事業等	内 容	管理会委員数	7人	管理会開催数(その他活動数)	3回管理会開催	財産貸付件数	1件	保有面積 (ha)	11.2	雑草等刈取委託事業	平池堤防草刈り	地域活動事業補助金	神戸平池水利管理事業
事業等	内 容																	
管理会委員数	7人																	
管理会開催数(その他活動数)	3回管理会開催																	
財産貸付件数	1件																	
保有面積 (ha)	11.2																	
雑草等刈取委託事業	平池堤防草刈り																	
地域活動事業補助金	神戸平池水利管理事業																	